

成田国際空港 埋蔵文化財調査報告書 XXI

— 多古町一 鍬田甚兵衛山南遺跡（空港No.12遺跡） —

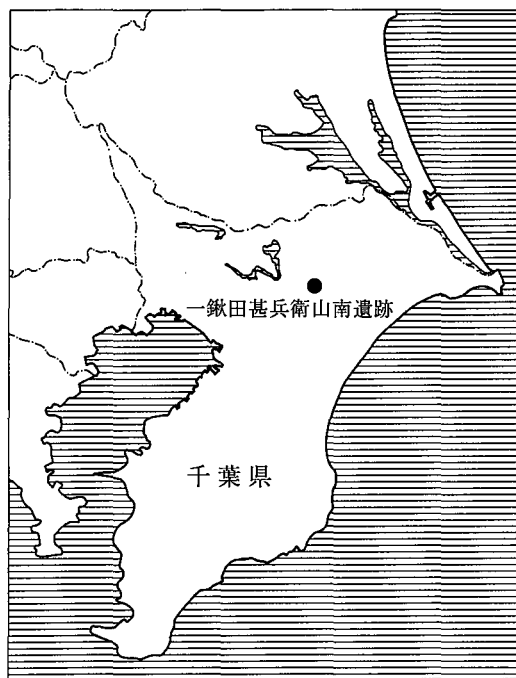
平成17年3月

成田国際空港株式会社

財団法人 千葉県文化財センター

成田国際空港 埋蔵文化財調査報告書 XXI

たこまちひとくわだじんべいやまみなみ
—多古町— 湊田甚兵衛山南遺跡 (空港No.12遺跡) —





縄文時代草創期 有舌尖頭器類

序 文

財団法人千葉県文化財センターは、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立され、以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

この度、千葉県文化財センター調査報告第517集として、成田国際空港株式会社の成田国際空港建設事業に伴って実施した香取郡多古町一畝田甚兵衛山南遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では、旧石器時代から縄文時代の遺構や遺物が数多く出土するなど、この地域の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。

この報告書が学術資料として、また埋蔵文化財の保護に対する理解を深めるための資料として広く活用されることを願っております。

終わりに、調査に際し御指導、御協力をいただきました地元の方々を初めとする関係の皆様や関係機関、また、発掘から整理まで御苦勞をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成17年 3 月

財団法人千葉県文化財センター
理事長 清 水 新 次

凡 例

- 1 本書は、成田（旧新東京）国際空港予定地内の香取郡多古町一畝田字甚兵衛山454-22他に所在する一畝田甚兵衛山南遺跡（空港No.12遺跡）の発掘調査報告書で、成田（旧新東京）国際空港関連の発掘調査報告書のX X I集にあたるものである。
- 2 発掘調査から報告書作成に至る業務は、成田国際空港株式会社（旧新東京国際空港公団）の委託を受け、千葉県教育委員会の指導のもとに、財団法人千葉県文化財センターが実施した。
- 3 調査で使用した遺跡のコード番号は347-006である。
- 4 発掘調査は昭和58・59年度に実施し、整理作業は昭和60・平成12～14・16年度に実施した。
- 5 発掘調査及び整理作業の担当者、実施期間は本文中に記載した。
- 6 本書は東部調査事務所長 折原繁・鈴木定明の指導と助言のもとに上席研究員 遠藤治雄・西口徹が執筆し、西口徹が編集した。
本文の執筆分担は以下のとおりである。
第1章、第3章第1節は遠藤治雄、それ以外は西口徹が担当した。
- 7 周辺地形航空写真は、京葉測量株式会社による昭和42年撮影のものを使用した。
- 8 本書で使用した地形図は下記のとおりである。
第2図 新東京国際空港公団発行 1/2,500 新東京国際空港公団平面図11・12・14・15（NI-54-19-10-2）
第3図 国土地理院発行 1/25,000 地形図「多古」（NI-54-19-10-1）
- 9 本書で使用した図面の方位は、すべて座標北である。
- 10 基準点測量及び地形測量は日本測地系に基づいて行われた。
- 11 本書に収録した遺物及び記録類は、当文化財センターで保管している。
- 12 発掘調査から報告書の刊行に至るまで、下記の諸機関・諸氏から多くのご協力・ご指導をいただいた。それぞれ記して謝意を表する（順不同）。
千葉県教育庁教育振興部文化財課、多古町教育委員会、成田国際空港株式会社の関係各位
- 13 挿図に使用したスクリーントーン及び記号は、本文中のそれぞれ個別に記載した。

本文目次

第1章 はじめに	1
第1節 調査の概要	1
1 調査の経緯と経過	1
2 調査の方法と成果	6
第2節 遺跡の位置と周辺遺跡	7
第3節 層序区分	8
第2章 旧石器時代	9
第1節 概要	9
第2節 石器集中地点	9
1 第1地点	9
2 第2地点	9
3 第3地点	18
4 第4地点	21
5 第5地点	24
6 第6地点	24
7 第7地点	28
8 第8地点	35
9 第9地点	35
10 調査区外出土の旧石器	42
第3章 縄文時代	44
第1節 遺構と遺物	44
1 陥穴	44
2 土坑	50
第2節 包含層と出土土器	50
1 出土状況	51
2 包含層出土の土器	60
第3節 包含層と出土土製品	119
1 挾状耳飾	119
2 土版	119
第4節 包含層と出土石器	120
1 縄文時代草創期の出土状況	120
2 縄文時代草創期の出土石器	122
3 縄文時代早期の出土概要	212
4 縄文時代早期のAブロック	212

5	縄文時代早期のBブロック	215
6	縄文時代早期のCブロック	231
7	縄文時代早期のDブロック	239
8	縄文時代早期のEブロック	256
9	縄文時代早期のFブロック	263
10	縄文時代早期のGブロック	278
11	縄文時代早期のB～Cブロックの礫石器について	281
12	縄文時代早期のDブロックの礫石器について	283
13	縄文時代早期のE・F・Gブロックの礫石器について	283
第4章	まとめ	305
第1節	旧石器時代	305
第2節	縄文時代	306
報告書抄録		巻末

挿図目次

第1図	調査範囲及び確認調査グリッド配置図	2	第21図	第7地点出土石器(1)	30
第2図	遺跡周辺の地形	3	第22図	第7地点出土石器(2)	32
第3図	基本層序	4	第23図	第7地点出土石器(3)	33
第4図	グリッド分割図	5	第24図	第8地点出土状況・出土石器	34
第5図	周辺遺跡	6	第25図	第9地点出土状況(器種別)	36
第6図	旧石器時代調査区	10	第26図	第9地点出土状況(石材別)	37
第7図	第1地点出土状況・出土石器	11	第27図	第9地点出土石器(1)	38
第8図	第2地点出土状況	12	第28図	第9地点出土石器(2)	40
第9図	第2地点出土石器(1)	14	第29図	第9地点出土石器(3)	41
第10図	第2地点出土石器(2)	15	第30図	調査区外出土の旧石器	43
第11図	第2地点出土石器(3)	16	第31図	001・002・003号跡	45
第12図	第2地点出土石器(4)	17	第32図	004・005・006・007号跡	47
第13図	第3地点出土石器	19	第33図	008・009・010号跡	48
第14図	第4地点出土状況	20	第34図	011・012・013・014号跡	49
第15図	第4地点出土石器	22	第35図	隆起線文土器出土分布図	52
第16図	第5地点出土状況・出土石器	23	第36図	撚糸文土器出土分布図	53
第17図	第6地点出土状況	25	第37図	三戸式土器出土分布図	54
第18図	第6地点出土石器(1)	26	第38図	田戸下層式土器出土分布図	55
第19図	第6地点出土石器(2)	27	第39図	田戸上層式土器出土分布図	56
第20図	第7地点出土状況	29	第40図	黒浜式土器出土分布図	57

第 41 図	前期後半土器出土分布図	58	第 74 図	出土状況 (安山岩 A・器種別)	128
第 42 図	中期土器出土分布図	59	第 75 図	出土状況 (安山岩 B・器種別)	129
第 43 図	縄文時代土器出土状況 (時期・型式別)	61	第 76 図	出土状況 (ホルンフェルス・器種別)	130
第 44 図	隆起線文土器 (1)	63	第 77 図	出土状況 (砂岩・器種別)	131
第 45 図	隆起線文土器 (2)	64	第 78 図	出土状況 (流紋岩・器種別)	132
第 46 図	隆起線文土器 (3)	65	第 79 図	出土状況 (頁岩・器種別)	133
第 47 図	撚糸文系土器 (1)	66	第 80 図	出土状況 (チャート・器種別)	134
第 48 図	撚糸文系土器 (2)	68	第 81 図	出土状況 (凝灰岩・器種別)	135
第 49 図	撚糸文系土器 (3)	72	第 82 図	出土状況 (メノウ・器種別)	136
第 50 図	撚糸文系土器 (4)	75	第 83 図	出土状況 (軽石, 角閃石, 硬砂岩・器種別)	137
第 51 図	撚糸文系土器 (5)	78	第 84 図	出土状況 (石英, 緑泥片岩, 蛇紋岩・器種別)	138
第 52 図	三戸・三戸～田戸下層式土器	82	第 85 図	出土状況 (黒曜石・器種別)	139
第 53 図	田戸下層式土器 (1)	84	第 86 図	出土石器・安山岩 A (1)	141
第 54 図	田戸下層式土器 (2)	86	第 87 図	出土石器・安山岩 A (2)	142
第 55 図	田戸下層式土器 (3)	90	第 88 図	出土石器・安山岩 A (3)	142
第 56 図	田戸下層式土器 (4)	92	第 89 図	出土石器・安山岩 A (4)	145
第 57 図	田戸上層式土器 (1)	95	第 90 図	出土石器・安山岩 A (5)	147
第 58 図	田戸上層式土器 (2)	97	第 91 図	出土石器・安山岩 A (6)	149
第 59 図	関山式土器	98	第 92 図	出土石器・安山岩 B (1)	151
第 60 図	黒浜式土器 (1)	100	第 93 図	出土石器・安山岩 B (2)	152
第 61 図	黒浜式土器 (2)	102	第 94 図	出土石器・ホルンフェルス (1)	153
第 62 図	黒浜式土器 (3)	105	第 95 図	出土石器・ホルンフェルス (2)	155
第 63 図	黒浜式土器 (4)	108	第 96 図	出土石器・チャート, 流紋岩, 砂岩, 頁岩, 安山岩 A	156
第 64 図	黒浜式土器 (5)	111	第 97 図	出土石器・チャート A, 流紋岩, 凝灰岩, 頁岩	158
第 65 図	諸磯・浮島式土器 (1)	112	第 98 図	出土石器・ホルンフェルス, 砂岩 (石斧)	160
第 66 図	浮島 (2)・興津式土器	115	第 99 図	出土石器・砂岩, ホルンフェルス (石斧)	162
第 67 図	中期土器	117	第 100 図	出土石器・砂岩 (石斧) (1)	163
第 68 図	弥生式土器	118	第 101 図	出土石器・砂岩 (石斧) (2)	164
第 69 図	土製品	119	第 102 図	出土石器・ホルンフェルス, 流紋岩, 砂岩 (石斧)	165
第 70 図	本調査区 配置図	120			
第 71 図	縄文時代草創期遺物出土状況 (石器・土器)	123			
第 72 図	縄文時代草創期遺物出土状況 (全石材・器種別)	125			
第 73 図	出土状況 (安山岩 A・実測・接合資料)	127			

第103図	出土石器・ホルンフェルス, 安山岩A, 頁岩 (石錐) ……………167	第131図	縄文時代早期調査区……………209
第104図	出土石器・チャート, 頁岩, 安山岩A (搔器, 削器)……………168	第132図	出土状況・Aブロック (器種別・石材別) ……………210
第105図	出土石器・頁岩, チャート, 安山岩A, 珪質頁岩 (搔器, 削器) ……………170	第133図	Aブロック出土石器 (1) ……………211
第106図	出土石器・安山岩A (1) ……………171	第134図	Aブロック出土石器 (2) ……………213
第107図	出土石器・安山岩A (2) ……………173	第135図	出土状況・Bブロック (器種別) ……217
第108図	出土石器・安山岩A (3) ……………175	第136図	Bブロック (B-1群) 出土石器 (1) ……………219
第109図	出土石器・安山岩A (4) ……………176	第137図	Bブロック (B-1群) 出土石器 (2) ……………220
第110図	出土石器・安山岩A (5) ……………177	第138図	Bブロック (B-1群) 出土石器 (3) ……………222
第111図	出土石器・安山岩A (6) ……………179	第139図	Bブロック (B-1群) 出土石器 (4) ……………224
第112図	出土石器・安山岩A (7) ……………180	第140図	Bブロック (B-2群) 出土石器 (1) ……………225
第113図	出土石器・安山岩B (1) ……………181	第141図	Bブロック (B-2群) 出土石器 (2) ……………227
第114図	出土石器・安山岩B (2) ……………182	第142図	Bブロック (B-2群) 出土石器 (3) ……………230
第115図	出土石器・ホルンフェルス (1) ……184	第143図	出土状況・Cブロック (器種別) ……233
第116図	出土石器・ホルンフェルス (2)・凝灰岩……………186	第144図	Cブロック出土石器 (1) ……………235
第117図	出土石器・砂岩……………187	第145図	Cブロック出土石器 (2) ……………236
第118図	出土石器・流紋岩 (1) ……………190	第146図	Cブロック出土石器 (3) ……………237
第119図	出土石器・流紋岩 (2) ……………191	第147図	出土状況・Dブロック (器種別) ……241
第120図	出土石器・頁岩 (1) ……………193	第148図	Dブロック (D-1群) 出土石器 (1) ……………243
第121図	出土石器・頁岩 (2) ……………195	第149図	Dブロック (D-1群) その他石材出土石器 (2) ……………244
第122図	出土石器 (上段メノウ・下段チャート) ……………198	第150図	Dブロック (D-2群) 出土石器……………246
第123図	出土石器・軽石 (矢柄研磨器) ……200	第151図	Dブロック (D-3群) 出土石器 (1) ……………248
第124図	出土石器 (上段角閃石, 下段緑泥片岩) ……………201	第152図	Dブロック (D-3群) 出土石器 (2) ……………250
第125図	出土石器・硬砂岩, チャート (礫器) ……………202	第153図	Dブロック (D-3群) 出土石器 (3) ……………252
第126図	出土石器・チャート, 石英 (原材) ……203	第154図	Dブロック (D-4群) 出土石器 (1) ……………254
第127図	出土石器・硬砂岩 (磨石) ……………204		
第128図	出土石器・硬砂岩, 砂岩, 流紋岩 (磨石, 敲石) ……………205		
第129図	出土石器・安山岩A, 硬砂岩 (磨石, 敲石) ……………206		
第130図	出土石器 (磨石, 敲石) ……………207		

第155図	Dブロック (D-4群) その他石材出土石器 (2) ……254	第165図	Fブロック出土石器 (5) ……273
第156図	出土状況・Eブロック (器種別) ……257	第166図	Fブロック出土石器 (6) ……275
第157図	Eブロック出土石器 (1) ……258	第167図	Fブロック出土石器 (7) ……276
第158図	Eブロック出土石器 (2) ……260	第168図	出土状況・Gブロック (器種別) ……277
第159図	Eブロック・その他石材出土石器 (3) ……262	第169図	Gブロック出土石器 (1) ……279
第160図	出土状況・Fブロック (器種別) ……264	第170図	Gブロック出土石器 (2) ……280
第161図	Fブロック出土石器 (1) ……265	第171図	B・Cブロック出土石器, 石斧・磨石・ 敲石類 (1) ……282
第162図	Fブロック出土石器 (2) ……267	第172図	Dブロック出土, 石斧・磨石・敲石類 (2) ……284
第163図	Fブロック出土石器 (3) ……269	第173図	Dブロック出土, 磨石・敲石類 (3) 285
第164図	Fブロック出土石器 (4) ……270	第174図	E・F・Gブロック出土石器, 石斧・ 磨石・敲石類 (4) ……286

表 目 次

第1表	周辺遺跡一覧表 ……5
第2表	旧石器時代第1地点出土遺物一覧表 ……287
第3表	旧石器時代第2地点出土遺物一覧表 ……287
第4表	旧石器時代第3地点出土遺物一覧表 ……288
第5表	旧石器時代第4地点出土遺物一覧表 ……289
第6表	旧石器時代第5地点出土遺物一覧表 ……289
第7表	旧石器時代第6地点出土遺物一覧表 ……289
第8表	旧石器時代第7地点出土遺物一覧表 ……290
第9表	旧石器時代第8地点出土遺物一覧表 ……290
第10表	旧石器時代第9地点出土遺物一覧表 ……290
第11表	旧石器時代調査区外出土出土遺物一覧表 ……291
第12表	縄文時代草創期出土石器一覧表 ……292~298
第13表	縄文時代草創期石器・石材別数量・重量表 ……299
第14表	縄文時代早期出土石器一覧表 ……300~307
第15表~第21表	縄文時代早期Aブロック~Gブロック石器・石材別数量・重量表 ……308~310

図 版 目 次

巻頭図版 縄文時代草創期 有舌尖頭器類

- 図版 1 一鉄田甚兵衛山南遺跡の周辺地形
- 図版 2 調査区遠景，東側確認，東側確認
- 図版 3 確認調査風景
- 図版 4 旧石器時代第 2 地点ブロック（Ⅲ～Ⅴ層）
C2-29グリッド付近
旧石器時代第 4 地点ブロック（Ⅵ～Ⅷ層）
C1-55グリッド付近
旧石器時代第 6 地点ブロック（Ⅵ～Ⅷ層）
B3-64グリッド付近
- 図版 5 旧石器時代第 9 地点ブロック（Ⅵ～Ⅷ層）
D5-33グリッド付近
縄文時代草創期C1-16・26グリッド付近
遺物出土状況
縄文時代早期B3-37・47グリッド付近
Aブロック遺物出土状況
- 図版 6 縄文時代早期B3-54・55グリッド付近
Aブロック遺物出土状況
縄文時代早期C3-32・42グリッド付近
Bブロック遺物出土状況
縄文時代早期C3-44・54グリッド付近
Bブロック遺物出土状況
- 図版 7 縄文時代早期C2-36・37グリッド付近
Dブロック遺物出土状況
縄文時代早期C2-88・89・98・99グリッド
付近Dブロック遺物出土状況
縄文時代早期D2-41・51グリッド付近
Dブロック遺物出土状況
- 図版 8 縄文時代早期D2-42・43・52・53グリッド
付近Dブロック遺物出土状況
縄文時代早期D2-26・27・36・37グリッド
付近Eブロック遺物出土状況
縄文時代早期D4-84・85・94・95グリッド
付近Fブロック遺物出土状況
- 図版 9 第 1 地点出土石器
第 2 地点出土石器（1）
- 図版10 第 2 地点出土石器（2）
- 図版11 第 2 地点出土石器（3）
- 図版12 第 3 地点出土石器
- 図版13 第 4 地点出土石器
第 5 地点出土石器
- 図版14 第 6 地点出土石器
- 図版15 第 7 地点出土石器（1）
- 図版16 第 7 地点出土石器（2），第 8 地点出土
石器
- 図版17 第 9 地点出土石器（1）
- 図版18 第 9 地点出土石器（2）
- 図版19 調査区外出土石器
- 図版20 001号跡全景，001号跡セクション，002号跡
全景，003号跡全景，004号跡全景，004号
跡セクション，005号跡全景，006号跡全景
- 図版21 007号跡全景，008号跡全景，009号跡全景，
010号跡全景，011号跡全景，012号跡全景，
013号跡全景
- 図版22 隆起線文土器（残りのよいもの）
- 図版23 縄文土器（残りのよいもの）
- 図版24 隆起線文土器（1）（2）
- 図版25 撚糸文系土器（1）（2）
- 図版26 撚糸文系土器（3）（4）
- 図版27 撚糸文系土器（5）（6）
- 図版28 撚糸文系土器（7），沈線文系土器（1）
- 図版29 沈線文系土器（2）（3）
- 図版30 沈線文系土器（4）（5）
- 図版31 沈線文系土器（6），前期前半の土器（1）
- 図版32 前期前半の土器（2）（3）
- 図版33 前期前半の土器（4）（5）
- 図版34 前期前半の土器（6），前期後半の土器（1）
- 図版35 前期後半の土器（2）（3）
- 図版36 中期の土器・弥生時代の土器，遺構内出土
土器，土製品
- 図版37 出土石器・安山岩A（1）
- 図版38 出土石器・安山岩A（2）
- 図版39 出土石器・安山岩A（3）
- 図版40 出土石器・安山岩A（4）
- 図版41 出土石器・安山岩B

- 図版42 出土石器・ホルンフェルス
- 図版43 出土石器・チャート, 流紋岩, 砂岩, 頁岩 (1)
- 図版44 出土石器・チャート, 流紋岩, 砂岩, 頁岩 (2)
- 図版45 出土石器・ホルンフェルス, 砂岩 (1)
- 図版46 出土石器・砂岩, ホルンフェルス (2)
- 図版47 出土石器・砂岩, ホルンフェルス, 流紋岩 (3)
- 図版48 出土石器・ホルンフェルス, 頁岩, チャート, 安山岩A (4)
- 図版49 出土石器・頁岩, 安山岩A, チャート, 珪質頁岩 (5)
- 図版50 出土石器・安山岩A (1)
- 図版51 出土石器・安山岩A (2)
- 図版52 出土石器・安山岩A (3)
- 図版53 出土石器・安山岩A (4)
- 図版54 出土石器・安山岩A (5)
- 図版55 出土石器・安山岩A (6)
- 図版56 出土石器・安山岩B (1)
- 図版57 出土石器・安山岩B (2)
- 図版58 出土石器・ホルンフェルス (1)
- 図版59 出土石器・ホルンフェルス (2), 出土石器・凝灰岩, 出土石器・チャート
- 図版60 出土石器・砂岩
- 図版61 出土石器・流紋岩 (1)
- 図版62 出土石器・流紋岩 (2), 出土石器・メノウ
- 図版63 出土石器・頁岩 (1)
- 図版64 出土石器・頁岩 (2)
- 図版65 出土石器・軽石, 出土石器・角閃石, 緑泥片岩
- 図版66 出土石器・硬砂岩, チャート
- 図版67 出土石器・石英, 硬砂岩
- 図版68 出土石器・硬砂岩, 安山岩A, 石材不明
- 図版69 出土石器・安山岩A, 硬砂岩, 砂岩
- 図版70 Aブロック出土石器 (1)
- 図版71 Aブロック・その他の石材出土石器 (2)
- Bブロック (B-1群) 出土石器 (1)
- 図版72 Bブロック (B-1群) 出土石器 (2)
- 図版73 Bブロック (B-1群) 出土石器 (3)
- 図版74 Bブロック (B-1群) 出土石器 (4)
- Bブロック (B-2群) 出土石器 (1)
- 図版75 Bブロック (B-2群) 出土石器 (2)
- 図版76 Bブロック (B-2群)・その他石材出土石器 (3)
- 図版77 Cブロック出土石器 (1)
- 図版78 Cブロック・その他石材出土石器 (2)
- 図版79 Dブロック (D-1群) 出土石器 (1)
- 図版80 Dブロック (D-1・2群) 出土石器 (2)
- 図版81 Dブロック (D-3群) 出土石器 (3)
- 図版82 Dブロック (D-3群) 出土石器 (4)
- 図版83 Dブロック (D-3・4群) 出土石器 (5)
- 図版84 Dブロック (D-4群) その他石材出土石器 (6)
- 図版85 Eブロック出土石器 (1)
- 図版86 Eブロック・その他石材出土石器 (2)
- 図版87 Fブロック出土石器 (1)
- 図版88 Fブロック出土石器 (2)
- 図版89 Fブロック出土石器 (3)
- 図版90 Fブロック出土石器 (4)
- 図版91 Fブロック出土石器 (5)
- 図版92 Fブロック出土石器 (6), 遺構内草創期域出土石器, Gブロック出土石器 (1)
- 図版93 Gブロック出土石器 (2)
- 図版94 B・Cブロック出土石器, 石斧・磨石・敲石類 (1)
- 図版95 Dブロック出土石器, 石斧・磨石・敲石類 (2)
- 図版96 Dブロック出土石器, 磨石・敲石類 (3)
- 図版97 E・F・Gブロック (石斧・磨石・敲石類) (4)

第1章 はじめに

第1節 調査の概要

1 調査の経緯と経過

財団法人千葉県文化財センターでは、成田国際空港予定地及び関連事業地内に所在する遺跡について、千葉県教育委員会の指導のもとに、成田国際空港株式会社の委託により、昭和51年度から計画的・継続的に発掘調査を実施してきている。また、これらの発掘調査成果の一部は既に報告書として刊行されている。今回報告する一畝田甚兵衛山南遺跡（空港No.12遺跡）についても、千葉県教育委員会が成田国際空港株式会社と遺跡の取扱いについて慎重に協議した結果、記録保存の措置がとられることとなった。そこで、当センターは成田国際空港株式会社と発掘調査の実施について調整を行い、成田国際空港建設事業地内埋蔵文化財調査業務として昭和58・59年度に発掘調査を実施することになった。その後、年度計画に基づき、昭和60年度・平成12～14・16・17年度にわたって断続的に整理作業を実施した。各年度毎の実施内容及び担当職員は下記のとおりである。

〔発掘〕

昭和58年度

成田国際空港建設事業地内埋蔵文化財調査業務として発掘調査を実施した。

調査対象面積35,000㎡のうち、調査区北半部の16,250㎡について1次調査を実施した（第1図）。調査は対象面積の8%にあたる1,300㎡について上層・下層の確認調査を実施した。調査期間は昭和59年2月8日から昭和59年3月22日である。

発掘調査担当者

班 長 西山 太郎

調査研究員 小畑 巖

昭和59年度

調査対象面積35,000㎡のうち、本年度は調査区南半部の18,750㎡について2次調査を実施した（第1図）。確認調査は対象面積の8%にあたる1,500㎡について上層・下層の確認調査を実施した。調査期間は昭和59年4月1日から昭和59年5月31日である。

引き続き昭和58・59年度の確認調査結果をふまえて、調査対象面積35,000㎡のうち17,500㎡に対して上層・下層の本調査を実施した。調査期間は昭和59年6月1日から昭和59年10月6日である。

発掘調査担当者

班 長 田坂 浩

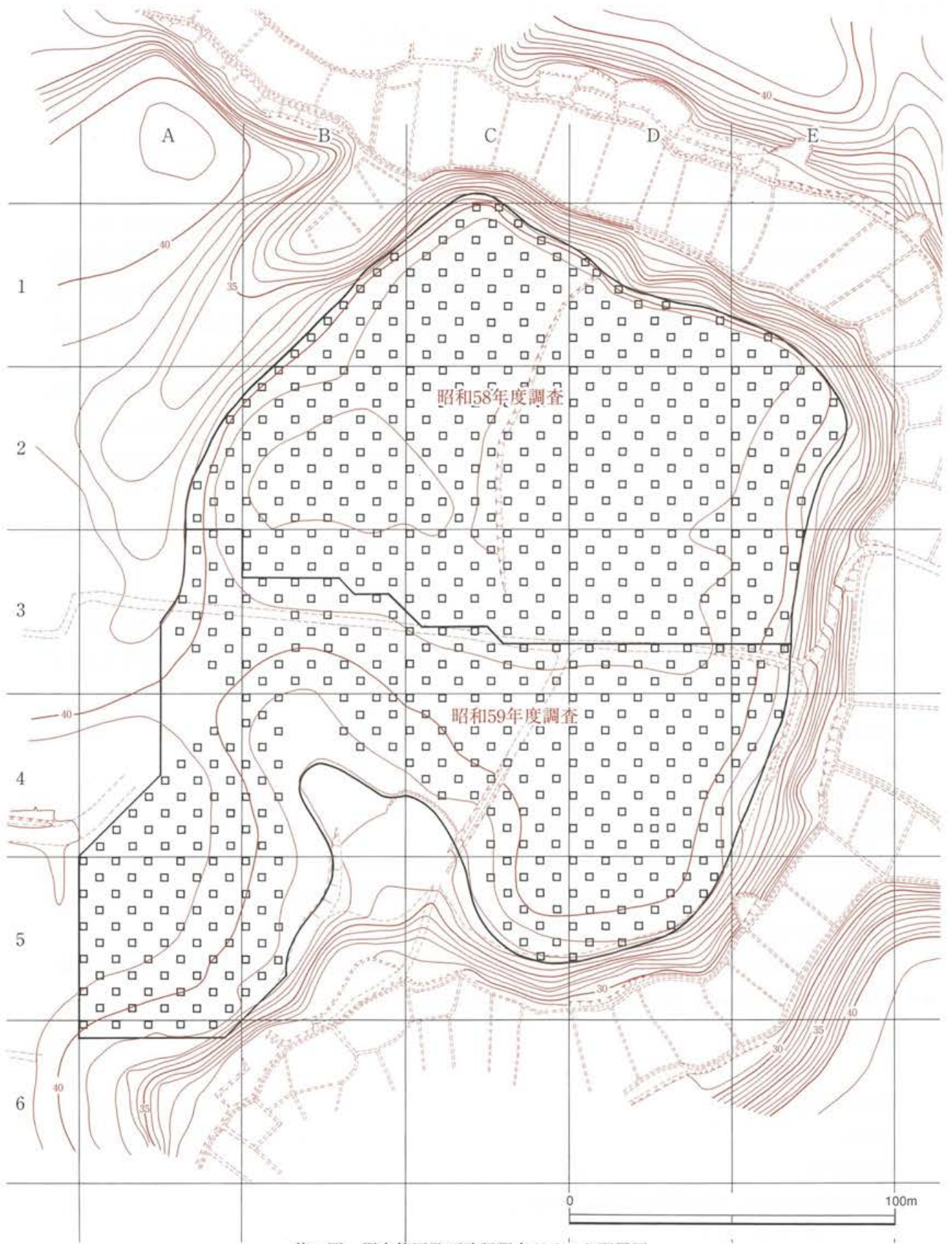
調査研究員 川島 利通

〔整理〕

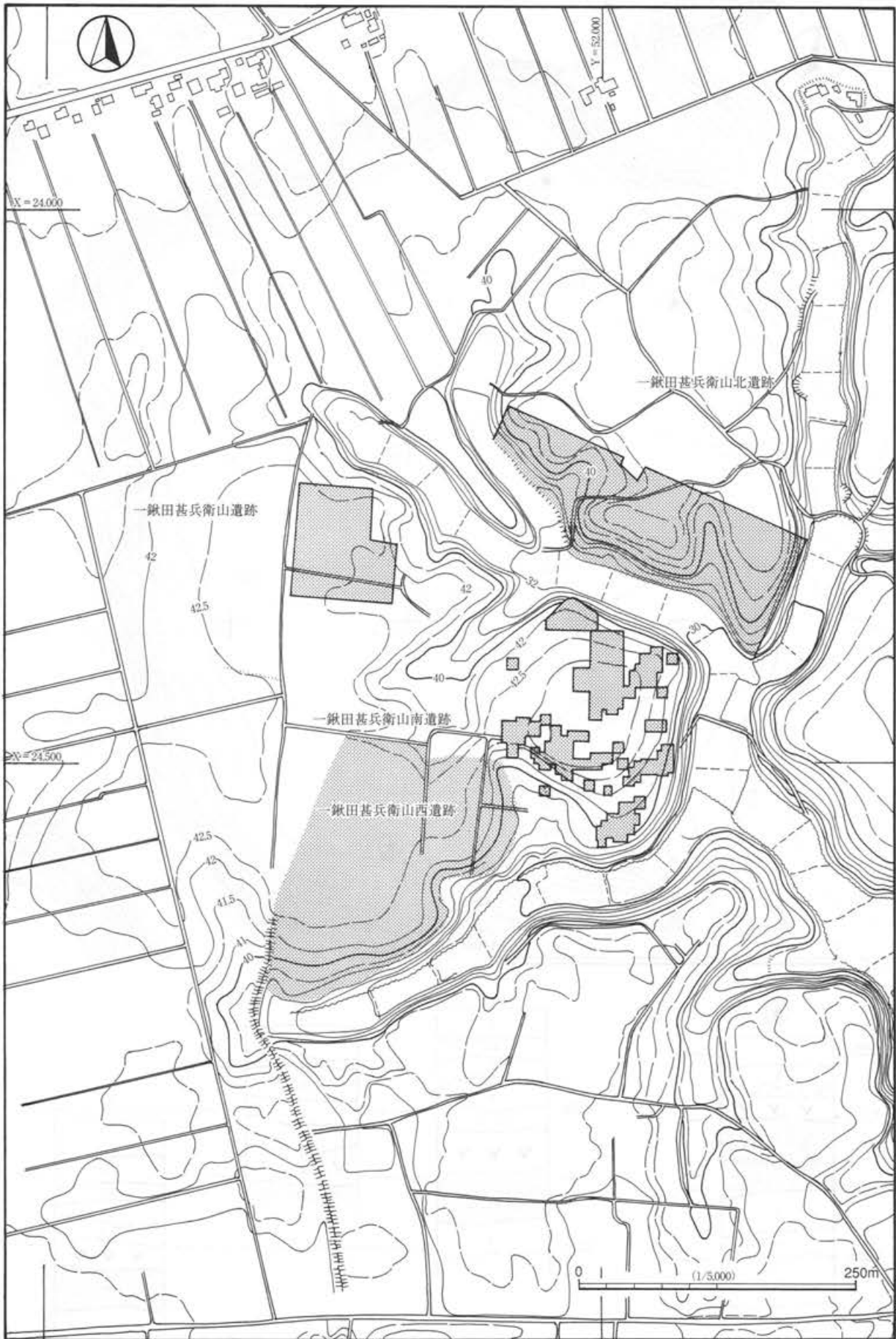
昭和60年度

整理作業の内容は、記録整理～復元までである。

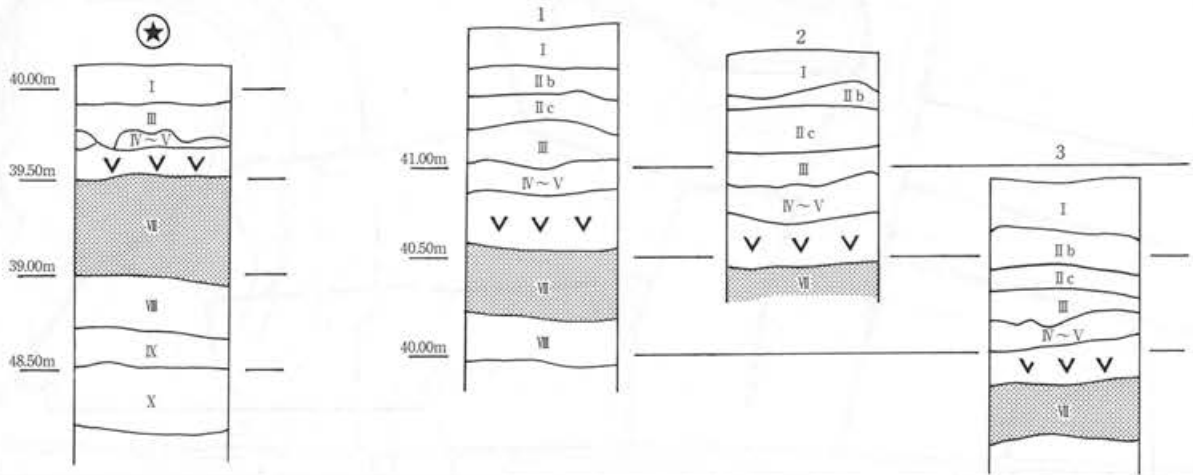
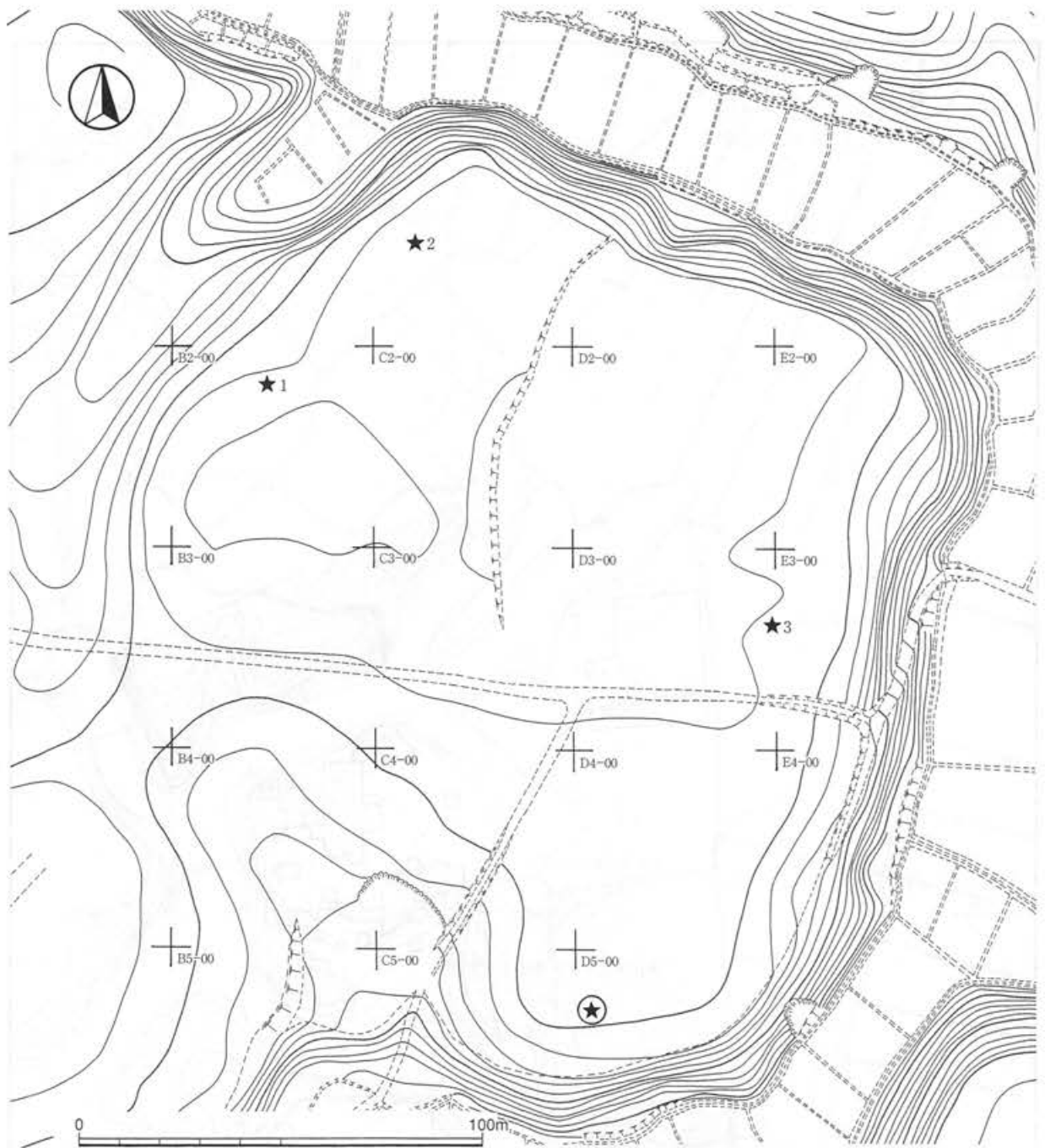
班 長 高橋 賢一



第1図 調査範囲及び確認調査グリッド配置図



第2図 遺跡周辺の地形



第3図 基本層序

調査研究員 宮 重行 小高 春雄 麻生 正信

平成12年度

重点遺跡整理促進事業

組織 整理課長 古内 茂

担当者 上席研究員 蜂屋 孝之, 整理技術員 田坂 美代子

内容 素図作成・実測トレースの一部までである。

平成13年度

重点遺跡整理促進事業

組織 整理課長 古内 茂

担当者 上席研究員 蜂屋 孝之, 整理技術員 田坂 美代子

内容 実測トレース・写真・挿図作成の一部まで

平成14年度

整理作業の内容は、写真・挿図作成・原稿執筆の一部までである。

所 長 折原 繁

上席研究員 遠藤 治雄

平成16年度

整理作業の内容は、原稿執筆・報告書刊行までである。

所 長 鈴木 定明

上席研究員 西口 徹

2 調査の方法と成果

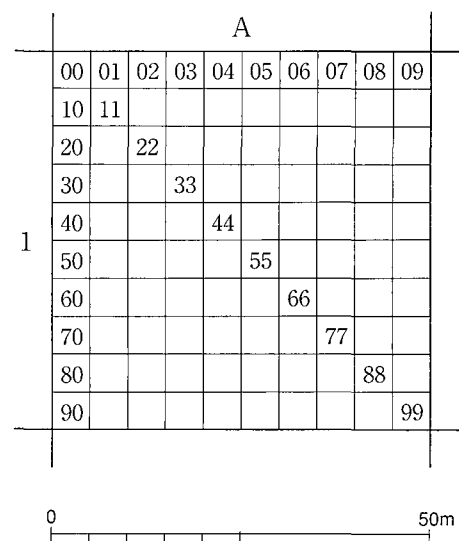
発掘調査を進めるにあたり、調査対象区域を公共座標に合わせて、50m×50mの大グリッドを設定した。

さらに、その大グリッド内を5m×5mに分割し、100個の小グリッドとした。大グリッドは北から南へ0, 1, 2, 3…、西から東へA, B, C…と記号をつけ、小グリッドは北から南へ00, 10…, 90, 西から東へ00, 01…, 09と番号をつけ、これ等を組み合わせて呼称することにした(第4図)。

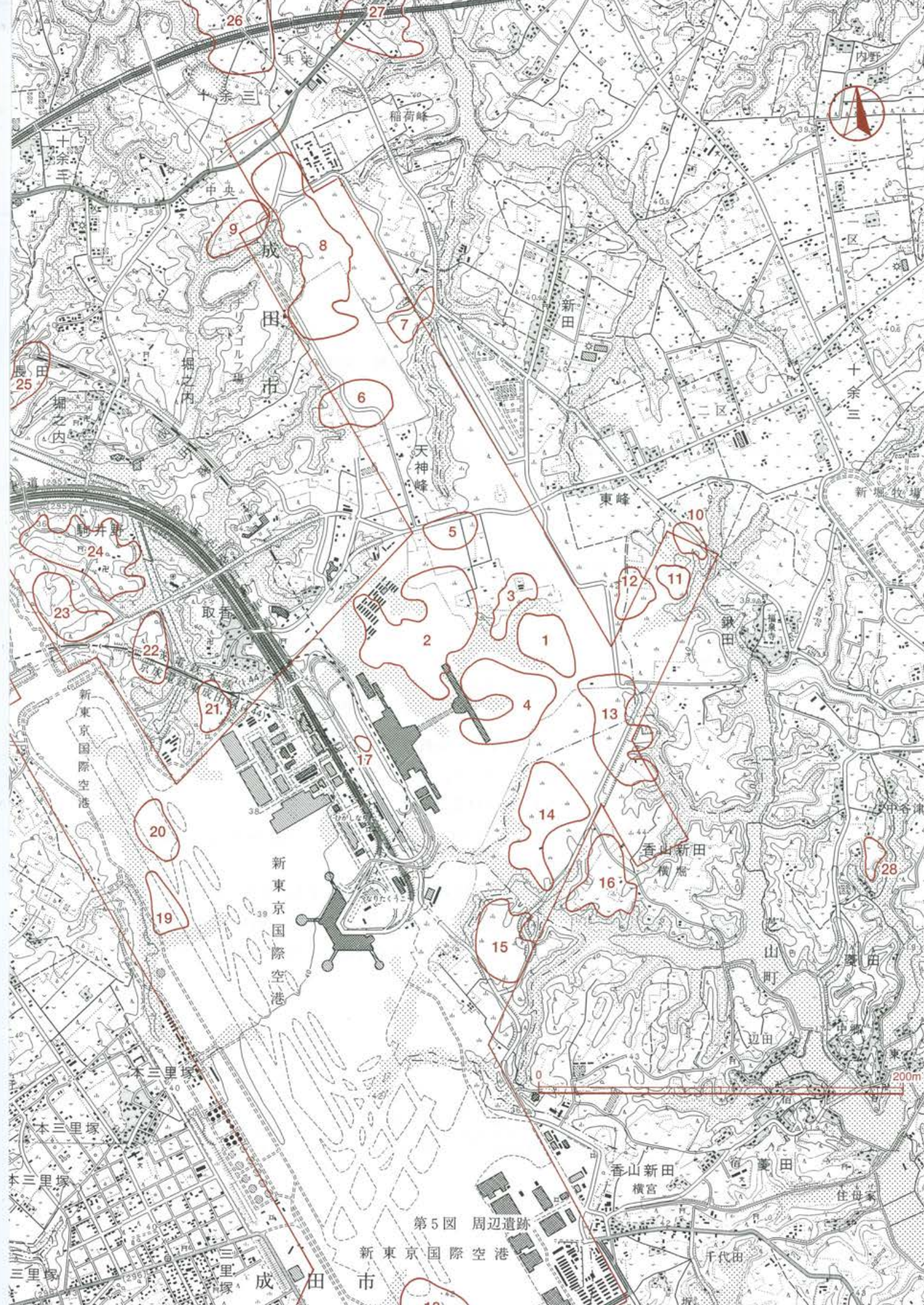
旧石器時代は、石器集中地点9か所を検出した。縄文時代の遺構は陥穴7基、土坑1基を検出した。また、縄文時代草創期の遺物集中箇所を1か所、早期から前期を中心とする遺物の包含層は遺跡全域にかけて広がっていた。また、若干ではあるが縄文時代の包含層中より弥生時代の土器片も抽出された。中・近世の遺構は検出されなかった。

第1表 周辺遺跡一覧

No	遺 跡 名	No	遺 跡 名	No	遺 跡 名
1	東峰御幸畑東遺跡 (空港No62遺跡)	11	一鍛田甚兵衛山南遺跡 (空港No12遺跡)	20	天浪浪丘遺跡 (空港No19遺跡)
2	取香和田戸遺跡 (空港No60遺跡)	12	一鍛田甚兵衛山西遺跡 (空港No16遺跡)	21	台のII遺跡
3	東峰御幸畑西遺跡 (空港No61遺跡)	13	香山新田新山遺跡 (空港No10遺跡)	22	駒井野荒道遺跡
4	古込遺跡 (空港No14・55・56遺跡)	14	香山新田中横堀遺跡 (空港No7遺跡)	23	駒井野西ノ下遺跡
5	東峰西笠峰遺跡 (空港No63遺跡)	15	木の根拓美遺跡 (空港No6遺跡)	24	駒井野城
6	天神峰最上遺跡 (空港No64遺跡)	16	香山新田金沢台遺跡	25	長田岩
7	天神峰奥之台遺跡 (空港No65遺跡)	17	古込込前遺跡 (空港No22遺跡)	26	十倉三四本木II遺跡
8	十倉三桶荷峰遺跡 (空港No67遺跡)	18	東三里塚吉野台遺跡 (空港No3・51・52遺跡)	27	稲荷峯II遺跡
9	十倉三桶荷峰西遺跡 (空港No68遺跡)	19	天浪大里遺跡 (空港No18遺跡)	28	菱田梅ノ本遺跡
10	一鍛田甚兵衛山北遺跡 (空港No11遺跡)				



第4図 グリッド分割図



第5図 周辺遺跡

新東京国際空港

成田市

千代田

住母家

香山新田
横宮

菅田

辺田

芝山町

香山新田
横宮

鎌田

東峰

天神峰

新東京国際空港

取香

成

田

市

堀之内

成

田

市

本三里塚

本三里塚

本三里塚

三里塚

三里塚

成

田

市

18

200m

創期の包含層であるⅡc層が他の地点より厚く堆積していることが、東側の3の地点では各時代の包含層が急激に落ち込んでいることが理解できる。

基本層序

I 層：表土及び耕作土，盛土である。

Ⅱ b 層：赤褐色土。色調は赤色，黄褐色スコリアを含み，全体として赤みを帯びている。いわゆる「新期テフラ層」と呼称されている層である。

Ⅱ c 層：黒褐色土。ローム層の漸移的な層であるが，本遺跡では黒色はあまり発達していない。主に縄文時代の遺物包含層である。

Ⅲ 層：黄褐色ローム土。いわゆるソフトローム層と呼ばれる層である。オレンジスコリアを微量含む。本遺跡ではⅢ層の波状帯はⅣ・Ⅴ層を切ってⅥ層に及んでいるのが一般的である。

Ⅳ・Ⅴ層：黄褐色ローム土。本遺跡では，Ⅲ層が厚くソフトローム化し，Ⅳ層を取り込むように堆積し，Ⅳ層とⅤ層の峻別は不可能であった。赤色，黒色，白色，オレンジ色スコリアを少量含む。やや暗色である。

Ⅵ 層：明黄褐色ローム土。始良Tn火山灰層（AT層）である。白色パミスを多量に含む。ATが濃密に分布している範囲をⅥ層としたが，層が厚くとってある場合は集中は上位部分である。

Ⅶ 層：暗褐色ローム土。第2黒色帯上部に相当する層である。Ⅵ層よりやや暗色である。赤色，白色，黒色スコリアを少量含む。ATはこの層まで拡散している。

Ⅸ 層：暗褐色ローム土。第2黒色帯下部に相当する層である。ややⅦ層より暗色化している。下部で粘性が強まる。ATの拡散が見られなくなる部分から下位をⅨ層としている。

X 層：明褐色ローム土。立川ローム最下層に相当する。Ⅸ層より明るくなる。しまりはあるが，粘性はやや強くなる。少量の赤褐色スコリアを含む。

XI層：褐色ローム土。武蔵野ローム最上層部に相当する。X層との境界は不整合で，粘性の発達により波状帯を呈する。軟質で粘性が高い。乾燥すると堅くなり，本層からクラックが発達する。

注1 新田浩三 1995 「新東京国際空港埋蔵文化財調査報告書Ⅸ――銚田甚兵衛山北遺跡（空港No.11遺跡）――」
千葉県文化財センター

2 永塚俊司他 2001 「新東京国際空港埋蔵文化財調査報告書XⅣ――銚田甚兵衛山西遺跡（空港No.16遺跡）――」
千葉県文化財センター

3 矢本節朗 1997 「多古町一銚田甚兵衛山遺跡」千葉県文化財センター

第2章 旧石器時代

第1節 概要

旧石器時代は、9地点で総計316点の石器・剥片類が検出されている。他にこれらの調査区外からナイフ形石器を中心に9点の遺物が検出されている。第1地点～第3地点ではⅣ～Ⅴ層の石器群、第4地点ではⅦ～Ⅸ層、第5地点ではⅢ層・Ⅶ層、第6地点ではⅢ層・Ⅵ層、第7地点ではⅥ～Ⅸ層、第8地点ではⅦ層、第9地点ではⅦ層を主体とした石器群が検出されている。なお石材については地点毎に母岩分類を行い石材名の後に○番号を入れた。母岩が明らかに異なるものは例えば安山岩①-1というように枝番をふった。

第2節 石器集中地点

1 第1地点（第7図1～3，図版8，第2表）

出土状況 調査区の北西，B2-24グリッドを中心に東西1.5m，南北1m程の範囲に珪質頁岩が5点出土している（第7図）。

器種・石材構成 ナイフ形石器1点，剥片2点，碎片2点でいずれも珪質頁岩の同母岩製の石材と思われる。

出土層位 概ねⅣ～Ⅴ層に相当する。

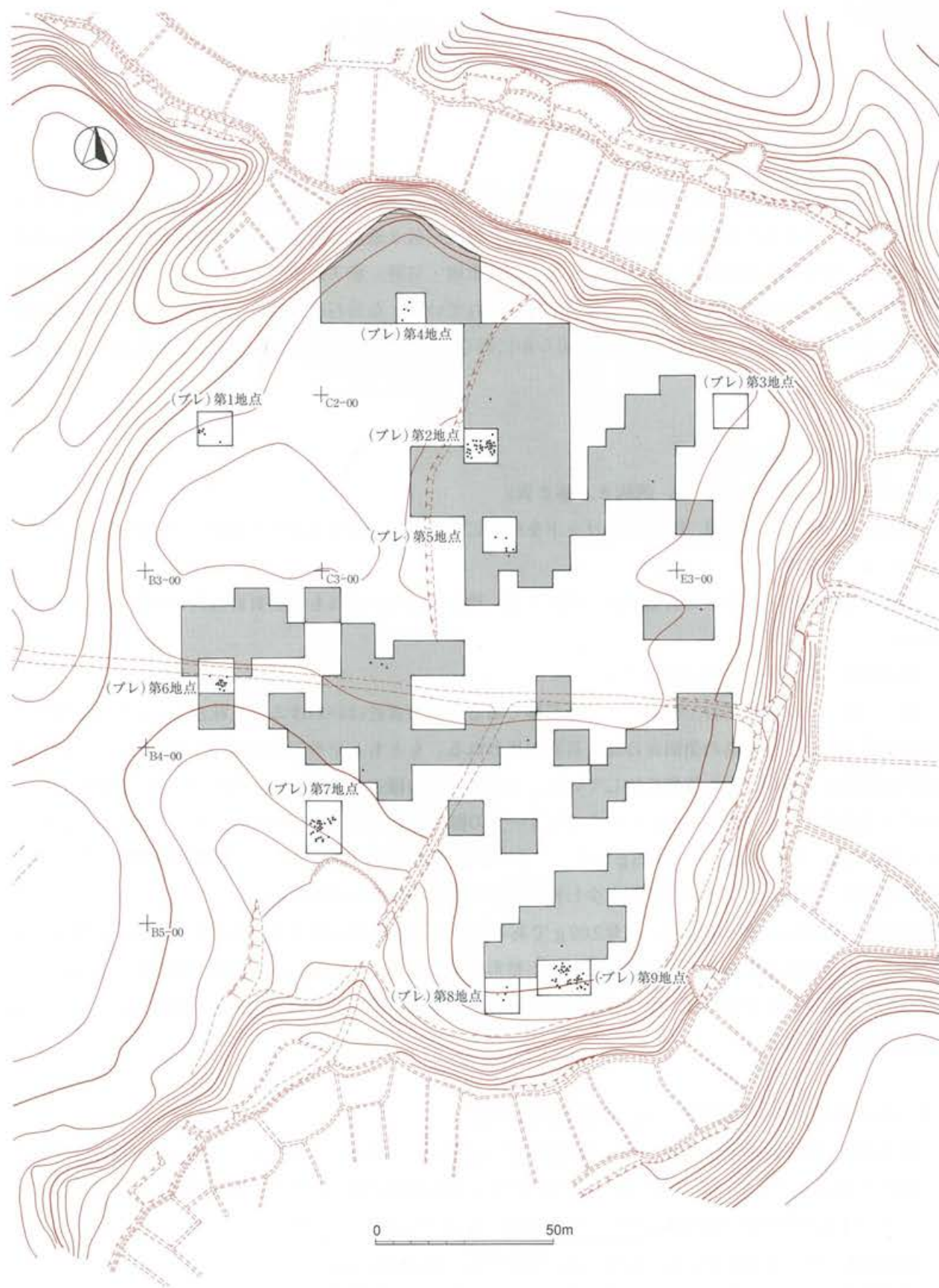
遺物 1は珪質頁岩①製のナイフ形石器である。珪質頁岩はいわゆる黄色味がかかった灰色で風化面は黄土色である。千葉県の高岡産の珪質頁岩と思われる。もともとやや縦長の剥片を素材にしてその打撃面に比較的大きめの丁寧な調整を施している。また反対側の縁辺部分に細かな調整で刃潰し調整を行い、ナイフ形石器としての形状を整えている。もう一方の縁辺部分は刃部として調整をされていない。全長4.7cm，幅1.75cm，厚み0.7cm，重量4.55gである。2は珪質頁岩①製の剥片である。打面側は調整のための小剥離痕が多く見られる。背面は礫面を少し残し，比較的早い段階の剥片剥離に伴うものかと思われる。全長1.78cm，幅2.10cm，厚み0.60cm，重量2.00gである。3は珪質頁岩①製の大型の剥片である。打撃面は初期の剥離面を使用しており，厚みのあるやや不整形な剥片である。背面はほぼ礫面で覆われているが，石核として使用されたと思われる，やや三角形の小剥片を1枚剥いでいる。全長5.15cm，幅6.60cm，厚み1.50cm，重量51.36gである。

2 第2地点（第9～12図1～33，図版8，第3表）

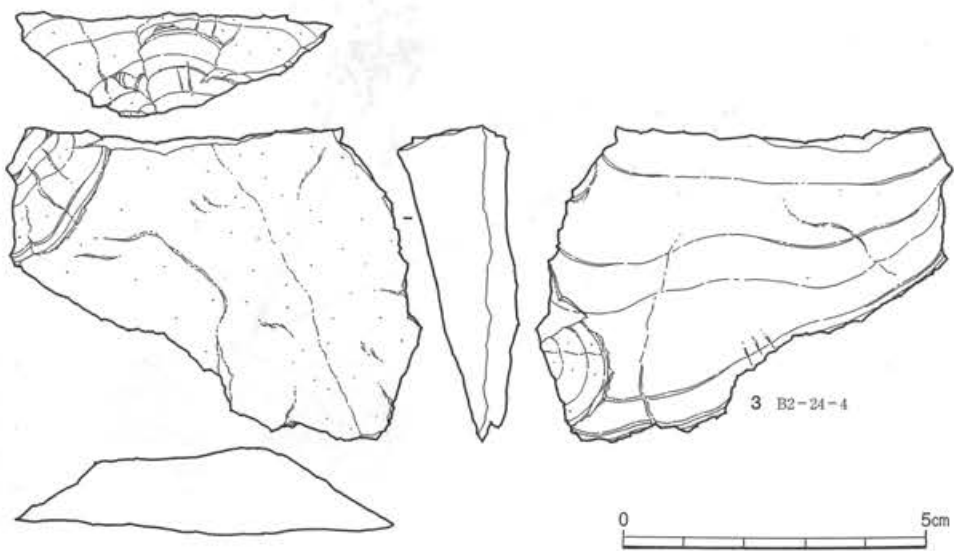
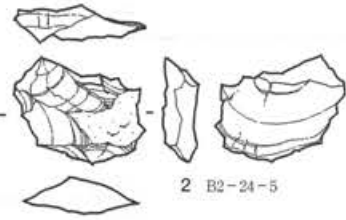
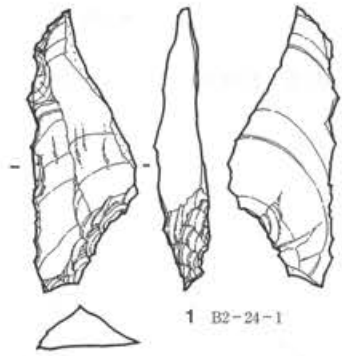
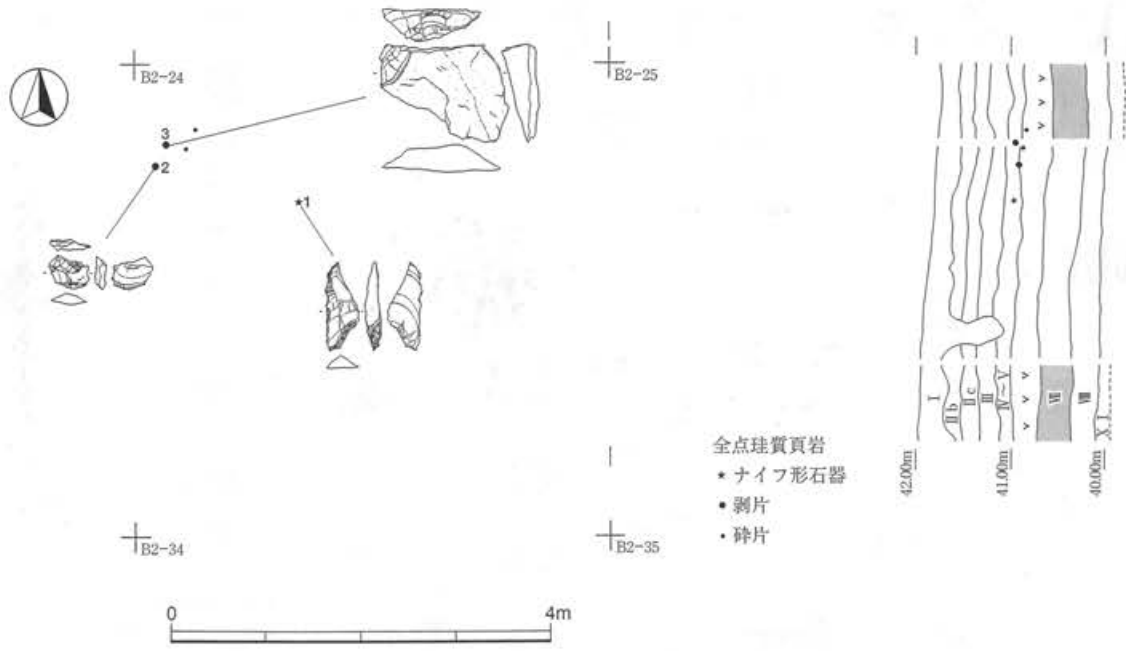
出土状況 調査区の中央北側，C2-28・29・38・39グリッドを中心に東西8m，南北6m程の比較的広い範囲に124点出土している（第8図）。東側の径2m程の範囲に特に集中する場所が認められる。西側部分はやや散漫に広がる。石材別に見ると特に西側に頁岩のみ分布する状況が見られる。

器種構成 ナイフ形石器1点，石核3点，剥片57点，碎片63点である。

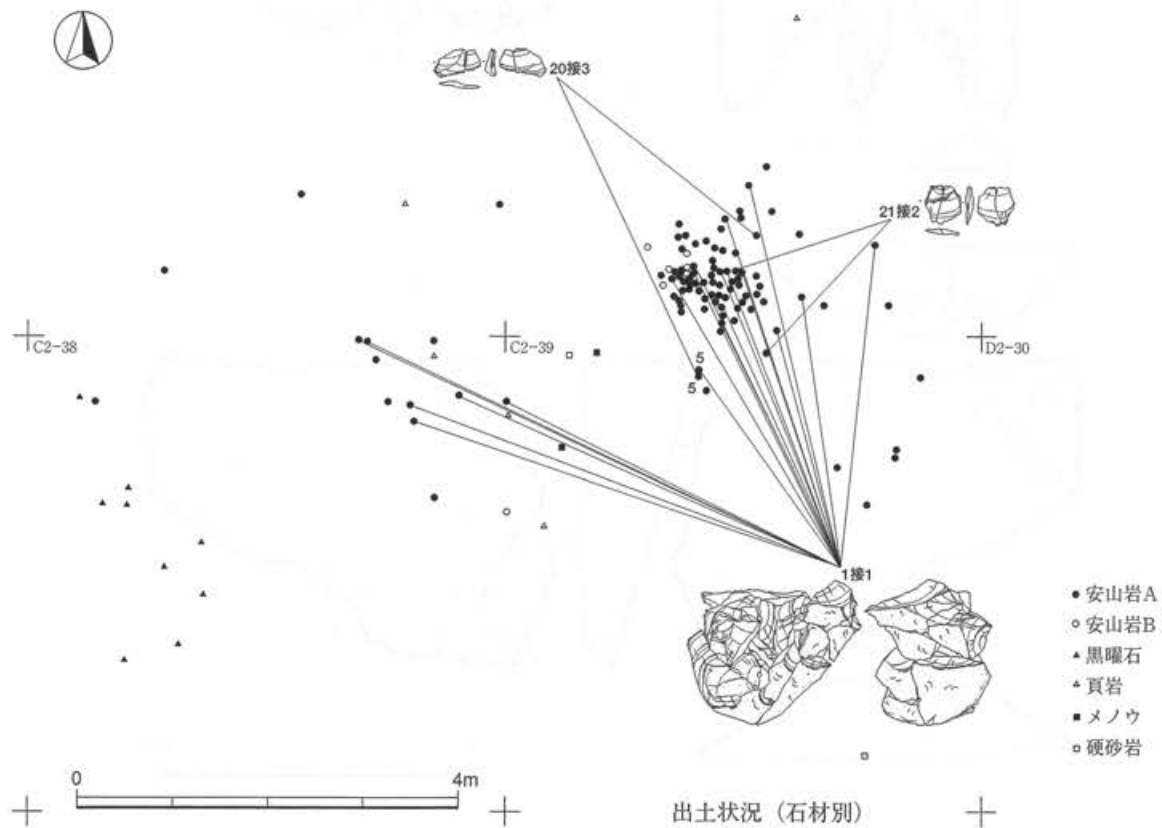
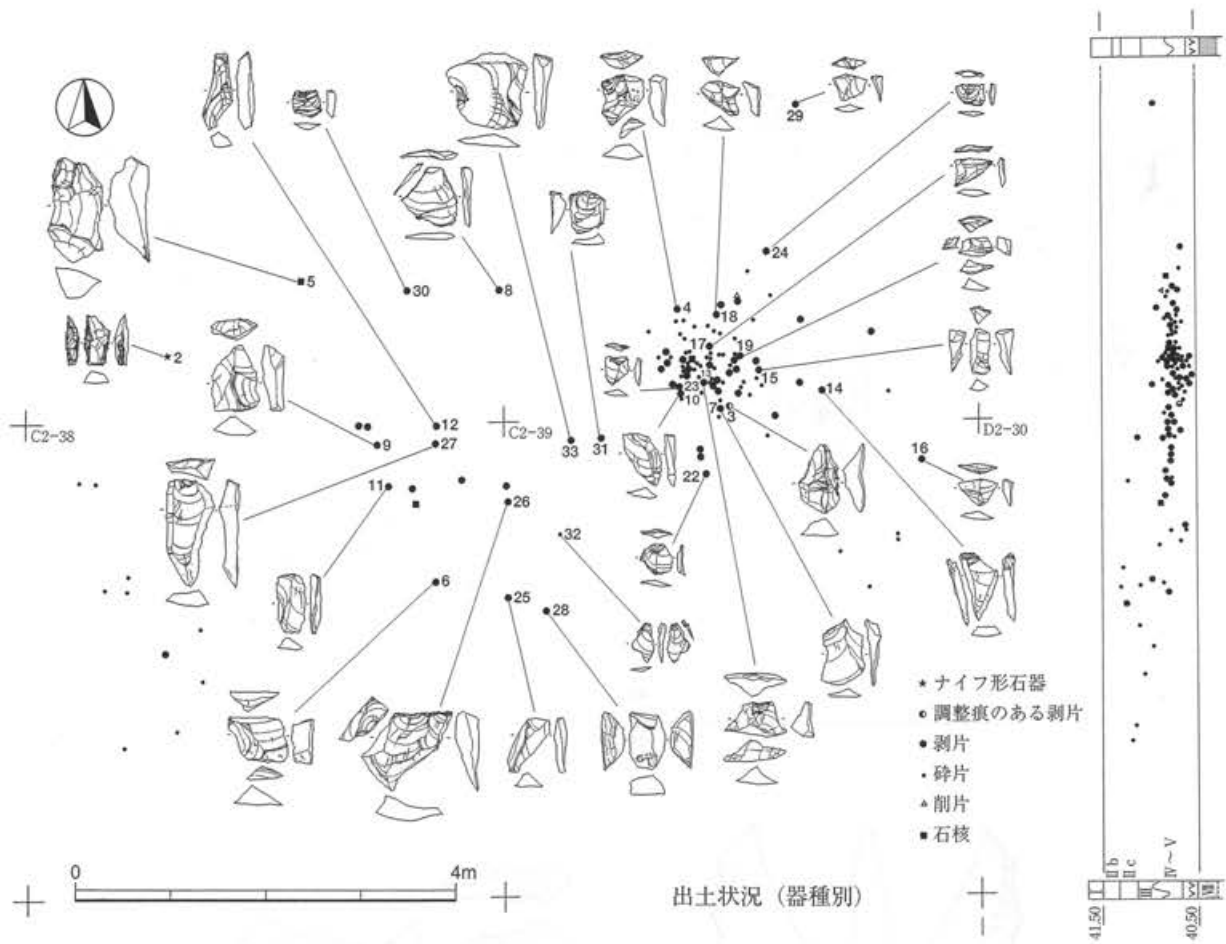
石材構成 安山岩A②99点，安山岩B②8点，頁岩②5点，黒曜石②9点，メノウ②2点，硬砂岩②1点である。



第6図 旧石器時代調査区



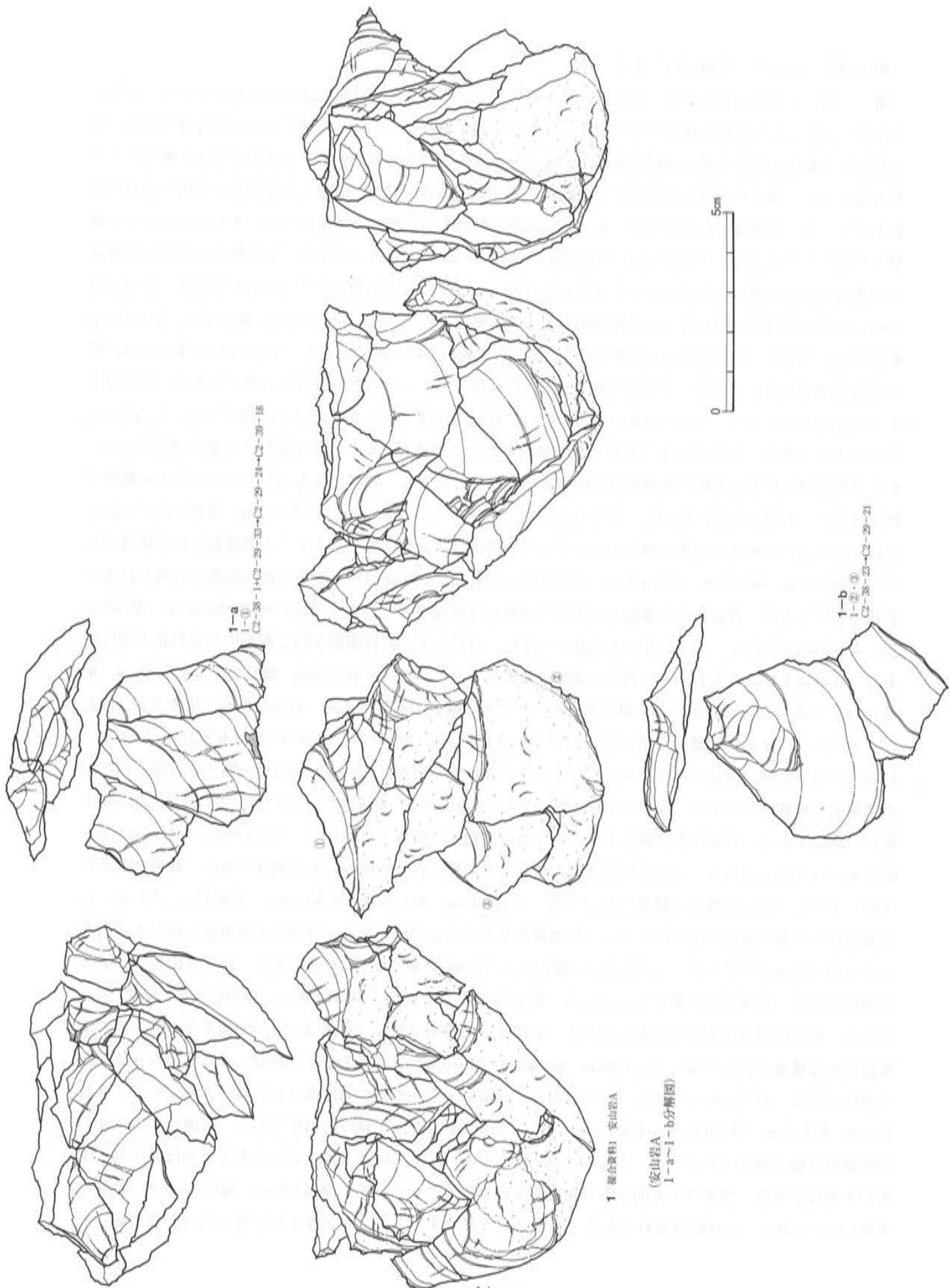
第7図 第1地点出土状況・出土石器



第8図 第2地点出土状況

出土層位 概ねⅣ～Ⅴ層に相当する。

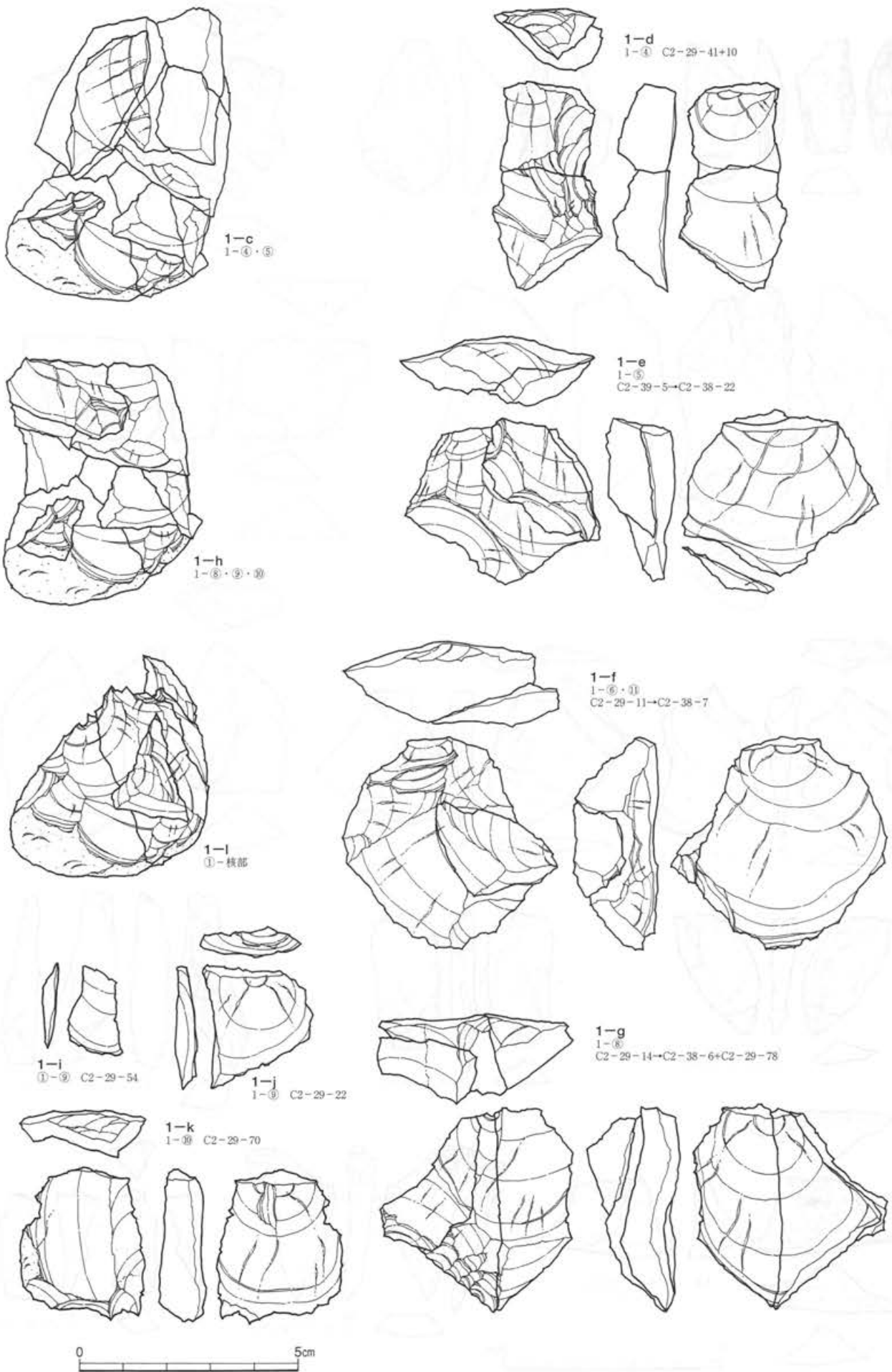
遺物 1は安山岩A②製の接合資料である。23点が接合する。打面転移を繰り返しながら、外側から内側へ向かって大きめの礫面を伴う剥片から小さな剥片を剥がしていった様子のわかる資料である。接合状況から集中地点での剥片剥離作業が2か所に分かれることが理解できる。2は安山岩A②製のナイフ形石器である。横広の小剥片を使用して打面側、先端側の両側を刃潰し調整を丁寧に行って切り出し状に仕上げている。基部は折れたものか、もしくは調整されたものか微妙な状況である。どちらかという調整されたものとする。全長2.74cm、幅1.35cm、厚み0.60cm、重量3.14gである。集中地点の中心から離れた空間的位置から検出されていることは注目される。3は安山岩A②製のナイフ形石器である。やや分厚い縦長剥片の左辺部にやや大きめの規則的な刃潰し調整を行っている。全長3.60cm、幅2.10cm、厚み1.00cm、重量6.50gである。4は安山岩A②製の剥片である。比較的厚い剥片である。全長2.72cm、幅2.20cm、厚み0.85cm、重量6.06gである。5は安山岩A②製の比較的厚くやや不整形な縦長の剥片である。背面は上下方向と横方向から2～3回の剥離が認められる。打面は礫面である。全長5.60cm、幅2.70cm、厚み1.60cm、重量28.33gである。廃棄直前まで石核として使用された可能性が高い。6は安山岩A②製の剥片である。やや平行四辺形に近い形状で比較的厚みのある小さな剥片である。背面は横方向と上方向からの剥離面で構成される。右側先端部に礫面を一部残している。全長24.0cm、幅3.00cm、厚み1.05cm、重量8.46gである。7は安山岩A②製の比較的薄い縦長の剥片である。背面は主剥離面と同じ上からの剥離面2面で構成される。全長3.53cm、幅2.15cm、厚み0.50cm、重量4.18gである。8は安山岩A②製の比較的薄い三角形に近い形状の剥片である。背面は主剥離面と同方向の剥離面で構成されている。全長3.18cm、幅3.00cm、厚み0.40cm、重量3.64gである。9は安山岩A②製の二等辺三角形のように打面側が細く裾が広がる形状の剥片である。背面は上からと左右からの複数の剥離面で構成されている。全長3.50cm、幅2.40cm、厚み1.00cm、重量10.78gである。10は安山岩A②製の木葉形でやや薄い縦長の剥片である。打面は礫面で構成され、背面は上方向からの2面の剥離面で構成されている。全長2.73cm、幅1.70cm、厚み0.60cm、重量2.69gである。11は安山岩A②製の縦長の剥片である。打面は平坦な礫面で覆われている。背面は左側と上方向から2面の剥離面で構成されている。全長3.17cm、幅1.57cm、厚み0.60cm、重量3.72gである。12は安山岩A②製の縦長の剥片である。背面は左方向と下からの2面の剥離面で構成されている。全長4.10cm、幅1.40cm、厚み0.80cm、重量4.76gである。13は安山岩A製の台形に近い形状のやや厚みのある剥片である。背面は上から1面、下から2面の剥離面で構成されている。全長1.90cm、幅3.30cm、厚み1.00cm、重量4.51gである。14は安山岩A②製の縦長の小剥片である。打面側が厚みのある形状である。背面は主剥離面と同じ上方向からの2面で構成されている。全長2.45cm、幅1.10cm、厚み0.60cm、重量1.97gである。15は安山岩A②製の小剥片である。左側は折れ面となっている。縦長の剥片で全長2.45cm、幅1.10cm、厚み0.60cm、重量1.97gである。16は安山岩A②製の小剥片である。形状は逆三角形である。背面は上方向1面と下方向1面の剥離面2面で構成されている。全長1.40cm、幅2.10cm、厚み0.45cm、重量1.26gである。17は安山岩A②製の小剥片である。形状はやや不整な三角形である。背面は上方向からの剥離面2面で構成されている。全長1.50cm、幅2.05cm、厚み0.47cm、重量1.03gである。18は安山岩A②製の小剥片である。背面は上方向からの剥離面2面で構成されている。全長1.85cm、幅2.10cm、厚み0.78cm、重量2.47gである。19は安山岩A②製の小剥片である。背面は上方向からの剥離面2面で構成されている。全長1.05cm、幅1.30cm、厚み0.60cm、重量1.56gである。20は接合資料である。碎片同士で接合する。もともとは1枚の安山岩A②製の碎片に



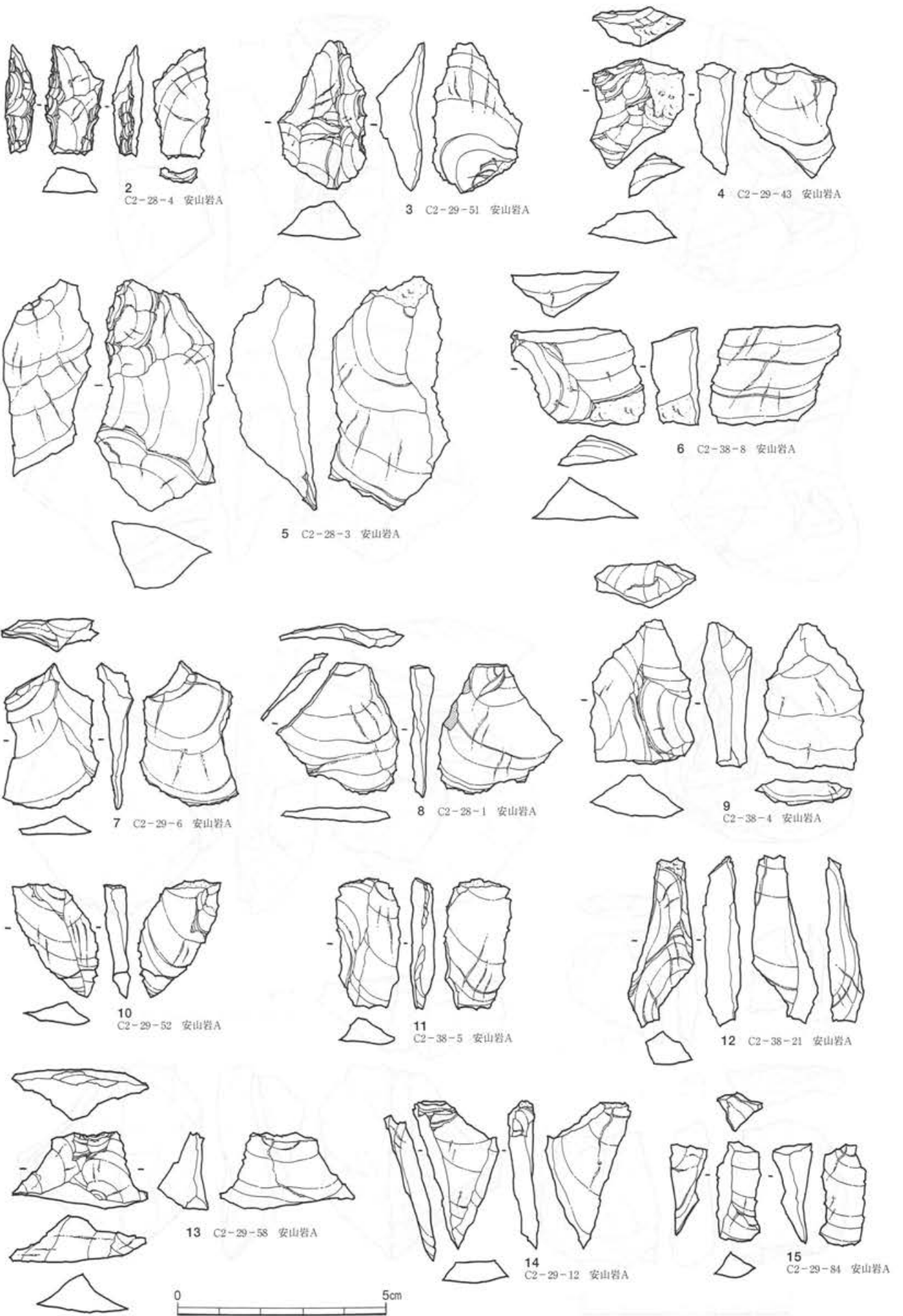
1 综合资料1 安山岩A

(安山岩A
 1-a~1-b分解图)

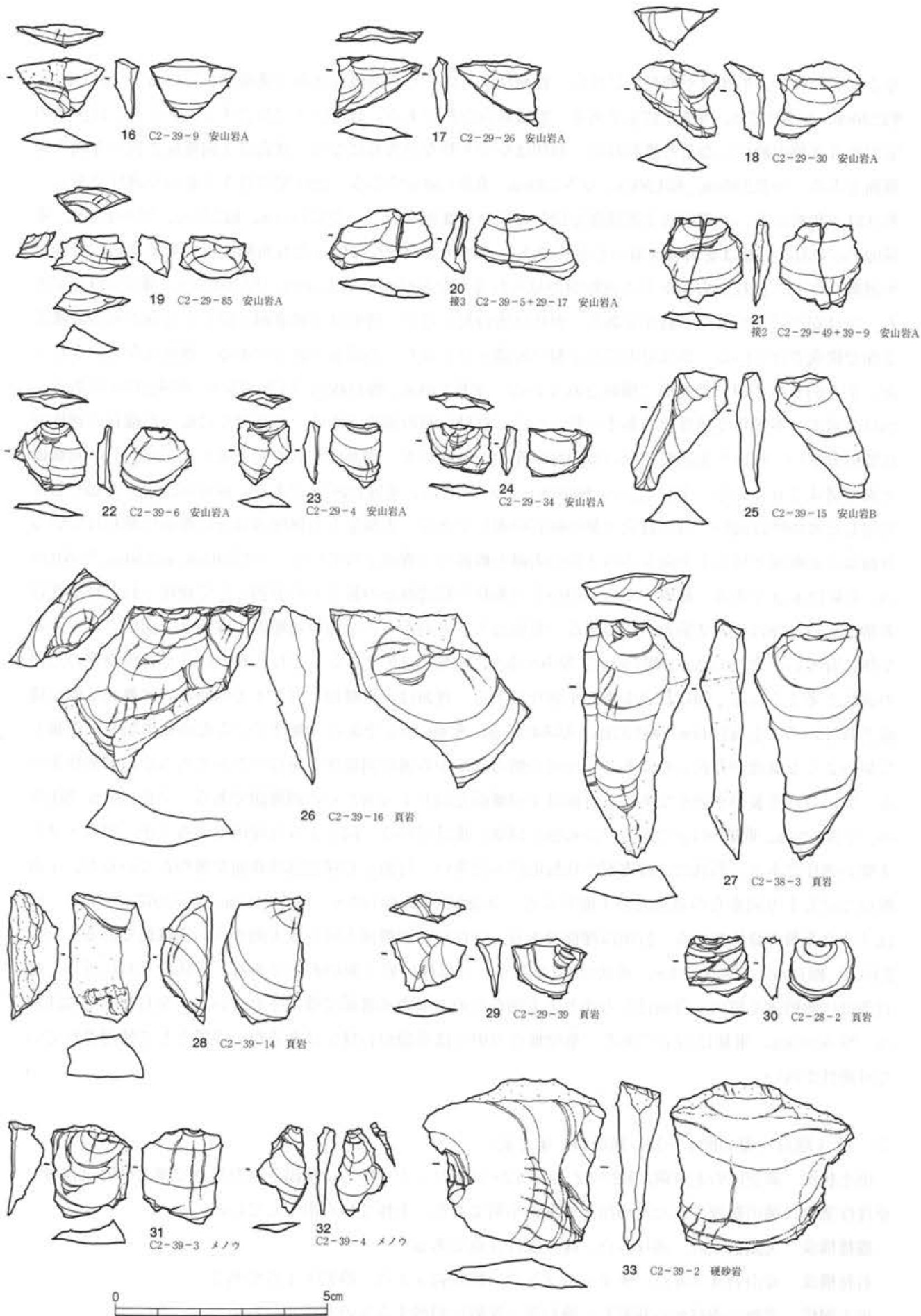
第9图 第2地点出土石器(1)



第10图 第2地点出土石器(2)



第11图 第2地点出土石器(3)



第12図 第2地点出土石器(4)

なると思われる。形状はやや台形に近い。背面は上方向からの剥離面2面で構成されている。全長1.48cm、幅2.30cm、厚み0.35cm、重量1.47gである。21は接合資料である。碎片同士で接合する。もともとは1枚の安山岩A②製の碎片になると思われる。形状はやや不整な五角形になる。背面は主剥離面と同じ方向の剥離面である。全長2.05cm、幅1.90cm、厚み0.30cm、重量1.38gである。22は安山岩A②製の小剥片である。形状は六角形に近い。背面は主剥離面と同じ方向の剥離面である。全長1.60cm、幅1.70cm、厚み0.30cm、重量0.87gである。23は安山岩A製の小剥片である。形状はやや左に偏った五角形に近い形である。背面は小剥離ながら3面程上方向からの剥離面が見られる。全長1.50cm、幅1.30cm、厚み0.33cm、重量0.71gである。24は安山岩A②製の小剥片である。形状は逆台形に近い。背面は主剥離面と同じ上方向からの剥離面2面で構成されている。25は安山岩B②製(所謂トロトロ石)の縦長の剥片である。背面は左方向から1面、上方向から2面の剥離面で構成されている。全長2.90cm、幅1.60cm、厚み0.75cm、重量2.48gである。26は頁岩②(茶褐色で珪質化のあまり見られない石材)製の剥片である。形状は左に偏った縦長の剥片で比較的分厚い。打面と先端左部分の縁辺部に礫面が見られる。背面は主剥離面と同じ上方向からの剥離面2面で構成されている。全長4.20cm、幅3.60cm、厚み1.10cm、重量14.87gである。縁辺部は鋭く刃器として使用した可能性は高い。27は頁岩②製の縦長の剥片である。先端部と右側縁辺部分は礫面で覆われている。背面は主剥離面と同じ上方向からの2面の剥離と礫面とで構成されている。全長5.63cm、幅2.50cm、厚み0.88cm、重量12.40gである。礫面があるもののその形状と縁辺部分の鋭さから刃器として使用された可能性は非常に高い。28は頁岩②製の剥片である。背面は上下方向からの2面の剥離面と礫面とで構成されている。全体に分厚い。全長3.02cm、幅1.90cm、厚み1.05cm、重量7.83gである。どちらかという石核調整のための剥片と考えられる。29は頁岩②製の小剥片である。背面は主剥離面と同じ上方向からの剥離面2面で構成されている。全長1.40cm、幅1.82cm、厚み0.45cm、重量0.89gである。焼けているため検出場所に近接して炉のような施設が存在したかもしくは火で焙られてから剥片剥離作業を行ったかどちらかの可能性がある。30は頁岩②製の小剥片である。背面は主剥離面と同じ上方向からの剥離面である。全長1.48cm、幅1.50cm、厚み0.40cm、重量0.64gである。30も29と同様に焼けている。同じような理由であろうか。31はメノウ②製の剥片である。形状はほぼ方形で比較的厚みは薄い。打面と右縁辺部は礫面で覆われているが、主剥離面と同じ上方向からの剥離面が1面である。全長2.23cm、幅1.93cm、厚み0.60cm、重量2.67gである。32はメノウ②製の碎片である。打面は礫面である。背面は主剥離面と同じ上方向からの剥離面である。全長2.10cm、幅1.20cm、厚み0.23cm、重量0.66gである。33は硬砂岩②製の剥片である。形状は方形に近い。縁辺部は比較的薄く鋭い。背面は左方向と上方向からの2面の剥離面で構成されている。全長4.00cm、幅4.30cm、厚み0.65cm、重量15.17gである。集中地点の中では単独の石材ではあるが、刃器として使用されていた可能性が高い。

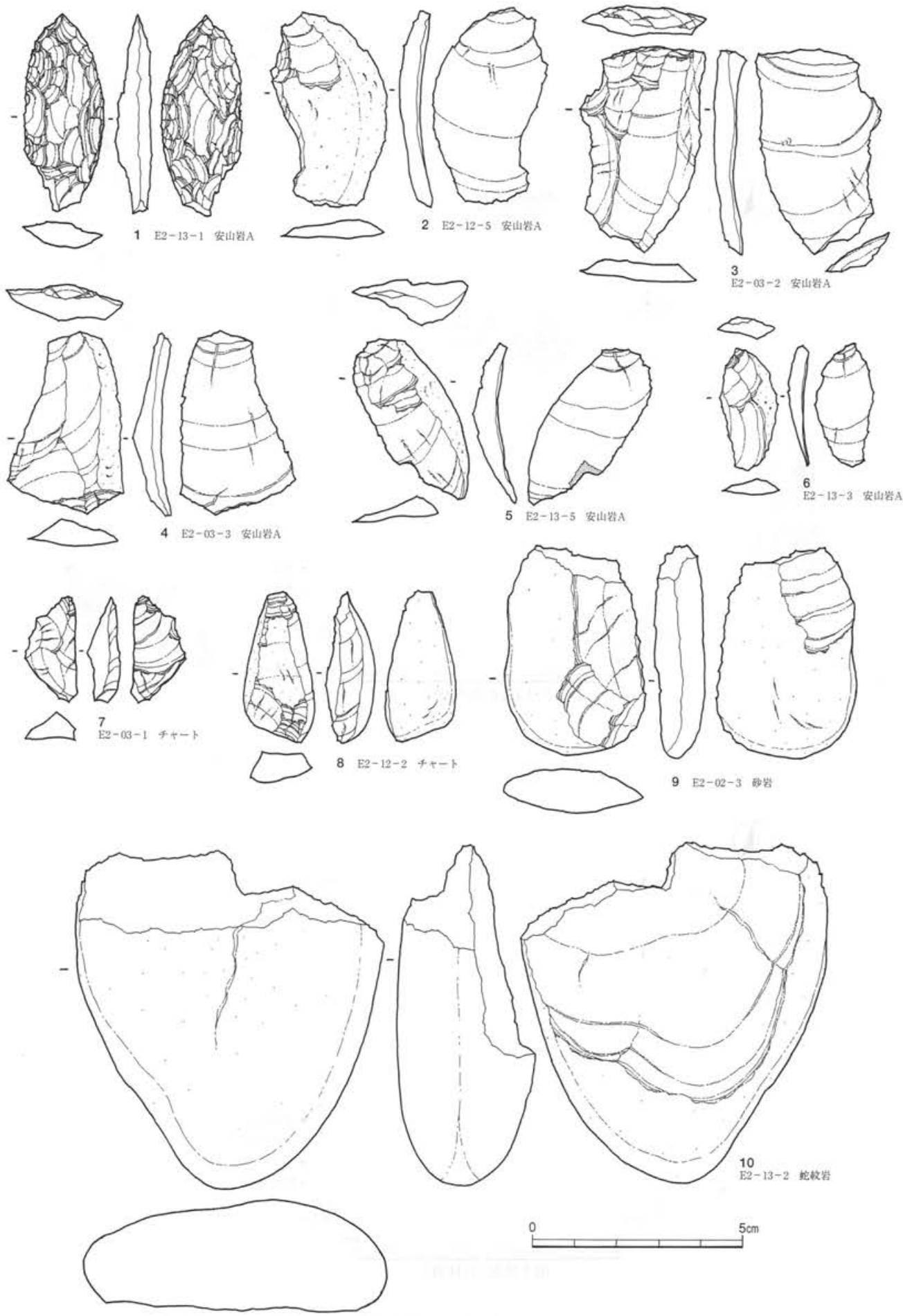
3 第3地点(第13図1~10, 図版11, 第4表)

出土状況 調査区の北東隅, E2-02・03・12・13グリッドを中心に検出された地点で縄文早期包含層の整理作業中に抽出確認されたため出土状況は不明である。全体で11点出土している。

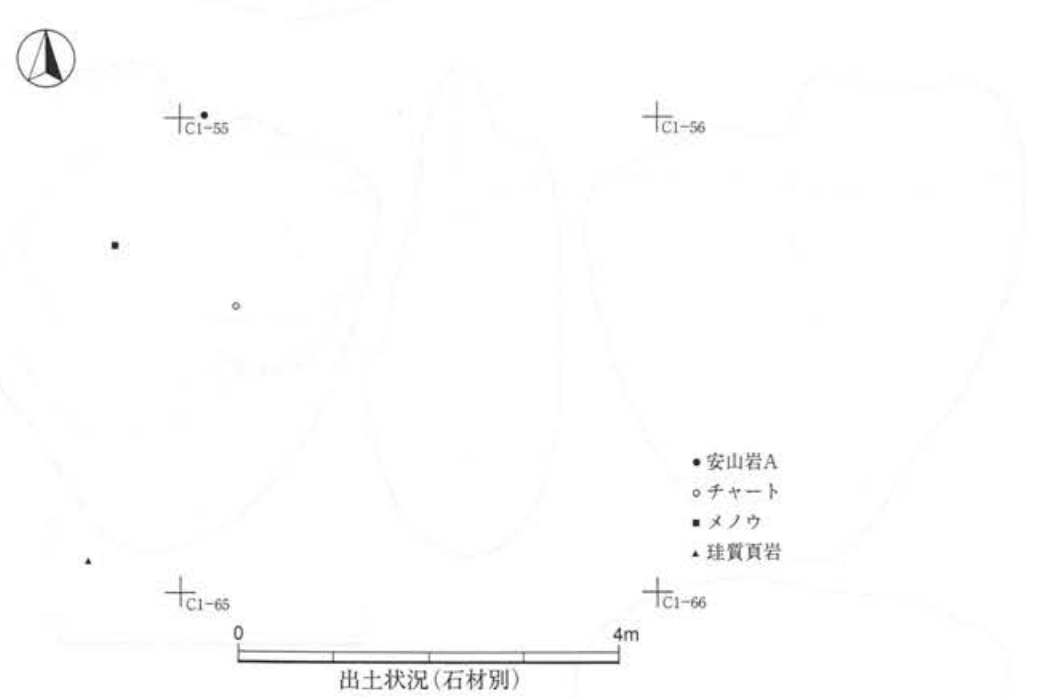
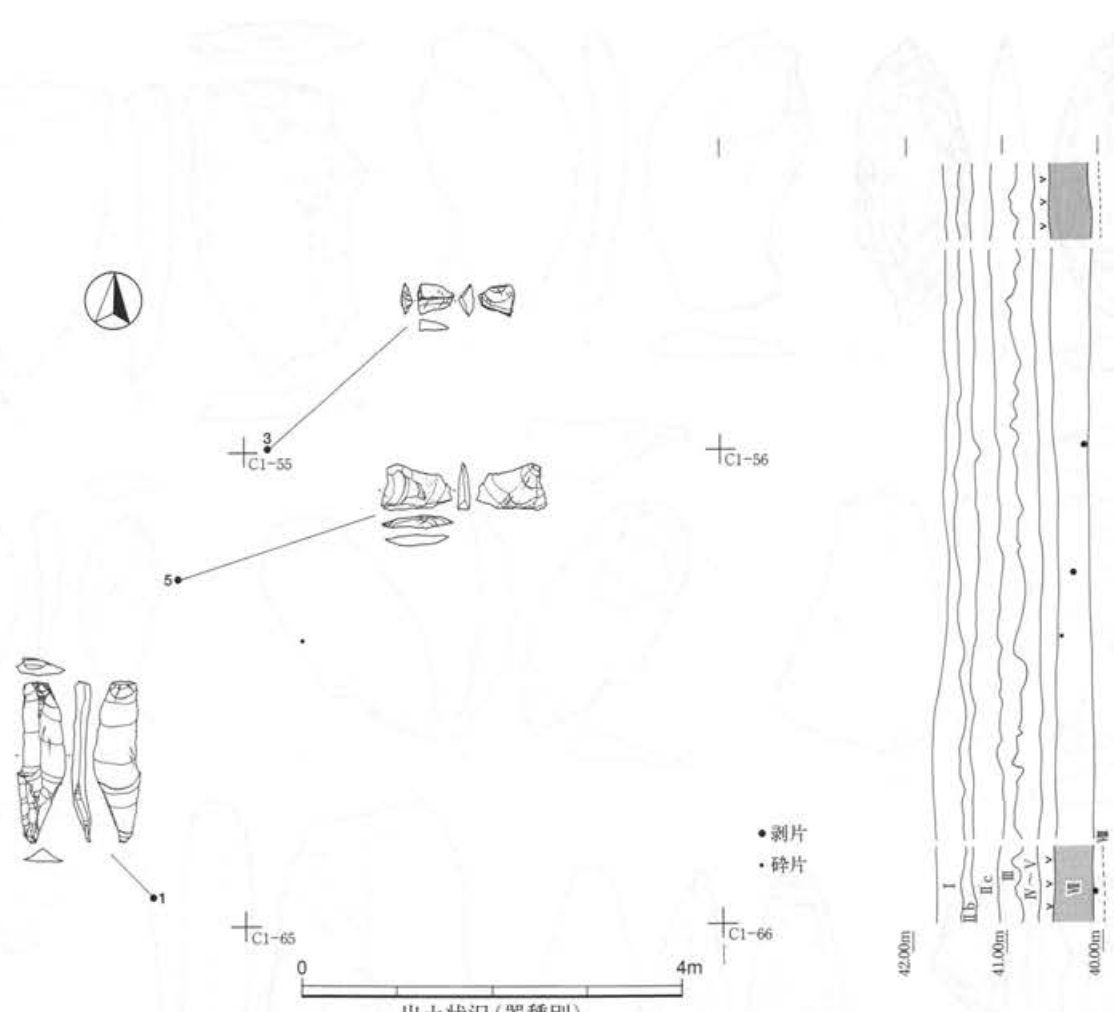
器種構成 尖頭器1点, 剥片6点, 礫・礫片3点である。

石材構成 安山岩A③6点, チャート③2点, 蛇紋岩③3点, 砂岩③1点である。

出土層位 遺物の内容から判断して概ねⅢ~Ⅳ層に相当するものと思われる。



第13図 第3地点出土石器



第14図 第4地点出土状況

遺物 1は安山岩A③製の尖頭器である。表裏両面ともに丁寧に調整を施して木葉形に仕上げられている。基部は左側に細く薄くする調整が入る。基部下端部は折れている。全長4.30cm、幅1.90cm、厚み0.60cm、重量7.94gである。2は安山岩A③製の剥片である。形状は不整な縦長剥片で背面は主剥離面と同じ上方向からの1面と礫面で構成されている。このことからこの剥片は剥片剥離作業の初期の段階で剥がされていたものと思われる。全長4.68cm、幅2.75cm、厚み0.50cm、重量8.37gである。3は安山岩A③製の剥片である。形状はやや不整な縦長の剥片である。縁辺部は鋭く刃器として使用した可能性は高い。背面は4面以上の上方向からの剥離面で構成される。打面は多少調整されているものの礫面に非常に近い位置で敲打されているものと思われる。全長4.90cm、幅2.90cm、厚み0.48cm、重量10.52gである。4は安山岩A③製の剥片である。形状はやや左先端がふくらむ縦長の剥片である。縁辺部は鋭く刃器として使用した可能性は高い。背面は上方向からの剥離2面、下方向からの剥離3面、礫面で構成されている。比較的早い段階での剥片剥離作業で剥がされたものと思われる。全長4.35cm、幅2.70cm、厚み0.68cm、重量7.29gである。5は安山岩A③製の剥片である。形状は右寄りに剥離された縦長の剥片である。背面は上方向からの剥離面2面と礫面とで構成されている。左縁辺部は鋭く刃器として使用した可能性はある。比較的早い段階での剥片剥離作業で剥がされたものと思われる。全長3.80cm、幅2.10cm、厚み0.50cm、重量5.09gである。6は安山岩A③製の剥片である。縦長の小剥片である。背面は上方向から2面と左横方向から1面、礫面で構成されている。石核の打面調整時の剥片と考えられる。全長2.90cm、幅1.40cm、厚み0.40cm、重量1.49gである。7はチャート③製の剥片である。打面は点状、背面は右横方向から1面、左横方向から1面、上方向から1面ある。断面は厚みがある。縁辺部は比較的鋭い。全長2.52cm、幅1.23cm、厚み0.70cm、重量1.98gである。8はチャート③製の両極石器(石核)である。チャートの円礫を使用して上下両極に剥離面が見られる。全長3.60cm、幅1.70cm、厚み0.78cm、重量8.28gである。9は砂岩③製の扁平楕円礫を使用した礫器である。表裏とも剥片剥離した後に縁辺部分に細かな調整を施しているものである。全長5.00cm、幅3.40cm、厚み0.60cm、重量22.04gである。10は蛇紋岩③製の礫片である。礫面には明らかに摩滅した跡がうかがわれるところから磨石と考えるのが妥当であろう。全長8.10cm、幅7.30cm、厚み2.70cm、重量235.03gである。

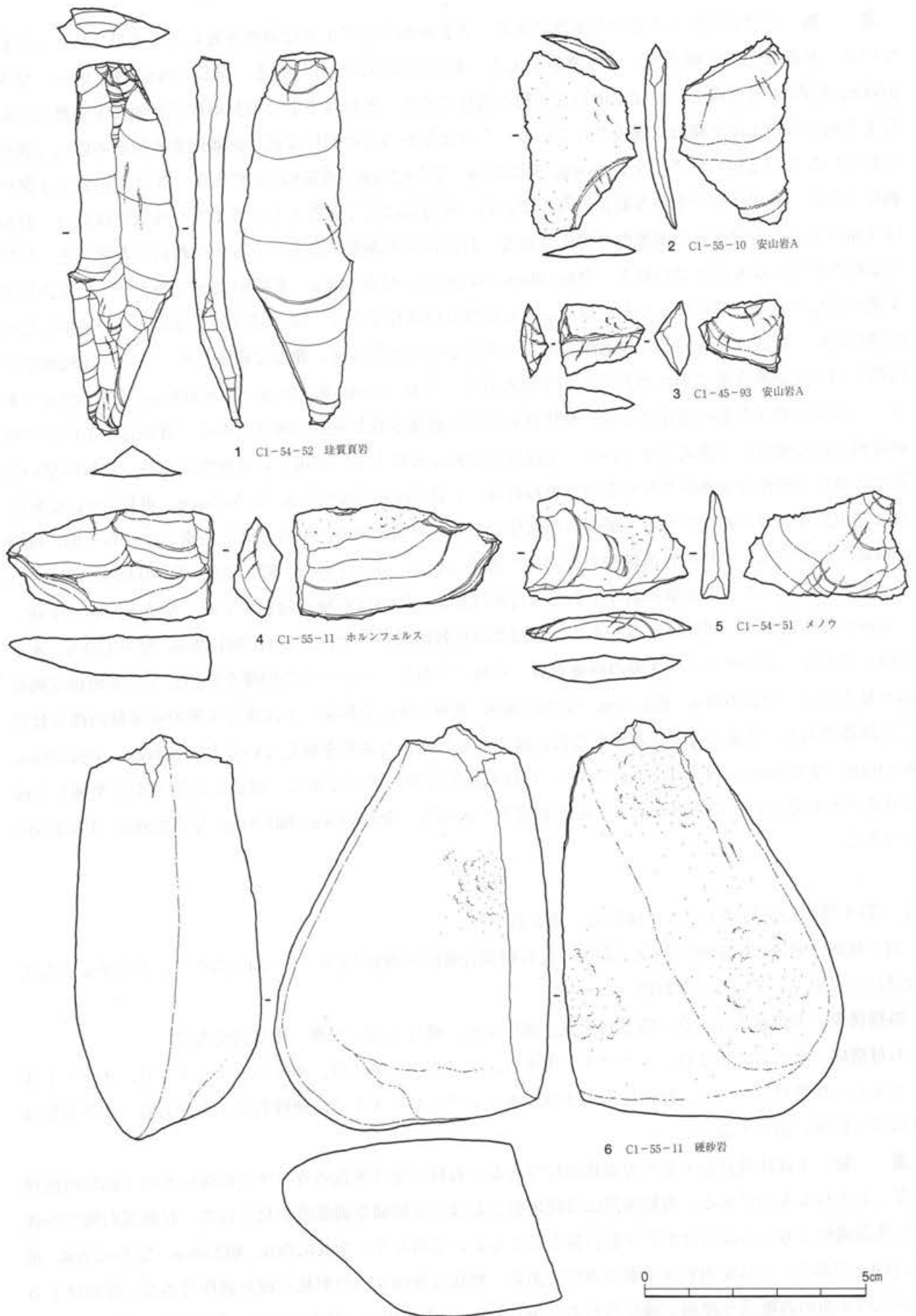
4 第4地点(第15図1~6, 図版12, 第5表)

出土状況 調査区の北側で縄文草創期の包含層調査範囲の南側のC1-45・54・55グリッドを中心にして散漫に10点出土している(第14図)。

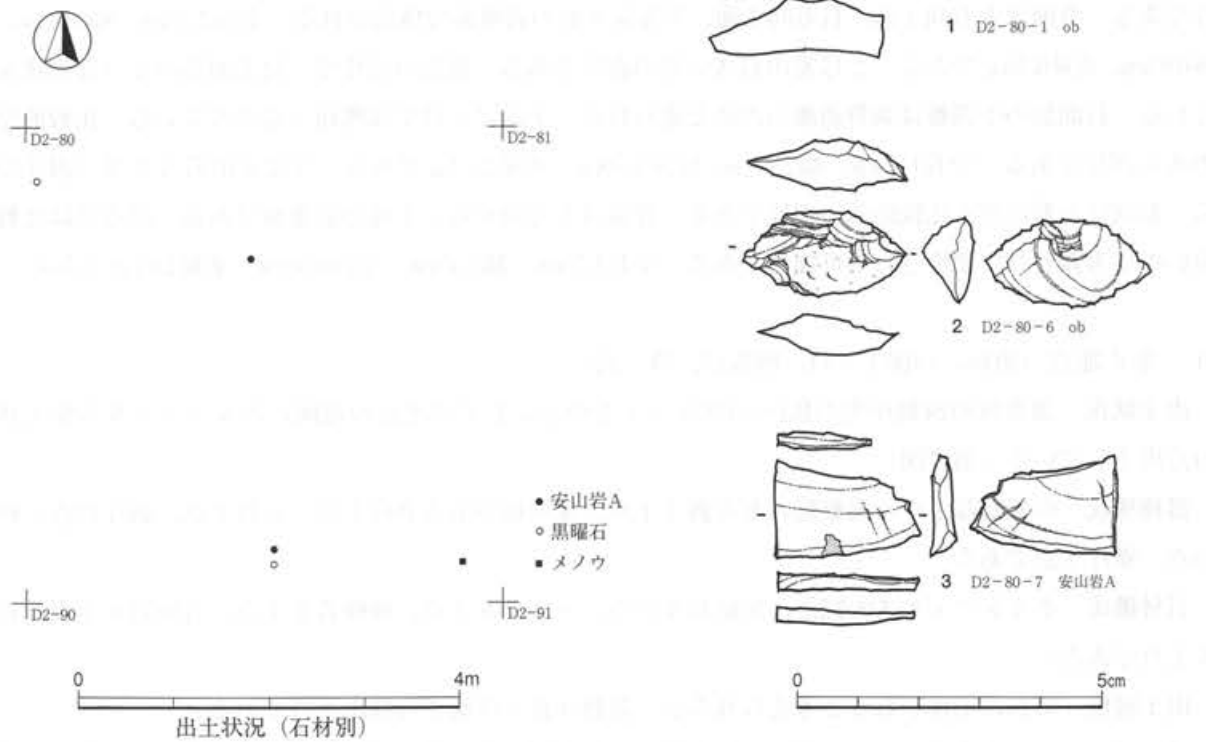
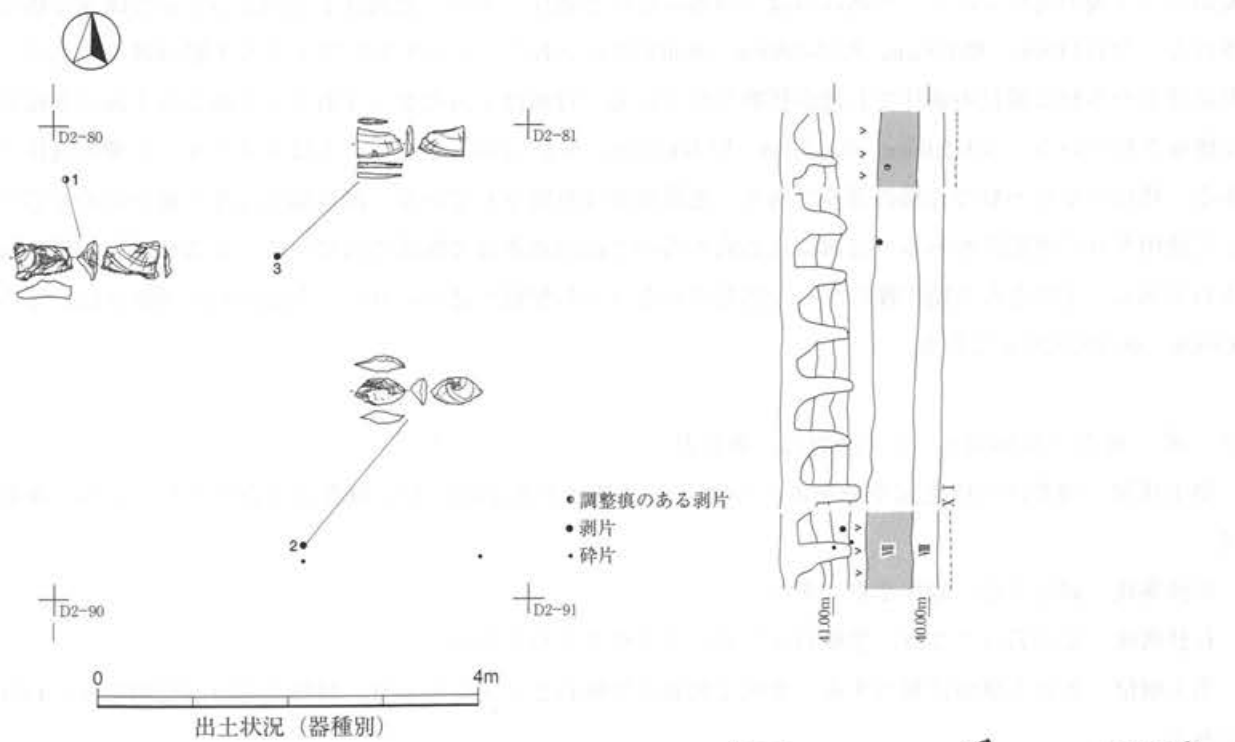
器種構成 刃器状剥片1点、敲き石1点、剥片4点、碎片2点、円礫・礫2点である。

石材構成 安山岩A④2点、メノウ④-①1点、メノウ④-②1点、チャート④-①1点、チャート④-②1点、珪質頁岩④1点、緑泥片岩④1点、ホルンフェルス④1点、硬砂岩④1点である。出土層位は概ねⅦ~Ⅸ層に相当する。

遺物 1は珪質頁岩④製の刃器状剥片である。石材は焦げ茶色のガラス質の強いもので縞状の節理が多く見られるものである。両側縁部には使用痕とおぼしき微細な剥離痕が見られる。打面部右側の小剥離は基部調整と考えるならばナイフ形石器としてもよいであろう。全長6.50cm、幅2.50cm、厚み0.72cm、重量13.69gである。2は安山岩A④製の剥片である。形状は横向きの台形様の縦長剥片である。背面は下方向からの1面の剥離面と礫面で構成される。全長4.25cm、幅2.40cm、厚み0.40cm、重量5.37cmである。3は



第15図 第4地点出土石器



第16図 第5地点出土状況・出土石器

安山岩A④製の剥片である。形状はほぼ三角形に近い小剥片である。背面は下方向から1面と礫面で構成される。全長1.68cm, 幅1.95cm, 厚み0.60cm, 重量2.04gである。4はホルンフェルス④製の剥片である。形状はやや不整な横長の剥片で右側が折断されている。背面は上方面から4面と下方面から1面の剥離面で構成されている。全長2.60cm, 幅4.70cm, 厚み1.10cm, 重量14.93gである。5はメノウ④-①製の剥片である。横長でやや不整な方形の剥片である。先端部分は折断されている。縁辺部分は薄く鋭いため刃器として使用された可能性がある。背面は左方向からの2面の剥離面で構成されている。6は硬砂岩④製の敲き石である。半割された楕円礫の平らな部分にかなりの打撃痕が認められる。全長9.08cm, 幅6.30cm, 厚み0.40cm, 重量278.37gである。

5 第5地点(第16図1~3, 図版12, 第6表)

出土状況 調査区の中央部やや北よりのD2-80グリッドを中心にして散漫に5点出土している(第16図)。

器種構成 剥片3点, 碎片2点である。

石材構成 安山岩A⑤2点, 黒曜石⑤2点, メノウ⑤1点である。

出土層位 III層とVII層に相当する。III層文化層は黒曜石とメノウの石材, VII層文化層は安山岩Aの石材である。

遺物 1は黒曜石⑤製の剥片である。石材は比較的大きな安山岩質の夾雑物が多く含まれ黒味の強いものである。先端部の縁辺部分に連続的な小剥離痕が見られる。横長の長方形に近い形でやや分厚い剥片である。背面は上方向1面, 右方向1面, 左方向1面の剥離面で構成される。全長2.10cm, 幅3.00cm, 厚み0.95cm, 重量6.58gである。2は安山岩A⑤製の剥片である。横長の剥片で一見尖頭器のような形状をしている。打面側の小剥離は調整剥離のためと思われる。下端にかけては礫面で覆われている。比較的厚みのある剥片である。全長1.40cm, 幅2.70cm, 厚み0.70cm, 重量2.74gである。3は安山岩A⑤製の剥片である。形状は台形に近く比較的薄い剥片である。背面は上方向からの1面の剥離面である。縁辺部は比較的鋭いので刃器として使用された可能性がある。全長1.70cm, 幅2.40cm, 厚み0.30cm, 重量1.84gである。

6 第6地点(第18, 19図1~14, 図版13, 第7表)

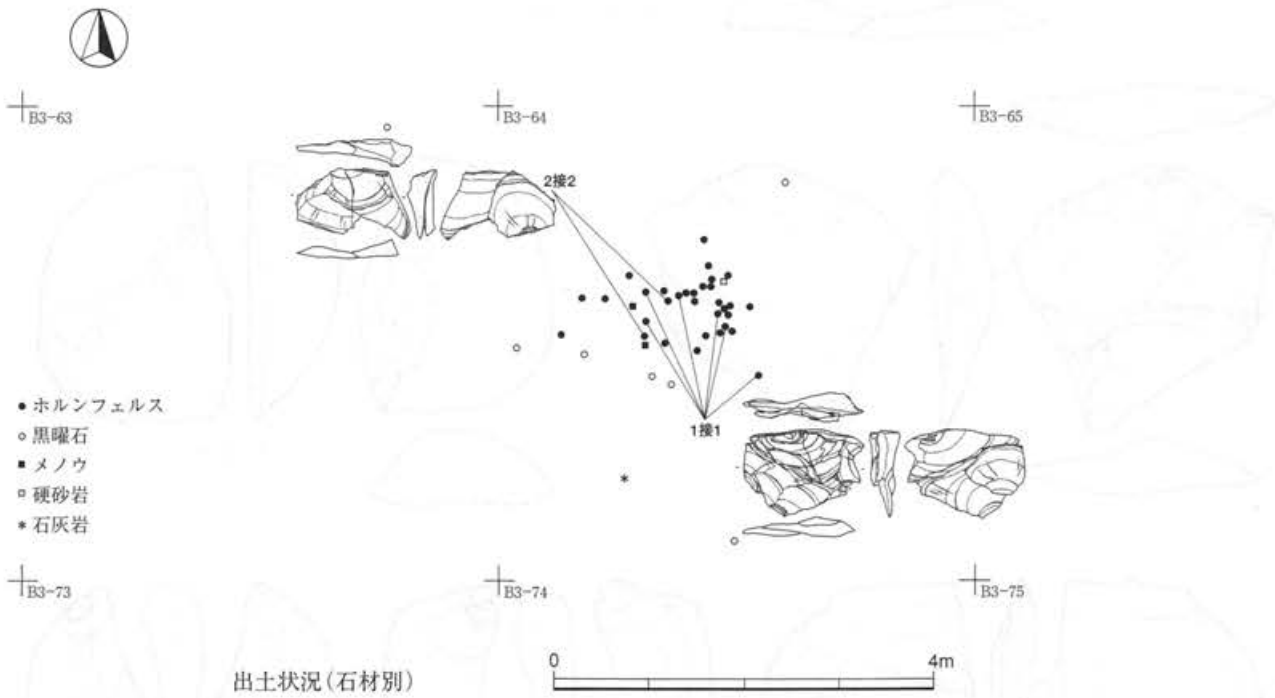
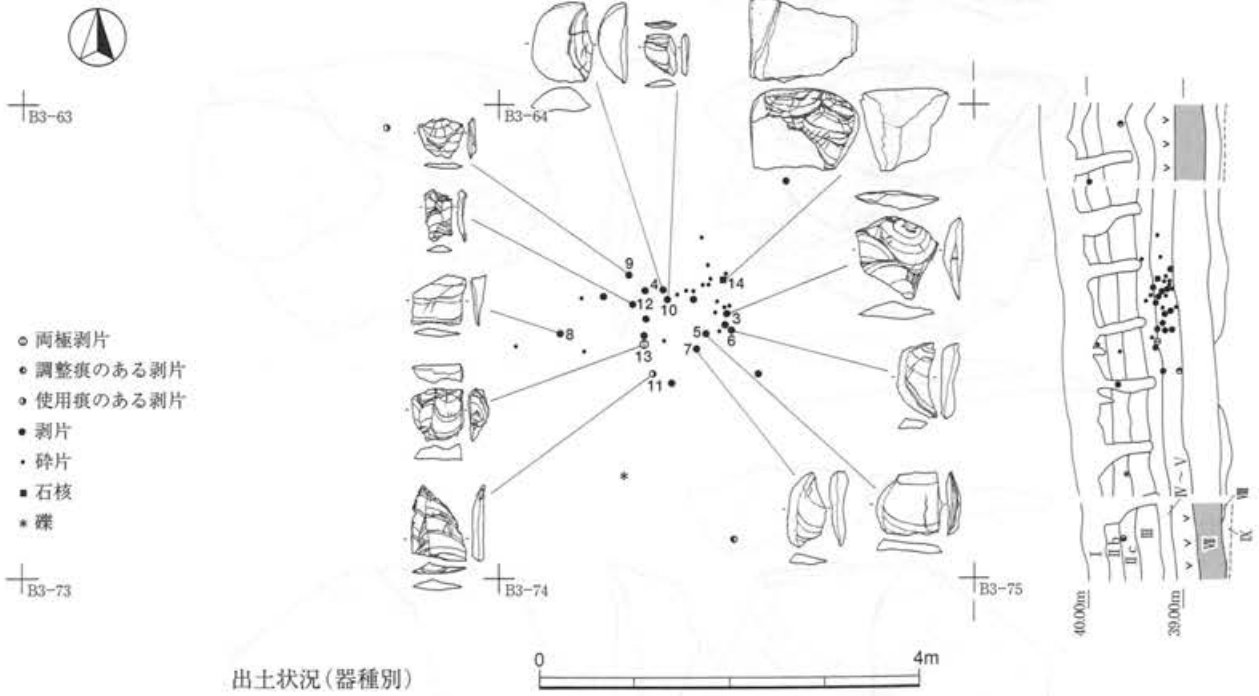
出土状況 調査区の西側中央のB3-64グリッドを中心にして径2mの範囲にホルンフェルスを主体に44点出土している(第17図)。

器種構成 両極石器1点, 調整痕のある剥片1点, 使用痕のある剥片1点, 石核1点, 剥片19点, 碎片19点, 礫片2点である。

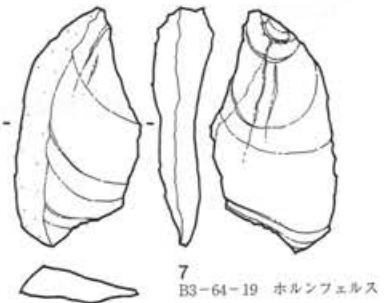
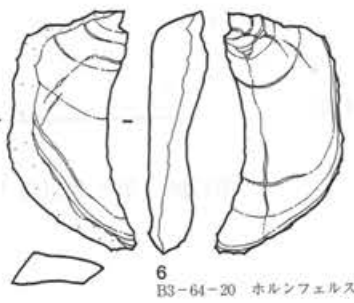
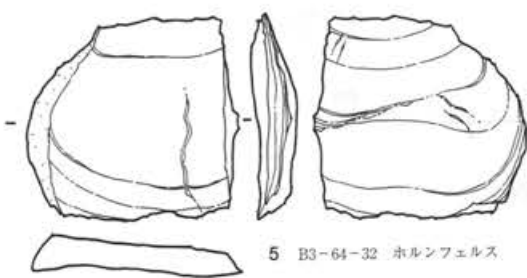
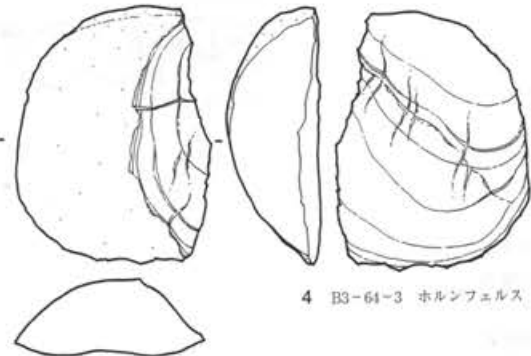
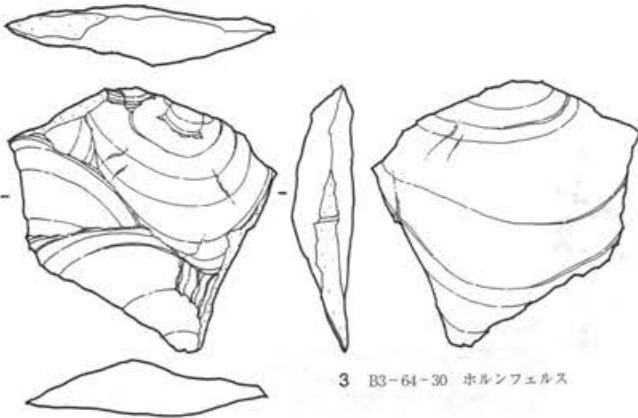
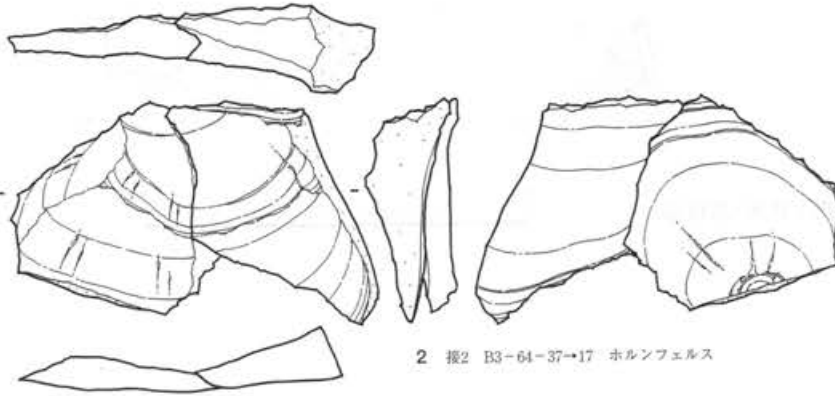
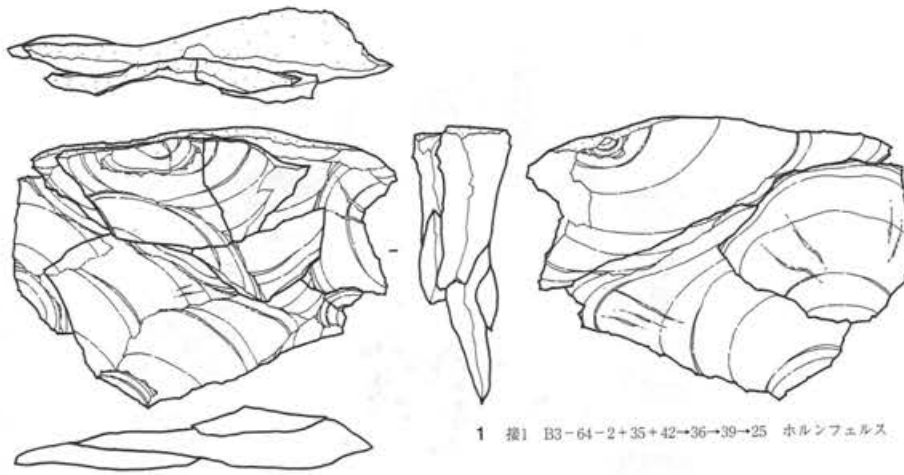
石材構成 ホルンフェルス⑥32点, 黒曜石⑥6点, メノウ⑥2点, 硬砂岩⑥1点, 石灰岩⑥1点, 頁岩⑥1点である。

出土層位 VI層に主体があると考えられるが, 遺物はIII~IX層から検出されている。

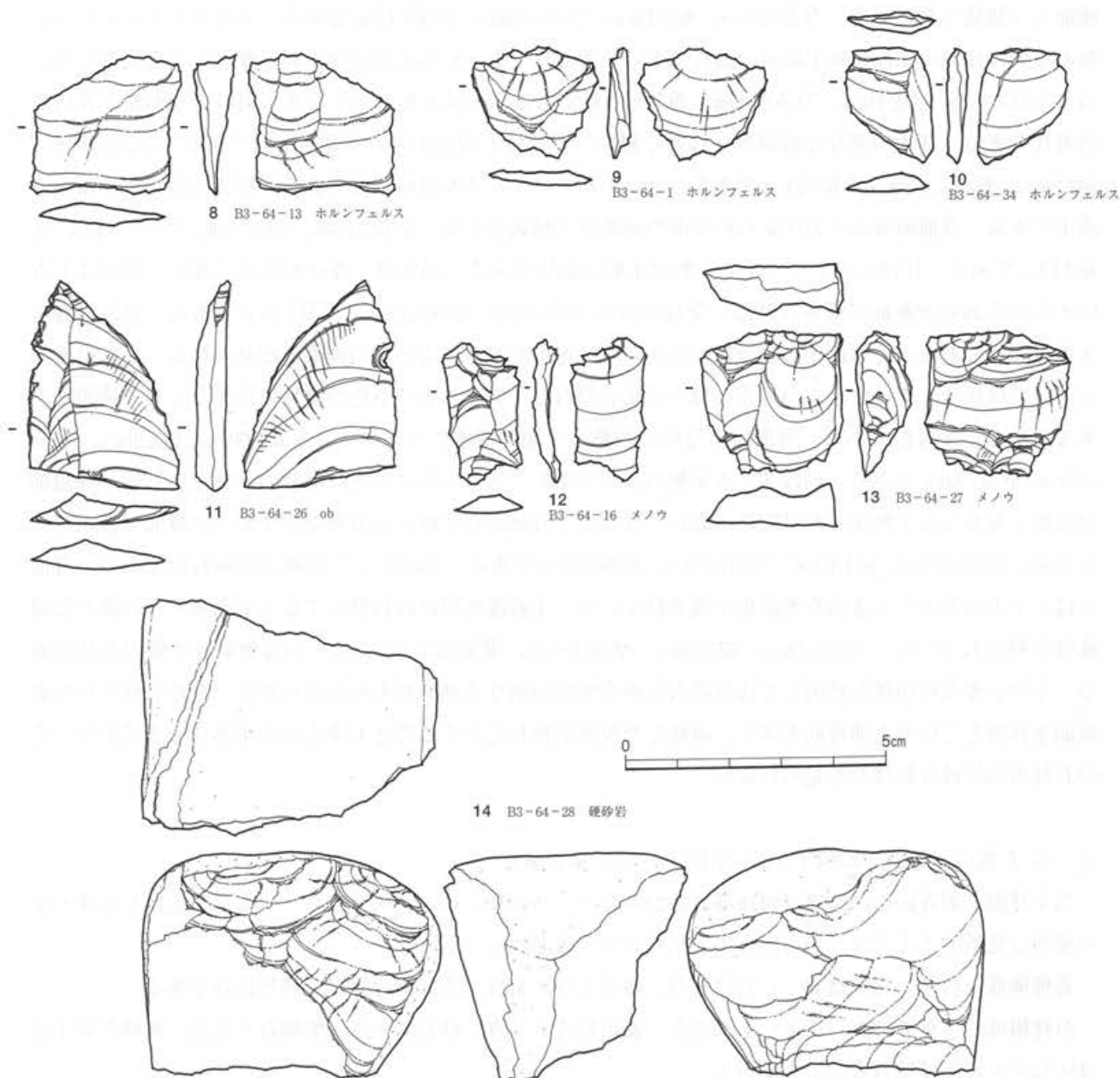
遺物 1はホルンフェルス⑥製の接合資料(接合資料1)である。接合関係から集中地点での作業内容の中心であったことが考えられる資料である。大小7枚の剥片から構成され, いずれも薄く横長の剥片である。接合状態は上下方向と左右両端に打撃面があり, 打撃面を適宜移動させていたものと思われる。2はホルンフェルス⑥製の接合資料(接合資料2)である。比較的大きめの剥片2枚で接合する。1と同



第17図 第6地点出土状況



第18図 第6地点出土石器(1)



第19図 第6地点出土石器(2)

様に薄く横広の傾向の強い剥片である。礫面を一部残すことと上下両方向に剥離面を残すという共通要素も持つ。3はホルンフェルス⑥製の剥片である。形状はやや不整な五角形で縁辺は鋭く刃器として使用した可能性もある。背面は下方向から2面, 上方向から1面の剥離面で構成されている。全長4.40cm, 幅4.20cm, 厚み0.97cm, 重量16.23gである。4はホルンフェルス⑥製の剥片である。形状は半月状で礫面を残すため厚く丸みがある剥片である。背面は右方向からの剥離面1面と礫面で構成されている。剥片剥離作業の初期段階のものと思われる。全長4.25cm, 幅3.20cm, 厚み0.80cm, 重量21.3gである。5はホルンフェルス⑥製の剥片である。形状は左側縁部分に丸みのある台形で全体に厚みのあまりない剥片である。背面は上方向からの剥離面1面と礫面とで構成される。全長3.35cm, 幅3.50cm, 厚み0.60cm, 重量9.09gである。6はホルンフェルス⑥製の左側縁片側に礫面を残す縦長の剥片である。背面は上方面からの剥離面1面と

礫面とで構成されている。全長3.95cm, 幅2.10cm, 厚み0.60cm, 重量7.14gである。7はホルンフェルス⑥製の左側縁片側に礫面を残す縦長の剥片である。背面は上方向からの剥離面1面と礫面とで構成されている。全長3.95cm, 幅2.10cm, 厚み0.60cm, 重量6.25gである。8はホルンフェルス⑥製のやや不整な五角形の剥片である。薄手の剥片で縁辺部分は薄く鋭い。背面は上方向からの剥離面1面である。全長2.70cm, 幅2.20cm, 厚み0.43cm, 重量3.78gである。9はホルンフェルス⑥製の剥片である。形状は逆三角形に近く薄手である。背面構成は上方向からの2面の剥離面で構成される。全長2.15cm, 幅2.45cm, 厚み0.32cm, 重量2.14gである。10はホルンフェルス⑥製の小形の剥片である。形状はくさび形に近く薄い。背面は上方向からの3面の剥離面で構成される。全長2.22cm, 幅1.70cm, 厚み0.47cm, 重量1.38gである。11は黒曜石⑥製の剥片である。先端部から縁辺部分にかけて使用痕と思われる連続の剥離痕が見られる。また打面側については折断している。この地点の他の黒曜石の石材と異なり焦げ茶色の網目模様が多く入り透明度のあまりないのが特徴である。背面は上方向の剥離面3面で構成されている。全長4.00cm, 幅2.90cm, 厚み0.60cm, 重量5.80gである。12はメノウ⑥製の剥片である。どちらかといえば縦長の小剥片に近い。縁辺部分は鋭く刃器として使用した可能性が高い。背面は上方向から2面, 下方向から2面の剥離面で構成されている。全長2.75cm, 幅1.42cm, 厚み0.40cm, 重量1.56gである。13はメノウ⑥製の両極石器である。背面には上下方向からの大きめな剥離痕が残されている。主剥離面側には打撃による上下両端からの細かな剥離痕が残されている。全長2.78cm, 幅2.70cm, 厚み0.95cm, 重量7.77gである。14は硬砂岩⑥製の石核である。やや不整な楕円礫を使用して比較的大きめな横広の剥片を剥いだものと思われる。ただし残された剥離面を観察していくと節理面が多く, 剥離した段階で折れたりすることも少なからずありそうである。この石材の剥片碎片類は全く見られない。

7 第7地点(第21~23図1~27, 図版14・15, 第8表)

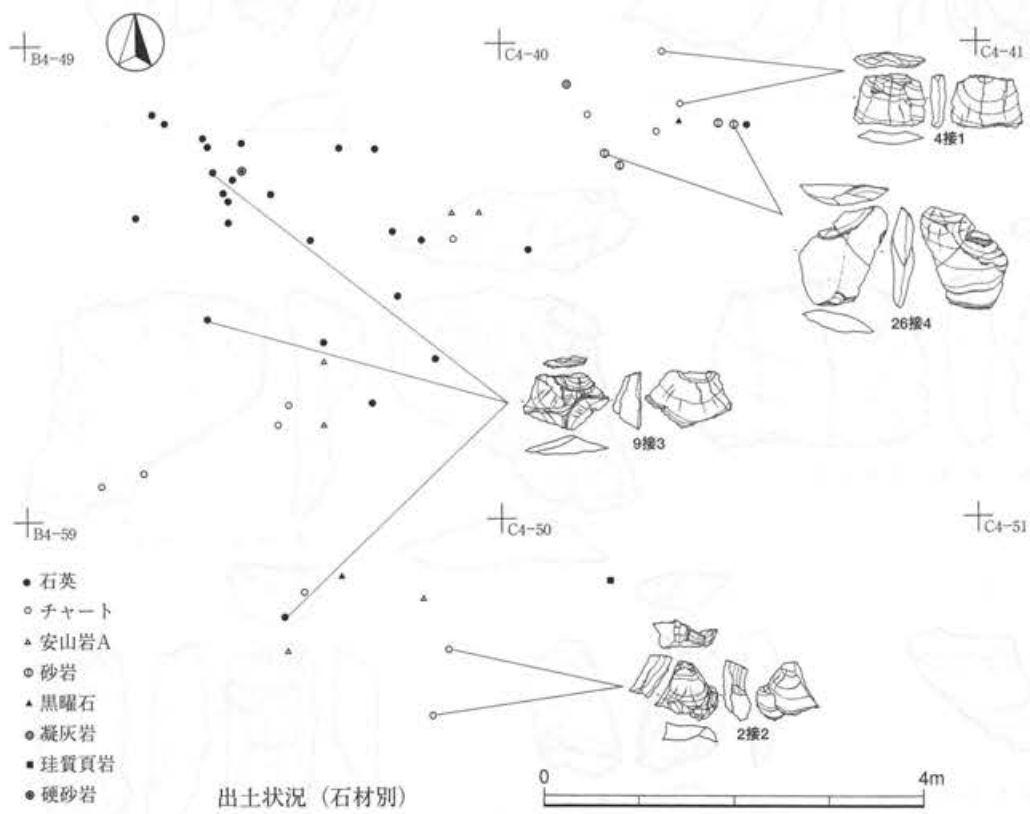
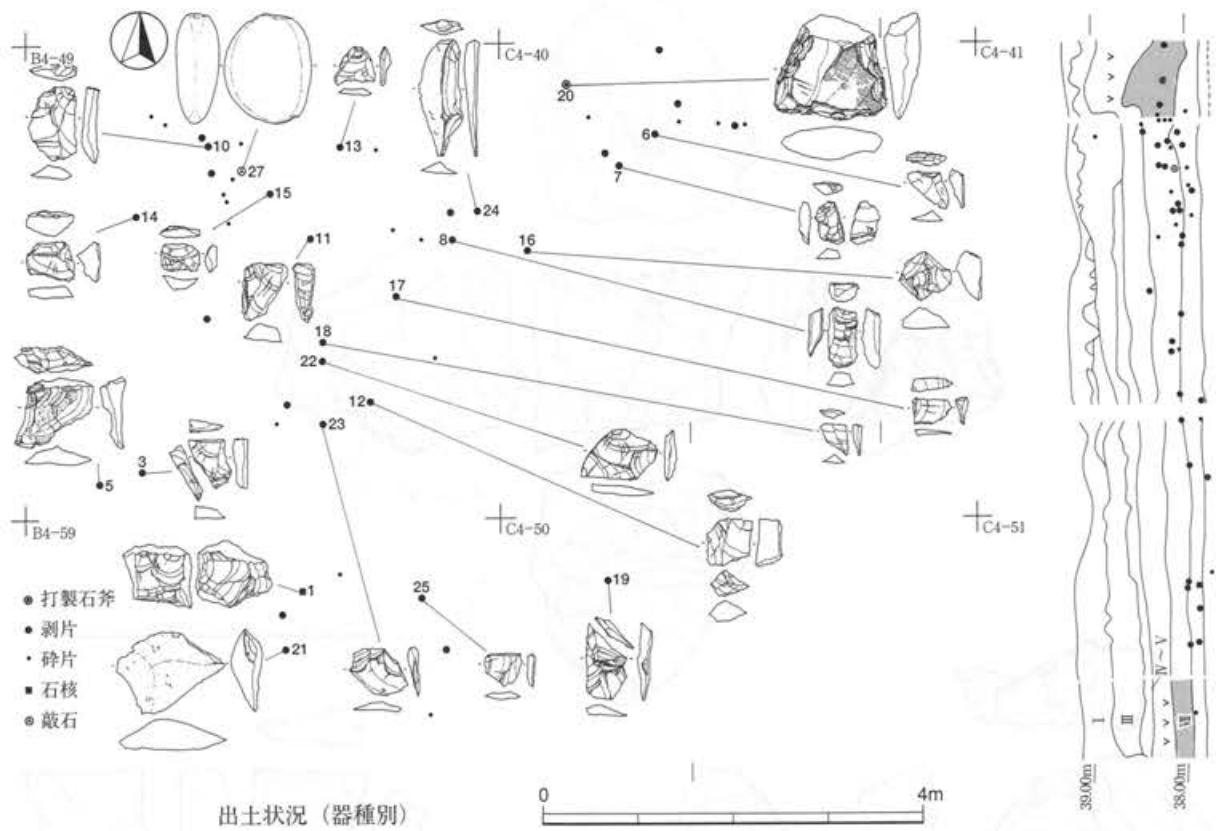
出土状況 調査区の南西側で斜面部にかかるB4-49・59, C4-40・50グリッドを中心にして径6mの範囲に比較的まとまりながら52点出土している(第20図)。

器種構成 打製(局部磨製?)石斧1点, 敲石1点, 石核1点, 剥片31点, 碎片18点である。

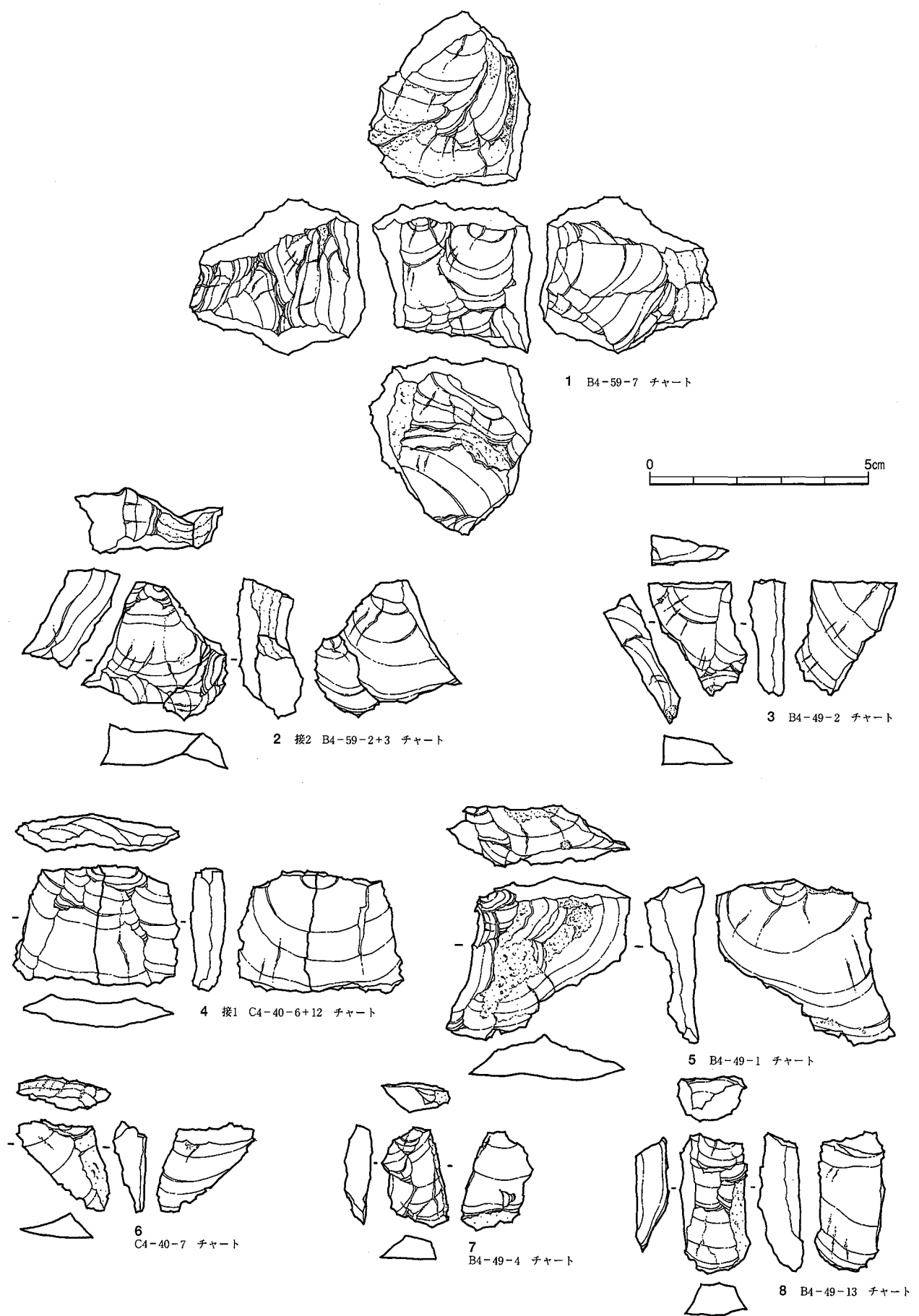
石材構成 石英⑦25点, チャート⑦12点, 安山岩A⑦6点, 砂岩⑦4点, 黒曜石⑦2点, 硬砂岩⑦1点, 凝灰岩⑦1点, 珪質頁岩⑦1点である。

出土層位 VII層に主体があると考えられるが, 遺物はVI~IX層から検出されている。

遺物 1はチャート⑦製の石核である。石材は濃淡灰色がかった色で全体に網目の入ったような模様が特徴的なものである。残核とも言うべき資料で, 残った剥離面はいろいろな方向からそれ程大きくない横広の剥片を剥ぎ取っている様子がうかがわれる。全長3.60cm, 幅3.70cm, 厚み4.05cm, 重量56.84gである。2はチャート⑦製の(接合資料2)剥片が2枚接合したものである。石材は直接接合関係は成立しないが, 1の石核と全く同じものと思われる。2枚の剥片は殆ど連続的に同じ方向から剥離されている。背面側には同様に上方向からの剥離面が残されている。全長3.20cm, 幅3.30cm, 厚み0.95cm, 重量10.17gである。3はチャート⑦製の剥片である。やや不整の縦長の剥片である。先端部の小剥離痕は剥離時のものと思われる。背面は上方向からの剥離面2面で構成されている。全長2.68cm, 幅1.95cm, 厚み0.68cm, 重量4.10gである。4はチャート⑦製の(接合資料1)剥片である。もともと1枚の剥片で検出された時点で2個体に分かれていた。刃器状の剥片であるが, 石材がやや粗いため微細な使用痕等は観察不能である。背面は

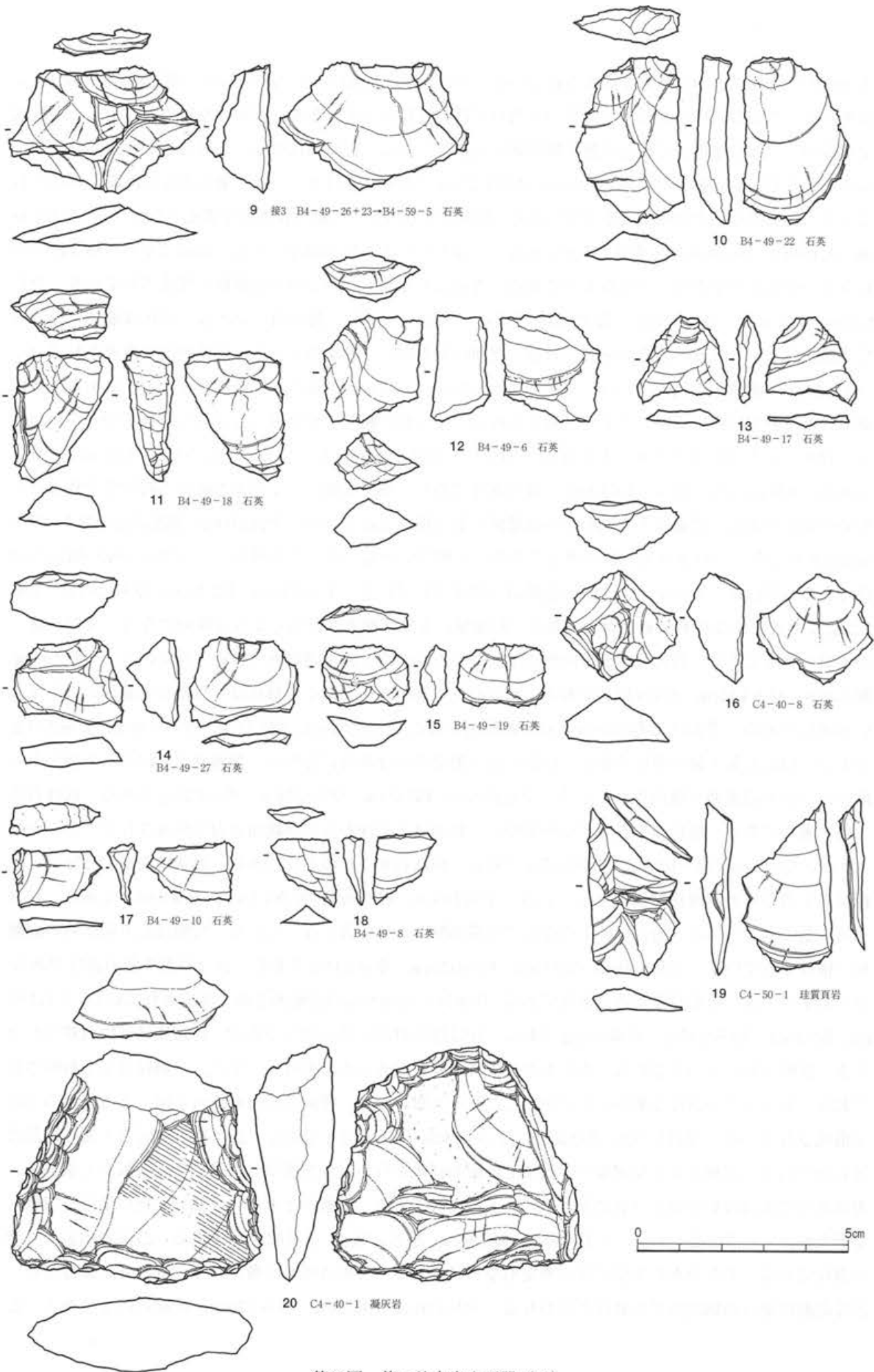


第20図 第7地点出土状況

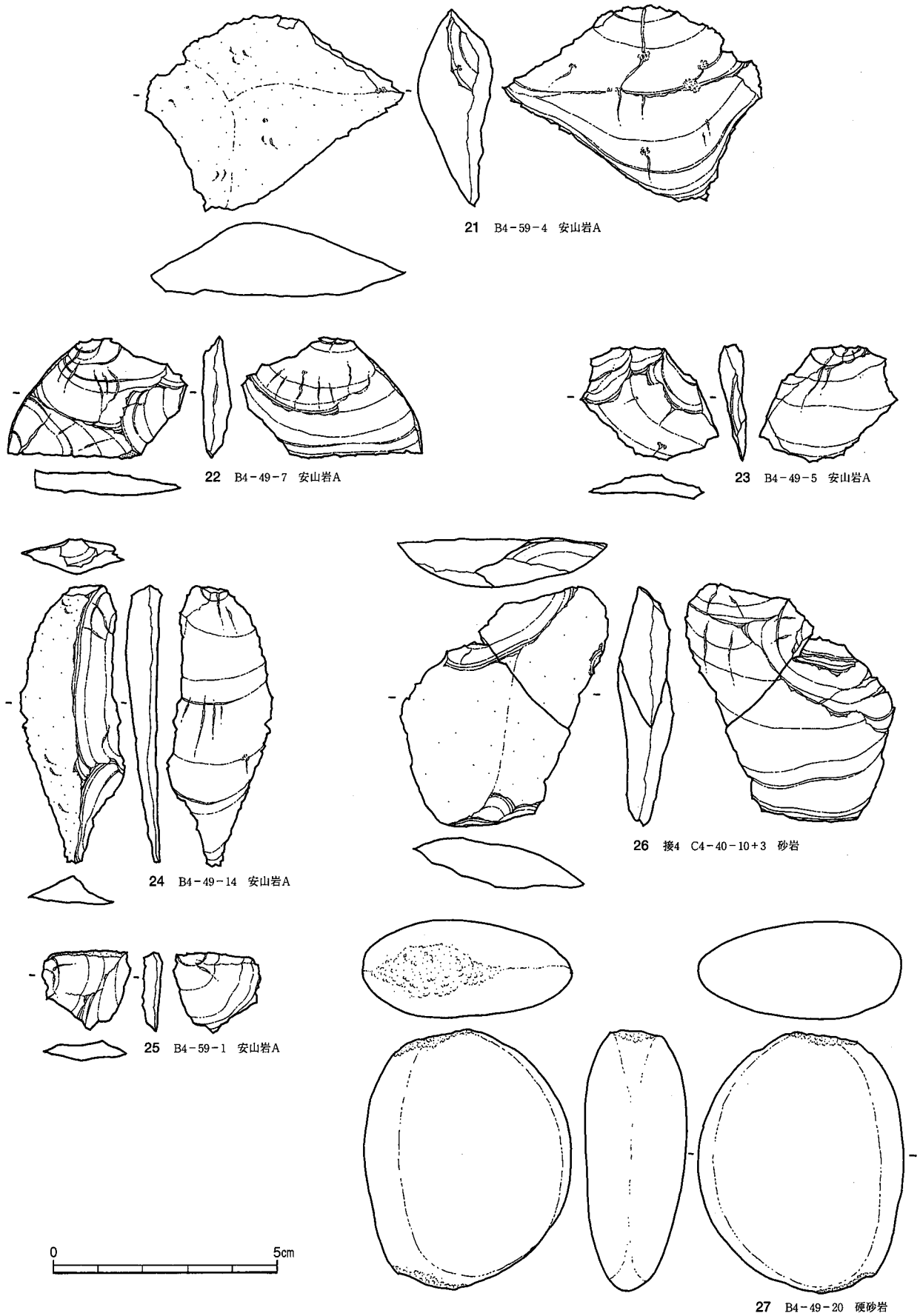


第21図 第7地点出土石器(1)

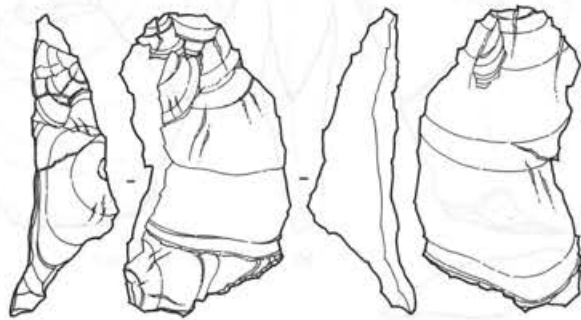
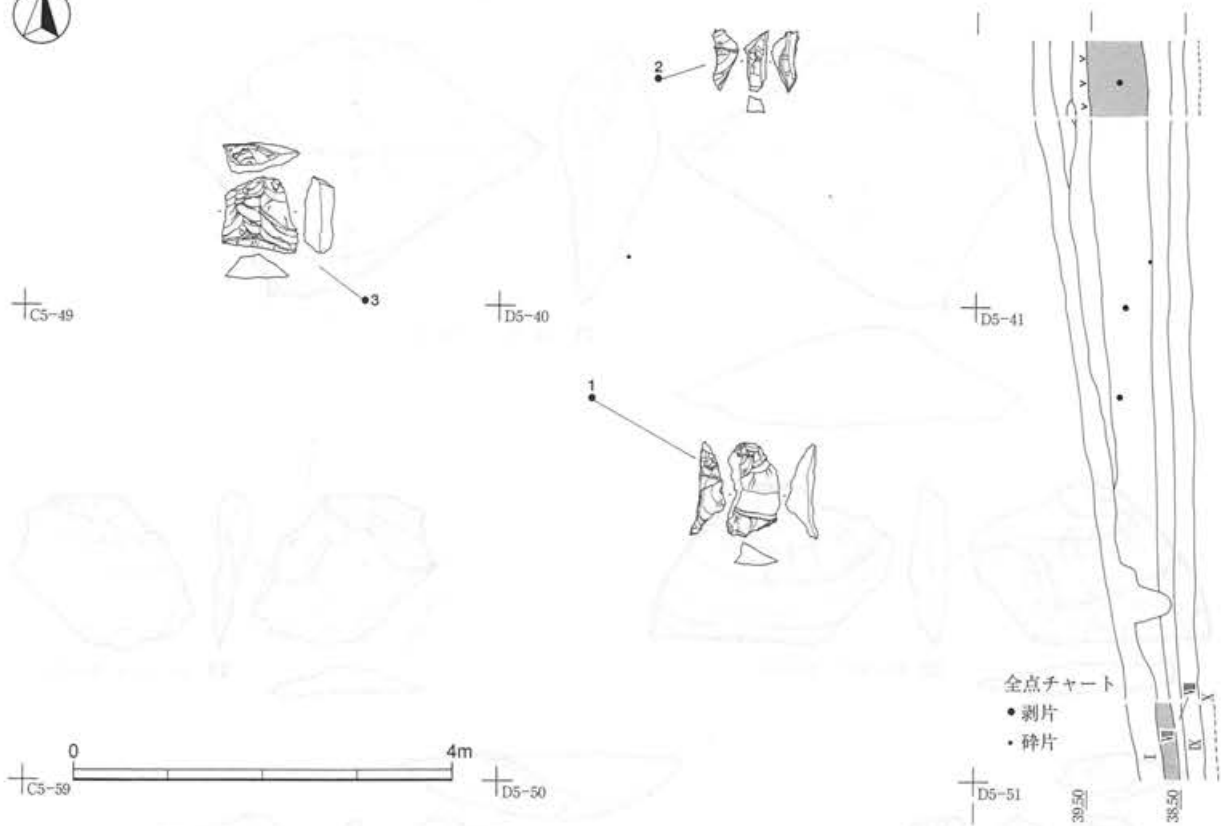
上方向から3面以上の剥離面で構成されている。全長2.80cm, 幅3.80cm, 厚み0.60cm, 重量8.96gである。5はチャート⑦製の剥片である。左よりの三角形に近い縦長の剥片である。背面は左斜め方向からの剥離面であるが、全体に節理面で状況が悪く階段状に剥離している。打面部は厚く、先端部分と縁辺部分は薄くなる。全長3.75cm, 幅3.60cm, 厚み1.00cm, 重量12.51gである。6はチャート⑦製の剥片である。形状は右よりの三角形に近いやや縦長の小剥片である。背面は上方向から2面の剥離面で構成されている。全長2.18cm, 幅1.80cm, 厚み0.60cm, 重量2.17gである。7はチャート⑦製の剥片である。形状はやや不整な縦長の長方形の小剥片でやや厚みのあるものである。背面は上方向からの2面の剥離面で構成されている。全長2.30cm, 幅1.40cm, 厚み0.55cm, 重量2.48gである。8はチャート⑦製の剥片である。形状は縦長の長方形で先端部分がやや丸みのある形をしている。背面は上方向から剥離面1面と一部節理面で構成されている。全長3.20cm, 幅1.50cm, 厚み0.75cm, 重量5.64gである。9は石英⑦製の(接合資料3)剥片である。剥片剥離作業段階で同時に剥離したものと考えられる。4m程の範囲に飛び散って分布した様子がある。背面には上方向から1面, 左右から1面ずつの剥離面が残されている。全長3.05cm, 幅4.50cm, 厚み1.00cm, 重量15.34gである。10は石英⑦製の剥片である。やや左側のふくらんだ縦長の剥片で全体にやや厚めの剥片である。背面は上方向からの剥離面2面で構成されている。全長4.00cm, 幅2.50cm, 厚み0.70cm, 重量9.46gである。11は石英⑦製の剥片である。左側にやや偏ったくさび形をして全体の分厚い縦長の剥片である。背面は上方向からの2面の剥離面で構成されている。全長3.10cm, 幅2.30cm, 厚み0.90cm, 重量9.23gである。12は石英⑦製の剥片である。打面側, 先端部側とも割れたような断面になる。分厚い感じの方形の剥片である。背面は左横方向から1面, 上方向から1面の剥離面で構成されている。全長2.60cm, 幅2.30cm, 厚み1.15cm, 重量9.12gである。13は石英⑦製の剥片である。形状は三角形で先端部のほうは薄い小剥片である。背面は上方向から1面の剥離面である。全長2.10cm, 幅2.17cm, 厚み0.40cm, 重量2.01gである。14は石英⑦製の剥片である。台形に近い形で中程は非常に分厚い。背面は右方向から1面と上方向から2面の剥離面で構成されている。全長2.18cm, 幅2.60cm, 厚み0.60cm, 重量6.23gである。15は石英⑦製の剥片である。横長の小剥片でやや分厚い。背面は上方向からの剥離面3面で構成されている。全長1.50cm, 幅2.10cm, 厚み0.65cm, 重量2.37gである。16は石英⑦製の剥片である。形状は菱形で分厚い。背面は右上方からの剥離面で構成されている。全長2.65cm, 幅2.80cm, 厚み1.18cm, 重量8.68gである。17は石英⑦製の剥片である。逆台形のような形で先端部側にかけて薄くなっている。背面は左方向からの剥離面で構成されている。全長1.50cm, 幅2.13cm, 厚み0.30cm, 重量1.44gである。18は石英⑦製の剥片である。やや右よりの逆三角形で縦長の小剥片である。背面は上方向からの剥離面2面で構成されている。全長1.65cm, 幅1.45cm, 厚み0.47cm, 重量0.99gである。19は珪質頁岩⑦製の剥片である。打面側は剥片剥離されたときに折断されたものと思われ, もともとは縦長の剥片であったであろう。また, 左側縁部分も折断されており, もともとの剥片を細かくして使用したものと思われる。背面は左方向から1面, 上方向から2面で構成されている。全長4.10cm, 幅2.20cm, 厚み0.50cm, 重量5.02gである。20は緑色凝灰岩⑦製の局部磨製石斧である。調整は大きな剥離で中程までの面的剥離を行い厚みを調整した後に周辺を細かく調整し, 刃部並びに周辺の形を整え台形に近い形に仕上げられている。表裏面ともに中央部分に近い部分を研磨して形を整えていると思われる。全長5.60cm, 幅5.90cm, 厚み1.78cm, 重量62.96gである。21は安山岩A⑦製の剥片である。丸みのある菱形に近い不定形な形状である。背面は礫面で覆われており, 非常に分厚い。剥片剥離作業の初期段階での剥片と思われる。全長4.40cm, 幅5.75cm, 厚み1.70cm, 重量31.62gである。22



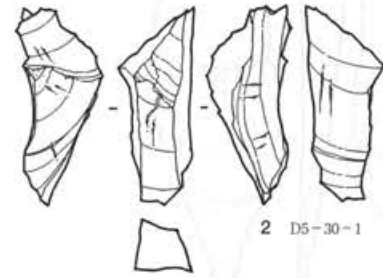
第22图 第7地点出土石器(2)



第23图 第7地点出土石器(3)



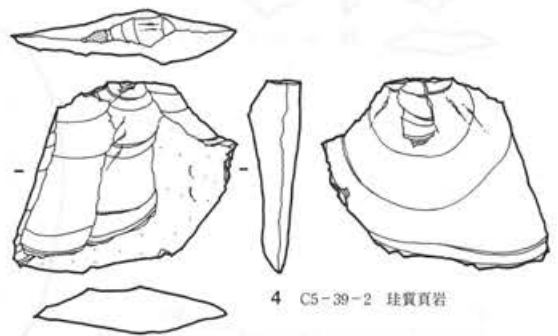
1 D5-40-1 チャート



2 D5-30-1



3 C5-39-1 チャート



4 C5-39-2 珪質頁岩

第24図 第8地点出土状況・出土石器

は安山岩A⑦製の剥片である。横広のやや平行四辺形気味の剥片である。背面は上方向から1面、右方向から1面、左方向から1面で構成されている。左縁辺部分は礫面が残されている。全長2.70cm、幅3.50cm、厚み0.50cm、重量7.27gである。23は安山岩A⑦製の剥片である。六角形に近いやや不整な形状の剥片である。背面は上方向から2面、右方向から2面で構成されている。全長2.57cm、幅2.80cm、厚み0.45cm、重量3.63gである。24は安山岩A⑦製の剥片である。縦長の剥片で先端部分が細長くなる。背面は右側からの剥離面2面と礫面とで構成されている。全長6.23cm、幅2.20cm、厚み0.90cm、重量9.00gである。25は安山岩A⑦製の剥片である。逆台形に近い形の剥片で薄い。背面は左方向から1面と右方向から1面で構成されている。全長1.75cm、幅2.00cm、厚み0.40cm、重量1.50gである。26は砂岩⑦製の（接合資料4）剥片である。もともと背面は礫面に覆われている大形剥片を再利用してより小さな剥片を剥がしたものと思われる。分割された両方の剥片とも縁辺部に微細な剥離痕が残されている。27は硬砂岩⑦製の敲石である。扁平な楕円礫の縁辺上下部分に顕著な打撃痕が認められる。遺物集中地点の北より中程に位置する。全長5.80cm、幅4.70cm、厚み2.20cm、重量87.79gである。

8 第8地点（第24図1～4，図版15，第9表）

出土状況 調査区の南側のD5-40グリッドを中心にして径3mの範囲に散漫に5点出土している。東側10m程に隣接して第9地点がほぼ同層位で検出されている（第24図）。この地点の遺物と思われる剥片で一括遺物扱いのものが他に1点ある。

器種構成 剥片4点，碎片1点である。

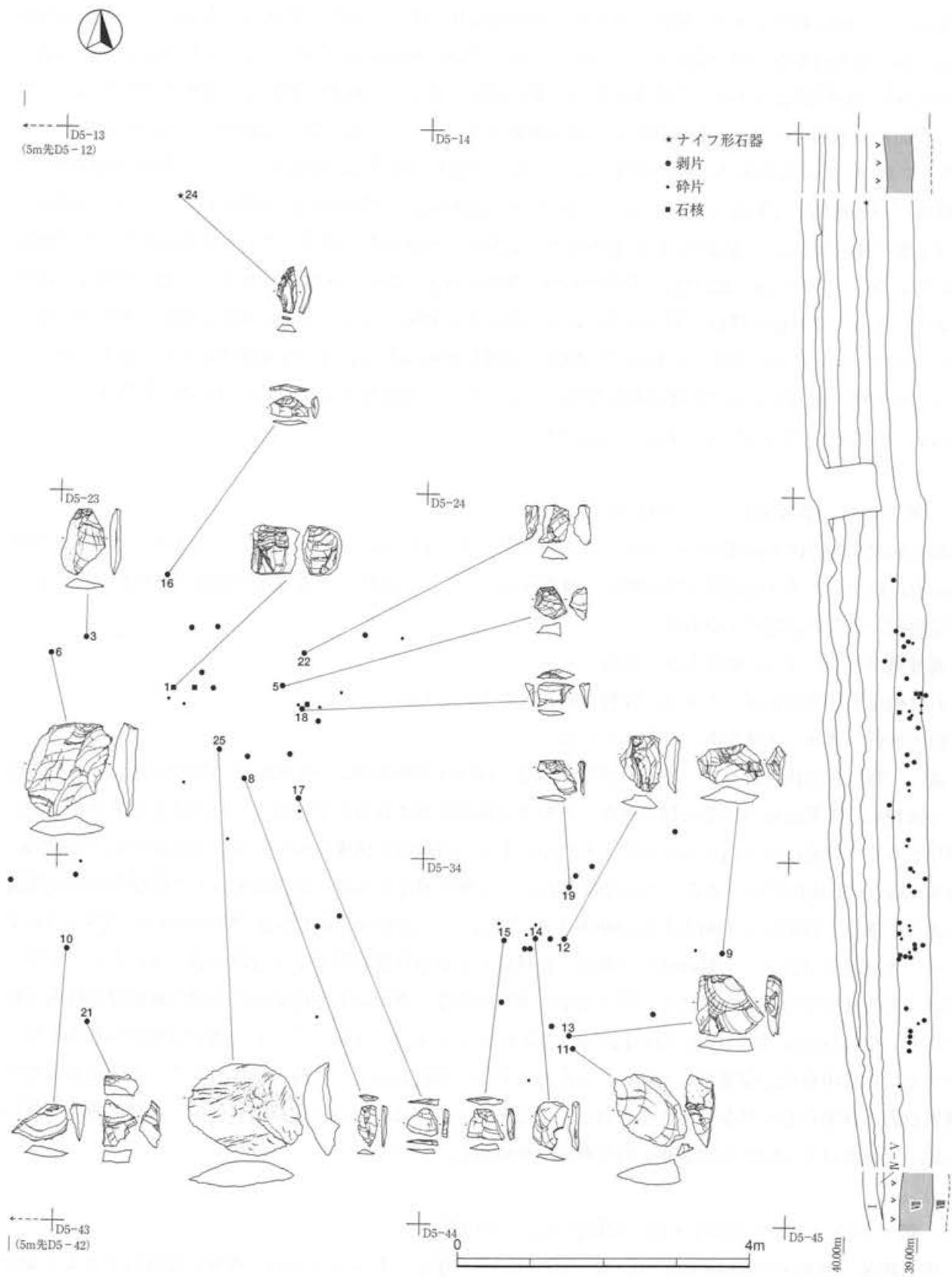
石材構成 珪質頁岩⑧-①4点，珪質頁岩⑧-②1点である。

出土層位 VII層に主体があると考えられる。

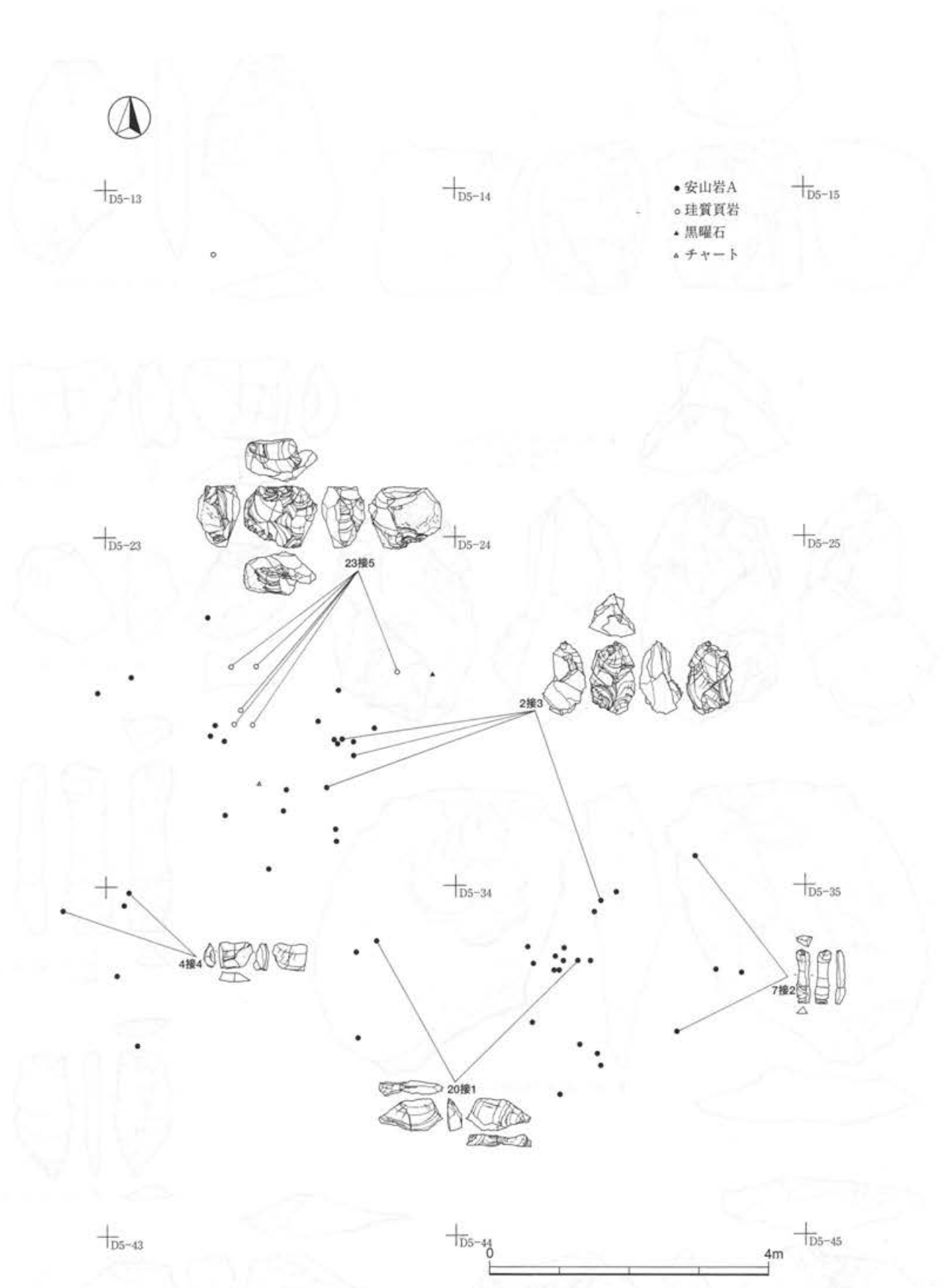
遺物 1は珪質頁岩⑧-①製の剥片である。石材は黄色味がかかった灰色で一部は灰色でチャート化して節理面が顕著に見られる石材である。いわゆる嶺岡産の珪質頁岩であろう。形状はやや不整な縦長の剥片である。背面は左方向から1面と上方向から1面の剥離面で構成されている。全長5.00cm、幅2.80cm、厚み1.20cm、重量13.47gである。2は珪質頁岩⑧-①製の剥片である。形状はやや不整な厚みのある縦長の剥片である。背面は上方向からの剥離面1面である。全長3.25cm、幅1.25cm、厚み0.90cm、重量4.72gである。3は珪質頁岩⑧-①製の剥片である。石材は上半分は珪質頁岩で下半分は灰色の強いチャート質である。形状はやや不整な台形に近い形で分厚い剥片である。背面は上方向からの3面の剥離面で構成されている。全長4.60cm、幅4.10cm、厚み1.26cm、重量25.62gである。4はグリッド一括の資料から抽出された資料でこの集中地点に帰属すると思われるものである。珪質頁岩⑧-②製の剥片である。この石材は他の珪質頁岩とは明らかに異なり茶色味の強いものである。形状は台形に近い横広の剥片で比較的薄く縁辺部は鋭い。背面は上方向から剥離面3面と礫面で構成されている。

9 第9地点（第25～27図1～25，図版16・17，第10表）

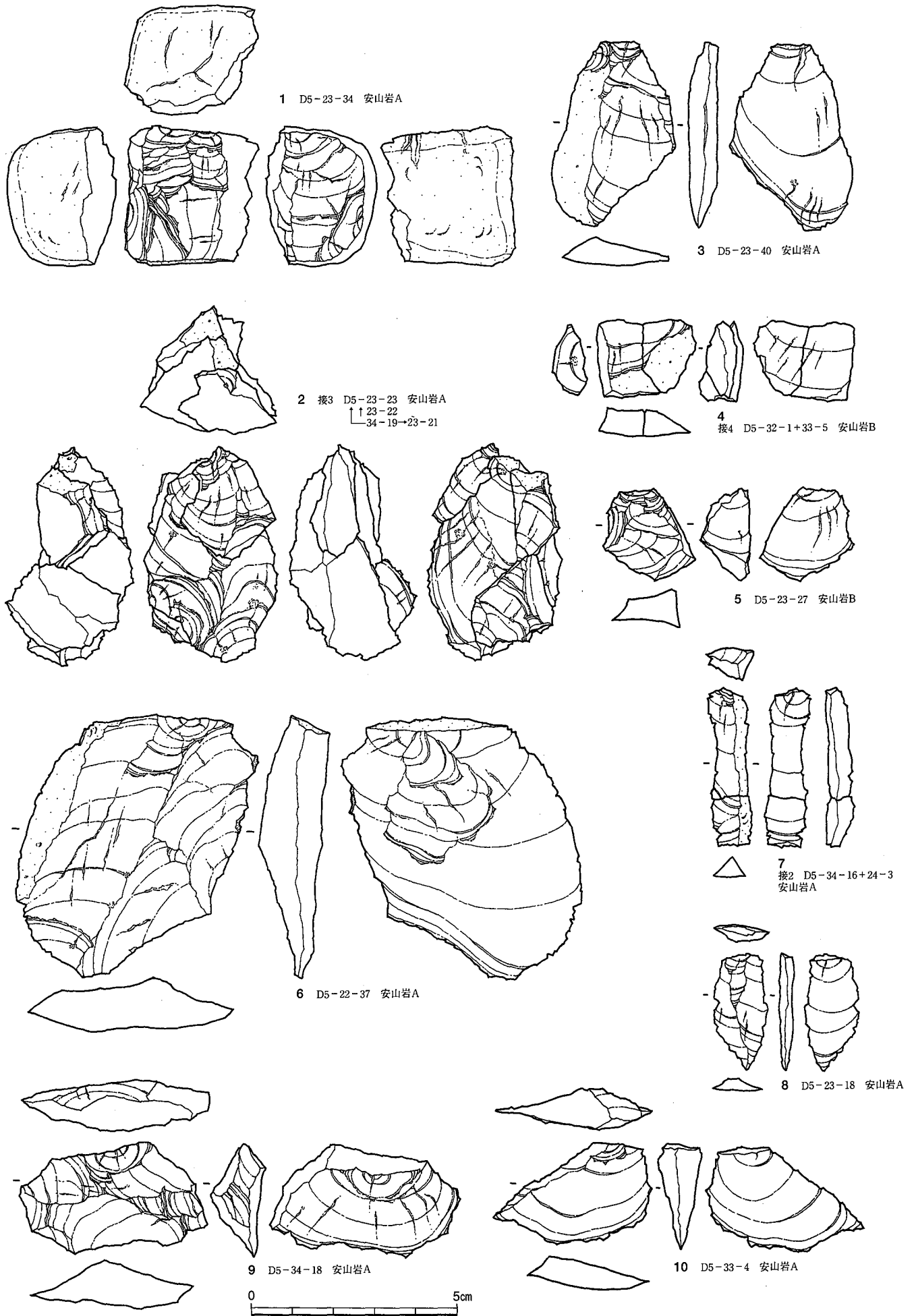
出土状況 調査区の南側のD5-23・33・34グリッドを中心にして6～8mの範囲に比較的まとまりながら60点出土している。特にD5-23の中程，D5-34の北側にやや密に分布する場所が認められる（第25・26図）。石材で見ると安山岩A⑨はどちらの場所にも分布して，なおかつ接合関係も認められる。珪質頁岩⑨は北側のほうに偏って分布している（第26図）。



第25図 第9地点出土状況(器種別)



第26図 第9地点出土状況（石材別）



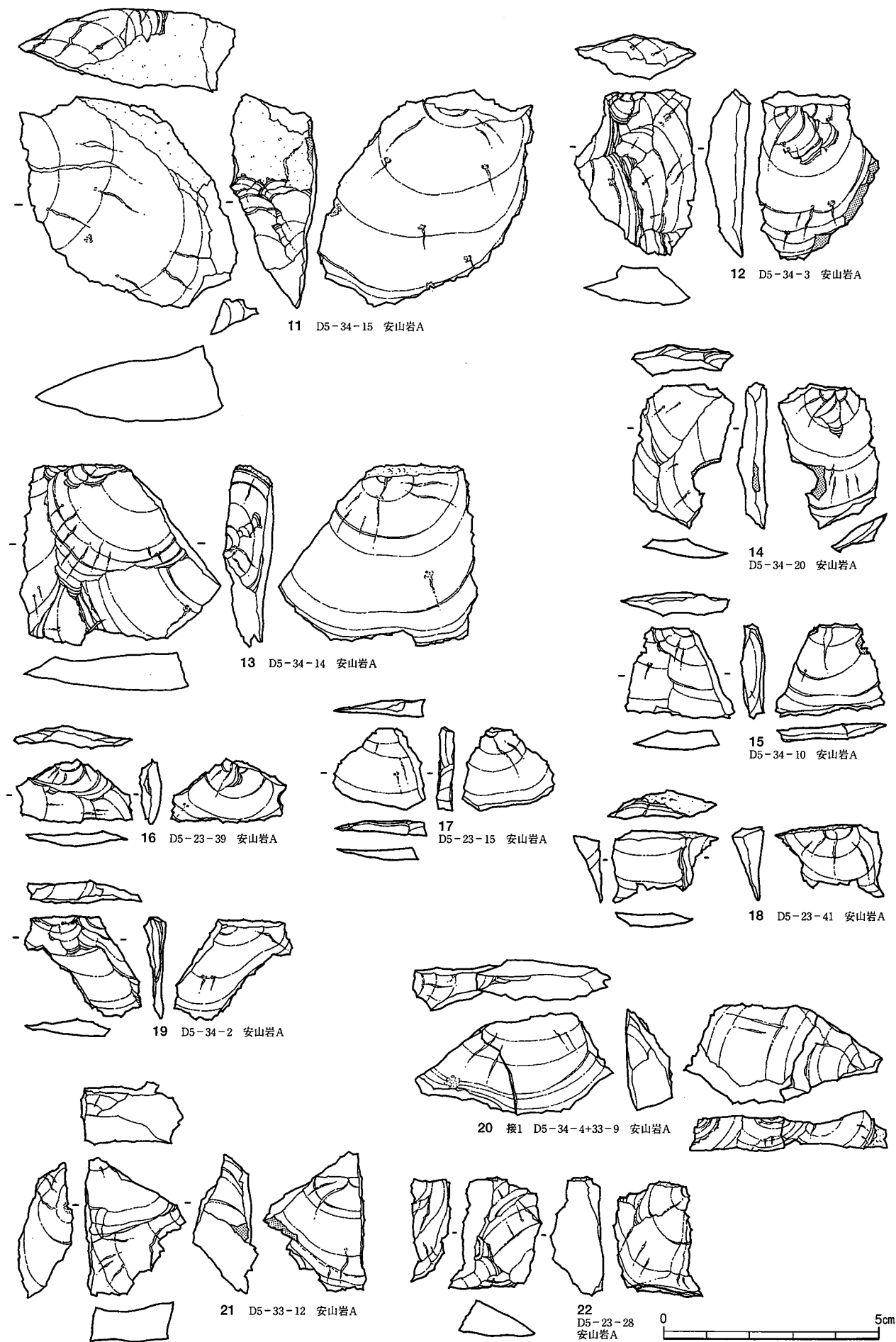
第27图 第9地点出土石器(1)

器種構成 ナイフ形石器 1点, 石核 3点, 剥片 39点, 碎片 17点である。

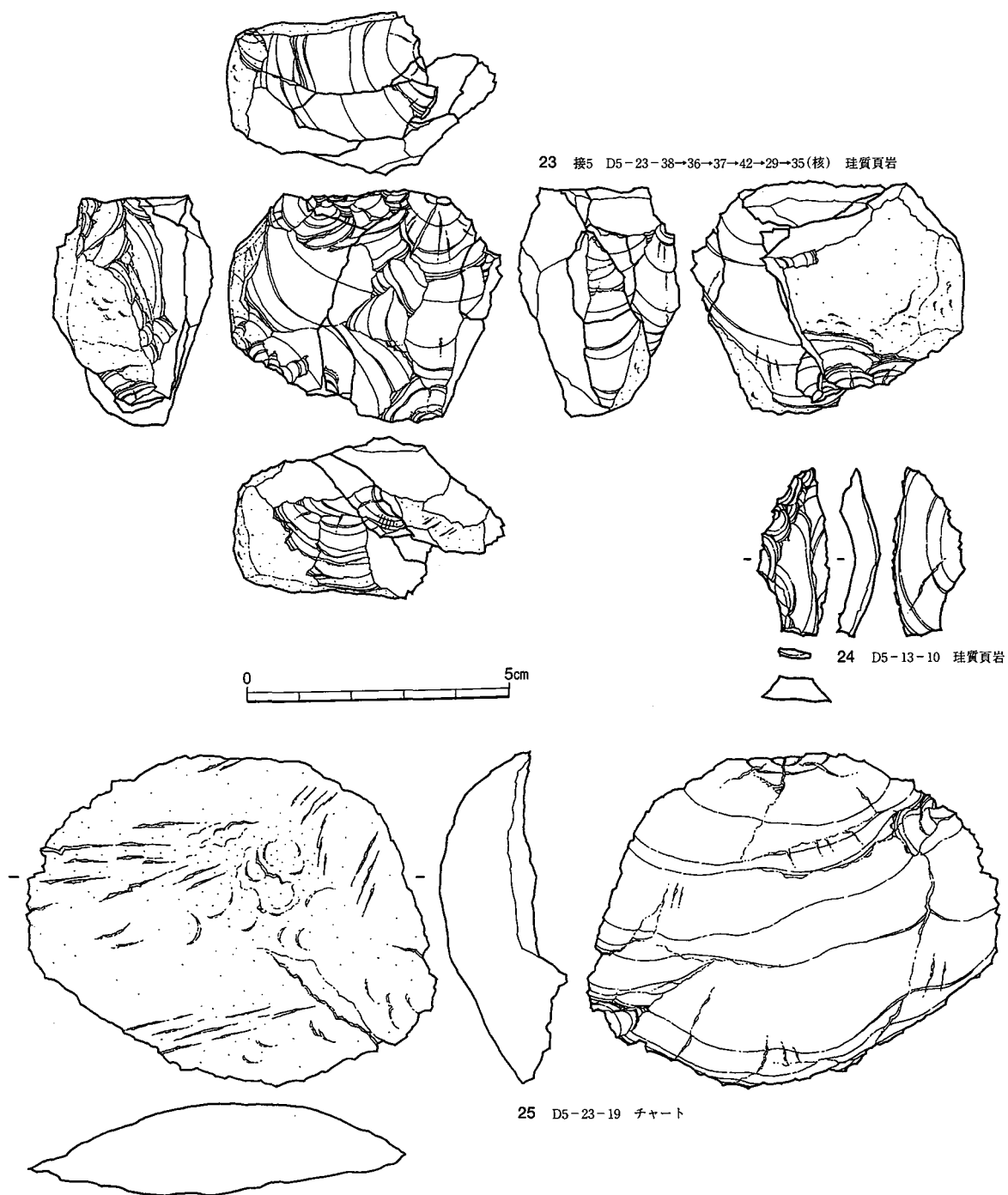
石材構成 安山岩 A ⑨ 46点, 安山岩 B ⑨ 3点, 珪質頁岩 ⑨ 7点, 黒曜石 ⑨ 2点, チャート ⑨ 1点である。

出土層位 VII層下部に主体があると考えられる。

遺物 1は安山岩 A ⑨製の石核である。楕円小礫を使用して比較的小さな剥片を剥ぎ取っていた様子が見られる資料である。同じ安山岩 A ⑨製の資料でもこの石核より大きいものは別の母岩で剥ぎ取られたと考えられる。全長 3.40cm, 幅 3.30cm, 厚み 2.75cm, 重量 45.93g である。2は安山岩 A ⑨製(接合資料 3)の 4枚の剥片が接合したものである。1の石材と比べると細かな白色粒子が混ざり込んでいる。剥片が接合した状態から打面転移を繰り返しながら小剥片を剥ぎ取っていた様子が見られる。中央部分の大きな剥片は右側の小剥片を剥ぎ取った際に一緒に剥がれた可能性が高い。全長 5.30cm, 幅 3.30cm, 厚み 3.20cm, 重量 33.12g である。3は安山岩 A ⑨製の剥片である。石材は白色粒子をやや含むものの全体にあまり目立たないものである。形状はやや中程がふくらむ縦長の剥片である。背面は上方向からの剥離面 2面と礫面で構成される。全長 4.58cm, 幅 2.90cm, 厚み 0.70cm, 重量 9.35g である。4は安山岩 B ⑨製(接合資料 4)の 2枚の剥片が接合したものである。所謂トロトロ石と呼ばれる石材であるがあまり風化が著しくない。剥片の状況から判断するとともに 1枚の剥片であったと思われる。剥離されたときに割れた可能性が高い。全長 1.95cm, 幅 2.50cm, 厚み 0.60cm, 重量 4.81g である。5は安山岩 B ⑨製の剥片である。4と同様にあまり風化が著しい感じではない。やや不整な五角形で厚みのある剥片である。背面は上方向からの剥離面 3面, 左方向からの剥離面 1面と礫面とで構成されている。全長 2.27cm, 幅 2.20cm, 厚み 0.90cm, 重量 4.85g である。6は安山岩 A ⑨製の剥片である。大形のやや幅がある縦長の剥片である。厚みは比較的小さいものの縁辺部分は非常に薄く鋭い。打面は礫面を使用している。縁辺部の状況から判断すると刃器として使用することは可能である。背面は上方向からの剥離面 1面, 下方向からの剥離面 2面, 右方向からの剥離面 2面と礫面とで構成されている。全長 6.45cm, 幅 5.20cm, 厚み 1.25cm, 重量 49.92g である。7は安山岩 A ⑨製(接合資料 2)の剥片である。もともと 1個の縦長の剥片が先端部から 4/5程のところから折断したものである。形状は細長い長方形の剥片である。背面は上方向の剥離面 1面と礫面とで構成されている。全長 3.90cm, 幅 1.00cm, 厚み 0.55cm, 重量 2.74g である。8は安山岩 A ⑨製の剥片である。縦長の小剥片で先端部が尖る。背面は上方向の剥離面 3面で構成されている。全長 2.85cm, 幅 1.40cm, 厚み 0.30cm, 重量 1.42g である。9は安山岩 A ⑨製の剥片である。横長の不整形な比較的分厚い剥片である。背面は上方向の剥離面 2面, 下方向からの剥離面 1面, 右方向からの剥離面 3面, 左方向からの剥離面 3面で構成されている。全長 2.75cm, 幅 4.40cm, 厚み 1.10cm, 重量 12.66g である。10は安山岩 A ⑨製の剥片である。やや不整な横長の剥片である。背面は主剥離面と同じ上方向からの剥離面である。全長 2.55cm, 幅 3.60cm, 厚み 0.70cm, 重量 6.49g である。11は安山岩 A ⑨製の剥片である。大形の剥片で楕円形に近い不整形で片側縁辺部分が厚く礫面を多く残している。背面は左方向から大きい剥離が見られる。先端部は剥片剥離時に折れたものと思われる。全長 5.00cm, 幅 4.50cm, 厚み 1.65cm, 重量 45.43g である。12は安山岩 A ⑨製の剥片である。先端部がやや細くなる不整な四辺形で比較的小さい剥片である。背面は左方向からの剥離面 3面で構成されている。全長 3.90cm, 幅 2.80cm, 厚み 0.90cm, 重量 9.38g である。13は安山岩 A ⑨製の剥片である。やや不整な台形状の形状をしている。打面は礫面を使用している。背面は上方向からの剥離面 2面と右方向からの剥離面 1面とで構成されている。全長 4.20cm, 幅 4.60cm, 厚み 0.90cm, 重量 19.95g である。14は安山岩 A ⑨製の剥片である。縦長のやや不整な長方形に近い剥片である。背面はやや右方向からの剥離



第28图 第9地点出土石器(2)



第29図 第9地点出土石器(3)

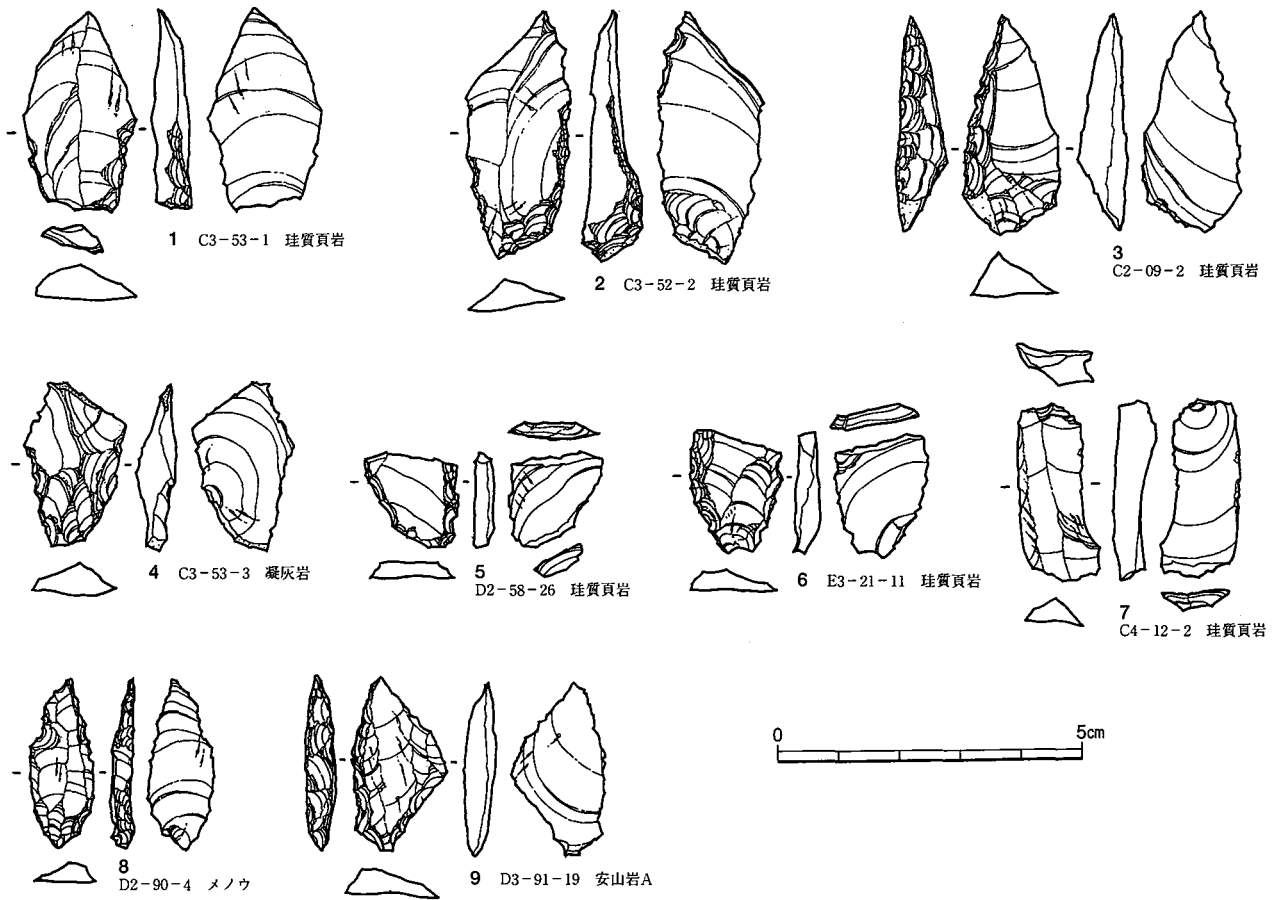
面1面と上方向からの剥離面2面で構成されている。先端部分は剥離時に折断したものであると思われる。全長3.40cm, 幅2.10cm, 厚み0.45cm, 重量3.47gである。15は安山岩A⑨製の剥片である。台形状の小剥片である。背面は上方向からの剥離面2面で構成されている。全長2.20cm, 幅2.60cm, 厚み0.48cm, 重量2.96gである。16は安山岩A⑨製の剥片である。横長の小形の剥片である。背面は上方向からの剥離面1面と左方向からの剥離面1面とで構成されている。全長1.50cm, 幅2.65cm, 厚み0.37cm, 重量1.60gである。17は安山岩A⑨製の碎片である。やや丸みのある三角形の剥片である。背面は上方向からの剥離面がある。全長

1.95cm, 幅2.10cm, 厚み0.30cm, 重量1.51gである。18は安山岩A⑨製の剥片である。やや不整な横長の方形の剥片である。縁辺部全体は非常に薄い。背面は上方向からの剥離面がある。全長1.70cm, 幅2.50cm, 厚み0.43cm, 重量1.97gである。19は安山岩A⑨製の剥片である。やや右寄りの縦長の剥片で全体に薄い。背面は上方向からの剥離面1面と調整のための剥離面とで構成されている。全長2.36cm, 幅2.00cm, 厚み0.40cm, 重量1.78gである。20は安山岩A⑨製の(接合資料1)剥片である。接合した2枚の剥片はもともと1枚の剥片で剥離した時に割れた可能性が高い。この横長の剥片は先端部の縁辺はやや薄い他は厚みがある。全長2.38cm, 幅4.60cm, 厚み0.75cm, 重量9.59gである。21は安山岩A⑨製の剥片である。右向きの三角形に近い形状である。背面は上方向からの剥離面1面と右方向からの剥離面1面で構成されている。厚みがあり, 石核を調整して剥がされたものと思われる。全長3.20cm, 幅2.35cm, 厚み0.85cm, 重量7.63gである。22は安山岩A⑨製の剥片である。おそらく方形の剥片が半割した状態で検出されたものと思われる。全長2.65cm, 幅1.60cm, 厚み0.80cm, 重量4.96gである。23は珪質頁岩⑨製の接合資料5である。石核と5枚の剥片が接合したものである。比較的小円礫を使用して剥がされていく終了間際の工程がある程度理解できるものである。打面はあらかじめ用意された剥離面を使用して行われていたと思われる。全長4.50cm, 幅5.30cm, 厚み3.15cm, 重量63.22gである。24は珪質頁岩⑨製のナイフ形石器である。横長の剥片の打撃面側の縁辺部に刃潰しの調整を施し, 柳葉形に仕上げられている。刃部側は基部調整も行われていない。基部は折れているが意図的かどうかは不明である。全長3.25cm, 幅1.40cm, 厚み0.50cm, 重量2.70gである。25はチャート⑨製の剥片である。背面は礫面に覆われている。円礫の一部を剥がしたものと思われる。他に同質の石材は見あたらない。全長6.38cm, 幅7.63cm, 厚み1.85cm, 重量87.22gである。

10 調査区外出土の旧石器(第30図1~9, 図版18, 第11表)

出土状況 旧石器時代の遺物の本調査を行った区域以外で検出された旧石器時代の石器が9点見つかったので単独出土の遺物として以下個別に説明を行う。

遺物 1は珪質頁岩製(風化面が黄色味が強い灰色でガラス質のもの)のナイフ形石器である。縦長剥片を逆位に用いて素材として両側縁部の基部側に細かな調整を行っている。先端部は殆ど素材の形を生かしている。打面側は折断されているものと思われる。全長3.30cm, 幅1.90cm, 厚み0.60cm, 重量3.51gである。2は珪質頁岩製(1とほぼ同質のもの)のナイフ形石器である。1と同様に縦長剥片を逆位に用いて素材として両側縁部の基部側及び基部に丁寧な調整を施し形状を整えている。先端部側は1と同様に素材の形をそのまま利用している。全長4.10cm, 幅1.25cm, 厚み0.58cm, 重量4.31gである。3は珪質頁岩製(1, 2より若干ガラス化が乏しい)のナイフ形石器である。縦長剥片を素材として左側縁部を折断してその部分に主剥離面側から背部側に向かって集中的に調整を施してナイフ形石器の先端部を尖らすように仕上げている。背面側の基部にも調整を入れている。全長3.60cm, 幅1.60cm, 厚み0.80cm, 重量3.18gである。4は白色凝灰岩製(メノウの石材の一部かもしれない)のナイフ形石器である。横長の小剥片を素材として横位に用いている。両側縁部の基部調整を丁寧に行っている。先端部は薄いため折れていると思われる。また熱を受けてやや変色している部分が見られる。全長2.78cm, 幅1.65cm, 厚み0.60cm, 重量2.50gである。5は珪質頁岩製(淡茶色であまりガラス質でないもの)のナイフ形石器の基部部分である。もともと小剥片を素材にして横位に用いて作られた小さなナイフ形石器である可能性が高い。基部の調整は残存部の両側縁に細かな剥離で連続的に行われている。全長1.60cm, 幅1.55cm, 厚み0.30cm, 重量1.19gで



第30図 調査区外出土の旧石器

ある。6は珪質頁岩製（5とほぼ同質のもの）のナイフ形石器の基部部分である。5と同様に小剥片を素材にして横位に用いて作られたナイフ形石器である可能性が高い。基部の調整も同様に残存部の両側縁に細かな剥離で連続的に行われている。全長2.03cm，幅1.52cm，厚み0.35cm，重量1.41gである。5，6とも表から裏に向かっての方向に力がかかって折れたと思われる。7は珪質頁岩製（焦げ茶色でやや珪質化の進んだもの）の刃器状剥片である。先端部は折断している。背面は上方向の剥離面2面で構成されている。全長2.97cm，幅1.30cm，厚み0.40cm，重量2.14gである。8はメノウ製（やや薄オレンジ色で不透明でガラス質）のナイフ形石器である。縦長剥片を素材にして逆位に用いて，あまり素材の変形を行わないで先端部から左縁辺部の一部まで刃部として残りの縁辺部と基部に細かな調整を施して柳葉形のナイフ形石器に仕上げている。全長2.80cm，幅1.10cm，厚み0.33cm，重量1.07gである。9は安山岩A製のナイフ形石器である。剥片を折断して折面に調整を施すようにして切り出しナイフの様に作り出されている。基部と片側縁辺部には細かく丁寧な調整が施されている。全長2.90cm，幅1.65cm，厚み0.60cm，重量2.50gである。

第3章 縄文時代

第1節 遺構と遺物

縄文時代の遺構は陥穴13基，土坑1基を検出した。

1 陥穴

陥穴は総数13基が確認された。いずれも台地上の平坦面か緩斜面上に作られ，群集することはほとんどなく，比較的散漫に分布する。

001号跡（第31図，図版19）

C1-33・34グリッドで検出された。開口部は長軸2.50m×短軸1.35mの長楕円形である。坑底面は長軸2.65m×短軸0.90mの長楕円形である。長軸方位はN-43°-Wである。検出面からの深さは2.18mで床はほぼ平坦である。壁は長軸方向ではほぼ垂直であり床付近がわずかにオーバーハングしている。短軸方向ではV字状になる。覆土は上位は黒色土とソフトローム，中位から下位にかけてはロームブロックと黒色土の互層となる。遺物は覆土中より縄文土器片が4点出土した。1は早期Ⅰ類燃糸文系，2・3は早期Ⅱ類沈線文系，4は前期前半（黒浜期）土器片と思われる。

002号跡（第31図，図版19）

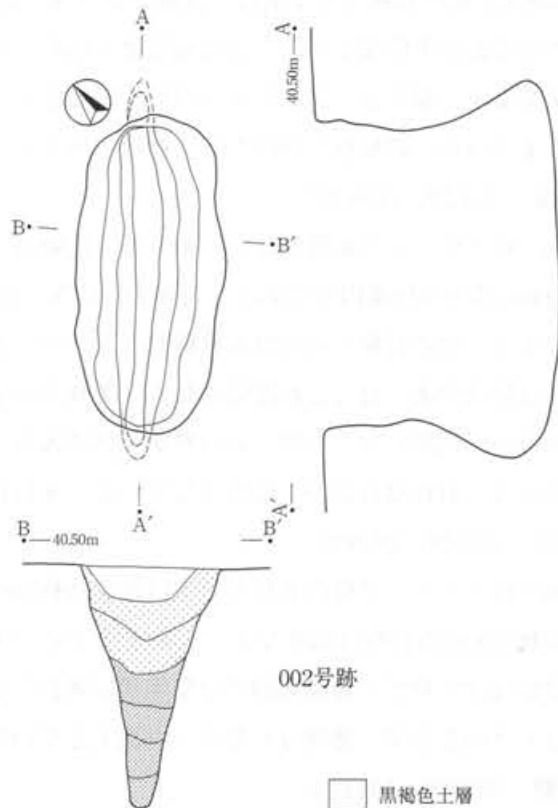
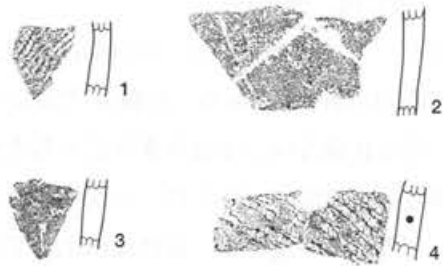
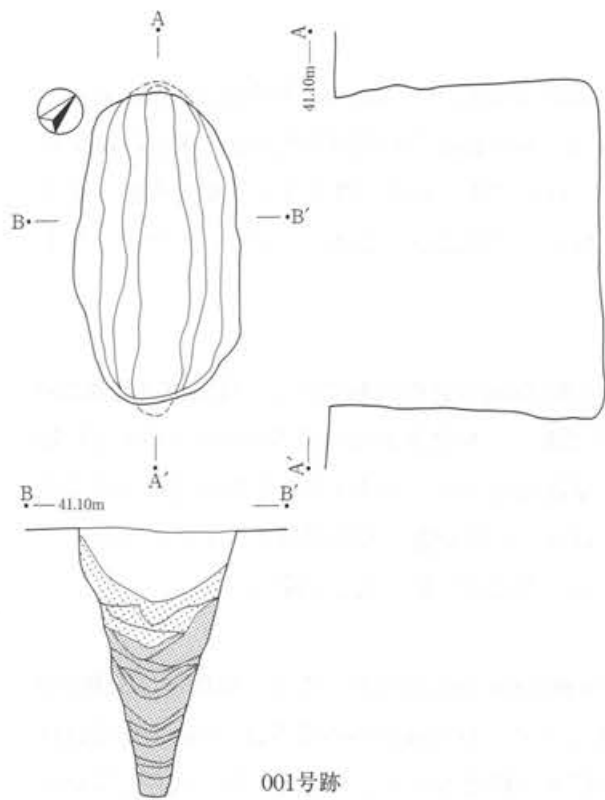
B3-45グリッドで検出された。開口部は長軸2.80m×短軸0.25mの長楕円形である。坑底面は長軸2.80m×短軸0.25mの長楕円形である。長軸方位はN-42°-Eである。検出面からの深さは1.90mで床はほぼ平坦である。壁は長軸方向では袋状であり短軸方向ではV字状である。覆土は上位は黒褐色土を主体に下方にかけて徐々にソフトロームの堆積が増える。中位から下位にかけてはハードロームブロック主体にしまりのない黒色土が混じる。遺物は出土していない。

003号跡（第31図，図版19）

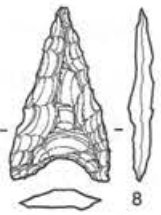
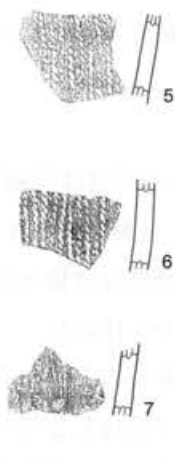
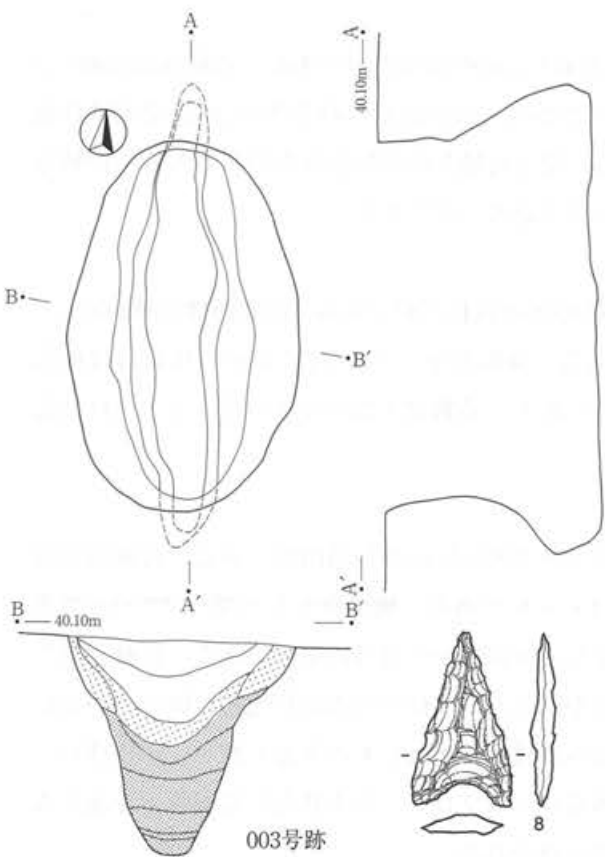
D4-96・D5-06グリッドで検出された。開口部は長軸2.95m×短軸1.80mの長楕円形である。坑底面は長軸3.40m×短軸0.70mの長楕円形である。長軸方位はN-7°-Eである。検出面からの深さは1.72mで床はほぼ平坦である。壁は長軸方向では袋状であり短軸方向ではV字状で上部は軽く開く。覆土は上位は黒褐色土を主体に下方にかけて徐々にソフトロームの堆積が増える。中位から下位にかけてはハードロームブロック主体にしまりのない黒色土が混じる。遺物は土器片が3点，石器が1点出土した。5～7は早期Ⅰ類燃糸文系の土器片と思われる。8は完形の石鏃である。覆土最下部より出土している。

004号跡（第32図，図版19）

C3-88・98グリッドで検出された。開口部は長軸2.08m×短軸1.71mの長楕円形である。坑底面は長軸1.00m×短軸0.43mの長楕円形である。長軸方位は真北である。検出面からの深さは2.66mで床はほぼ平坦である。壁は長軸方向では北側は床から30cm程度まで垂直に立ち上がりその後中位まで弧状にオーバーハングし，南側は床からほぼ垂直に立ち上がり中位から軽くラップ状に開く。短軸方向ではほぼV字状である。覆土は上位は黒褐色土を主体に下方にかけて徐々にソフトロームの堆積が増える。中位から下位にかけてはハードロームブロック主体にしまりのない黒色土が混じる。遺物は出土していない。



- 黒褐色土層
- ソフトローム層と黒褐色土の互層
- ハードローム層と黒褐色土の互層
- 黒色土層（腐食土）
- 焼土



第31図 001・002・003号跡

005号跡（第32図，図版19）

C2-58グリッドで検出された。開口部は長軸2.45m×短軸1.03mの長楕円形である。坑底面は長軸2.00m×短軸0.33mの長楕円形である。長軸方位はN-12°-Eである。検出面からの深さは2.30mで床はほぼ平坦である。壁は長軸方向ではほぼ垂直に立ち上がり短軸方向ではV字状である。覆土は上位が黒褐色土を主体に長軸方向両端部にソフトロームが袖状に入り込む。中位から下位にかけてはハードロームブロックを主体とし、黒色土が混じる。遺物は出土していない。

007号跡（第32図，図版20）

B3-42・52グリッドで検出された。開口部は長軸2.20m×短軸0.60mの長楕円形である。坑底面は長軸2.50m×短軸1.35mの長楕円形である。長軸方位はN-78°-Wである。検出面からの深さは1.00mで床は長軸方向の両端部が中央部より10~15cm程度落ち込んでいる。壁は長軸方向ではほぼ垂直であり短軸方向ではV字状をなす。覆土は上位はしまりのある暗褐色土，中位はローム粒が混じる暗褐色土，下位にはローム粒にしまりのない暗褐色土が混じる。遺物は出土していない。本遺跡で最も狭小な陥穴である。

008号跡（第33図，図版20）

D4-91・92グリッドで検出された。開口部は長軸3.75m×短軸1.96mの長楕円形である。坑底面は長軸2.50m×短軸1.35mの長楕円形である。長軸方位はN-59°-Eである。検出面からの深さは1.90mで床はほぼ平坦である。壁は長軸方向では北東側がトレンチにより中位より破壊されてしまっている。残存している壁からは袋状であったことが推定される。短軸方向ではほぼV字状である。覆土は上位は暗褐色土を主体に長軸方向両端部にソフトロームの層が袖状に入る。中位から下位にかけてはロームブロックと黒色土の互層となる。遺物は石器が1点出土している。9は石鏃の先端部の欠損したものである。

009号跡（第33図，図版20）

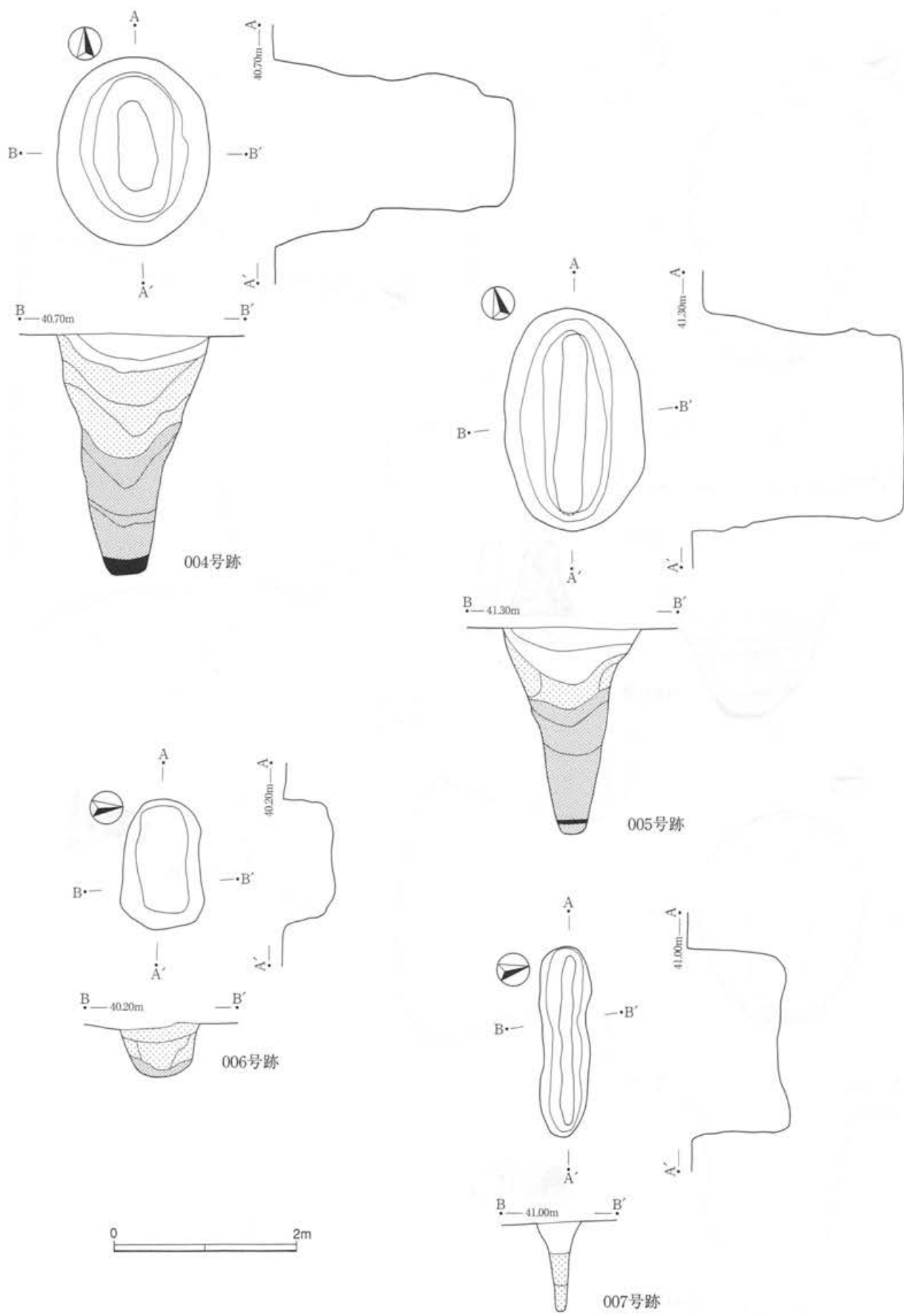
B3-46・47グリッドで検出された。開口部は長軸3.60m×短軸1.85mの長楕円形である。坑底面は長軸4.40m×短軸0.26mの長楕円形をなす。長軸方位はN-78°-Wである。検出面からの深さは2.03mで床は長軸方向ではほぼ平坦だが短軸方向ではV字状に傾斜している。壁は長軸方向では極端な袋状である。短軸方向ではV字状をなす。遺物は石器が1点出土している。10は石鏃の一部である。

010号跡（第33図，図版20）

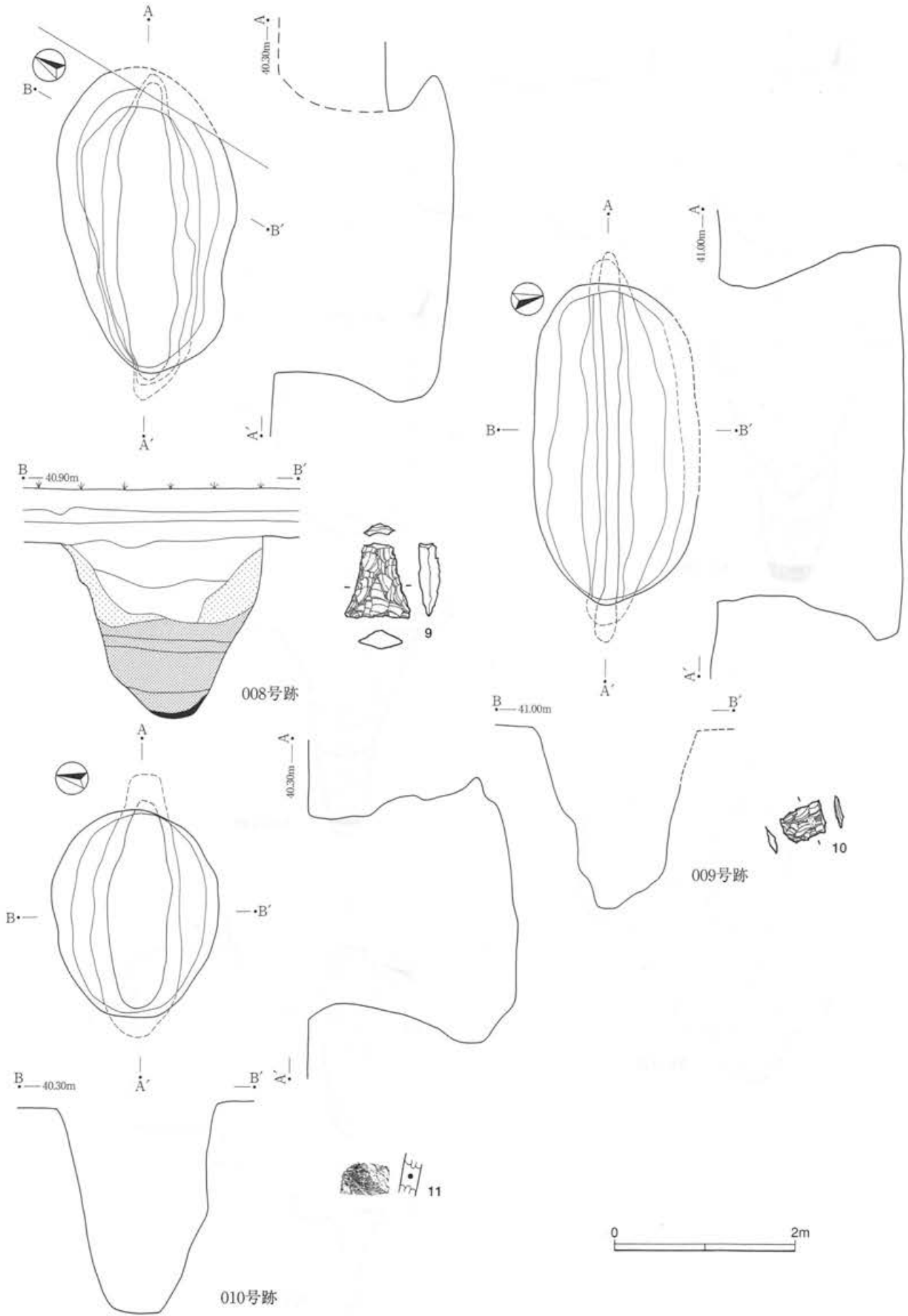
D4-94グリッドで検出された。開口部は長軸2.30m×短軸1.85mの長楕円形である。坑底面は長軸2.68m×短軸1.00mの長楕円形である。長軸方位はN-80°-Eである。検出面からの深さは2.33mで床はほぼ皿状である。壁は長軸方向では袋状であり短軸方向ではV字状である。遺物は土器片が1点出土した。11は前期前半（黒浜期）の土器片と思われる。

011号跡（第34図，図版20）

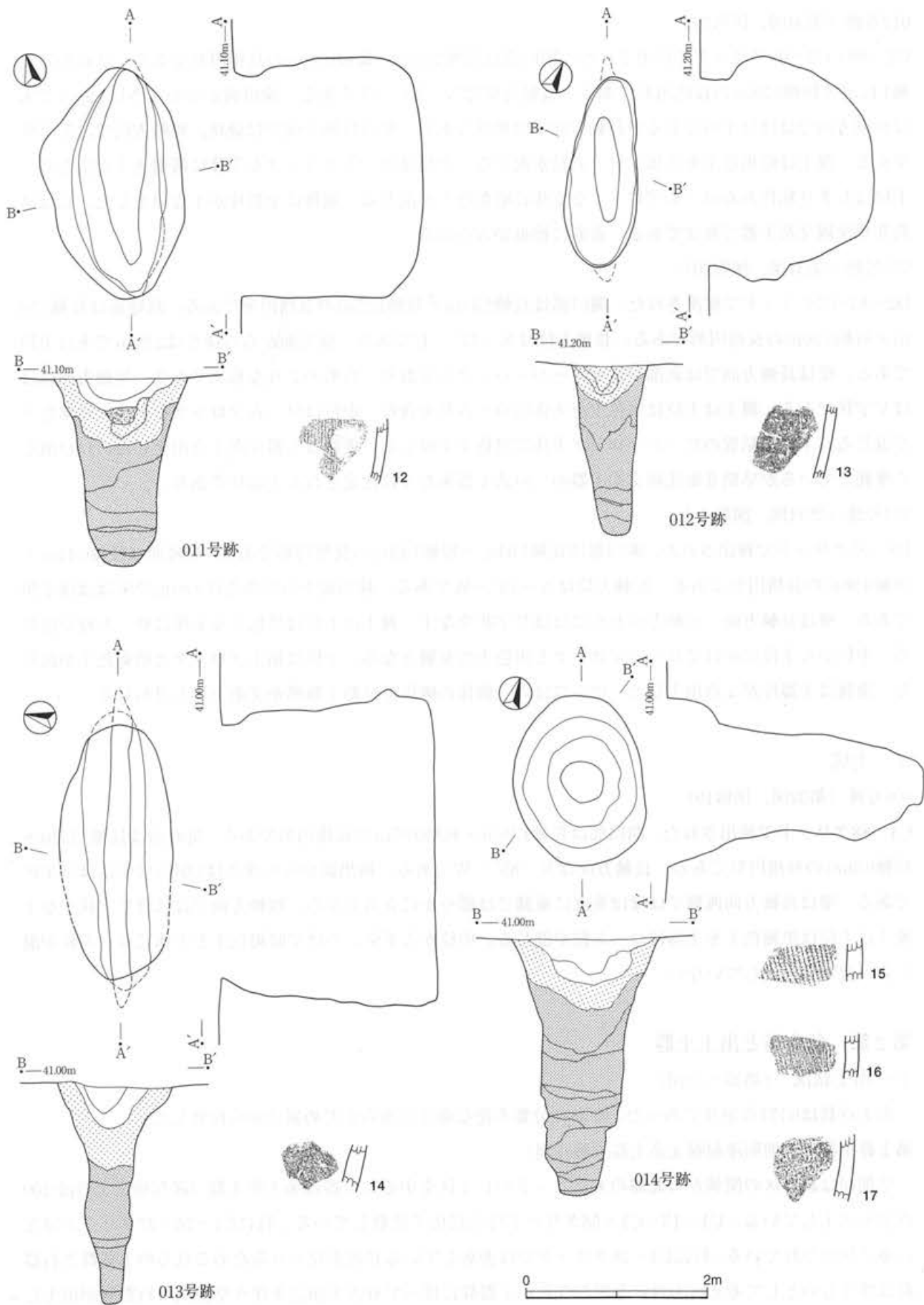
C2-98・C3-08グリッドで検出された。開口部は長軸2.55m×短軸1.56mの長楕円形である。坑底面は長軸2.18m×短軸1.05mの長楕円形である。長軸方位はN-15°-Eである。検出面からの深さは2.20mである。床はほぼ平坦で壁は長軸方向では北側部分は袋状をなし、南側部分ではほぼ垂直である。短軸方向ではV字状である。覆土は上位は暗褐色土を主体にローム粒が混じる。上位中央部に炭化物，灰を伴わない焼土の層が入る。陥穴が埋まっていく過程で人為的にくぼみに投げ込まれたものと思われる。中位はロームブロックを主体に暗褐色土が混じる。下位はしまりのあるロームブロックを主体とし暗褐色土が混じる。遺物は土器片が1点出土した。12は早期I類燃糸文系土器と思われる。



第32図 004・005・006・007号跡



第33图 008·009·010号迹



第34图 011·012·013·014号迹

012号跡（第34図，図版20）

C2-99・C3-09グリッドで検出された。開口部は長軸2.10m×短軸0.80mの長楕円形である。坑底面は長軸1.15m×短軸0.28mの長楕円形である。長軸方位はN-26°-Wである。検出面からの深さは1.90mで床は短軸方向ではほぼ平坦であるが長軸方向では皿状である。壁は長軸方向では袋状，短軸方向ではV字状である。覆土は暗褐色土を主体にローム粒が混じる。中位はロームブロックを主体に暗褐色土が混じる。下位はしまり粘性あるロームブロックを主体に暗褐色土が混じる。遺物は土器片が1点出土した。13は早期Ⅱ類沈線文系土器で無文である。表面に擦痕がみられる。

013号跡（第34図，図版20）

D2-61・62グリッドで検出された。開口部は長軸2.84m×短軸1.25mの長楕円形である。坑底面は長軸3.36m×短軸0.30mの長楕円形である。長軸方位はN-77°-Eである。検出面からの深さは2.36mで床は平坦である。壁は長軸方向では底部が最もオーバーハングしており，台形のような形状である。短軸方向はほぼV字状である。覆土は上位は黒色土を主体にローム粒を含む。中位はロームブロックを主体に暗褐色土が混じる。下位は粘質のロームブロック主体に黒色土が混じる。遺物は土器片が1点出土した。14は激しく摩耗しているが早期Ⅱ類沈線文系土器の三戸式土器あたりに比定される土器片である。

014号跡（第34図，図版なし）

D2-55グリッドで検出された。開口部は長軸1.93m×短軸1.43mの長楕円形である。坑底面は長軸0.45m×短軸0.98mの長楕円形である。長軸方位はN-14°-Wである。検出面からの深さは2.80mで床はほぼ平坦である。壁は長軸方向，短軸方向ともにはほぼV字状をなす。覆土は上位は黒色土を主体にローム粒が混じる。中位から下位にかけてロームブロックと黒色土の互層となる。下位は粘土ブロックと暗褐色土が混じる。遺物は土器片が3点出土した。15～17は同一個体の破片で早期Ⅰ類撚糸文系土器と思われる。

2 土坑

006号跡（第32図，図版19）

C4-88グリッドで検出された。開口部は長軸1.46m×短軸0.95mの長楕円形である。坑底面は長軸1.15m×短軸0.56mの長楕円形である。長軸方位はN-85°-Wである。検出面からの深さは1.04mで床はほぼ平坦である。壁は長軸方向西側ではほぼ垂直に東側では緩やかに立ち上がる。短軸方向ではほぼV字状をなす。覆土は上位は黒褐色土を主体にローム粒が混じる。中位から下位にかけて暗褐色土を主体にローム粒が混じる。遺物は出土していない。

第2節 包含層と出土土器

1 出土状況（第35～42図）

出土点数は6,121点余りであった。なお，分類不能な細片はあらかじめ累計から除外した。

第Ⅰ群土器 草創期隆起線文系土器（第35図）

草創期は調査区の関係から北側の大グリッドのC1区を中心に土器は第Ⅰ群土器（隆起線文土器）が100点余り出土している。C1-13～C1-58グリッド付近に広く拡散している。特にC1-26・27グリッド付近に多く検出されている。特にC1-26グリッドでは密集している状況が見られるためこれらの土器群と石器群は伴うものとして考えても良いと思われる。土器群に伴って有舌尖頭器を伴う草創期の石器群が出土し

ている。

第Ⅱ群土器 早期撚糸文系土器 (第36図)

早期の第Ⅱ群土器(撚糸文系)は大グリッドのC1~C3・D1~D3・E1~E3グリッドを中心に2,113点出土している。台地の北側から北東部分に特に密集し、さらに南東部分にかけてもやや密集している部分が認められる。特にC1-26・36・38・56グリッド付近、D1-62・72・73・83・93グリッド付近、D2-00・02・10・12・13・18・20~22・27・30・33・40・42・46・57グリッド付近、D4-07グリッド付近に小グリッド単位で20点以上検出された箇所が認められる。

第Ⅲ群土器 早期沈線文系土器 (第37~39図)

早期の第Ⅲ群土器(三戸式)は大グリッドのC1~C4・D1~D4・E3グリッドに散漫に検出され総数76点出土している。台地の北側と東南部分に散漫に出土している場所があるだけである。

早期の第Ⅲ群土器(田戸下層)は大グリッドのB1・B3、C1~C5・D1~D5・E1~E4グリッドを中心に1,579点出土している。台地の北側から北東部分に特に密集し、さらに南東から南側の台地の縁辺を巻くように分布している。特にC1-35・44・45・52・54グリッド付近、D1-61・62・70~72・82・83・92・93グリッド付近、D2-00・10・12・20・21グリッド付近、D3-91グリッド付近に小グリッド単位で20点以上検出された箇所が認められる。

早期の第Ⅲ群土器(田戸上層)は大グリッドのB1・C1~C5・D1~D5グリッドを中心に248点出土している。台地の東側では殆ど見られず、北側と南東側に偏って分布している。特にD5-21グリッド付近で50点検出されているのが目を引く。

通常この後に続く条痕文系土器がこの台地上で全く残されていないため周辺地域へ移動してしまったのかもしれない。

第Ⅳ群土器 前期前半 (第40図)

前期前半の第Ⅳ群土器(黒浜・関山式)は大グリッドのC1~C5・D1~D5・E1~E4グリッドを中心に1,510点出土している。台地の北側から北東部分に特に集中し、さらに南東から南側の台地の縁辺に分布している。特にC1-26・27・35・36・44・45・54グリッド付近、D1-82グリッド付近、D2-12・13・22グリッド付近、D3-98グリッド付近、D4-74・83・84・92・93・95グリッド付近に小グリッド単位で20点以上検出された箇所が認められる。

第Ⅴ群土器 前期後半 (第41図)

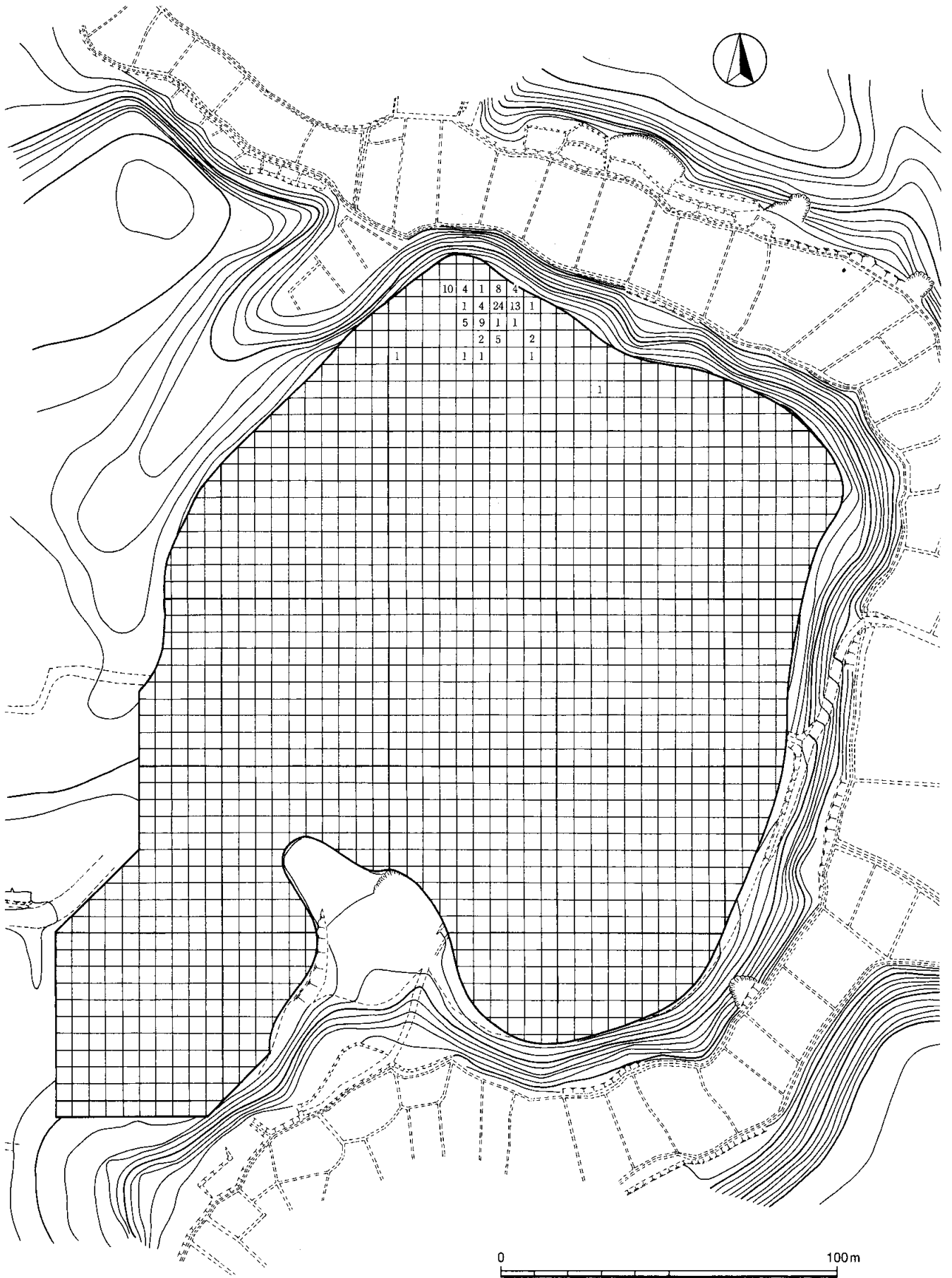
前期後半の第Ⅴ群土器(諸磯・浮島式を主体とする)は大グリッドのB3・C1~C5・D1~D5・E2~E4グリッド区を中心に507点出土している。台地の北東部にやや集中部分があり、あとはやや分散するように検出されている。特にC1-41グリッド付近、C4-00グリッド付近、D1-62グリッド付近、D2-12グリッド付近、E2-00グリッド付近に小グリッド単位20点以上検出された箇所が認められる。

第Ⅵ群土器 中期 (第42図)

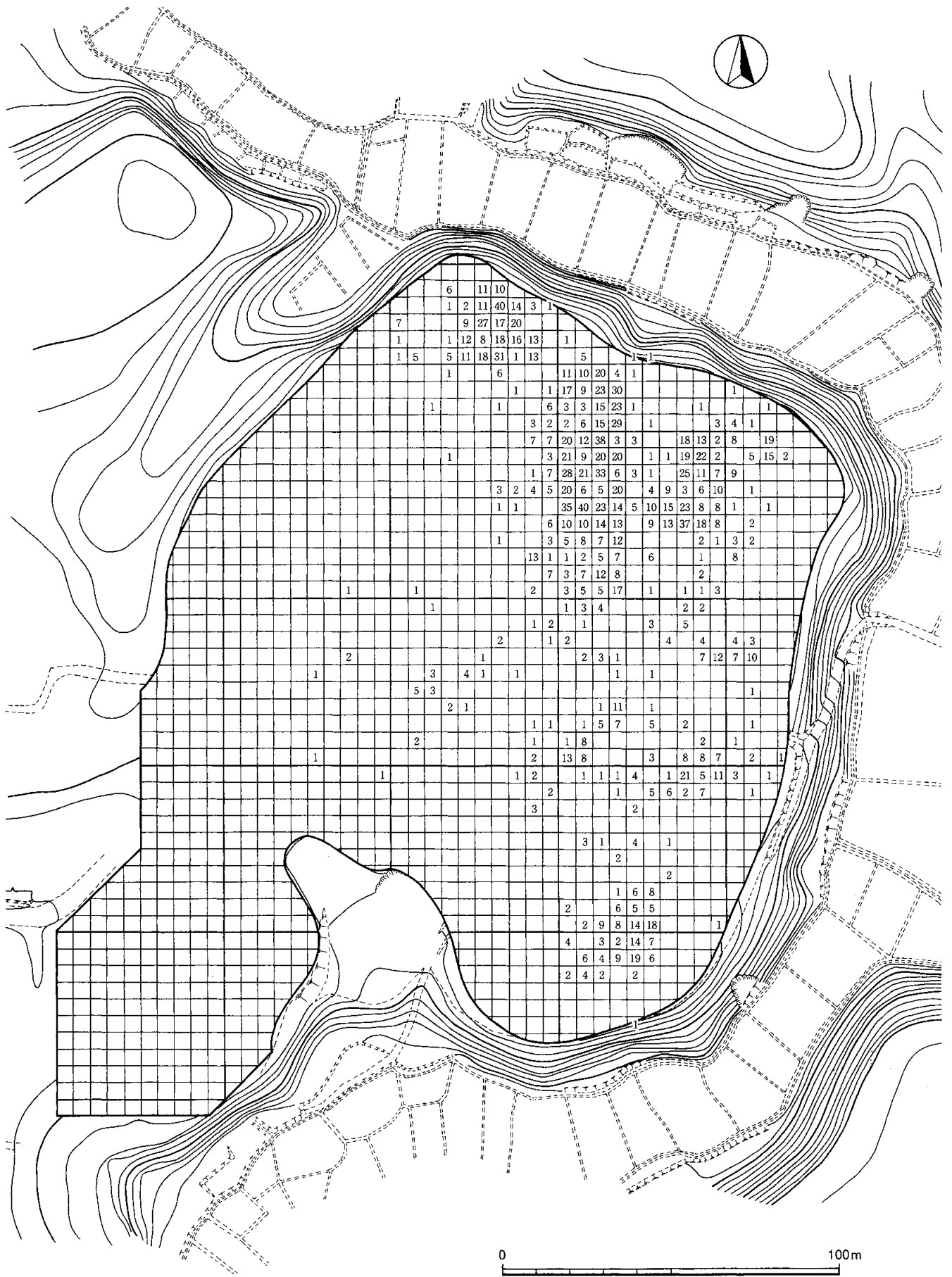
中期の第Ⅵ群土器(阿玉台~加曾利E式)は大グリッドのC1・D2・D3・D5・E1グリッドを中心に86点出土している。台地の北部にやや多く検出されていて後は少量検出されている程度である。

その他土器 弥生時代

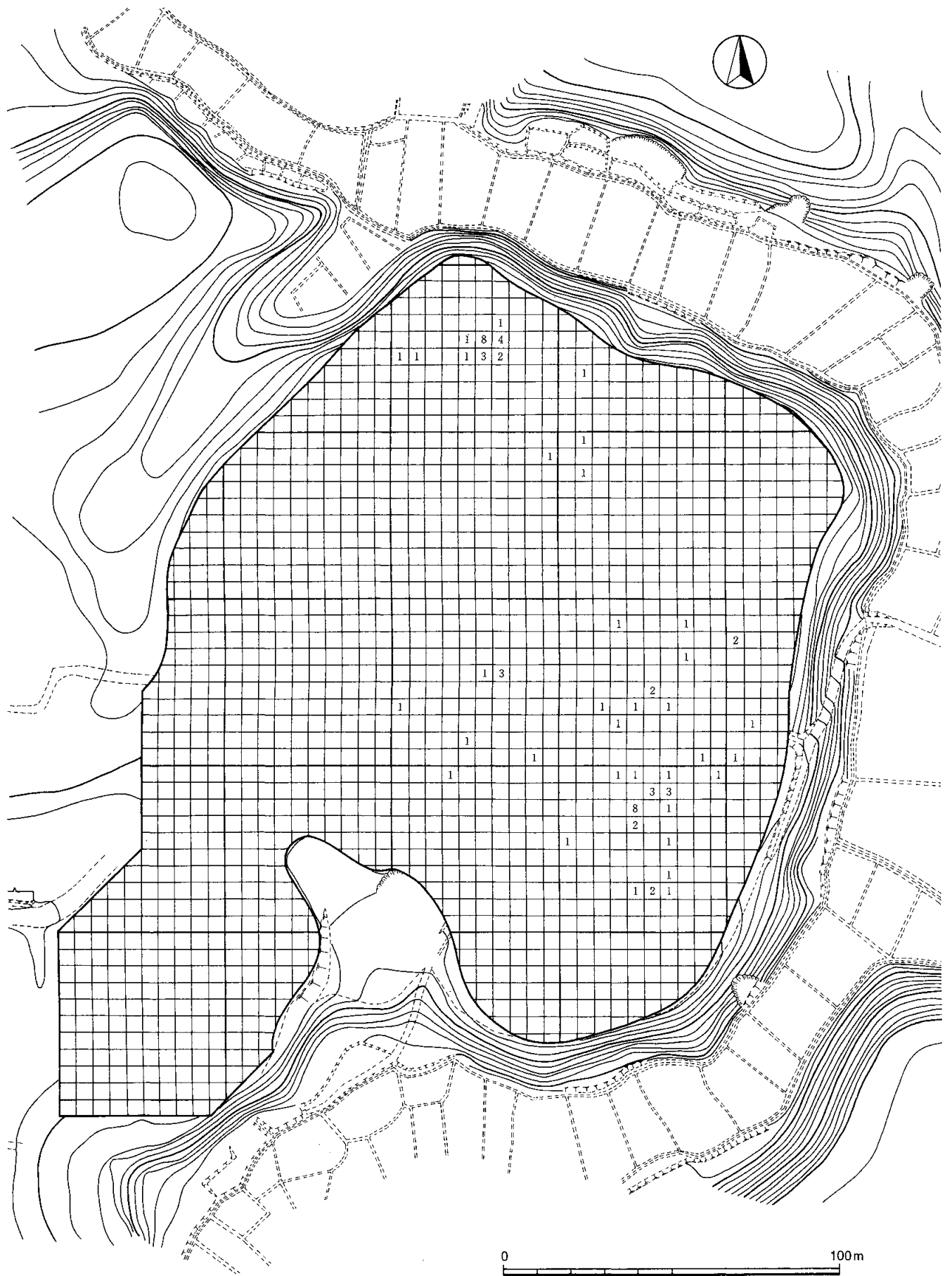
ほとんど出土していない。弥生時代中期以降の土器片が数点出土したのみである。

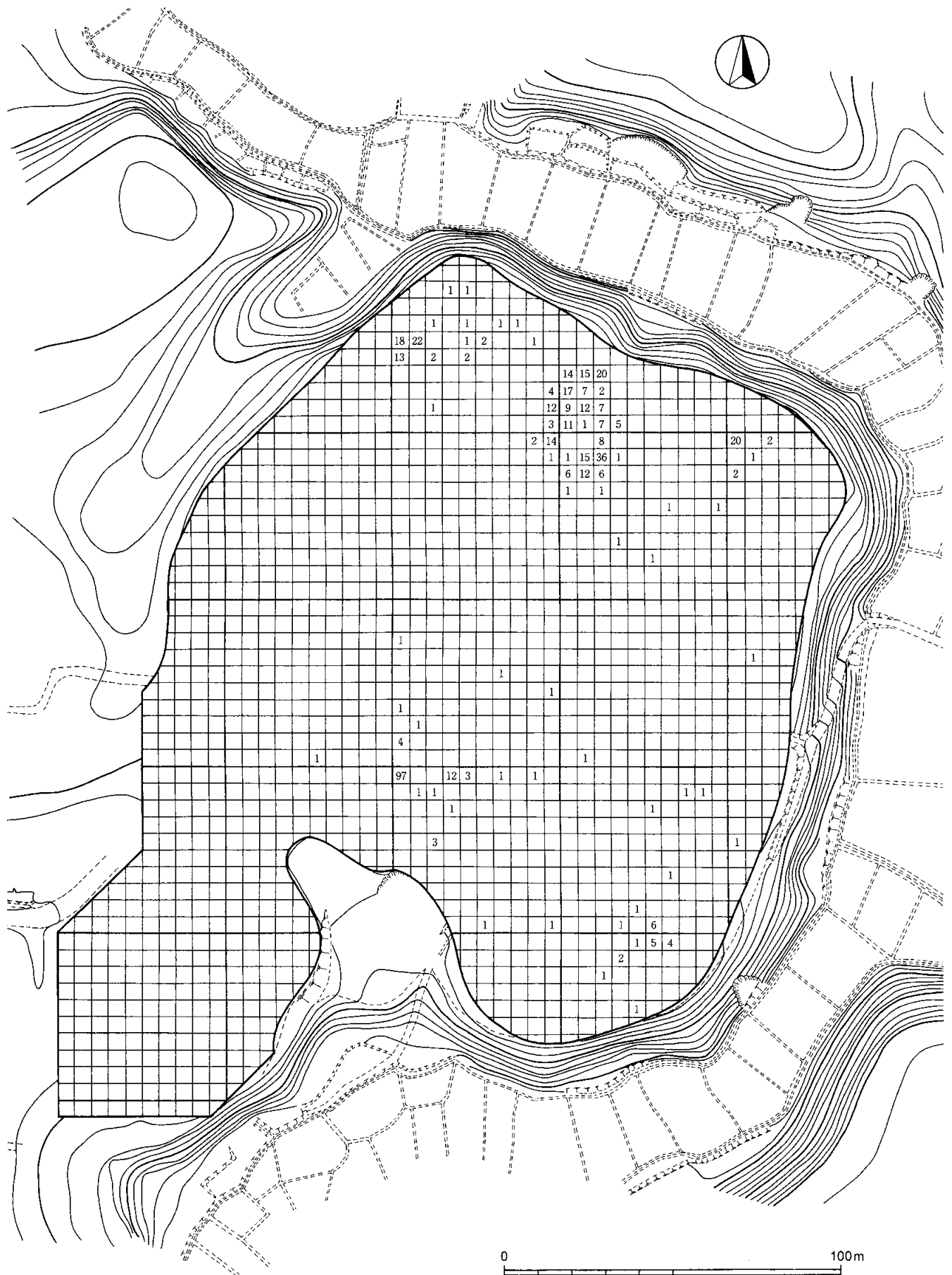


第35図 隆起線文土器出土分布図

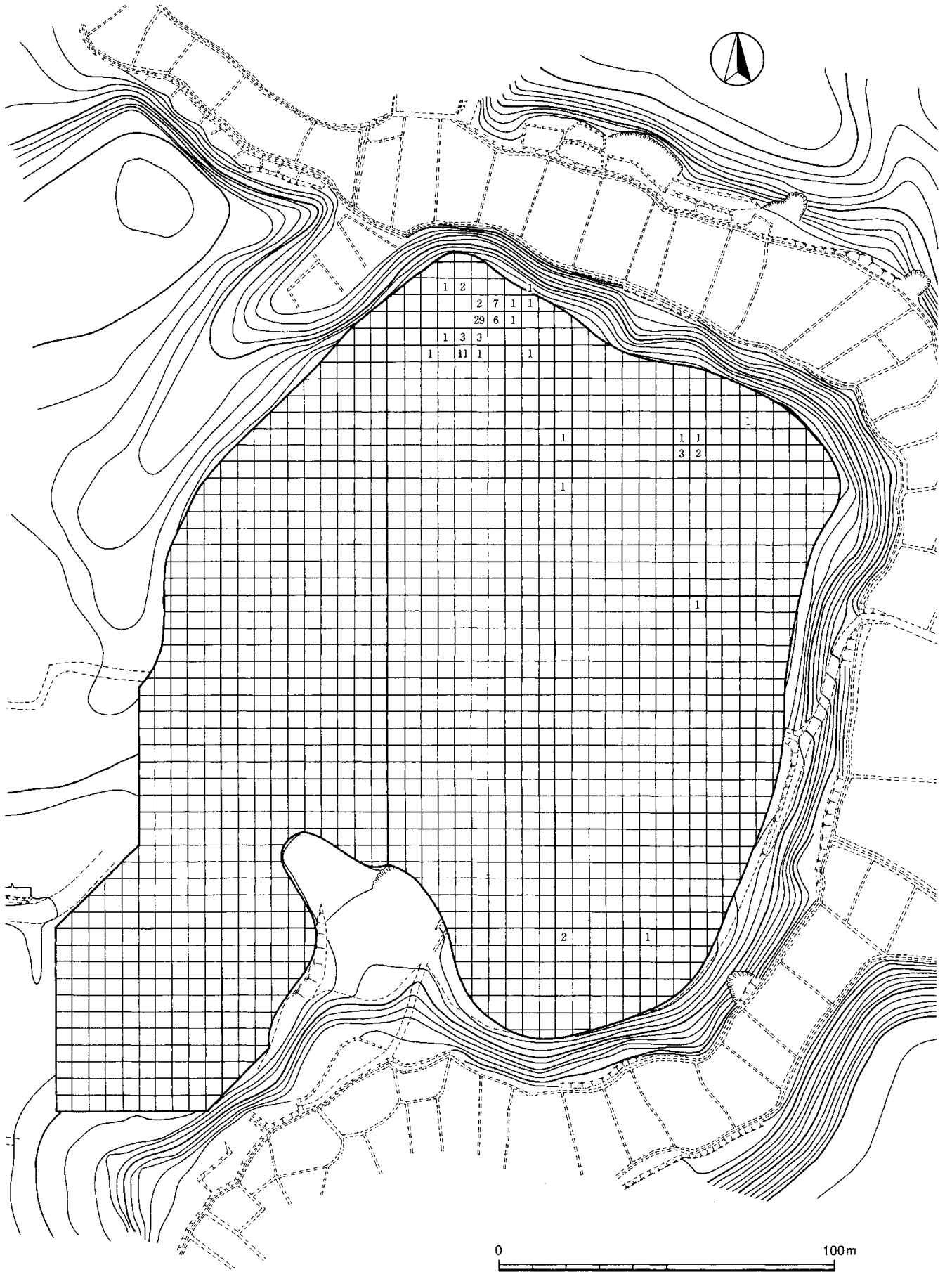


第36图 撚糸文土器出土分布图





第41図 前期後半土器出土分布図



第42图 中期土器出土分布图

2 包含層出土の土器

(1) 第Ⅰ群土器〔隆起線文土器〕(第43図, 図版21・23)

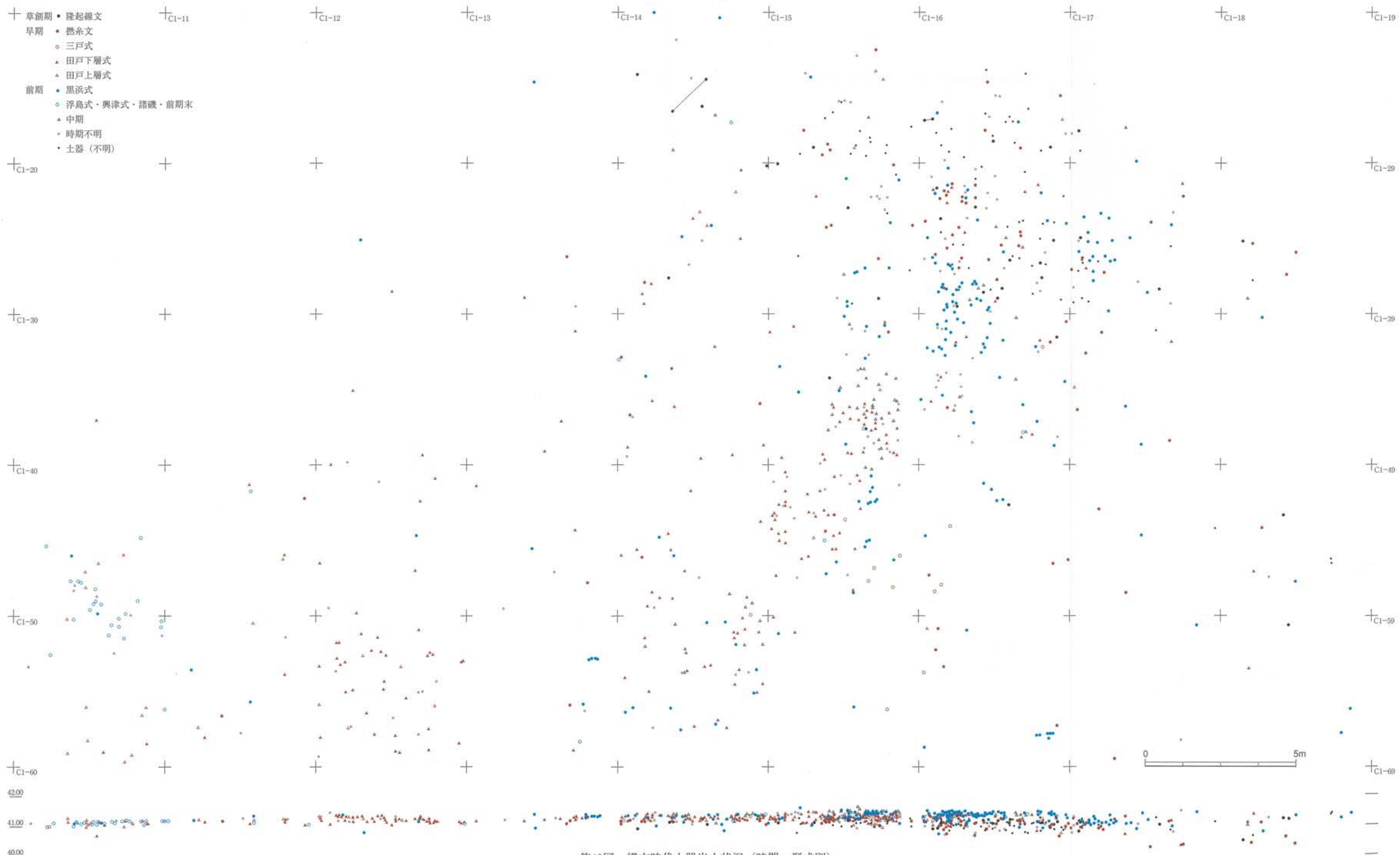
隆起線文土器(第44~46図1~82)胎土はやや粒の粗く焼成も比較的良くないものが多い。色調は灰色がかつた薄い褐色のものが多いが赤み強いものもいくらか見られる。1は口縁部破片で口縁部~胴部上半にかけて横方向にひねりを加えた粘土紐による貼付線が巡らされている。2~3は口縁部破片で横方向にひねりを加えた貼付線に加え縦方向の粘土の貼付線が加わっている。4~5は口縁部破片で口唇部に刻み目を持ち、口縁部に横方向の粘土紐による貼付線もしくはそれらの痕跡が認められる。6は口縁部下端の破片で粘土紐を貼り付けたような剥落が認められる。7は口縁部破片で口唇部に刻み目を持ち口縁部に横方向の粘土紐の貼付線の痕跡が認められる。8は口縁部破片で1と同様に口縁部~胴部上半にかけて横方向にひねりを加えた粘土紐による貼付線が巡らされている。9は口縁部破片で口唇部及び口縁部直下に並行して横方向のひねりを加えた粘土紐による貼付線が巡らされている。10は口縁部破片で口唇部に刻み目を持ち、口縁部に横方向のひねりを加えた粘土紐の貼付線が巡らされている。11は胴部上部破片である。上部部分に横方向のひねりを加えた粘土紐の貼付線が巡らされている。下部は無文帯と思われる。12は口縁部~胴部にかけての破片である。口唇縁端は破損しているものやや外反すると思われる。口縁部は上部部分に横方向のひねりを加えた粘土紐の貼付線が巡らされている。下部は縦方向に粘土紐を貼り付けたような痕跡が4条残されている。13~19は口縁部~胴部上半部の小破片である。横方向のひねりを加えた粘土紐の貼付線が巡らされていることが認められるものである。20~22は口縁部破片で口縁部付近に横方向の粘土紐の貼付線がされている。この部分についてはひねりを加えていないものである。20, 21については縦もしくは左斜め方向の粘土紐が貼り付けられているものである。22~26は口縁部直下の小破片である。いずれも横方向の粘土紐による貼付文もしくはその痕跡がうかがわれる資料である。27は胴部小破片で縦方向の粘土紐による貼付線が巡らされている。28は口縁部破片である。口唇部と直下に並行して横方向のひねりを加えた粘土紐による貼付線を巡らしている。またその際に付けられた爪の痕が残されている。29は胴部破片で横方向のひねりを加えた粘土紐による貼付文の直下にハの字状の爪形文を配したものである。30は胴部破片で同様にハの字状の爪形文のようなものが見られる。31, 32は胴部小破片で爪形文の一部と思われるものが見られる。33は胴部破片で列点状の爪形文が残されている。34は胴部破片でやや大きめの爪形文が残されている。35~37は口縁部破片である。口唇部が幾分外反する器形で爪形文で刻み目を入れているものである。37については他よりやや細かい線状となる。38~95については無文の部分である。胎土等で隆起線文土器の一部と判断したものである。38~40は口縁部破片である。口唇部にも文様等は認められない。40は若干口唇縁端が外反する器形である。わずかに爪形か何かの凹凸が見られる。意識されたものかどうかは不明である。41~95までは胴部~底部破片である。いずれも無文のものであるが、53~55のように表面がごつごつした感じで強く擦痕もしくは線状痕のような器面が観察されるものもある。46には焼成後に補修したと思われる孔が認められる。

(2) 第Ⅱ群土器〔撚糸文系土器〕(第47~51図96~345, 図版24~28)

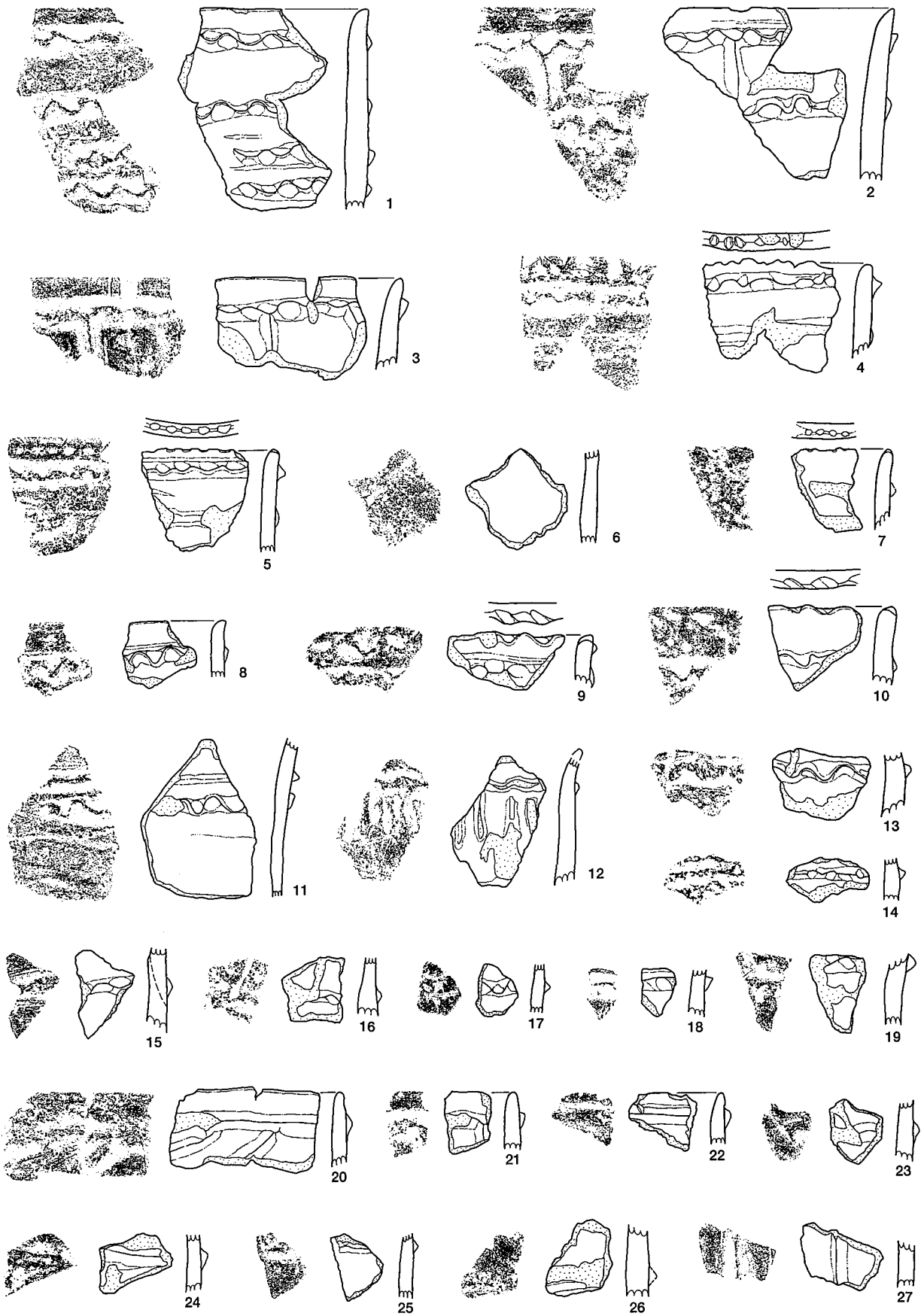
井草Ⅰ式~Ⅱ式・夏島の時期のものが主体になると思われる。96は口縁部破片で胎土に白色砂(石英・長石粒)を含む。色調はやや淡い褐色を呈する。口端は肥厚・屈曲する。口唇・RL2段で施文されている。頸部以下は横RL縄文, 胴部縦縄文で施文されている。井草Ⅰ式に比定される。97は口縁部破片で胎土にや



- 十 草創期・隆起線文
- 早期
 - 燃糸文
 - 三戸式
 - ▲ 田戸下層式
 - △ 田戸上層式
- 前期
 - 黒浜式
 - 浮島式・興津式・諸磯・前期末
 - ▲ 中期
 - 時期不明
 - 土器(不明)

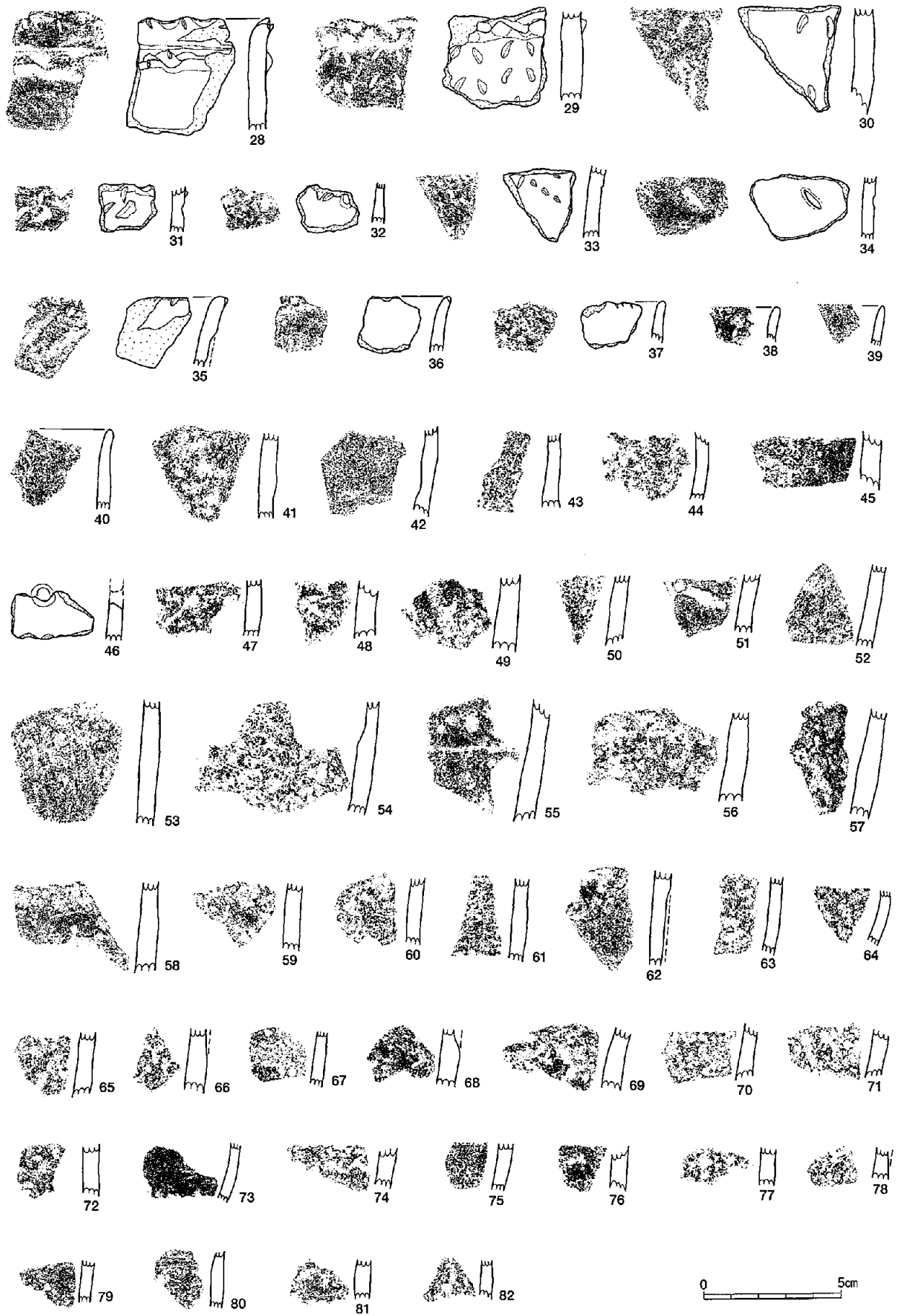


第43図 縄文時代土器出土状況(時期・型式別)

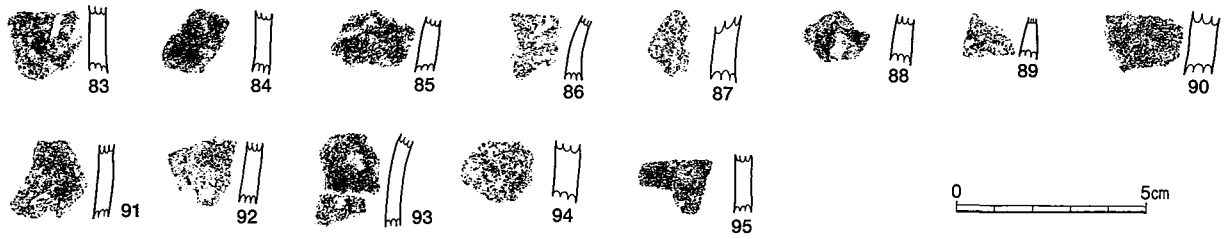


0 5cm

第44图 隆起線文土器 (1)

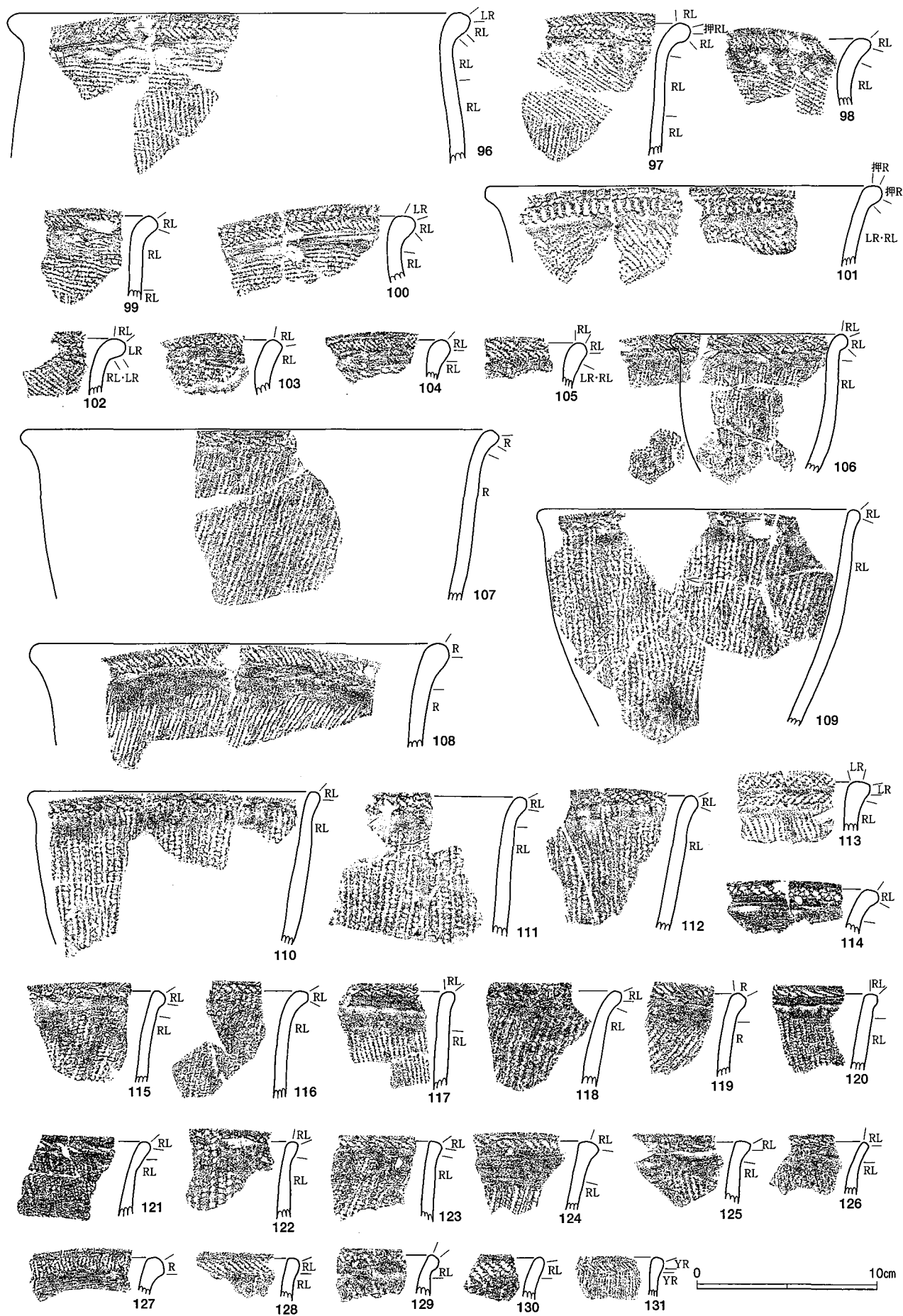


第45图 隆起線文土器 (2)



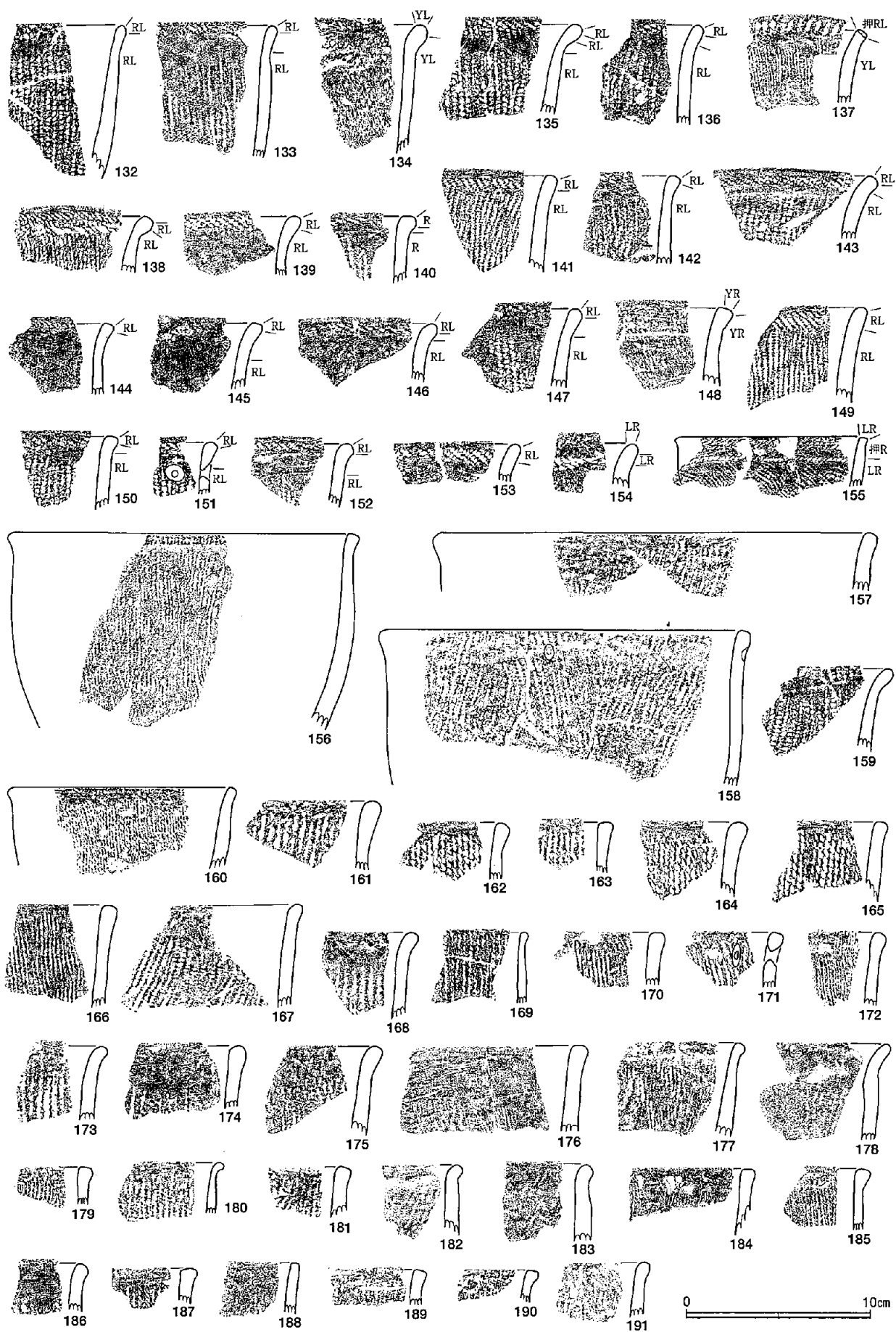
第46図 隆起線文土器（3）

や大きめの白色砂（石英・長石粒）を含む。色調はやや淡い色調を呈する。口端は肥厚・屈曲する。口唇はRL・押RL縄文・RLの3段で施文されている。頸部はRL斜縄文の後指頭で調整されている。以下胴部にかけて縦方向の縄文で施文されている。井草I式に比定される。98は口縁部破片で胎土にやや小粒な白色砂（石英・長石粒）を含む。色調はやや淡い褐色を呈する。口端はやや肥厚・屈曲する。口唇はRL縄文で施文されている。頸部以下はナデ調整の無文帯を挟みRL斜縄文で施文されている。99は口縁部破片で胎土に比較的細かい白色砂（石英・長石粒）を含む。色調はやや淡い褐色を呈する。口端はやや肥厚・屈曲する。口唇はRL縄文で施文されている。頸部以下は横方向の縄文で施文後、頸部を軽く指ナデ調整している。100は口縁部破片で胎土にやや細かい白色砂（石英・長石粒）を含む。色調はやや淡い褐色を呈する。口端は肥厚・屈曲する。口唇はLR・RL縄文2段で施文されている。頸部は直下ヨコナデ後横RL縄文で施文されている。101は口縁部破片で胎土に大きめの白色砂（石英・長石粒）を含む。色調はやや淡い褐色を呈する。口端は肥厚・屈曲する。口唇は押R縄文2段で施文されている。頸部以下は横RL縄文で施文後で一部充填している。102は口縁部の小破片で胎土にやや大きめの白色砂（石英・長石粒）を含む。色調はやや淡い褐色を呈する。口端は肥厚・屈曲する。口唇はRL・LR縄文2段で施文されている。頸部以下横で施文、一部LR縄文も見られる。103は口縁部小破片で胎土に多めの細かい白色砂（石英・長石粒）を含む。色調はやや淡い褐色を呈する。口端は肥厚しやや外反気味である。口唇はRL縄文で施文されている。頸部以下はRLで施文されている。104は口縁部小破片で胎土にやや細かい白色砂（石英・長石粒）を含む。色調はやや淡い褐色を呈する。口端は肥厚しやや外反気味である。口唇はRL縄文で施文されている。頸部は指ナデによる無文部分があり以下横による施文が行われている。105は口縁部小破片で胎土に多めの細かい白色砂（石英・長石粒）を含む。色調は灰褐色を呈する。口端はやや肥厚しやや外反気味である。口唇はRL・RL縄文2段で施文されている。頸部以下LRで施文されている。106は口縁部～胴部にかけての破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を含む。色調はやや暗い褐色を呈する。小形の土器であることがわかる。口端は肥厚・屈曲する。口唇はLR・LR2段で施文されている。頸部は指頭による調整後、以下撚糸文による施文が行われている。107は口縁部～胴部上半の大形破片で胎土にやや細かい白色砂（石英・長石粒）を含む。色調は灰色～淡褐色を呈する。口端はやや肥厚し外反する。口唇はR縄文で施文されている。頸部は指頭による調整後、以下R縄文による施文が行われている。108は口縁部の大形破片で胎土に多くの白色砂（石英・長石粒）を含む。色調は明褐色を呈する。口端は肥厚しやや外反する。口唇はR縄文で施文されている。頸部は指頭でヨコナデ後以下R縄文で施文されている。109は口縁部～胴部にかけての大形破片で胎土に少量の白色砂（石英・長石粒）を含む。色調は明褐色を呈する。口端はあまり肥厚ではなく外反もそれ程でもない。口唇はRL縄文で施文されている。頸部以下胴部にかけてはRL縄文で施文されている。所々に指頭痕及びナデによる調整痕が認められる。110は口縁部～胴部にかけて大形破片で胎



第47图 捺糸文系土器 (1)

土に少量の黒色砂（スコリア）をやや多く含む。色調は明褐色を呈する。口端はやや肥厚しやや外反する。口唇はRL縄文で施文されている。頸部以下胴部にかけてRL縄文で施文されている。頸部に若干の指頭痕が見られる。111は口縁部破片で胎土に細かな白色砂（石英・長石粒）を含む。色調は明褐色を呈する。口端はやや肥厚し屈曲する。口唇は縄文で施文されている。頸部以下はRL縄文で施文されている。頸部は指ナデで仕上げられている。112は口縁部～胴部にかけての破片で胎土に少量の白色砂（石英・長石粒）を含む。色調は明褐色を呈する。口端はあまり肥厚ではなく外反もそれ程でもない。口唇はRL縄文で施文されている。頸部以下は縦方向の縄文で施文されている。頸部は横方向のナデ調整がみられる。113は口縁部破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を含む。色調はやや暗褐色を呈する。口端はやや肥厚し屈曲する。口唇は無文LRで施文されている。頸部以下は縦方向縄文で施文されている。114は口縁部破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を含む。色調はやや暗褐色を呈する。口端はあまり肥厚せず外反する。口唇はRL縄文で施文されている。頸部以下はヨコナデ，胴部以下は縦方向RL縄文が施文されていたと思われる。115は口縁部破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を含む。色調は褐色を呈する。口端はあまり肥厚せずやや外反する。口唇はRL縄文で施文されている。頸部は指頭によるナデ仕上げ，以下胴部にかけてRL縄文で施文されている。116は口縁部破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を含む。色調は暗褐色を呈する。口端はやや肥厚し屈曲している。口唇はRL縄文で施文されている。頸部以下は縄文で施文されている。117は口縁部破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多く含む。色調は灰褐色を呈する。口端はやや肥厚し若干の外反が見られる。口唇は縄文で施文されている。頸部はヨコナデ，以下は縦方向にRL縄文で施文されている。118は口縁部破片で胎土にやや多く白色砂（石英・長石粒）を含む。色調は明褐色を呈する。口端はやや肥厚し屈曲している。口唇はRL縄文で施文されている。頸部以下は縦方向に縄文で施文されている。119は口縁部破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多く含む。色調は暗褐色を呈する。口端はやや肥厚しやや外反する。口唇は縄文で施文されている。頸部は指頭でナデ後R縄文で施文されている。120は口縁部破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を多く含む。色調は淡褐色を呈する。口端は肥厚しやや外反する。口唇はRL縄文で施文されている。頸部以下は縦方向にRL縄文で施文されている。121は口縁部小破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を少し含む。色調は明褐色を呈する。口端はやや肥厚し外反する。口唇はRL縄文で施文されている。頸部以下は縦方向に縄文で施文されている。122は口縁部小破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を多く含む。色調は暗褐色を呈する。口端はやや肥厚し外反する。口唇は縄文で施文されている。頸部以下縦方向にRL縄文で施文されている。123は口縁部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多く含む。色調は明褐色を呈する。口端はやや肥厚し外反する。口唇はRL縄文で施文されている。頸部以下は縦方向に縄文で施文されている。右側頸部に補修孔を穿孔しようと試みた痕跡がうかがわれる。124は口縁部小破片で胎土に細かな白色砂（石英・長石粒）を少し含む。色調は淡褐色を呈する。口端は大きく肥厚しやや外反する。口唇は縄文で施文されている。頸部はヨコナデ後縦方向のRL縄文で施文されている。内側にわずかに輪積み痕を残す。125は口縁部小破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）をやや多く含む。色調は淡褐色を呈する。口端は肥厚しているがそれ程外反はしない。口唇はRL縄文がわずかに施文されている。頸部は縦方向の縄文で施文されている。126は口縁部小破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を多く含む。他の個体と比べてやや薄い。色調は暗褐色を呈する。口端はあまり肥厚しないが外反する。口唇は縄文で施文されている。頸部は縦方向にRL縄文で施文されている。127は口縁部小破片で胎土にやや大粒の白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は明褐色を呈する。口端

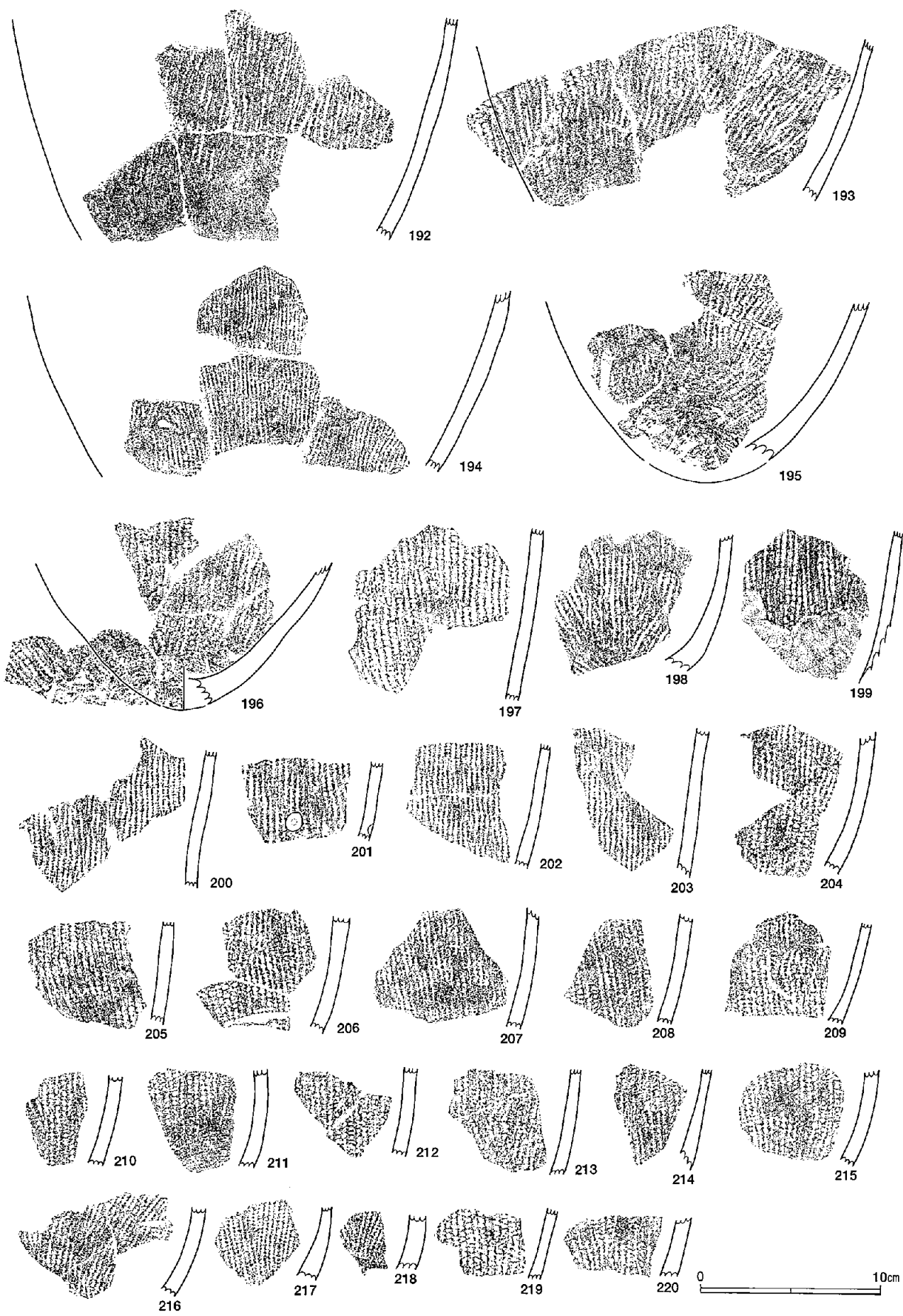


第48图 捺糸文系土器 (2)

は肥厚し屈曲する。口唇はR縄文で施文されている。頸部はヨコナデ仕上げで以下は不明である。128は口縁部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を含む。色調は褐色を呈する。口端はやや肥厚しやや外反気味である。口唇はRL縄文で施文されている。頸部は縦方向にRL縄文で施文されている。129は口縁部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）をやや含む。色調は淡褐色を呈する。口端はやや肥厚し屈曲させている。口唇はRL縄文で施文されている。頸部は縦方向にRL縄文で施文されている。なお口唇内側に屈曲させた指頭痕が残されている。130は口縁部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡灰褐色を呈する。口端はあまり肥厚せず外反もそれ程ではない。口唇は無文である。頸部以下はRL縄文で横方向に施文されている。131は口縁部小破片で胎土に少量の白色砂（石英・長石粒）を含む。色調は淡灰褐色を呈する。口端はやや肥厚しているが外反はそれ程でもない。口唇はR捺糸文で施文されている。頸部以下はR捺糸文で施文されている。132は口縁部～胴部破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡褐色を呈する。口端はあまり肥厚せずやや外反する。胴部にかけてはやや厚みを増す。口唇はRL縄文で施文されている。頸部以下は縦方向にRL縄文で施文されている。133は口縁部～胴部破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を多く含む。色調は褐色を呈する。口端はあまり肥厚せず外反する。口唇はRL縄文で施文されている。頸部以下は縦方向にRL縄文で施文されている。134は口縁部～胴部破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を多く含む。色調は暗褐色を呈する。口端は肥厚し屈曲する。口唇はL捺糸文で施文されている。頸部以下L捺糸文で縦方向に施文されている。135は口縁部～胴部上の破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡褐色を呈する。口端はやや肥厚し屈曲する。口唇はRL縄文・RL縄文2段で施文されている。頸部は指ナデ後以下縄文で施文されている。136は口縁部破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を含む。色調は淡褐色を呈する。口端は肥厚せず外反する。口唇はRL縄文で施文されている。頸部以下はRL縄文で縦方向に施文されている。137は口縁部破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）をやや含む。色調は淡灰褐色を呈する。口端はやや肥厚し外反する。口唇は押RL縄文で施文されている。頸部以下は捺糸文で施文されている。138は口縁部破片で胎土に多量の白色砂（石英・長石粒）を含む。色調は褐色を呈する。口端は肥厚し屈曲する。口唇はRL縄文・RL縄文2段で施文されている。頸部は明瞭な指頭痕を残す様にして調整されている。頸部以下は縦方向に縄文で施文されている。139は口縁部小破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は褐色を呈する。口端はやや肥厚し外反する。口唇は縄文で施文されている。頸部以下は薄く縦方向にRL縄文が施文されていることが認められる。140は口縁部小破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡褐色を呈する。口端は肥厚しやや外反する。口唇はR縄文で施文されている。頸部以下は縦方向にR縄文で施文されている。141は口縁部破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡灰褐色を呈する。口端は肥厚しやや外反する。口唇はRL縄文で施文されている。頸部以下は縦方向にRL縄文で施文されている。142は口縁部破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）をやや多く含む。色調は淡褐色を呈する。口端はやや肥厚し外反する。口唇はRL縄文で施文されている。頸部以下は縄文で施文されている。143は口縁部破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡褐色～暗褐色を呈する。口端は肥厚し屈曲する。口唇は縄文で施文されている。頸部以下は縦方向にRL縄文で施文されている。144は口縁部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡褐色を呈する。口端はあまり肥厚せず外反する。口唇はRL縄文が施文されている。頸部はヨコナデで調整、胴部にかけては無文もしくはかすかな条線が認められる。145は口縁部破片で胎土に細かな白色砂（石英・長石粒）を多量に含

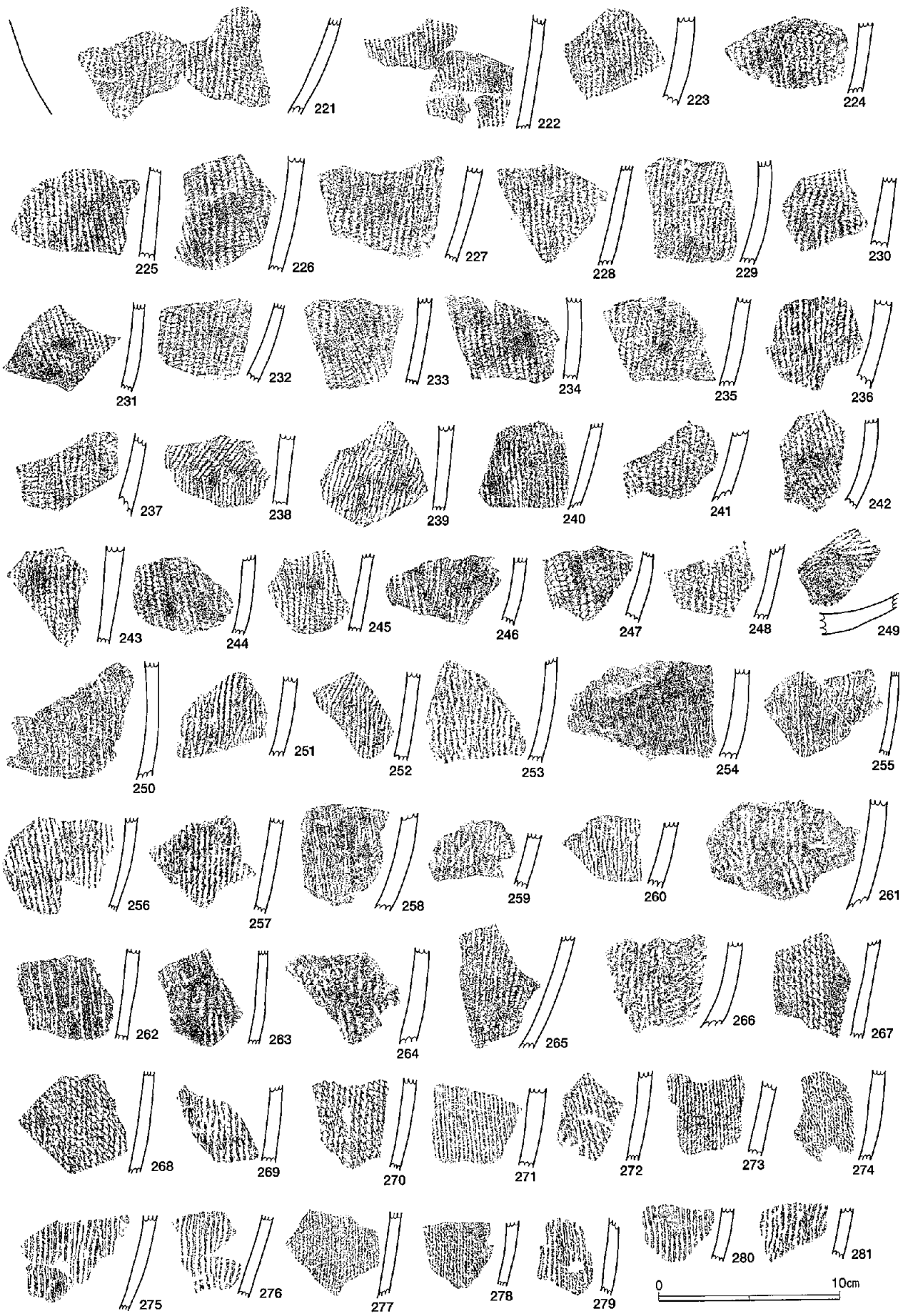
む。色調は褐色を呈する。口端はやや肥厚し外反する。口唇はRL縄文で施文されている。頸部はナデ、以下縦方向にRL縄文で施文されている。146は口縁部破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡褐色を呈する。口端は肥厚せず外反する。口唇はRL縄文で施文されている。頸部以下は縦方向に縄文で施文されている。147は口縁部破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。色調は淡灰褐色を呈する。口端はやや肥厚し外反する。口唇は縄文で施文されている。頸部以下は縦方向にRL縄文で施文されている。148は口縁部破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）をやや多く含む。色調は淡灰褐色を呈する。口唇はR撚糸文で施文されている。頸部以下はR撚糸文で施文されている。149は口縁部破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は暗褐色を呈する。口端は肥厚せずやや外反する。口唇はRL縄文で施文されている。頸部以下は縦方向にRL縄文で施文されている。150は口縁部小破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡灰褐色を呈する。口端はやや肥厚しやや外反する。口唇はRL縄文・縄文2段で施文されている。頸部以下は縦方向にRL縄文で施文されている。151は口縁部小破片で胎土に少量の白色砂（石英・長石粒）を含む。色調は淡灰褐色を呈する。口端はやや肥厚し外反する。口唇はRL縄文で施文されている。頸部以下は縦方向にRL縄文で施文されている。頸部に補修孔が残されている。152は口縁部小破片で胎土に少量の白色砂（石英・長石粒）を含む。色調は淡褐色を呈する。口端は肥厚しやや外反する。口唇はRL縄文で施文されている。頸部は縦方向に縄文で施文されている。153は口縁部小破片で胎土に微量の白色砂（石英・長石粒）を含む。色調は淡灰褐色を呈する。口端は肥厚せずやや外反する。口唇は縄文で施文されている。頸部は指ナデと思われる。154は口縁部小破片で多量の白色砂（石英・長石粒）を含む。色調は褐色を呈する。口端は肥厚せずやや外反する。口唇はLR縄文を押圧するように施文している。頸部以下は横方向にナデ後縦方向に弱い縄文が見られるようである。155は口縁部破片で少量の白色砂（石英・長石粒）を含む。色調は淡褐色～灰褐色を呈する。口端は肥厚せずあまり外反はしない。どちらかという直立に近い形状である。口唇は縄文で施文されている。頸部に押圧によるR縄文が施されている。頸部以下は縄文で施文されている。156は口縁部～胴部下にかけての大形破片で胎土にスコリア及び白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡灰褐色を呈する。口端はやや肥厚し、頸部から胴部にかけて厚みを増す。口唇は押圧撚糸文で施文されている。頸部以下は縦方向にR撚糸文で施文されている。157は口縁部破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡褐色を呈する。口端はやや肥厚し外反する。色調は淡褐色を呈する。口唇は一部RL縄文で施文されている。頸部は所々指ナデ、頸部以下縦方向に縄文で施文されている。158は口縁部～胴部にかけての破片で胎土にスコリア及び白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡褐色を呈する。口端はやや肥厚し、頸部から胴部にかけてはやや厚みを増す。口唇は縄文で施文されている。頸部以下は縦方向にRL縄文で施文されている。159は口縁部小破片で胎土に微量に白色砂（石英・長石粒）を含む。色調は淡褐色を呈する。口端はやや肥厚し屈曲する。口唇はRL縄文で施文されている。頸部以下は縦方向に縄文で施文されている。160は口縁部破片で胎土に多量の白色砂（石英・長石粒）を含む。色調は淡暗褐色を呈する。口端は肥厚せずやや外反する。口唇は無文で頸部から縦方向に撚糸文で施文されている。161は口縁部破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を若干含む。色調は淡灰褐色を呈する。口端は肥厚しやや外反する。口唇はRL縄文で施文されている。頸部以下は縦方向にRL縄文で施文されている。162は口縁部破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）をやや含む。色調は淡灰褐色を呈する。口端はやや肥厚しやや外反する。口唇は無文で、頸部以下は縦方向にRL縄文で施文されている。163は口縁部小破片で胎土に若干の白色砂（石英・長石粒）を含

む。色調は淡灰褐色を呈する。口端は肥厚し若干外反する。口唇は無文で、頸部以下は縦方向RL縄文で施文されている。164は口縁部小破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡褐色を呈する。口端は肥厚しやや外反する。口唇は無文で、頸部以下は縦方向にRL縄文で施文されている。165は口縁部破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡灰褐色を呈する。口端は肥厚せずやや外反する。口唇から縦方向に連続して縄文で施文されている。166は口縁部破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡灰褐色を呈する。口端はやや肥厚しやや外反する。口唇以下は縦方向にやや密な撚糸文で施文されている。167は口縁部破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）をやや含む。色調は淡灰褐色を呈する。口端は丸み残りやや外反する。口唇は無文で以下胴部にかけてLR縄文で施文されている。168は口縁部破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡褐色を呈する。口端は肥厚し丸みを持ち屈曲する。口唇は無文で以下胴部にかけてRL縄文で施文されている。169は口縁部破片で胎土はキメが細かい。色調は淡褐色を呈する。口端はやや丸みを持ちやや外反する。非常に薄手に作られたものである。口唇以下胴部にかけて縦方向のR撚糸文で施文されている。170は口縁部小破片で胎土に少量の白色砂（石英・長石粒）を含む。色調は淡灰褐色を呈する。口端は肥厚し丸みを持ちやや外反する。口唇以下胴部にかけて縦方向の撚糸文で施文されている。171は口縁部小破片で胎土にやや白色砂（石英・長石粒）を含む。色調は淡灰褐色を呈する。口端はやや肥厚し丸みを持ちやや外反する。口唇以下胴部にかけて縦方向のR撚糸文で施文されている。172は口縁部小破片で胎土に少量の白色砂（石英・長石粒）を含む。色調は淡灰褐色を呈する。口端はやや肥厚しやや外反気味である。口唇以下胴部にかけて縦方向の撚糸文で施文されている。173は口縁部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は暗褐色を呈する。口端はやや肥厚し丸みを持ち外反する。口唇は無文で以下胴部にかけて縦方向にRL縄文で施文されている。174は口縁部破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡灰褐色を呈する。口端は肥厚し丸みが強く外反気味である。口唇から頸部は無文で胴部にかけて縦方向にR撚糸文で施文されている。175は口縁部破片で胎土に大きめの白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡灰褐色を呈する。口端はやや肥厚しやや外反する。口唇以下胴部にかけて縦方向にL縄文で施文されている。176は口縁部破片で胎土に小粒の白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡褐色を呈する。口端はやや肥厚しやや外反する。口唇部は丸みがあり横方向に条線状のナデ、頸部以下縦方向にR撚糸文で施文されている。177は口縁部破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡褐色を呈する。口端は肥厚し丸みが強くやや外反する。口唇部以下縦方向にL撚糸文で施文されている。178は口縁部破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡褐色を呈する。口端は肥厚しやや外反する。口唇部は丸みがあり以下胴部にかけて縦方向にL撚糸文で施文されている。179は口縁部破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は明淡褐色を呈する。口端は肥厚せず外反する。口唇に押圧L撚糸文で施文されている。頸部の指ナデで調整後、以下縦方向にL撚糸文で施文されている。180は口縁部破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。色調は淡灰褐色を呈する。口端はやや細く屈曲する。口唇は丸く無文で頸部以下は縦方向に縄文で施文されている。181は口縁部小破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）をやや含む。色調は明淡褐色を呈する。口端は肥厚せず外反もあまりしない。口唇は無文で頸部以下縦方向にLR縄文で施文されている。182は口縁部破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡褐色を呈する。口端は肥厚し丸くなりやや外反する。口唇は無文で頸部以下L縄文で施文されている。183は口縁部破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）をやや含む。色調は淡明褐色



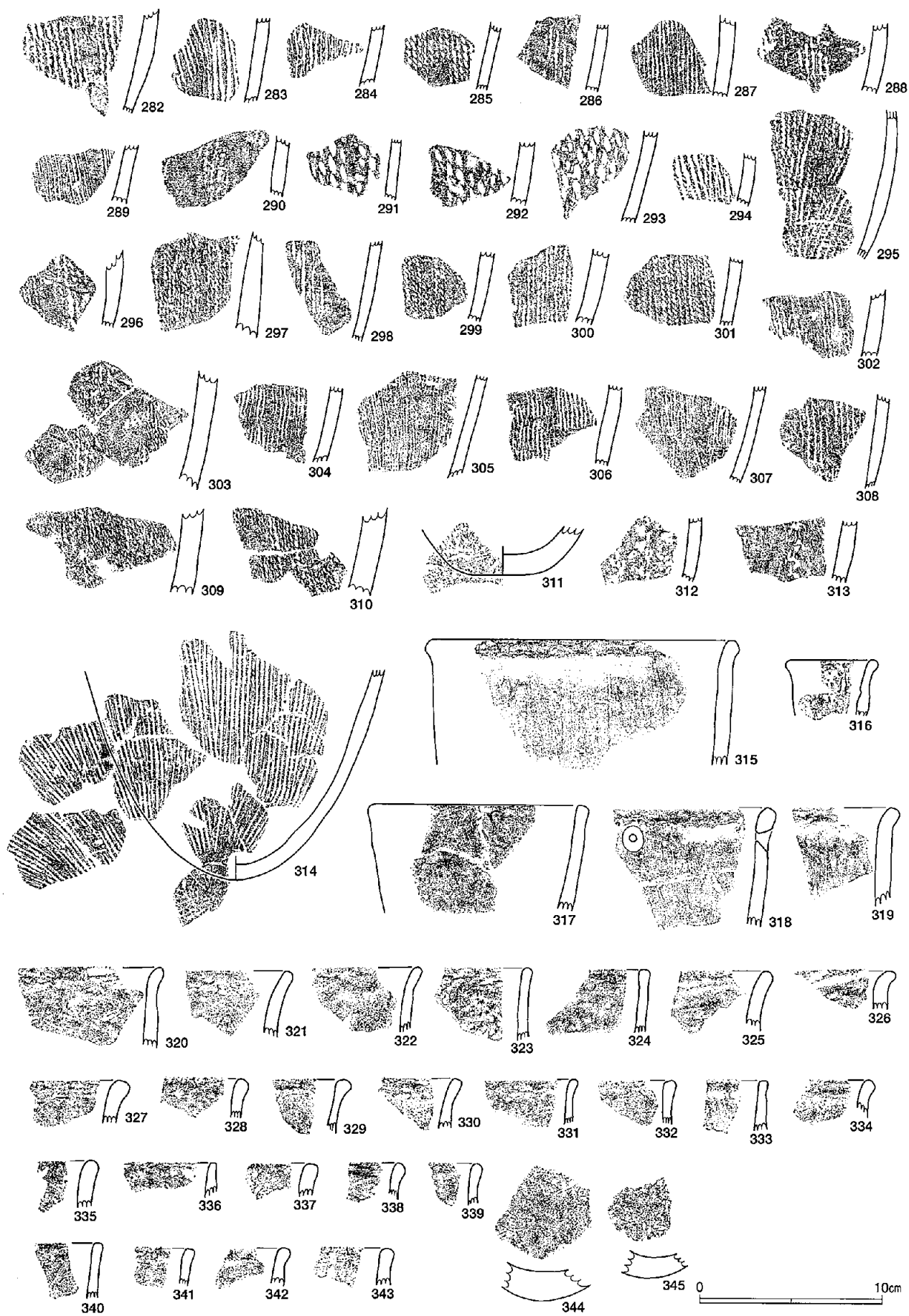
第49图 捺糸文系土器 (3)

を呈する。口端は肥厚せず丸くなりやや外反する。口唇は無文で頸部以下縦方向に軽くL撚糸文で施文されている。184は口縁部破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡灰褐色を呈する。口縁はやや肥厚し外反はあまりしない。口唇は無文で頸部以下は縦方向R撚糸文で施文されている。185は口縁部小破片で胎土に白色砂（石英・長石砂）をやや多量に含む。色調は淡褐色を呈する。口端はやや肥厚しやや外反する。口唇は無文で頸部以下はR撚糸文で施文されている。186は口縁部小破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）をやや含む。色調は淡褐色を呈する。口端は肥厚し丸くなりやや外反気味である。口唇は無文で頸部以下は縦方向に縄文で施文されている。187は口縁部小破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は暗褐色を呈する。口端は肥厚しやや外反する。口唇は無文で頸部以下は縦方向に縄文で施文されている。188は口縁部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡褐色を呈する。口端は肥厚せず外反もない。頸部以下に縦方向にR撚糸文で施文されている。189は口縁部小破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）をやや含む。色調は淡明褐色を呈する。口端はやや肥厚し平坦になりやや外反気味である。口唇は無文で頸部以下は縦方向にL撚糸文で施文されている。190は口縁部小破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）をやや含む。色調は淡褐色を呈する。口端はやや肥厚し平坦になりやや外反する。口唇は無文で頸部以下縦方向にL撚糸文で施文されている。191は口縁部小破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡暗褐色を呈する。口端はやや肥厚し丸みがありやや外反気味である。口唇は無文で頸部以下は縦方向にR撚糸文で施文されている。192は胴部下半大形破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡褐色を呈する。全体の形状は丸み強い砲弾形になるものと思われる。胴部に縦方向に縄文で施文されている。底部に近い部分は縦方向にナデで調整されている。193は胴部下半大形破片で胎土にやや大きめの白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡灰褐色を呈する。全体の形状は丸みの強い砲弾形になるものと思われる。胴部は縦方向に縄文で施文されている。194は胴部下半大形破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡灰褐色を呈する。全体の形状は丸みの強い砲弾形になるものと思われる。胴部は縦方向にL縄文で施文されている。195は底部大形破片で胎土にスコリア及び白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡褐色を呈する。丸みの強い形状の底部になると思われる。縦方向に縄文で施文されている。196は底部大形破片で胎土にスコリア及び白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡茶褐色を呈する。比較的丸みのない形状である。縦方向に縄文で施文されている。197は胴部下半の大形破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡灰褐色を呈する。胴部は縦方向にRL縄文で施文されている。198は底部破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡褐色を呈する。形状は丸み強いように思える。底部は縦方向に縄文で施文されている。199は底部破片で胎土にスコリア及び白色砂（石英・長石粒）をやや多量含む。色調は淡褐色を呈する。形状は丸み強いように思える。下半部は表面が剥落して不明だが縦方向にLR縄文で施文されている。200は胴部下半部の破片で胎土に若干のスコリア及び細かい白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。色調は淡褐色を呈する。縦方向に縄文で施文されている。201は胴部破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は暗褐色～淡褐色を呈する。縦方向にRL縄文が施されている。下部に穿孔途中の補修孔が見られる。202は胴部破片で胎土に若干のスコリア及び白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡灰褐色を呈する。縦方向に縄文で施文されている。203は胴部破片で胎土に少量のスコリア及び白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡灰褐色を呈する。縦方向にRL縄文で施文されている。204は胴部下半の破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡明褐色を呈する。縦



第50图 捺系文系土器 (4)

施文されている。233は胴部下半の破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。色調は淡灰褐色を呈する。縦方向にRL縄文で施文されている。234は胴部下半の破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡褐色を呈する。縦方向に縄文で施文されている。235は胴部下半の破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。色調は淡明褐色を呈する。縦方向にRL縄文で施文されている。236は胴部下半の破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を含む。色調は淡褐色を呈する。縦方向に縄文で施文されている。237は胴部下半の破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡褐色を呈する。縦方向にLR縄文で施文されている。238は胴部小破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は灰褐色を呈する。縦方向に撚糸文で施文されている。239は胴部下半の破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡明褐色を呈する。縦方向にLR縄文で施文されている。240は胴部下半の破片で胎土に比較的大粒の白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡灰褐色を呈する。縦方向にLR縄文で施文されている。241は胴部下半の小破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。色調は淡褐色を呈する。縦方向に縄文で施文されている。242は胴部下半の破片で胎土に細かな白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡褐色を呈する。縦方向にRL縄文で施文されている。243は胴部下半の破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡明褐色を呈する。縦方向に縄文で施文されている。244は胴部下半の破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡明褐色を呈する。縦方向にRL縄文で施文されている。245は胴部下半の破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡灰褐色を呈する。縦方向に縄文で施文されている。246は胴部下半の破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡褐色を呈する。縦方向にRL縄文で施文されている。247は胴部下半の破片で胎土にやや大粒の白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡明褐色を呈する。縦方向に縄文で施文されている。248は胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡横褐色を呈する。縦方向にLR縄文で施文されている。249は底部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。色調は淡褐色を呈する。撚糸文で施文されている。250は胴部下半の破片で胎土にやや細かい白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。色調は淡褐色を呈する。LR縄文で施文されている。251は胴部下半の破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡灰褐色を呈する。縦方向にLR縄文で施文されている。252は胴部下半の破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡褐色を呈する。縦方向に縄文で施文されている。253は胴部下半の破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を含む。色調は淡褐色～暗褐色を呈する。縦方向にRL縄文で施文されている。254は胴部下半の破片で細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡茶褐色を呈する。縦方向に縄文で施文されている。255は胴部下半の破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。色調は淡褐色を呈する。縦方向にLR縄文で施文されている。256は胴部下半の破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡褐色を呈する。縦方向にLR縄文で施文されている。257は胴部下半の破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡褐色～暗褐色を呈する。縦方向に縄文で施文されている。258は胴部下半の破片で胎土に若干のスコリアと多量に白色砂（石英・長石粒）を含む。色調は淡明褐色を呈する。縦方向にL撚糸文で施文されている。259は胴部小破片で胎土に細かい白色砂を含む。色調は淡灰褐色を呈する。縦方向に縄文で施文されている。260は胴部下半の小破片で胎土に細かな白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡褐色を呈する。縦方向に撚糸文で施文されている。261は胴部下半の破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡暗褐色を呈する。縦方向にRL



第51图 捺糸文系土器 (5)

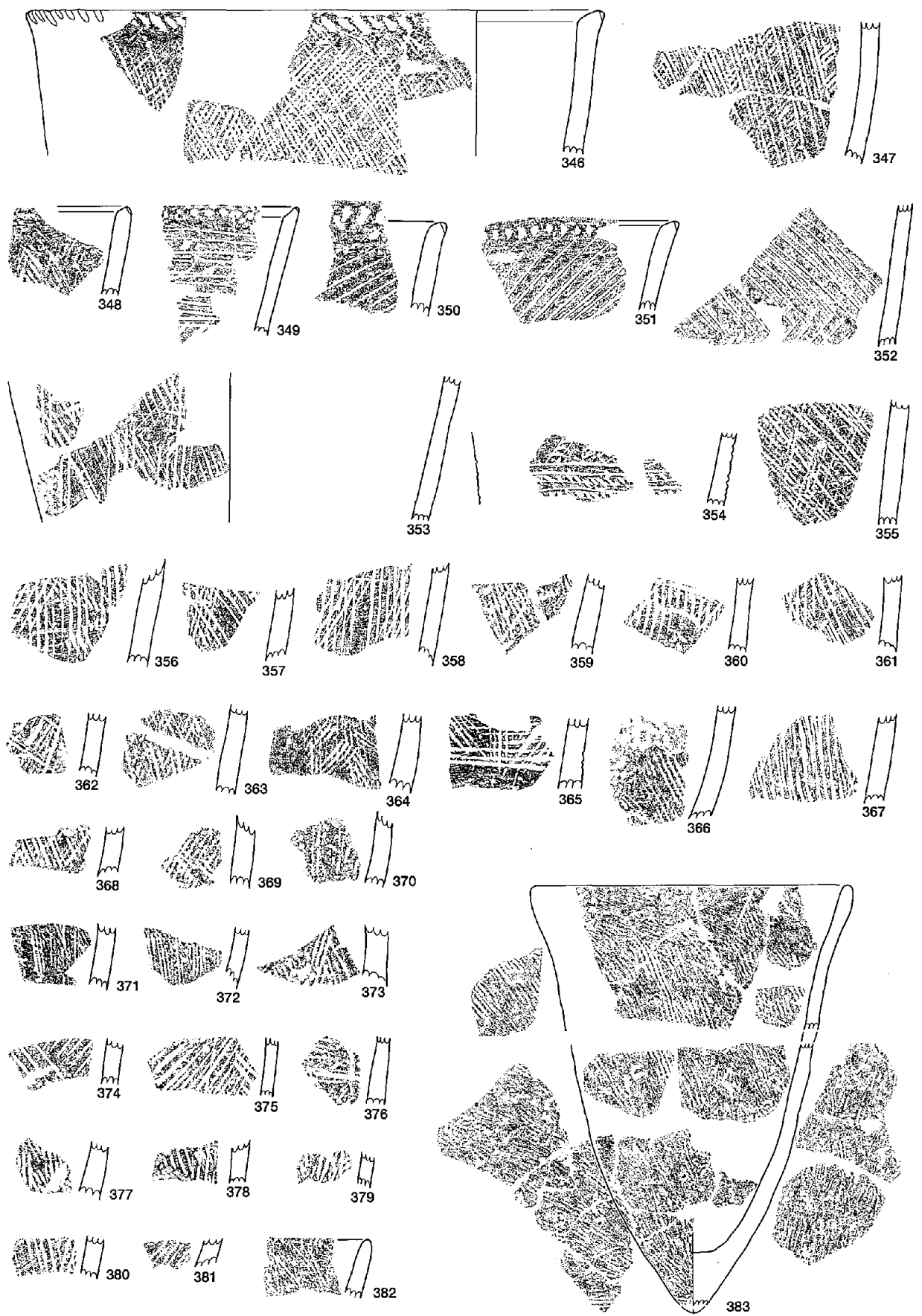
撚糸文で施文されている。290は胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡褐色を呈する。縦方向にR撚糸文で施文されている。291・292は胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡明褐色を呈する。縦方向にRL縄文で施文されている。293は胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡明褐色を呈する。縦方向にRL縄文で施文されている。294は胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡灰褐色を呈する。縦方向に撚糸文で施文されている。295は胴部～底部にかけての破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡明褐色を呈する。縦方向にR撚糸文で施文されている。296は胴部下半の小破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）をやや含む。色調は淡明褐色を呈する。縦方向にR撚糸文で施文されている。297は胴部下半の破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡褐色を呈する。縦方向にR撚糸文で施文されている。298は胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）をやや含む。色調は淡暗～明褐色を呈する。縦方向にR撚糸文で施文されている。299は胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）をやや含む。色調は淡明褐色を呈する。縦方向にR撚糸文で施文されている。300は胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）をやや含む。色調は淡灰褐色を呈する。縦方向にR撚糸文で施文されている。301は胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。色調は淡灰褐色を呈する。縦方向にR撚糸文で施文されている。302は胴部下半の小破片で胎土にやや細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡暗褐色～淡明褐色を呈する。縦方向にR撚糸文で施文されている。303は底部に近い破片で胎土に比較的大きめの白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡明褐色を呈する。縦方向にR撚糸文で施文されている。304は底部に近い小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。色調は淡灰褐色を呈する。縦方向にR撚糸文で施文されている。305は底部に近い破片で胎土に大粒の白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡灰褐色を呈する。縦方向にL撚糸文で施文されている。306は底部に近い小破片で胎土にやや細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡灰褐色を呈する。縦方向にL撚糸文で施文されている。307は底部に近い破片で胎土にやや大粒の白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。色調は淡褐色を呈する。縦方向にR撚糸文で施文されている。308は底部に近い小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡褐色を呈する。縦方向にR撚糸文で施文されている。309は底部に近い破片で胎土にやや大きめの白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。色調は淡暗灰褐色を呈する。縦方向にR撚糸文で施文されている。310は底部に近い破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡暗褐色を呈する。縦方向にR撚糸文で施文されている。311は底部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡灰褐色を呈する。R縄文で一部施文されている。312は底部に近い小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡褐色を呈する。RL縄文で施文されている。313は底部に近い小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡灰褐色を呈する。RL縄文で一部施文されている。314は胴部～底部にかけて残されている。全体にやや細く丸みがある形態である。胎土には白色粒（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡茶褐色を呈する。胴部～底部にかけて縦方向にR撚糸文で施文されている。315～345は撚糸文系土器の終末期に位置する土器群と思われるものである。315は口縁部～胴部上半の大形破片で胎土にやや大粒の白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡明褐色を呈する。口端は肥厚しやや外反する。口唇部は無文で、頸部以下は縦方向に条線を施している。316～343の土器片はいずれも比較的小形土器の破片と思われるものであ

る。316は小さな深鉢形土器の口縁部～胴部にかけての破片で胎土は非常に細かい。色調は淡明褐色を呈する。口端はやや肥厚しやや外反する。口唇及びそれ以下も無文である。317は口縁部～胴部にかけての破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡暗褐色を呈する。口端はあまり肥厚せずやや外反気味である。口唇及びそれ以下も無文である。318は口縁部～胴部にかけての破片で胎土にやや大粒の白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡灰褐色を呈する。口端は肥厚しやや外反気味である。口唇部及びそれ以下については無文である。一部縦方向に条線らしきものが見られる。頸部に補修孔が残されている。319は口縁部破片で胎土に小粒の白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。色調は淡褐色を呈する。口端は肥厚しやや外反気味である。口唇部及びそれ以下については無文である。320は口縁部破片で胎土にやや大粒の白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡茶褐色を呈する。口端は肥厚しやや外反する。口唇部及びそれ以下にはかすかに縄文を施文した痕跡は見られるものの意図的に消している。321は口縁部小破片で胎土にやや大粒の白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は褐色を呈する。口端はあまり肥厚せずやや外反する。口唇部は無文で頸部以下右斜めに条線らしき施文が見られる。322は口縁部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。色調は淡褐色を呈する。口端は肥厚せず外反する。口唇部及びそれ以下は無文である。323は口縁部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡明褐色を呈する。口端は肥厚せずやや外反する。口唇部及びそれ以下は無文である。324は口縁部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）をやや含む。色調は淡褐色を呈する。口端は肥厚せず外反しない。口唇部及びそれ以下は無文である。325は口縁部小破片で胎土にやや細かい白色砂（石英・長石粒）をやや含む。色調は淡暗褐色を呈する。口端はやや肥厚しやや外反気味である。口唇部は刻みを消したような痕跡が見られる。頸部以下は無文である。326は口縁部小破片で胎土にやや大粒の白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。色調は淡暗褐色を呈する。口端は肥厚せず外反する。口唇部及びそれ以下は無文である。327は口縁部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。色調は淡褐色を呈する。口端はやや肥厚し外反気味である。口唇部及びそれ以下は無文である。328は口縁部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡褐色を呈する。口端はやや肥厚し外反気味である。口唇部に施文された痕跡がうかがわれるが消されており詳細は不明である。頸部以下は無文と思われる。329は口縁部小破片で胎土に小粒の白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡灰褐色を呈する。口端は肥厚しやや外反する。口唇部及びそれ以下は無文である。330は口縁部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡灰褐色を呈する。口端は肥厚せずやや外反気味である。口唇部及びそれ以下は無文である。331は口縁部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。色調は淡明褐色を呈する。口端は肥厚せずやや外反気味である。口唇部及びそれ以下は無文である。332は口縁部小破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）をあまり含まない。色調は淡明褐色を呈する。口端はやや肥厚しやや外反気味である。口唇部及びそれ以下は無文である。333は口縁部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）をやや少量含む。色調は淡灰褐色を呈する。口端はあまり肥厚せずやや外反気味である。口唇部は無文で頸部以下は調整痕もしくは条線かもしれない模様が見られる。334は口縁部小破片で胎土にやや大粒の白色砂（石英・長石粒）をやや含む。色調は淡明褐色を呈する。口端は肥厚しやや外反気味である。口唇部及びそれ以下は無文である。335は口縁部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡暗褐色を呈する。口端はやや肥厚しやや外反気味である。口唇部及びそれ以下は無文である。336は口縁部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。

色調は灰褐色を呈する。口端はやや細くなり外反気味である。口唇部及びそれ以下は無文である。337は口縁部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡褐色を呈する。口端はやや肥厚し外反気味である。口唇部及びそれ以下は無文である。338は口縁部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡灰褐色を呈する。口端はやや肥厚し外反気味である。口唇部は無文で頸部は左斜め方向に若干の施文のようなものが見られるようである。調整痕かもしれない。339は口縁部小破片で胎土に大小の白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。色調は淡灰褐色を呈する。口端はやや肥厚しあまり外反しない。口唇部及びそれ以下は無文である。340は口縁部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡明褐色を呈する。口端は細くほぼ斜めに立ち上がる。口唇部及びそれ以下は無文である。341は口縁部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡灰褐色を呈する。口端はやや肥厚し外反気味である。口唇部及びそれ以下は無文である。342は口縁部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。色調は淡明褐色を呈する。口端はやや肥厚し外反気味である。口唇部及びそれ以下は無文である。343は口縁部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡褐色を呈する。口端はやや肥厚し外反気味である。口唇部及びそれ以下は無文である。344は丸底の底部破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡明褐色を呈する。一部に条線とおぼしき施文が行われていた形跡がうかがわれる。345は小形の土器の丸底の破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡明褐色を呈する。無文である。

（3）第Ⅲ群土器〔沈線文系土器〕（第52～58図346～561，図版27～30）

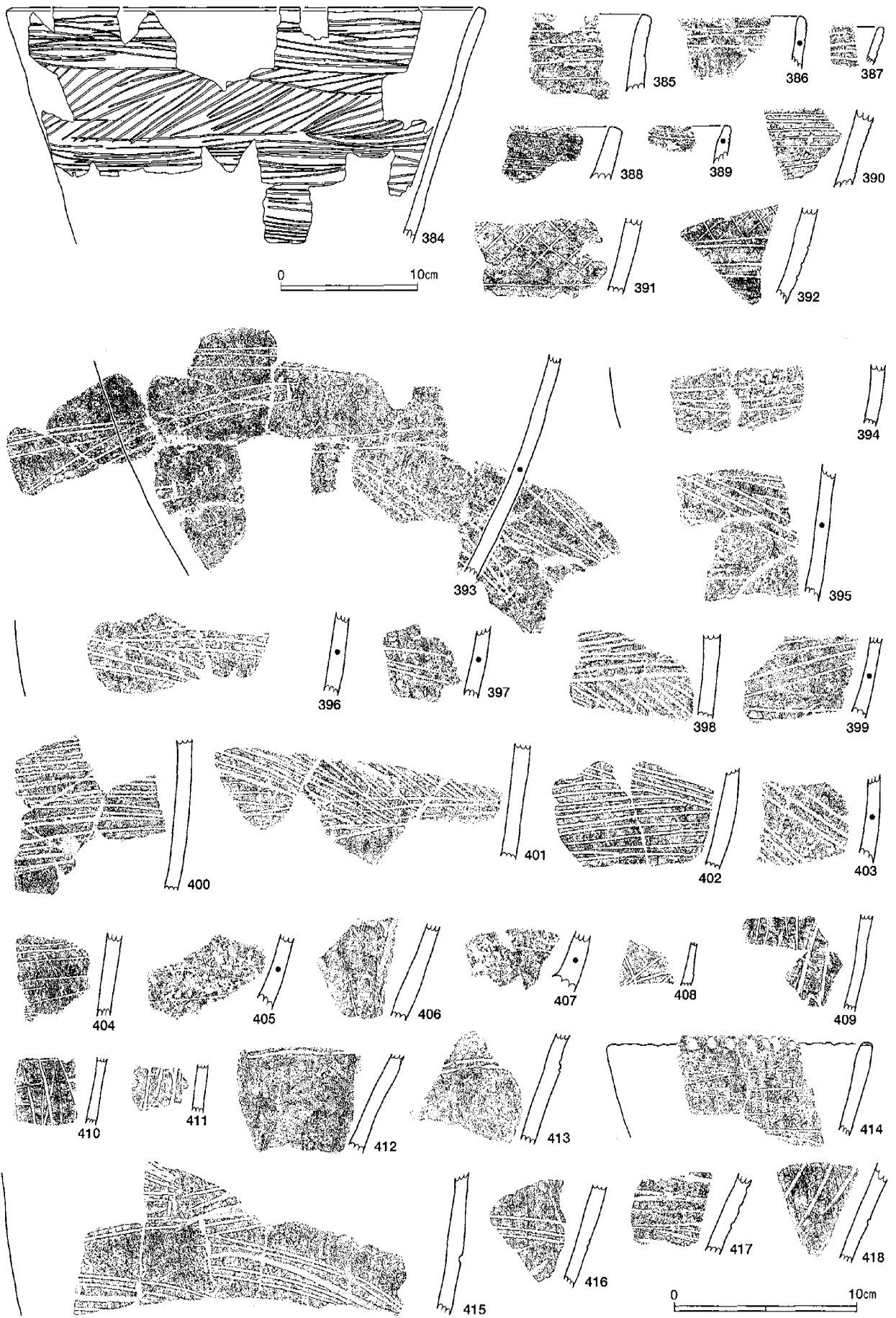
346～381までは三戸式の時期のものである。346は口縁部～胴部上半にかけての大形破片で胎土に多量のスコリアを含む。色調は淡暗褐色を呈する。口唇断面は内削ぎ状になっている。口唇の外側に斜位の刻目文が周回し、全面に格子状の条痕文が描かれている。347は胴部上半の破片で胎土に多量のスコリアを含む。色調は淡暗褐色を呈する。文様は346と同様である。348は口縁部破片で胎土に若干のスコリアとやや大粒の白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は褐色を呈する。口唇断面は内削ぎ状になっている。頸部以下に弱い格子状の条痕文が描かれている。内面は強く磨かれている。349は口縁部破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）をやや含む。色調は淡灰褐色を呈する。口唇断面は内削ぎ状になっている。口唇外側に斜位の刻目文が周回し、口縁から胴部にかけては多段の横方向の細沈線で施文されている。内面はナデによる調整が行われている。350は口縁部破片で胎土に細かな白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡灰褐色を呈する。口唇断面は内削ぎ状になっている。口唇外側に斜位の刻目文が周回し、頸部以下に右斜上に平行する条痕文で施文されている。351は口縁部破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を僅かに含む。色調は淡暗灰褐色を呈する。口唇断面は内削ぎ状になっている。口唇外側に斜位の刻目文が周回し、胴部方向から右斜め上方向に平行する条痕文で施文されている。352は胴部上半の破片で胎土にやや細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡褐色を呈する。上段では右下斜め方向へ平行する条痕文で下段では逆斜め方向へ平行する条痕文で施文されていて一部格子状に接する部分が見られる。353は胴部上半の破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を僅かに含む。色調は淡灰褐色を呈する。等間隔の三本を単位とする縦方向の細沈線の上に左上斜め方向の多数の平行する沈線を交差させ文様を充填させている。354は胴部破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を僅かに含む。色調は褐色を呈する。多段の平行する横方向の細沈線と斜め縦方向の条痕文を組み合わせただ中に刺突文を条痕文と条痕文の間に



0 10cm

第52図 三戸・三戸～田戸下層式土器

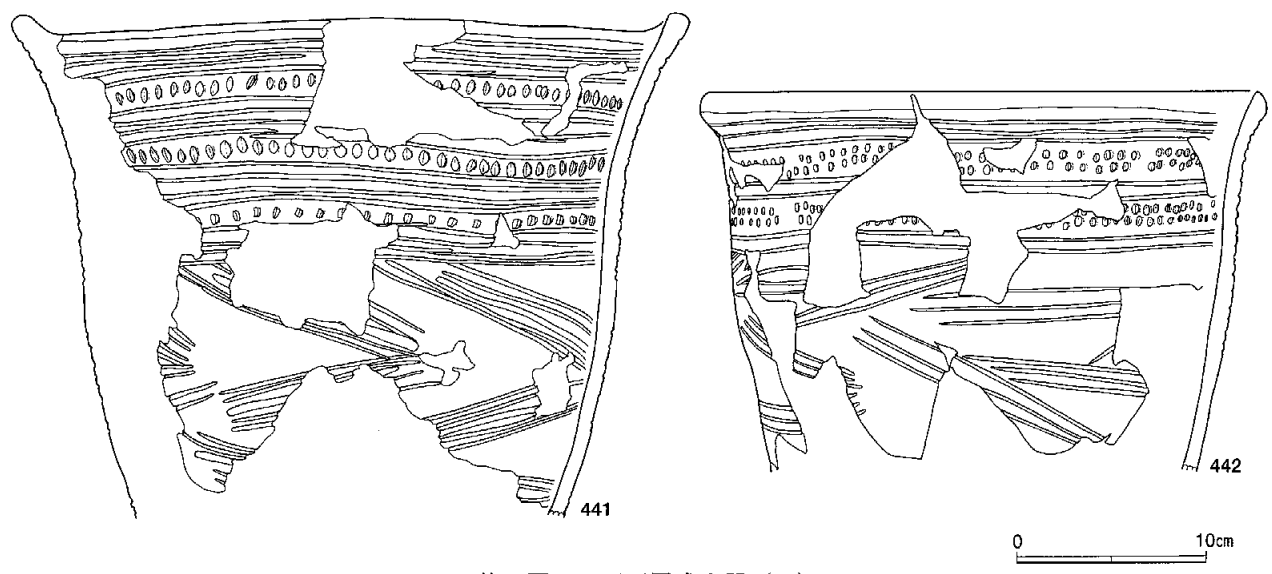
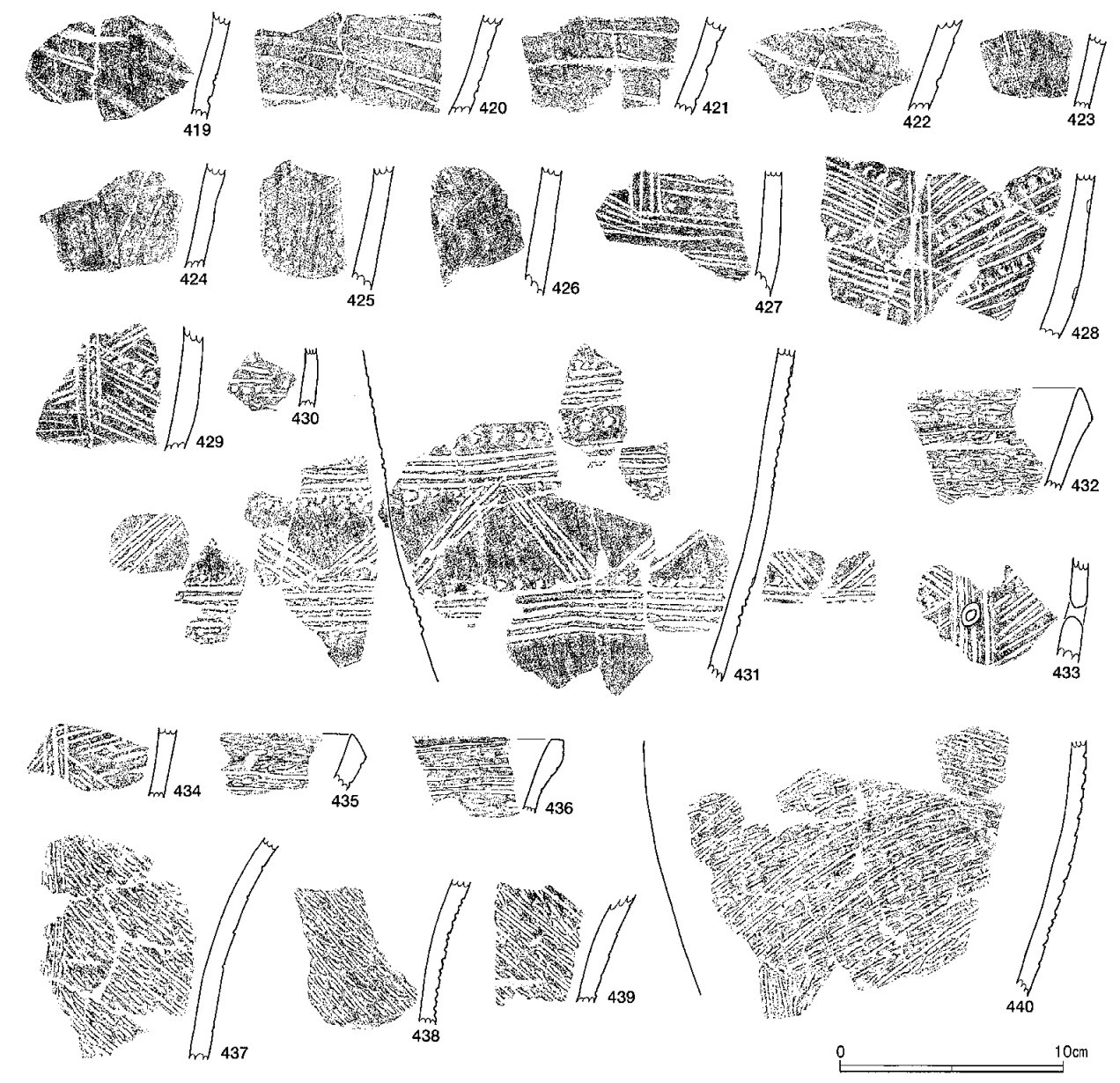
充填する文様構成である。355は胴部破片で胎土にスコリアを多量に含む。色調は淡明褐色を呈する。右斜め上方向からと左斜め上方向からの両方向から交差する条痕文で施文されている。356は胴部破片で胎土にスコリアを多量に含む。色調は淡褐色を呈する。縦方向の平行する条痕文を基本に平行する斜め左右からの条痕文で文様を構成している。357は胴部小破片で胎土にスコリアと細かい白色砂（石英・長石粒）をやや含む。色調は淡褐色を呈する。右斜め方向の条痕文を施文後、左斜め方向の条痕文で施文し格子状の文様を構成している。358は胴部破片で胎土にスコリアと細かい白色砂（石英・長石粒）をやや含む。色調は淡明褐色を呈する。縦方向の条痕文を施文後、右斜めの条痕文で施文し文様を構成している。359は胴部小破片で胎土に若干のスコリア及び細かい白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。色調は淡灰褐色を呈する。縦方向の条痕文を主体として右上斜め方向に複数の条線を配している。360は胴部小破片で胎土に若干のスコリア及び細かな白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。色調は淡明褐色を呈する。左斜め縦方向の比較的太めの条痕文で施文している。361は胴部小破片で胎土に若干のスコリア及び細かな白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。色調は褐色を呈する。縦方向と左斜め縦方向との比較的太めの条痕文で施文している。362は胴部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡褐色を呈する。斜め方向の太めの条痕文の間に左斜め方向に細かい条線で充填されている。363は胴部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は暗褐色を呈する。左右斜め方向の条痕文で施文されている。364は胴部小破片で胎土にあまり白色砂（石英・長石粒）を含まない。色調は赤褐色を呈する。縦方向の条痕文及び左右斜め方向の条痕文で施文されている。365は胴部破片で胎土に若干のスコリアを含む。色調は淡灰褐色を呈する。横方向の多段の細沈線に縦方向及び左右斜め方向の細沈線を充填して施文されている。下方は無文帯と思われる。366は胴部破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。色調は淡褐色を呈する。器表面はややあれ気味であるが、左斜め方向に条痕文で施文されている。367は胴部破片で胎土に少量のスコリアと白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。色調は淡暗褐色を呈する。縦方向に縦方向に複数回の条痕文で施文されている。368は胴部小破片で胎土に少量のスコリアと白色砂（石英・長石粒）をやや少量含む。色調は淡褐色を呈する。左右斜め方向の条痕文で格子状に施文されている。369は胴部小破片で胎土にやや小粒のスコリアと白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。色調は淡褐色を呈する。左右斜め方向の条痕文で格子状に施文されている。370は胴部小破片で胎土にスコリアと白色砂（石英・長石粒）を多量に含みやや粗い。色調は褐色を呈する。縦方向に近いやや右に傾斜した条痕文で施文されている。371は胴部小破片で胎土にやや粗い白色砂（石英・長石粒）をやや含む。色調は淡褐色を呈する。縦方向に条痕文で施文されている。左斜め方向には浅めの条線のようなものも見られる。372は胴部下半の小破片で胎土にやや粗い白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡褐色を呈する。縦方向に条痕文で施文されている。373はやや厚みのある胴部小破片で胎土に若干のスコリアとやや細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡灰褐色を呈する。左右斜め方向の条痕文で格子状に施文されている。374は胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。色調は淡黄褐色を呈する。左右斜め方向の条痕文で施文されている。375は胴部下半の小破片で胎土に少量のスコリアと白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。色調は淡褐色を呈する。左右斜め方向のやや太めの条痕文で施文されている。376は胴部下半の小破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。色調は淡黄褐色を呈する。横方向の条痕文で施文されている。377は胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡赤褐色を呈する。縦方向及び左斜め縦方向のやや浅い条痕文で



第53图 田戸下層式土器 (1)

施文されている。378は胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡褐色を呈する。縦方向及び左斜め縦方向のやや浅い条痕文で施文されている。379は胴部下半の小破片で胎土にやや大きめの白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。色調は暗褐色を呈する。縦方向及び右斜め縦方向の条痕文で施文されている。380は胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡褐色を呈する。縦方向及び斜め縦方向の条痕文で施文されている。381は胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡褐色を呈する。右斜め方向のやや幅のある条痕文で施文されている。

382～500は田戸下層の時期のものである。382は口縁部破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。色調は淡赤褐色を呈する。口端はやや丸みを持ちながらすぼむ。口唇部から胴部に向かって左斜め縦方向に条痕文で施文されている。383は推定口径17.1cm、器高22.5cmの尖底の深鉢形土器でおよそ1/3遺存している。口端はやや平坦で口唇部付近で角度が急になる。胴部あたりは丸みがあり膨らみ気味で底部に向かって尖る。胎土はやや大きめの白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡暗褐色～褐色を呈する。文様は口縁部は無文で横に軽くナデで調整されている。胴部以下は左斜め縦方向を主体に条痕文で仕上げられている。384は口縁部～胴部にかけて遺存している。胎土はやや大きめの白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡暗褐色～褐色を呈する。口端はほぼ平坦である。文様は口唇部から頸部にかけて横方向に複数の細沈線を配し、直下に右斜め横方向に細沈線で充填しさらにその下に横方向の細沈線を胴部にかけて配置するといった構成をとる。385は口縁部破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡黄褐色を呈する。口端は平坦でいくらか外反気味である。ほぼ等間隔で横方向に細沈線で施文されている。386は口縁部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。若干の繊維を含むように思われる。色調は淡灰褐色を呈する。口端は丸みがありほぼ直立する。口縁部に横方向の細沈線を3段に配し以下は無文帯になる。387は口縁部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡暗褐色を呈する。横方向の細沈線で施文されている。388は口縁部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）をやや含む。色調は暗褐色を呈する。口端は平坦である。口唇部は無文で、頸部は横方向に細沈線が複数平行して施文されている。389は口縁部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を含む。なお胎土には繊維を含むと思われる。色調は淡黒褐色を呈する。口唇部以下に横方向の平行する細沈線で施文されている。390は胴部上半の小破片で胎土にやや大粒の白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は茶褐色を呈する。横方向の細沈線が多段に施されている。391は胴部破片で胎土に若干のスコリア及び細かい白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。色調は淡茶褐色を呈する。文様は上段に格子状に細沈線を充填して下段に横方向に細沈線を配している。392は胴部小破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。色調は淡褐色を呈する。文様は上段に格子状に薄く細沈線を施した後に下段に横方向に平行細沈線を施している。393は胴部下半の破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。なお胎土には繊維を含んでいる。色調は淡茶褐色～褐色を呈する。文様は2本の横方向の平行沈線を基本に左斜め横方向の2～3本の沈線を配している。断面形はやや外に丸くふくらむ。394は胴部破片で胎土にやや大粒の白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡赤褐色を呈する。文様は横方向に平行沈線で施文されている。上下に右斜め方向に調整のような擦痕が見られる。395は胴部破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は暗褐色～淡赤褐色を呈する。文様は上下に横方向の複数の平行する細沈線で施文後、中程に3本の左斜めに平行する細沈線で施文されている。396は胴部破片で胎土に白色砂

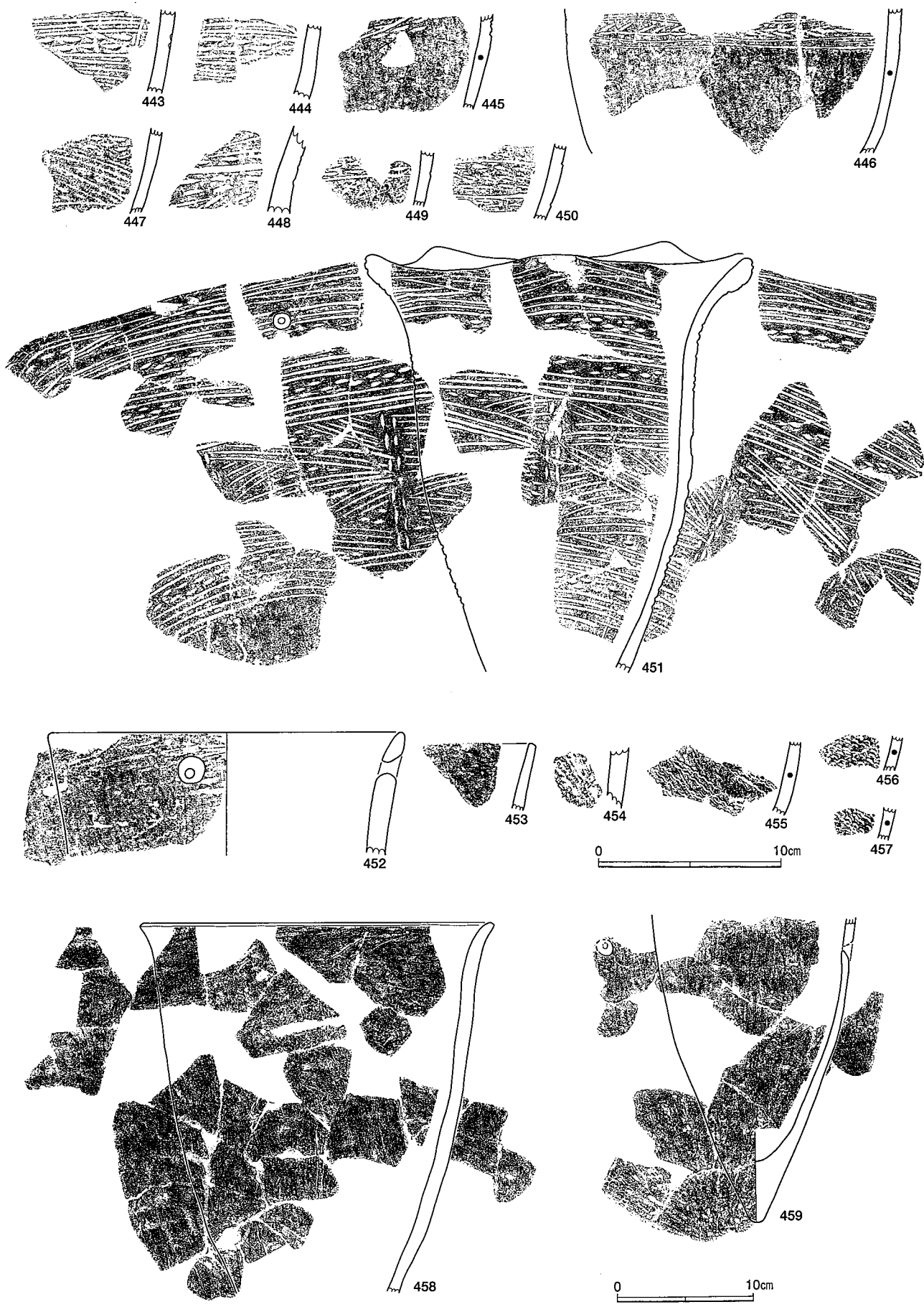


第54図 田戸下層式土器(2)

(石英・長石粒)を多量に含む。なお胎土には繊維を含んでいる。色調は淡茶褐色を呈する。文様は横方向の3本の平行する細沈線で施文後、左斜め横方向に3本の平行する細沈線で施文されている。397は胴部下半の小破片で胎土に白色砂(石英・長石粒)をやや多量に含む。なお胎土には繊維を含む。色調は淡褐色を呈する。文様はやや右に傾斜した横方向の3本の等間隔でない平行する細沈線で施文されている。398は胴部破片で胎土にやや大粒の白色砂(石英・長石粒)を多量に含む。色調は淡灰褐色を呈する。文様は上半分はやや左に傾斜した多段の狭い等間隔の平行沈線で、下半分は右に傾斜した狭い等間隔の多段の平行沈線を充填して施文されている。399は胴部下半の小破片で胎土に白色砂(石英・長石粒)を多量に含む。なお胎土に繊維を含む。色調は淡暗褐色を呈する。文様は2本の平行する横方向の細沈線を間隔をあけて配置し、その中に斜めの2本平行する細沈線を配置している。400は胴部破片で胎土に白色砂(石英・長石粒)をやや多量に含む。色調は淡灰～暗褐色を呈する。横方向の平行する沈線が全体に施文されている。401は胴部下半の破片で胎土に白色砂(石英・長石粒)をやや多量に含む。色調は淡灰褐色を呈する。横方向の複数の細沈線で施文後、上方を左斜め横方向に多数の細沈線で充填している。下方は無文帯になると思われる。402は胴部下半の破片で胎土に白色砂(石英・長石粒)をやや少量含む。色調は淡灰褐色を呈する。文様は平行する多段の細沈線及び右斜め下方向の平行細沈線で構成されている。403は胴部小破片で胎土に細かい白色砂(石英・長石粒)を多量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は褐色を呈する。右斜め下方向に狭い間隔の平行する細沈線及びやや間隔の広い細沈線により施文されている。404は胴部小破片で胎土に細かい白色砂(石英・長石粒)をやや多量に含む。色調は淡褐色を呈する。横方向の細沈線あるいは条線で施文されている。405は胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂(石英・長石粒)をやや含む。なお胎土に繊維が含まれる。色調は淡明褐色を呈する。横方向に条線が2本見られる。406は胴部下半の小破片で胎土に白色砂(石英・長石粒)を多量に含む。色調は淡褐色を呈する。縦方向に条線が見られる。407は底部上半の小破片で胎土に細かい白色砂(石英・長石粒)を若干含む。なお胎土に繊維を含むものと思われる。色調は淡灰褐色を呈する。横方向に1本条線が施文されている。408は胴部小破片で胎土に細かい白色砂(石英・長石粒)を少量含む。色調は淡灰褐色を呈する。左右斜め方向の細沈線で施文されている。409は胴部小破片で胎土にスコリア及び白色砂(石英・長石粒)を少量含む。色調は暗褐色～淡褐色を呈する。文様はやや右寄り縦方向の沈線及び縦方向の条線文で構成されている。410は胴部小破片で胎土に若干のスコリア及び白色砂(石英・長石粒)を少量含む。色調は暗茶褐色を呈する。文様はやや左斜め縦方向の平行する細沈線で施文されている。411は胴部小破片で胎土に細かい白色砂(石英・長石粒)をやや含む。色調は暗褐色を呈する。文様は縦方向の細沈線で施文されている。412は胴部下半の破片で胎土に若干のスコリア及び白色砂(石英・長石粒)を多量に含む。色調は淡明褐色を呈する。文様は横方向の沈線文の直下は無文帯が広がる。413は胴部下半の小破片で胎土に白色砂(石英・長石粒)をやや多量に含む。色調は淡明褐色を呈する。横方向の2条の平行細沈線の上下は無文帯が広がる。414は口縁部破片で胎土にスコリアと白色砂(石英・長石粒)を少量含む。色調は淡明褐色を呈する。口唇部は棒状工具による刺突で鋸歯縁となる。文様は横方向に平行の細沈線と斜め横方向の細沈線で施文されている。415は胴部破片で胎土にやや大粒の白色砂(石英・長石粒)を多量に含む。色調は淡明褐色～灰褐色を呈する。平行する斜め横方向の沈線を主体として施文されている。一部大きく無文帯を設けている。416は胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂を少量含む。色調は暗褐色を呈する。文様は横方向に平行する3本の沈線で施文されている。上下は無文帯である。417は胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂(石英・長石粒)をやや

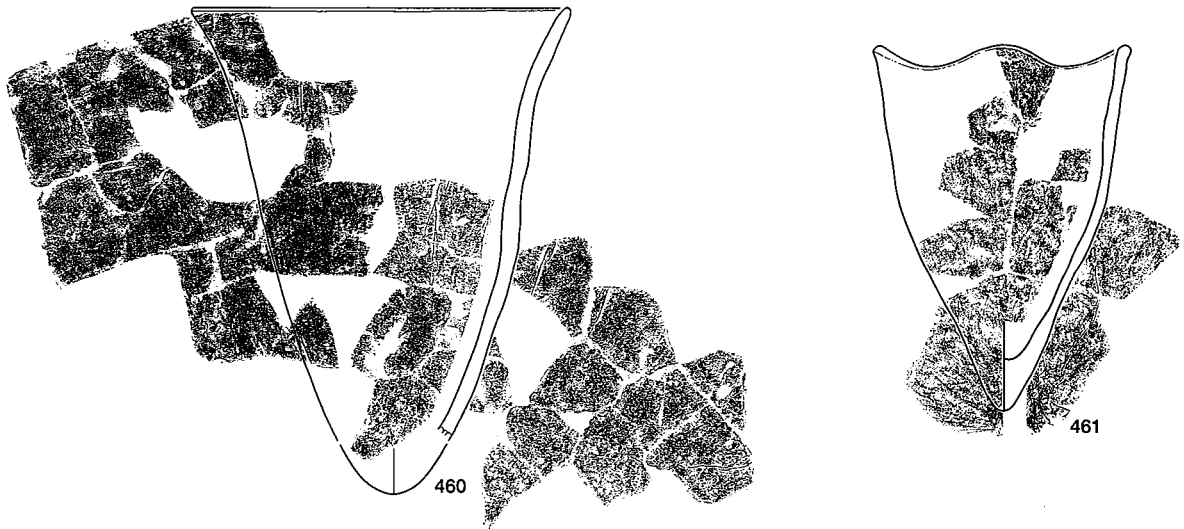
多量に含む。色調は淡灰褐色を呈する。横方向に平行する細沈線と斜め横方向に平行する細沈線で施文されている。418は胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡明褐色を呈する。右斜め縦方向に平行する沈線で施文されている。419は胴部小破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡茶褐色を呈する。横方向のやや不連続な沈線文で施文されている。420は胴部破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は明褐色を呈する。文様は斜め横方向のやや不連続な複数の沈線が見られる。421は胴部破片で胎土にやや細かい白色粒（石英・長石粒）が多量に含まれる。色調は褐色を呈する。文様は横方向の2本の平行する沈線が施されている。422は胴部下半の小破片で胎土にやや大粒の白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は褐色を呈する。文様は横方向及び右下斜め横方向のやや太めの沈線が施文されている。423は胴部下半の小破片で胎土にスコリア及び白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。色調は淡灰褐色を呈する。縦方向に調整のための条線のような文様が見られる。424は胴部下半の破片で胎土に小粒のスコリア及び白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡褐色を呈する。文様は横方向及び右上斜め縦方向に平行する細沈線が施文されている。425は胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡明褐色を呈する。文様は右上斜め横方向の沈線が施されている。下部は無文帯と思われる。426は胴部下半の小破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡茶褐色を呈する。文様は若干の縦方向の調整痕は見られるものの無文帯の部分であろう。427は胴部下半の破片で胎土に細かな白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡灰褐色を呈する。文様は横方向の細沈線を多段に配置し、さらに沈線と沈線の間には沈線で三角文を充填している。428は胴部下半の大形破片で胎土にやや大粒の白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は暗褐色を呈する。文様は中程に垂下する3本の平行沈線の左右斜め上横方向に多段の沈線で配置、中央部分には刺突による施文も行われている。429は胴部下半の破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は灰褐色を呈する。文様は中程に垂下する3本の平行沈線の左右斜め下横方向に多段の沈線で充填している。さらに垂下する沈線の間には刺突による施文が行われている。430は胴部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は明褐色を呈する。文様は横方向に多段の平行する細沈線を充填されている。さらに沈線と平行して横方向に刺突文が施文されている。431は胴部～底部上半にかけての大形破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は明褐色～暗褐色を呈する。文様は横方向の複数の平行沈線と三角となる斜め方向の平行沈線で区画されている。さらに横方向の平行沈線の間には刺突文が横方向に充填されている。432・435は口縁部破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は暗褐色～茶褐色を呈する。口端は細く口縁部外面は膨らみ角ばった形状となる。文様は横方向の細沈線で区画された間に横方向の細い破線状の爪形文で充填されている。433は胴部破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。中程に補修孔を残す。色調は淡灰褐色～暗褐色を呈する。文様は縦方向の複数の沈線の両側に斜め方向の細沈線を充填している。434は胴部小破片で胎土に白色砂をやや多量に含む。色調は淡灰褐色を呈する。文様は縦方向の平行沈線に斜め方向の細沈線を組み合わせ菱形模様で充填されている。さらに縦方向の沈線の間には刺突文が施されている。436は432・435と比較すると文様構成が横方向の沈線を多く配置して爪形文を少なくしている。胎土も若干白色砂（石英・長石粒）が少ないようで全体に細かい。437は胴部の大形破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は明褐色を呈する。文様は縦方向の平行沈線で区画された中を右斜め下方向に細沈線で区画しその間を爪形文で充填している。438・439は同様の文様構成である。440は437～439と逆方向の左斜め下方向に沈

線で区画して間に爪形文を配置する構成をとっているものの右隅では逆方向に模様も見られる。441・442は口縁部～胴部下半にかけてのもので胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡灰褐色を呈する。口端はやや丸みがあり大きく外反する。口縁部～胴部上半にかけて文様は横方向の沈線文を多段に配置し、間に爪形文を充填する構成をとる。胴部下半は右下斜め横方向の複数の沈線に下方に右上斜め横方向の文様を配置している。443・444は胴部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡灰褐色を呈する。文様は横方向に平行する細沈線ではほぼ構成され中程に二段の爪形文が配置されている。縦方向の沈線も若干見られる。445は胴部下半の破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。胎土には繊維が含まれる。色調は茶褐色を呈する。文様は一部の横方向の爪形文が見られる。大部分は調整による条痕及び無文になると思われる。446は胴部下半の大形破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。胎土には若干の繊維を含む。色調は淡茶褐色を呈する。文様は横方向の平行沈線の間斜め横方向と横方向の爪形文で施文されている。447は胴部下半の小破片で胎土にやや大粒の白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡褐色を呈する。文様は右下斜め横方向に多段の沈線が施文されている。また横方向の爪形文も一部見られる。448は胴部小破片で胎土にスコリア及びやや大粒の白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡明褐色を呈する。文様は横方向の沈線とその間に横方向の爪形文を充填する構成をとる。449は胴部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡褐色を呈する。文様は上方が横方向の細沈線と平行する爪形文で構成されている。下方は無文である。450は胴部小破片で胎土にやや細かい白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。色調は淡茶褐色を呈する。文様は横方向の沈線とその間に充填された爪形文で構成されている。451は口縁部～底部上半まで復元できる個体で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。色調は淡褐色を呈する。波状口縁で口端は肥厚し大きく外反する。いわゆるキャリパー形と呼ばれる形状で胴部がやや張り出し底部で細くなるものである。口縁部に横方向の沈線文を主体に爪形文を充填する文様帯を2段に挟み、胴部以下は縦方向の爪形文で区画された間に斜め横方向の沈線文を配置して構成されている。452は口縁部大形破片で胎土に細かい白色砂を多量に含む。色調は淡灰褐色を呈する。口端がやや内削ぎ気味である。文様は口縁部付近に横方向の条痕文が見られる。口縁部に焼成後の補修孔が見られる。頸部には輪積み痕をやや残す。453は口縁部小破片で胎土にスコリア及び白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は暗褐色を呈する。文様は無文である。454は口縁部に近い胴部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。色調は暗褐色を呈する。文様は左上斜め横方向の条痕文で施文されている。やや生焼け気味と思われる。455は底部に近い胴部下半の破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を若干含む。なお繊維もやや多く含むと思われる。色調は明褐色を呈する。文様はやや斜め横方向に貝殻復縁文で施文されている。456・457は胴部小破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を若干含み繊維を多く含むと思われる。色調は灰褐色を呈する。同一個体の上下と思われやや斜め方向に貝殻復縁文が施文されている。458は口縁部～底部上半までをほぼ復元できる個体で胎土に白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡灰褐色を呈する。口端はやや細く外反する。文様は調整で条痕が若干認められるものの全体的には無文と思われる。459は底部の大形破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡褐色を呈する。尖底で細長い形状となるもので458の下部に接合してもおかしくない個体である。文様は無文で焼成後の補修孔が残されている。460・461は口縁部～底部まで復元できる個体で胎土に白色砂（石英・長石粒）をやや多く含む。色調は淡灰褐色を呈する。尖底で細く立ち上がり口縁部でやや外反する。文様は無文である。461は波状口

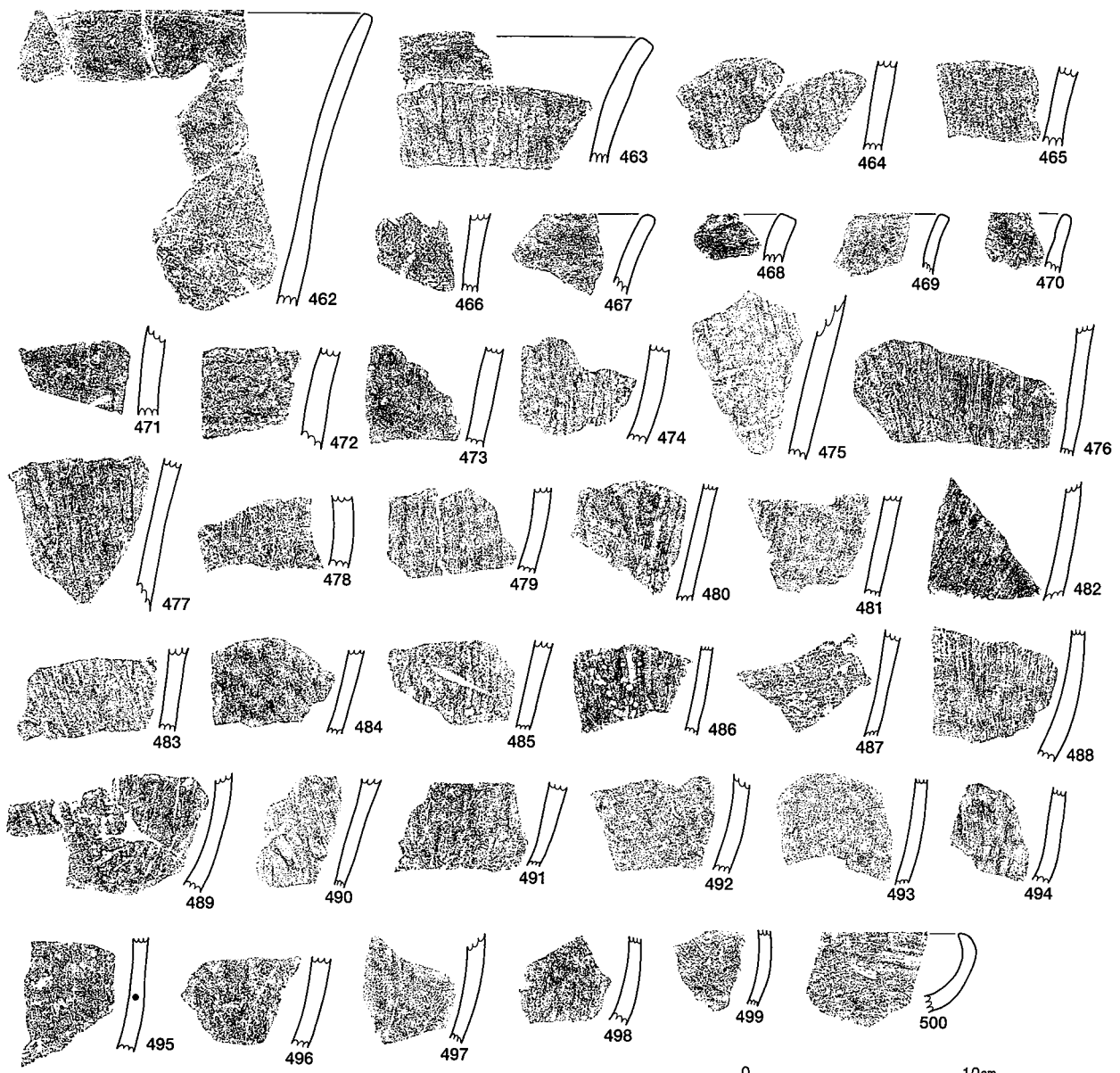


第55圖 田戸下層式土器（3）

縁で文様は無文で小さな個体である。462は口縁部～胴部下半の大形破片で胎土の白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡褐色を呈する。文様は口縁部付近に横方向に条痕のようなものが認められるが、調整のために意図されたものとは思われない。463は口縁部破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡灰褐色を呈する。文様は縦方向に調整のための条痕が認められる。口端はやや厚みを持ち外反気味である。464は胴部小破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡灰褐色を呈する。文様は縦方向の調整痕は残されているものの無文と思われる。465は胴部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。色調は暗褐色を呈する。文様は調整のための縦方向のヘラケズリが認められるが意図されたものではないと思われる。466は胴部小破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡灰褐色を呈する。調整で縦方向のケズリ痕が認められる。文様は無文と思われる。467は口縁部小破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は暗褐色を呈する。調整で横方向の擦痕が残されている。468は口縁部小破片で胎土に細かい白色砂を多量に含む。色調は暗褐色を呈する。調整で横方向の擦痕が残されている。文様は無文と思われる。469は口縁部小破片で胎土にスコリアと細かい白色砂を多量に含む。色調は淡褐色を呈する。調整で横方向の擦痕が残されている。文様は無文と思われる。470は口縁部小破片で胎土に細かい白色砂を少量含む。色調は明褐色を呈する。調整で斜め方向の擦痕が残されている。口唇部が若干刻まれていると思われる。文様は無文である。471は胴部上半の破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡灰褐色を呈する。調整のため横方向の擦痕が残されている。文様は無文である。472は胴部破片で胎土に若干のスコリアと白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は明褐色を呈する。調整のため横方向のナデが残されている。文様は無文である。473は胴部破片で胎土に若干のスコリアと白色砂（石英・長石粒）を少量含む。調整のため縦方向の擦痕が残されている。文様は無文である。474は胴部破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡灰褐色を呈する。調整のため縦方向のヘラケズリが残されている。文様は無文である。475は胴部破片で胎土に細かい白色粒（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡灰褐色を呈する。調整のため縦方向のヘラケズリが残されている。文様は無文である。476は胴部破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は明褐色を呈する。調整のため縦方向にミガキ痕が残されている。文様は無文である。477は胴部破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。色調は淡明褐色を呈する。調整のため縦方向にミガキ痕が残されている。文様は無文である。478は胴部小破片で胎土にやや大粒の白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡褐色を呈する。調整のため縦方向にミガキ痕が残されている。文様は無文である。479は胴部小破片で胎土に細かな白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡灰褐色を呈する。調整のため縦方向に条線のように残されている。文様は無文である。480は胴部小破片で胎土に細かな白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡暗褐色を呈する。調整のため縦方向にミガキ痕が残されている。文様は無文である。481は胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は明褐色を呈する。調整のため斜め方向にミガキ痕が残されている。文様は無文である。482は胴部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡明褐色を呈する。調整のため縦方向にミガキ痕が残されている。文様は無文である。483は胴部小破片で胎土にやや細かい白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。色調は淡灰褐色を呈する。調整のため斜め方向にミガキ痕が残されている。文様は無文である。484は胴部小破片で胎土にスコリアと白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。色調は明褐色を呈する。調整は縦方向と斜め方向にミガキ痕が残されている。文様は無文である。485は胴部小破片で胎土に



0 10cm



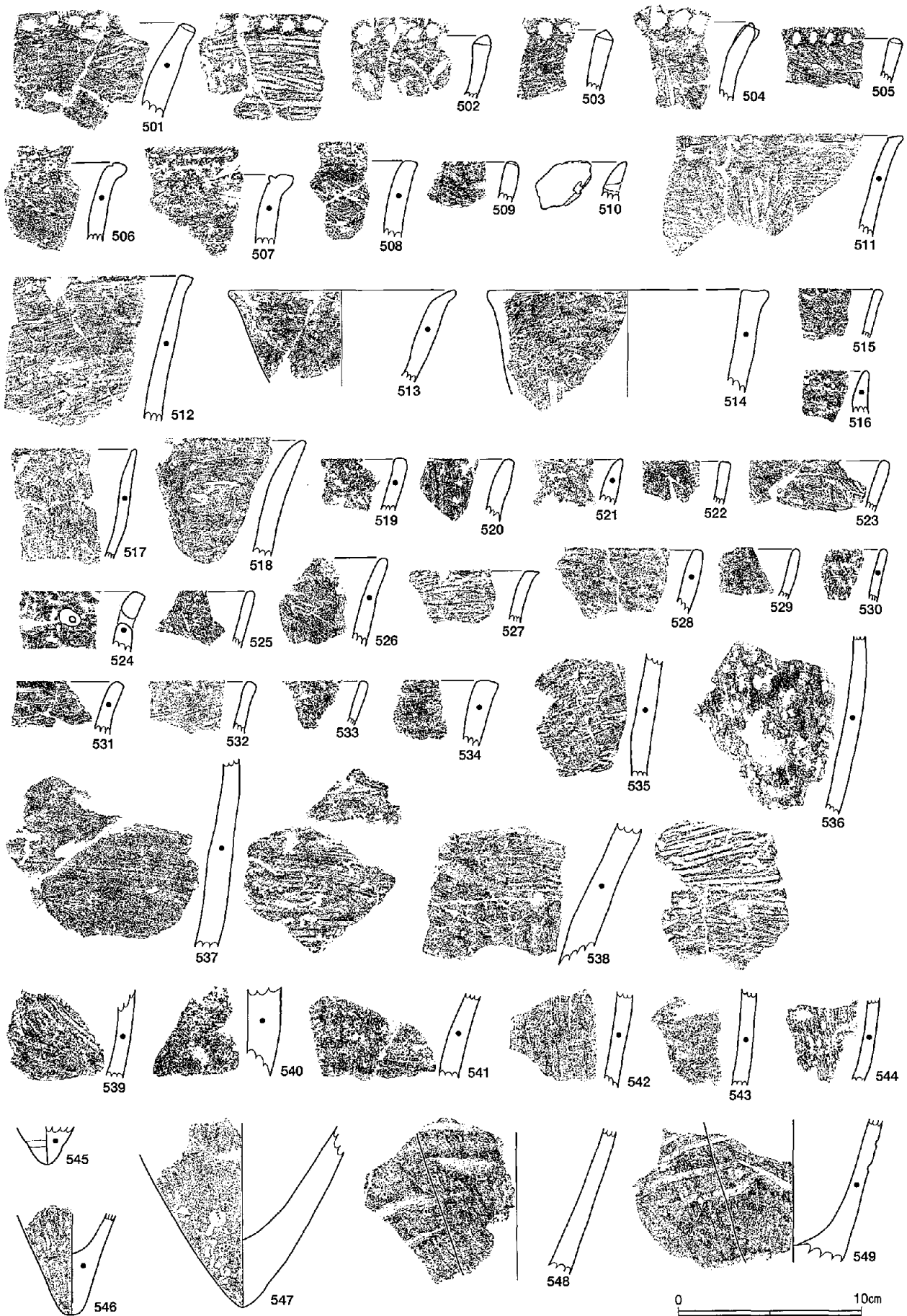
0 10cm

第56图 田戸下層式土器 (4)

細かい白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。色調は明褐色を呈する。調整は縦方向にミガキ痕が残されている。文様は無文である。486は胴部下小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡褐色を呈する。調整は縦方向にヘラミガキ痕が残されている。文様は無文である。487は胴部下小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は明褐色を呈する。調整により横方向の線状痕が残されている。文様は無文である。488は胴部下小破片で胎土にスコリアと白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。色調は淡明褐色を呈する。調整により縦方向の線状痕が残されている。文様は無文である。489は胴部下小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。調整により縦方向に線状痕が残されている。文様は無文である。490は底部上半の小破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡灰褐色を呈する。調整により縦方向のヘラミガキ痕が残されている。文様は無文である。491は胴部下小破片で胎土に少量のスコリアと白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡褐色を呈する。調整により縦方向に線状痕が残されている。文様は無文である。492は胴部下小破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡褐色を呈する。調整により縦方向に線状痕が残されている。文様は無文である。493は胴部下小破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。色調は淡褐色を呈する。調整により縦方向に若干の線状痕が残されている。文様は無文である。494は胴部下小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡灰色を呈する。調整により縦方向にミガキ痕が残されている。文様は無文である。495は胴部下小破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は明褐色を呈する。調整により縦方向に線状痕が残されている。文様は無文である。496は胴部下小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。色調は淡灰褐色を呈する。調整により縦方向に線状痕が残されている。文様は無文である。497は胴部下小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡明褐色を呈する。調整により縦方向に線状痕が残されている。文様は無文である。498は胴部下小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡褐色を呈する。調整により縦方向に線状痕が残されている。文様は無文である。499は底部小破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡灰褐色を呈する。調整により縦方向に線状痕が残されている。文様は無文である。500は小形の土器の口縁部～胴部にかけての破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。色調は淡褐色を呈する。調整は横方向のヘラケズリ痕が残されている。文様は無文である。

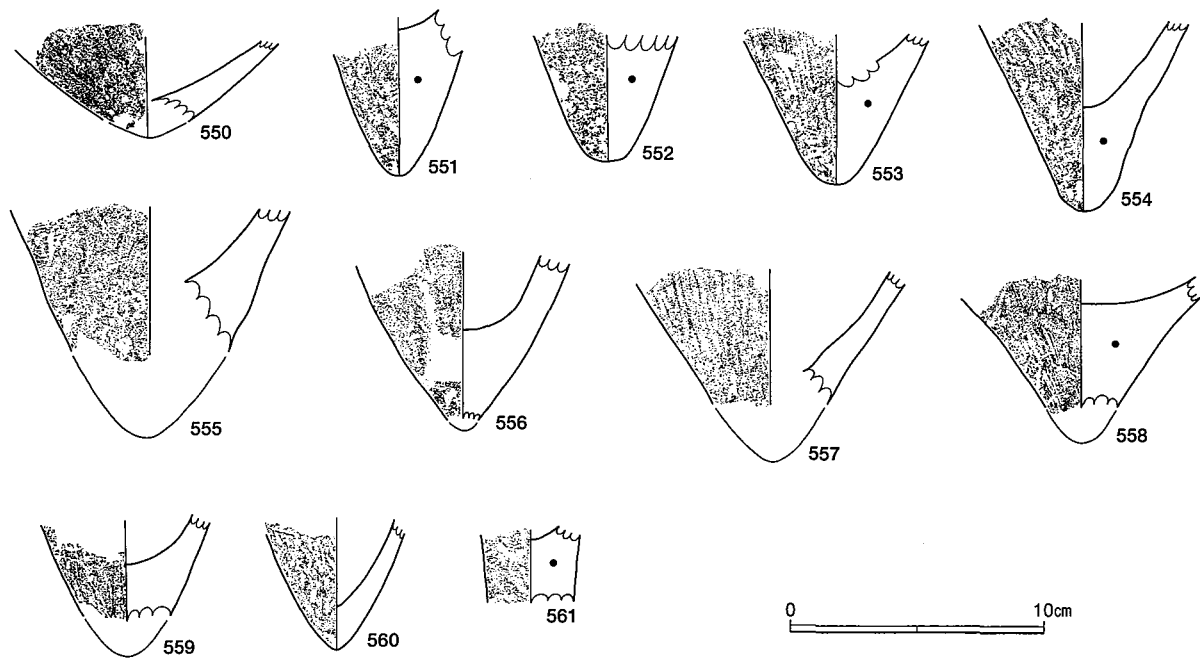
501～561は田戸上層の時期のものである。501は口縁部破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡褐色を呈する。口唇部には半裁竹管による刺突文が施され、表面はナデ仕上げ、裏面は条痕文で施文されている。502・503は口縁部破片で胎土にやや多くのスコリアを含む。色調は淡灰褐色を呈する。口唇部は棒状工具による刺突文で波状としている。表面、裏面とも無文である。504は口縁部破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡灰褐色を呈する。口唇部にやや斜め方向に棒状工具による刺突で波状口縁としている。表面、裏面ともに無文である。505は口縁部小破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。色調は淡褐色を呈する。口唇部は棒状工具で口縁に直交して刺突を行い施文している。表面、裏面とも無文である。506・507は口縁部破片で胎土にやや大粒の白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。なお胎土には繊維が含まれている。色調は淡褐色を呈する。口唇部内側に口縁に沿って角押文が施文されている。表面は無文で裏面はわずかに横方向の条痕文が施されている。507は口唇部がやや肥厚し頸部には不明瞭な横方向の細沈線が見られる。

508は口縁部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。なお胎土に繊維が含まれる。色調は褐色～暗褐色を呈する。やや肥厚した口唇部に不明瞭な刺突文が見られる。表面には条線状の施文が見られる。509は口縁部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡灰褐色を呈する。口唇部にやや不明瞭であるが細かい刻み目が認められる。表面は細い斜め方向に条線が見られる。510は口縁部小破片で胎土は細かい。色調は淡灰褐色～暗褐色を呈する。口端は内削ぎ状になり細い。表面には半裁竹管の刺突による穿孔が見られる。511は口縁部～胴部上半にかけての破片で胎土にやや大きめの白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡褐色を呈する。口端は角頭状になりやや外反気味である。口唇部は無文で表面は横方向の条痕で調整後、縦方向の条痕文で仕上げられている。裏面は横方向の薄い条痕文が残されている。512は口縁部～胴部上半の大形破片で胎土にやや大粒の白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡茶褐色を呈する。口端は角頭状になりやや外反気味である。文様は表面、裏面ともに斜め横方向の条線文で施文されている。513は口縁部破片で胎土にスコリア及び細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は明褐色を呈する。口端はつまみ上げて外反させている。外面胴部上半あたりに斜め方向に条線を施している。514は口縁部破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。なお胎土には繊維を含む。色調は暗褐色を呈する。口端はややつまみかげんで肥厚し外反する。内外面ともにナデで仕上げられており無文である。515は口縁部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡茶褐色を呈する。表面には斜め方向にヘラケズリによる調整が見られる。516は口縁部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は褐色を呈する。ナデ調整で仕上げられている。517は口縁部～胴部にかけての破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡暗褐色を呈する。ナデ仕上げ後に表面を縦方向にヘラナデを行い仕上げている。518は口縁部破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡灰褐色を呈する。口端は細く緩やかに外反する。外面には所々横斜め方向に条線による施文が行われている。519は口縁部小破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を若干含む。なお胎土には繊維を含む。色調は淡灰褐色を呈する。口端は角頭状になり内面は丁寧に磨かれている。外面は比較的粗くナデ仕上げになると思われる。520は口縁部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は明褐色を呈する。外面に縦方向の強いミガキ痕が残されている。521は口縁部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維を含む。色調は褐色を呈する。内外面ともに縦方向にナデで仕上げられており、無文である。522は口縁部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は灰褐色を呈する。内面は横方向のナデ仕上げ、表面は縦方向に強いミガキ痕を残す。523は口縁部破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡褐色を呈する。内外面とも横方向に調整のための擦痕が残されている。無文である。524は口縁部破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は暗茶褐色を呈する。内外面ともナデで仕上げられている。頸部にある補修孔は焼成後に両側穿孔されている。文様は無文である。525は口縁部小破片で胎土にやや細かいスコリアと白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は灰褐色を呈する。表面に斜め縦方向に条線が施文されている。526は口縁部破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡灰褐色を呈する。表面、裏面とも縦方向のナデで仕上げられており、文様は無文である。527は口縁部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は褐色を



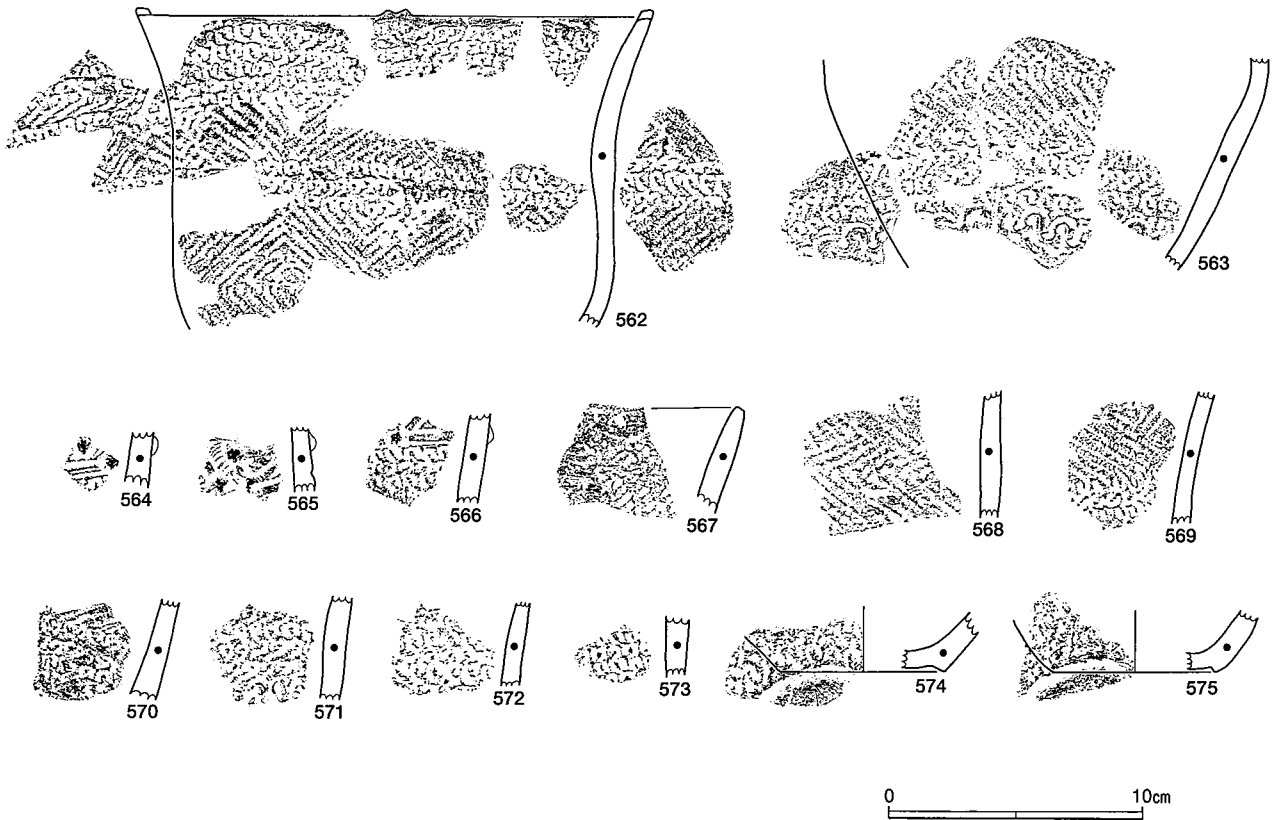
第57图 田戸上層式土器 (1)

呈する。口端は平坦でやや外反気味である。文様は表面、裏面とも条痕文で施文されている。528は口縁部破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。なお胎土には繊維が少し含まれる。色調は淡黄褐色を呈する。文様は外面は無文で内面は条痕文と思われる。529は口縁部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は明褐色を呈する。ナデ調整で仕上げられており、表裏面とも無文である。530は口縁部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維を含む。色調は暗褐色を呈する。ナデ調整で仕上げられており、表裏面とも無文である。531は口縁部小破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は暗褐色を呈する。外面は横方向に条線で施文されている。532は口縁部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡褐色を呈する。外面は横方向にやや薄く条痕文で施文されている。内面はナデで仕上げられている。533は口縁部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）をやや含む。色調は淡褐色を呈する。内外面ともに若干の条線が施されている。534は口縁部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。口端はやや肥厚し平坦に仕上げている。内外面とも無文である。535は胴部破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡褐色を呈する。内外面とも横方向を主体とした条痕文が施文されている。536は胴部下半の大形破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）をやや含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡灰褐色を呈する。内外面とも器面はやや荒れている。文様は無文と思われる。537は胴部下半の大形破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。なお胎土には繊維が多量に含まれる。色調は茶褐色を呈する。文様は横方向に条線文が一部施文されている。538は胴部下半の大形破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。なお胎土には繊維が多量に含まれる。色調は暗褐色を呈する。文様は表裏面ともに横方向を主体とした条痕文が施文されている。539は胴部下半の小破片で胎土にスコリアと細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が多量に含まれる。色調は淡褐色を呈する。文様は表面が斜め方向に条痕文が施文されている。裏面は調整時の擦痕が多く見られる。540は底部上半の破片で胎土に細かい白色砂をやや含む。なお胎土には繊維が多量に含まれる。色調は淡灰褐色を呈する。文様は表面に条線状のものが見られるが器面が荒れていて判然としない。541は底部上半の破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は暗褐色を呈する。文様は表裏面とも調整のための縦方向の擦痕は見られるものの無文と思われる。542は底部上半の破片で胎土にやや大粒の白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は明褐色を呈する。表面側に顕著な縦方向のヘラケズリでの調整痕が残されている。543は底部上半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡褐色を呈する。表裏面ともにナデで仕上げられており無文である。544は底部上半の小破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡茶褐色を呈する。表裏面ともにナデで仕上げられており無文である。545は底部の尖底部分で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）をやや含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡灰褐色を呈する。調整痕は見られるものの無文である。546は底部の尖底部分で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は明～暗茶褐色を呈する。調整のためのヘラケズリは見られるものの無文である。547は底部の尖底部分で胎土に大粒の白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡褐色を呈する。調整のための縦方向のヘラケズリは見られるものの無文である。548は底部下半の破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。色調は茶褐色を呈する。横方向にやや浅く粗い沈線



第58図 田戸上層式土器（2）

が見られる。549は尖底の直上部分の破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡茶褐色を呈する。横方向にやや浅く粗い沈線が見られる。550は底部の破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を少量含む。形状はあまり尖底とならない。色調は明褐色を呈する。縦方向の調整が見られる。551は底部の尖底部分で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡明褐色を呈する。縦方向のヘラケズリによる調整が見られる。552は底部の尖底部分で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は茶褐色を呈する。表面は荒れていて調整等は不明である。553は底部の尖底部分で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は茶褐色を呈する。縦方向のヘラケズリによる調整が見られる。554は底部の尖底部分で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は茶褐色を呈する。縦方向に強いヘラケズリによる調整が見られる。555は底部の尖底部分の上半部の破片で胎土にやや大粒のスコリアと細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡茶褐色を呈する。一部縦方向にヘラケズリが残されている。556は底部の尖底部分の破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡茶褐色を呈する。縦方向にヘラケズリで調整されている。557は底部の尖底部分の上半部の破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。外面は縦方向にヘラケズリで調整されている。558は底部の尖底部分で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡茶褐色を呈する。外面は強い縦方向のヘラケズリによる調整が見られる。559は底部の尖底部分の上半部で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡明褐色を呈する。ヘラケズリによる調整のため縦方向の擦痕が残されている。560は底部の尖底部分で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。色調は明褐色を呈する。ヘラケズリによる調整のため縦方向の擦痕が若干残されている。561は底部の尖底部分の上半部で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は茶褐色を呈する。ヘラケズリによる調整のため縦方向の擦痕が若干残されている。



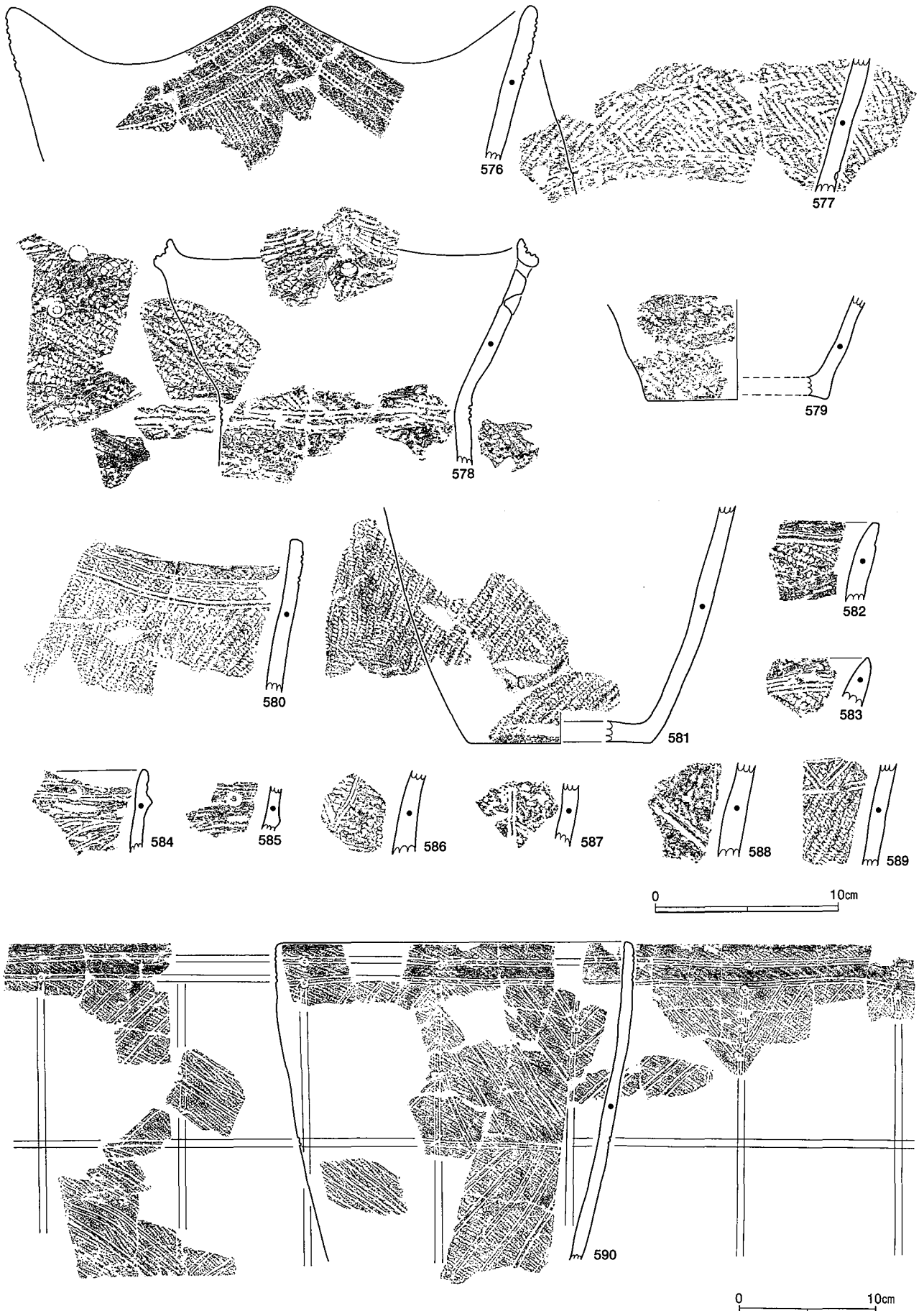
第59図 関山式土器

(4) 第IV群土器〔前期前半〕(第59～64図562～783, 図版30～33)

562～575は関山の時期の土器群と思われる。562は口縁部から胴部にかけて残されてもので胎土に細かい白色砂(石英・長石粒)をやや多量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は暗褐色を呈する。口縁は平坦である。文様は異節縄文と斜縄文で交互に施文されている。563は胴部下半の大形破片で胎土に細かい白色砂(石英・長石粒)をやや多量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は茶褐色を呈する。文様は斜縄文・異節縄文さらに下方にコンパス文が施文されている。562の同一個体である可能性もある。564～566は口縁部付近の小破片で胎土に細かい白色砂(石英・長石粒)を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調はいずれも茶褐色を呈する。これらは沈線と貼瘤さらに異節縄文で施文されている。567は口縁部破片で胎土に細かい白色砂(石英・長石粒)をやや多量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡茶褐色を呈する。文様は口唇部より斜縄文で施文されている。568は胴部破片で胎土に細かい白色砂(石英・長石粒)を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡灰褐色を呈する。文様は斜縄文で施文されている。569は胴部上半の破片で胎土に細かい白色砂(石英・長石粒)を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は茶褐色を呈する。文様は斜縄文・異節縄文で施文されている。570は胴部上半の小破片で胎土に細かい白色砂(石英・長石粒)を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡茶褐色を呈する。文様は斜縄文・異節縄文・斜縄文と施文されている。571は胴部上半の小破片で胎土に細かい白色砂(石英・長石粒)を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡茶褐色を呈する。文様は異節縄文・斜縄文で施文されている。572・573は胴部上半の小破片で胎土に細かい白色砂(石英・長石粒)を

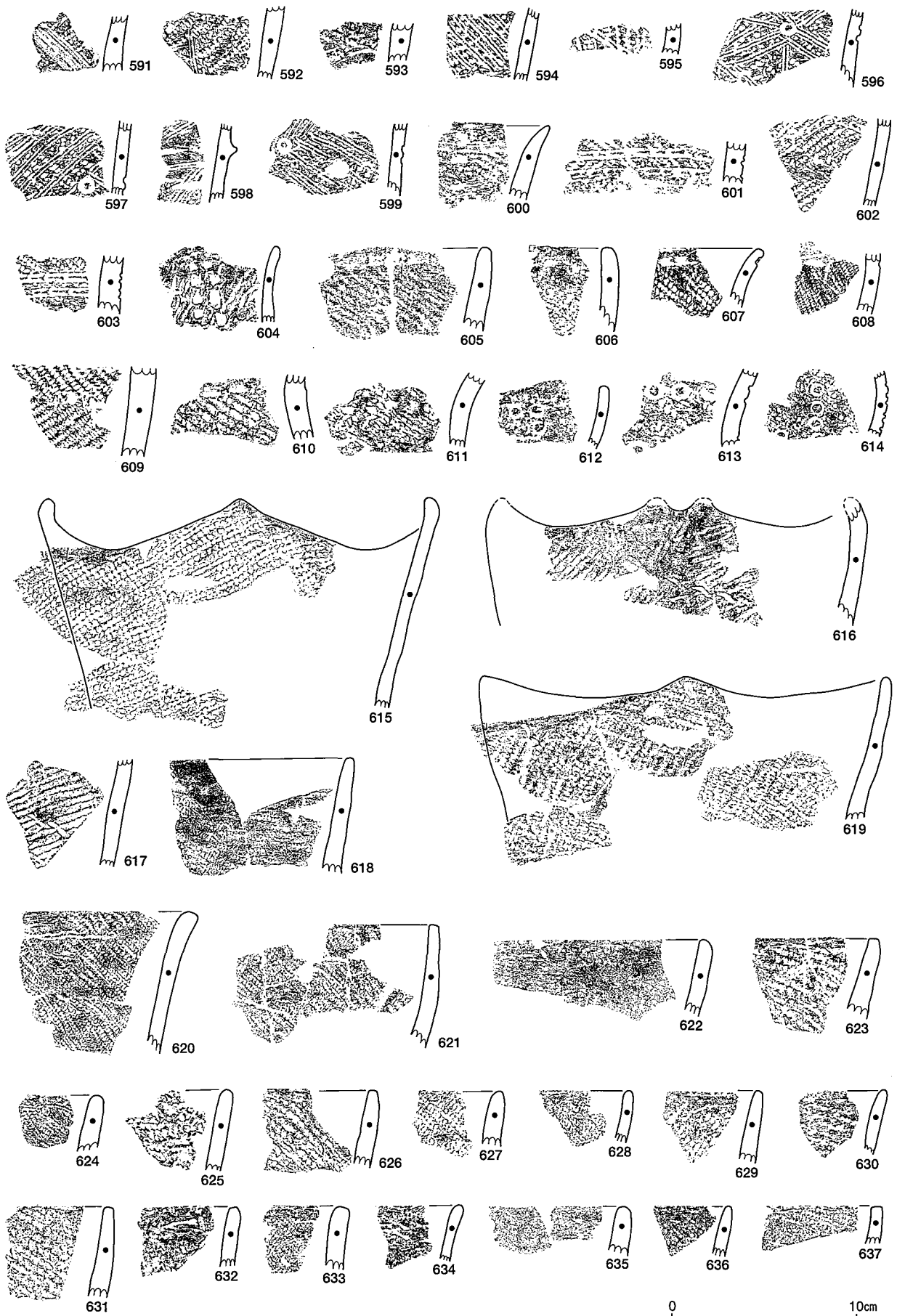
少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡茶褐色を呈する。文様は異節縄文で施文されている。574・575は底部の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡明褐色を呈する。文様は異節縄文で施文されている。

576～783は黒浜の時期の土器群と思われる。576は口縁部の大形破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が多量に含まれる。色調は暗褐色を呈する。文様は斜縄文を地文にして、やや丸みのある波状口縁に沿って竹管による押引きによる施文と竹管によるスタンプで構成されている。577は胴部大形破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が多量に含まれる。色調は淡茶褐色を呈する。文様は羽状縄文を地文にして下段に半裁竹管のよる横方向の押引き沈線が見られる。578は口縁部～胴部にかけて残存したもので胎土に白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には細かい繊維が多量に含まれる。波状口縁に沿って押引き細沈線を多段に配置し、さらにその下方に粘土紐を貼り付けて区画して、その中に羽状縄文を地文にして下段に半裁竹管のよる横方向の押引き沈線が見られる。口縁部には棒状工具による刺突孔が残されている。579は底部破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は明褐色を呈する。文様は斜縄文で施文されている。580は口縁部の大形破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は暗褐色を呈する。斜縄文を地文にして波状口縁に沿って押引きによる二段の平行沈線を配置している。581は底部の大形破片で胎土の白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は明褐色を呈する。文様は斜縄文が施されている。582は口縁部の小破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡茶褐色を呈する。口縁部に沿って押引きによる平行沈線の下に斜縄文が施文されている。583は口縁部の小破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡茶褐色を呈する。口縁部に沿って押引きによる平行沈線の下に斜縄文が施文されている。584は口縁部破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を微量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は明褐色を呈する。文様は口縁部に沿って平行沈線を配置し、粘土紐の隆帯で区画された下方は斜め方向の平行沈線を充填している。585は口縁部に近い小破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を微量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は明褐色を呈する。文様は横方向の押引きによる平行の細沈線と円形の刺突文で構成される。586は胴部上半の小破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を微量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。文様は斜縄文を地文に沈線で施文されている。587は胴部上半の小破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が微量に含まれる。色調は明褐色を呈する。文様は縦方向の押引きによる平行沈線が残されている。地文には斜縄文が施されている。588は胴部上半の破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡灰褐色を呈する。文様は地文の縄文を縦方向の平行沈線、斜め方向の平行沈線で区画している。589は胴部破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を微量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は明褐色を呈する。文様は斜縄文を地文として横方向の押引きによる平行沈線と斜め方向の沈線で三角に区画帯を描いている。590は口縁部～胴部下部分にかけて残存したもので胎土に白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡灰褐色を呈する。斜縄文を地文にして平坦な口縁部に沿って横方向に二段の平行沈線を配置し、さらに縦方向と横方向に十文字に平行沈線で区画して、その中を左右上下対称に斜方向に菱形になるような模様構成で施文されていると思われる。縦方向の沈線上には円形の刺突文を配している。591は胴部小破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を微量に含む。なお胎土には繊



第60图 黑浜式土器 (1)

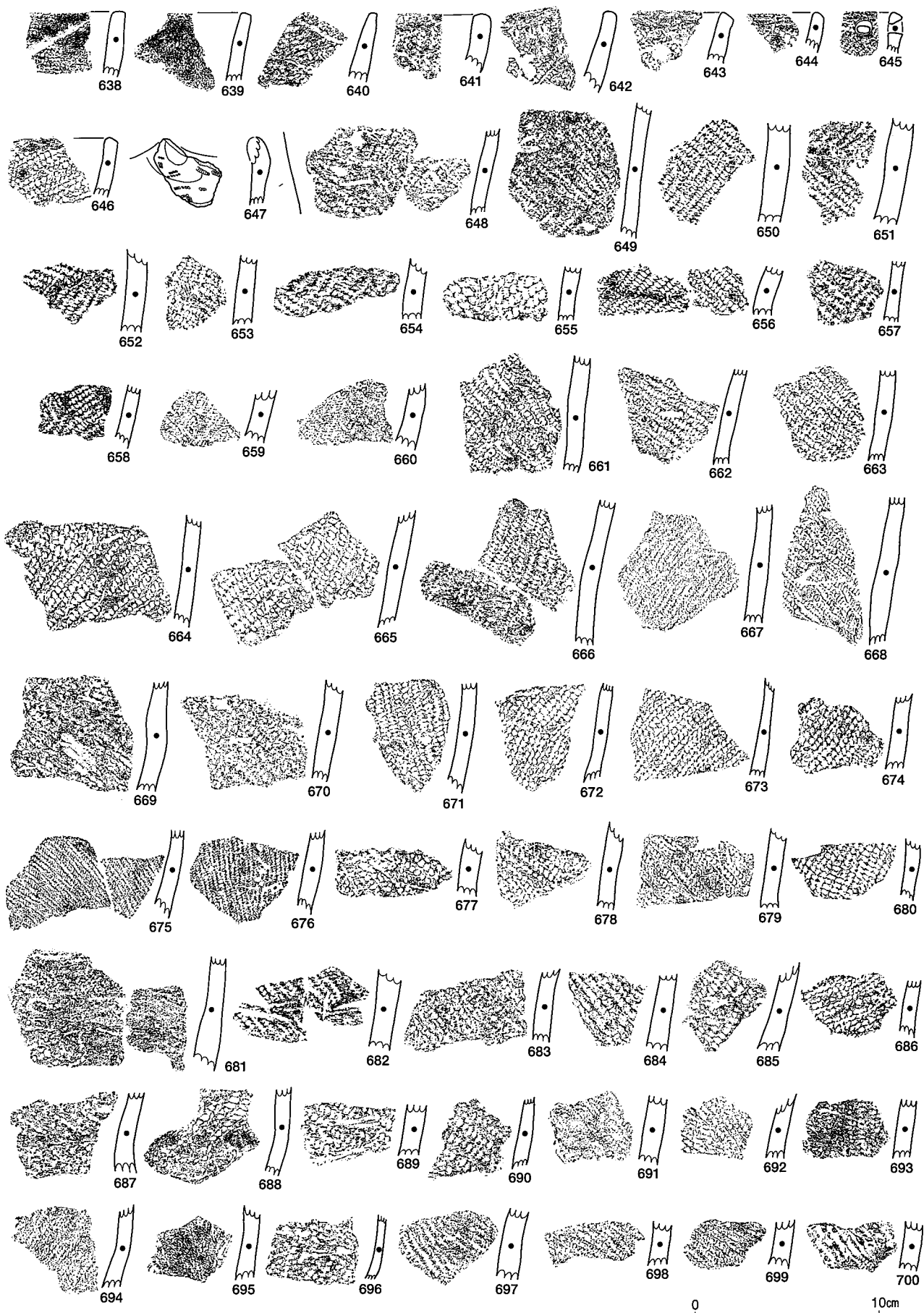
維が含まれる。色調は淡灰褐色を呈する。斜縄文を地文にして斜方向の二列の平行沈線で区画されている。592は胴部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を微量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡灰褐色を呈する。斜縄文を地文にして一部縦方向に沈線で施文されている。593は胴部小破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を微量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡灰褐色を呈する。斜縄文を地文にして一部横方向の平行沈線が見られる。594は胴部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を微量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は明褐色を呈する。斜縄文を地文にして逆斜め方向に平行沈線を充填している。595は口縁部に近い小破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を微量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡灰褐色を呈する。斜縄文を地文に斜め方向の沈線が見られる。596は胴部に近い破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を微量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。斜縄文を地文にして中央部に円形刺突文があり、それを中心にして上下左右に放射状に沈線を配置している。597は口縁部に近い胴部の破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を微量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡灰褐色を呈する。斜縄文を地文にして逆斜め方向の平行沈線を充填している。右下隅の円形刺突文の右側は逆斜め方向の沈線が配置されている。598は口縁部に近い胴部の破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡灰褐色を呈する。文様は横方向に粘土紐を貼り付けた隆帯を挟んだ上下に斜め方向の沈線を配置している。599は胴部破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を微量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡灰褐色を呈する。文様は斜縄文を地文に密に斜め方向の平行沈線を充填している。左隅の円形刺突文の左側は逆斜め方向の沈線が配置されている。600は口縁部破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡灰褐色を呈する。文様は斜縄文を地文にして口縁部よりやや下方に平行して沈線で区画されている。601は口縁部に近い胴部破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡灰褐色を呈する。文様は斜縄文を地文にして横方向に複数の平行沈線を配置している。602は胴部破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を微量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡灰褐色を呈する。斜縄文で施文されている。603は胴部小破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を微量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡灰褐色を呈する。文様は斜縄文を地文にして横方向に平行沈線で区画されている。604は波状口縁の一部の口縁部破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を微量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。形態はやや外反する。色調は淡灰褐色を呈する。文様はやや粗い斜縄文を地文に縦方向に棒状工具による刺突文が並ぶ。605～607は口縁部破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡灰褐色～暗褐色を呈する。これらの文様は斜縄文を地文にして口唇部に横方向に押引きによる沈線文が配置されている。608は口縁部付近の小破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を微量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡灰褐色を呈する。斜縄文を地文にして上方に横方向の沈線を配している。609は胴部破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡灰褐色を呈する。羽状縄文が施文されている。610は胴部小破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡茶褐色を呈する。斜縄文を地文にして上方に横方向の棒状工具による刺突文を配置している。611は胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡灰褐色を呈する。やや粗い斜縄文を地文にして横方向の棒状工具による刺突文を配置している。612は口縁部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡褐色を呈する。



第61图 黑浜式土器(2)

粗い斜縄文を地文にして円形刺突文がやや不規則に配置されている。613は胴部上半の破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡灰褐色を呈する。非常に粗い斜縄文を地文にして横方向に円形刺突文が配置されている。614は口縁部に近い胴部破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡灰褐色を呈する。やや粗い斜縄文を地文にして縦方向に狭い間隔で円形刺突文が並ぶ。615は口縁部～胴部下半にかけて残存しているもので口縁部は波状口縁である。胎土に白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡褐色を呈する。斜縄文が全面に施文されている。616は口縁部が大きく残存しているもので胎土に白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡褐色を呈する。斜縄文が異方向に施文されている。617は胴部破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡褐色を呈する。文様は斜縄文を地文にして圧痕文を施している。618は口縁部の大形破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡褐色を呈する。文様は所々に斜縄文が施されているのみである。619は口縁部～胴部上半にかけて残存しており、胎土に白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。口縁部は波状口縁である。口縁部に近い部位はL斜縄文で下方はR斜縄文で施文されている。620は口縁部破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡灰褐色を呈する。文様は斜縄文を地文にして一部横方向に押圧縄文で施文している。621は口縁部の大形破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡灰褐色を呈する。文様は全体に斜縄文で施文されている。622は口縁部破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡灰褐色を呈する。文様は殆ど無文に近いが所々斜縄文が施されている。623は口縁部破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡灰褐色を呈する。文様は全体に斜縄文が施されている。624～637は口縁部小破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は暗～淡灰褐色を呈する。文様は全体にやや細かいものから密度がなく粗い斜縄文などが施文されている。638は口縁部小破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を微量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は灰褐色を呈する。文様は細かい縄文が縦方向に施文されている。639は口縁部小破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を微量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡灰褐色を呈する。文様は全体に浅い斜縄文が施文されている。640は波状口縁部になる口縁の小破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を微量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡茶褐色を呈する。文様は口縁部に沿って沈線を施し、以下は斜縄文で施文されている。641は口縁部小破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡褐色を呈する。文様はやや粗い斜縄文で施文されている。642は口縁部小破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は灰褐色を呈する。斜縄文を地文にして押引きによる刺突文を横方向に配置している。643は口縁部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は灰褐色を呈する。文様は斜縄文を地文にして横方向に押引きによる細沈線が施されている。644は口縁部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は暗褐色を呈する。斜縄文を地文にしている。645は口縁部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は暗褐色を呈する。文様は斜縄文で中程に棒状工具による孔が見られる。646は口縁部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を微量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡暗褐色を呈する。文様

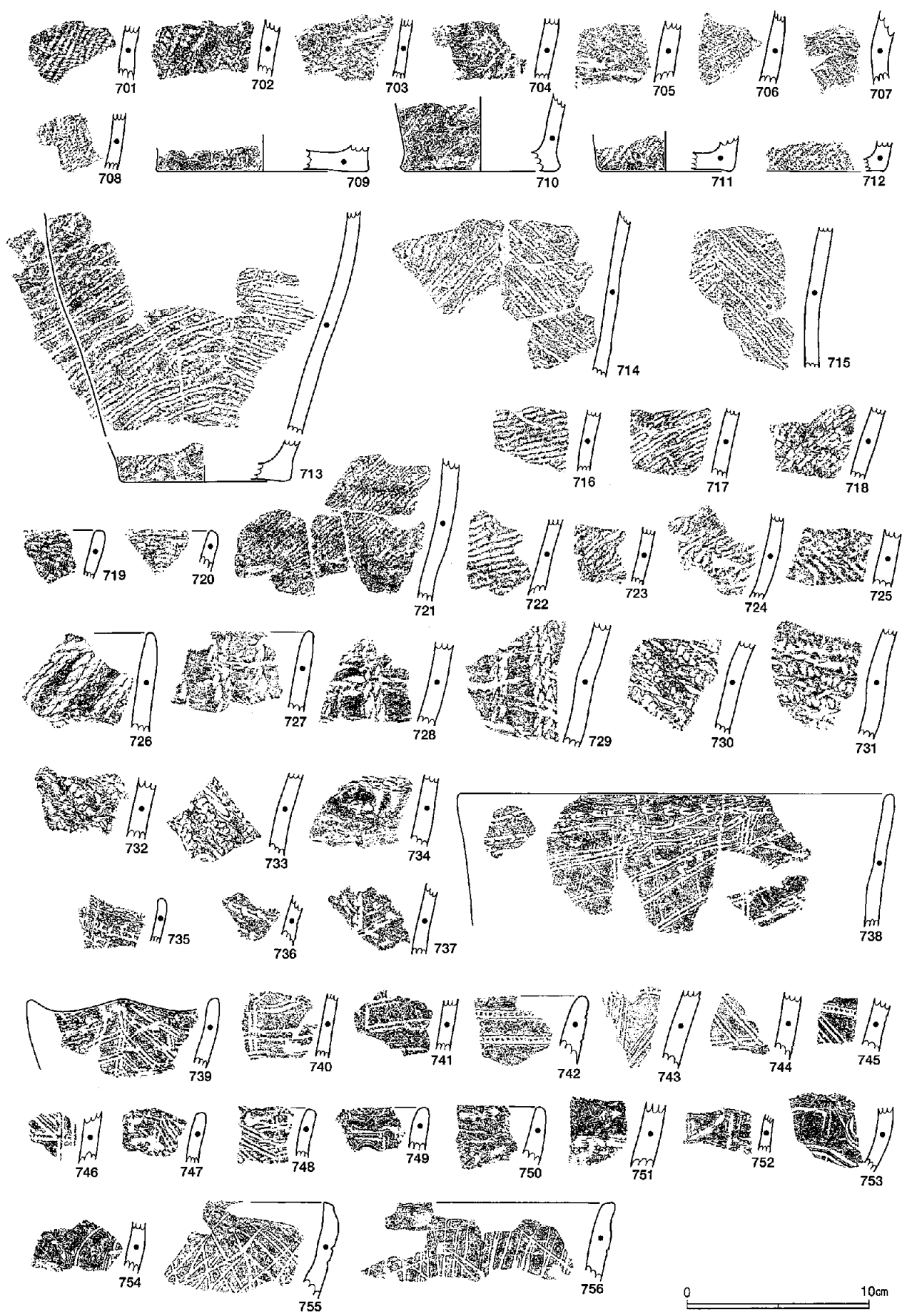
は斜縄文を地文にしている。647は口縁部の波状口縁の一部で粘土を貼り付け作り出している。胎土に白色砂（石英・長石粒）は微量に含まれる。なお胎土には繊維も含まれる。色調は淡暗褐色を呈する。一部に地文で斜縄文が施されている。648は胴部下半の破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）をやや含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は明褐色を呈する。器面がやや荒れているものの斜縄文を地文としているのが解る。649は胴部のやや大形の破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡明褐色を呈する。羽状縄文が地文として施文されている。650は胴部破片で胎土にスコリア及び白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡明褐色を呈する。羽状縄文が地文として施文されている。651は胴部破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡茶褐色を呈する。羽状縄文が地文として施文されている。652は胴部小破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を微量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡茶褐色を呈する。羽状縄文が地文として施文されている。653は胴部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を微量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は暗褐色～茶褐色を呈する。羽状縄文が地文として施文されている。654は胴部破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を微量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は茶褐色を呈する。羽状縄文が地文として施文されている。655は胴部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を微量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡褐色を呈する。縦方向に羽状縄文が施文されている。656は胴部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を微量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡茶褐色を呈する。縦方向に羽状縄文が施文されている。657は胴部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は明褐色を呈する。縦方向に羽状縄文が施文されている。658は胴部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を微量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡褐色を呈する。羽状縄文が施文されている。659は胴部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は暗褐色を呈する。R斜縄文で施文されている。660は胴部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は明～暗褐色を呈する。単節R縄文を縦横方向に施文している。661は胴部破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡灰褐色を呈する。斜縄文が施文されている。662は底部に近い胴部破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は明褐色を呈する。斜縄文が施文されている。663は胴部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は暗褐色を呈する。斜縄文が施文されている。664は胴部破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡茶褐色を呈する。羽状縄文が施文されている。665は胴部破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡褐色を呈する。斜縄文が施文されている。666は胴部破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を微量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は暗褐色を呈する。斜縄文が施文されている。667は胴部破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は暗～淡褐色を呈する。斜縄文が施文されている。668は胴部破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は暗褐色を呈する。斜縄文が施文されている。669は胴部破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡明褐色を呈する。斜縄文が施文されている。670は胴部下半の破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）をやや



第62图 黑浜式土器 (3)

多量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は明褐色を呈する。斜縄文が施文されている。671は胴部下半の破片で胎土には細かい白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡茶褐色を呈する。斜縄文が施文されている。672は胴部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を微量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡茶褐色を呈する。斜縄文が施文されている。673は胴部下半の破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は明褐色を呈する。斜縄文が施文されている。674は胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は明褐色を呈する。斜縄文が施文されている。675は底部に近い胴部下半の破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡茶褐色を呈する。R斜縄文で施文されている。676は底部に近い胴部下半の破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡褐色を呈する。斜縄文が施文されている。677は胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡褐色を呈する。RL斜縄文で施文されている。678は胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は暗褐色を呈する。RL斜縄文で施文されている。679は胴部下半の破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡暗褐色を呈する。RL斜縄文で施文されている。680は胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡褐色を呈する。LR斜縄文で施文されている。681は胴部破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡茶褐色を呈する。調整されていると思われるが無文である。682は胴部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を微量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡茶褐色を呈する。斜縄文が施文されている。683は胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は明褐色を呈する。斜縄文が施文されている。684は胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡褐色を呈する。斜縄文が施文されている。685は胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡明褐色を呈する。LR斜縄文が施文されている。686は胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡灰褐色を呈する。LR斜縄文が施文されている。687は胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡褐色を呈する。斜縄文が弱く施文されている。688は胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡灰褐色を呈する。LR斜縄文が施文されている。689は胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は暗茶褐色を呈する。RL斜縄文が施文されている。690は胴部下半の小破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡褐色を呈する。RL斜縄文が施文されている。691は胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を微量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡褐色を呈する。RL斜縄文が施文されている。692は胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は褐色を呈する。RL斜縄文が施文されている。693は胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡暗褐色を呈する。R斜縄文が施文されている。694は胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含ま

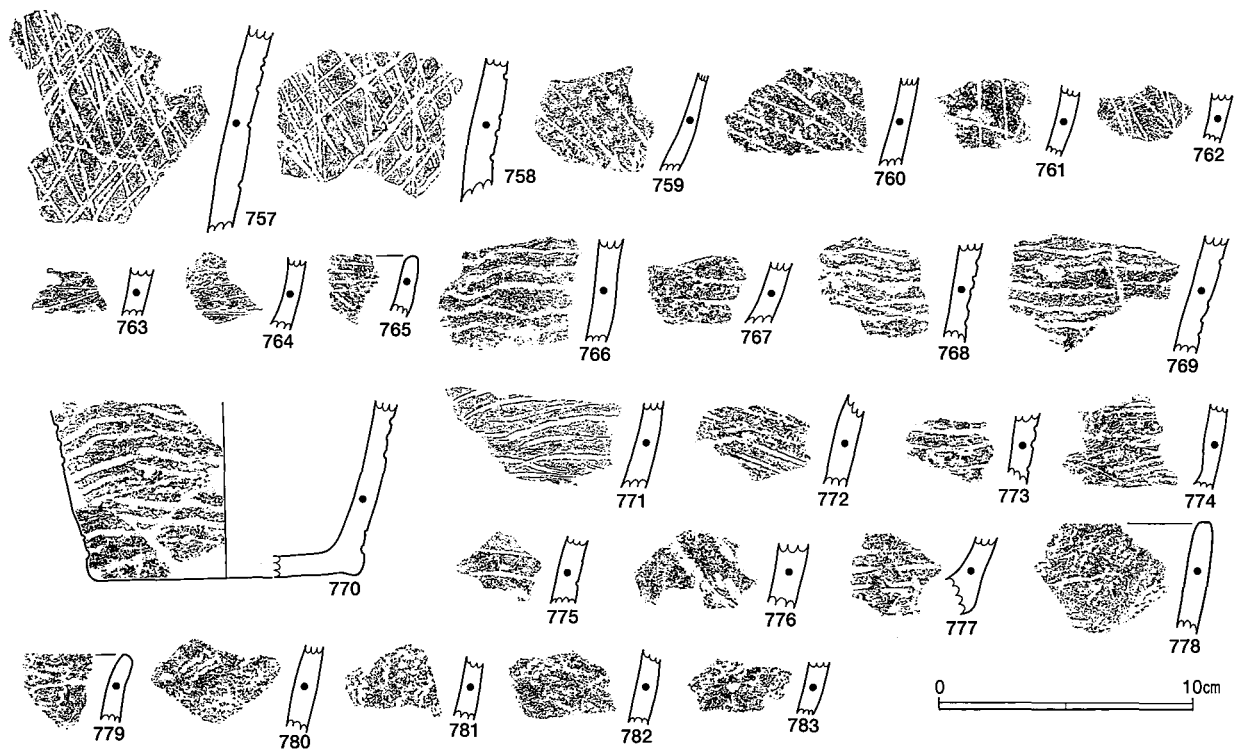
れる。色調は明褐色を呈する。R斜縄文が施文されている。695は胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は褐色を呈する。R斜縄文が施文されている。696は胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は暗褐色を呈する。LR斜縄文が施文されている。697は胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は明褐色を呈する。RL斜縄文が施文されている。698は胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は明褐色を呈する。RL斜縄文が施文されている。699は胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡褐色を呈する。RL斜縄文が施文されている。700は胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡明褐色を呈する。RL斜縄文が施文されている。701は胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡茶褐色を呈する。LR斜縄文が施文されている。702は胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡褐色を呈する。LR斜縄文が施文されている。703は胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡茶褐色を呈する。器表はやや荒れているもののRL斜縄文が施文されている。704は胴部下半の小破片で胎土には細かい白色砂（石英・長石粒）を微量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡褐色を呈する。器表はやや荒れているもののLR斜縄文が施文されている。705は胴部下半の小破片で胎土には細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡茶褐色を呈する。器表はやや荒れているもののRL斜縄文が施文されている。706は胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を微量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡褐色を呈する。L斜縄文が施文されている。707は胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡暗褐色を呈する。なお胎土には繊維が含まれる。色調は明褐色を呈する。R斜縄文が施文されている。708は胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は明褐色を呈する。R斜縄文が施文されている。709は底部底面の破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡灰褐色を呈する。無文である。710は平底の底部底面の破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は明褐色を呈する。底部にL斜縄文が施文されている。711は平底の底部底面の破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を微量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は明褐色を呈する。底部にL斜縄文が施文されている。712は平底の底部底面の破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡褐色を呈する。底部にL斜縄文が施文されている。713は胴部～底部にかけての接合破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を微量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡褐色を呈する。胴部～底部にかけて横方向に縄文原体を押圧施文している。714・715は胴部破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は暗褐色を呈する。縄文原体を斜め方向に押圧施文している。716は胴部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は明褐色を呈する。L斜縄文が施文されている。717は胴部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を微量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は暗～淡褐色を呈する。L斜縄文が施文されている。718は胴部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。



第63图 黑滨式土器 (4)

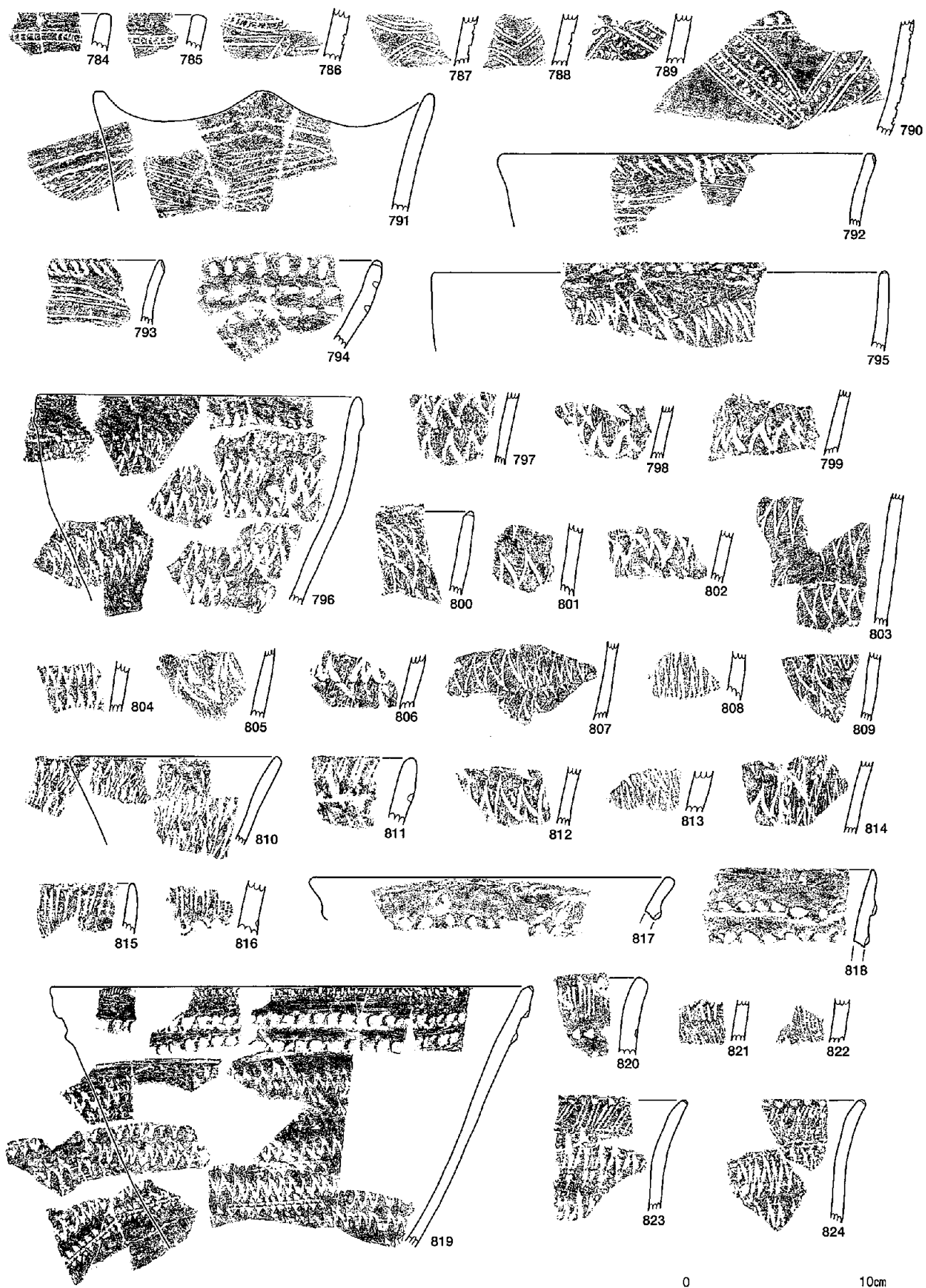
なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡褐色を呈する。L斜縄文が施文されている。719は口縁部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は暗褐色を呈する。R斜縄文が施文されている。720は口縁部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡暗褐色を呈する。R斜縄文が施文されている。721は胴部下半の接合破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡灰褐色を呈する。L斜縄文が施文されている。722は胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は明褐色を呈する。LR斜縄文が施文されている。723は胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡褐色を呈する。L斜縄文で施文されている。724は胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡明褐色を呈する。L斜縄文で施文されている。725は胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡明褐色を呈する。RL斜縄文が施文されている。726は口縁部破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は暗褐色を呈する。口縁部に沿って縄文原体を押圧施文、以下は斜め方向に縄文原体を押圧施文して文様を構成している。727は口縁部破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡暗褐色を呈する。縦方向に縄文原体の押圧施文を行っている。728は胴部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡褐色を呈する。横方向及び縦方向に縄文原体による押圧施文が行われている。729は胴部破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡褐色を呈する。縦方向に縄文原体による押圧施文が行われている。730・731は胴部小破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡灰褐色を呈する。R斜縄文及び縄文原体による押圧施文が行われている。732は胴部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は明褐色を呈する。RL斜縄文で施文されている。733は胴部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は暗褐色を呈する。斜め方向の縄文原体による押圧施文及び斜縄文による施文が行われている。734は胴部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は褐色を呈する。横方向の縄文原体による押圧施文が行われている。735は小形の土器の波状口縁の一部で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を微量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は暗褐色を呈する。口縁に沿って半裁竹管による押引き沈線及び刺突文が見られる。736は胴部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は褐色を呈する。半裁竹管による押引き沈線及び刺突文が見られる。737は胴部小破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は褐色を呈する。半裁竹管による押引き沈線及び刺突文が見られる。738は口縁部～胴部にかけての接合破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は暗褐色～淡褐色を呈する。口縁に沿って半裁竹管による押引き沈線及び刺突文が見られる。胴部にかけては縦方向の押引き沈線と斜め方向の押引き沈線で区画施文されている。739は小形土器の口縁部～胴部上半にかけての破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡褐色を呈する。半裁竹管による押引き沈線を矢羽根状に配置している。740・741は小形土器の胴部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。なお胎土には繊維が含

まれる。色調は淡褐色を呈する。半裁竹管による押引き沈線を縦横に配置している。742は口縁部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を微量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡灰褐色を呈する。横方向に半裁竹管による鋭い押引き細沈線と細かい刺突文が施文されている。743は胴部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を微量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡灰褐色を呈する。縦方向と斜め方向に平行の細沈線が施文されている。744は胴部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を微量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡褐色を呈する。横方向と斜め方向に平行の細沈線が施文されている。745は胴部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を微量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡灰褐色を呈する。横方向の細沈線とその内側に細かい刺突文及び斜め方向に細沈線を配置している。746は胴部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を微量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡灰褐色を呈する。文様構成は縦横方向の細沈線とそれらに区画された内側に斜め方向の細沈線を充填している。747は口縁部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡暗褐色を呈する。文様は半裁竹管による平行細沈線を斜め方向に充填している。748は口縁部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は暗褐色を呈する。文様は斜め方向の半裁竹管による平行沈線と所々に刺突文が見られる。749は口縁部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を微量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡灰褐色を呈する。文様は縦横方向に棒状工具管による押引き平行沈線が見られる。750は口縁部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は暗褐色を呈する。文様は縄文原体による押圧施文が行われている。751は口縁部下部の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は褐色を呈する。文様は一部に縄文原体による押圧施文が行われている。752は小形土器の口縁部下部の破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡暗褐色を呈する。文様は縄文原体による押圧施文が行われている。753は小形土器の胴部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は明褐色を呈する。文様は749と同じ縦横方向に棒状工具による押引き平行沈線が見られる。754は胴部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は明褐色を呈する。文様は細い棒状工具の押引きによる弧状の沈線が見られる。755は口縁部破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は明～暗褐色を呈する。文様は下方より斜め方向に密に条痕文を施している。756は口縁部破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡褐色を呈する。文様は縦方向の条痕文を主体に斜め方向の条痕文を組み合わせている。757は胴部の大形破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は暗褐色を呈する。文様は左右斜め方向に比較的密な状態で施文されている。758は胴部の大形破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡褐色を呈する。文様は縦方向と斜め方向の沈線文を組み合わせている。759は胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡暗褐色を呈する。文様は斜め方向の細沈線が施文されている。760は胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡茶褐色を呈する。文様は斜め方向の細沈線が施文されている。761は胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を微量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡褐色を呈する。文様は縦方向と斜め方向に細沈線が施文され



第64図 黒浜式土器 (5)

ている。762は胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡暗褐色を呈する。文様は斜め方向の細沈線が施文されている。763は胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡茶褐色を呈する。文様は横方向と斜め方向の細沈線が施文されている。764は小形土器の胴部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は暗褐色を呈する。文様は横方向の細沈線が施文されている。765は小形土器の口縁部小破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は褐色を呈する。文様は横方向に細沈線が施文されている。766は胴部破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は褐色を呈する。文様は横方向に弧状の平行沈線が施文されている。767は胴部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は茶褐色を呈する。文様は横方向の細沈線が施文されている。768は胴部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡茶褐色を呈する。横方向に弧状の平行沈線が施文されている。769は胴部下半の破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡茶褐色を呈する。文様は横方向に弧状の平行沈線が施文されている。770は胴部下半～底部底面にかけて残されたもので胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を微量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡茶褐色を呈する。文様は横方向に弧状の平行沈線が施文されている。771は胴部下半の破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は暗褐色～褐色を呈する。文様は横方向に等間隔に沈線文が施文されている。772は胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は褐色を呈する。文様は横方向に細沈線が施文されている。773は胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を微量に含む。な



第65図 諸磯・浮島式土器（1）

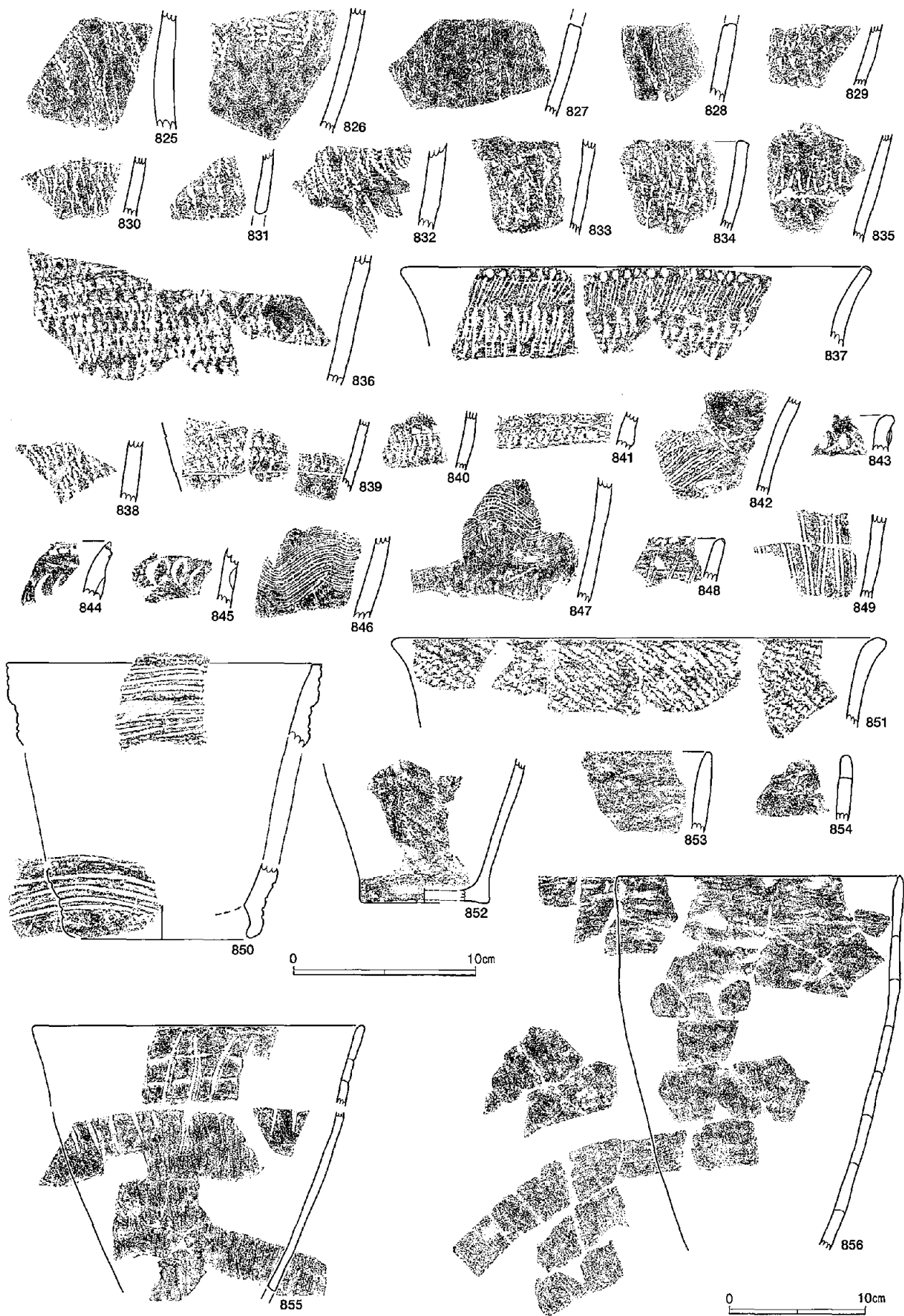
お胎土には繊維が含まれる。色調は暗褐色を呈する。文様は横方向に細沈線が施文されている。774は小形土器の胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。なお胎土に繊維が含まれる。色調は淡茶褐色を呈する。文様は横方向に細沈線が施文されている。775は胴部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は褐色を呈する。文様は横方向に細沈線が施文されている。776は胴部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を微量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡褐色を呈する。文様は斜め方向に押圧施文が行われている。原体は縄のような紐と思われるが不明である。777は底部の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は褐色を呈する。文様は横方向に半裁竹管による平行沈線が施されている。778は口縁部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡茶褐色を呈する。文様は口縁部付近に横方向に条線、以下に斜縄文が施文されている。779は小形土器の口縁部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡茶褐色を呈する。文様は横方向に細沈線が施文されている。780は胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は明褐色を呈する。文様は斜め方向に貝殻腹縁文が施文されている。781は胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は暗褐色を呈する。文様は縦方向に貝殻腹縁文が施文されている。782は胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は淡褐色を呈する。文様は横方向に貝殻腹縁文が施文されている。783は胴部下部の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。なお胎土には繊維が含まれる。色調は褐色を呈する。文様は斜め縦方向に貝殻腹縁文が施文されている。

（5）第V群土器〔前期後半〕（第65・66図784～856，図版33・34）

784～793までは前期後半諸磯系の土器群である。784・785は口縁部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。色調は暗～明褐色を呈する。文様は横方向に半裁竹管による押引き平行細沈線と円弧状の押形文で施文されている。786は胴部上半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は茶褐色を呈する。文様は横方向に半裁竹管による押引き平行細沈線と円弧状の押形文で施文されている。787・788は胴部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡褐色を呈する。文様は横斜め方向に半裁竹管による押引き平行細沈線で円弧状に施文されている。789は胴部上半の小破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は暗茶褐色を呈する。文様は半裁竹管による押引き細沈線で区画された内側に刺突文を充填している。790は胴部上半の大形破片で胎土にやや大粒の白色砂（石英・長石粒）を含む。色調は明茶褐色を呈する。文様は半裁竹管による押引き平行細沈線とその間に半月状の刺突文を充填している。それらを三角形になるように配置している。791は口縁部大形破片で胎土にやや大粒の白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は暗褐色を呈する。文様は波状口縁に沿って2列に押引き沈線で施文し、以下を半裁竹管による斜め横方向の平行細沈線で充填している。792・793は口縁部の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は明～暗褐色を呈する。文様は口唇部に斜め方向に棒状工具による刺突で刻目文を配置し、以下は横方向に半裁竹管による細沈線が施文されている。

794～836は浮島系の土器群である。794は口縁部破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を含む。色

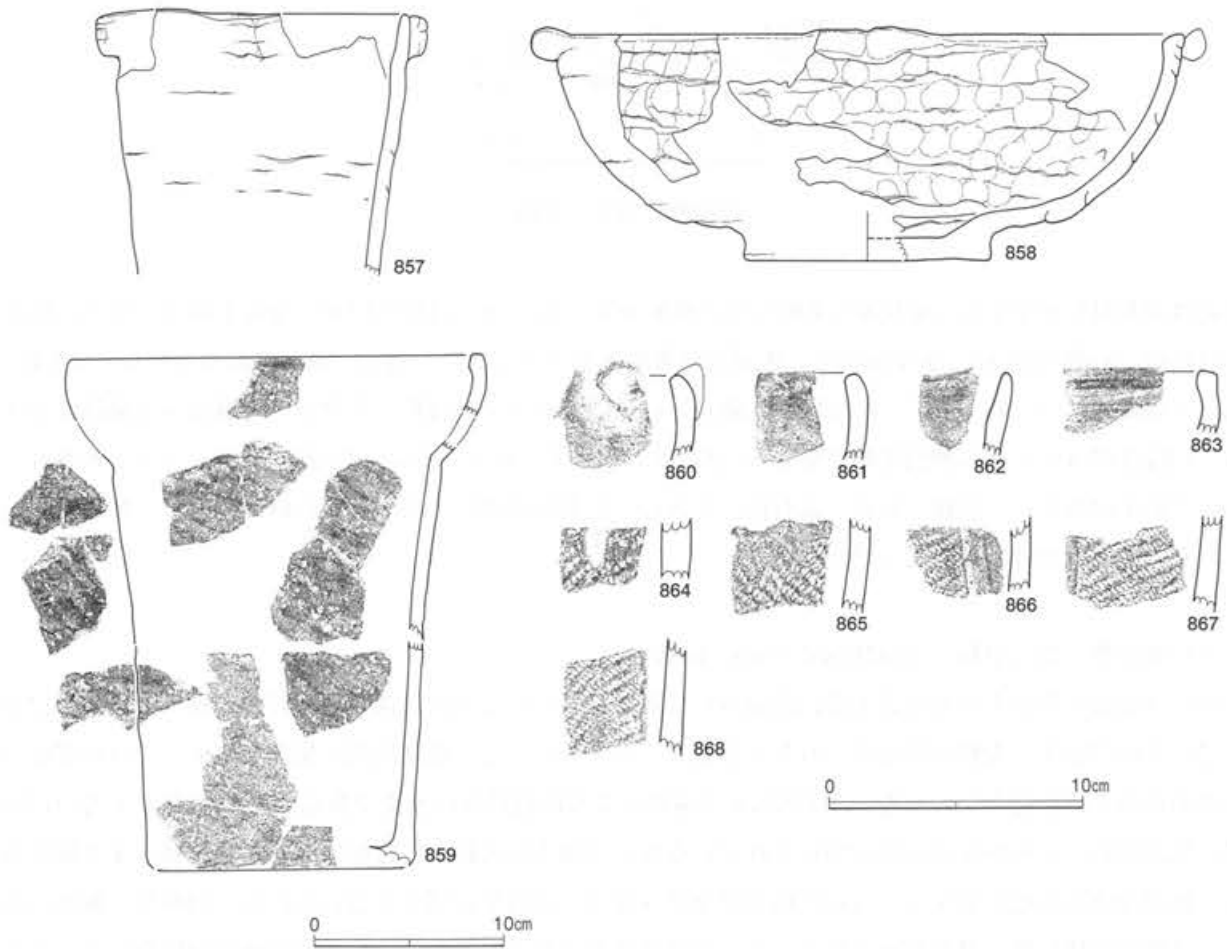
調は淡灰褐色を呈する。棒状工具の刺突による鋸歯状口縁及び直下に横方向の2列の刺突文が施されている。胴部にかけては貝殻による波状腹縁文が施されている。795は口縁部破片で胎土にやや細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は明褐色～暗褐色を呈する。口唇部に棒状工具による刻目文、口縁部に沿ってやや浅めの沈線を施し、以下に貝殻による波状腹縁文が施文されている。796は口縁部～胴部下半にかけての接合破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石類）を少量含む。色調は明褐色を呈する。口縁部はナデによる無文帯で頸部以下に貝殻による波状腹縁文が施文されている。797は胴部上半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡褐色を呈する。全体に貝殻による波状腹縁文が施文されている。798は胴部上半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡灰褐色を呈する。全体に貝殻による波状腹縁文が施文されている。799は胴部上半の小破片で胎土にやや細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は暗褐色を呈する。全体に貝殻による波状腹縁文が施文されている。800は口縁部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。色調は淡茶褐色を呈する。口唇に斜めに刻目文を施し、器表には貝殻による波状腹縁文が施文されている。801は胴部上半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は明褐色を呈する。上下にやや間隔を空けて貝殻による波状腹縁文が施文されている。802は胴部上半の小破片で胎土にやや粗い白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。色調は暗茶褐色を呈する。器表にはやや密に貝殻による波状腹縁文が施文されている。803は胴部下半の破片で胎土に少量の白色砂（石英・長石粒）とスコリアを多量に含む。色調は明褐色を呈する。器表には貝殻による波状腹縁文が施文されている。804は胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は暗褐色を呈する。器表には貝殻による波状腹縁文が施文されている。805・806は胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。色調は淡灰褐色を呈する。器表にはやや単位が大きい貝殻による波状腹縁文が施文されている。807は胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は暗褐色を呈する。器表には貝殻による波状腹縁文が施文されている。808は胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は暗褐色を呈する。器表には貝殻による波状腹縁文が施文されている。809は胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡褐色を呈する。器表にはやや密な貝殻による波状腹縁文が施文されている。810は口縁部～胴部にかけての破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は暗褐色を呈する。口縁部から胴部にかけて密に貝殻による波状腹縁文が施文されている。811は口縁部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡灰褐色を呈する。口縁部に縦やや斜め方向に棒状工具による刻目文で施文、以下に横方向の刺突文と貝殻による腹縁文が施文されている。812は胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡灰褐色を呈する。器表には密に貝殻による波状腹縁文が施文されている。813は胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡茶褐色を呈する。器表には密に貝殻による波状腹縁文が施文されている。814は胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は明褐色を呈する。器表には粗い単位と密な単位の貝殻による波状腹縁文が施文されている。815は口縁部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。色調は暗茶褐色を呈する。口唇に貝殻による刻目文、口縁部器表には貝殻による腹縁文が施文されている。816は胴部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は明褐色を呈する。横方向に刺突文と貝殻による腹縁文で施文されている。817は口縁部の破片が接合したもので胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡褐色を呈す



第66図 浮島(2)・興津式土器

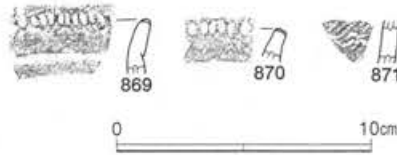
る。口縁部に棒状工具の刺突による瘤状にした凹凸文が見られる。818は口縁部～底部にかけての大形破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を微量に含む。色調は淡明褐色を呈する。口唇部に細かい棒状工具による刻目文，口縁部には二段に指頭による瘤状にした凹凸文が残されている。また胴部には横方向に貝殻による波状腹縁文が施文されている。820は口縁部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は明褐色を呈する。口縁部に半裁竹管による縦方向の細沈線と横方向の刺突文が施文されている。821は胴部上半の小破片で細かい白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。色調は淡暗褐色を呈する。半裁竹管による縦方向の細沈線と条痕文が見られる。822は胴部上半の小破片で細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は暗褐色を呈する。半裁竹管による縦方向の連続した細沈線と横方向の爪形文が施文されている。823・824は口縁部破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡茶褐色を呈する。口唇は刺突による刻目文，口縁部は半裁竹管による斜め縦方向の連続細沈線と貝殻による波状腹縁文が施文されている。825は胴部上半の破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。色調は暗褐色を呈する。貝殻による腹縁文が施文されている。826は胴部下半の破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡褐色を呈する。貝殻による条痕文が施文されている。827は胴部下半の破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。色調は暗褐色を呈する。貝殻による縦方向の腹縁文が施文されている。828は胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。色調は暗褐色を呈する。貝殻による縦方向の腹縁文が施文されている。829は胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡褐色を呈する。貝殻による横方向の波状腹縁文が施文されている。830は胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。色調は淡茶褐色を呈する。貝殻による異方向による腹縁文が施文されている。831は胴部下半の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡茶褐色を呈する。貝殻による波状腹縁文が施文されている。832は胴部下半の破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡茶褐色を呈する。横方向に貝殻による波状腹縁文が施文されている。833は胴部破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。色調は淡茶褐色を呈する。横方向に貝殻による波状腹縁文が施文されている。834は口縁部破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡褐色を呈する。横方向に貝殻による波状腹縁文が施文されている。835は胴部上半の破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡茶褐色を呈する。横方向に貝殻による波状腹縁文が施文されている。836は胴部上半の接合破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡茶褐色を呈する。横方向に密に貝殻による波状腹縁文が施文されている。

837～856は興津式土器と思われるものである。837は口縁部の接合破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡茶褐色を呈する。口唇に棒状工具の刺突による刻目文，口縁にかけては横方向に密に貝殻による波状腹縁文が施文されている。838は胴部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡褐色を呈する。貝殻による波状腹縁文が施文されている。839は胴部破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡茶褐色を呈する。横方向に細沈線で区画し，内側に貝殻による波状腹縁文が施文されている。840は胴部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡褐色を呈する。やや密に貝殻による波状腹縁文が施文されている。841は口縁部下部の破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡茶褐色を呈する。押圧施文と縄文が施文されている。842は胴部破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡褐色を呈する。



第67図 中期土器

押圧施文による縄文を地文に斜め方向に沈線を施文している。843は口縁部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡茶褐色を呈する。口縁部に横方向の刺突文が施文されている。844・845は口縁部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡茶褐色を呈する。口唇は全体に薄くなり刺突による刻目文が見られる。口縁部には横方向に大きな刺突文が施文されている。845は文様のやや下部になるものと思われる。846は胴部破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡茶褐色を呈する。全面に波状の条線が施文されている。847は胴部上半の破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡茶褐色を呈する。全面に波状の条線が施文されている。848は口縁部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡褐色を呈する。口唇に刺突文が、口縁部に斜め縦方向の条線が施文されている。849は胴部破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡褐色を呈する。縦方向に半裁竹管による平行沈線が施文されている。850は口縁部破片と底部破片が残されたもので胎土に白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡茶褐色を呈する。横方向に多段に沈線が施文されている。851は口縁部が大きく残されているもので胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡茶褐色を呈する。口唇部よりRL縄文が施文されている。852は底部～底面まで残されているもので胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡褐色を呈する。文様は調整による擦痕以外は認められない。853は口縁部破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を少量含む。



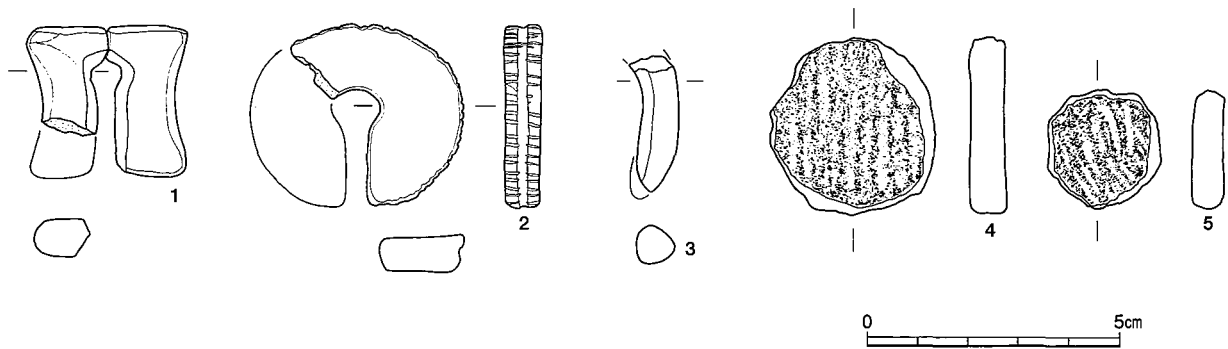
第68図 弥生式土器

色調は淡茶褐色を呈する。縦方向の条線に近い捺痕が見られる。854は波状口縁となる小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡茶褐色を呈する。押圧施文の縄文が認められる。855は口縁部～底部にかけて残されてもので胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を含む。色調は淡茶褐色を呈する。口縁部には縦方向に押し沈線が施され、胴部以下は無文である。856は口縁部～底部にかけて残されてもので胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を含む。色調は淡褐色を呈する。口縁部に若干の刺突文が見られる。胴部にかけては無文と思われる。

（5）第VI群土器〔中期〕（第67図857～868，図版35）

857～859は中期前半阿玉台式土器に比定されるものと思われる。857は深鉢形土器の口縁～胴部下半にかけてのもので胎土に大粒の白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡灰褐色を呈する。口唇部に厚みのある粘土紐を巡らしている。口縁部以下は調整による捺痕以外は無文である。858は浅鉢形土器の口縁部～底部にかけてのかなりの部分が残されているもので胎土に大粒の白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡灰褐色を呈する。口唇は粘土紐を貼り付け一部に突起部分を設けている。口縁部～胴部にかけては指ナデ様に粗い調整が施されている。859は深鉢形土器の口縁部～底部までの破片が接合しているもので胎土は大粒の白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡灰褐色を呈する。文様は斜め方向に指で撫でたような調整が行われている。

860～868は中期中葉以降加曽利式土器に比定されるものと思われる。860は口縁部破片で胎土に大粒の白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡灰褐色を呈する。口唇部に渦巻き様の隆帯を施している。地文は無文である。861は口縁部小破片で胎土にやや大粒の白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。色調は暗褐色を呈する。口唇を指頭でナデ調整，口縁部は無文と思われる。内面はミガキで丁寧な調整が行われている。862はやや波状口縁になる口縁部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は暗褐色を呈する。口唇を指頭でナデ調整，口縁部は無文と思われる。内面はミガキで丁寧な調整が行われている。863は口縁部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡暗褐色を呈する。口端は平坦でやや肥厚し内曲する。浅鉢形土器になると思われる。口唇直下に横方向に沈線で区画されている。胴部にかけてはうっすらと縄文が施文されている。864は深鉢形土器の小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡灰褐色を呈する。LR縄文が施文されている。865は深鉢形土器の胴部小破片で胎土に白色砂（石英・長石粒）を含む。色調は明褐色を呈する。RL縄文が施文されている。866は深鉢形の胴部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。色調は淡茶褐色を呈する。中程に垂下する沈線の右側を無文にして左側にLR縄文が施文されている。867は深鉢形土器の胴部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）をやや多量に含む。色調は淡茶褐色を呈する。左側を縦方向に地文を磨り消し無文にしている。LR縄文が地文として施文されている。868は深鉢形土器の



第69図 土製品

胴部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を多量に含む。色調は淡褐色を呈する。右側を縦方向に沈線で区画されている。左側はLR縄文が施文されている。

(6) その他〔弥生時代土器片〕(第68図869～871, 図版35)

869～872は弥生時代の土器片である。遺跡内の縄文時代の包含層の調査で抽出された弥生時代の土器片に比定されるものである。包含層を形成する程の量ではないと思われるので併せてここで説明することとした。869は壺形土器の口縁部破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡灰褐色を呈する。口唇は棒状工具により刻目文を施している。口縁部は折り曲げて外反させている。横方向にナデ調整している。870は深鉢形土器の口縁部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡明褐色を呈する。口唇は棒状工具により刻目文を施している。横方向にナデ調整している。871は鉢形土器の胴部小破片で胎土に細かい白色砂（石英・長石粒）を少量含む。色調は淡明褐色を呈する。L縄文を地文に撚糸文を押圧施文している。

第3節 包含層と出土土製品

1 挾状耳飾 (第69図1～3, 図版35)

1は挾状耳飾で片側が一部欠損している。形はやや撥形になる。現存部は3.00cm×3.14cm, 重さ6.56gである。表裏とも丁寧な面取り調整が行われている。色調はやや暗褐色気味であるが焼成は良好である。2は挾状耳飾で片側が欠損している。形は円形で表裏とも扁平になるよう調整されている。縁辺部は棒状工具により細かく刻み目を入れ、中央に沈線を配置している。現存部は3.89cm×2.64cm, 重さ8.90gである。3は挾状耳飾の片側と思われる。破断面はあまり整っていない円形である。現存部は2.64cm×0.91cm, 重さ1.78gである。

2 土版 (第69図4～5, 図版35)

土器片を再利用した土版である。

4～5は撚糸文系土器の破片を利用している。4は円形に近く裏側より表側に叩きながら粗成形している。3.46cm×3.26cm, 重さ9.42gである。5は円形に近く裏側より表側に叩きながら粗成形している。縁を一部磨いている。2.30cm×2.25cm, 重さ4.25gである。

第4節 包含層と出土石器

1 縄文時代草創期の出土状況（第71・72図）

縄文時代草創期は調査区の北側C1-12～C1-59グリッド付近から検出されている。これらの分布範囲にはC1-15～C1-25グリッドにかけて径10mの円形範囲に非常に濃密な分布域が存在する。さらに細かく石材を覓ていくと分布域がかなりずれることが判る。なお、C1-15グリッド付近で出土した石器の中に焼成されたものがあるため何らかの炉のような施設があったかもしれない。

安山岩A（通常風化面が暗緑色を呈し、新鮮な剥離面が黒色不透明なものである。以下『安山岩A』と呼ぶ）は、C1-14～16・25・26グリッド付近に濃密に分布し、さらに10m程南側に薄く広がりを持つ。（第73・74図）石材の石器・剥片類は1644点出土し、全体の50.8%を占める。安山岩Aの尖頭器を中心とした主要な石器及び接合関係は剥片・碎片類のその他の石器の分布域とほぼ重なることからこの範囲を中心に尖頭器その他の石器の製作が行われていた可能性が高い。有舌尖頭器の完成品や有舌尖頭器の未完成品の尖頭器、さらには製作途中で破損したものの接合資料の存在がそのことを想起させる。

安山岩B（通常風化面が黄色もしくは薄い灰色を呈し、新鮮な剥離面が暗灰色でざらざら感のあるもので、通称トロトロ石と呼ばれるものである）は、C1-16・26グリッド付近に濃密に分布し、さらに15m程南東に薄く広がりを持つ。（第75図）安山岩Aと比べて分布範囲はやや狭く剥片の接合関係も乏しいことからやや補完的な石材ということがいえる。石材の石器・剥片類は426点出土し、全体の13.2%を占める。有舌尖頭器の完成品や未完成品の尖頭器、さらには製作途中で破損したものが比較的多く安山岩A同様にこの空間で有舌尖頭器の製作が行われていたことがうかがわれる。

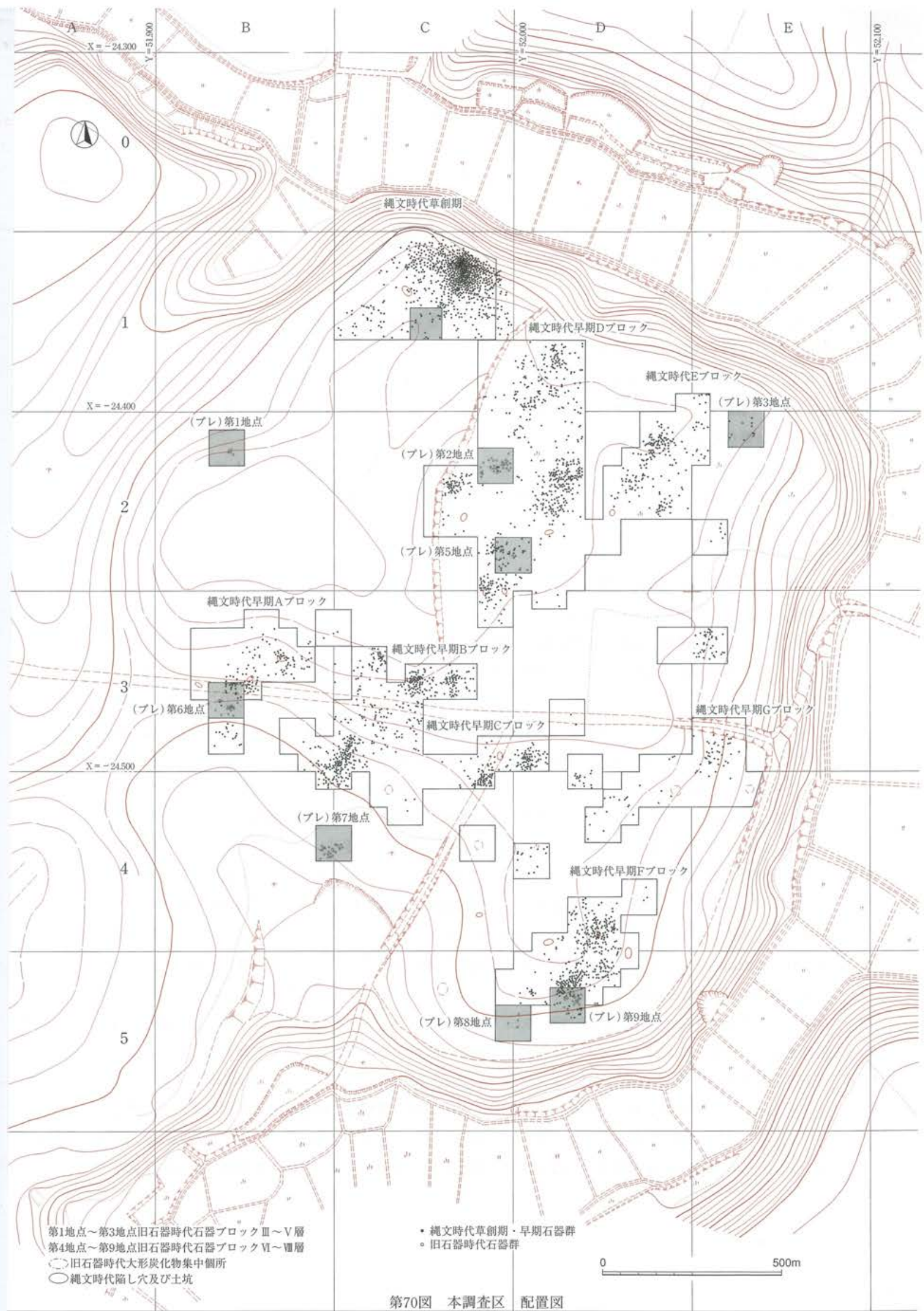
ホルンフェルス（ここでは青味がかかった灰色でやや胡麻塩状の風化面を呈するもので、新鮮な剥離面は青黒い多孔質で所々に縞模様が見られる）は、C1-15・16・25・26グリッド付近に濃密に分布し、さらに周辺部に5m程の散布が見られる。（第76図）全体分布域の濃密範囲とほぼ重なる。石材の石器・剥片類は235点出土し、全体の7.3%を占める。点数は少ないものの有舌尖頭器の破損したものや尖頭器の製作途中で折れたものが接合する資料なども含まれこの空間での尖頭器製作の片鱗が垣間見える。

砂岩は、C1-26グリッド付近に濃密に分布し、その周辺部にやや粗く散布して広がっている。（第77図）石材の石器・剥片類は189点出土し、全体の5.8%を占める。点数は少ないものの有舌尖頭器の破損したものや尖頭器の製作途中で折れたものが接合する資料なども含まれこの空間での尖頭器製作の片鱗が垣間見える。

流紋岩は、C1-26グリッド付近の濃密に分布し、その周り5m程の範囲に取りまくようにやや粗く散布する。またC1-56グリッドで12m程離れて3点分布する。（第78図）石材の石器・剥片類は174点出土し、全体の5.4%を占める。有舌尖頭器や半製品の尖頭器なども若干みられるためこの石材でも少しは尖頭器製作がおこなわれていたことが考えられる。

頁岩は、C1-15・16・25・26グリッド付近でやや濃密に分布している。またその周辺にも若干散布している。（第79図）石材の石器・剥片類は164点出土し、全体の5.1%を占める。剥片や尖頭器製作途中の接合資料なども多い。有舌尖頭器や尖頭器等の製品は比較的少ない。

チャートは、C1-16・26グリッド付近でやや密に分布し周囲5mの範囲に薄く拡散している。（第80図）3が17m程離れた剥片が接合しているところからこの南北に長い遺物検出範囲が1つのかたまりとして捉えることが可能である。石材の石器・剥片類は121点出土し、全体の3.7%を占める。小さな母岩が複数持



第70図 本調査区 配置図

ち込まれていると考えられる。有舌尖頭器や尖頭器等の製品は比較的少ない。

凝灰岩は、C1-16・26グリッド付近にやや密に分布し、その周辺に薄く散布する。(第81図) 石材の石器・剥片類は114点出土し、全体の3.5%を占める。剥片より碎片類(尖頭器製作時のものか?)が主体を占めている。尖頭器も若干みられる。

メノウは、C1-16・26グリッド付近にやや密に分布し、その周辺に若干検出されている。(第82図) 石材の石器・剥片類は29点出土し、全体の0.9%を占める。小形の尖頭器が2点と原礫1点、剥片5点で残りが碎片で構成されている。

軽石、角閃石、硬砂岩は南北に長く粗い分布がみられる。(第83図) これらの石材は矢柄研磨器、石斧、磨石、敲石器等の礫器を主に製作している。

石英、緑泥片岩、蛇紋岩等はC1-14~16・25・26グリッド付近とC1-45・47グリッド付近に離れて分布している。(第84図) 全体の遺物の分布域よりやや西よりに広がっている。遺物の接合関係により南北方向の広がりには繋がるようである。

黒曜石は、C1-16・25グリッド付近とC1-45・47・48グリッド付近に離れて分布している。(第85図) 剥片は少量あるもののそのほとんどは碎片類である。北側部分で石鏃が1点出土しているが他の遺物を含めて草創期の遺物ではない可能性が高い。

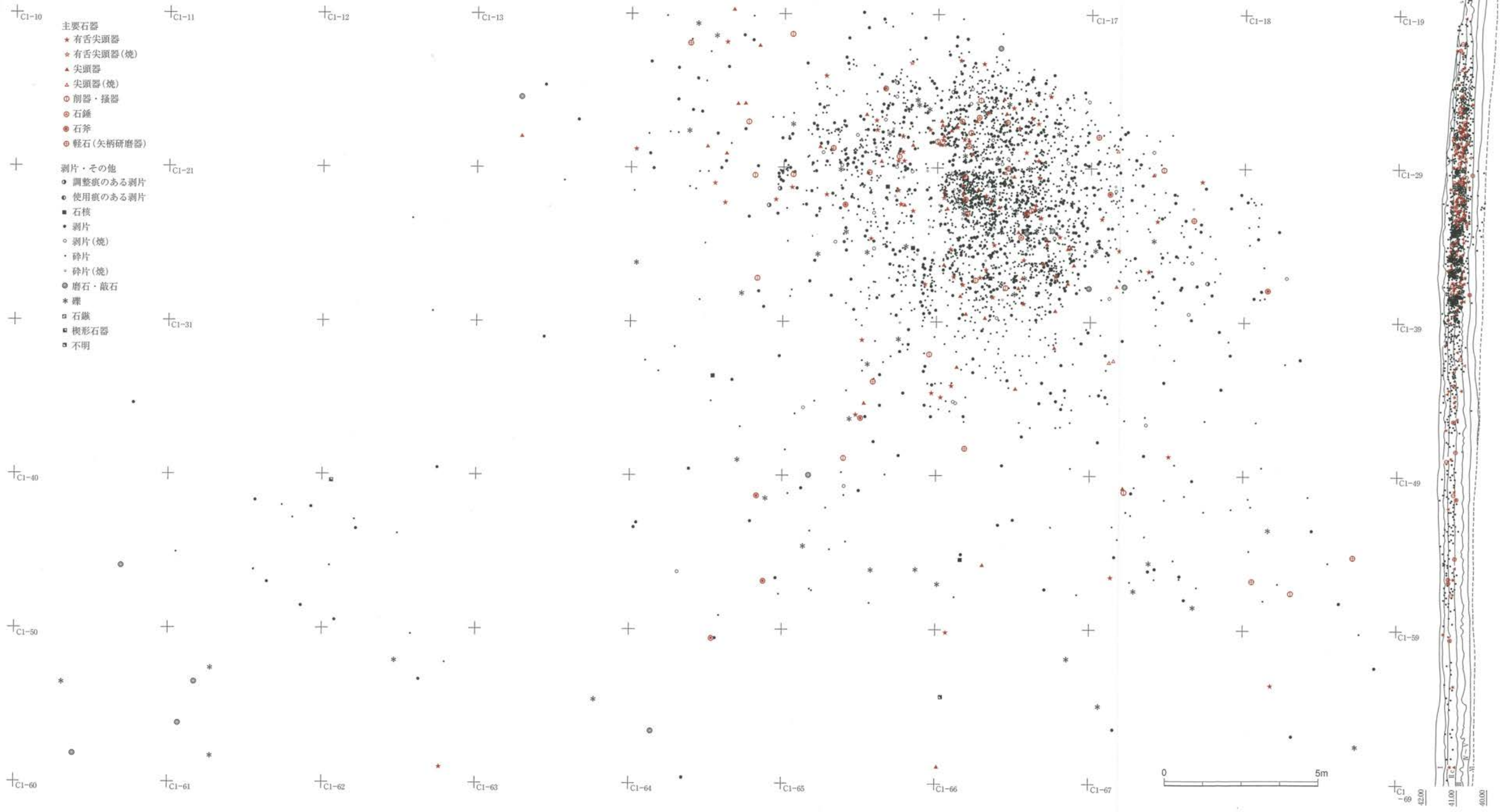
2 縄文時代草創期の出土石器

石器については、以下石材毎に説明していく。

安山岩A 有舌尖頭器・尖頭器及び未製品(第86~91図1~68, 図版36~40, 第12・13表) 安山岩Aとした石材は通常風化面が暗緑色を呈し、新鮮な剥離面が黒色不透明なものである。1は安山岩A製の有舌尖頭器である。基部の周辺を抉り気味に仕上げている。先端部をやや丸みを持たせて尖らせ、細かい調整で仕上げている。全体の形状を比較的大きな両面調整で仕上げている。完形品である。全長3.40cm, 幅1.30cm, 厚み0.55cm, 重量2.11gである。2は安山岩A製の有舌尖頭器である。縄文早期の遺物から抽出されたもので草創期の遺物である。基部がやや欠けているもののほぼ完形品である。平面形状は1と非常に似た形である。断面は一部やや厚みを残す。背面, 主剥離面とも全体を押圧剥離で調整後に周辺を比較的丁寧に細かい調整で仕上げている。全長3.20cm, 幅1.10cm, 厚み0.65cm, 重量1.93gである。3は安山岩A製の有舌尖頭器である。基部がやや欠けているもののほぼ完形品である。縁辺部分は直線的で平面形状はどちらかというところ菱形に近い。背面, 主剥離面ともに押圧剥離で調整されており, 一部剥離面を残すものの周辺を丁寧に調整して仕上げている。全長3.60cm, 幅1.70cm, 厚み0.75cm, 重量3.73gである。4は安山岩A製の有舌尖頭器である。背面, 主剥離面とも押圧剥離で調整後, 周辺部分を丁寧に細かい調整で仕上げている。基部をより細かい調整で少し抉り気味に仕上げている。先端部から刃部中央部分にかけてはやや丸みをつけた形状である。全長5.00cm, 幅1.80cm, 厚み0.70cm, 重量5.26gである。5は安山岩A製の有舌尖頭器である。背面, 主剥離面両面とも中央部分に剥離面を残すものの細かな調整で仕上げている。基部は両面とも最終的に丁寧に抉りを入れてある。全長2.50cm, 幅1.30cm, 厚み0.40cm, 重量1.08gである。6は安山岩A製の有舌尖頭器である。背面, 主剥離面を押圧剥離で調整後, 周辺部分をやや大きめの調整で仕上げている。基部は細かく調整して抉りを入れてある。やや先端部分が傾斜している。全長2.90cm, 幅1.40cm, 厚み0.40cm, 重量1.43gである。7は安山岩A製の有舌尖頭器である。背面は比較的丁寧に押圧剥離で

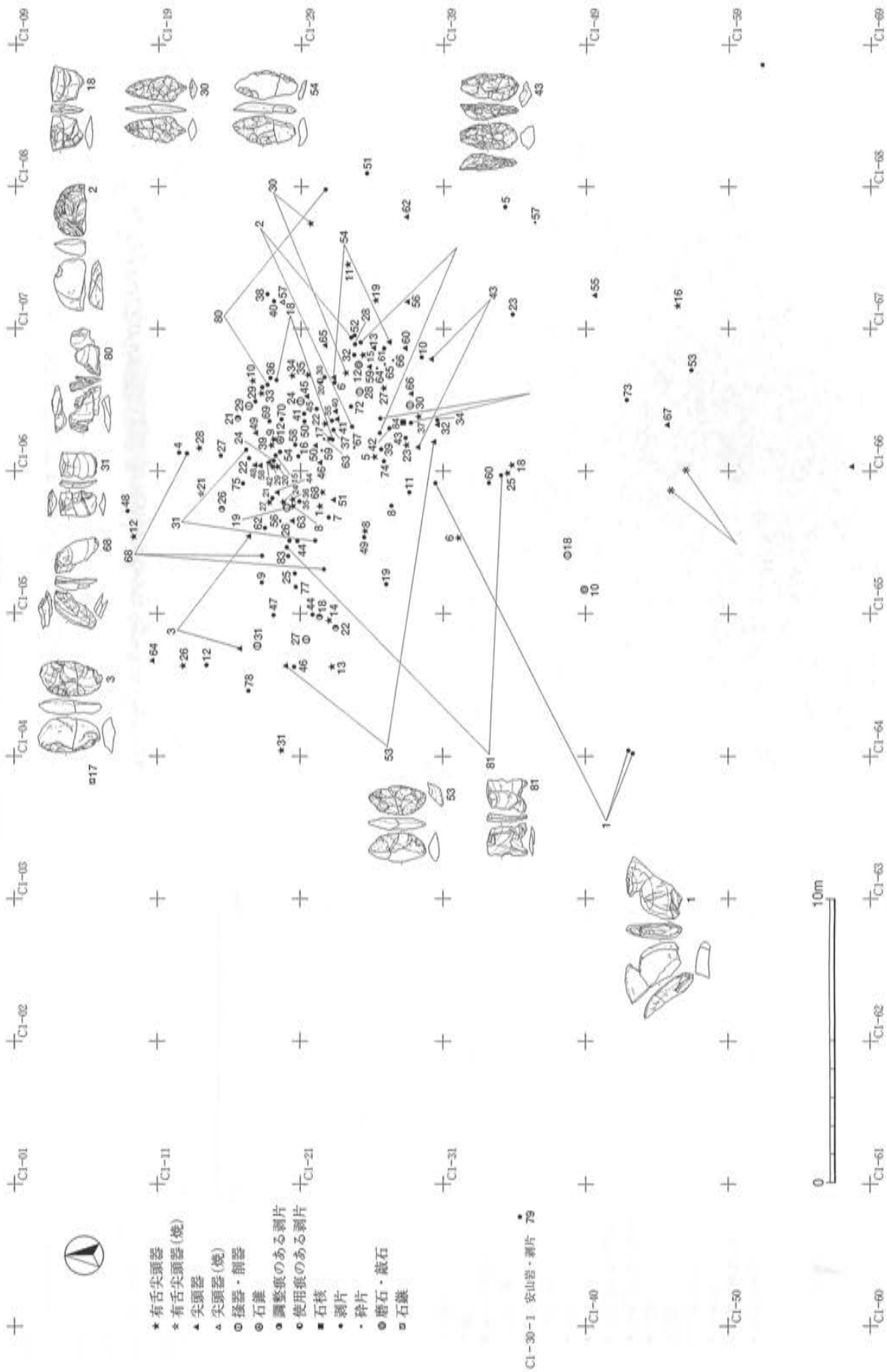


第71図 縄文時代草創期遺物出土状況 (石器・土器)

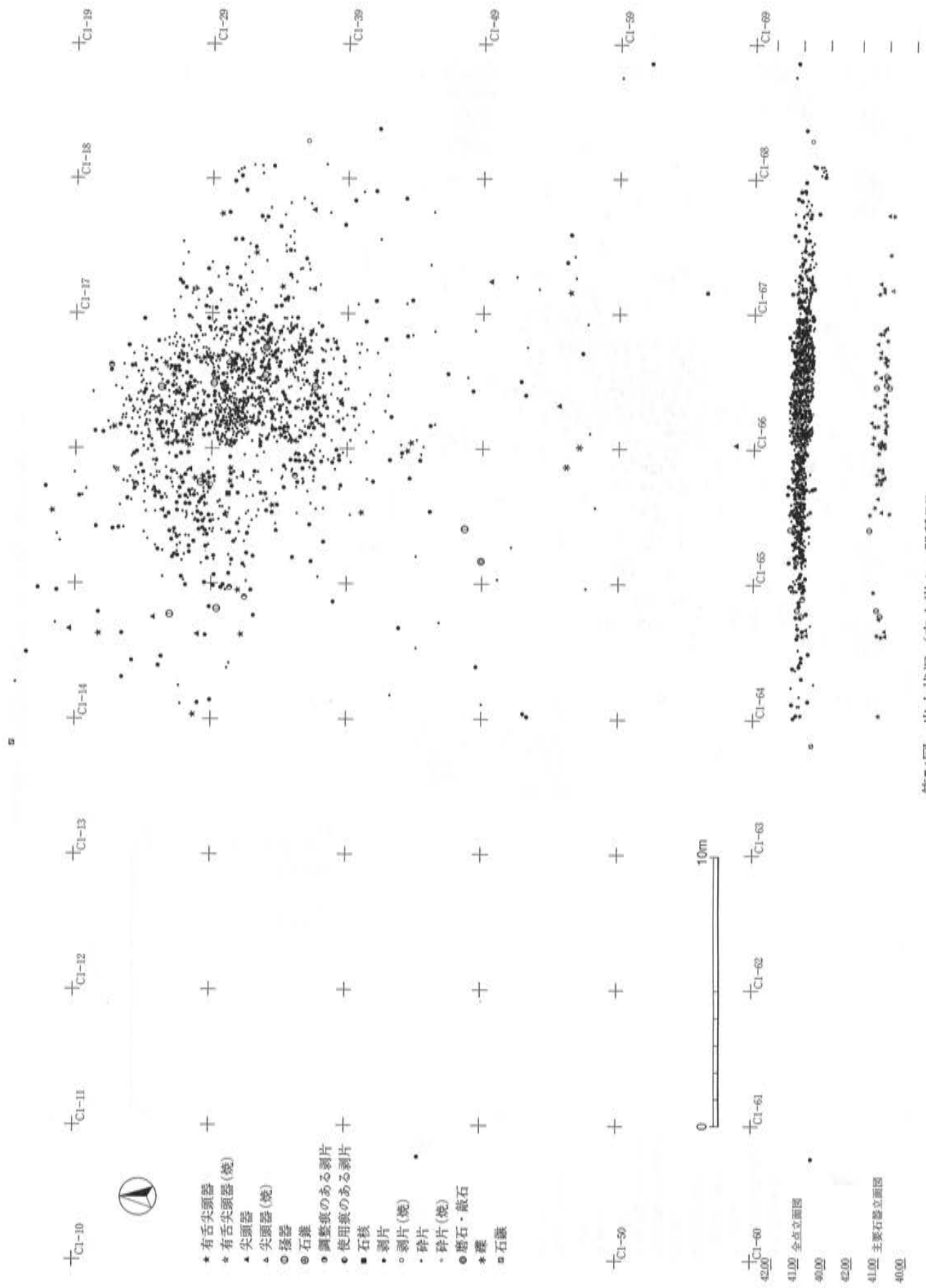


- 主要石器
- ★ 有舌尖頭器
 - ★ 有舌尖頭器(焼)
 - ▲ 尖頭器
 - ▲ 尖頭器(焼)
 - 削器・掻器
 - 石錘
 - 石斧
 - 軽石(矢柄研磨器)
- 剥片・その他
- 調整痕のある剥片
 - 使用痕のある剥片
 - 石核
 - 剥片
 - 剥片(焼)
 - 砕片
 - 砕片(焼)
 - 磨石・敲石
 - * 礫
 - 石鏃
 - 楔形石器
 - 不明

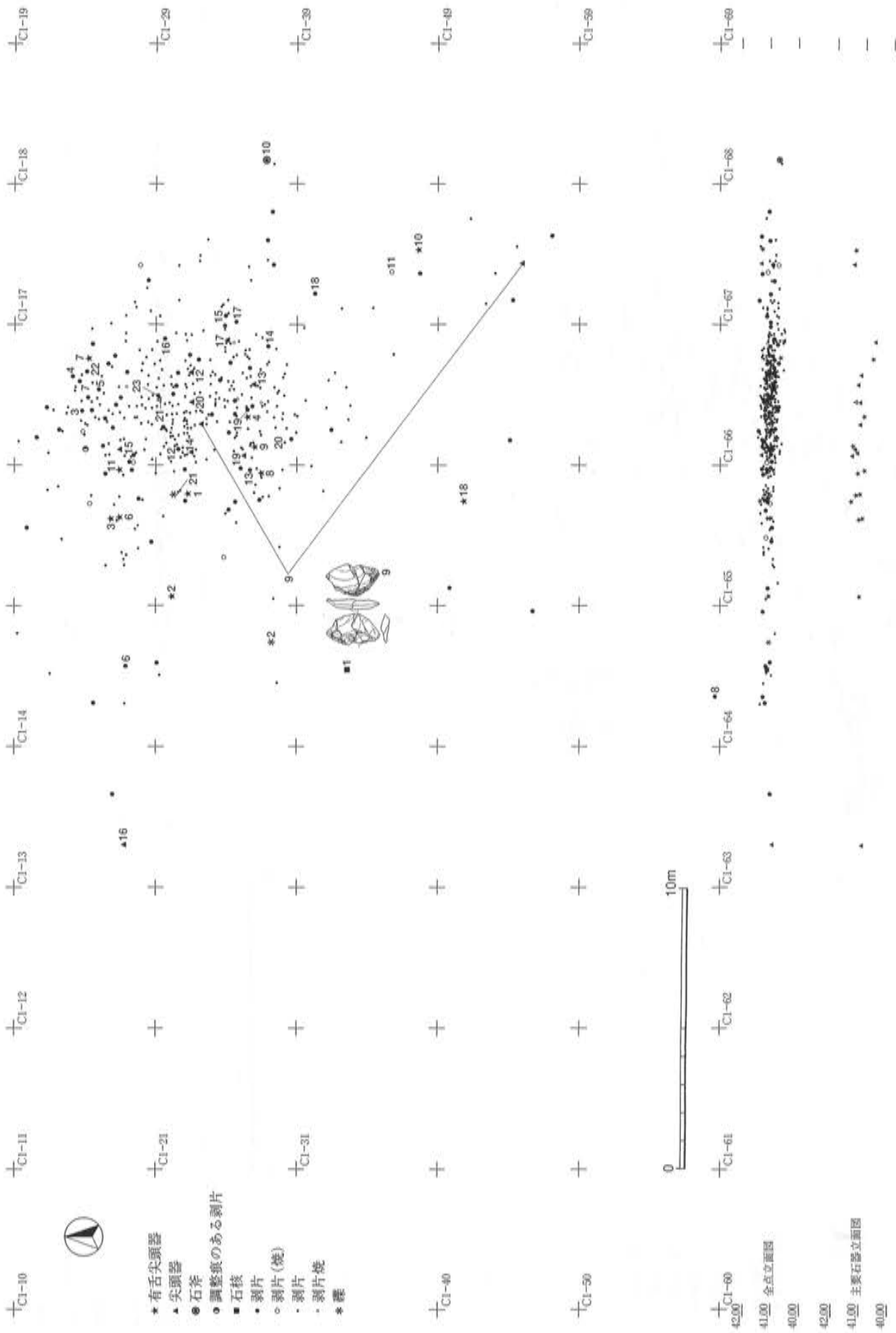
第72図 縄文時代草創期遺物出土状況 (全石材・器種別)



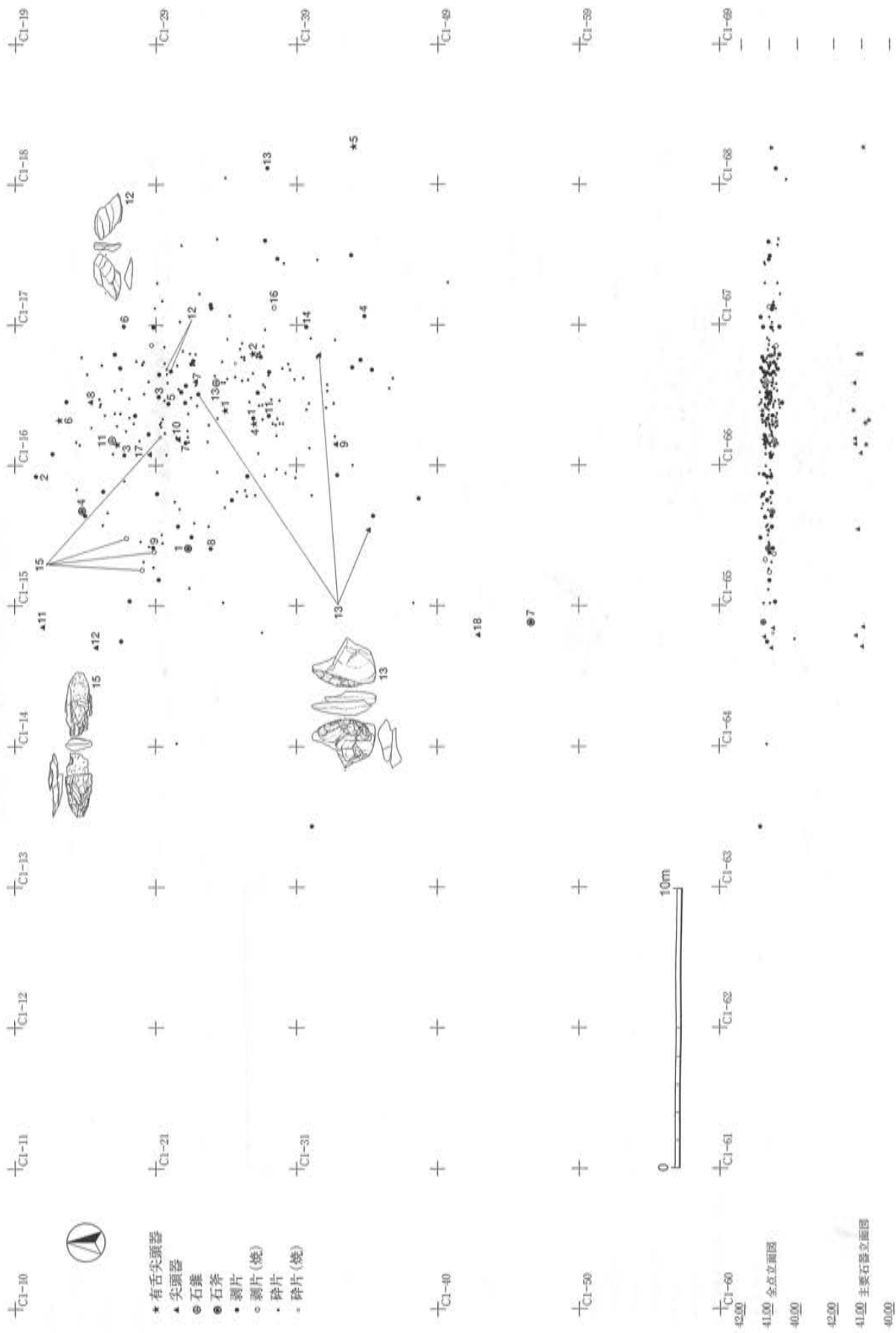
第73図 出土状況(安山岩A・実測・接合資料)



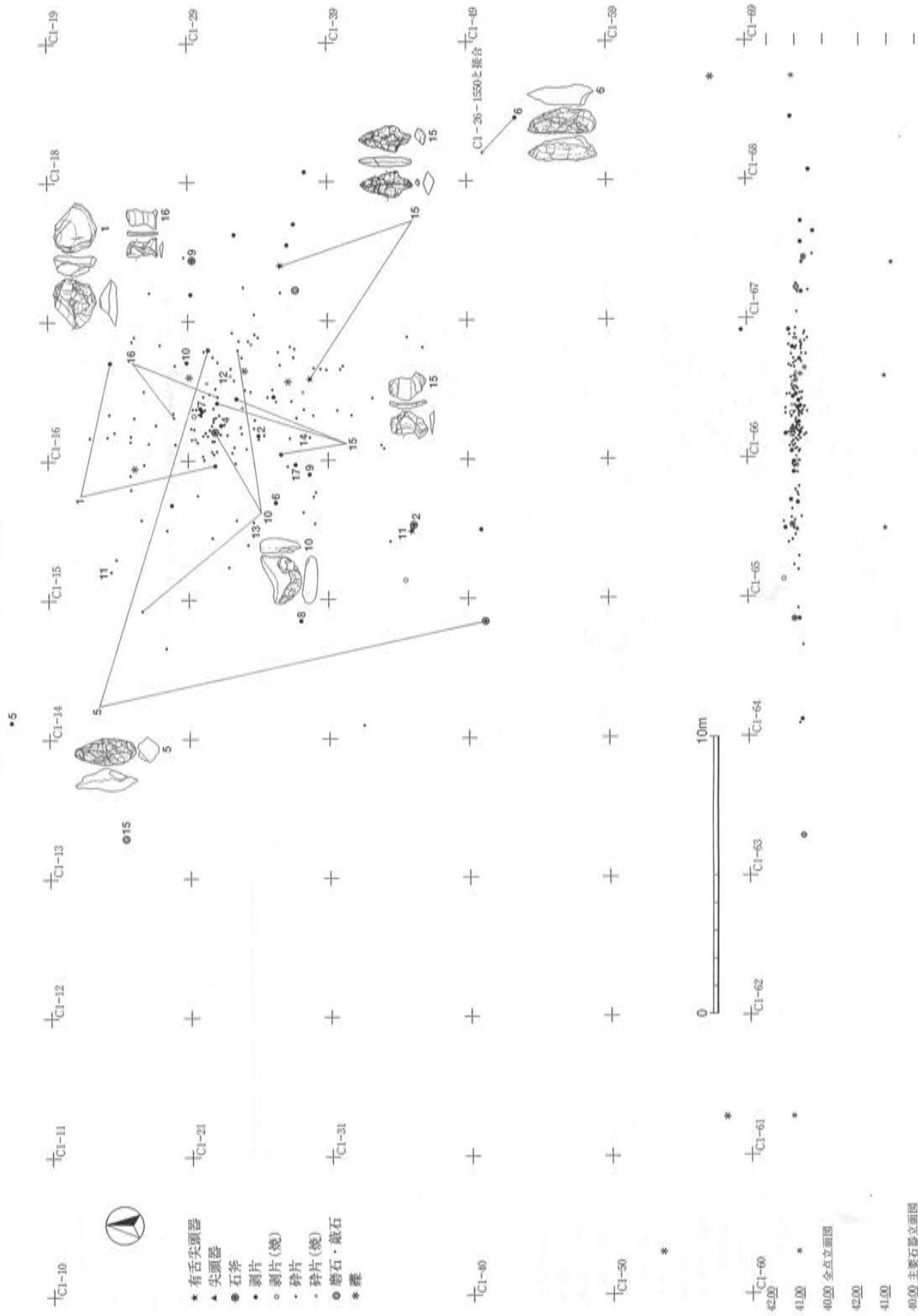
第74図 出土状況(安山岩A・器種別)



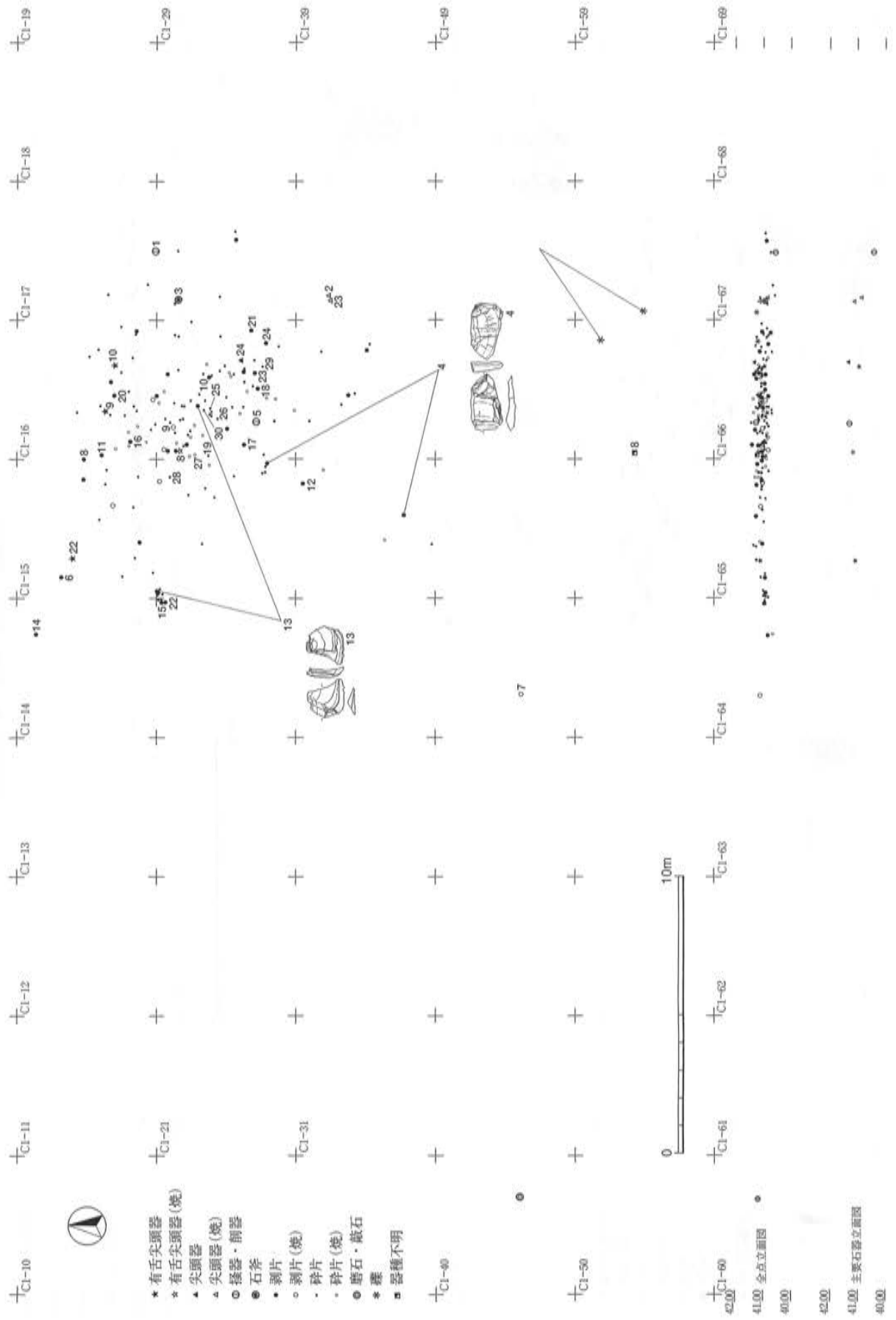
第75図 出土状況 (安山岩B・器種別)



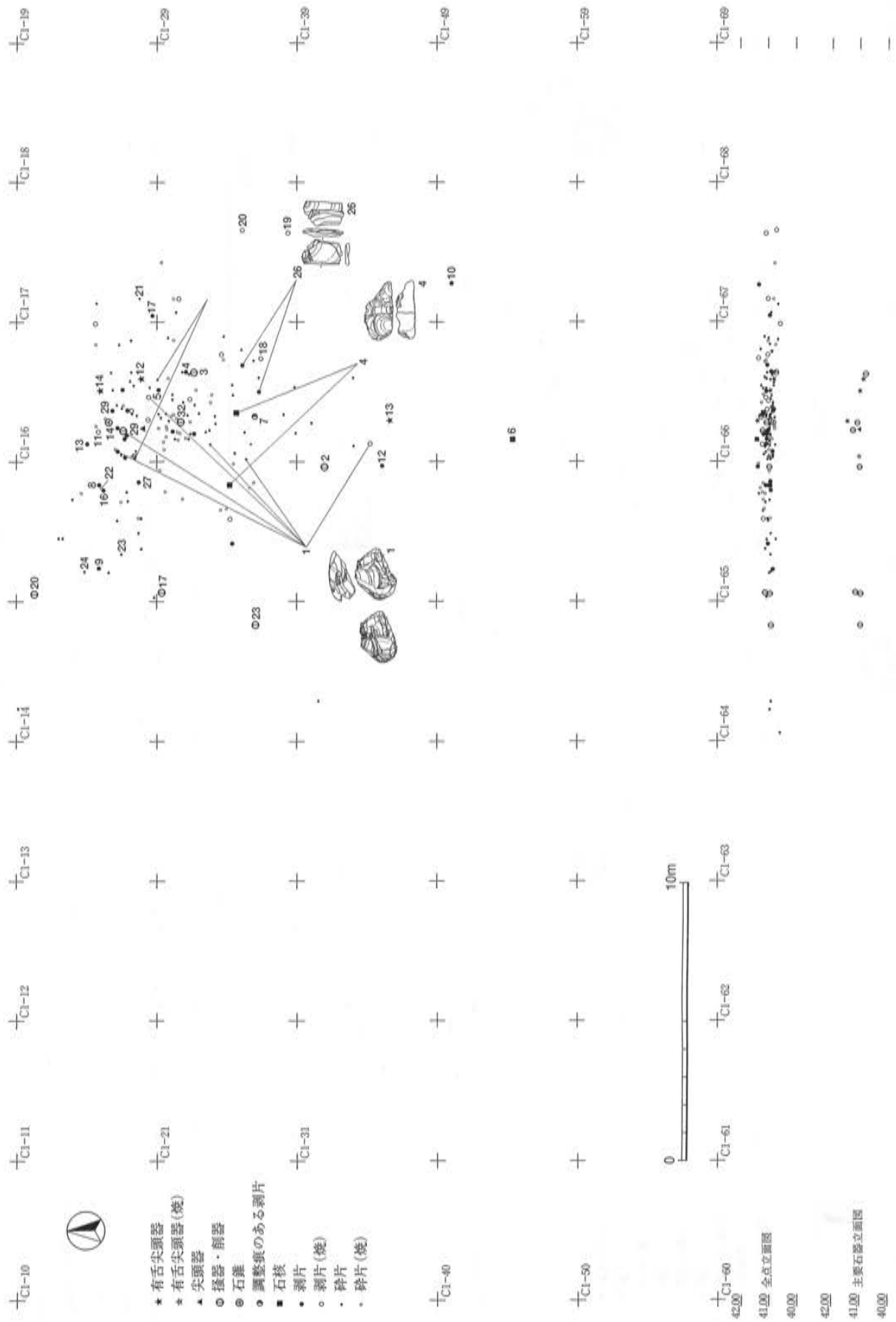
第76図 出土状況 (ホルンフェルス・器種別)



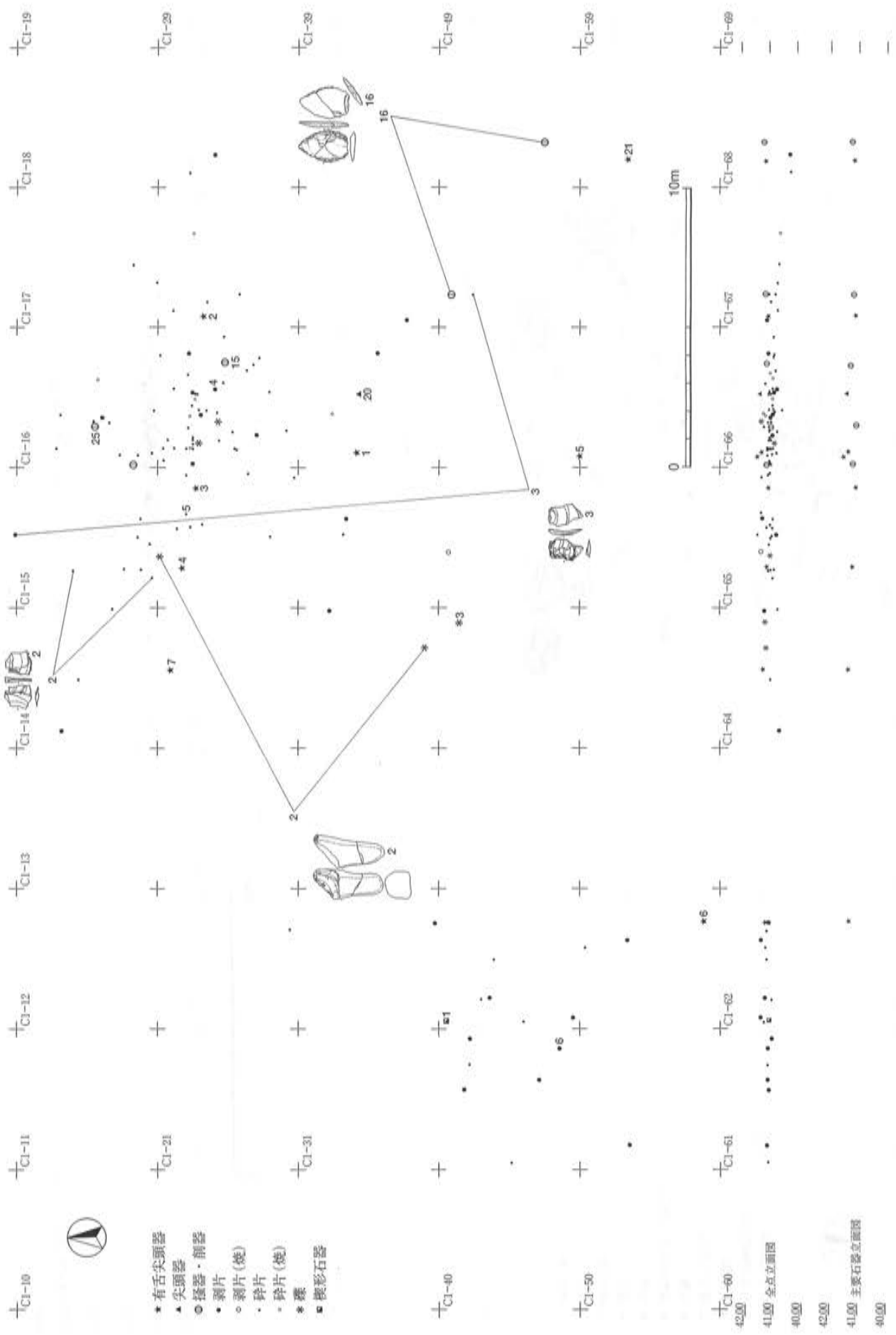
第77圖 出土狀況(砂岩・器種別)



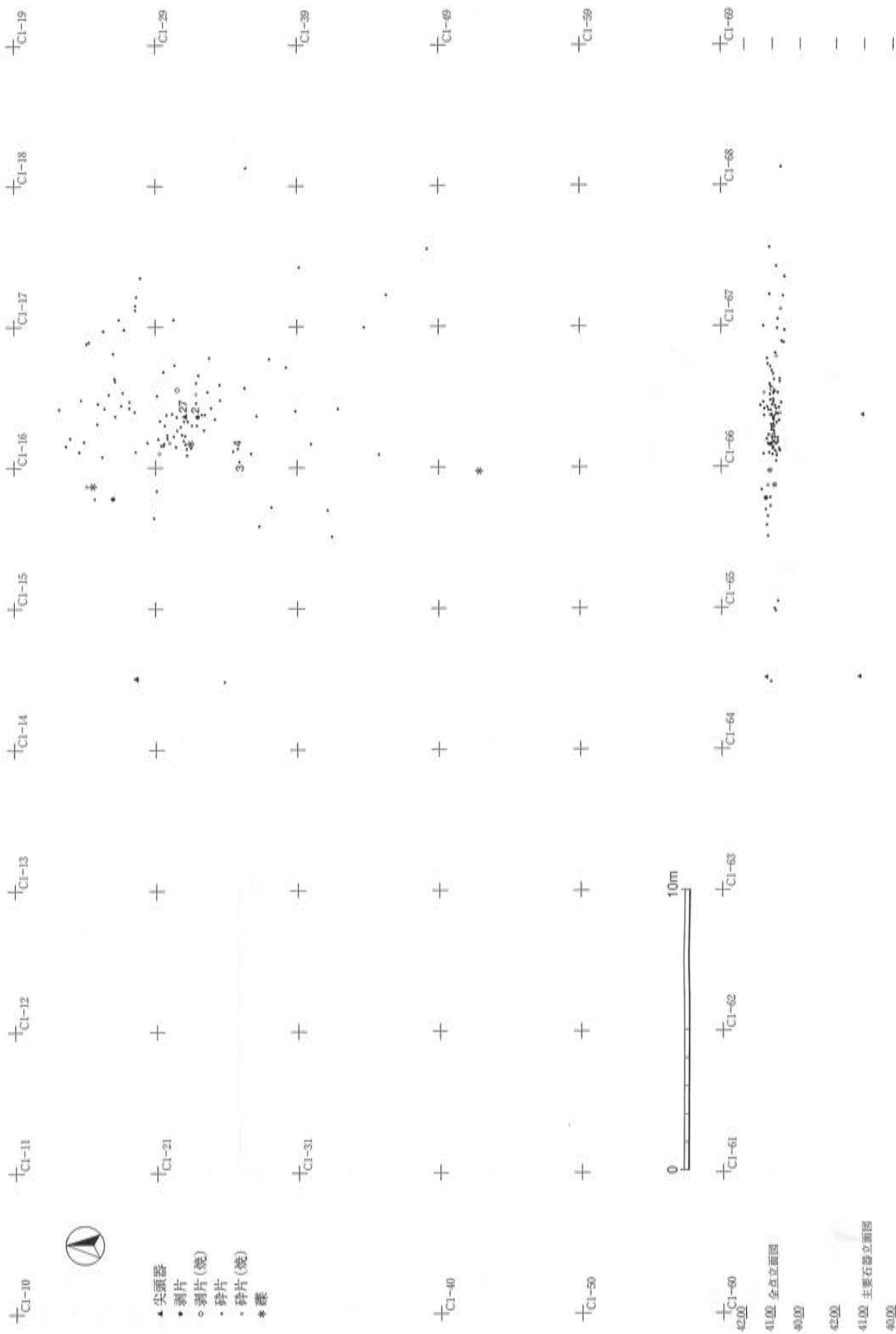
第78図 出土状況 (流紋岩・器種別)



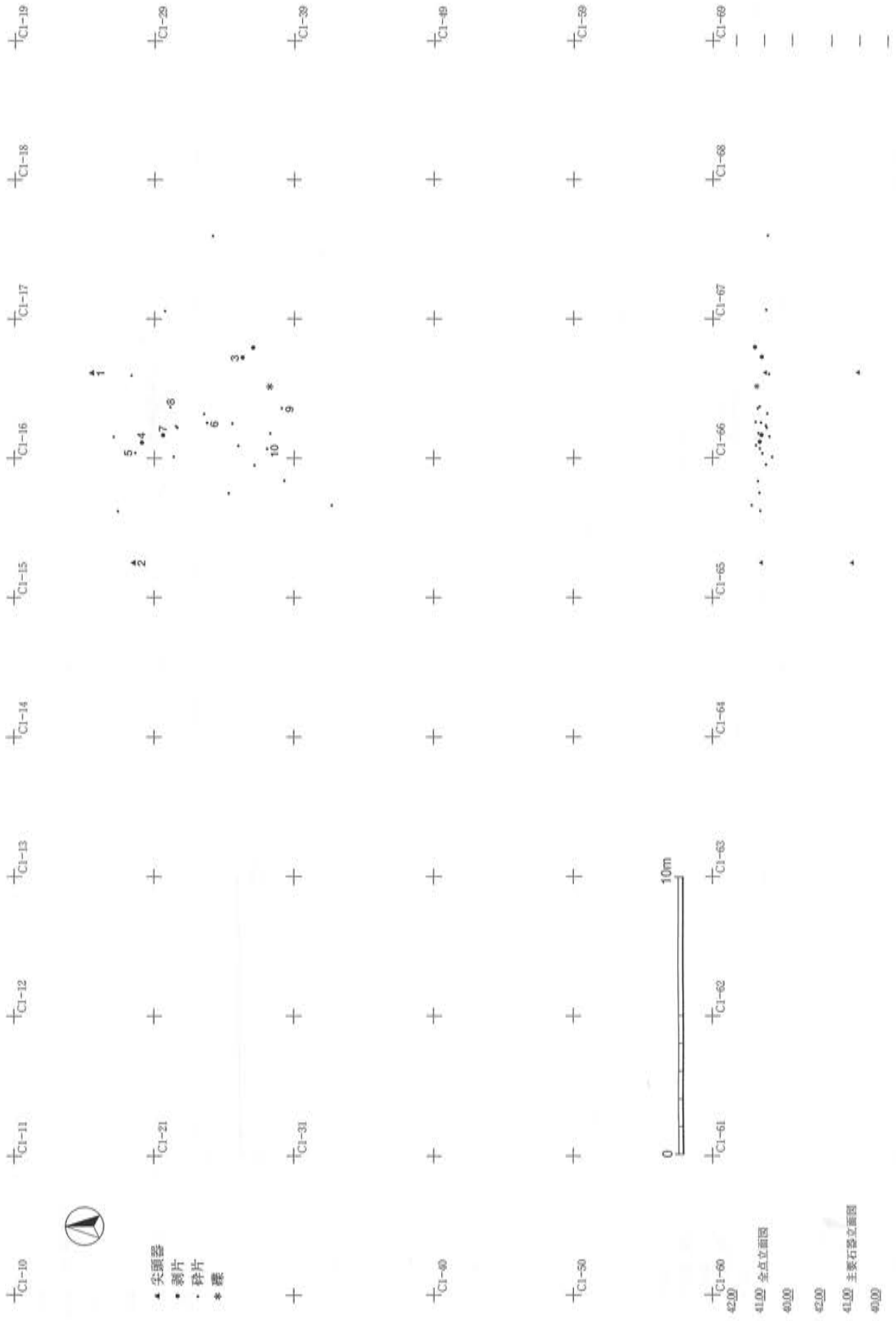
第79図 出土状況(頁岩・器種別)



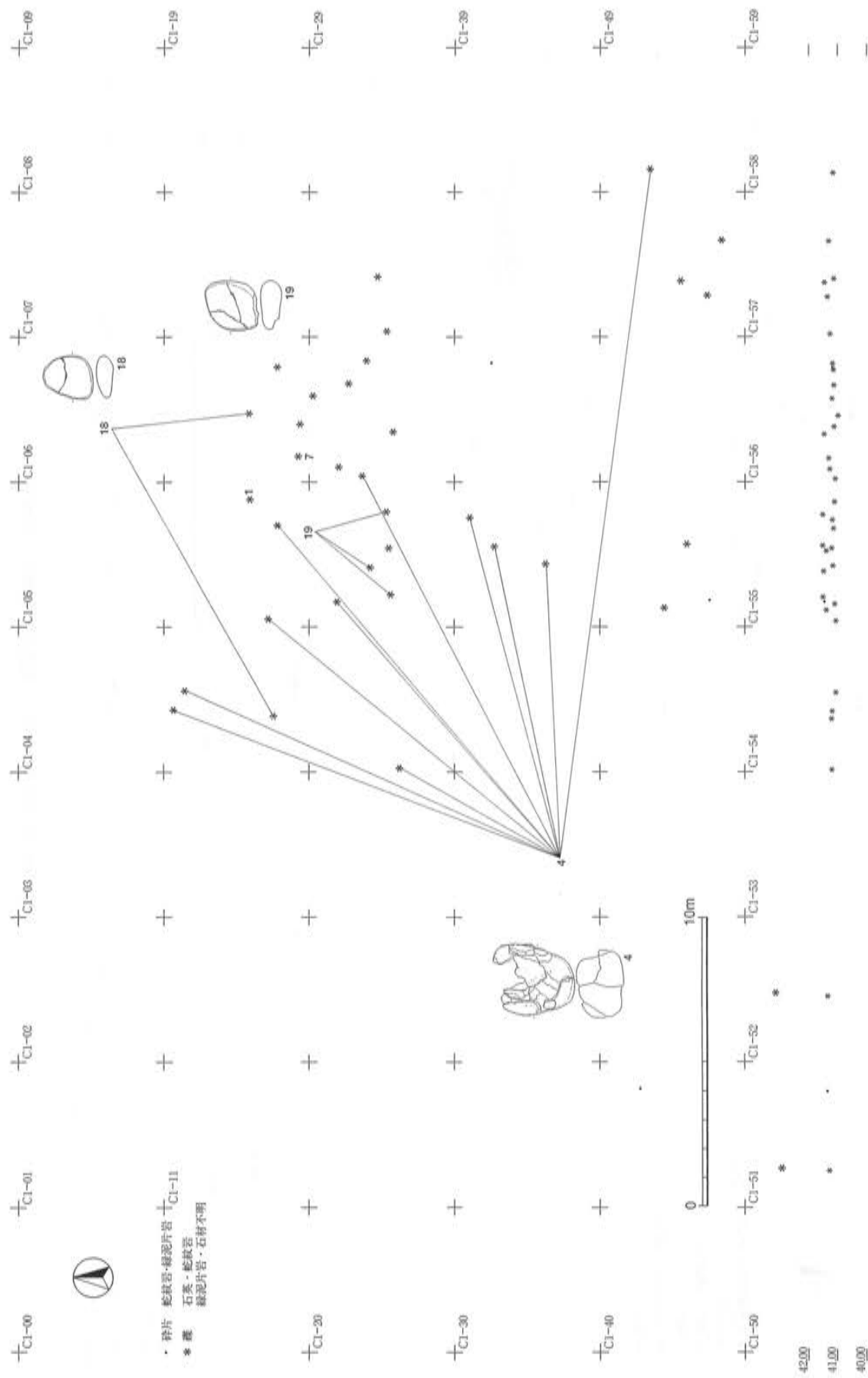
第80図 出土状況(チャート・器種別)



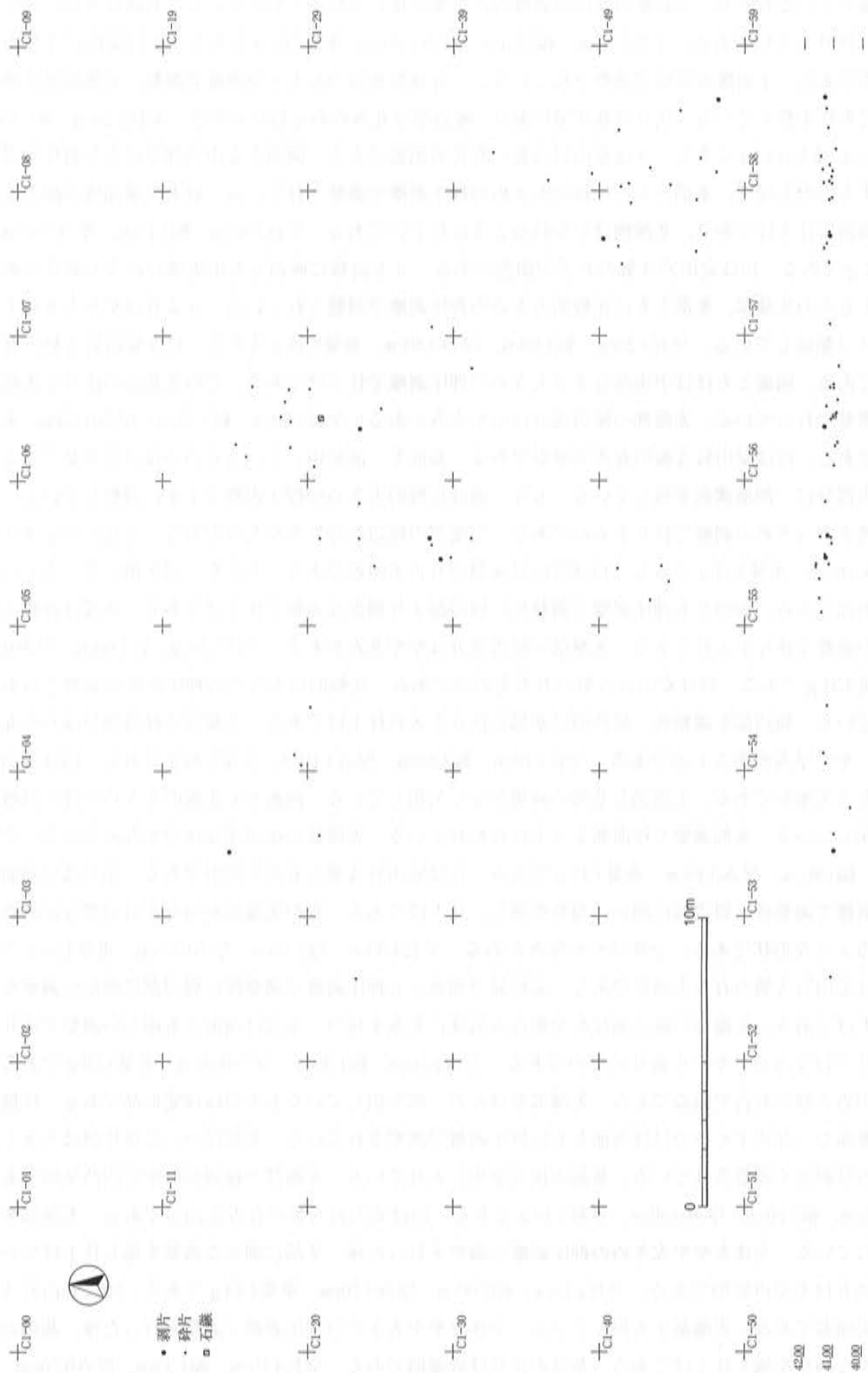
第81图 出土状况(凝灰岩·器種別)



第82図 出土状況 (メノウ・器種別)

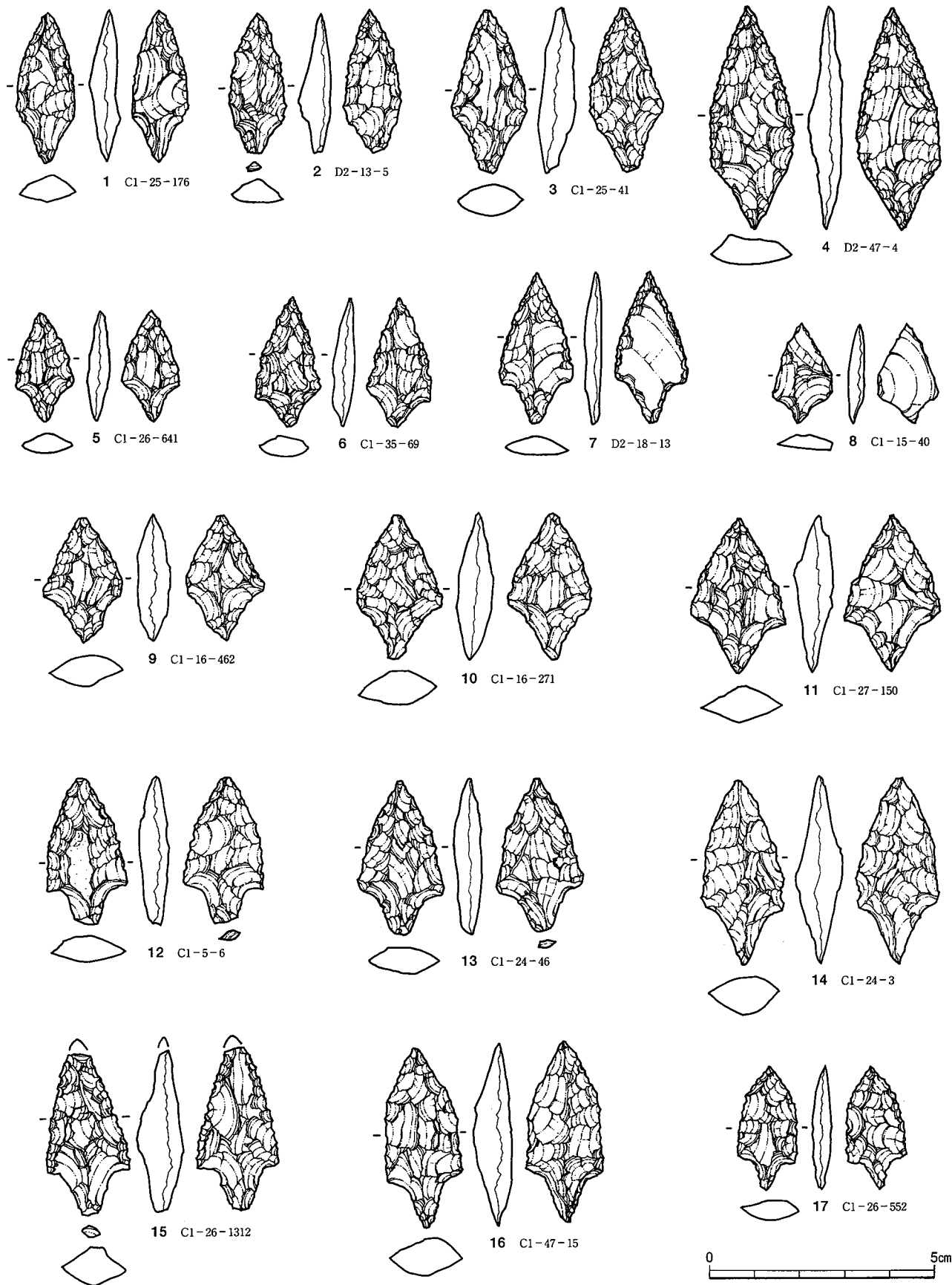


第84圖 出土狀況 (石英, 綠泥片岩, 蛇紋岩·器種別)

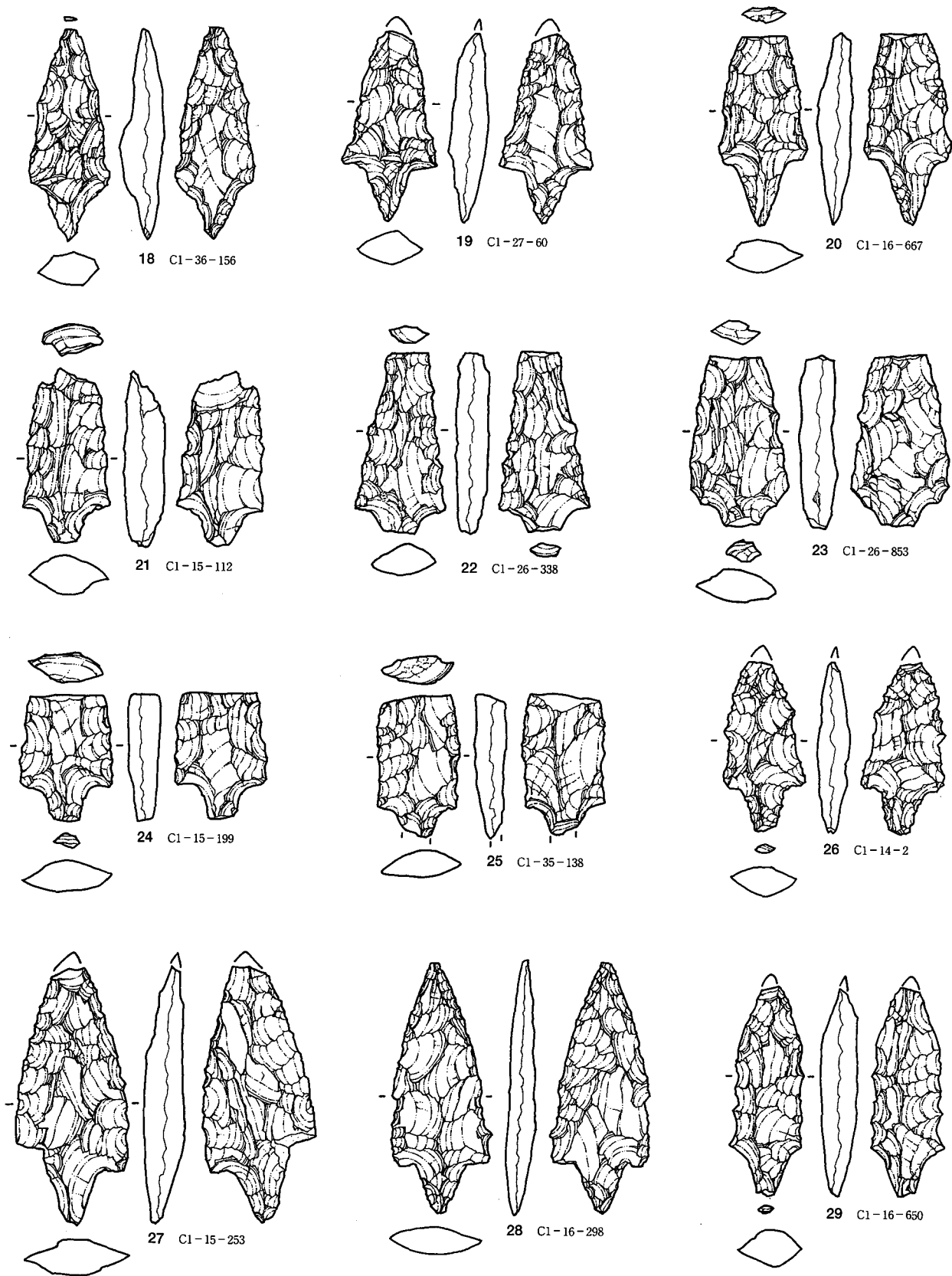


第85図 出土状況（黒曜石・器種別）

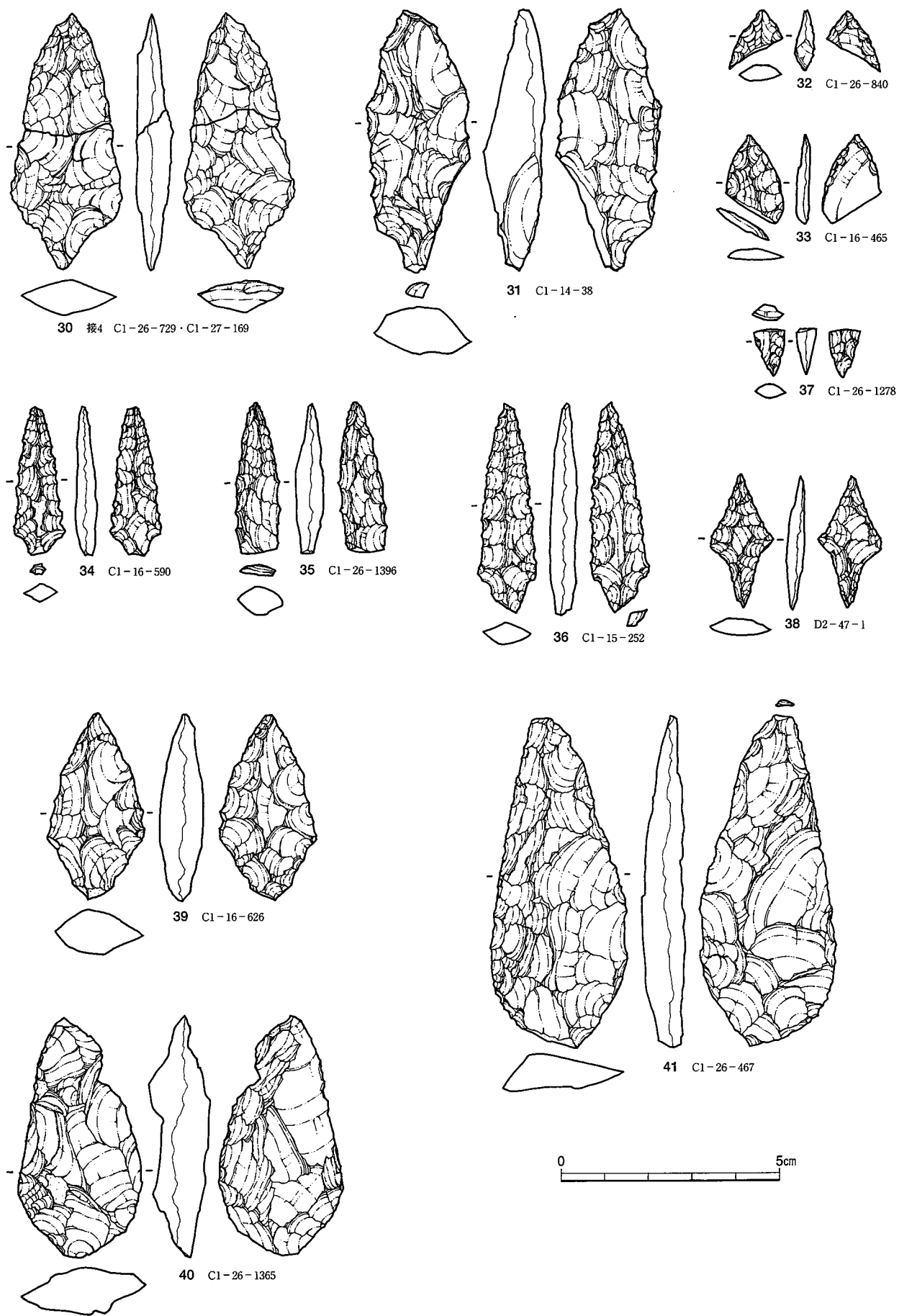
調整を施しているものの、主剥離面は周辺剥離のみ丁寧に施して形状を整えている。基部はさらに細かく調整して抉りを入れてある。全長3.40cm、幅1.65cm、厚み0.30cm、重量1.67gである。8は安山岩A製の有舌尖頭器である。主剥離面は殆ど調整されていない。背面側基部のみ大きな剥離で調整、先端部側は細かな調整で形状を整えている。抉りは基部側に偏り、縁辺部は丸みのある形状である。全長2.20cm、幅1.30cm、厚み0.30cm、重量0.92gである。9は安山岩A製の有舌尖頭器である。両面とも中央部分に少し剥片の剥離面を残すものの先端部、基部ともに比較的大きめの押圧剥離で調整されている。最大先端部側の縁辺部はやや直線的に仕上げられてあり、基部側はやや抉るように仕上げられてある。全長2.80cm、幅1.75cm、厚み0.65cm、重量2.67gである。10は安山岩A製の有舌尖頭器である。9と同様に両面とも中央部分に少し剥片の剥離面を残すものの先端部、基部ともに比較的大きめの押圧剥離で調整されている。9よりはやや大きめであるが形状は類似している。全長3.20cm、幅1.90cm、厚み0.80cm、重量3.59gである。11は安山岩A製の有舌尖頭器である。両面ともほぼ中央部分まで大きめの押圧剥離で仕上げられてある。その後基部の抉りを比較的小さい調整で行っている。先端部の縁辺部分はやや丸みがある。全長3.50cm、幅2.15cm、厚み0.75cm、重量3.63gである。12は安山岩A製の有舌尖頭器である。基部を一部欠損しているもののほぼ完形品である。片側中央部分に一部原礫面を残している。もう一面は比較的大きめの押圧剥離で丁寧に調整している。基部は両側より大きめの剥離で抉りを入れてある。先端部の縁辺部分はやや丸みがある。全長3.25cm、幅1.80cm、厚み0.60cm、重量3.41gである。13は安山岩A製の有舌尖頭器である。基部を一部欠損しているもののほぼ完形品である。両面とも押圧剥離で調整後に周辺部より細かい調整で仕上げられてある。基部は両側より大きめの剥離で抉りを入れてある。先端部の縁辺部分はやや丸みがある。全長3.40cm、幅1.90cm、厚み0.60cm、重量3.31gである。14は安山岩A製の有舌尖頭器である。比較的に大きめの押圧剥離で調整され形状を整えている。周辺部を調整後、最終的に基部に抉りを入れ仕上げられてある。先端部の縁辺部分はやや丸みがある。やや厚みがあるものである。全長4.10cm、幅1.80cm、厚み1.10cm、重量5.26gである。15は安山岩A製の有舌尖頭器である。先端部と基部の両端が少し欠損している。両面とも比較的大きめの押圧剥離で調整を施している。基部調整も片面側より主に行われている。先端部の縁辺部分はやや丸みがある。全長3.60cm、幅1.80cm、厚み0.40cm、重量4.47gである。16は安山岩A製の有舌尖頭器である。完形品で両面とも押圧剥離で調整後に周辺部に細かい調整を施し、仕上げられてある。やや先端部からやや肩の部分が直線的に広がるような形状である。全体にやや厚みがある。全長4.00cm、幅1.70cm、厚み0.80cm、重量4.58gである。17は安山岩A製の有舌尖頭器である。完形品で両面とも押圧剥離で調整後に周辺部に細かい調整を施し、仕上げられてある。先端部の縁辺部はやや膨らみ気味に丸みを持つ。基部は両面とも細かい調整で抉りを入れて仕上げられてある。やや小振りのものである。全長2.70cm、幅1.30cm、厚み0.40cm、重量1.39gである。18は安山岩A製の有舌尖頭器である。先端部をほんの一部欠損しているもののほぼ完形品である。片側に剥片剥離面を一部残すもののほぼ両面ともに押圧剥離で調整されている。基部については片側は大きく、もう一方は細かく調整されている。基部の抉りを少し入れている。先端部の縁辺部はやや凹凸気味である。全長4.60cm、幅1.70cm、厚み0.90cm、重量5.48gである。19は安山岩A製の有舌尖頭器である。先端部をやや欠損している。全体をやや大きめの押圧剥離で調整を行った後、基部に細かい調整を施し仕上げられている。基部の抉りはやや直線的である。全長4.10cm、幅2.00cm、厚み0.70cm、重量4.43gである。20は安山岩A製の有舌尖頭器である。先端部を欠損している。全体をやや大きめの押圧剥離で調整を行った後、基部の片側に細かい調整を施し仕上げられてある。基部の抉りは直線的である。全長4.10cm、幅1.95cm、厚み0.70cm、重



第86图 出土石器·安山岩A (1)

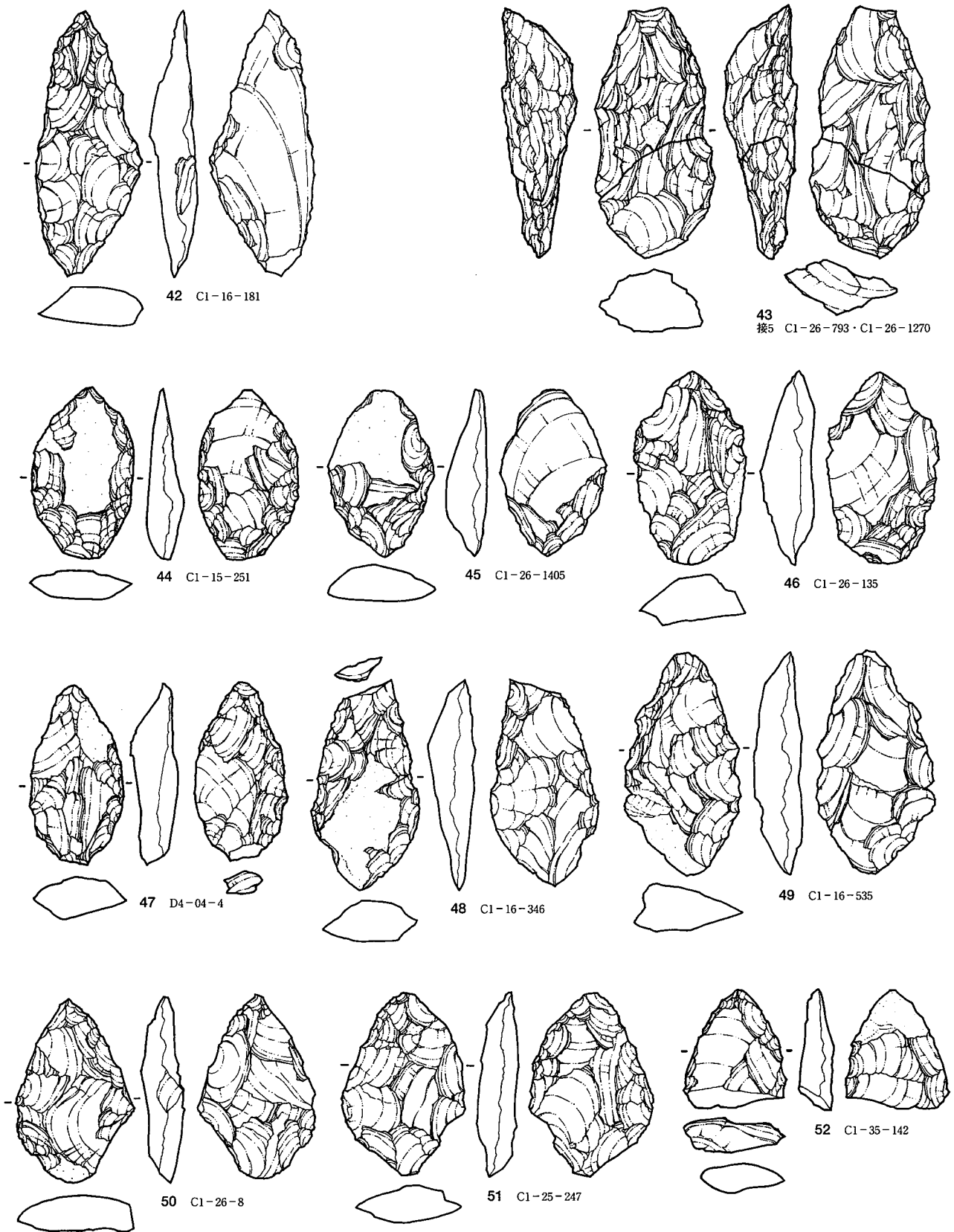


第87图 出土石器·安山岩A (2)



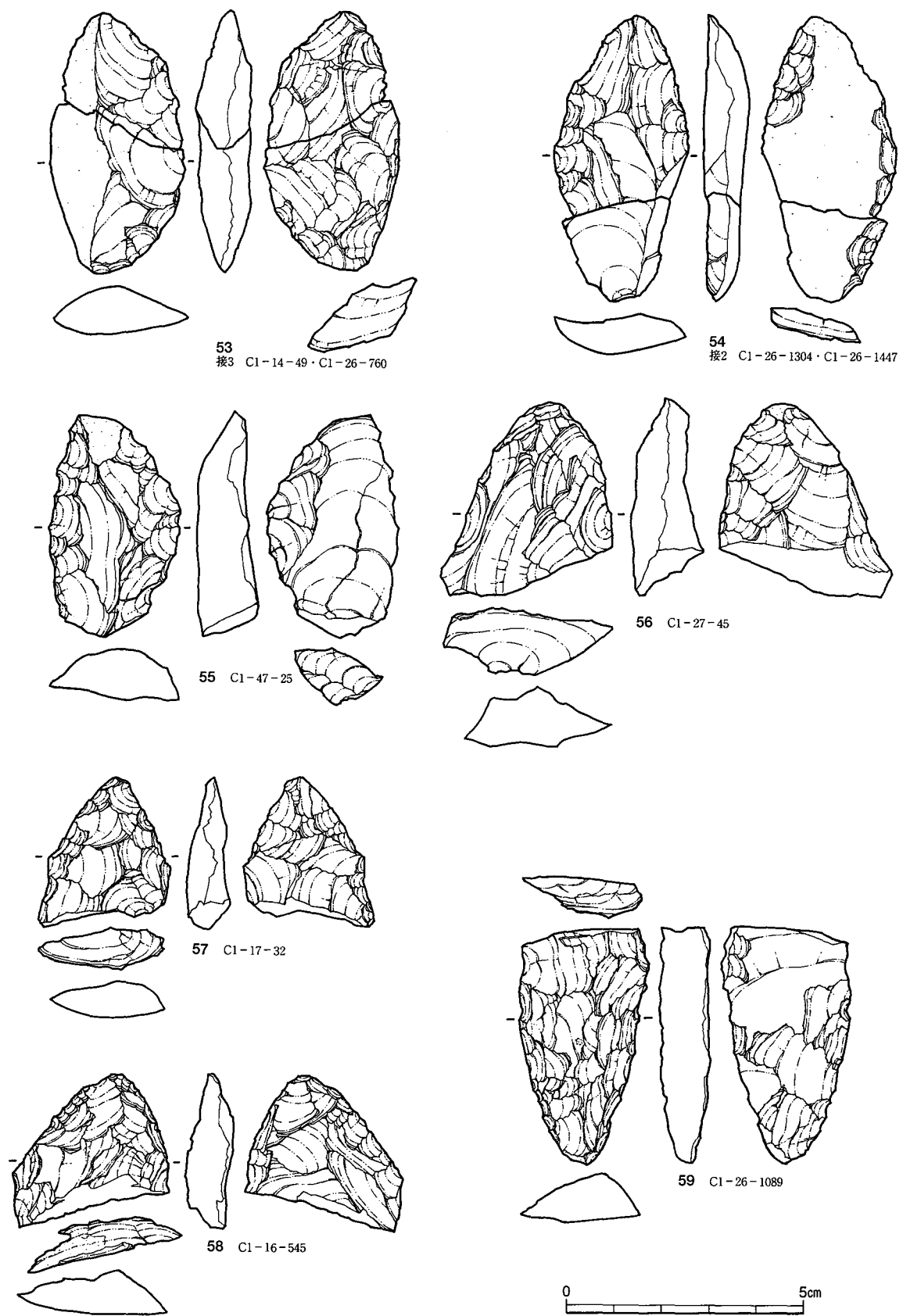
第88图 出土石器·安山岩A(3)

量4.70 gである。21は安山岩A製の有舌尖頭器である。先端部及び基部ともに大きく欠損している。全体にやや大きめの押圧剥離での調整によって製作されている。基部の挟りもやや大きめの剥離を施すことで挟りを少し入れている。やや被熱していると思われる。全長3.80cm, 幅1.85cm, 厚み0.80cm, 重量5.73 gである。22は安山岩A製の有舌尖頭器である。先端部及び基部ともやや欠損している。一部基部付近に旧剥離面を残すものの全体に大きめの押圧剥離の調整によって製作されている。本体の縁辺部が直線的で細長い印象のするタイプである。全長3.90cm, 幅1.95cm, 厚み0.60cm, 重量4.79 gである。23は安山岩A製の有舌尖頭器である。先端部及び基部ともに大きく欠損している。剥片素材の剥離面を片面側に大きく残す。全体にやや大きめの押圧剥離の調整によって製作されている。基部についてもほぼ同時に調整を施している。基部の挟りもやや大きめの剥離を施すことで挟りを少し入れている。全長3.70cm, 幅2.10cm, 厚み0.70cm, 重量6.29 gである。24は安山岩A製の有舌尖頭器である。先端部及び基部ともに大きく欠損している。一部基部付近に剥片剥離面を残すものの全体に大きめの押圧剥離の調整によって製作されている。全体をやや大きめの押圧剥離の調整を行った後、基部の片側に細かな調整を施し仕上げている。全長2.70cm, 幅2.00cm, 厚み0.70cm, 重量3.90 gである。25は安山岩A製の有舌尖頭器である。先端部及び基部ともに大きく欠損している。片面についてはやや大まかな調整である。基部については比較的丁寧な調整で仕上げられている。全長3.10cm, 幅1.80cm, 厚み0.60cm, 重量3.72 gである。26は安山岩A製の有舌尖頭器である。先端部及び基部をやや欠損しているもののほぼ完形品である。両面ともにやや大きめの押圧剥離で調整されており、基部については細かい調整で仕上げられている。全長3.40cm, 幅1.80cm, 厚み0.60cm, 重量3.41 gである。27は安山岩A製の有舌尖頭器である。先端部が一部欠損しているもののほぼ完形品である。左側基部は節理面で製作時に破損したものと思われる。両面ともに丁寧な押圧剥離の調整とその後の周辺調整で仕上げられている。全長5.50cm, 幅2.40cm, 厚み0.90cm, 重量8.95 gである。28は安山岩A製の有舌尖頭器である。完形品である。両面全体に比較的大きめの押圧剥離の調整を行った後に先端部周辺と基部周辺に細かな調整を施して仕上げている。基部の挟りもほぼ直線的である。先端部から基部の縁辺部はやや丸みのある形状である。全長5.40cm, 幅2.15cm, 厚み0.50cm, 重量5.42 gである。29は安山岩A製の有舌尖頭器である。先端部と基部の一部が欠損している。両面ともにやや細かな押圧剥離の調整で仕上げられている。形状は細身でやや長く基部の挟りもやや浅い。全長4.50cm, 幅1.60cm, 厚み0.75cm, 重量5.54 gである。30は安山岩A製の有舌尖頭器である。先端部と基部が折れたものが別々の地点から出土している。両面ともにやや大きめの押圧剥離で調整されている。先端部はさらに細かい調整が施されている。基部側の調整はあまり顕著にみられない。全長5.90cm, 幅2.50cm, 厚み0.70cm, 重量8.87 gである。31は安山岩A製の有舌尖頭器である。基部の部分が片側1/3程度斜めに欠損している。両面にわたって大きめの押圧剥離で調整を施し、さらに周辺に細かな調整を施し仕上げている。割れ方等から判断すると製作途中で割れてしまったそのまま廃棄された可能性が考えられる。全長6.00cm, 幅2.30cm, 厚み1.30cm, 重量15.18 gである。32・33は安山岩A製の尖頭器である。いずれも先端部のみであるため詳細は不明である。片面には周辺に細かな調整を残す。背面側はほぼ中央までに押圧剥離で調整されている。有舌尖頭器の先端部の可能性もあるが薄いため加工途中で割れてしまった可能性もある。32は全長1.40cm, 幅1.00cm, 厚み0.40cm, 重量0.39 gである。33は全長2.10cm, 幅1.30cm, 厚み0.25cm, 重量0.68 gである。34は安山岩A製の有舌尖頭器である。基部が若干欠損しているもののほぼ完形品である。細長い形状のものである。両面ともに細かな調整を施している。全長3.40cm, 幅1.20cm, 厚み0.40cm, 重量1.52 gである。35は安山岩A製の有舌尖頭器である。



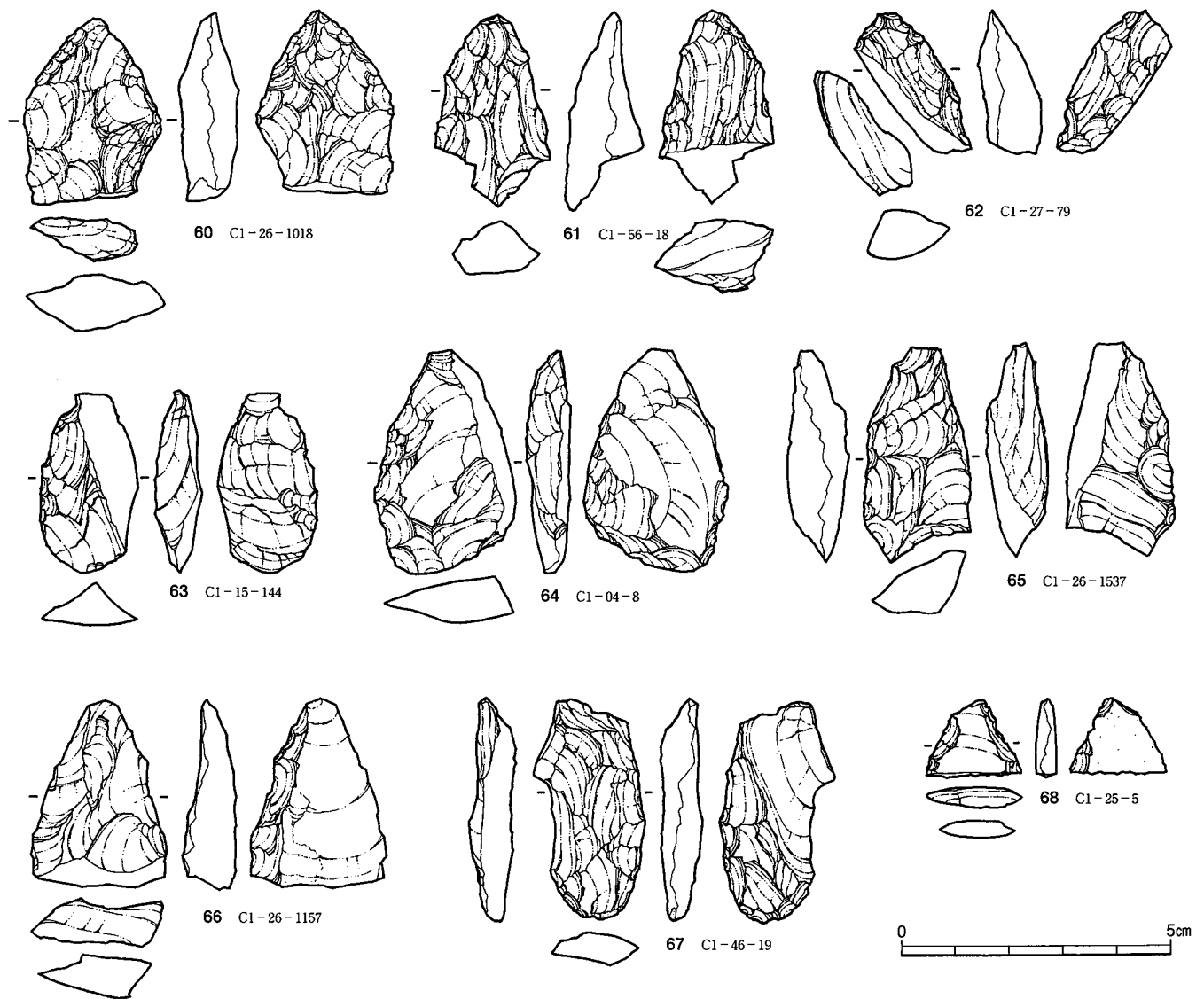
第89图 出土石器·安山岩A(4)

基部が欠損している。細長い形状のものである。両面とも押圧剥離で細かく調整されている。全長3.50cm、幅1.00cm、厚み0.60cm、重量2.15gである。36は安山岩A製の有舌尖頭器である。基部が一部欠損しているもののほぼ完形品である。両面とも押圧剥離で細かく調整されている。細長い形状のものである。全長4.80cm、幅1.30cm、厚み0.60cm、重量3.38gである。37は安山岩A製の有舌尖頭器の基部の脚部の一部である。片面に大きな剥離面を残すものの比較的丁寧な細かな調整を施している。全長1.00cm、幅0.70cm、厚み0.40cm、重量0.27gである。38は安山岩A製の有舌尖頭器である。小形の完形品である。いわゆる「花見山型」と呼ばれるものの範疇に入るものと思われる。全体に押圧剥離で調整を行って周辺部に細かく調整を施している。全長3.10cm、幅1.40cm、厚み0.35cm、重量0.99gである。39は安山岩A製の有舌尖頭器である。完形品である。両面に大きめの押圧剥離で調整を施して形状を整えている。やや厚みの残る器形で重量もある。全長4.30cm、幅2.20cm、厚み1.00cm、重量8.00gである。40は安山岩A製の尖頭器もしくはその未製品であろう。背面側はほぼ大きめの押圧剥離で調整されている。主剥離面は左側縁と右基部側まで終えたところで作業を中止しているようである。背面の瘤状に残っている箇所を取り除く作業を失敗してやめたのであろうか。やや巾広の有舌尖頭器の素材として考えてもよいかもしれない。全長5.50cm、幅2.80cm、厚み1.15cm、重量16.72gである。41は安山岩A製の尖頭器もしくは有舌尖頭器の素材であろう。背面、主剥離面ともにやや大きめの面的剥離で調整されている。この状態で基部調整を施して舌部を作り出せば有舌尖頭器となる。有舌尖頭器の製品よりひとまわり大きいのでこうした可能性も高い。全長7.50cm、幅3.15cm、厚み0.85cm、重量20.56gである。42は安山岩A製の尖頭器もしくは有舌尖頭器の素材であろう。背面は押圧剥離で調整されている。主剥離面は横剥ぎの剥離がそのまま残っている。主剥離面は殆ど調整が入られていないことがわかる。長めの有舌尖頭器の素材とすることが可能である。全長5.90cm、幅2.35cm、厚み0.90cm、重量10.16gである。43は安山岩A製の尖頭器の未成品で接合資料5である。背面、主剥離面ともに大きめの押圧剥離を行い、細かな周辺調整を行う途中で割れてしまったようである。かなり厚みを残している。比較的大きめの有舌尖頭器を製作する途中の様子を体現しているものであろう。全長5.60cm、幅2.60cm、厚み1.35cm、重量19.52gである。44は安山岩A製の尖頭器である。背面、主剥離面ともに基部を主体に調整されており、先端部側は周辺部に軽い調整を行い形状を整えている。背面は風化面、主剥離面は剥離面を半分近く残す。有舌尖頭器の未製品という可能性も高い。全長3.90cm、幅2.20cm、厚み0.65cm、重量6.49gである。45は安山岩A製の尖頭器である。背面、主剥離面とも殆ど基部を主体に調整されており、先端部側は周辺部に片側のみ剥離を行い形状を整えている。背面は半分近く原礫面を残し、主剥離面は基部のみ調整されただけである。有舌尖頭器の未製品という可能性は高い。全長3.70cm、幅2.40cm、厚み0.70cm、重量7.28gである。46は安山岩A製の尖頭器である。背面は大きめの剥離をやや不規則に行い、一部原礫面を残す状態とどめている。主剥離面は基部から右側縁辺部、先端部とやや大きめの押圧剥離を行い左側縁部から中央部分にかけては剥離面を残している。有舌尖頭器の未製品である可能性は高い。全長4.30cm、幅2.50cm、厚み1.10cm、重量11.05gである。47は安山岩A製の尖頭器である。両面ともに基部と先端部を中心にやや細かい調整を行い、形状を整えている。背面側には一部原礫面を残す。また、主剥離面側には剥片剥離面の一部が残されている。基部は調整時に一部欠損している。48は安山岩A製の有舌尖頭器の未製品である。先端部が破損しているため、製作途中で放棄された可能性が高い。背面側は比較的細かい押圧剥離で調整が行われているが、基部に近い部分にかなりの礫面を残している。主剥離面はやや大きめの押圧剥離で調整が入られ形状を整えている。全長4.60cm、幅2.40cm、厚み1.00cm、重量9.66gであ



第90图 出土石器·安山岩A(5)

る。49は安山岩A製の尖頭器である。背面は基部左側に原礫面を残すものの全体をやや大きめの押圧剥離で調整されている。主剥離面も中央部分に剥片剥離面を残すもののほぼ全周を大きめの押圧剥離で調整されている。有舌尖頭器として細かな調整を行う前段階の素材とも言うべきものと思われる。全長5.00cm, 幅2.60cm, 厚み1.00cm, 重量12.03gである。50は安山岩A製の尖頭器である。背面は基部に若干の礫面を残すもののやや大きめの粗い押圧剥離で調整されている。主剥離面も比較的粗い押圧剥離で調整され形状を整えている。有舌尖頭器として細かな調整を行う前段階の素材とも言うべきものと思われる。全長4.10cm, 幅2.60cm, 0.70cm, 重量9.22gである。51は安山岩A製の尖頭器である。背面は大きめの押圧剥離で粗く調整されている。主剥離面は先端部の方は比較的細かな周辺剥離を行い, 形状を整えている。基部はやや粗い大きな調整のみ行われている。有舌尖頭器として細かな調整を行う前段階の素材とも言うべきものと思われる。全長4.10cm, 幅2.70cm, 厚み0.80cm, 重量8.84gである。52は安山岩A製の尖頭器の欠損品である。基部側が折れているが, おそらく製作途中で折れて廃棄されたものと思われる。主剥離面側先端部には原礫面が残るものの, 全体的には背面, 主剥離面ともに大きな押圧剥離で粗く調整されている。全長2.60cm, 幅2.20cm, 厚み0.70cm, 重量4.04gである。53は安山岩A製の尖頭器(未完成品)である。背面は左側がほぼ礫面で覆われている。右側は大きめの押圧剥離, さらにはやや細かい周辺調整で形状を整えている。主剥離面は比較的大きな押圧剥離で調整後, 先端部と基部のみやや細かな調整を行い形状を整えている。製作途中で破損したものと思われる。全長5.50cm, 幅2.80cm, 厚み1.10cm, 重量16.73gである。54は安山岩A製の尖頭器(未完成品)である。背面は先端部~胴部にかけて周辺に細かな調整を施している段階で基部側が折れてしまったようである。主剥離面は周辺調整が部分的に行われている。大部分は原礫面で覆われている。全長6.00cm, 幅2.80cm, 厚み1.00cm, 重量14.92gである。55は安山岩A製の尖頭器(未完成品)である。背面側は両側縁を比較的大きな押圧剥離で調整した段階で終えている。主剥離面は片側側縁部分に3カ所調整を入れただけで終えている。尖頭器の前段階の素材とも言うべき資料であろう。全長4.70cm, 幅2.50cm, 厚み1.25cm, 重量15.75gである。56は安山岩A製の尖頭器(未完成品)である。製作時に折断したものと思われる。背面及び主剥離面ともに大きな押圧剥離で調整されている。全長4.10cm, 幅3.30cm, 厚み1.30cm, 重量15.40gである。57は安山岩A製の尖頭器(未完成品)である。先端部が残存している。尖頭器の周辺を細かな調整で仕上げている段階で折断したと思われる資料である。背面及び主剥離面ともに大きな押圧剥離で調整された後に周辺を細かい調整で仕上げている。全長3.20cm, 幅2.55cm, 厚み0.85cm, 重量5.99gである。58は安山岩A製の尖頭器(未完成品)である。先端部が残存しているものである。尖頭器の周辺を細かな調整で仕上げている段階で折断したと思われる資料である。背面及び主剥離面ともに大きな面的剥離で調整された後に周辺を細かい調整で仕上げている。全長3.20cm, 幅3.20cm, 厚み0.90cm, 重量8.08gである。59は安山岩A製の尖頭器(未完成品)である。先端部側が折断しているものである。背面側は押圧剥離で大まかな調整を行った後に縁辺に細かな調整を行っている。主剥離面は基部側に調整途中で終えていると思われる。この段階で折れてしまったものと思われる。全長4.90cm, 幅2.60cm, 厚み0.90cm, 重量14.56gである。60は安山岩A製の尖頭器(半欠)である。背面, 主剥離面ともに大きな押圧剥離で調整の後, 先端部を細かな調整を施して形状を整えている。背面側に原礫面を残している。細かな調整を全体に入れる直前に折れてしまったようである。全長3.50cm, 幅2.55cm, 厚み1.05cm, 重量9.65gである。61は安山岩A製の尖頭器(半欠)である。先端部のみ残存している。両面ともやや大きめの調整で粗く仕上げている感がある。厚みを残しているため製作途中で折れたものと思われる。全長3.60cm, 幅2.10

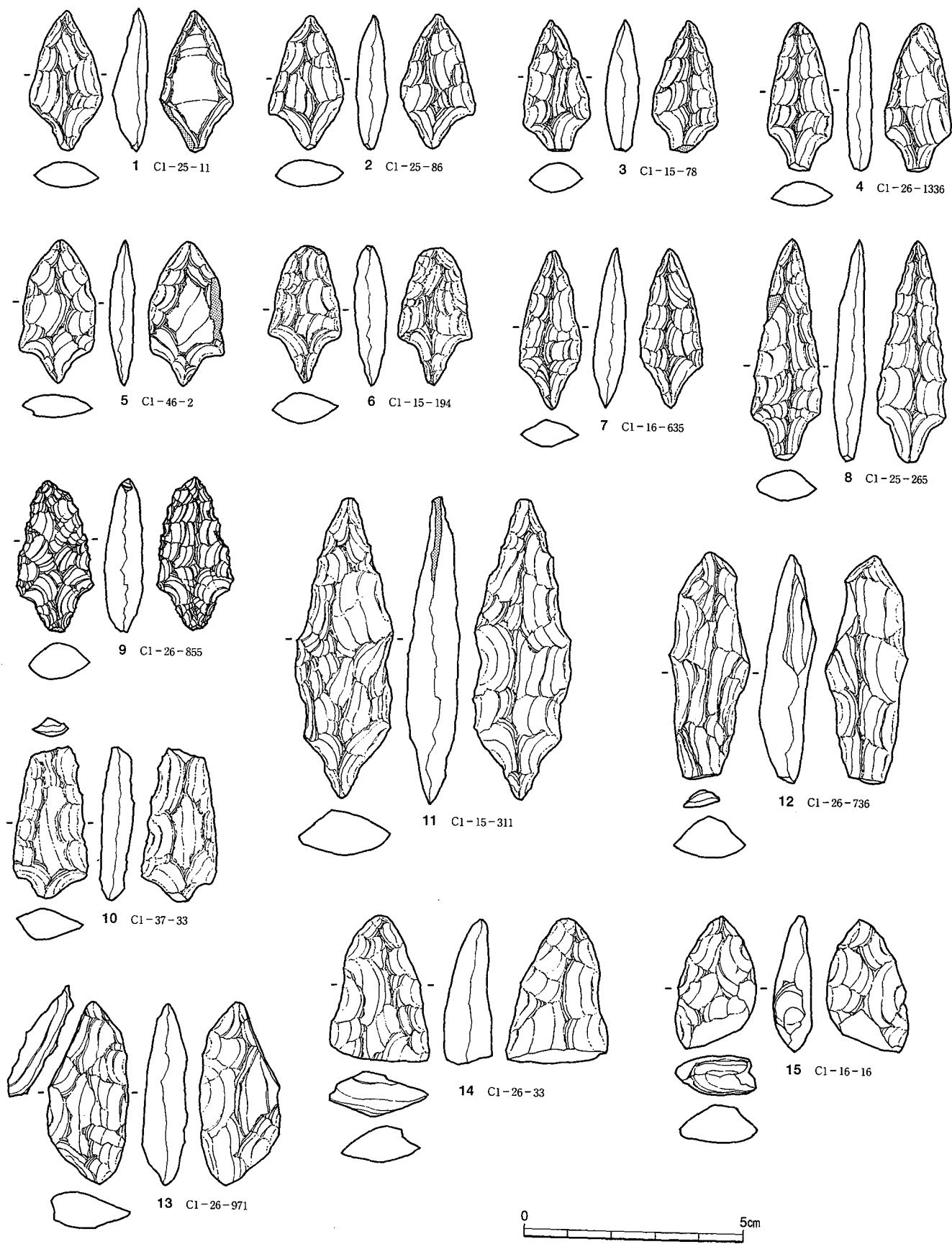


第91図 出土石器・安山岩A（6）

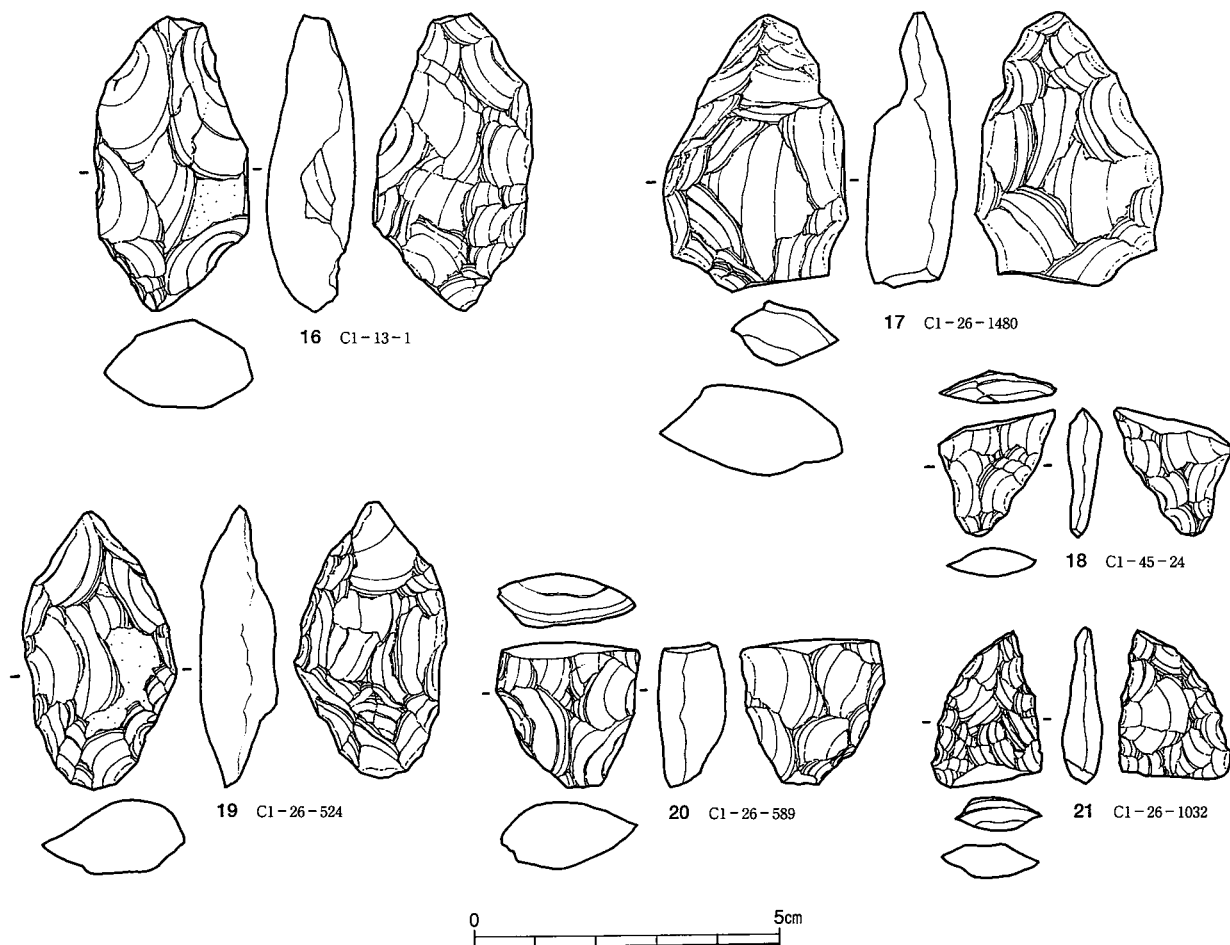
cm, 厚み1.30cm, 重量6.72gである。62は安山岩A製の尖頭器（半欠）である。先端部から左片側の側縁部のみ残存している。背面, 主剥離面ともかなり丁寧な調整を入れている。どの段階で折れたかは不明である。全長2.70cm, 幅1.45cm, 厚み0.90cm, 重量3.88gである。63は安山岩A製の尖頭器（未製品）である。背面の左側縁部には2回, 主剥離面は小剥離を若干入れているのみで余り大きい調整は行われてはいない。全長3.30cm, 幅1.80cm, 厚み0.75cm, 重量4.22gである。64は安山岩A製の尖頭器（未製品）である。背面, 主剥離面ともに基部を中心に細かな調整を施し, 形状を整えている。先端部側は両面ともに殆ど調整されていない。全長4.20cm, 幅2.65cm, 厚み0.75cm, 重量9.31gである。65は安山岩A製の尖頭器の先端部～胴部の一部である。両面とも大きな押圧剥離で調整を施した後, 縁辺部の細かな調整を入れている。その段階で折断したものである。全長4.00cm, 幅2.00cm, 厚み1.00cm, 重量7.97gである。66は安山岩A製の尖頭器の先端部破片である。背面は比較的大きな押圧剥離で調整されている。主剥離面は左縁辺部に沿ってやや細かく調整されている。反対側は加工されないで剥離面がそのまま残されている。全長3.50cm, 幅2.50cm, 厚み0.90cm, 重量7.57gである。67は安山岩A製の尖頭器の未製品である。背面側はやや細かな押圧剥

離で調整されている。主剥離面は基部から中程にかけて剥離を進めた状態で終えている。全長4.10cm, 幅2.00cm, 厚み0.70cm, 重量5.74gである。68は安山岩A製の尖頭器(未製品)の先端部破片である。背面は剥片の剥離面の両側を細かい周辺剥離で調整, 主剥離面は原礫面で覆われている状況である。形状を整える段階で折れたしまったと思われる。全長1.40cm, 幅1.80cm, 厚み0.40cm, 重量0.95gである。

安山岩B 有舌尖頭器・尖頭器及び未製品(第92・93図1~21, 図版41, 第12・13表) 安山岩Bとは風化面が黄色もしくは薄い灰色を呈し, 新鮮な剥離面が暗灰色でざらざら感のあるもので, 通称トロトロ石と呼ばれるものである。1は安山岩B製の有舌尖頭器である。背面はやや大きめの面的剥離で大まかな形状を作り出し, 先端部及び基部は細かい調整で整えられている。主剥離面は通常ものと比べると異なり, 周辺のみを細かく調整して仕上げられており, もととの剥片剥離面を大きく残す。全長3.20cm, 幅1.65cm, 厚み0.70cm, 重量2.86gである。2は安山岩B製の有舌尖頭器である。背面, 主剥離面ともにやや大きめの面的剥離のみで調整が行われ, 形状を整えていると思われる。背面, 主剥離面中央部分はどちらも旧剥離面を残すようである。全長3.10cm, 幅1.65cm, 厚み0.65cm, 重量2.68gである。3は安山岩B製の有舌尖頭器である。基部の茎部先端は破損している。背面, 主剥離面ともに比較的細かな押圧剥離で調整されている。全長3.00cm, 幅1.50cm, 厚み0.70cm, 重量2.60gである。4は安山岩B製の有舌尖頭器である。基部の茎部先端は破損している。背面は比較的大きめの押圧剥離で調整されている。ほぼこうした調整より形状を整えている。主剥離面は先端部の右片側と基部の左片側を細かい調整で仕上げている。いわゆる補完する調整というべきであろうか。全長3.40cm, 幅1.50cm, 厚み0.50cm, 重量2.46gである。5は安山岩B製の有舌尖頭器である。背面はやや大きめの面的剥離で比較的丁寧に調整されている。基部の茎部についても特に念入りに調整されている。主剥離面は中央部分に旧剥離面を大きく残す形で周辺を比較的細かく調整されている。全長3.30cm, 幅1.70cm, 厚み0.50cm, 重量2.63gである。6は安山岩B製の有舌尖頭器である。先端部がやや欠損している。背面, 主剥離面ともやや小さめの剥離で細かい調整が入れられている。基部の茎部についても比較的丁寧に仕上げられている。全長3.10cm, 幅1.70cm, 厚み0.75cm, 重量2.78gである。7は安山岩B製の有舌尖頭器である。背面, 主剥離面とも比較的細かな剥離で丁寧に調整されている。基部の茎部はそれ程抉りが極端ではない。全長3.70cm, 幅1.40cm, 厚み0.65cm, 重量2.74gである。8は安山岩B製の有舌尖頭器である。身の部分が細長いタイプのもので基部の茎部先端がやや欠損しているものと思われる。背面, 主剥離面とも比較的大きめの押圧剥離で調整されている。全長5.10cm, 幅1.60cm, 厚み0.60cm, 重量4.00gである。9は安山岩B製の有舌尖頭器である。先端部がやや欠けている。基部の茎部が丸味の残るものである。背面, 主剥離面ともに全体に細かい押圧剥離の調整で仕上げられている。その割に形状がやや歪な感じが否めない。全長3.50cm, 幅1.75cm, 厚み0.90cm, 重量4.38gである。10は安山岩B製の有舌尖頭器である。先端部は欠損している。背面, 主剥離面ともにやや細かい押圧剥離を行い形状を整えている。基部の茎部は他のものと比較すると短く丸みがある。背面, 主剥離面ともに中央部分に旧剥離面が大きく残る。全長3.50cm, 幅1.70cm, 厚み0.60cm, 重量3.49gである。11は安山岩A製の有舌尖頭器である。比較的大型で細身の尖頭器で基部の作り出しも余り顕著なものではない。背面, 主剥離面ともにやや大きめの押圧剥離で大雑把に調整されており, 形状もやや歪な感じが否めない。全長6.90cm, 幅2.15cm, 厚み1.10cm, 重量13.62gである。12は安山岩B製の尖頭器である。基部が欠損しているため, 有舌尖頭器であるかどうかは不明である。細身の有舌尖頭器の未製品の可能性がある。背面, 主剥離面ともかなり

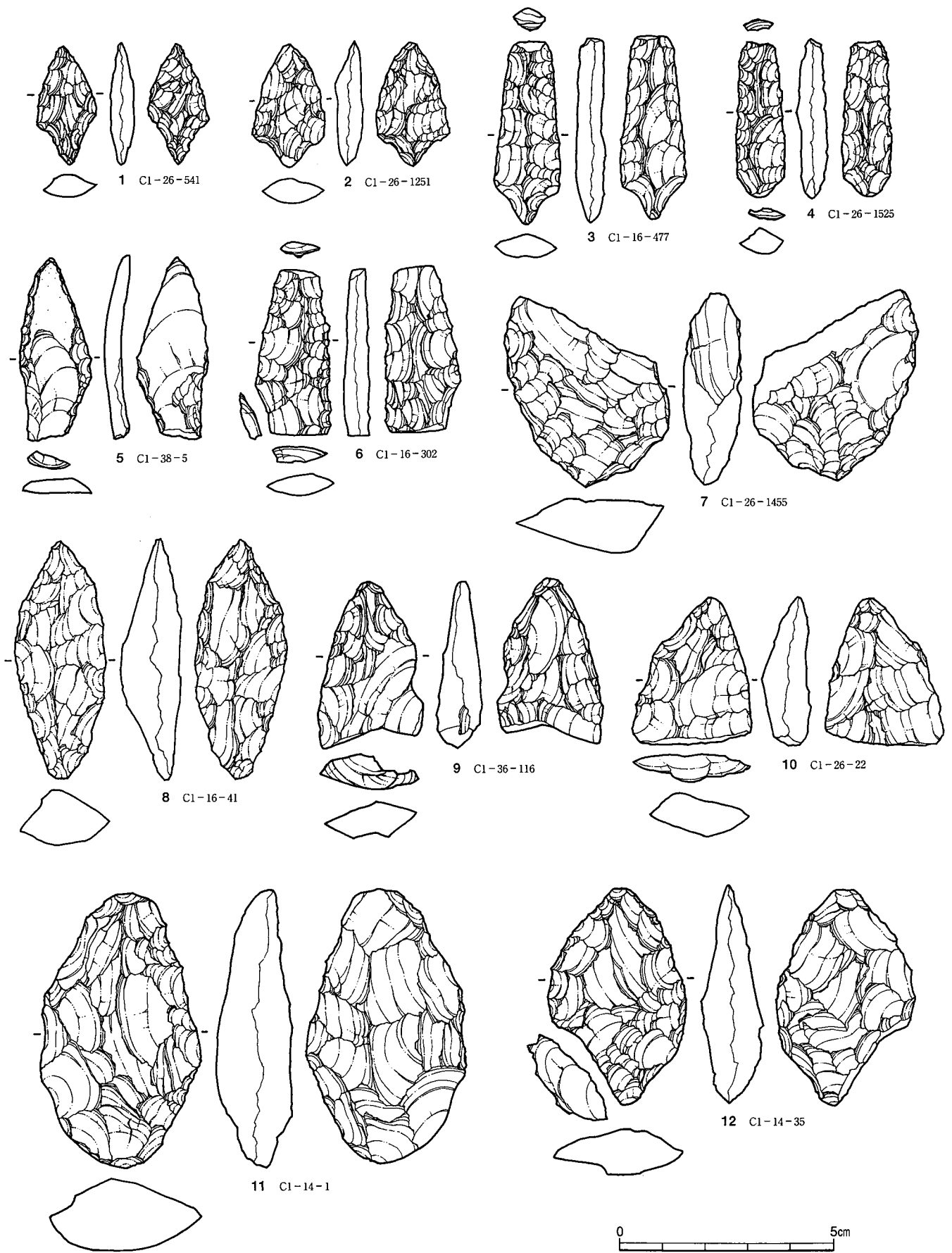


第92图 出土石器·安山岩B(1)



第93図 出土石器・安山岩B（2）

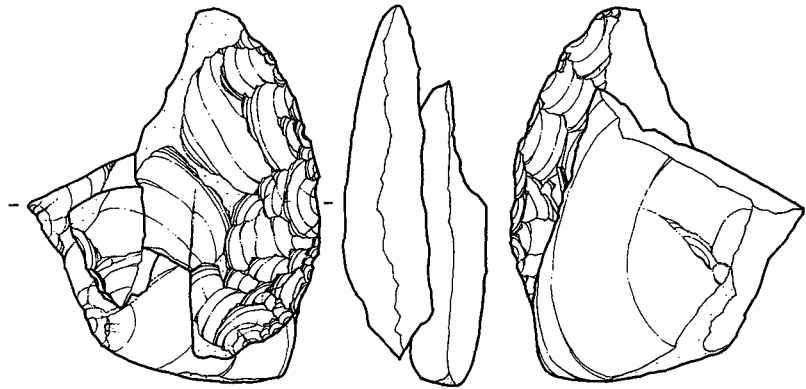
大まかな押圧剥離で調整されている。全長5.20cm，幅1.80cm，厚み1.00cm，重量8.30gである。13は安山岩B製の尖頭器である。背面は比較的細かい剥離で調整されている。旧剥離面はどちらかというやや大雑把な感じのする不規則な調整が行われている。先端部の縦方向の折れは製作途中で起こったものと思われる。調整がうまく進行していれば有舌尖頭器の素材となったであろう。全長4.20cm，幅1.80cm，厚み0.90cm，重量6.95gである。14は安山岩B製の尖頭器の先端部の破片である。使用中か製作中に折れたかは不明である。背面の剥離面を観察する限り，大きな押圧剥離を施した後に細かな周辺の調整を行い，形状を整えていることがわかる。主剥離面はやや大きめの押圧剥離のみで調整されている。全長3.30cm，幅2.25cm，厚み1.10cm，重量6.52gである。15は安山岩B製の尖頭器である。基部がやや破損している。背面，主剥離面ともにやや大きめの押圧剥離で調整されている。全長3.10cm，幅1.80cm，厚み0.90cm，重量4.28gである。16は安山岩B製の尖頭器（未製品）である。明らかに有舌尖頭器あるいは尖頭器の未製品である。背面は大きな押圧剥離で調整されており，原礫面を一部残している。主剥離面は背面よりはやや多めの細かい剥離が施されているものの全体に厚みが残る。これから周辺部分を細かく調整することで有舌尖頭器として仕上げているものと思われる。全長4.90cm，幅2.50cm，厚み1.35cm，重量17.44gである。17は安山岩B製の尖頭器（未製品）である。基部が折れているためおそらく荒仕上げの段階で折断したと思われる。背面，主剥離面とも周辺部分から大きく押圧剥離を行い，形状を整えている。断面形状をみる限り先端部を剥離しすぎており階段状になっている。背面側は中程に旧剥離面を大きく残すようである。全長4.50cm，幅3.00



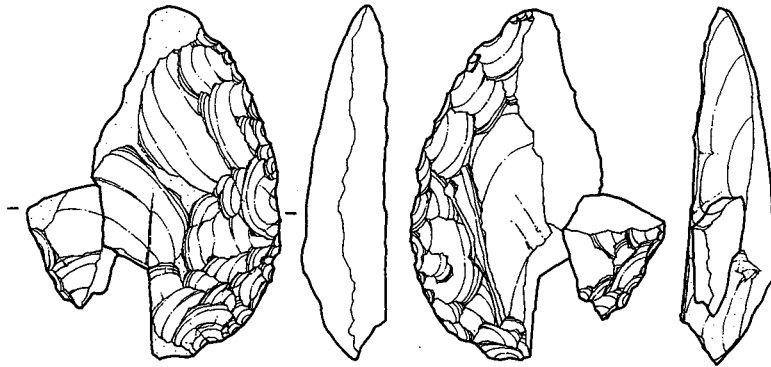
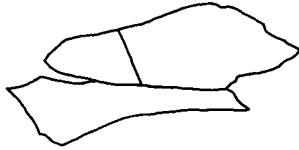
第94図 出土石器・ホルンフェルス（1）

cm, 厚み1.35cm, 重量18.99 gである。18は安山岩B製の尖頭器もしくは有舌尖頭器の基部の破片である。両面とも細かな調整を施して形状を整えているようである。全長2.30cm, 幅2.70cm, 厚み0.50cm, 重量4.70 gである。19は安山岩B製の尖頭器(未製品)である。先端部分は元来細くなった部分と思われ, それ程顕著な調整は行われていないが, 背面, 主剥離面ともそれ以外の部分はかなり細かい押圧剥離が行われて形状を整えている。背面側中程にはやや礫面が残されている。厚みもややあるようである。有舌尖頭器の素材段階のものと思われる。全長4.60cm, 幅2.40cm, 厚み1.20cm, 重量12.61 gである。20は安山岩B製の尖頭器の基部側の破片である。背面, 主剥離面ともにやや大きめの押圧剥離で調整して形状を整えている。片側側縁部には若干の細かな剥離が施されている。有舌尖頭器の素材段階の調整中に折れたと思われる。全長2.40cm, 幅2.25cm, 厚み1.15cm, 重量6.04 gである。21は安山岩B製の尖頭器の先端部破片である。やや斜軸気味ではあるが, 厚みも比較的薄く押圧剥離が両面とも中程まで及ぶことから有舌尖頭器等の完成品が折れたものとも考えられる。全長2.50cm, 幅1.80cm, 厚み0.55cm, 重量2.05 gである。

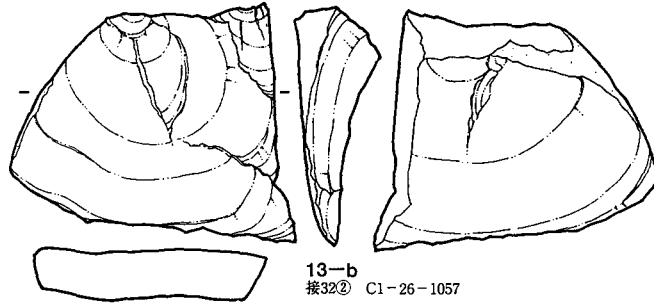
ホルンフェルス 有舌尖頭器・尖頭器及び未製品(第94・95図1~13, 図版42, 第12・13表) ホルンフェルスとは青味がかかった灰色でやや胡麻塩状の風化面を呈する。新鮮な剥離面は青黒い多孔質で所々に縞模様がみられる。1はホルンフェルス製の有舌尖頭器である。背面, 主剥離面ともに細かい面的剥離が中程まで及んでいる。周辺調整も細かく丁寧に行われている。全長2.80cm, 幅1.35cm, 厚み0.50cm, 重量1.78 gである。2はホルンフェルス製の有舌尖頭器である。背面, 主剥離面ともにやや大きめの押圧剥離で調整後, 周辺部特に基部を中心として細かい丁寧な調整で仕上げている。全長2.90cm, 幅1.70cm, 厚み0.55cm, 重量2.75 gである。3はホルンフェルス製の有舌尖頭器である。先端部はやや欠損しているが, 細身で長いタイプの有舌尖頭器である。背面, 主剥離面ともに細かく押圧剥離を行って丁寧に仕上げられている。先端部の折れは製作途中のものではないと思われる。全長4.30cm, 幅1.50cm, 厚み0.60cm, 重量5.00 gである。4はホルンフェルス製の有舌尖頭器である。先端部, 基部の一部が欠損しているが, 細身で長いタイプの有舌尖頭器である。背面, 主剥離面とも比較的細かい押圧剥離で丁寧に仕上げられている。折れの部分は製作途中のものかどうかは不明である。全長3.70cm, 幅1.10cm, 厚み0.65cm, 重量3.15 gである。5はホルンフェルス製の尖頭器の未製品である。縦長剥片の先端~中程の縁辺部分に細かい調整を入れて尖頭状に仕上げる過程で作業を終えている。このまま作業を進めてもまっすぐの有舌尖頭器はできないと思われるのでやめてしまったのかもしれない。全長4.40cm, 幅1.65cm, 厚み0.35cm, 重量3.20 gである。6はホルンフェルス製の有舌尖頭器の未製品と思われる。先端部は欠損している。背面, 主剥離面とも細かく押圧剥離で調整を施しており, 左基部は基部の作り出しを行うための剥離を始めていた可能性もある。全長3.90cm, 幅1.70cm, 厚み0.55cm, 重量4.23 gである。7はホルンフェルス製の尖頭器の欠損品である。先端部側が大きく折れている。やや平べったく幅の広い形状である。背面, 主剥離面ともに周辺部分特に基部側を中心に押圧剥離を多く入れており, 比較的丁寧な印象を受ける。全長4.50cm, 幅3.60cm, 厚み1.25cm, 重量21.29 gである。8はホルンフェルス製の尖頭器である。背面, 主剥離面ともに比較的大きな押圧剥離で調整後, 周辺を細かい調整を施して仕上げている。断面形をみると中央部が厚く, 素材としてもまだやや厚すぎるようである。全長5.60cm, 幅2.10cm, 厚み1.30cm, 重量13.69 gである。9はホルンフェルス製の尖頭器の先端部分の破片である。背面, 主剥離面ともに先端部~中程にかけて周辺部分をやや大きめの剥離で調整中に基部の部分が折れてしまって途中で作業を中止したようである。基部の部分が薄すぎたせい



13
接32①+② C1-26-1057+C1-35-122+C1-36-142



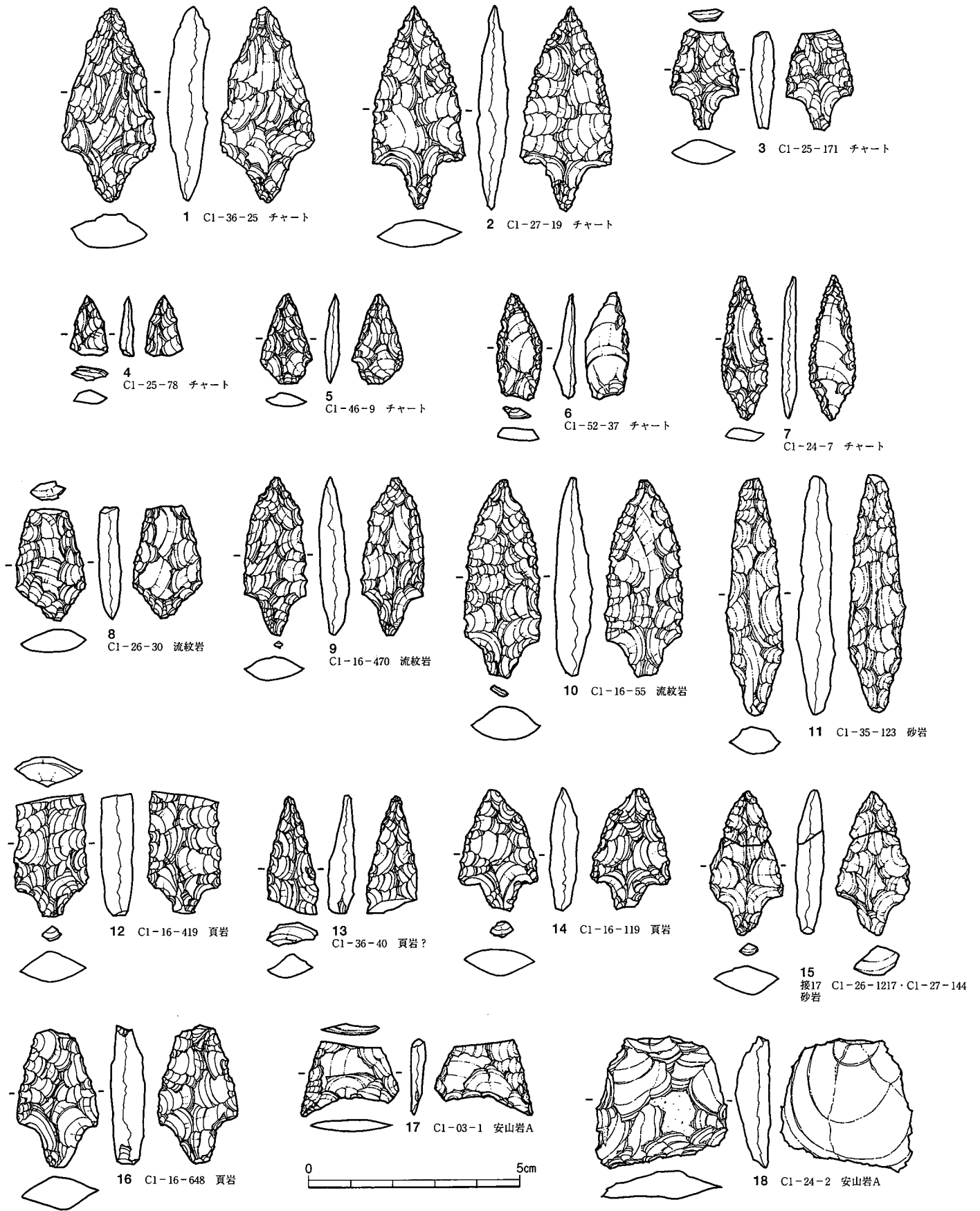
13-a
接32① C1-26-1057+C1-35-122+C1-36-142



13-b
接32② C1-26-1057



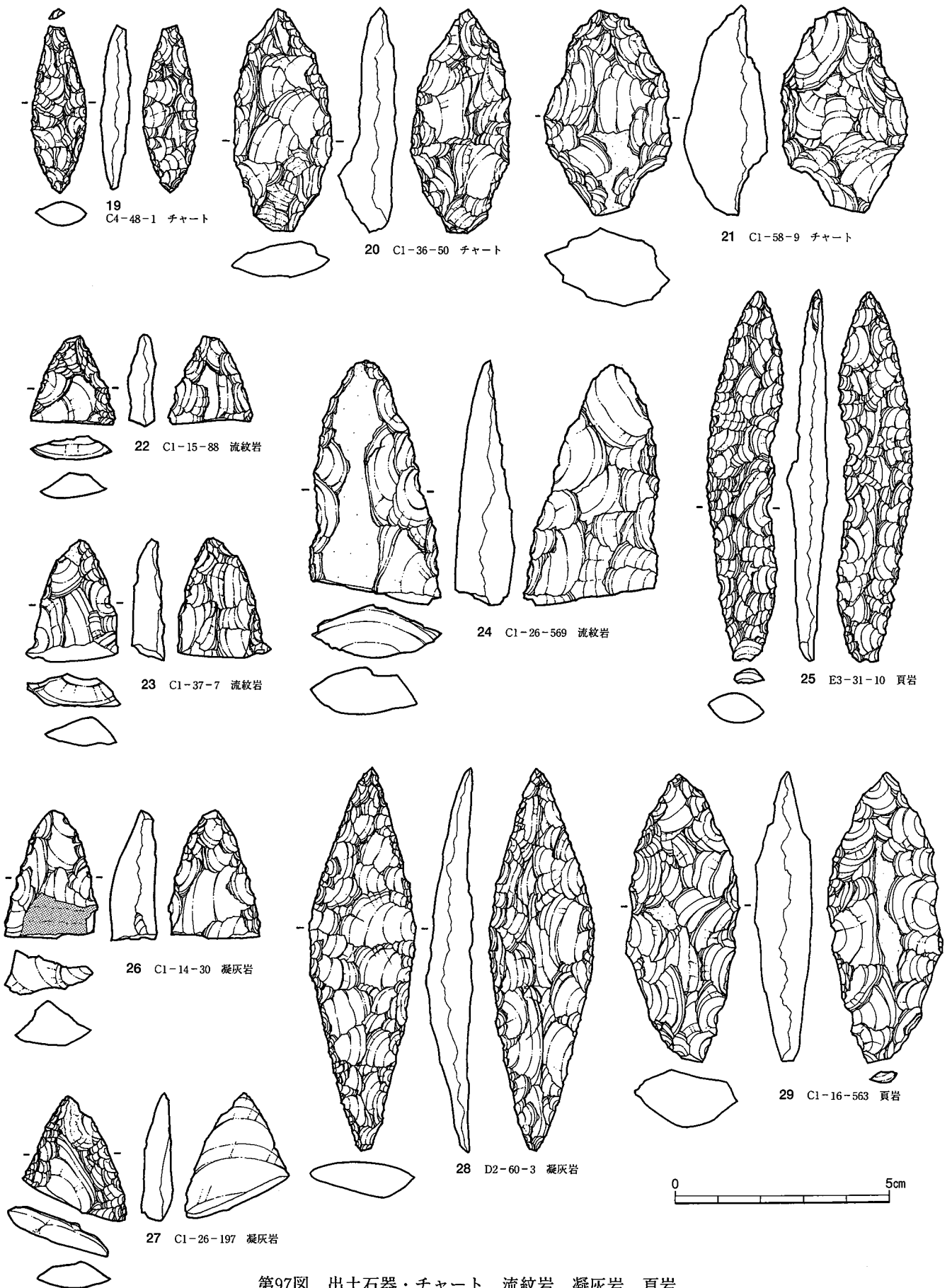
第95図 出土石器・ホルンフェルス (2)



第96図 出土石器・チャート，流紋岩，砂岩，頁岩，安山岩A

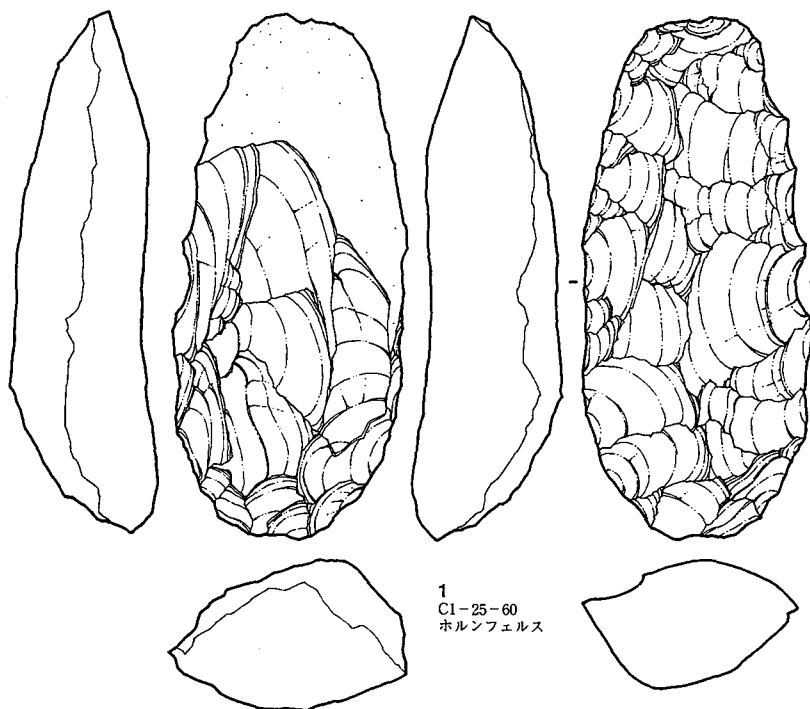
か折れてしまったようである。全長3.90cm, 幅2.45cm, 厚み0.90cm, 重量8.07gである。10はホルンフェルス製の尖頭器の先端部分の破片である。両面ともに大きい押圧剥離で調整後, 先端部分を細かい剥離で調整している。全長3.45cm, 幅2.80cm, 厚み0.85cm, 重量9.22gである。11はホルンフェルス製の尖頭器である。両面ともに大きい面的剥離で調整後, 先端部分を細かい剥離で調整している。先端部, 基部ともにやや丸みが残し, 本格的な調整を行う前段階のものという感のする石器ということができる。全長6.40cm, 幅3.80cm, 厚み1.65cm, 重量38.52gである。12はホルンフェルス製の尖頭器である。あまり長くなくやや幅が広い形状で, 基部が一部欠損している。背面は大きめの押圧剥離で調整後, 周辺部分を細かい剥離で調整して形状を整えている。主剥離面は大きめの押圧剥離で調整後, 左側基部付近に細かい剥離で調整している。全長5.10cm, 幅3.25cm, 厚み1.30cm, 重量17.53gである。13は尖頭器(製作中に破損して廃棄されたもの)と剥片との接合資料である。尖頭器の製作工程の一面を体現していると思われる資料である。13-aは尖頭器が製作途中で2個以上に分かれているものである。1枚の剥片を使って周辺部をやや細かい剥離で調整しながら形状を整えていく過程で破損してしまっている。やや幅広の尖頭器に仕上げるのを意図しているようである。全長5.80cm, 幅4.20cm, 厚み1.40cm, 重量23.24gである。13-bはホルンフェルス製の剥片である。礫面側を打面として横広の厚みの比較的大きい剥片を連続的に剥いでいるようである。これ自身はやや小さめの尖頭器の素材となる可能性があるものである。全長4.00cm, 幅4.40cm, 厚み1.10cm, 重量17.76gである。

チャート・流紋岩・砂岩・頁岩・安山岩A 有舌尖頭器・尖頭器及び未製品・スクレイパー(第96・97図1~29, 図版43・44, 第12・13表) 1はチャート製の有舌尖頭器である。背面, 主剥離面ともに比較的大きく押圧剥離で調整後, 先端部, 基部の茎部部分を細かく丁寧に仕上げている。本体部分の縁辺部分は直線的であまりきれいな作りではない。全長4.60cm, 幅2.25cm, 厚み0.90cm, 重量7.68gである。2はチャート製の有舌尖頭器である。両面とも比較的大きめの押圧剥離で調整され, 縁辺部の所々に細かな調整を入れ, 形状を整えている。また, 基部の茎部を細かい調整で細く作り出している。断面形も比較的薄めに仕上げられており, 全体に丁寧に作られている。全長4.90cm, 幅2.20cm, 厚み0.65cm, 重量5.36gである。3はチャート製の有舌尖頭器である。やや小形の尖頭器で先端部が欠損している。比較的小さく両面を調整後, 基部についてはさらに細かく調整し, 抉りを入れている。全長2.40cm, 幅1.60cm, 厚み0.50cm, 重量1.70gである。4はチャート製の小形の有舌尖頭器(?)の先端部の破片である。残っている部位については両面とも細かく丁寧な調整が施されている。全長1.45cm, 幅0.90cm, 厚み0.30cm, 重量0.36gである。5はチャート製の小形の有舌尖頭器である。基部の一部が欠損している。両面とも細かく丁寧な調整が施されている。先端部分にはさらに細かな調整がみられる。全長2.15cm, 幅1.20cm, 厚み0.30cm, 重量1.51gである。6はチャート製の小形の有舌尖頭器の未製品と思われる。縦長剥片を素材として, 逆位に用いて主に主剥離面側から背面側に向かって細かい剥離で縁辺部分の調整を行っている段階のものである。基部は欠損していると思われる。全長2.50cm, 幅1.05cm, 厚み0.40cm, 重量1.16gである。7はチャート製の有舌尖頭器である。縦長剥片の背面側は基部を細かい剥離で調整し, 先端部近くも細かい剥離で丁寧に調整され, 形を仕上げている。その他の部分は縁辺部のみ細かい調整がされている。主剥離側は全体に縁辺部のみ細かい調整で形状を整えている。全面に及ぶ面的剥離はもともと素材が薄いため行われなかった可能性がある。基部の抉りもそれ程されてはいない。全長3.40cm, 幅1.05cm, 厚み0.30cm, 重量1.12gである。8は流紋岩製

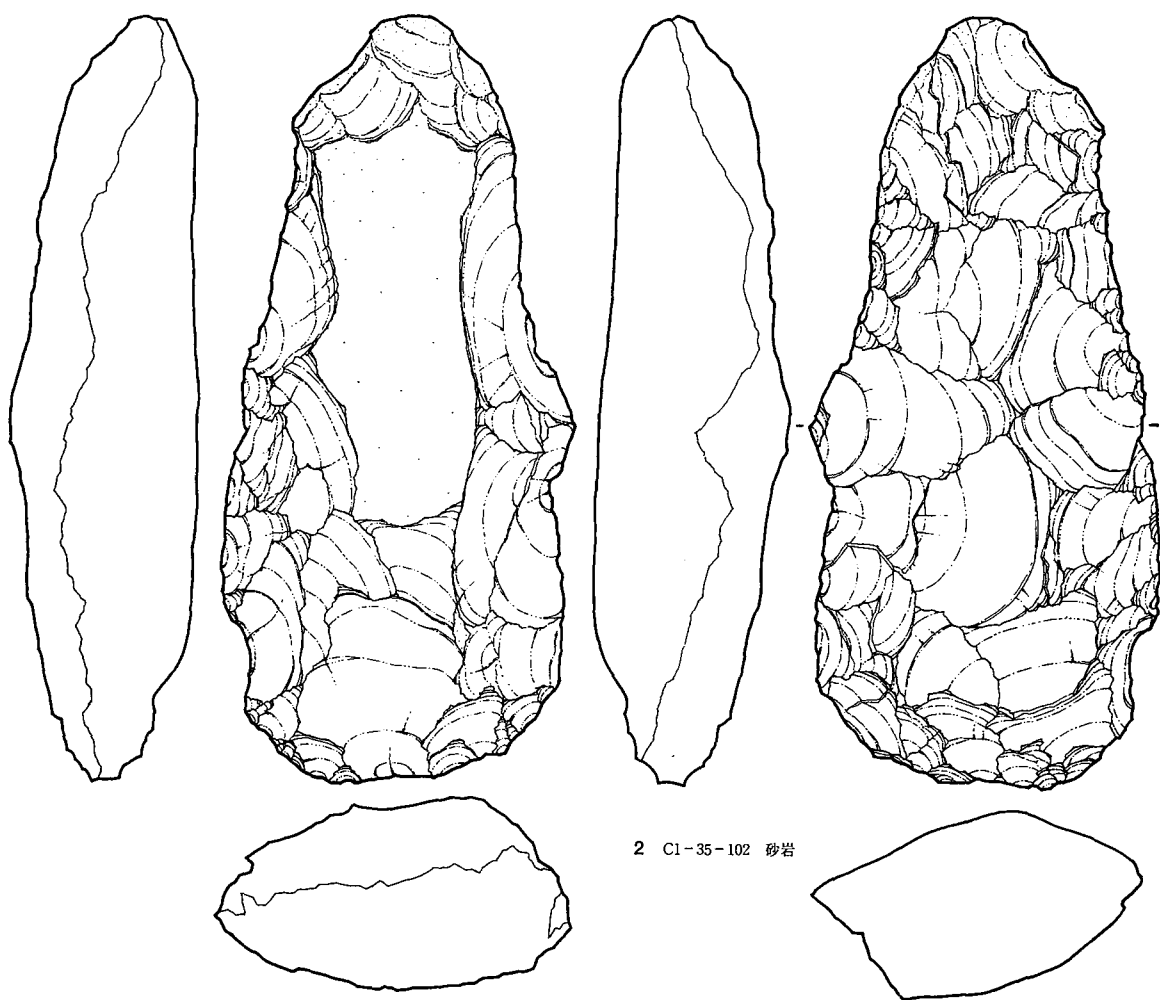


第97図 出土石器・チャート，流紋岩，凝灰岩，頁岩

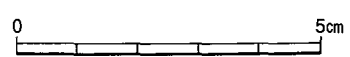
の有舌尖頭器である。やや横広で小形の尖頭器で先端部は欠損している。残っている部位については両面ともに細かく丁寧な調整が施されている。基部については特に挟りを細かく丁寧に入れている。挟りはほぼ直線的である。全長2.70cm, 幅1.65cm, 厚み0.45cm, 重量2.29gである。9は流紋岩製の有舌尖頭器である。基部の先がやや折れているもののほぼ完形である。背面は押圧剥離を全体に施した後、基部及び先端部を中心に細かな調整を入れて丁寧に仕上げている。主剥離面は旧剥離面をいくらか残すものの背面と同様に丁寧な調整で仕上げている。全長3.80cm, 幅1.50cm, 厚み0.60cm, 重量2.92gである。10は流紋岩製の有舌尖頭器である。基部の先がやや欠損している。背面は比較的大きく面的剥離で調整後、先端部、基部を細かく丁寧に仕上げている。主剥離面は旧剥離面を中央部にやや残すものの比較的大きめの剥離で丁寧に調整を行い形状を整えている。全長4.75cm, 幅1.80cm, 厚み0.85cm, 重量6.52gである。11は砂岩製の有舌尖頭器である。やや舌部の部分の挟りは弱い。細長いタイプのものである。背面、主剥離面とも比較的大きめの面的剥離で調整後、先端部と基部を特に細かく丁寧に調整している。全長5.60cm, 幅1.35cm, 厚み0.75cm, 重量5.89gである。12は頁岩製の有舌尖頭器である。先端部、基部の一部が欠損している。残っている部位については両面ともにやや大きめに面的剥離で丁寧に調整されている。基部調整は挟りの部分は細かく仕上げられている。全長3.00cm, 幅1.70cm, 厚み0.70cm, 重量3.80gである。13は頁岩製の有舌尖頭器である。基部が欠損している。先端部分が細長くやや小振りで基部の挟りのあまり顕著でないタイプになると思われる。残っている部位については両面とも比較的小さい押圧剥離で丁寧に調整されている。全長2.80cm, 幅1.20cm, 厚み0.60cm, 重量1.48gである。14は頁岩製の有舌尖頭器である。基部の先端がやや欠損している。比較的小さい尖頭器である。背面、主剥離面とも大きめの割に大きめの押圧剥離面で全体を製作し、やや粗さの目立つ作りである。全長2.90cm, 幅1.90cm, 厚み0.60cm, 重量2.55gである。15は砂岩製の有舌尖頭器である。先端部で折れたものが接合したものである。破損部位の状況から製作途中で折れたものとは思われない。背面側は比較的大きめの押圧剥離で調整を行い、その後基部及び先端部に細かい調整を施して形状を仕上げている。主剥離面は比較的大きめの調整で粗く仕上げている。その割には形状は整っている様に思われる。全長3.40cm, 幅1.75cm, 厚み0.60cm, 重量3.05gである。16は頁岩製の有舌尖頭器である。先端部の一部が欠損している。破損部位の状況から製作途中で折れたものとは思われない。背面、主剥離面ともにやや不規則な面的剥離で調整されている。若干の縁辺部の小剥離での調整も見られる。やや大雑把な調整の割に仕上がりの状況は良い。全長3.30cm, 幅1.90cm, 厚み0.70cm, 重量3.67gである。17は安山岩A製の石鏃?未製品である。先端部分が欠損しており、片脚の一部も折れているため断定はできないが石鏃を製作途中で破損してしまった可能性がある。背面、主剥離面ともに旧剥離面を大きく残すように縁辺部の細かな調整のみ行われている。早期以降の遺物である可能性も考えられる。全長1.80cm, 幅2.20cm, 厚み0.30cm, 重量1.12gである。18は安山岩A製のスクレイパーである。台形様のやや横広の剥片の先端部分の縁辺部に沿って細かい剥離で調整を行い、刃部を作り出している。背面側には若干原礫面を残している剥片である。全長3.15cm, 幅3.17cm, 厚み0.70cm, 重量8.73gである。19はチャート製の尖頭器である。先端部の一部が欠損している。小形の木葉形でやや細身である。背面、主剥離面ともに比較的大きい面的剥離で調整後、さらに周辺部を細かい調整で形状を仕上げている。全長3.90cm, 幅1.20cm, 厚み0.65cm, 重量3.05gである。20はチャート製の尖頭器である。背面、主剥離面ともに比較的大きく面的剥離で調整後、基部及び先端部を中心にやや大雑把な大きめの調整で全体を仕上げている。基部の厚みは他の部分と比較してかなり厚みを残している。全長5.20cm, 幅2.30cm, 厚み1.15cm, 重量11.56gである。21



1
C1-25-60
ホルンフェルス



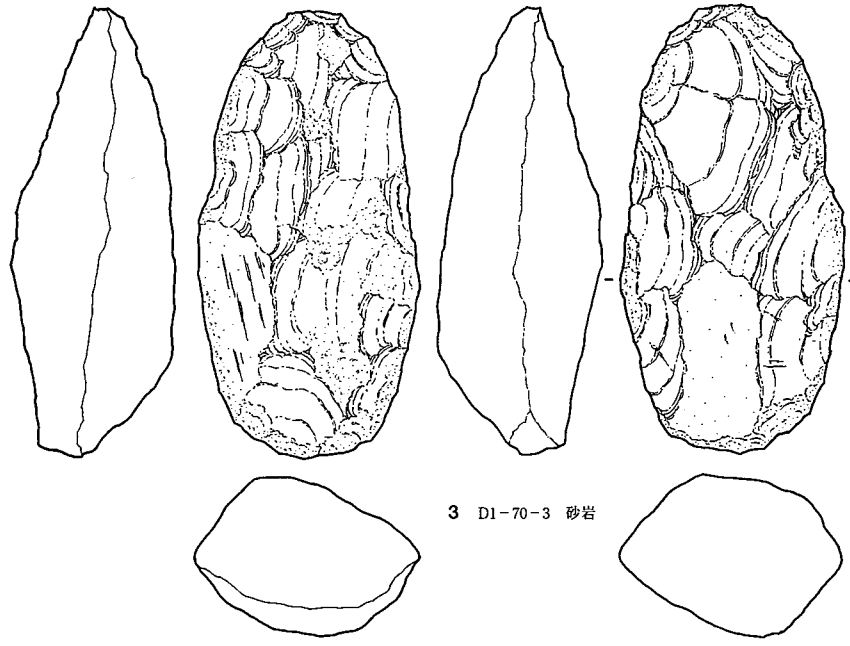
2 C1-35-102 砂岩



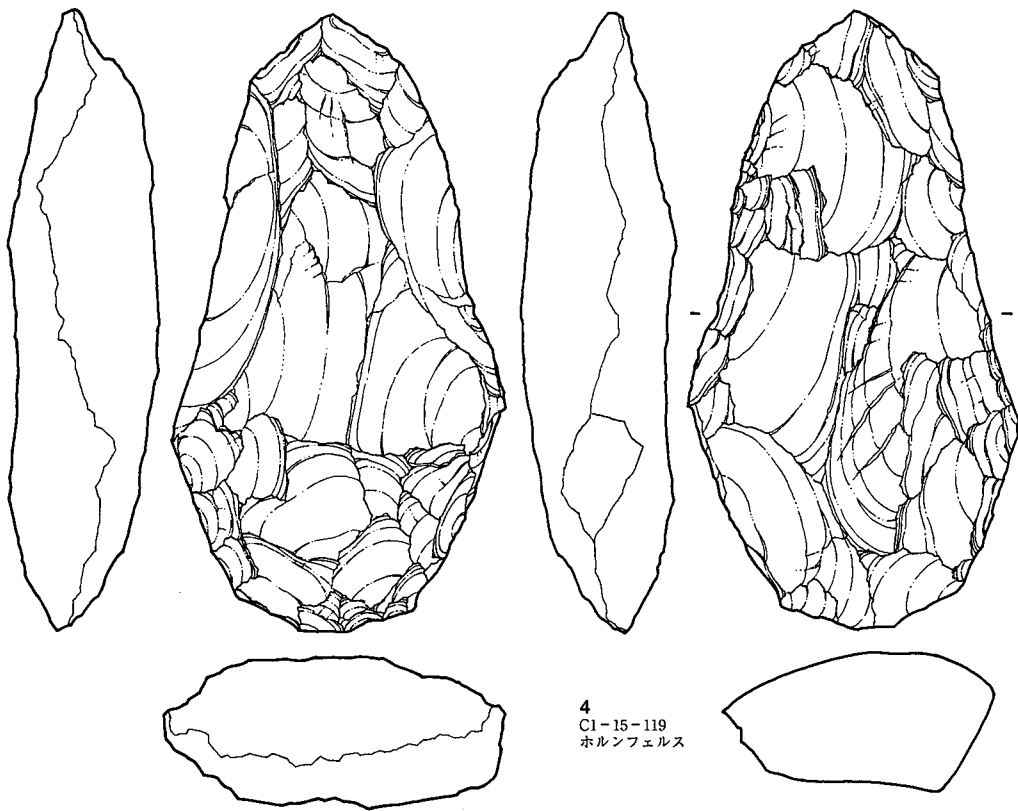
第98図 出土石器・ホルンフェルス，砂岩（石斧）

はチャート製の尖頭器である。背面，主剥離面ともに大小様々な面的剥離で不規則な調整が行われている。形状も先端部，基部ともやや丸みが残る全体に厚みが残るもので，未成品とでも言うべきものであろう。背面基部側には原礫面が大きく残る。全長4.80cm，幅2.90cm，厚み1.70cm，重量21.29gである。22は流紋岩製の尖頭器の先端部破片である。残っている部位については両面ともに旧剥離面を残し，全体に縁辺を中心とした細かな調整を施して形状を整えていると思われる。残全長2.10cm，幅2.00cm，厚さ0.55cm，重量2.15gである。23は流紋岩製の尖頭器の先端部破片である。残っている部位については両面ともやや大小不統一な押圧剥離でやや粗く調整し，形状を整えている。全長2.80cm，幅2.10cm，厚み0.70cm，重量3.60gである。24はやや大形の流紋岩製の尖頭器の先端部である。背面は大小様々な大きさの剥離で周辺部分を調整している。中央部は原礫面が大きく残されている。主剥離面は比較的大きな面的剥離で全体に調整されて形状を整えている。製作途中で折れてしまった可能性も高い。全長5.70cm，幅3.00cm，厚み1.25cm，重量18.80gである。25は頁岩製の尖頭器である。非常に細長く全体に細かな剥離で調整されており，丁寧に製作されていったと思われるものであるが，中程の片側縁辺部の調整した結果生じた突起部分の除去に失敗したため，以後の作業をやめてしまったと思われる。全長8.60cm，幅1.60cm，厚み0.80cm，重量9.73gである。26は凝灰岩製の尖頭器の先端部破片である。残っている部位については背面，主剥離面とも旧剥離面を大きく残し，大小様々な大きさの周辺剥離で形状を整えている。製作途中で折れてしまったかもしれない。全長3.00cm，幅2.00cm，厚み1.00cm，重量5.43gである。27は凝灰岩製の尖頭器の先端部破片である。残っている部位については背面は周辺部分を比較的小さい剥離で丁寧に調整して形状を整えている。中央部分には旧剥離面を大きく残す。主剥離面は旧剥離面をそのまま残している。全長3.00cm，幅2.25cm，厚み0.55cm，重量3.31gである。28は凝灰岩製の尖頭器である。細長く中央部がややふくらむような形状をしている。背面，主剥離面とも全体に押圧剥離で調整を行い，先端部と基部の縁辺部を細かい調整で仕上げている。全長4.00cm，幅2.05cm，厚み0.90cm，重量7.85gである。29は頁岩製の尖頭器である。背面，主剥離面ともやや粗い押圧剥離で調整を行い，あまり細かい剥離での調整を行っていない。両面ともに少し原礫面が残されている。全長6.70cm，幅2.60cm，厚み1.30cm，重量19.80gである。

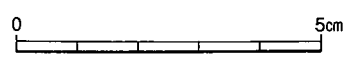
ホルンフェルス・砂岩・流紋岩 石斧 (第98~102図 1~10, 図版48, 第12・13表) 1はホルンフェルス製の打製石斧である。形状は短冊形で刃部側，基部側ともやや緩やかな弧を描く。背面側は左側縁辺側から刃部側より大きく面的に剥離を行い，さらに刃部に細かく調整を行っている。基部については原礫面を大きく残す。主剥離面はほぼ両側縁より大きな面的剥離で調整後，所々を細かい調整を施すことで仕上げている。基部はあまり調整は入れられていないものの比較的小さい調整で仕上げている。大きな縦長の礫片を素材として作られていると思われる。全長8.60cm，幅3.70cm，厚み2.05cm，重量81.48gである。2は砂岩製の大型の打製石斧である。形状は基部が細く，刃部がやや丸みのある直刃状に広がるいわゆる洋梨形になる。背面側は周辺から中程に向かって大きい剥片を剥ぐ様にして調整しており，中央部分に大きく原礫面を残す。主剥離面側も周辺から中程に向かって大きな剥片を剥ぐ様にして調整し，さらに刃部と基部についてはやや細かい調整で形状を仕上げている。大きな礫片を素材として作られていると思われる。全長12.70cm，幅5.60cm，厚み2.65cm，重量212.40gである。3は砂岩製の打製石斧である。形状は刃部，基部ともにやや丸みのある楕円形に近い。基部は背面，主剥離面ともにやや細かく丁寧な調整を施している。刃部は背面，主剥離面ともにやや風化のため剥離面があらわれているものの細かく丁寧な調整で仕上げている様に思われる。



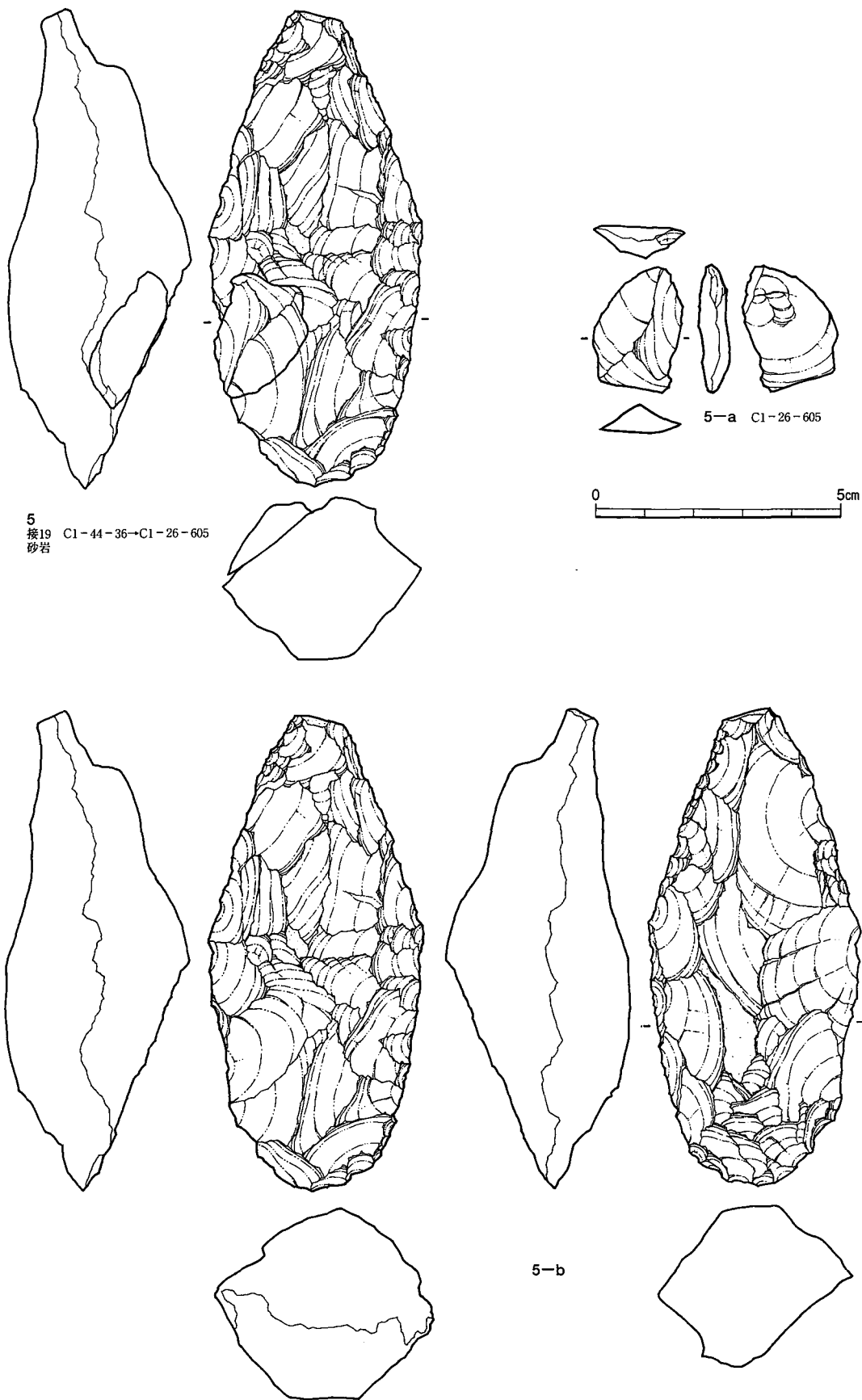
3 D1-70-3 砂岩



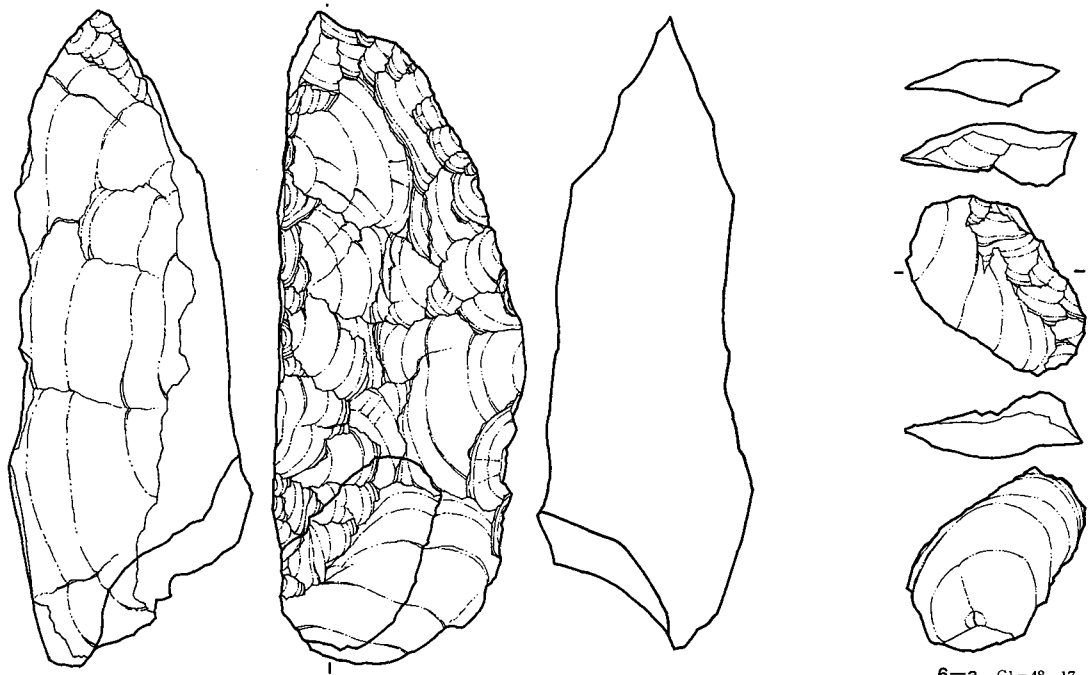
4 C1-15-119
ホルンフェルス



第99図 出土石器・砂岩，ホルンフェルス（石斧）

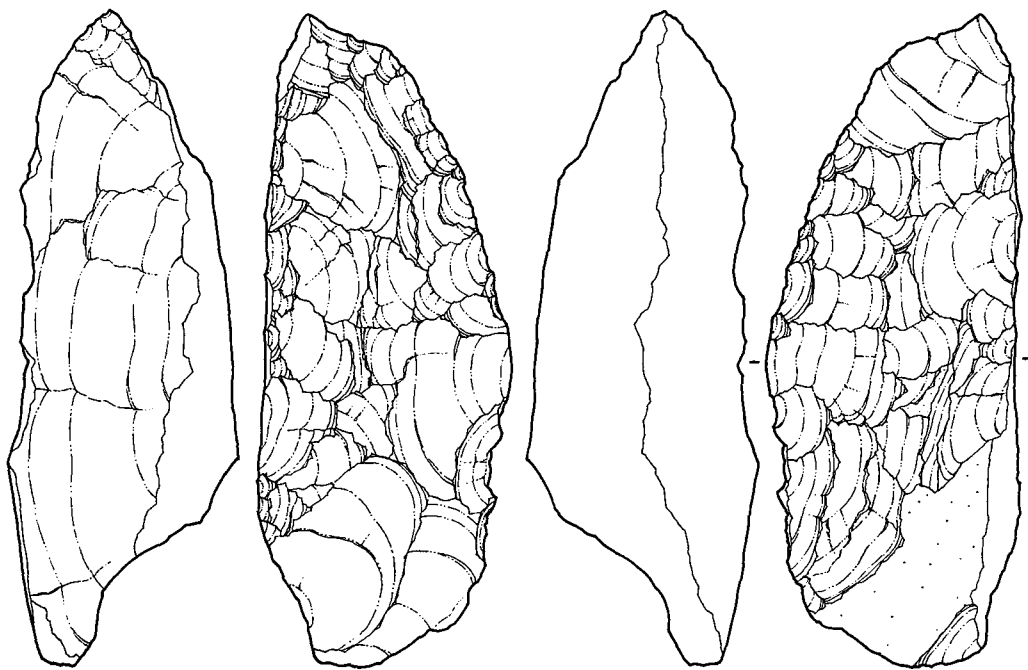


第100圖 出土石器·砂岩(石斧)(1)

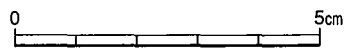
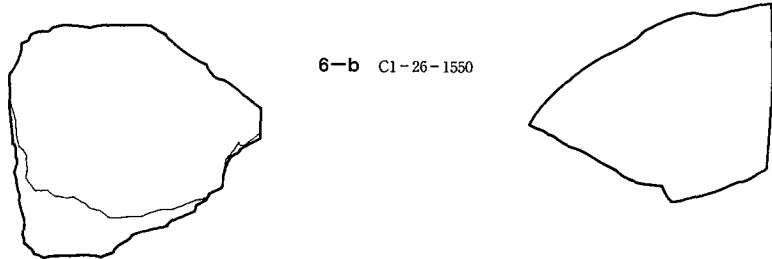


6 接18 C1-26-1550→C1-48-17

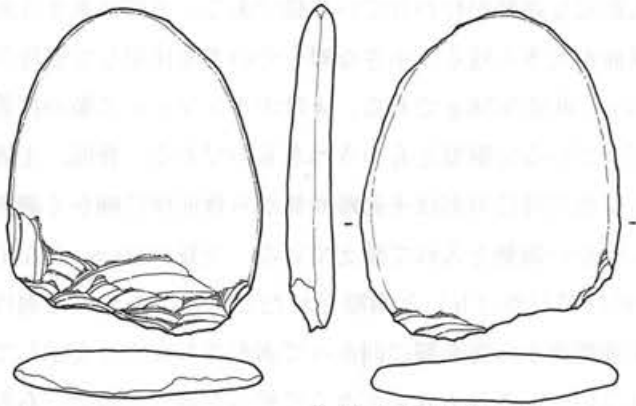
6-a C1-48-17



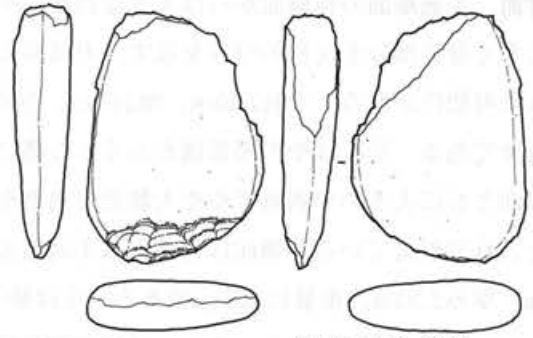
6-b C1-26-1550



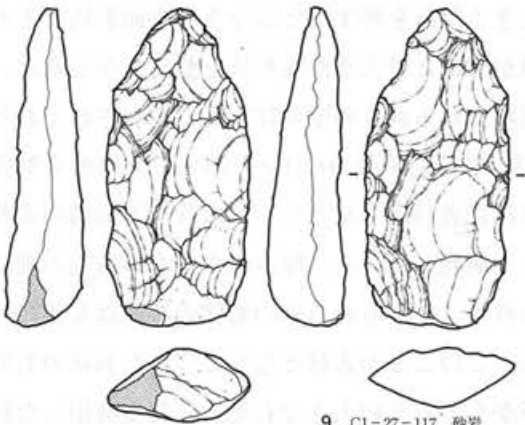
第101圖 出土石器・砂岩(石斧)(2)



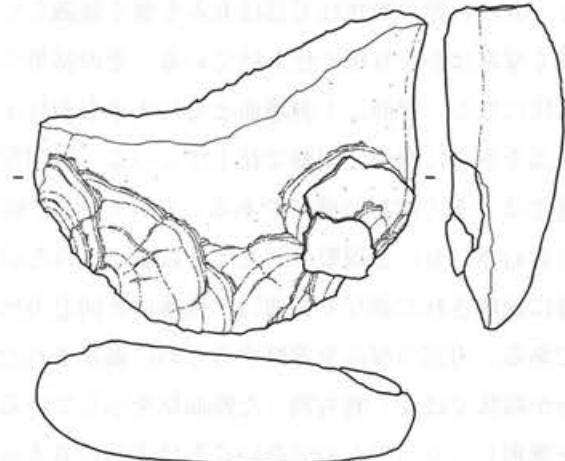
7 C1-44-29 ホルンフェルス



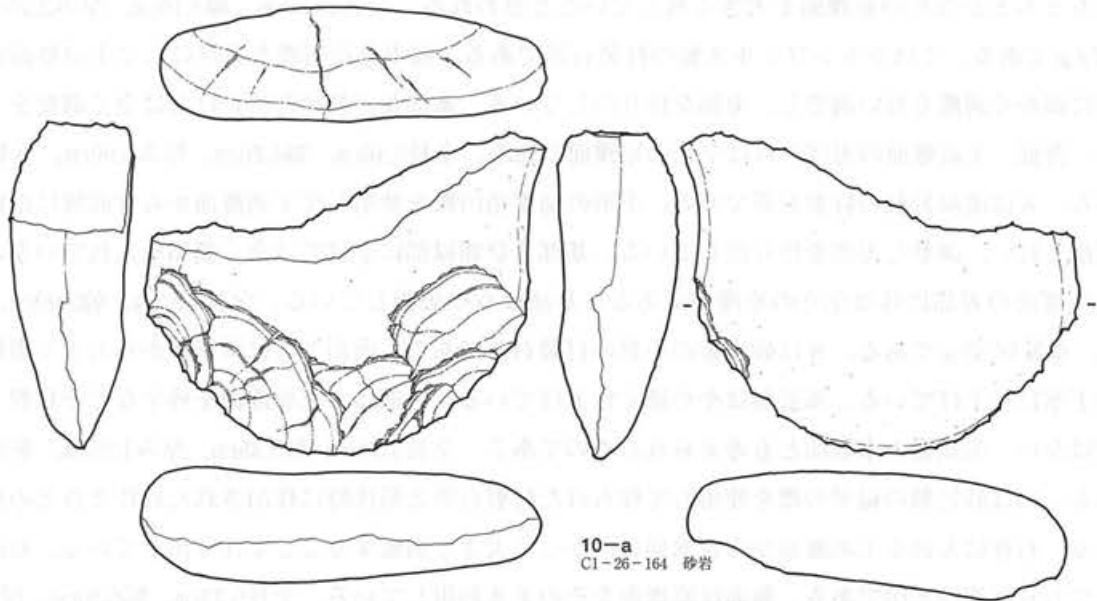
8 C1-56-10 流紋岩



9 C1-27-117 砂岩



10 接23 C1-26-164・C1-26-1322→C1-14-14 砂岩



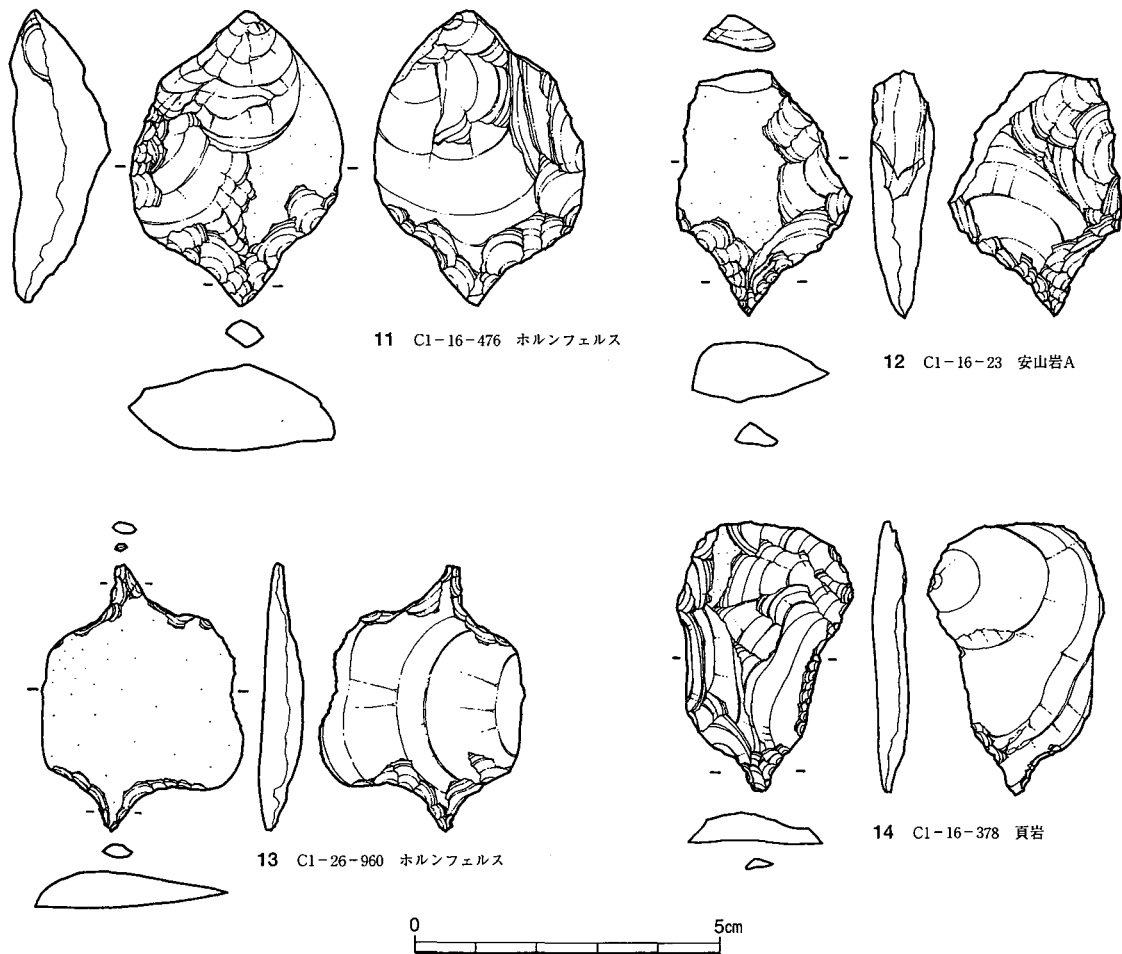
10-a
C1-26-164 砂岩



第102図 出土石器・ホルンフェルス，流紋岩，砂岩（石斧）

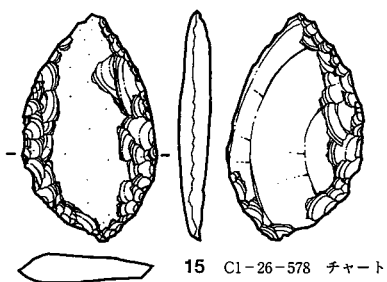
背面、主剥離面の両側面からは大きな剥離でやや大雑把な調整が行われている様である。刃部はあまり鋭くなく身の部分も比較的厚みを残す。刃部側に原礫面が大きく残る。小さな礫をそのまま使用して製作された可能性がある。全長7.40cm、幅3.60cm、厚み2.65cm、重量78.56gである。4はホルンフェルス製の打製石斧である。形状はやや刃部側がふくらむ様に作られている分銅型ともいべきものである。背面、主剥離面ともに大きめの剥離でやや大雑把な調整を行った後に特に刃部は主剥離面側から背面側に細かく調整を入れて整えている。側面は背面から主剥離面側に細かい調整を入れて整えている。全長10.20cm、幅5.30cm、厚み2.30cm、重量133.37gである。5は砂岩製の打製石斧（b）と調整されたときに剥がされた剥片（a）の接合資料である。5-aは縁辺調整時に主剥離面から背面側に向かって剥がされたことを示している。この剥片は2次的に使用された形跡は窺われないが、これよりも大きくて整った剥片の場合、石器を作る素材として活用されている可能性がある。全長2.90cm、幅2.30cm、厚み0.60cm、重量3.43gである。5-bの石斧の形状は刃部は丸みを強く意識してかなり薄く仕上げている。基部については刃部側より細長く厚みはかなり細く仕上げている。その結果中央部分が大きく厚みを増すことになる。平面形状は木の葉状になる。背面、主剥離面ともに大きな剥片を周辺から剥がすことで大まかな形状を整えてから基部、刃部をさらに細かい調整で仕上げている。縁辺部の形状は剥離される剥片の厚みによって左右されており、通常は大きく波打つ感じである。全長9.70cm、幅4.30cm、厚み3.35cm、重量118.61gである。6は砂岩製の打製石斧（b）と調整されたときに剥がされた剥片（a）の接合資料である。6-aは背面刃部側の調整時に剥離された剥片で背面に主剥離面と同じ方向の剥離面を2面残している。厚みのややある縦長の剥片である。刃部の厚みを調整するために剥がされたものと思われる。6-bの石斧の形状の特徴は左側縁部分が線状ではなく断ち割った断面状を示していることである。このことが素材としてこうした形状のものを選択してなったものでないことは十分に考えられる。石斧がもともとの大きな石斧の左側を破損した結果、再生するためaの剥片を剥がしたのではないかと考えるほうが妥当と思われる。また、刃部の主剥離面にはもともとかなりの原礫面を大きく残していたと思われる。全長10.80cm、幅4.10cm、厚み3.55cm、重量162.79gである。7はホルンフェルス製の打製石斧である。扁平な楕円礫を素材にして主剥離面側から背面側に細かく剥離を行い調整し、刃部を作り出している。基部及び側縁部にかけては全く調整を入れていない。背面、主剥離面の刃部以外は全くの原礫面である。全長5.40cm、幅4.20cm、厚み0.90cm、重量28.15gである。8は流紋岩製の打製石斧である。小形の扁平楕円礫を使用して主剥離面から背面側にかけて細かい剥離を行い、調整し刃部を作り出している。基部及び側縁部にかけては全く調整を入れていない。背面、主剥離面の刃部以外は全くの原礫面である。基部はやや破損している。全長4.20cm、幅2.90cm、厚み0.87cm、重量16.32gである。9は砂岩製の小形の打製石斧である。両面ともに両側縁から大きく剥離して比較的丁寧に仕上げている。基部側はやや細く仕上げている。刃部は一部原礫面を残すなどそれ程丁寧な作りではない。尖頭器の未製品とも考えられるものである。全長5.30cm、幅2.35cm、厚み1.25cm、重量15.64gである。10は砂岩製の扁平の礫を使用して作られた打製石斧と製作時に作出された碎片2点との接合資料である。石斧は刃部を主剥離面から背面側に向かって大きく剥離することで作り出している。基部側は欠損しており詳細は不明である。側面は原礫面をそのまま利用している。全長5.33cm、幅6.30cm、厚み1.90cm、重量70.02gである。接合関係から比較的近接した地区で製作使用されたものと思われる。

ホルンフェルス・安山岩・頁岩 石錐（第103図11～14、図版49、第12・13表） 11はホルンフェルス製

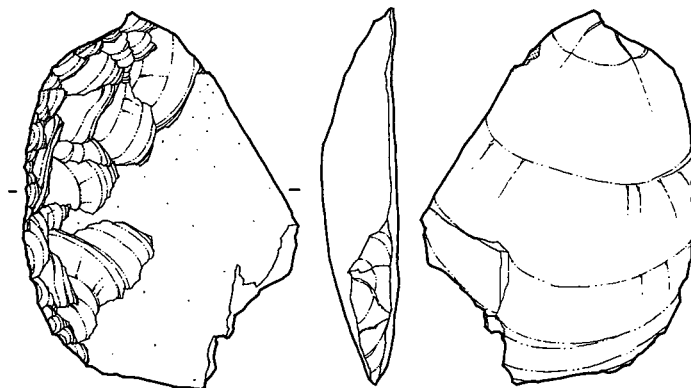


第103図 出土石器・ホルンフェルス，安山岩A，頁岩（石錐）

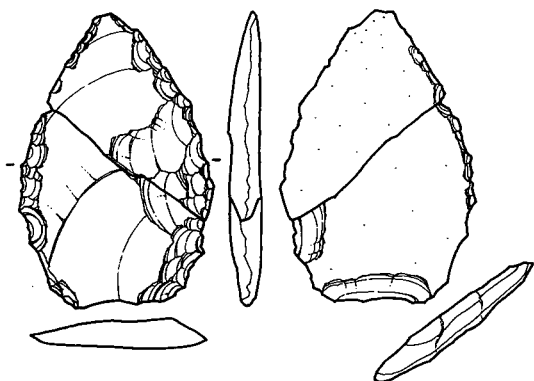
の石錐である。背面に原礫面残す縦長の剥片を使用して作られている。基部側は背面側から主剥離面側にかけてやや大きめの剥離で粗めに厚みを薄くするように調整している。刃部は先端部を断面菱形になるように細かく丁寧な剥離で調整して仕上げています。背面側に旧剥離面2面，原礫，面を残し，主剥離面も旧剥離面を大きく残すものである。全長4.90cm，幅3.50cm，厚み1.50cm，重量23.14gである。12は安山岩A製の石錐である。背面が原礫面で覆われている縦長の剥片を逆位に用いて作られている。基部はもともと上下に刃部を作り出そうと試みたのかもしれない，折れてしまっている。背面の右側縁はやや大きめの剥離で調整し，反対側は原礫面をそのまま活用する形で作られている。刃部はより細かな剥離で丁寧に調整されて鋭く仕上げられている。断面は二等辺三角形に近い形状となっている。原礫面の残り具合から推測すると小さめの扁平円礫を素材として作られていると思われる。全長4.00cm，幅2.90cm，厚み1.00cm，重量11.37gである。13はホルンフェルス製の石錐である。横広の背面が原礫面で覆われている剥片を素材にしている。剥片を横位に用いて上下両側縁を錐の刃部として作り出している。刃部の作り出しは細かく丁寧な剥離を用いて断面がややひしゃげた菱形を呈する。刃部以外は殆ど加工されていない。全長4.40cm，幅3.30cm，厚み0.60cm，重量7.52gである。14は頁岩製の石錐である。横長の剥片を横位で用いて刃部を作り出している。刃部の作り出しは主に主剥離面側から背面側への細かな剥離で調整されており，断面は三角形を呈する。背面側の剥離面から想像すると尖頭器の製作過程で生産された副産物的な剥片かもしれない。全長4.50cm，幅2.80cm，厚み0.40cm，重量4.86gである。



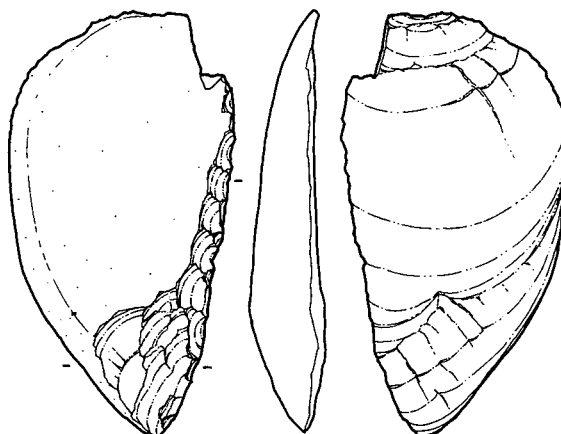
15 C1-26-578 チャート



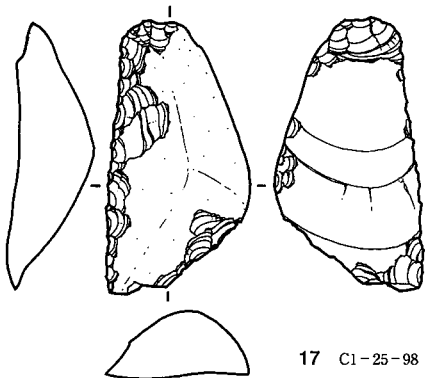
18 C1-35-22 安山岩A



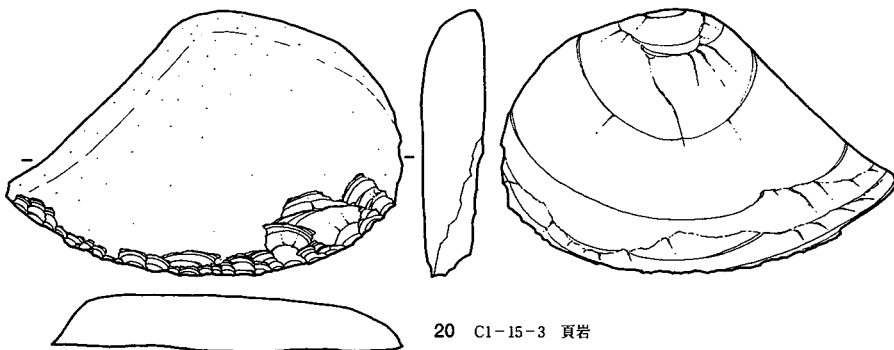
16 接28 C1-47-24+C1-48-10 チャート



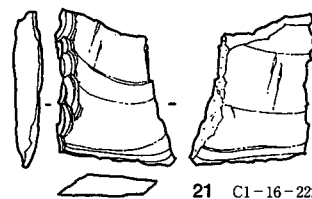
19 C1-15-248 安山岩A



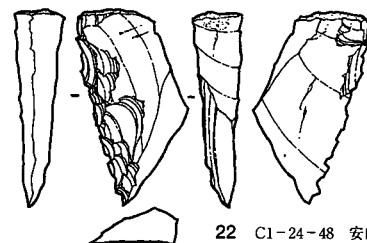
17 C1-25-98 頁岩



20 C1-15-3 頁岩



21 C1-16-222 安山岩A

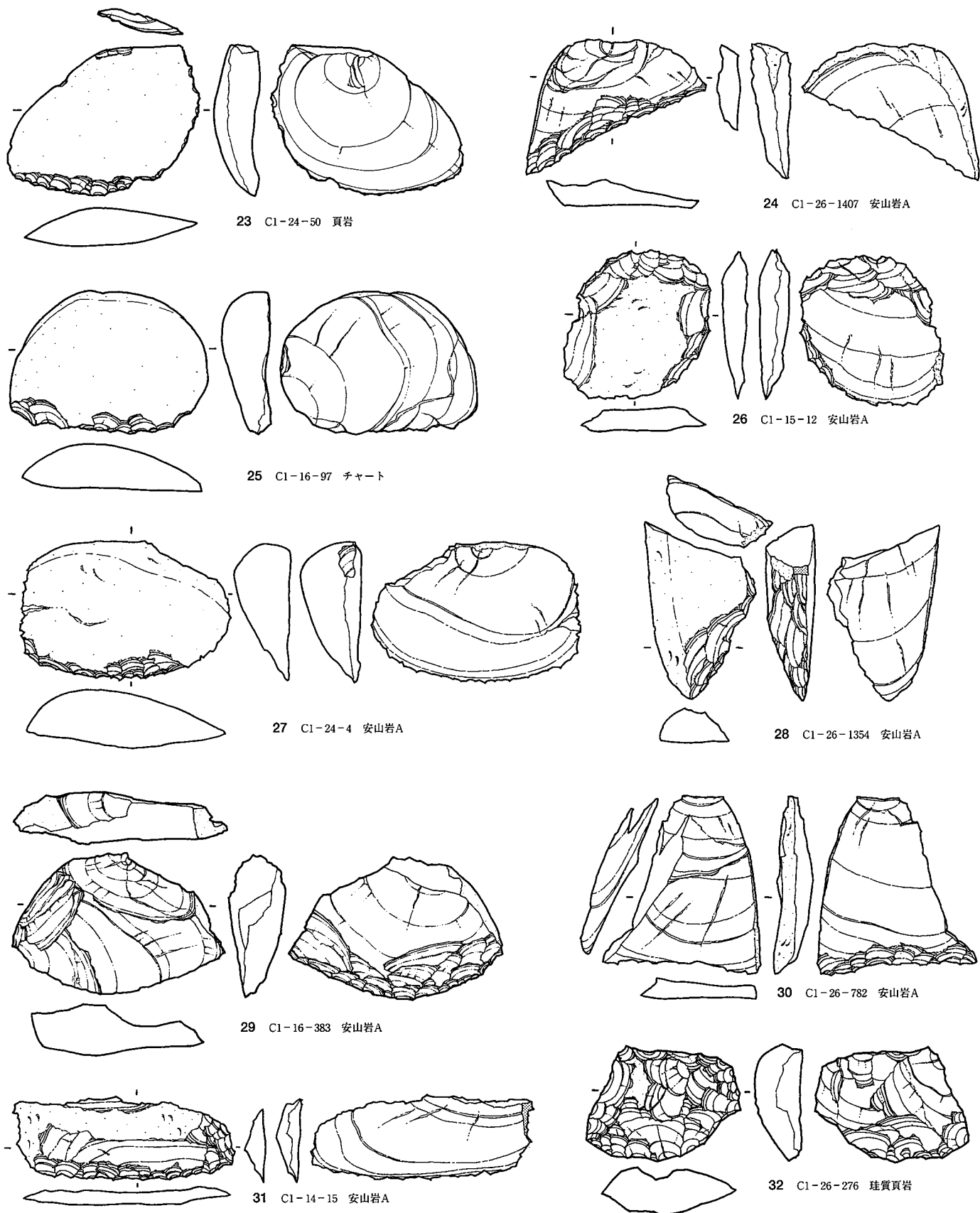


22 C1-24-48 安山岩A



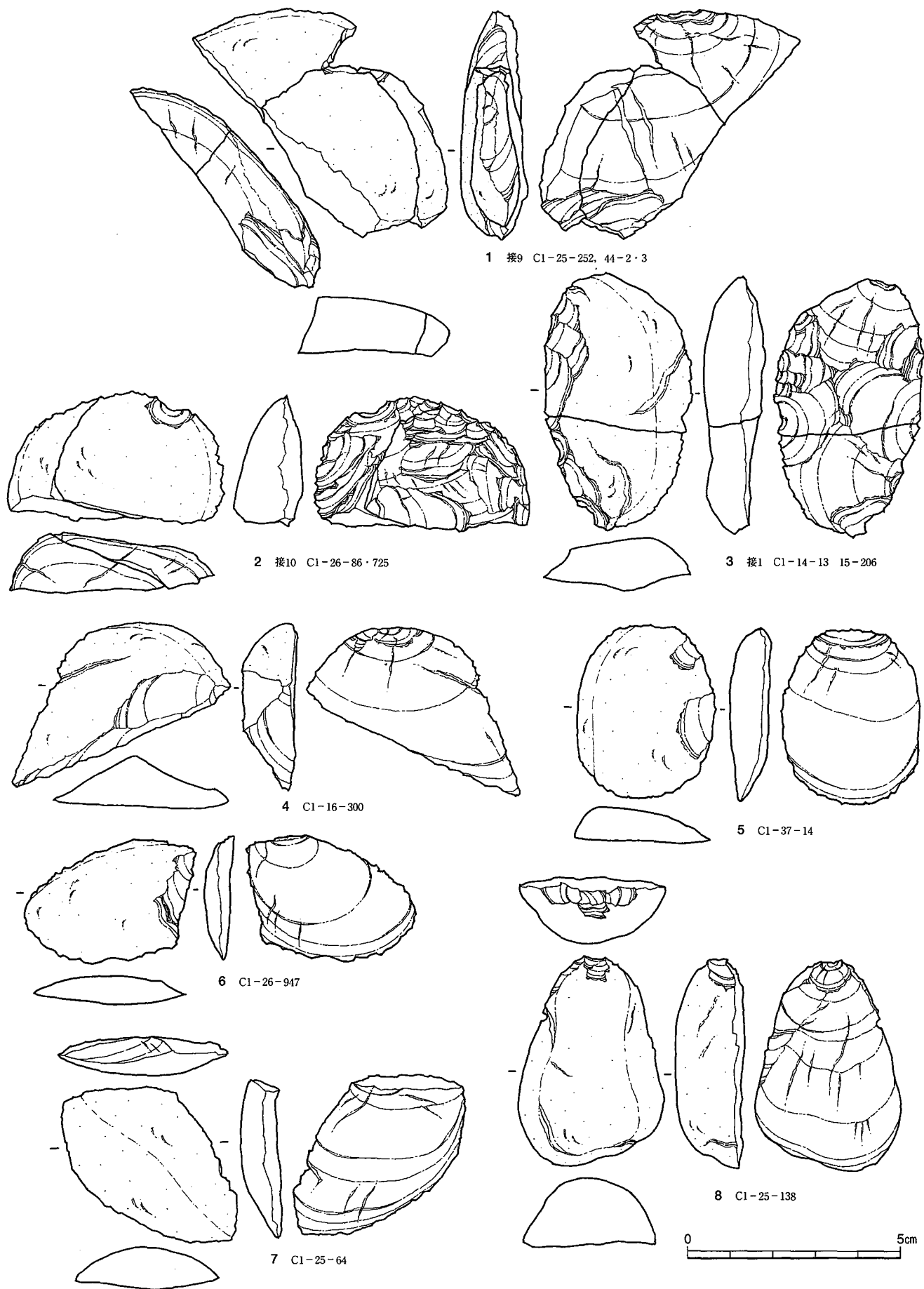
第104図 出土石器・チャート，頁岩，安山岩A（搔器，削器）

チャート・頁岩・安山岩・珪質頁岩 搔器, 削器 (第104・105図15~32, 図版49, 第12・13表) 15はチャート製の搔器である。背面が原礫面で覆われている横広の剥片を横位に用いたものを素材として作られている。背面は打面側, 先端部側ともに細かい調整を施している。主剥離面は打面側はほぼ全体, 先端部側は一部に細かい調整を施している。周辺剥離のみの調整で作られて尖頭器のような形状をしている。全長3.80cm, 幅2.20cm, 厚み0.40cm, 重量4.28gである。16はチャート製の削器である。2点が接合している資料であるが, もともとは1点の石器で使用中に折れてしまったものである。背面が原礫面で覆われている横広の剥片を横位に用いたものを素材として作られている。調整は背面側から主剥離面側に向かってやや大きめの剥離で行われている。背面側の原礫面の右側縁部の細かな剥離は使用中にできたものとも考えられる。全長4.80cm, 幅3.15cm, 厚み0.50cm, 重量9.31gである。17は頁岩製の搔器である。背面が原礫面で覆われる縦長の剥片を素材としている。背面側は先端部と左側縁部に主に細かい剥離で調整, 主剥離面側は先端部と打面部に主に細かい剥離で調整を施している。全長2.25cm, 幅4.40cm, 厚み1.10cm, 重量11.50gである。18は安山岩A製の搔器である。背面に原礫面が大きく残るやや縦長の剥片を素材にして背面の左側縁辺部を大きく剥離して刃部を作り出している。先端部の右側は剥片剥離時の折れと思われる。全長4.50cm, 幅6.00cm, 厚み1.30cm, 重量36.21gである。19は安山岩A製の搔器である。背面は丸みを残し, ほぼ原礫面で覆われている縦長の剥片で, 先端部は尖る。右側縁部に小剥離による調整を行い刃部を作り出している。全長3.70cm, 幅7.00cm, 厚み1.20cm, 重量29.07gである。20は頁岩製の搔器である。自然礫を半割したような剥片を素材にして作られているため背面はほぼ礫面で覆われている。横広の剥片の広い先端部の縁辺部分に細かい剥離を連続的に入れて刃部を作り出している。全長4.40cm, 幅6.40cm, 厚み0.85cm, 重量29.09gである。21は安山岩A製の削器である。背面及び主剥離面とも同じ上方向からの剥離面が1面ずつある。剥片の左縁辺部に小剥離を施して刃部としている。右側縁部は風化面と思われる。全長2.60cm, 幅1.90cm, 厚み0.40cm, 重量3.02gである。22は安山岩A製の削器である。背面に左方向からの剥離面を1面持つ剥片である。左縁辺部にやや細かな小剥離を施し刃部としている。全長2.20cm, 幅3.00cm, 厚み0.60cm, 重量4.12gである。23は頁岩製の搔器である。小円礫を打ち欠いたような横広の剥片を素材として, 先端部側の縁辺部に比較的細かい剥離で調整を行い刃部を作り出している。背面はほぼ原礫面に覆われている。全長3.50cm, 幅4.10cm, 厚み0.90cm, 重量11.67gである。24は安山岩A製の削器である。やや不整な台形様の剥片の下辺部の主剥離面にやや不規則な細かい小剥離で刃部を作り出している。背面側には主剥離面と反対方向の剥離面と原礫面を残している。全長3.20cm, 幅3.80cm, 厚み0.62cm, 重量8.86gである。25はチャート製の削器(搔器)である。楕円礫を打ち欠いたやや縦長の剥片を素材として, 横位に用いて縁辺部にやや不規則な小剥離で調整を行い刃部を作り出している。背面はほぼ原礫面に覆われている。全長3.30cm, 幅4.50cm, 厚み1.00cm, 重量17.39gである。26は安山岩A製の調整剥片である。方形に近い小剥片を素材にして打面部及び両側縁部にやや大きめの不規則な剥離で調整を行い刃部としている。背面はほぼ原礫面に覆われている。全長3.45cm, 幅3.20cm, 厚み0.60cm, 重量9.84gである。27は安山岩A製の削器である。小円礫を打ち欠いた剥片を素材にして, やや弧状になった先端縁辺部の背面側に比較的細かい小剥離で調整し刃部を作り出している。背面はほぼ原礫面に覆われている。全長3.25cm, 幅4.85cm, 厚み1.30cm, 重量24.60gである。28は安山岩A製の搔器である。小楕円礫を打ち欠いて作り出された, やや縦長の剥片を素材にして右側側縁部に沿って大きめの剥離で調整し, やや厚みのある刃部を形成している。打面は折れており, 背面はほぼ原礫面に覆われている。全長4.10cm, 幅2.47cm, 厚み0.80cm, 重量12.77gである。



0 5cm

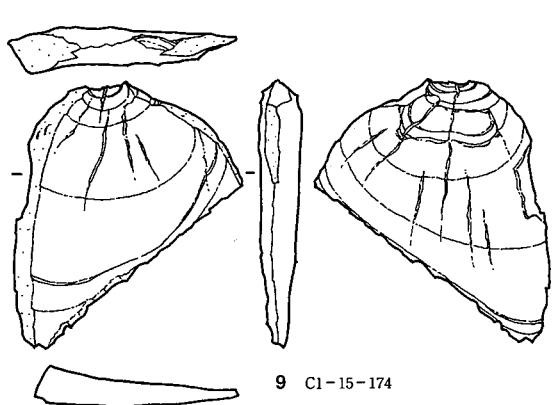
第105図 出土石器・頁岩，チャート，安山岩A，珪質頁岩（搔器，削器）



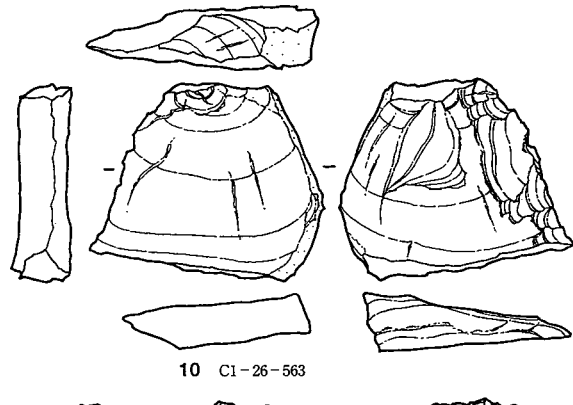
第106图 出土石器·安山岩A(1)

29は安山岩A製の搔器である。右側縁部に少し原礫面を残すものの上方向から1面、左方向から3面の剥離面を残す横長の剥片を素材にしている。主剥離面側の先端部縁辺に沿って小剥離で規則的に調整することによって弧状に刃部を形成している。全長3.30cm、幅4.90cm、厚み1.20cm、重量17.98gである。30は安山岩A製の削器である。素材は右側縁辺部がほぼ原礫面で覆われ、左側縁辺部は折れ面になるやや不整な縦長の剥片である。背面は主剥離面と同じ上方向からの剥離面2面で構成されている。主剥離面側の先端部に沿って小剥離で規則的に調整することによって直線的に刃部を形成している。全長4.15cm、幅3.70cm、厚み0.50cm、重量11.14gである。31は安山岩A製の搔器である。素材は横広で長方形に近い形状の剥片で薄い。背面の上半分が原礫面、下半分が右横方向からの剥離面で構成されている素材の先端部縁辺部に沿って小剥離で規則的に調整することによって直線的に刃部を形成している。全長1.95cm、幅5.03cm、厚み0.40cm、重量6.13gである。32は珪質頁岩製の搔器である。やや厚みの残る剥片で背面側は面的な剥離がほぼ全体を覆うような状態で尖頭器の未製品とでも言うべきものである。主剥離面側の調整は下方の縁辺部に沿ってやや規則的な細かい剥離で刃部を作り出しているようである。全長2.70cm、幅3.35cm、厚み1.00cm、重量10.92gである。

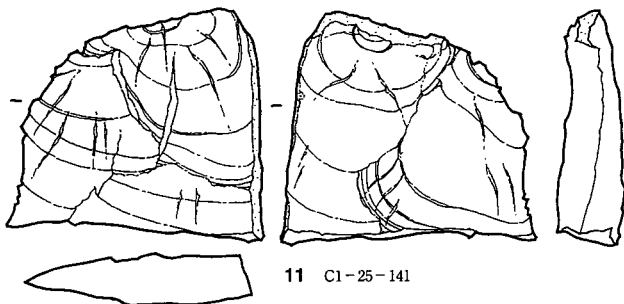
安山岩A 剥片類その他(第106~112図1~84, 図版50~55, 第12・13表) いわゆる黒色安山岩と呼ばれる安山岩で風化面がざらついたものが多い。1は接合資料9である。もともとは背面上が原礫面で覆われている比較的大きめの剥片であり、剥片剥離に伴って左側縁部が折れてしまったものと思われる。全長5.40cm、幅4.10cm、厚み1.35cm、重量45.47gである。2は接合資料10である。背面はほぼ原礫面で覆われており、主剥離面側は剥離された後、周辺部を主体に細かな面的調整を施している。その工程で中程から大きく剥離してしまったものと思われる。いわゆる尖頭器の未完成品とでも言うべきもので製作途中で折れてしまった段階で放棄したものとするのが妥当と思われる。全長3.10cm、幅5.05cm、厚み1.40cm、重量28.54gである。3は接合資料1である。もともと背面がほぼ原礫面で覆われている縦長の剥片である。背面側は左側縁辺部にやや大きめの剥離で調整されている。主剥離面側は両側縁から大きめの粗い面的剥離による調整が施されている。この段階で折れてしまったことは明白である。いわゆる尖頭器の素材から調整を始めたばかりの段階で折れて放棄されたものとでも言うべき資料であろう。全長6.03cm、幅3.50cm、厚み1.25cm、重量34.22gである。4は剥片で背面が原礫面と右側横方向からの剥離面1面で構成されている。比較的厚みのある剥片で、先端部側は剥片剥離時に折れてしまったようである。全長3.10cm、幅3.05cm、厚み0.75cm、重量6.79gである。5は背面がほぼ原礫面で覆われた全体に丸みのあるやや縦長の剥片である。円礫を剥ぎ取った外皮部分に相当するもので背面上に残る小剥離面は意図したものではなく剥片剥離時に発生したものと思われる。全体の形状から尖頭器の素材となりうる剥片である。全長4.10cm、幅3.30cm、厚み0.80cm、重量17.16gである。6は背面はほぼ原礫面で覆われた丸みのあるやや横長の剥片である。主剥離面と同じ方向の上方向からの剥離面を残すが剥片剥離時に同時に形成されたものと思われる。全体にやや薄目の剥片である。全長2.90cm、幅3.80cm、厚み0.70cm、重量8.03gである。7は背面が原礫面で覆われているやや右に偏った縦長の剥片である。打撃はあらかじめ用意された剥離面より行われている。全体の形状から尖頭器の素材となりうる剥片である。全長3.75cm、幅3.50cm、厚み1.05cm、重量15.52gである。8は背面が原礫面で覆われている丸みのある縦長の剥片である。楕円礫を半割したような形状で厚みがある。打撃時に伴って剥離された小剥離面を複数残す以外は調整等の剥離面は認められない。厚みはあるものの



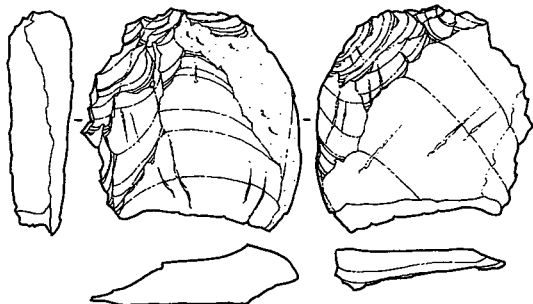
9 C1-15-174



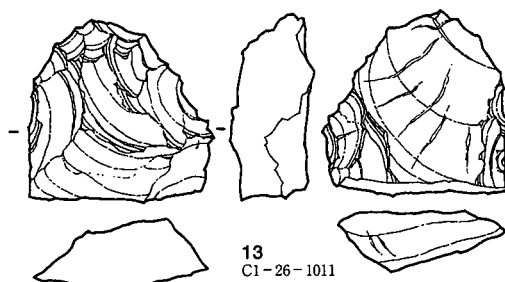
10 C1-26-563



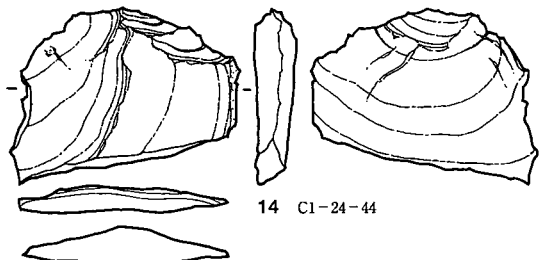
11 C1-25-141



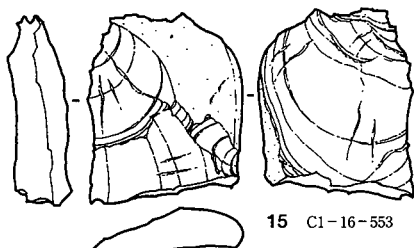
12 C1-14-41



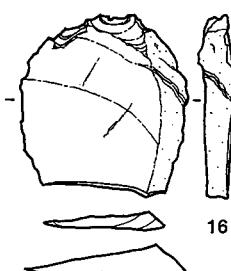
13 C1-26-1011



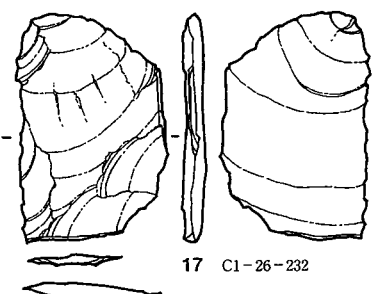
14 C1-24-44



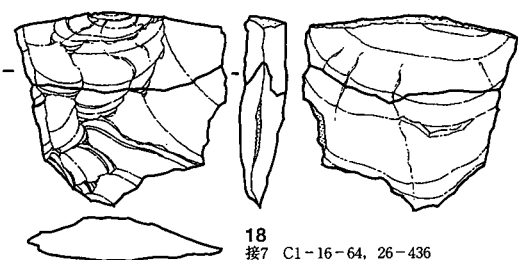
15 C1-16-553



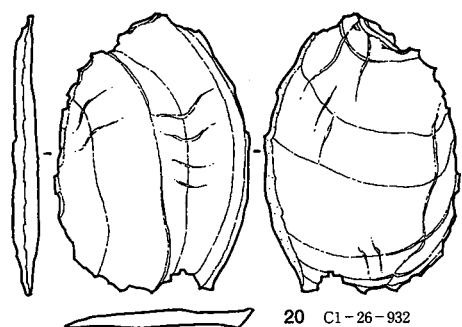
16 C1-16-19



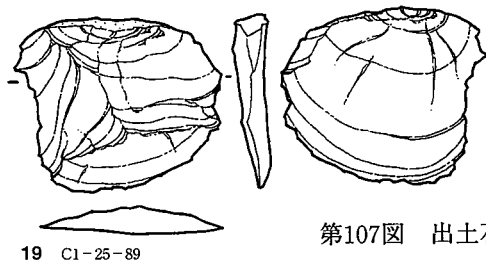
17 C1-26-232



18 接7 C1-16-64, 26-436



20 C1-26-932

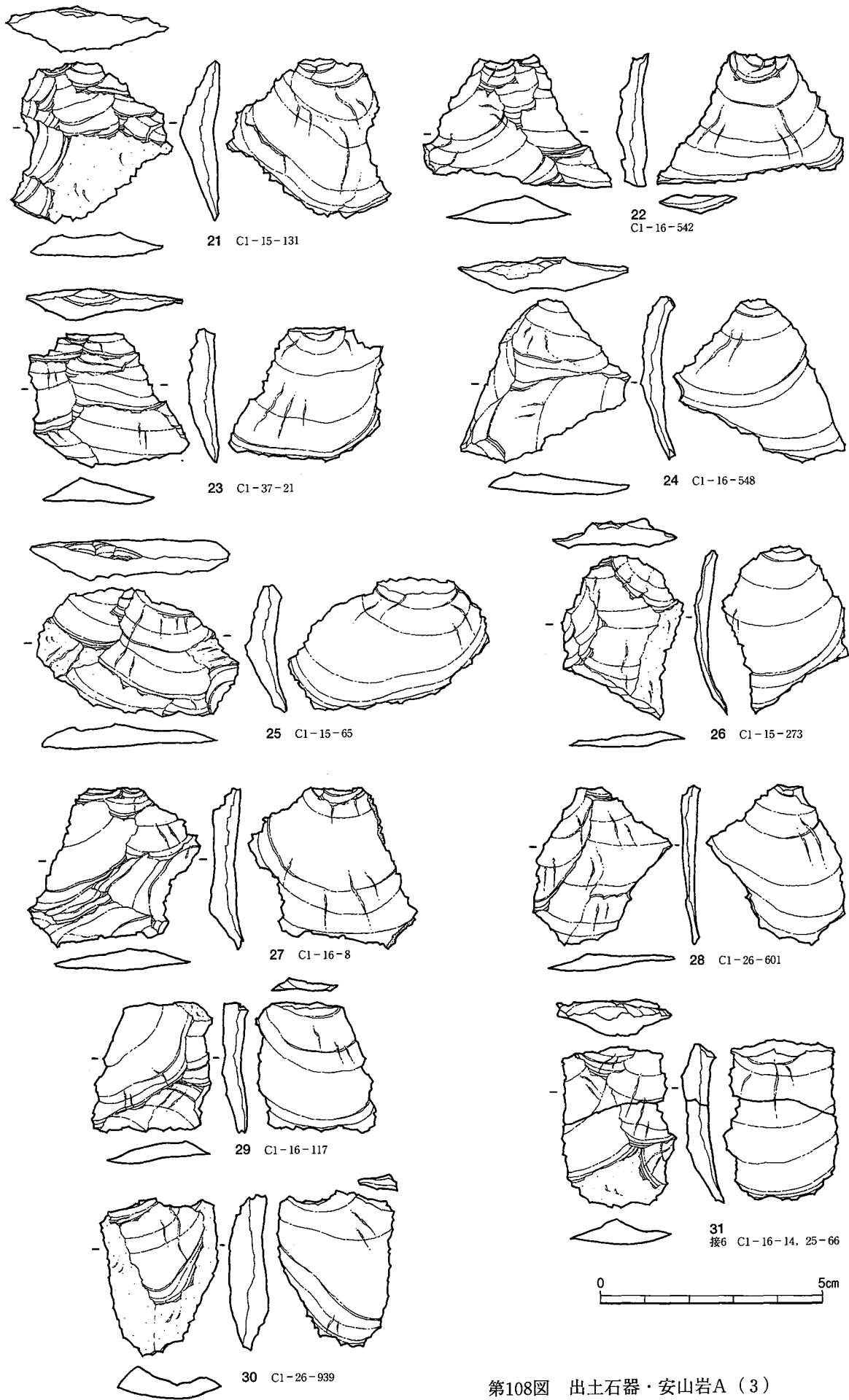


19 C1-25-89

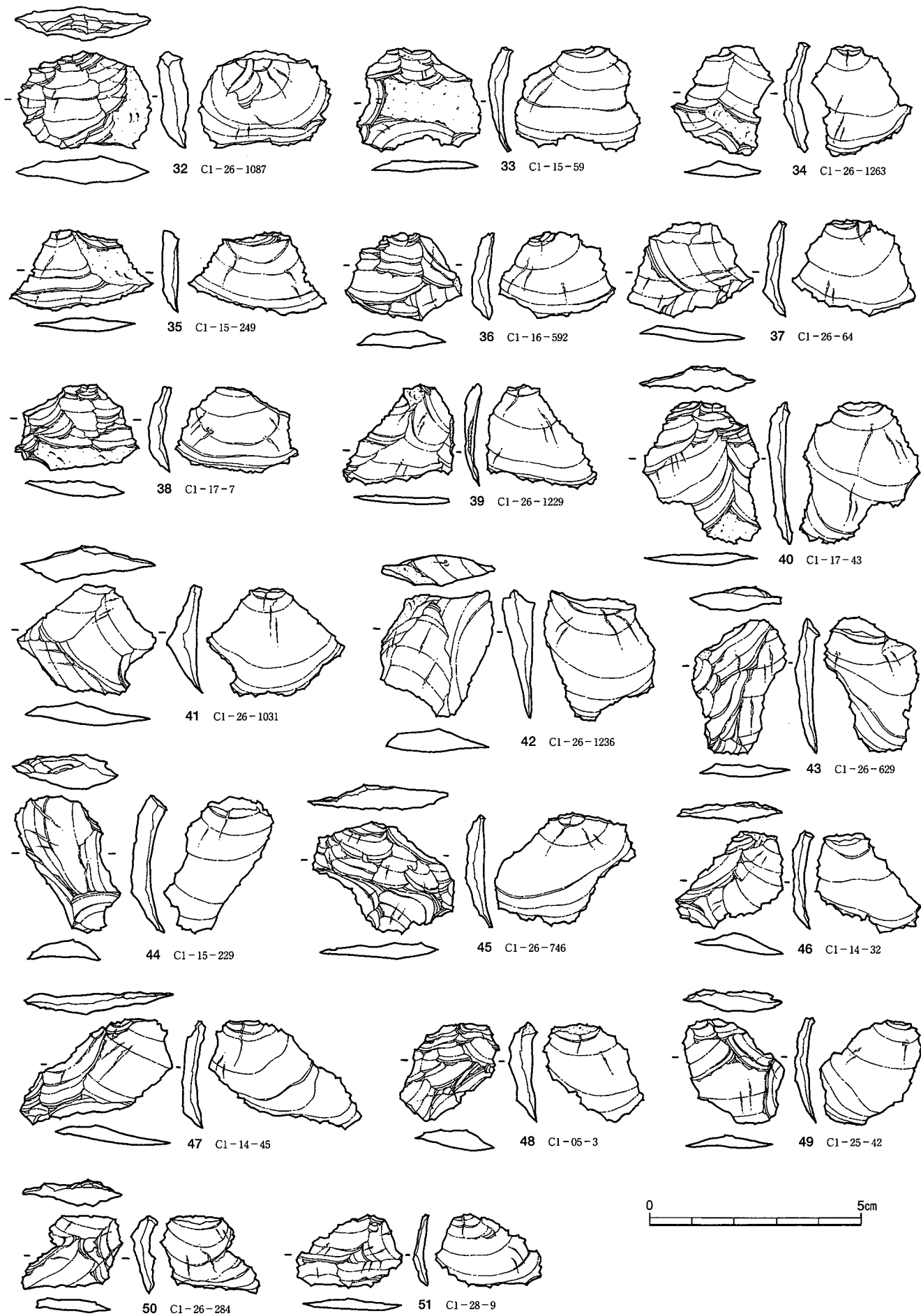


第107图 出土石器·安山岩A(2)

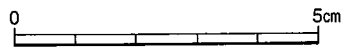
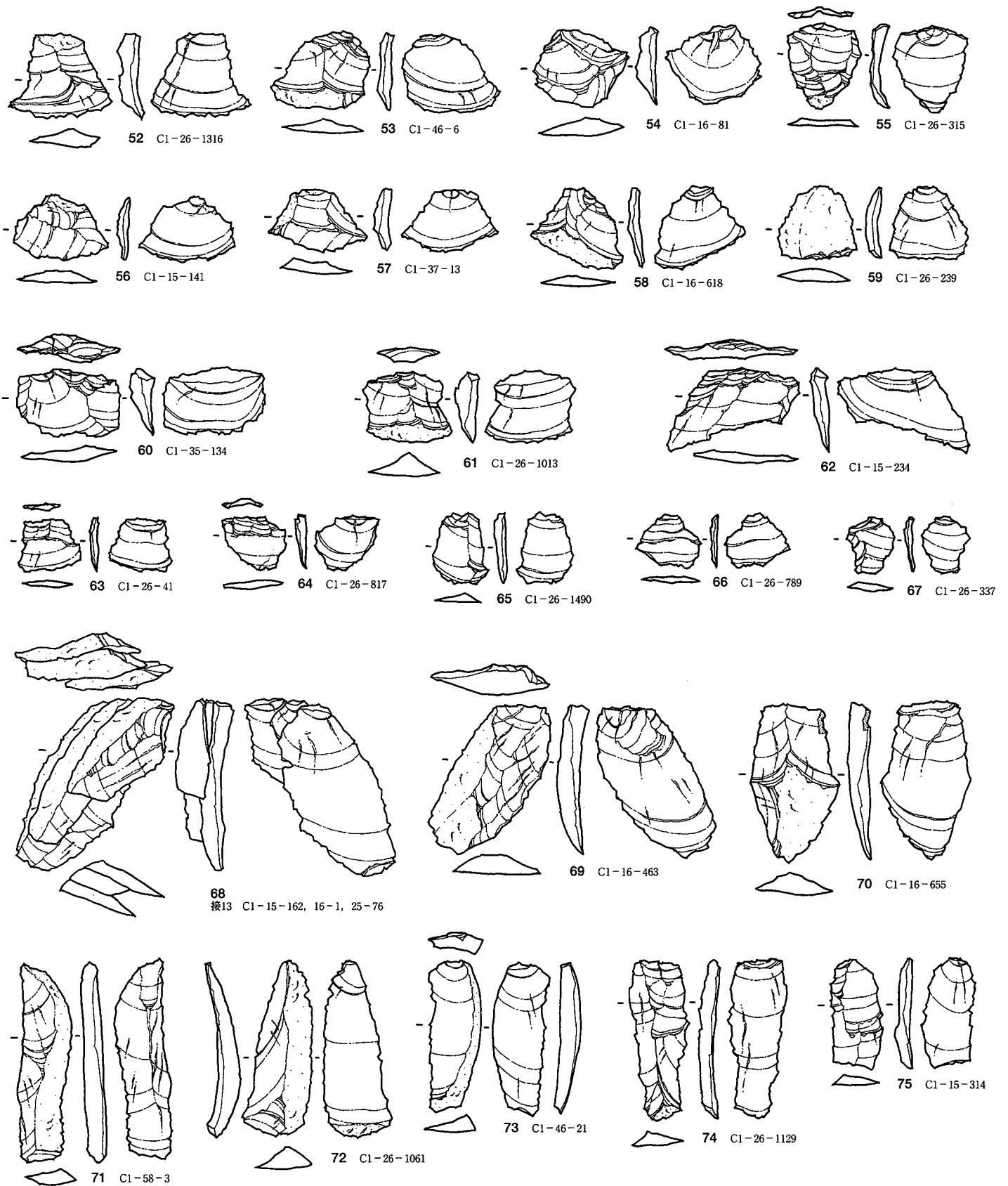
尖頭器の素材と考えられる剥片である。全長4.95cm, 幅3.45cm, 厚み1.60cm, 重量34.31gである。9は背面に主剥離面と同じ方向の剥離面1面と両側縁部に礫面を薄く残し, 先端部が右側から左側に断ち切られたように細くなる逆三角形に近い剥片である。比較的薄目の剥片で礫の中程に位置する剥片である。調整等の剥離は認められないが尖頭器の素材になると思われる剥片である。全長4.42cm, 幅3.50cm, 厚み0.65cm, 重量10.23gである。10は背面に主剥離面と同じ方向の剥離面1面と右側縁部に礫面を残す剥片である。先端部は折れた状態で検出されており, 台形に近い形状である。打面は剥離面を使用している。主剥離面の右側縁部分は連続的な小剥離痕が認められる。この調整の段階で折れてしまつて廃棄されたものと思われる。全長3.30cm, 幅3.70cm, 厚み0.70cm, 重量16.48gである。11は背面に主剥離面と同じ方向の剥離面が3面残されている剥片である。打面は原礫面を使用している。やや厚みのある台形に近い剥片で尖頭器の素材とすることは可能であろう。全長3.85cm, 幅4.30cm, 厚み0.90cm, 重量21.00gである。12は背面に主剥離面と同じ方向の剥離面1面と原礫面とで構成されている。打面は折れてしまつている。片側側縁部は両面ともにやや粗い調整が施されており, 尖頭器に加工する途中で折れて廃棄されたと考えられるものである。全長3.72cm, 幅3.60cm, 厚み1.00cm, 重量15.46gである。13はやや厚みの残す剥片で先端部は折れている。背面側は周辺部に大きな剥離面の調整が残されている。主剥離面側は両縁辺部にやや細かな剥離で調整が残されており石器製作途中で折れて廃棄されたものかもしれない。全長3.05cm, 幅3.10cm, 厚み1.10cm, 重量13.70gである。14はやや横広の台形に近い形状の剥片である。背面は左方向から1面と上方向から2面の剥離面で構成されている。先端部側は折れている。調整のための剥離痕は認められない。全長2.90cm, 幅3.60cm, 厚み0.70cm, 重量7.76gである。15は方形に近い形状で背面が主剥離面と同じ方向の剥離面1面と原礫面とで構成されている。主剥離面側まで若干原礫面が及ぶことからもともと小円礫が素材であった可能性が高い。先端部は折れている。全長3.15cm, 幅2.50cm, 厚み0.70cm, 重量8.69gである。16は背面が主剥離面と逆方向からの剥離面1面と縁辺部の原礫面とで構成される比較的薄い剥片である。先端部は折れている。全長3.03cm, 幅2.77cm, 厚み0.50cm, 重量4.86gである。17は背面が上方向から2面, 右方向から2面の剥離面とで構成されている。全体に薄く縁辺部も鋭く先端部は折れている。全長3.80cm, 幅2.45cm, 厚み0.31cm, 重量4.14gである。18は接合資料7でもともと背面が下方向から1面, 上方向から2面の剥離面で構成されている剥片である。先端部にかけてややすぼまる逆三角形に近い形状で比較的厚みのあるものである。全長3.20cm, 幅3.45cm, 厚み0.70cm, 重量9.18gである。19はやや丸みのある台形に近い形状の剥片である。背面は主剥離面と同じ方向の上からの剥離面4面で構成されている。打面には若干の原礫面が残されている。打面側がやや厚く先端部では非常に薄くなつている。全長2.90cm, 幅3.30cm, 厚み0.50cm, 重量5.78gである。20は背面が左方向からの剥離面1面だけのやや不整形の縦長剥片である。全体に薄く調整痕等はみられない。全長2.25cm, 幅2.40cm, 厚み0.45cm, 重量1.66gである。21は背面が左横方向から3面, 上方向から3面の剥離面で構成されている。また先端部側に原礫面を残す。やや扇形に広がる不定形な剥片で中央部が厚みの残る剥片である。調整痕等はみられない。全長3.65cm, 幅3.23cm, 厚み0.57cm, 重量7.37gである。22は背面が上方向からの剥離面2面で構成されている。先端部はやや折れているものの台形に近い形状で比較的厚みのない剥片である。調整痕等はみられない。全長3.00cm, 幅4.00cm, 厚み0.60cm, 重量5.83gである。23は背面が主剥離面と同じ上方向からの剥離面5面で構成されているやや不整形な方形の剥片である。比較的薄く縁辺部等には調整痕はみられない。全長3.05cm, 幅3.40cm, 厚み0.55cm, 重量5.62gである。24は背面が右横方向から1面, 上方向から1面で構成されているやや左方向に長い三



第108图 出土石器·安山岩A(3)

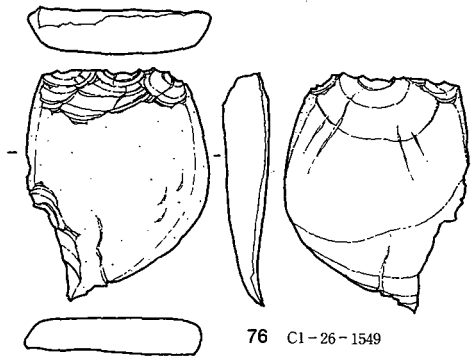


第109图 出土石器·安山岩A(4)

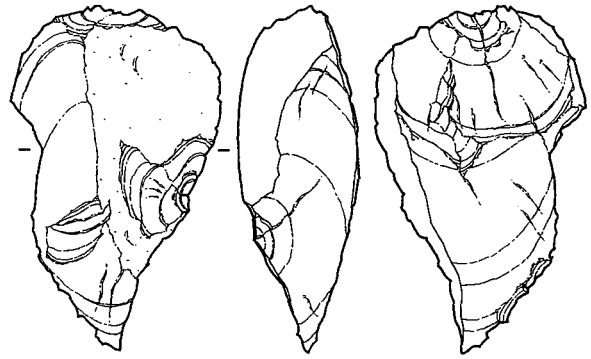


第110图 出土石器·安山岩A(5)

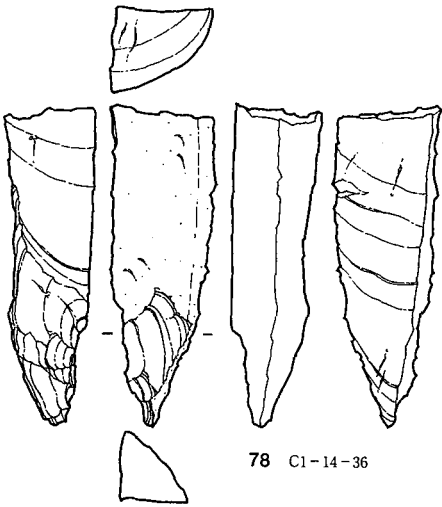
角形に近い剥片である。全体に薄い剥片であるが縁辺部等には調整痕はみられない。全長3.70cm, 幅3.40cm, 厚み0.55cm, 重量5.62gである。25は背面が上方向から2面, 右横方向から1面の剥離面で構成されている。やや丸みのある横広の剥片で全体に薄い剥片であるが縁辺部等には調整痕はみられない。全長3.70cm, 幅3.40cm, 厚み0.50cm, 重量5.93gである。26は背面が上方向からの剥離面5面と原礫面とで構成されているやや縦長の不整な剥片である。全体の薄い剥片であるが縁辺部等には調整痕はみられない。全長2.95cm, 幅4.30cm, 厚み0.60cm, 重量8.50gである。27は背面が上方向から2面, 右横方向から2面の剥離面で構成されているやや不整な縦長の剥片である。縁辺部等には調整痕はみられない。全長3.78cm, 幅2.77cm, 厚み0.30cm, 重量3.00gである。28は背面が上方向から2面の剥離面で構成されているやや不整な縦長の剥片である。全体の薄い剥片であるが縁辺部等には調整痕はみられない。全長3.60cm, 幅3.10cm, 厚み0.52cm, 重量7.62gである。29は背面が左斜め方向から1面, 上方向から1面, 下方向から1面の剥離面3面で構成されている縦長の剥片である。均一で薄い剥片で縁辺部等には調整痕はみられない。全長3.00cm, 幅2.60cm, 厚み0.40cm, 重量4.20gである。30は背面が上方向からの剥離面1面と原礫面とで構成されたやや縦長で先端部が細くなる剥片である。全体にやや厚みのある剥片で縁辺部等には調整痕はみられない。全長3.50cm, 幅2.60cm, 厚み0.65cm, 重量8.47gである。31は接合資料6でもともと背面が上方向からの剥離面2面と原礫面で構成されている縦長の剥片である。中程が厚く周辺部が薄くなって断面三角形を呈する剥片で, 縁辺部等には調整痕はみられない。全長3.60cm, 幅2.60cm, 厚み0.65cm, 重量5.95gである。32~51は小形で不定形な剥片である。横にやや広がる台形に近い不定形なものやどちらか斜め方向に剥離された小剥片で比較的薄いものが多い。これらは石器製作の初期段階で剥離されたものも多く含まれていると思われる。これらのものは石器素材として意図されて生産されたものとは考えられず, おそらく大部分は副次的生産物と思われる。52~67は小剥片類である。これらはおそらく大部分が尖頭器類の製作の際に作出されたものと思われる。68は接合資料13で全て左側縁部に原礫面を大きく残す縦長の剥片が3枚接合している。比較的表面に近い部分の剥離作業を行った結果作出された剥片類でいずれも細長くあまり厚みのない形状のものである。一番最後に剥がされた剥片は全長4.03cm, 幅2.50cm, 厚み1.10cm, 重量9.79gである。69は背面がやや右上よりの剥離面1面と原礫面で構成された縦長の剥片である。先端部が左側に偏った形状で全体にやや厚みを残している。縁辺部等には調整痕はみられない。全長3.50cm, 幅2.10cm, 厚み0.50cm, 重量4.79gである。70は背面が上方向から2面, 左方向から1面の剥離面と先端部の原礫面とで構成されている縦長の剥片である。先端部は先細り全体にやや薄い。打面側は折れている。縁辺部等には調整痕はみられない。全長3.70cm, 幅2.12cm, 厚み0.50cm, 重量3.71gである。71は背面が上方向から1面の剥離面と節理面1面, 先端部の原礫面で構成されている。打面側が細い縦長剥片である。厚みは全体に均一でやや薄い。縁辺部等には調整痕はみられない。全長4.70cm, 幅1.13cm, 厚み0.40cm, 重量3.16gである。72は背面が上方向から1面の剥離面と原礫面で構成されている。厚みはやや胴部にかけて厚くなるものの全体に薄い。縁辺部等には調整痕はみられない。全長4.10cm, 幅1.50cm, 厚み0.55cm, 重量3.72gである。73は背面が上方向から1面の剥離面と原礫面で構成されている。厚みはやや胴部にかけて厚くなるものの全体に薄い縦長の剥片である。縁辺部等には調整痕はみられない。全長3.60cm, 幅1.25cm, 厚み0.42cm, 重量2.10gである。74は背面が上方向からの剥離面2面と若干の原礫面とで構成されている。厚みはあまりなく縦長の剥片で縁辺部等には調整痕はみられない。全長3.78cm, 幅1.30cm, 厚み0.35cm, 重量1.97gである。75は背面が上方向からの剥離面2面で先端部が折断された縦長の剥片である。縁辺部等には調整痕はみられな



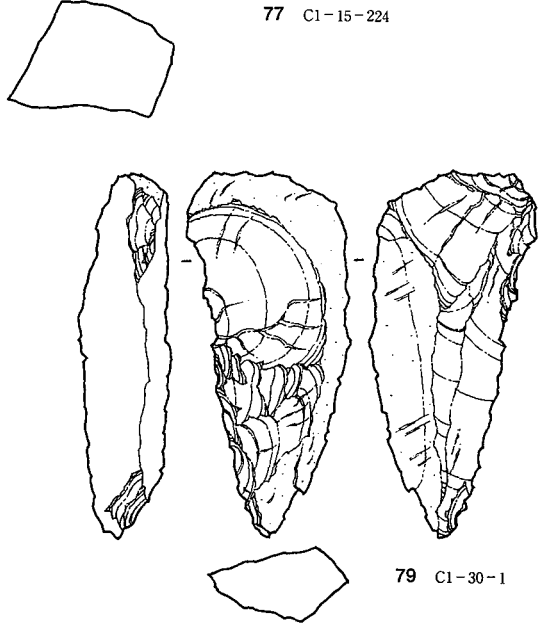
76 C1-26-1549



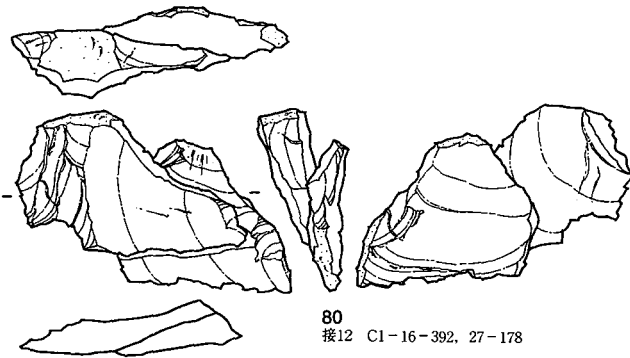
77 C1-15-224



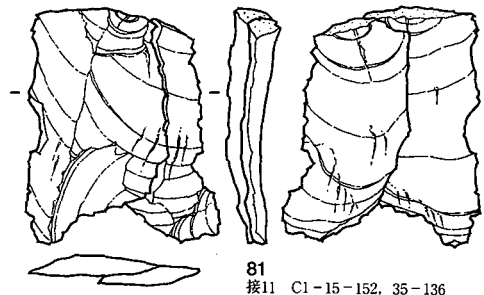
78 C1-14-36



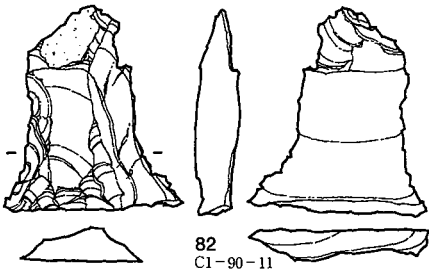
79 C1-30-1



80
接12 C1-16-392, 27-178



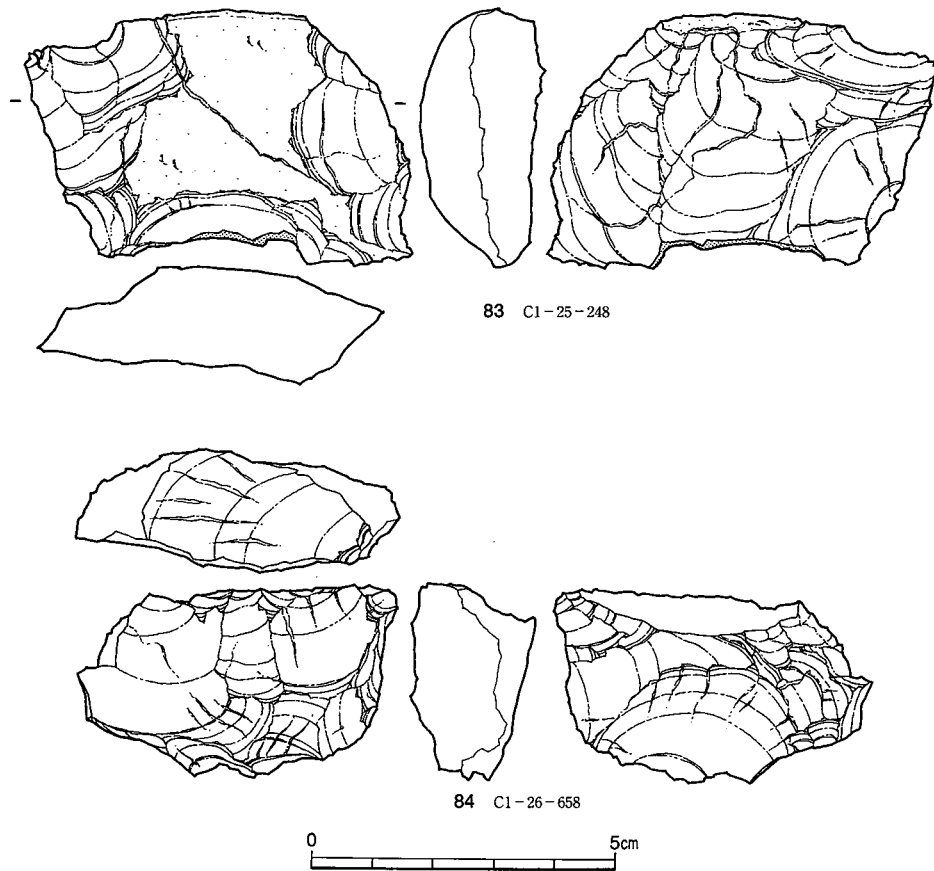
81
接11 C1-15-152, 35-136



82
C1-90-11

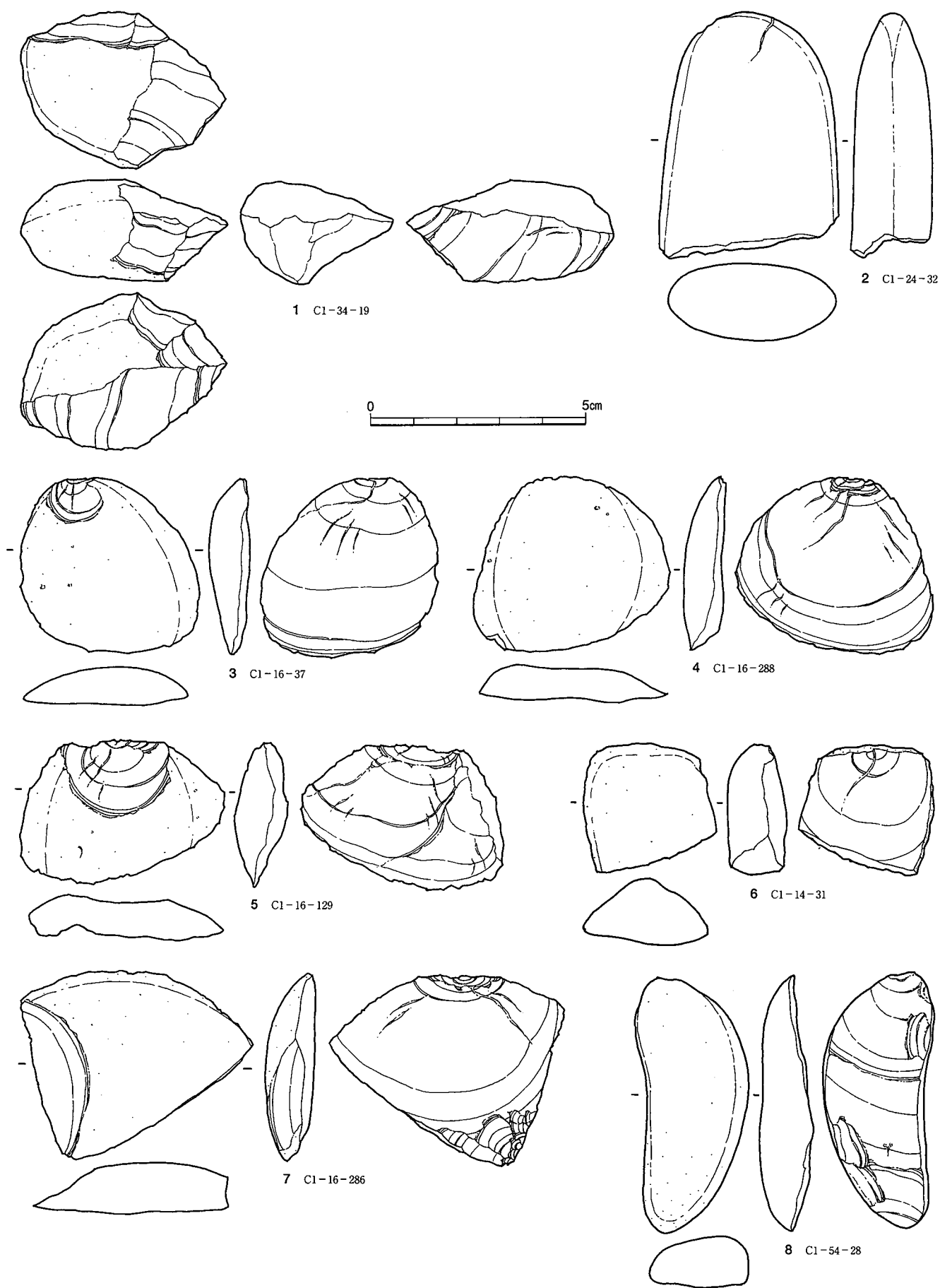


第111图 出土石器·安山岩A(6)

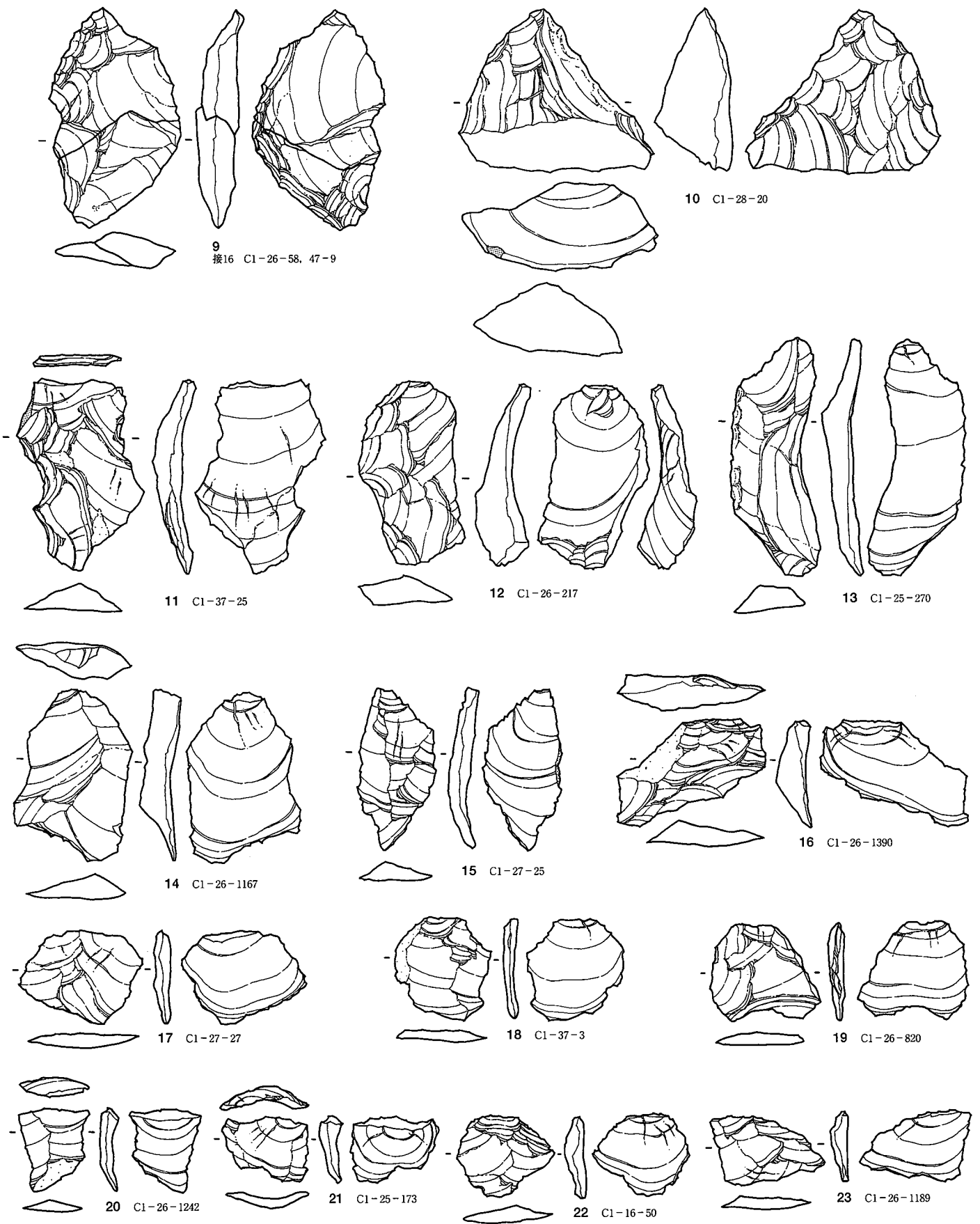


第112図 出土石器・安山岩A (7)

い。全長2.60cm, 幅1.20cm, 厚み0.27cm, 重量1.02gである。76は背面がほぼ原礫面で覆われたやや縦長の不整な剥片である。打撃面に調整による剥離痕と左側縁部に調整によると思われる剥離痕が認められる。石器の素材となりうる剥片である。剥離面2面で先端部が折断された縦長の剥片である。縁辺部等には調整痕はみられない。全長3.90cm, 幅3.00cm, 厚み0.65cm, 重量11.78gである。77は背面が原礫面と右方向からの剥離面1面で構成されている非常に厚みのある縦長の剥片で先端部は細く鋭い。縁辺部等には調整痕はみられない。全長5.72cm, 幅3.50cm, 厚み1.80cm, 重量34.56gである。78は細長い棒状の礫を4分割したような細長い剥片で先端部に主剥離面側から背面側に向かって複数の大きめの剥離痕が見られる。打面側は折れている。全長5.33cm, 幅1.75cm, 厚み1.20cm, 重量17.13gである。79は縦長の細長い剥片で背面が左横方向からの剥離面と礫面で構成されている。左縁辺部に沿って比較的規則的な小剥離痕が認められる。全体に厚みも比較的あり, 尖頭器等の石器の未製品とも考えられる。全長6.02cm, 幅2.60cm, 厚み1.17cm, 重量24.17gである。80は接合資料12となる2枚の剥片である。いずれも横長の剥片で連続的にこうした横長の剥片が剥がされていたことが解る資料である。内側の剥片の右縁辺部に礫面が残されていることからそれ程大きい原礫ではなかったと思われる。81は接合資料11となる2枚の剥片である。比較的縦長に近い形の剥片である。先端部がやや左右に傾斜するように剥がされている。いずれの縁辺部等にも調整等の剥離痕は認められない。82は先端部が台形状に広がる縦長の剥片である。背面は主剥離面と逆方向の下からの剥離面3面と打面付近の原礫面とで構成されている。先端部は折れている。全長3.40cm, 幅3.00cm, 厚み0.60cm, 重量5.55gである。83は大形で厚みのある剥片である。背面には原礫から剥がされた後に, 周辺部分より改めて小剥片を剥がしたと思われる剥離面が複数認められる。剥片から石核へ転用したものと考え



第113图 出土石器·安山岩B(1)



第114图 出土石器·安山岩B(2)

られる。全長4.25cm, 幅5.80cm, 厚み1.75cm, 重量58.08 gである。84は大形の剥片を転用した石核である。剥離面を打撃面として表裏の上下方向から小剥片を剥がしている。全長3.20cm, 幅5.25cm, 厚み2.10cm, 重量35.90 gである。

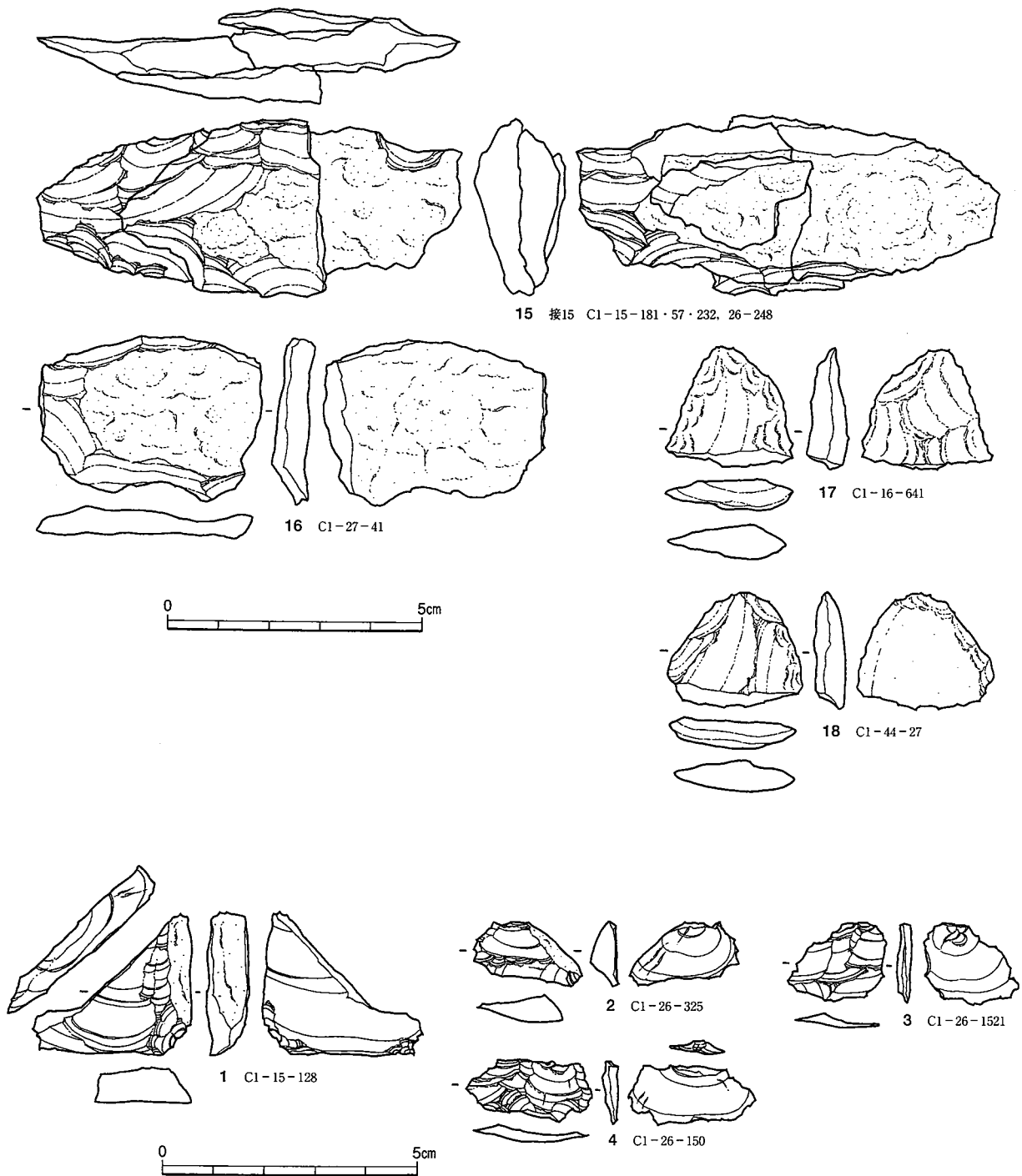
安山岩B 剥片類その他(第113・114図1~23, 図版56・57, 第12・13表) いわゆるトロトロ石と呼ばれる安山岩で風化面が黄色もしくは薄い灰色を呈し, 新鮮な剥離面が暗灰色でざらざら感のあるものが多い。1は石核である。楕円礫の一端から大きく複数回剥離しているのが認められる。全長2.40cm, 幅4.80cm, 厚み3.65cm, 重量36.82 gである。2は礫器と思われる。楕円礫の一端を打ち欠いて刃部のようにしている。全長5.75cm, 幅5.20cm, 厚み1.80cm, 重量59.73 gである。3は剥片である。背面は剥離されたときに生じた剥離面を除きほぼ原礫面で覆われている。小円礫を石核素材として剥離された剥片で縁辺部には調整痕等は認められない。全長4.13cm, 幅4.20cm, 厚み0.95cm, 重量16.49 gである。4は剥片である。背面はほぼ原礫面で覆われている。小円礫を石核素材として剥離された剥片で縁辺部には調整痕等は認められない。全長4.10cm, 幅4.60cm, 厚み0.85cm, 重量41.17 gである。5は比較的横長の剥片である。背面は剥離されたときに生じた剥離面を除きほぼ原礫面で覆われている。小円礫を石核素材として剥離された剥片で縁辺部には調整痕等は認められない。全長3.40cm, 幅4.80cm, 厚み1.30cm, 重量17.56 gである。6は剥片である。小礫を半裁したような形状で先端部は折れている。背面は原礫面で覆われている。縁辺部には調整痕等は認められない。全長3.00cm, 幅3.00cm, 厚み1.60cm, 重量16.43 gである。7は先端部に細かな調整が認められる剥片である。背面は左方向からの剥離面が1面あるものの他は原礫面で覆われている。全長4.43cm, 幅5.20cm, 厚み1.20cm, 重量26.50 gである。8は細長い棒状の礫を半裁したような縦長の剥片である。背面はほぼ原礫面で覆われている。縁辺部に若干刃こぼれのような剥離痕が見られる。全長6.00cm, 幅2.45cm, 厚み1.20cm, 重量21.19 gである。9は接合資料16である。形状から尖頭器の未製品である。横長の剥片の周辺調整を行っている段階で折れてしまったものである。表面の左先端部及び裏面の基部と左側縁部にかけて縁辺部に調整されやや形状を整えている。全長3.20cm, 幅5.10cm, 厚み0.90cm, 重量14.46 gである。10は比較的厚みのある両面調整され, 途中で折れている状態のものでおそらく尖頭器の未製品であろう。全長3.90cm, 幅4.30cm, 厚み1.60cm, 重量23.64 gである。11は打撃面が欠損している縦長の剥片である。背面は左横方向からの小剥離面が2面, 上方向からの剥離面2面とで構成されている。尖頭器の素材にするにはやや薄い剥片である。全長4.57cm, 幅2.60cm, 厚み0.68cm, 重量8.52 gである。12は比較的形状の整った縦長の剥片で背面側の左側縁部と主剥離面の先端部にやや大きめの剥離で調整を行っている。素材そのものを大きく変形させるまでには至っておらず尖頭器を意図した加工かどうかは不明である。全長4.37cm, 幅2.30cm, 厚み0.70cm, 重量8.90 gである。13はやや左に弓なりに変形した縦長の剥片である。左側縁部に不連続な小剥離痕が見られる。縁辺部はやや鋭いので刃器として使用した可能性もある。全長5.60cm, 幅1.90cm, 厚み0.77cm, 重量6.86 gである。14は先端部がやや幅広の縦長剥片である。背面は上方向からの剥離面2面と右方向からの剥離面1面とで構成されている。縁辺部等には微細な剥離痕は見られない。全長4.10cm, 幅2.60cm, 厚み0.65cm, 重量7.20 gである。15は先端部, 打面部ともに細くなる縦長でやや薄目の縦長の剥片である。背面には上方向からの剥離面が3面構成されており, 全長3.87cm, 幅1.80cm, 厚み0.45cm, 重量2.77 gである。16はやや横広の不整形な剥片である。背面の一部に原礫面を残し, 上下左右の多方位からの剥離面が見られる。全長2.58cm, 幅3.30cm, 厚み0.60cm, 重量4.38 gである。17~23は小形の剥片で



第115図 出土石器・ホルンフェルス（1）

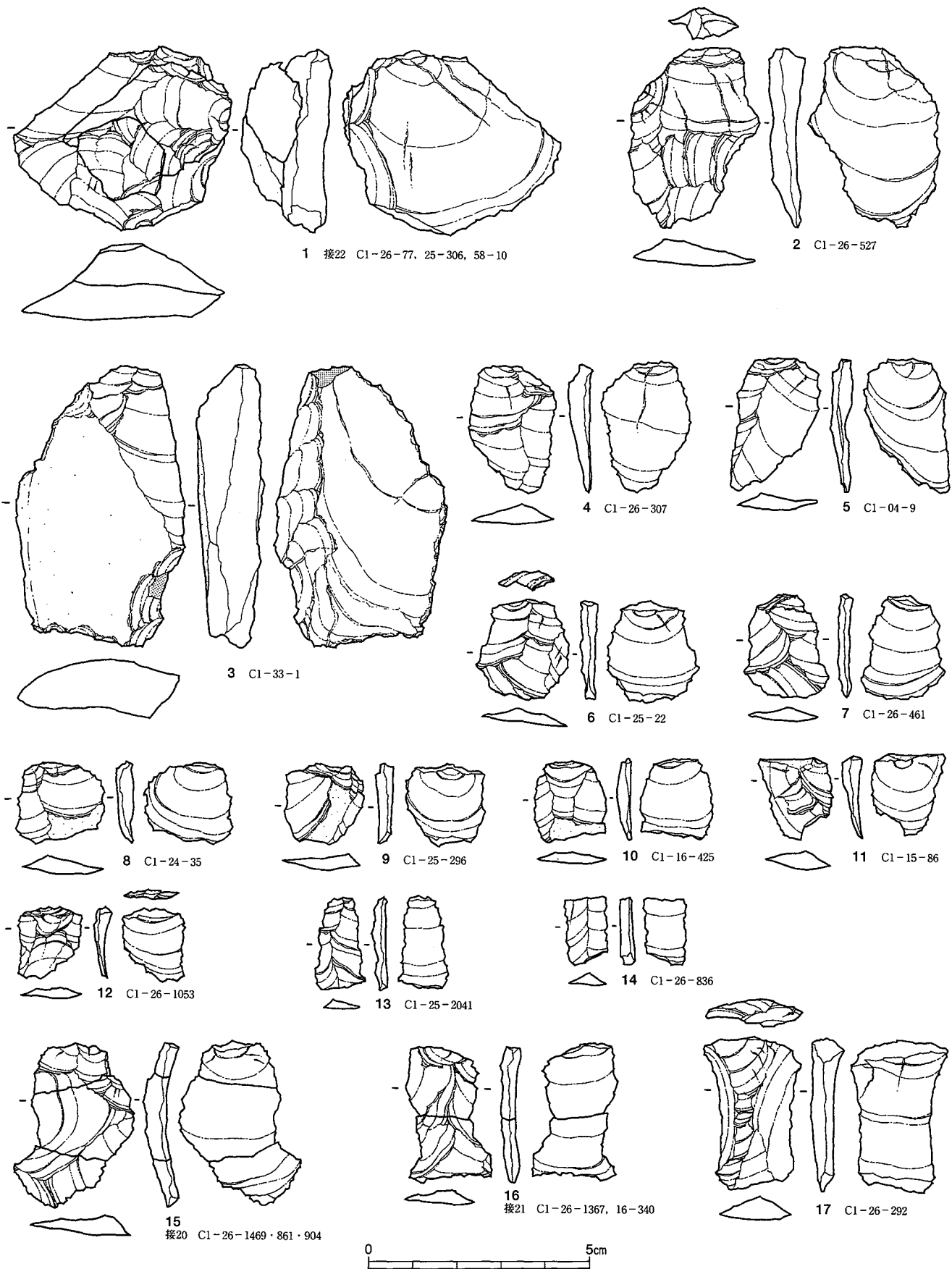
ある。背面は小形のため上方向からの剥離面が1～2面であるものが殆どである。一部に原礫面の残されているものもある。石核の打面調整や剥片剥離の副産物として作出されたものであろう。

ホルンフェルス 剥片類その他(第115・116図1～18, 図版58・59, 第12・13表) 硬質で暗青色を呈するものが多く見られる。1は円礫の一部を打ち欠いた調整痕のある剥片である。石核の外皮部に位置する剥片なのかもしれない。背面はほぼ原礫面で覆われている。先端部背面側の縁辺部にやや不規則な剥離で調整が施されている。全長3.88cm, 幅4.67cm, 厚み0.58cm, 重量12.83gである。2はやや不整形の縦長の剥片で全体に分厚い。背面は右横方向からの剥離面が3面と半分以上の原礫面で構成されている。全長4.40cm, 幅4.10cm, 厚み0.90cm, 重量22.11gである。3は先端部が幅広の剥片でやや不整な三角形を呈する。中央部でやや厚みを増す形状で縁辺部は全体に薄い。微細剥離痕等は認められない。全長3.20cm, 幅3.80cm, 厚み0.50cm, 重量6.43gである。4は先端部が幅広な剥片でやや縦長な剥片である。背面は上方向からの剥離面2面と左方向からの剥離面2面とで構成されている。縁辺部は全体に薄い。微細剥離痕等は認められない。全長3.50cm, 幅4.00cm, 厚み0.50cm, 重量7.17gである。5は先端部側が幅広で中央が扇状に張り出すような形状の縦長の剥片である。背面は下からの剥離面1面と上からの剥離面2面で構成されている。縁辺部は全体に薄い。微細剥離痕等は認められない。全長3.10cm, 幅3.40cm, 厚み0.30cm, 重量3.42gである。6はやや右に偏った縦長の剥片で縁辺の中程が幅広になる。背面は右からの剥離面1面と上からの剥離面2面とで構成されている。全体に薄い。微細剥離痕等は認められない。全長3.50cm, 幅2.70cm, 厚み0.33cm, 重量3.44gである。7は比較的薄い台形に近い小剥片である。背面は上からの剥離面3面で構成されている。微細剥離痕等は認められない。全長2.30cm, 幅2.00cm, 厚み0.39cm, 重量2.02gである。8はやや不整な方形の小剥片である。中程が少し厚みがあり縁辺部は全体に薄い。背面は上からの剥離面3面で構成されている。縁辺部等には微細剥離痕等は認められない。全長2.40cm, 幅2.17cm, 厚み0.50cm, 重量2.97gである。9はほぼ方形の小剥片である。中央部がやや厚みのある剥片である。背面は上からの剥離面3面で構成されている。縁辺部等には微細剥離痕等は認められない。全長2.10cm, 幅2.25cm, 厚み0.45cm, 重量2.26gである。10はやや丸みのある五角形に近い形の剥片である。背面は上方向からの剥離面3面で構成されている。縁辺部等には微細剥離痕等は認められない。全長2.15cm, 幅2.10cm, 厚み0.30cm, 重量1.44gである。11は横長の不整形な剥片である。背面は上方向からの剥離面1面で構成されている。全長1.45cm, 幅2.80cm, 厚み0.37cm, 重量1.39gである。12は接合資料31で元々1枚のやや左に傾斜した縦長の剥片である。背面は上方向から1面と右方向からの1面の剥離面2面と原礫面で構成されている。縁辺部等には微細剥離痕等は認められない。全長2.13cm, 幅2.50cm, 厚み0.60cm, 重量4.18gである。13は打面部が大きく先端部がやや先細る形状の縦長の剥片である。背面は左方向から1面, 上方向から1面の剥離面2面で構成されている。縁辺部等には微細剥離痕等は認められない。全長3.49cm, 幅2.45cm, 厚み0.58cm, 重量3.78gである。14は比較的整った縦長の剥片である。背面は左方向から1面の剥離面と原礫面で構成されている。縁辺部は比較的薄く鋭いため刃こぼれが見られる。ただし使用もしくは加工のためかは定かではない。全長4.38cm, 幅2.00cm, 厚み0.47cm, 重量4.92gである。15は尖頭器の未製品で接合資料15である。接合した状態で両面のかかなりの部分を面的に調整したことが解る資料で途中で、折れてしまい石器製作をやめたと思われるものである。全長3.60cm, 幅8.35cm, 厚み1.80cm, 重量32.81gである。16はやはり尖頭器の未製品と思われる。主剥離面側はトロトロの状況で剥離面が明らかでなく、背面側の中央部分が原礫面



第116図 出土石器・ホルンフェルス（2）（上）・凝灰岩（下）

で覆われており、周辺部分を大きく調整しているものである。剥片自身の薄さからすると調整途中で本体からさらに剥離されたものかもしれない。全長3.30cm、幅4.40cm、厚み0.70cm、重量9.53gである。17は尖頭器の先端部分の破片と思われる。表面側は周辺剥離で調整、裏面は大きな面的調整で形状を整えている。剥離面の状況から調整終了後に折れてしまったかと思われる。全長2.42cm、幅2.58cm、厚み0.80cm、重量5.21gである。18は片側が完全に礫面で覆われている礫片の剥離面側の周辺と礫面の片側を小剥離で調整している尖頭器の未製品とでも言うべきものである。下半部は折れてしまっているために尖頭器様になっていたかどうかは不明であるが、全長2.30cm、幅2.70cm、厚み0.50cm、重量4.70gである。



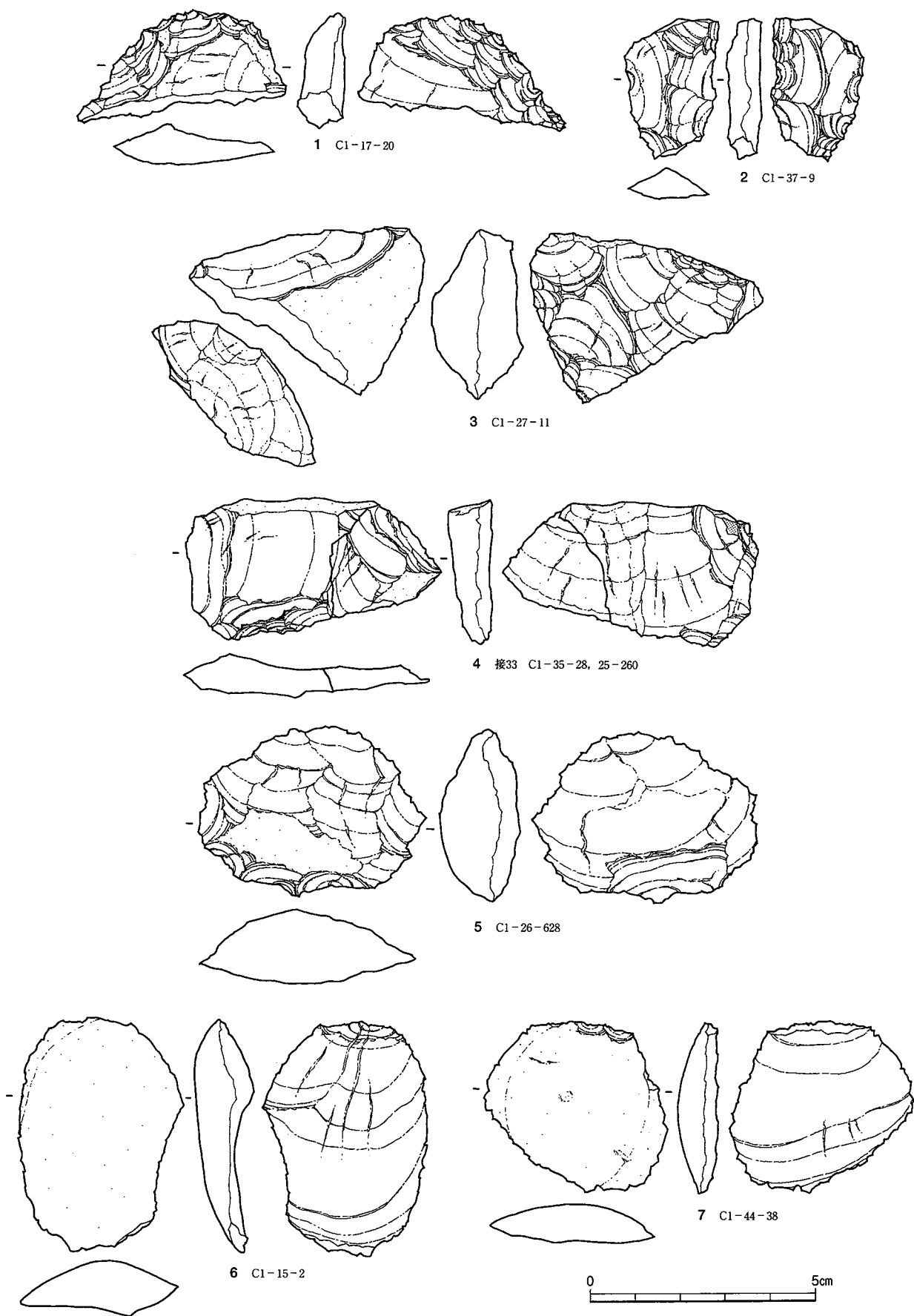
第117图 出土石器·砂岩

凝灰岩 剥片類その他(第116図1~4, 図版59, 第12・13表) 乳白色を呈し, やや粒の粗い感じのするもの多く見られる。1は背面片側に礫面をわずかに残し, 打面側が折れてしまったやや厚みのある剥片である。背面は上方向からの剥離面1面と礫面とで構成されている。主剥離面の先端部側にはわずかに小剥離面を残すが意図的に調整されたものかどうかは不明である。全長2.80cm, 幅3.10cm, 厚み0.70cm, 重量5.94gである。2は横長の小剥片である。背面は礫面をわずかに残し, 左方向からの剥離面1面と上方向からの剥離面1面とで構成されている。縁辺部には微細剥離痕等は認められない。全長1.30cm, 幅1.97cm, 厚み0.60cm, 重量1.33gである。3はやや横長の不整な小剥片である。背面は左横方向から1面, 上方向からの剥離面4面で構成されている。いずれも小規模なものである。縁辺部は全体に薄い微細剥離痕等は認められない。全長1.58cm, 幅1.80cm, 厚み0.25cm, 重量0.61gである。4は横長の小剥片である。背面は上方向からの剥離面1面で構成される。縁辺部は全体に薄い微細剥離痕等は認められない。全長1.30cm, 幅1.50cm, 厚み0.50cm, 重量0.52gである。

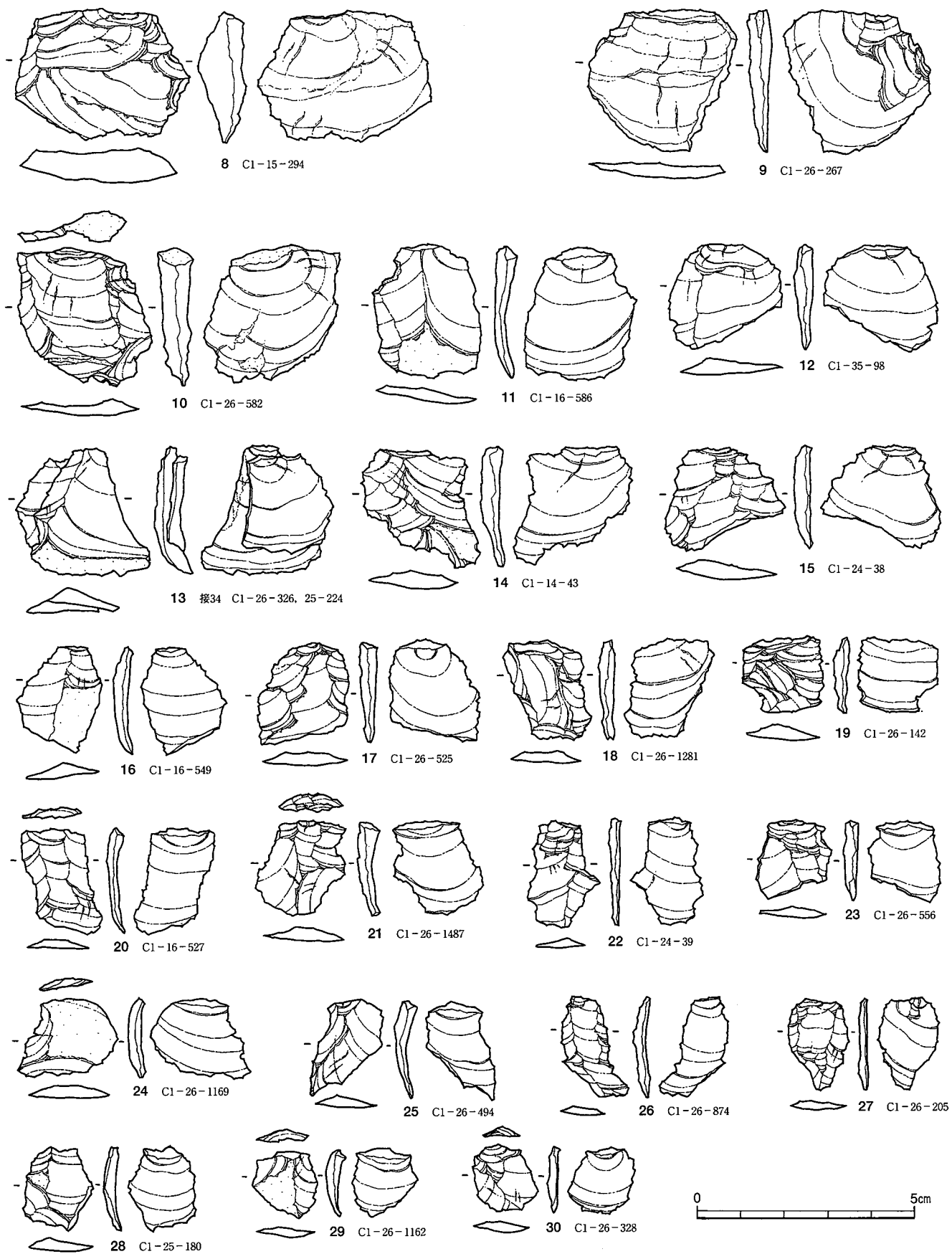
砂岩 剥片類その他(第117図1~17, 図版60, 第12・13表) 粒が比較的粗く薄い真鍮色をしたものが多い。1は接合資料22でやや大型の幅広の剥片の背面に右横方向から剥がされた2枚の小剥片が接合したものである。接合資料の状況から打面転移を行いながら比較的幅広の短い剥片が剥がされたものと思われる。接合資料32は全長4.20cm, 幅4.80cm, 厚み1.73cm, 重量35.81gである。2はやや不整の縦長の剥片である。背面は右横方向から2面, 上方向から2面の剥離面で構成されている。縁辺部は比較的薄くて鋭いが微細剥離痕等は認められない。全長4.10cm, 幅2.98cm, 厚み0.55cm, 重量7.39gである。3は大形の横長の剥片を素材として縁辺部を中心に調整している尖頭器の未製品とでもいうべきものである。背面側はかなりの部分が礫面で覆われている。裏面は左側縁辺部が比較的大きめの剥離で調整されている。全体的には未調整部分が多く残されており石器として完成されられずに放棄されたと思われる。全長6.43cm, 幅3.85cm, 厚み0.75cm, 重量37.02gである。4は比較的整った縦長の剥片である。背面は上方向からの剥離面3面で構成されている。縁辺部は薄く鋭いが微細剥離痕等は認められない。全長2.90cm, 幅1.95cm, 厚み0.50cm, 重量2.98gである。5はやや左に偏った縦長の剥片である。背面は上方向からの剥離面3面で構成されている。縁辺部は薄く鋭いが微細剥離痕等は認められない。全長3.03cm, 幅1.90cm, 厚み0.40cm, 重量2.52gである。6はやや縦長の剥片である。背面は上からの剥離面5面で構成されている。縁辺部は薄く鋭いが微細剥離痕等は認められない。全長2.27cm, 幅2.10cm, 厚み0.35cm, 重量1.89gである。7はやや縦長の剥片である。背面は左横方向から1面, 上から2面の剥離面で構成されている。縁辺部は薄く鋭いが微細剥離痕等は認められない。全長2.37cm, 幅1.90cm, 厚み0.30cm, 重量1.31gである。8は方形に近い小剥片である。背面は上からの剥離面2面と先端部近くの原礫面で構成されている。縁辺部は薄く鋭いが微細剥離痕等は認められない。全長1.88cm, 幅2.00cm, 厚み0.40cm, 重量1.62gである。9~14にかけての小剥片はそれ自体の加工は認められないが小さな石器製作のための素材である可能性もある。9は方形に近い小剥片である。背面は左横方向から1面, 上方向から2面の剥離面で構成されている。縁辺部は薄く鋭いが微細剥離痕等は認められない。全長1.85cm, 幅1.75cm, 厚み0.35cm, 重量1.49gである。10は方形に近い小剥片である。背面は上からの3面の剥離面と先端部側の礫面とで構成されている。全長1.82cm, 幅1.70cm, 厚み0.29cm, 重量0.90gである。11はやや先細りの方形に近い小剥片である。背面は上からの2面の剥離面で構成されている。縁辺部は全体に薄い微細剥離痕等は認められない。全長1.90cm, 幅1.65cm, 厚み0.45cm,

重量1.19 gである。12は左に偏ったやや不整な碎片である。背面は上方向の剥離面3面と下方向の剥離面1面で構成されている。打面側は細かな調整が残されているが、おそらくは石核調整されたときのものと思われる。縁辺部は全体に薄い微細剥離痕等は認められない。全長1.67cm、幅1.45cm、厚み0.23cm、重量0.72 gである。13は比較的整った縦長の碎片である。背面は上からの剥離面2面で構成されており、小形の刃器状剥片としてもよいかもしれない。縁辺部等には微細剥離痕等は認められない。全長2.10cm、幅1.15cm、厚み0.23cm、重量0.65 gである。14は縦長の刃器状の碎片で先端部側の折断されている。13と同様に小形の刃器状剥片の一部である可能性が高い。背面は上からの剥離面2面で構成されている。折断している以外は微細剥離痕等は認められない。全長1.58cm、幅0.98cm、厚み0.28cm、重量0.56 gである。15は接合資料20で3個の折断された剥片が接合するものであるが、もともと1個のやや不整な縦長剥片になる。背面は上から3面、左横方向から1面、右横方向から1面の剥離面で構成されている。折断された個々の小剥片は8～14と大きさが類似しており、小形の石器の素材として使用可能である。全長3.70cm、幅2.30cm、厚み0.50cm、重量4.50 gである。16は接合資料21で2個の折断された剥片と碎片が接合するものであるが、もともと1個のやや不整な縦長の剥片になる。背面は上から1面、左横方向から1面、右横方向から1面の剥離面で構成されている。折断された2個の小剥片は15と同様に小形の石器の素材として使用可能である。全長3.10cm、幅1.85cm、厚み0.35cm、重量2.34 gである。17はやや打面部と先端部が広がった撥形のような縦長の剥片である。背面は左右からの大きな剥離面各1面ずつと上からの剥離面2面とで構成されている。縁辺部等には微細剥離痕等は認められない。全長3.50cm、幅2.10cm、厚み0.55cm、重量5.04 gである。

流紋岩 剥片類その他(第118・119図1～30, 図版61・62, 第12・13表) やや薄い灰色がかった硬質感のあるもので白色の縞模様の嵌入するものが多い。1は形状から推測するとやや大形の剥片を使った搔器あるいは削器の欠損品であろうか。剥片の両面を縁辺部に沿ってやや大きめの剥離で調整を行っている。使用している時点で欠損したものであると思われる。全長2.60cm、幅4.10cm、厚み0.90cm、重量7.67 gである。2は尖頭器の破損したものであると思われる。背面は横長の剥片を1面と原礫面で構成されている。裏面は上方向から2面と左方向から2面剥がされている。それらの剥片が剥がされた後、大きく折る様に剥離されていることがわかる。一部焼けている部分が見られる。全長3.10cm、幅2.05cm、厚み0.70cm、重量4.85 gである。4は接合資料33でもともと横長の大型剥片を折断していることが解る資料である。折られた大きな方の剥片は先端部側に比較的連続的な小剥離痕が認められる調整痕のある剥片と思われるものである。背面側は剥片の打面側に原礫面を少し残し、左横方向から2面、右横方向から1面の剥離面で構成されている。全長3.20cm、幅5.50cm、厚み0.90cm、重量17.98 gである。5は厚みのある横長剥片の先端部縁辺部に大きく剥離することで調整している搔器かと思われるものである。背面側には一部原礫面を残す。全長3.80cm、幅5.00cm、厚み1.70cm、重量35.69 gである。6は縦長剥片で背面はほぼ原礫面で覆われている。縁辺部等には微細剥離痕等は認められない。全長5.18cm、幅3.75cm、厚み1.20cm、重量19.97 gである。7はやや横長の剥片で背面はほぼ原礫面で覆われている。縁辺部等には微細剥離痕等は認められない。全長3.80cm、幅3.90cm、厚み0.90cm、重量13.78 gである。8はやや横長の剥片である。背面は上方向から4面の剥離面で構成されている。縁辺部は薄い微細剥離痕等は認められない。全長3.00cm、幅4.00cm、厚み0.80cm、重量12.57 gである。9はやや不整な縦長の剥片である。背面は上方向からの剥離面1面で構成されている。主剥離面側に右横方向からの剥離痕が大きく残されているが、後から意図的に剥がされたものではないように思われ

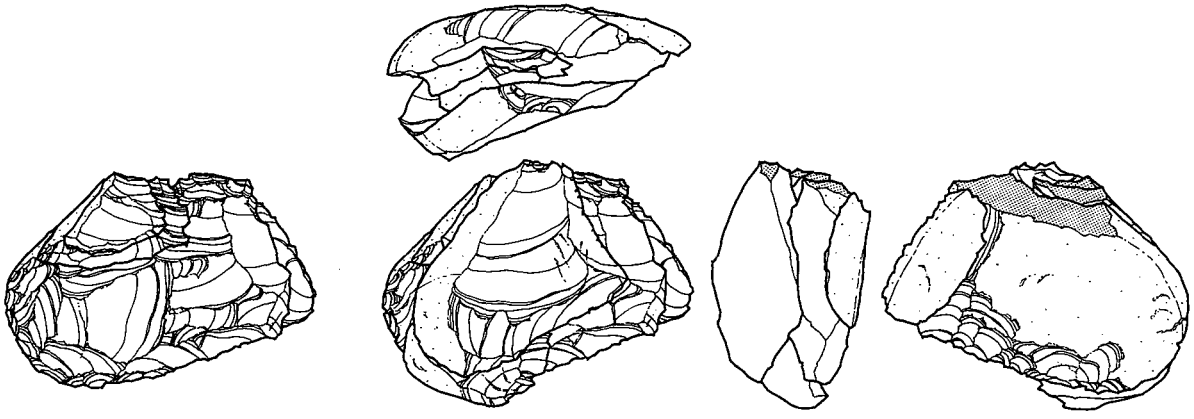


第118图 出土石器·流紋岩(1)

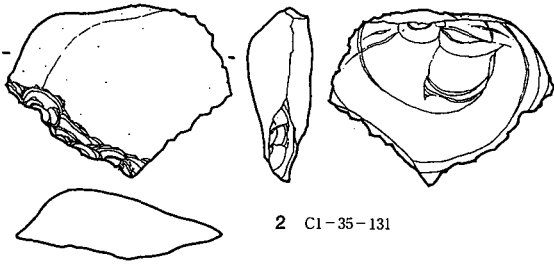
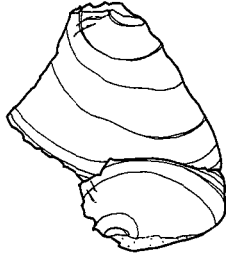


第119图 出土石器·流纹岩(2)

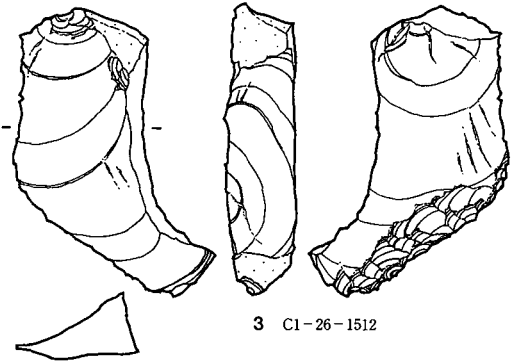
る。縁辺部は薄いが微細剥離痕等は認められない。全長3.30cm, 幅3.20cm, 厚み0.37cm, 重量5.93gである。10はやや不整な縦長の剥片である。打面はほぼ礫面で覆われている。背面は上方向から3面, 右横方向から1面の剥離面で構成されている。縁辺部は薄いが微細剥離痕等は認められない。全長3.20cm, 幅2.80cm, 厚み0.43cm, 重量5.68gである。11は比較的整った縦長の剥片である。背面は先端部側に原礫面を残し, 上からの剥離面3面で構成されている。打面は原礫面なのであまり大きくない礫から剥がされたものと思われる。縁辺部は全体に薄いが微細剥離痕等は認められない。全長3.07cm, 幅2.40cm, 厚み0.30cm, 重量2.81gである。12はやや片側の長くなった剥片である。背面は上方向からの剥離面3面で構成されている。縁辺部は全体に薄いが微細剥離痕等は認められない。全長2.40cm, 幅2.60cm, 厚み0.40cm, 重量2.33gである。13は接合資料34で2枚の縦長剥片が接合した状態のものである。外側の縦長剥片の背面は先端部側に原礫面を残し, 上からの剥離面2面と左横方向からの剥離面1面で構成されている。内側の剥片は連続的に剥がされたものでやや小さいものである。14はやや右側に長く偏った縦長の剥片である。背面は先端部の一部に原礫面を残し, 左斜め横方向から2面, 上から1面の剥離面で構成されている。縁辺部は薄いが微細剥離痕等は認められない。全長2.80cm, 幅2.85cm, 厚み0.45cm, 重量3.01gである。15はやや不整な台形に近い形状の剥片である。背面は上から5面程の剥離面で構成されている。縁辺部は薄いが微細剥離痕等は認められない。全長2.40cm, 幅2.70cm, 厚み0.40cm, 重量2.52gである。以下16~30まではいわゆる小剥片・碎片の部類に属するものと思われるが, 小形の石器の素材となりうるものである。16は先端部が折断したやや縦長の剥片である。背面は右側に原礫面を大きく残し, 上からの剥離面2面で構成されている。縁辺部は薄いが微細剥離痕等は認められない。全長2.35cm, 幅1.50cm, 厚み0.25cm, 重量2.10gである。17はやや左に偏った縦長の剥片である。背面は上からの剥離面4面で構成されている。打面は細かく調整されている。縁辺部は比較的薄いが微細剥離痕等は認められない。全長2.30cm, 幅2.10cm, 厚み0.35cm, 重量2.09gである。18はやや右に偏った縦長の剥片である。背面は上から2面, 左横方向から2面の剥離面で構成されている。縁辺部は全体に薄くやや刃こぼれが観察されるが調整痕とは思われない。全長2.30cm, 幅1.80cm, 厚み0.30cm, 重量1.27gである。19はやや方形に近い剥片である。背面は上方向から2面, 左横方向から1面の剥離面で構成されている。縁辺部は薄いが微細剥離痕等は認められない。全長1.78cm, 幅1.87cm, 厚み0.35cm, 重量1.07gである。20はやや右に偏った縦長の剥片である。背面は上からの剥離面3面で構成されている。打面は折断面であるが, おそらく剥片剥離時に折断したと思われる。縁辺部は薄いが微細剥離痕等は認められない。全長2.42cm, 幅1.50cm, 厚み0.20cm, 重量0.96gである。21は縦長剥片である。打面部には細かい調整が見られる。背面は上から3面, 右から1面の剥離面で構成されている。縁辺部は薄いが微細剥離痕等は認められない。全長2.18cm, 幅2.00cm, 厚み0.35cm, 重量1.50gである。22はやや不整な縦長の剥片である。背面は上からの剥離面2面で構成されている。縁辺部は薄いが微細剥離痕等は認められない。全長2.48cm, 幅1.60cm, 厚み0.22cm, 重量0.89gである。23は先端部がやや広がった剥片である。先端部は若干の折断面を有する。意図的なものではないかもしれない。背面は上から3面以上の剥離面で構成されている。縁辺部は薄いが微細剥離痕等は認められない。全長1.33cm, 幅1.60cm, 厚み0.30cm, 重量0.96gである。24はやや縁辺部が丸みのある不整形な剥片である。背面は左横方向から1面と下方向から1面の剥離面と原礫面とで構成されている。原礫面は大きく残されている。縁辺部は多少の剥離痕が認められるものの調整痕とは思われない。全長1.83cm, 幅2.05cm, 厚み0.30cm, 重量1.57gである。25はやや左斜めに傾斜した縦長の碎片である。先端部はやや尖る様な形状となっている。背面は上方向から1面, 右



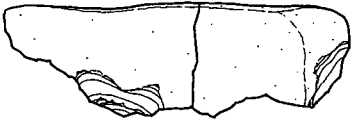
1 接25 C1-16-109·629, 26-517·1344, 36-155



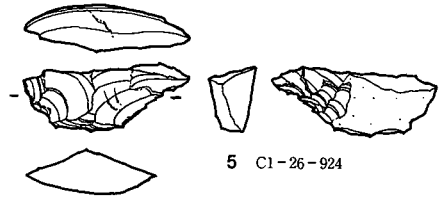
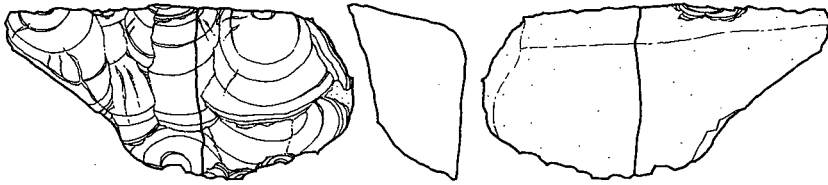
2 C1-35-131



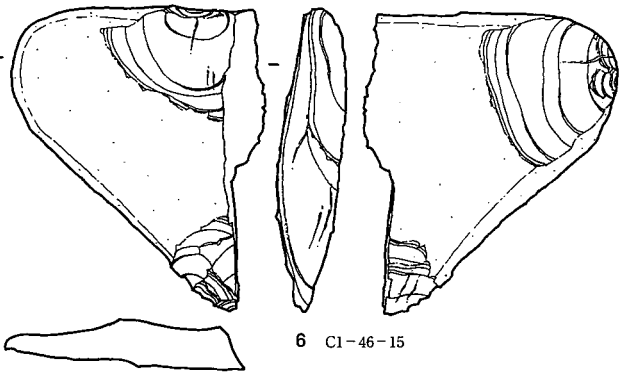
3 C1-26-1512



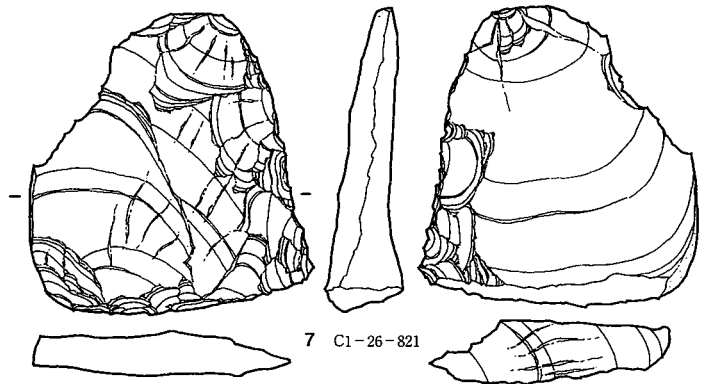
4 接24 C1-26-878, 25-232



5 C1-26-924



6 C1-46-15

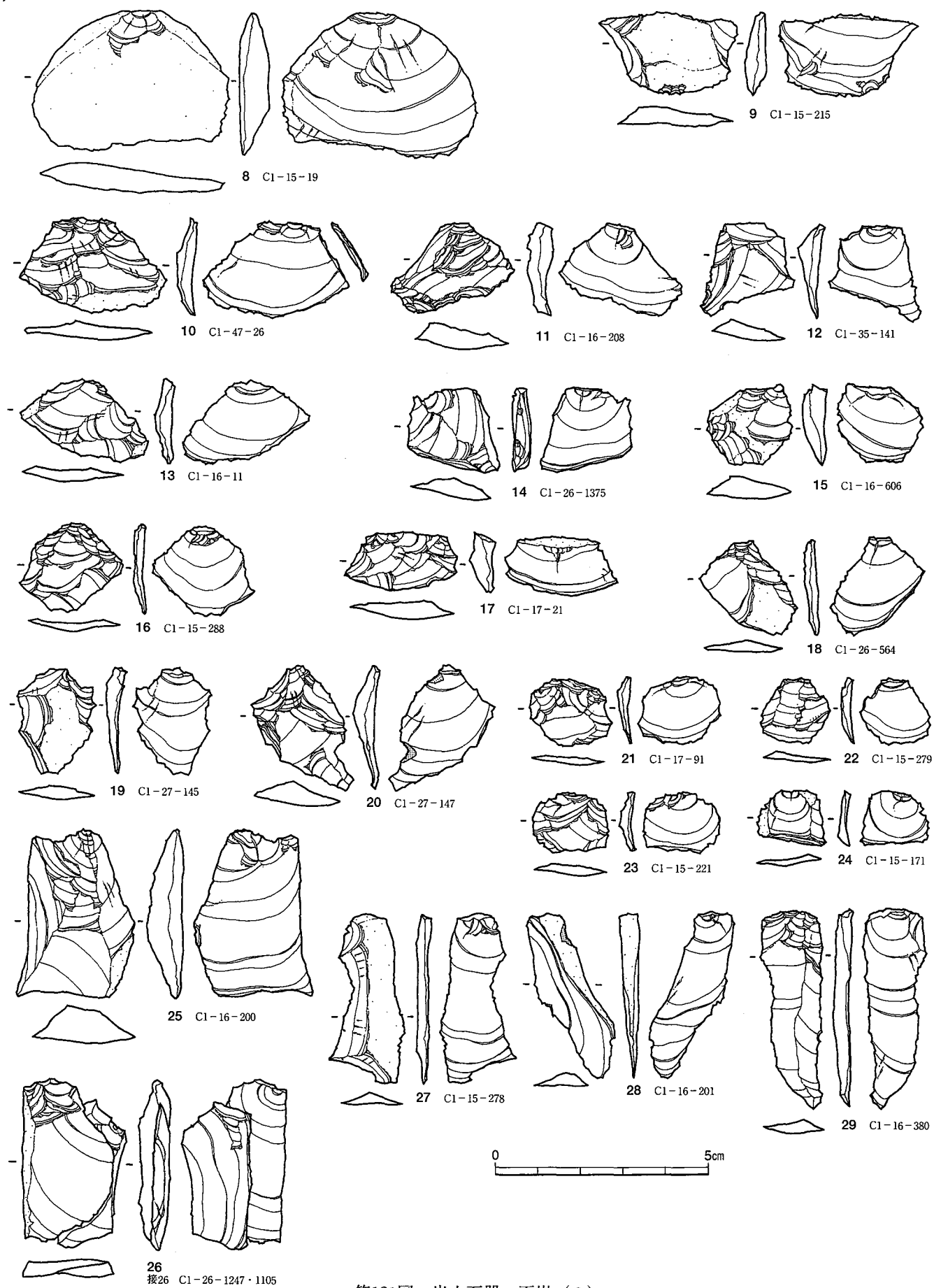


7 C1-26-821

第120图 出土石器·頁岩(1)

斜め上方向から1面、左横方向から1面の3面で構成されている。縁辺部は全体に鋭いものの剥離痕等は認められない。全長2.20cm、幅1.50cm、厚み0.30cm、重量1.18gである。26は先端部が右に緩やかに曲がった縦長の碎片である。背面は上方向から3面の剥離面で構成されている。縁辺部は全体に鋭いものの剥離痕等は認められない。全長2.30cm、幅1.10cm、厚み0.20cm、重量0.66gである。27は先細りの逆三角形に近い形状の縦長の碎片である。背面は上方向からの剥離面3面で構成されている。縁辺部は多少の剥離痕が認められるものの調整痕とは思われない。全長2.10cm、幅1.40cm、厚み0.20cm、重量0.53gである。28はやや右側縁部が角張った碎片である。背面は上方向から2面、左横方向から1面、下方向から1面の剥離面で構成されている。縁辺部はやや凹凸が見られるものの調整痕等は認められない。全長1.92cm、幅1.55cm、厚み0.30cm、重量1.04gである。29は先端部の細くなる碎片である。背面は左横方向から1面、上方向から1面の剥離面と原礫面とで構成されている。縁辺部は全体に鋭いものの剥離痕等は認められない。全長1.83cm、幅2.05cm、厚み0.30cm、重量1.57gである。30はやや不整な碎片で、打面は調整されている。背面は上方向から1面、左斜め上方向から1面の剥離面とで構成されている。縁辺部は全体に鋭いものの剥離痕等は認められない。全長1.55cm、幅1.40cm、厚み0.27cm、重量0.64gである。

頁岩 剥片類その他(第120・121図1～29, 図版63・64, 第12・13表) やや濃青色～黒色でガラス質の強く硬質なものが多く、1は接合資料25で背面の原礫面を残す石核と大小6点の剥片で構成される。剥片は楕円礫のどちらかという長軸に沿って縁辺部側から反対側に向かって剥がされている。ただ石核上に残されている剥離面から想像すると打面転移を明らかに行っている形跡があるため剥片を作出するためなのか石器を作る途中であるかは判断し兼ねる。尖頭器のような両面石器を製作しようとしていたのかもしれない。2は削器と思われる。背面は殆ど原礫面で覆われている。円礫を打ち欠いて先端部の片側縁辺部に沿って比較的丁寧な調整を施している。形状的には石錐の様ではあるが反対側の調整が行われていないため違うであろう。全長2.86cm、幅3.70cm、厚み1.05cm、重量11.10gである。3は搔器と思われ、先端部にかけて緩やかに右に曲がる比較的厚みのある縦長の剥片を素材にしている。調整は主剥離面側の側縁部下端に沿って連続的に小剥離が施されている。全長4.73cm、幅2.25cm、厚み1.10cm、重量12.70gである。4は接合資料24で1つの石核になる。楕円礫の長軸縁辺部を打撃面として両極打撃による剥片を剥離しているもので背面部分はほぼ原礫面で覆われている。2分割されたのはおそらく剥片剥離を行っている時点であり意識的に行われたためではないと思われる。全長2.90cm、幅5.70cm、厚み1.90cm、重量29.74gである。5は背面側に原礫面を残す折断した剥片の片側に調整を施しており、調整痕のある剥片と思われる。全長1.20cm、幅2.75cm、厚み0.75cm、重量2.04gである。6は扁平楕円礫を用いて周辺部から剥離を行っている石核である。両極打撃で剥離を行った際に中央部分で半裁されてしまったようである。大部分は原礫面に覆われている。全長5.00cm、幅4.10cm、厚み0.70cm、重量22.26gである。7は大形の縦長剥片である。先端部側は折断されている。縁辺部の一部に原礫面を残すところからあまり大きな礫ではなかったことが想像される。右側側縁部に比較的大きな面的剥離が複数見られるところから両面調整の尖頭器を意図して作業を行おうとしていた形跡がうかがわれるが、折断したため断念したのかもしれない。全長4.95cm、幅4.55cm、厚み0.77cm、重量22.98gである。8は楕円礫の外皮部を剥ぎ取った横広の剥片である。背面は打撃時に剥離した剥離面を除きほぼ原礫面で覆われている。先端部側の縁辺部は薄く鋭いが、微細剥離痕等は認められない。全長3.35cm、幅4.60cm、厚み0.60cm、重量11.39gである。9は逆台形に近い形の剥片である。背面

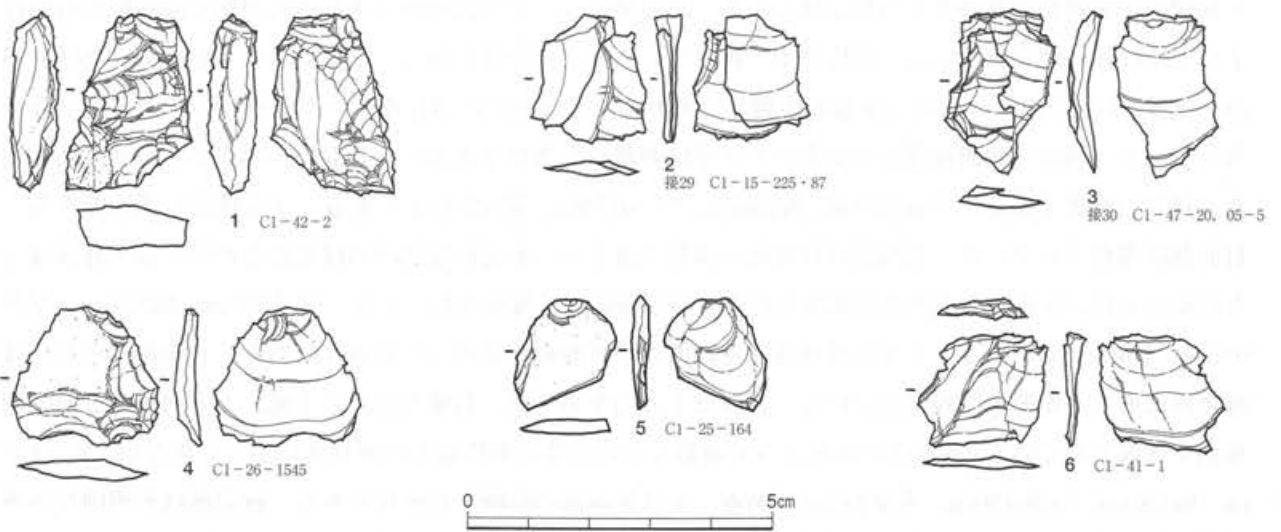
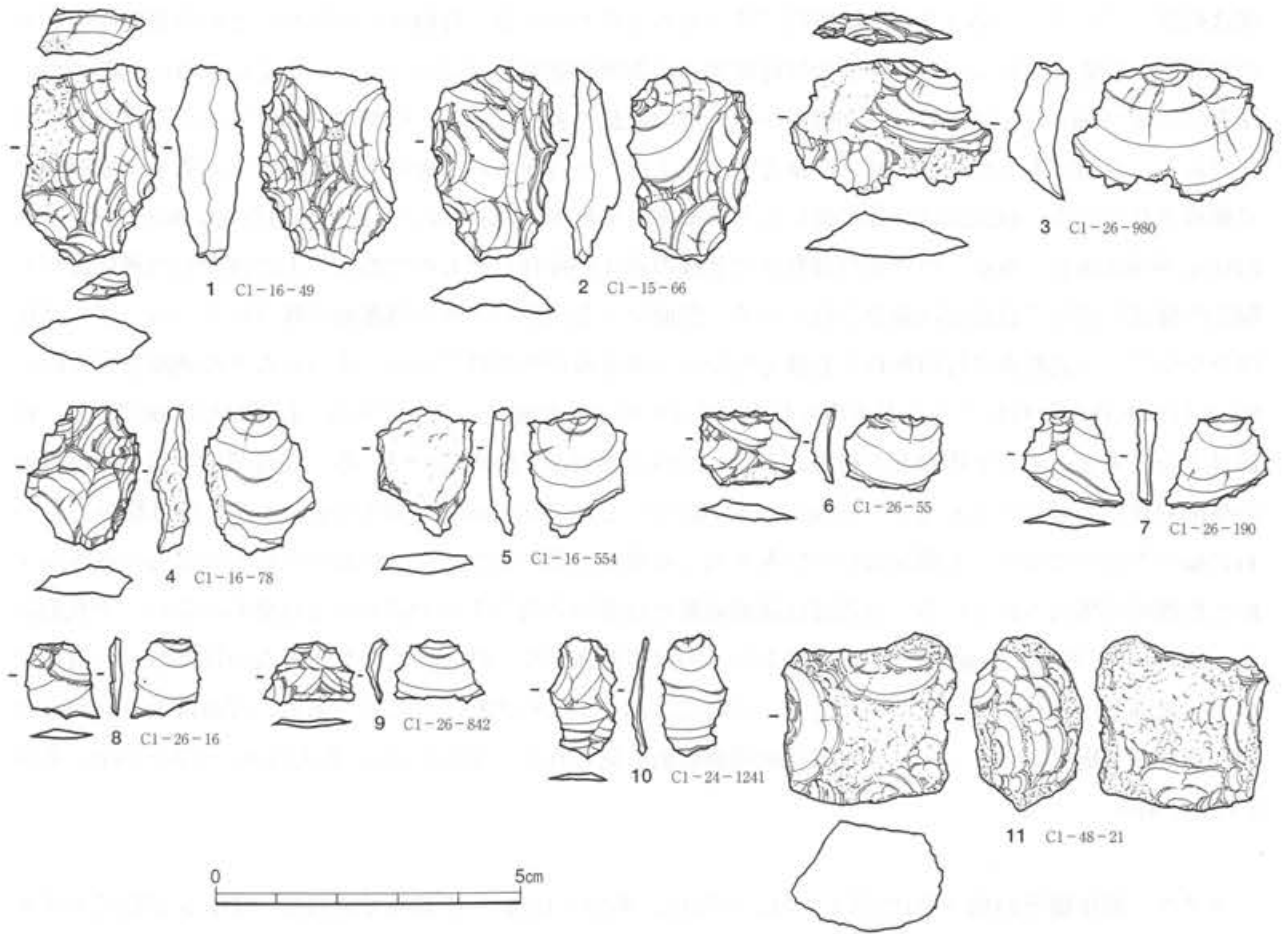


第121图 出土石器·頁岩(2)

は上から1面、左横方向から2面と大きく残された原礫面とで構成される。先端部側の縁辺部には若干の剥離痕も残されているものの調整痕とは思われない。全長1.95cm、幅3.30cm、厚み0.45cm、重量3.15gである。10は横広の台形状の剥片である。先端部に縁辺部付近に原礫面を少し残す。背面は上からの剥離面2面と原礫面で構成されている。縁辺部は微細な剥離痕は認められるものの調整痕とは思われない。全長2.30cm、幅3.50cm、厚み0.40cm、重量2.66gである。11はやや丸みのある不整な五角形に近い横広の剥片である。背面は上からの剥離面2面で構成されている。先端部の縁辺部には比較的大きめの剥離痕が残されている。調整痕と思われる。全長2.20cm、幅2.60cm、厚み0.55cm、重量2.62gである。12はやや左側縁部の長い不整台形な剥片である。背面は上方向からの剥離面3面と左横方向の剥離面2面で構成されている。先端部の縁辺は薄くやや刃こぼれが認められるが使用痕かどうかは不明である。全長2.22cm、幅2.00cm、厚み0.30cm、重量1.58gである。13は三角形に近い横長の丸みのある剥片である。背面は上方向から3面と右斜め上方向から1面の剥離面と若干の原礫面とで構成されている。縁辺部は全体に薄い微細剥離痕等は認められない。全長2.00cm、幅2.70cm、厚み0.30cm、重量1.65gである。14は右側がやや長い方形の剥片である。背面は左横方向から2面の剥離面で構成されている。先端部右側に若干の小剥離が認められるが、剥片剥離時のものと思われる。全長2.00cm、幅2.10cm、厚み0.50cm、重量2.41gである。15は打面部と先端部がやや狭まった丸みのある小剥片である。背面は上方向から2面と左横方向から2面の剥離面と中程に残された原礫面とで構成されている。縁辺部は全体に薄い微細剥離痕等は認められない。全長1.90cm、幅2.00cm、厚み0.53cm、重量2.14gである。16はやや不整な菱形に近い剥片である。打面部は丁寧な調整面が残されている。背面は上方向から3面の剥離面と右上斜め方向からの剥離面1面とで構成されている。縁辺部は全体に薄い微細剥離痕等は認められない。全長2.15cm、幅2.20cm、厚み0.22cm、重量0.75gである。17は横広の剥片である。打面部は原礫面である。背面は左斜め上方向から2面と上方向から1面の剥離面で構成されている。縁辺部は全体に薄い微細剥離痕等は認められない。全長1.40cm、幅2.50cm、厚み0.48cm、重量1.94gである。18は打面部が細く大きく右に傾斜した縦長の剥片である。打面部は細かい調整が施されている。背面は上からの剥離面3面と先端部側に大きく残された原礫面とで構成されている。縁辺部は全体に薄い微細剥離痕等は認められない。全長2.30cm、幅1.93cm、厚み0.30cm、重量1.39gである。19はやや六角形の不整な縦長剥片である。背面は上方向から2面と左横方向から2面の剥離面と大きく残された原礫面とで構成されている。縁辺部には不規則な微細剥離痕も認められるが、意図的な調整痕かどうかは定かではない。全長2.50cm、幅1.80cm、厚み0.33cm、重量1.31gである。20は先細りの縦長の不整な剥片である。背面には上方向から複数に剥離面が残されている。縁辺部等には微細剥離痕等は認められない。全長2.95cm、幅2.20cm、厚み0.57cm、重量2.22gである。21は丸味のある小剥片である。打面部は調整痕が認められる。背面は上方向から2面の剥離面で構成されている。先端部の縁辺部には若干の剥離痕が認められるが、剥片剥離時のものである可能性が高い。全長1.40cm、幅2.50cm、厚み0.48cm、重量1.94gである。22は打面がやや狭い不整な五角形をした小剥片である。背面は上方向から5面の剥離面で構成されている。縁辺部は全体に薄く先端部側には微細剥離痕は若干認められるものの調整痕かどうかは定かではない。全長1.68cm、幅1.60cm、厚み0.20cm、重量0.67gである。23はやや横広の小剥片である。先端部は折断しているものの剥片剥離時に伴うものと考えられる。打面側は若干調整しているため小剥離痕が見られる。背面は上方向から3面と右横方向から1面の剥離面で構成されている。側縁の縁辺部等には微細剥離痕等は認められない。全長1.40cm、幅1.80cm、厚み0.30cm、重量0.68gである。24はほぼ台形の小剥片である。先端

部は折断しているが、やはり剥片剥離時に伴うものと考えられる。背面は上方向から2面の剥離面と若干の原礫面とで構成されている。側縁の縁辺部等には微細剥離痕等は認められない。全長1.32cm、幅1.60cm、厚み0.20cm、重量0.37gである。25は幅のある大形の縦長の剥片である。やや中央部分でふくらみを増す形状である。背面は上方向から2面、左横方向から1面、下方向から1面の剥離面と右下の若干の原礫面とで構成されている。縁辺部は全体に鋭いものの微細剥離痕等は認められない。全長4.00cm、幅2.53cm、厚み0.80cm、重量8.30gである。26は接合資料26で2枚の剥片が接合したものである。上に接合した剥片はやや幅広い縦長の剥片で打面部は調整されている。背面は上方向から1面の剥離面が残されている。下の剥片はやや小さく主剥離面は打面転移で右横方向からの剥離面が残されている。すなわち上の剥離を行う際に90°の打面転移が行われたことが認められる。27はやや歪んだ縦長の剥片である。打面は原礫面である。背面は半分以上を占める原礫面と左横方向から3面の剥離面とで構成されている。縁辺部は非常に薄いものの微細剥離痕等は認められない。全長4.00cm、幅1.70cm、厚み0.20cm、重量1.83gである。28は縦長でやや右に偏った剥片である。右側縁はやや厚みを残し原礫面で覆われている。背面は左横方向からの剥離面1面と原礫面で構成されている。縁辺部は微細剥離痕は認められるものの調整痕とは思われない。全長3.85cm、幅1.30cm、厚み0.30cm、重量1.79gである。29は刃器状剥片と呼んでも差し支えないほど整った剥片である。先端部は細長くすぼむ形状である。打面部はあらかじめ調整された面である。背面は上方向から2面の剥離面と構成されている。縁辺部は微細剥離痕も見られる。全長4.63cm、幅1.45cm、厚み0.35cm、重量2.34gである。

メノウ 剥片類その他(第122図1~11, 図版62, 第12・13表) 半透明で乳白色~オレンジ色でガラス質の強く硬質なものが多い。1は有舌尖頭器の半欠品である。先端部と舌部が欠損している。舌部の付近は比較的細かい調整で両面とも仕上げられている。胴部背面側の右側は大きい面的調整が施されているが、左側縁部は原礫面がそのまま使用されている。裏面側については比較的大きな面的調整で両側縁から中程まで丁寧に仕上げられている。製作途中で折れてしまった可能性もある。全長3.30cm、幅2.15cm、厚み0.95cm、重量9.30gである。2は尖頭器の未製品と思われる。裏面には剥片を剥いだ時点での打面部の一部を残している。両面の両側縁部をやや大きく丁寧に剥離して調整を進めているものの中程にも旧剥離面を大きく残したままである。全長3.20cm、幅2.00cm、厚み0.50cm、重量5.43gである。3は横長の剥片である。打面部は調整されている。先端部は原礫面の部分で薄くやや不連続な凹凸の縁辺部を形成する。背面は上方向から1面、左横方向1面の剥離面と約半分の原礫面とで構成されている。全長2.25cm、幅3.40cm、厚み0.65cm、重量5.52gである。4は右側縁部に連続的な小剥離痕が認められる剥片である。右側縁部の裏には縁辺部に沿って原礫面が残されている。背面は上方向から1面、右横方向から1面、下方向から2面の剥離面と構成されている。剥離面の状況から尖頭器などの石器の製作途上の調整剥片かもしれない。全長2.40cm、幅1.80cm、厚み0.50cm、重量2.83gである。5は先端部の折断した碎片である。縁辺部は不規則な小剥離面が多く見られるものの当初の剥離に伴うものと考えられる。背面はほぼ原礫面で覆われているため剥片剥離作業の初期の段階の剥片と思われる。全長2.13cm、幅1.60cm、厚み0.35cm、重量1.45gである。6は横広の方形の碎片である。打面部は細かな調整痕が見られる。先端部に一部原礫面を残している。背面は上方向から2面、左横方向から1面の剥離面と原礫面とで構成されている。両側縁部は薄く鋭い刃部を形成するものの微細剥離痕等の使用痕などは見られない。全長1.37cm、幅1.63cm、厚み0.30cm、重量0.77gであ



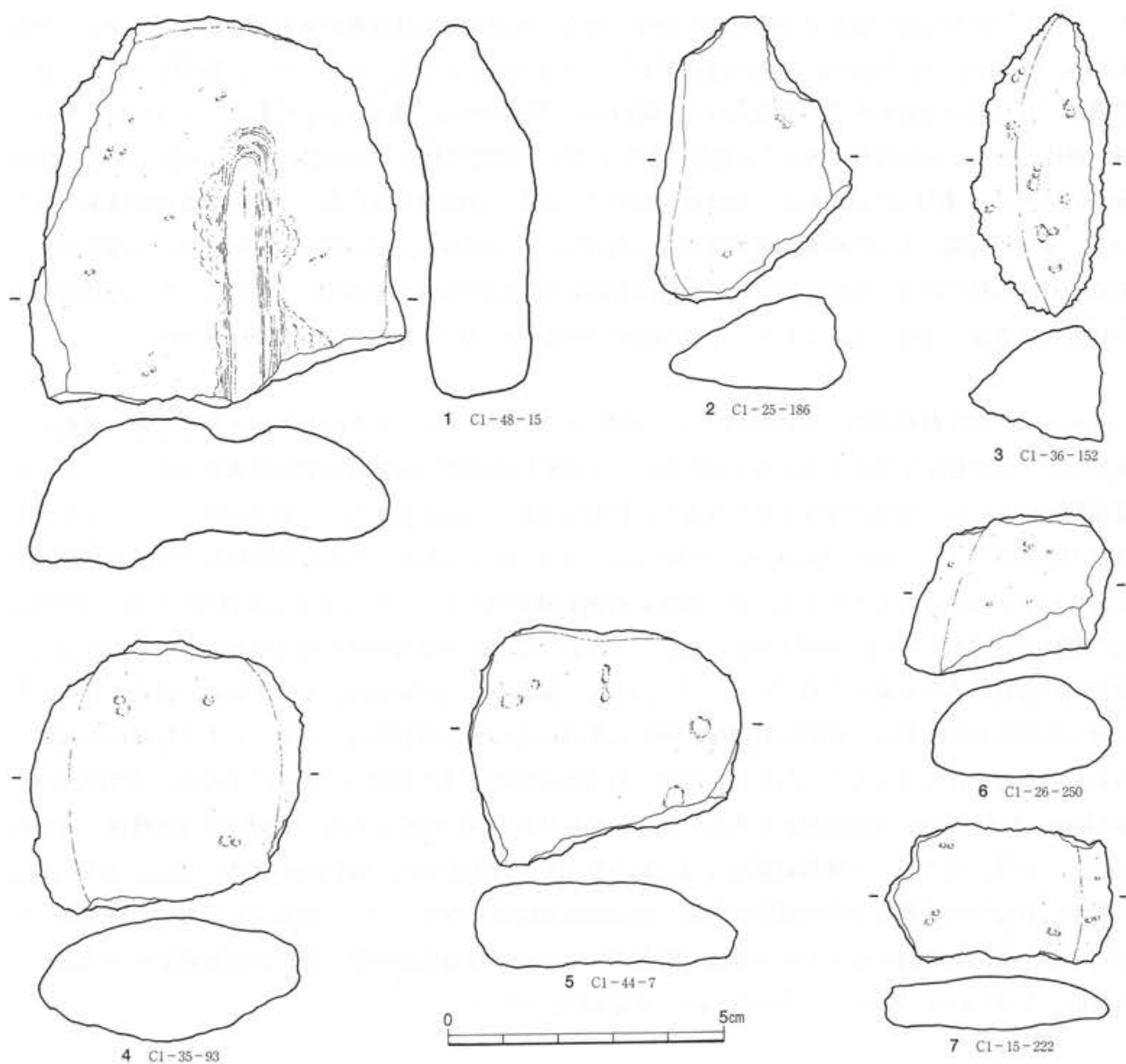
第122図 出土石器（上段メノウ・下段チャート）

る。7はやや台形に近い幅広で不整形な小剥片である。縁辺部等には微細剥離痕等は認められない。全長1.60cm, 幅1.65cm, 厚み0.30cm, 重量0.81gである。8は小剥片である。非常に薄く, 石器等の製作に伴って剥離されたものと思われる。全長1.30cm, 幅1.10cm, 厚み0.20cm, 重量0.33gである。9はやや三角形に近い碎片である。8と同様に薄く, 石器等の製作に伴って剥離されたものと思われる。全長1.05cm, 幅1.50cm, 厚み0.17cm, 重量0.25gである。10は縦長の剥片である。背面は上方向から4面の剥離面で構成されている。縁辺部は鋭いものの微細剥離痕等は見られない。全長2.00cm, 幅1.07cm, 厚み0.15cm, 重量0.40gである。11は石核である。円礫を使用して周辺部を叩いて幅広の小剥片を剥ぎ取っている。残った状況からそれ程大きな礫ではなさそうである。全長2.85cm, 幅2.90cm, 厚み1.75cm, 重量20.40gである。

チャート 剥片類その他 (第122図1~6, 図版59, 第12・13表) 半透明のガラス質で青色~褐色まで様々の色で縞模様を呈するものが多く見られる。1は横長の剥片の両側縁に細かな調整を施している。先端部側は厚みがあり楔形石器等と思われるが, 折断もされているためどのような形の石器にしようとしたかは不明である。全長2.98cm, 幅1.95cm, 厚み0.75cm, 重量5.77gである。2は接合資料29で縦長のやや不整な剥片同士が接合したものである。90°に近い打面転移が行われていたことを示す資料である。全長2.13cm, 幅1.90cm, 厚み0.25cm, 重量1.46gである。3は接合資料30で縦長の剥片同士が接合したものである。連続的に縦長の剥片が剥がされている。全長2.63cm, 幅1.60cm, 厚み0.32cm, 重量1.60gである。4は台形に近い形状の剥片である。背面の右側縁にやや大きめの連続的な調整が見られる。大きく原礫面を残す。何らかの石器を作ろうと考えられたものと思われるが途中で放棄されたものかもしれない。全長2.28cm, 幅2.40cm, 厚み0.35cm, 重量2.22gである。5はやや左側縁が長い碎片である。背面はほぼ原礫面で覆われている。全体に薄く鋭いが微細剥離痕等は認められない。全長1.80cm, 幅1.50cm, 厚み0.20cm, 重量0.89gである。6はやや不整な方形の剥片である。打面は比較的調整されている。背面は左横方向から1面, 下方向から1面, 上方向から1面の剥離面で構成されている。縁辺部は全体に薄いが微細剥離痕等は認められない。全長1.90cm, 幅2.00cm, 厚み0.23cm, 重量1.12gである。

軽石 矢柄研磨器 (第123図1~7, 図版65, 第12・13表) 1は軽石製の矢柄研磨器である。中央部に矢柄を研磨した時に出来た磨滅した棒状の溝が見られる。本来はあと半分のものがあったと思われる。2~7については同じ用途で使われたと思われる石材の一部であろう。

角閃石, 緑泥片岩 搔器, 磨製石斧 (第124図1~4, 図版65, 第12・13表) 1は角閃石製の大型の礫を打ち欠いた横長の礫片である。全体に分厚く先端部の縁辺沿いに連続的なやや大きめの調整を施し, 刃部としている。側縁及び打面部側は殆ど礫面で覆われている。全長5.70cm, 幅11.30cm, 厚み2.17cm, 重量132.61gである。2は緑泥片岩製の磨製石斧の刃部破片である。表裏ともに良く磨いて刃部を作り出している。全体にやや厚みがある。3は緑泥片岩製の磨製石斧の胴部破片が2点で接合したものである。2と同じ石材ではあるが同一個体であるかは不明である。4も同様である。これらは横長の剥片であるため意図的に剥がされたものと思われるが, 石斧の刃部再生のため剥がされたかあるいは副次的に小さな石器を作るために剥がされたものと思われる。

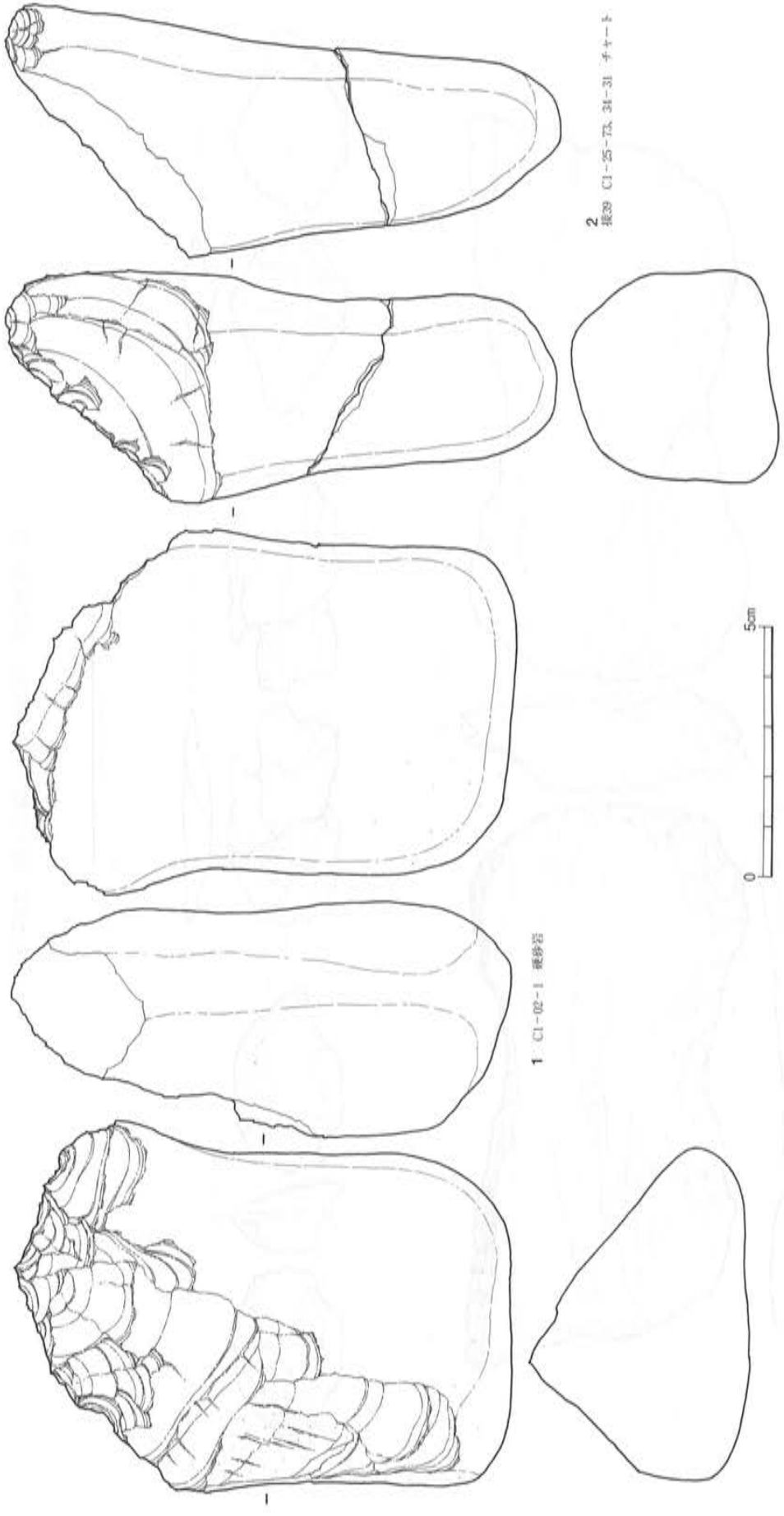


第123図 出土石器・軽石（矢柄研磨器）

硬砂岩、チャート、石英 礫器、石核、磨石、敲石等（第125～130図1～19、図版66～69、第12・13表）
 1は硬砂岩製の礫器である。やや分厚い隅丸方形の礫の片側に大きい剥離で調整をおこない刃部を作り出している。刃部の縁辺にはより細かい調整が施されている。全長10.00cm、幅6.90cm、厚み4.45cm、重量425.00gである。2は接合資料39である。チャート製の礫器と思われる。大きな剥離面を再利用して刃部としている。刃部にはより細かな調整を施し仕上げている。石核として転用した可能性も考えられる。全長11.10cm、幅4.60cm、厚み3.95cm、重量261.74gである。3はチャート製の礫の一方を打ち欠いたもので石核として使用し始めた段階のものである。基本的に礫の平らな部分を打撃面として使用して幅広の剥片を剥ぎ取っていくものと思われる。全長11.05cm、幅4.86cm、厚み5.20cm、重量385.50gである。4は接合資料36で大形の石英の円礫を利用した石核と剥がされた外皮の付いた剥片類である。おおよそ1/3近くは接合しないため外に持ち出したかこの部分を持ち込んだかどちらかであろう。全長12.58cm、幅10.80cm、厚み7.20cm、



第124图 出土石器（上段角閃石，下段綠泥片岩）



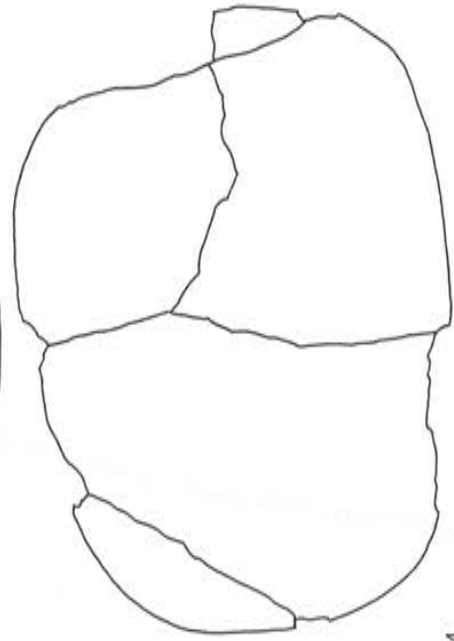
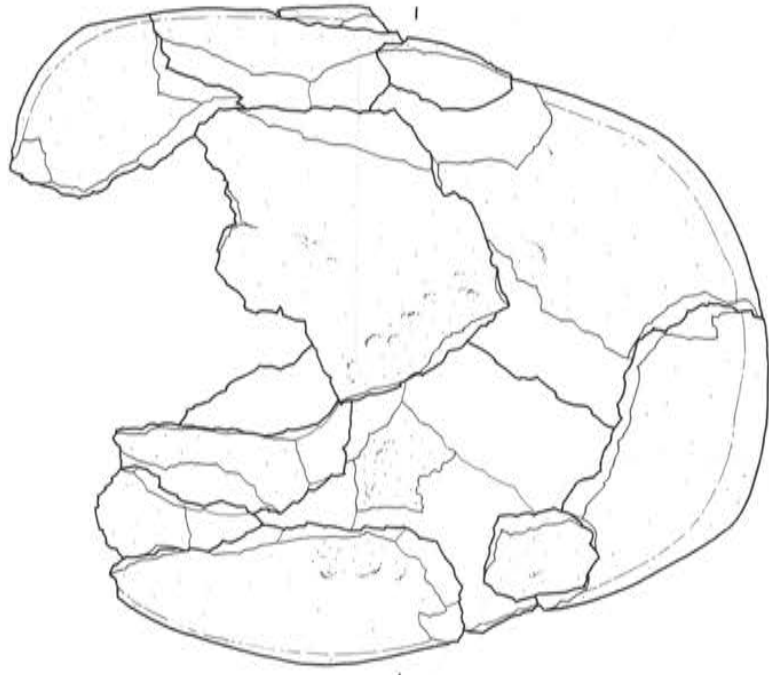
1 CI-02-1 硬砂岩

2 集39 CI-25-73, 34-31 千十一ト

第125図 出土石器・硬砂岩, チャート (礫器)



3 CI-44-16 チャート



4

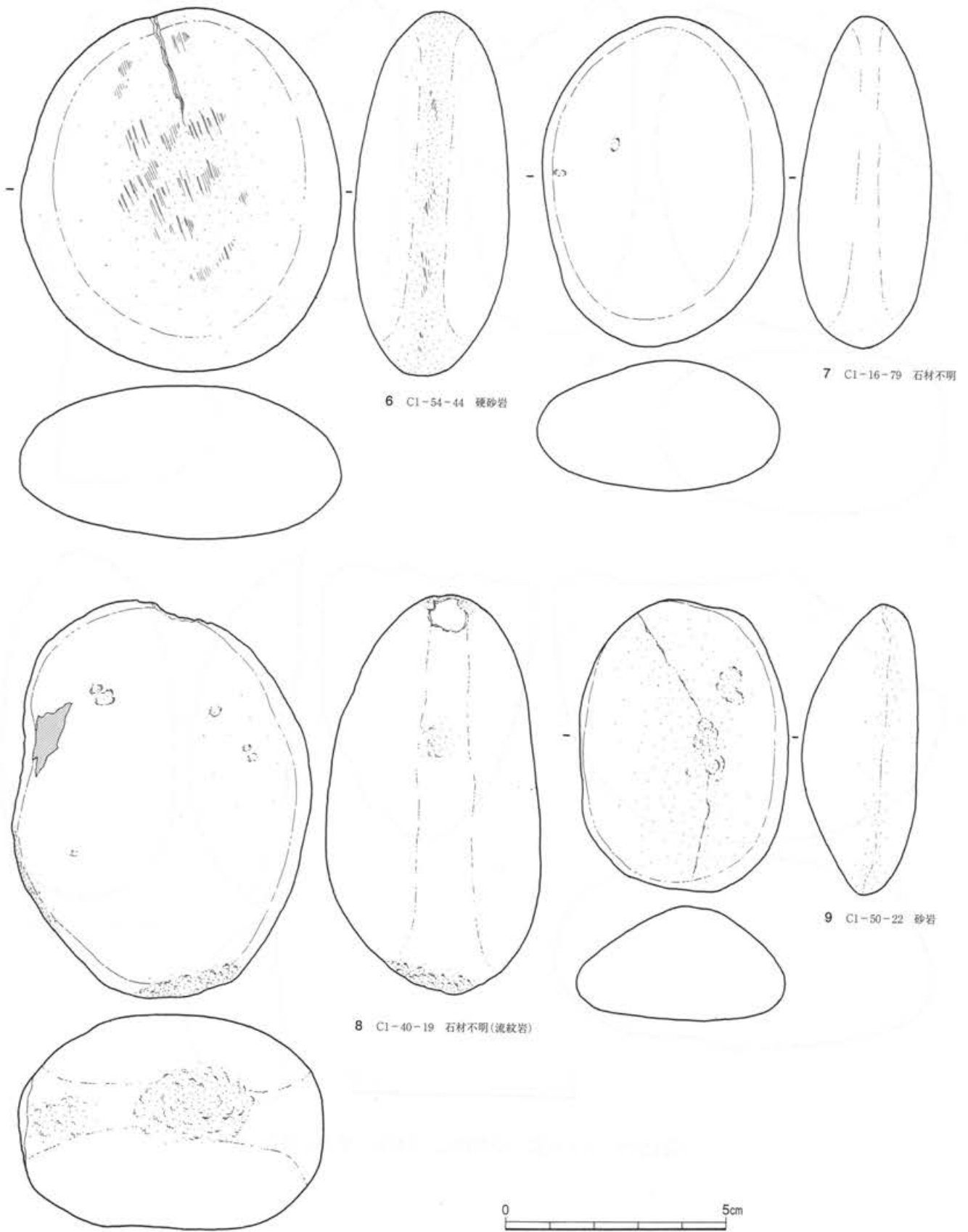
図36 CI-48-5, 33-94・96・127, 26-143, 25-102・248, 24-28, 15-110・133, 14-3・6 石英

第126図 出土石器・チャート, 石英 (原材)

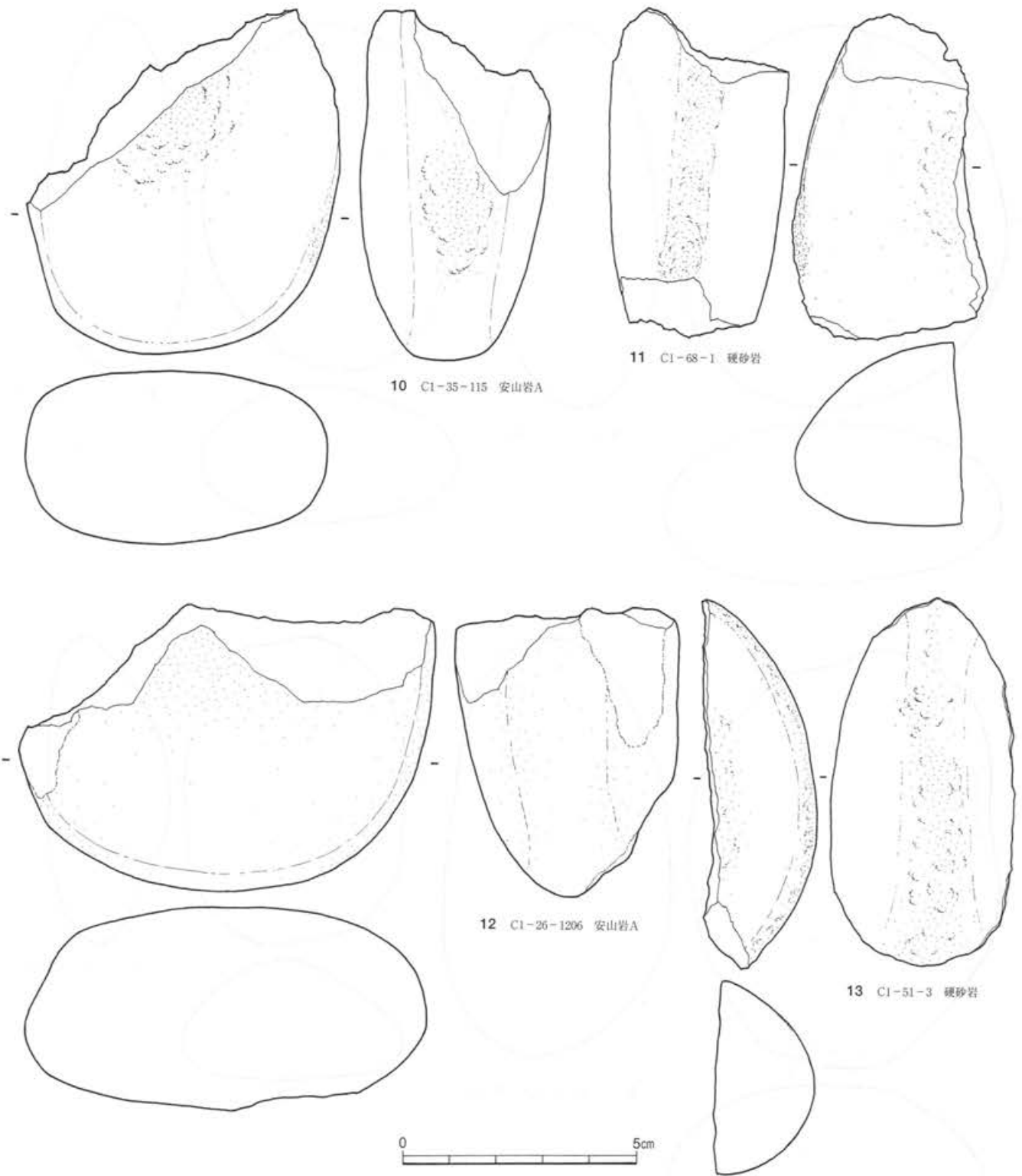


5 C1-26-1022

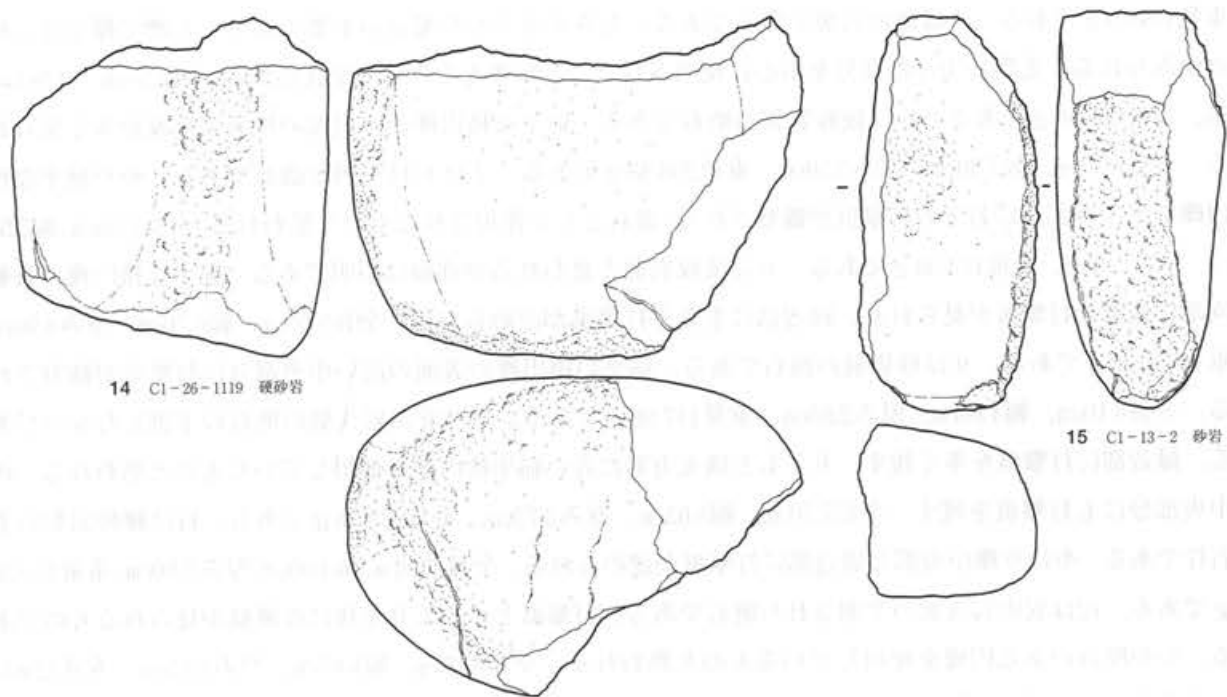
第127图 出土石器·硬砂岩(磨石)



第128图 出土石器·硬砂岩，砂岩，流紋岩（磨石，敲石）

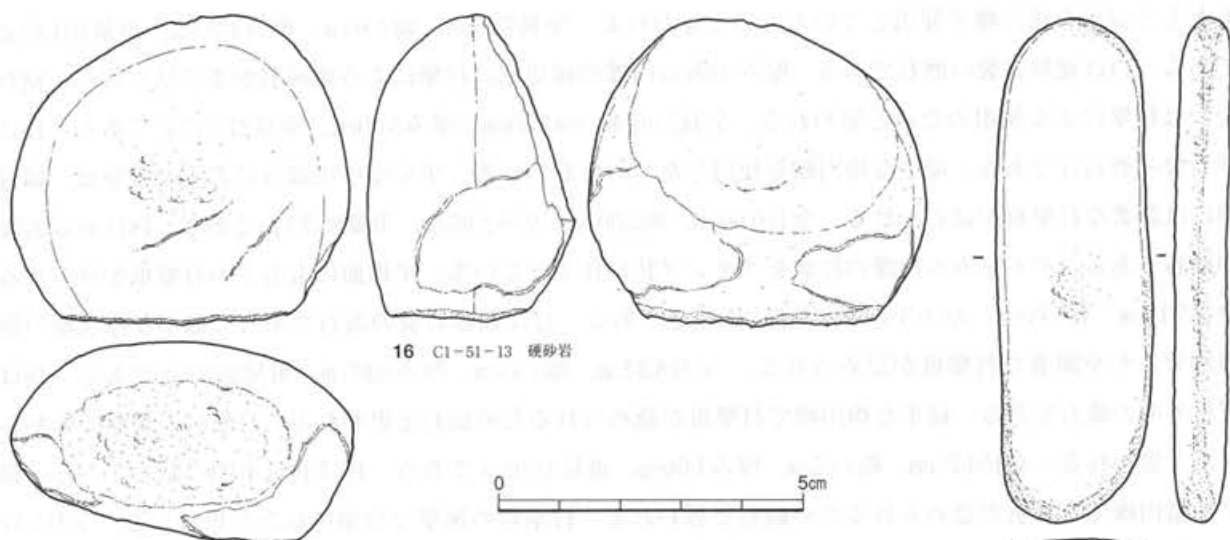


第129图 出土石器·安山岩A, 硬砂岩(磨石, 敲石)



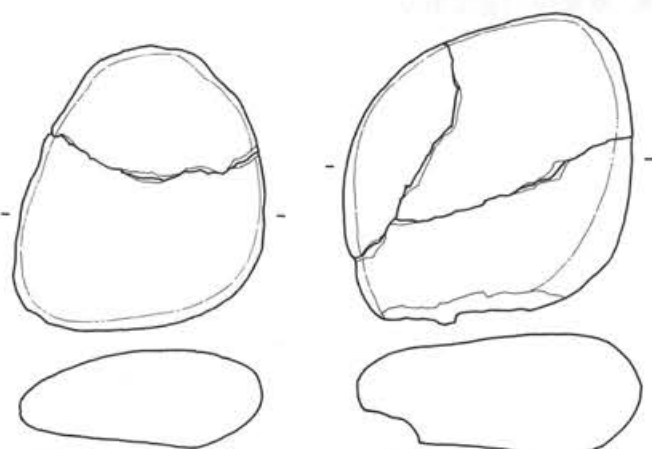
14 CI-26-1119 硬砂岩

15 CI-13-2 砂岩



16 CI-51-13 硬砂岩

17 CI-16-365 硬砂岩

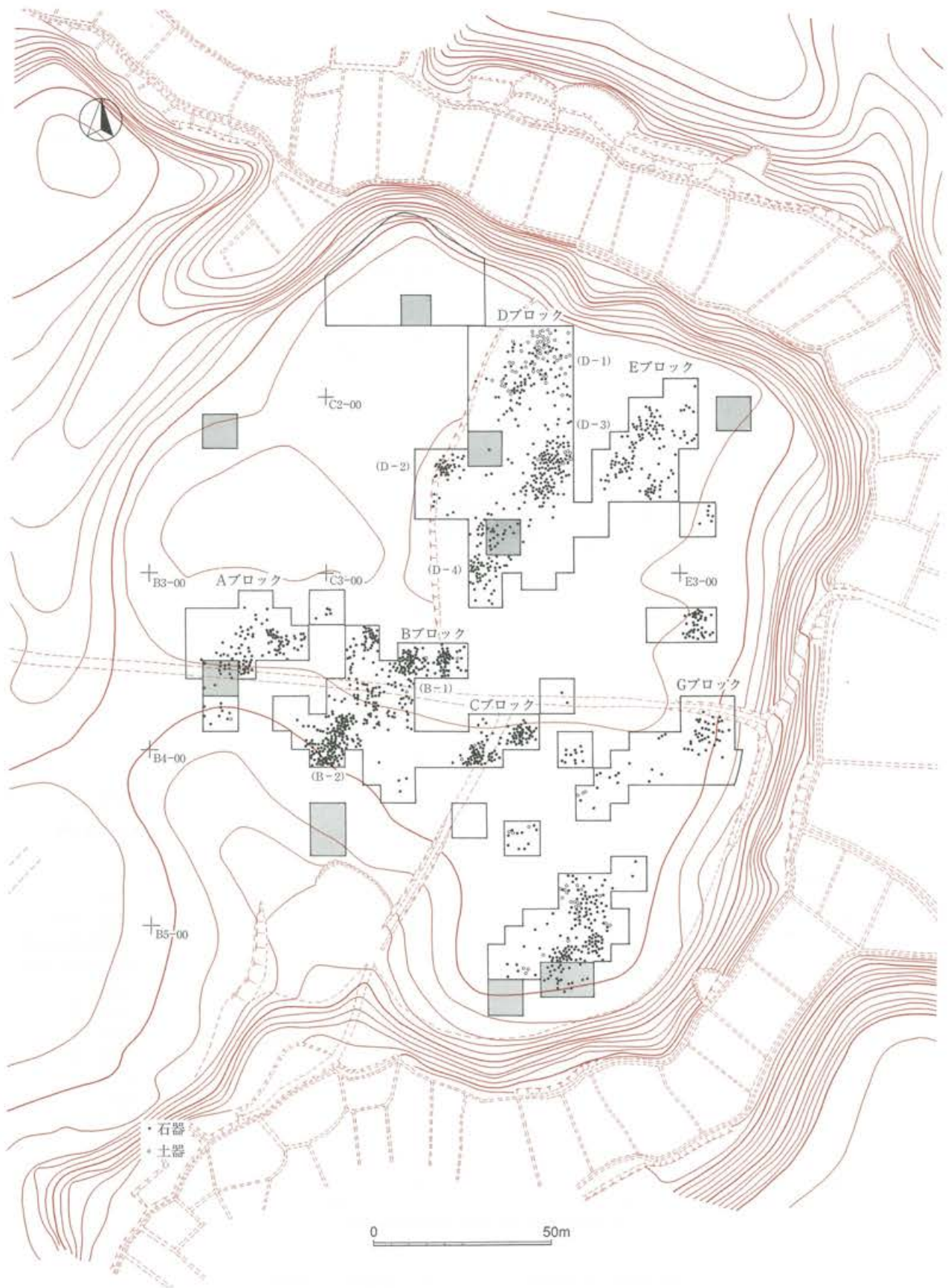


18 接38 CI-14-37·CI-16-373
石材不明

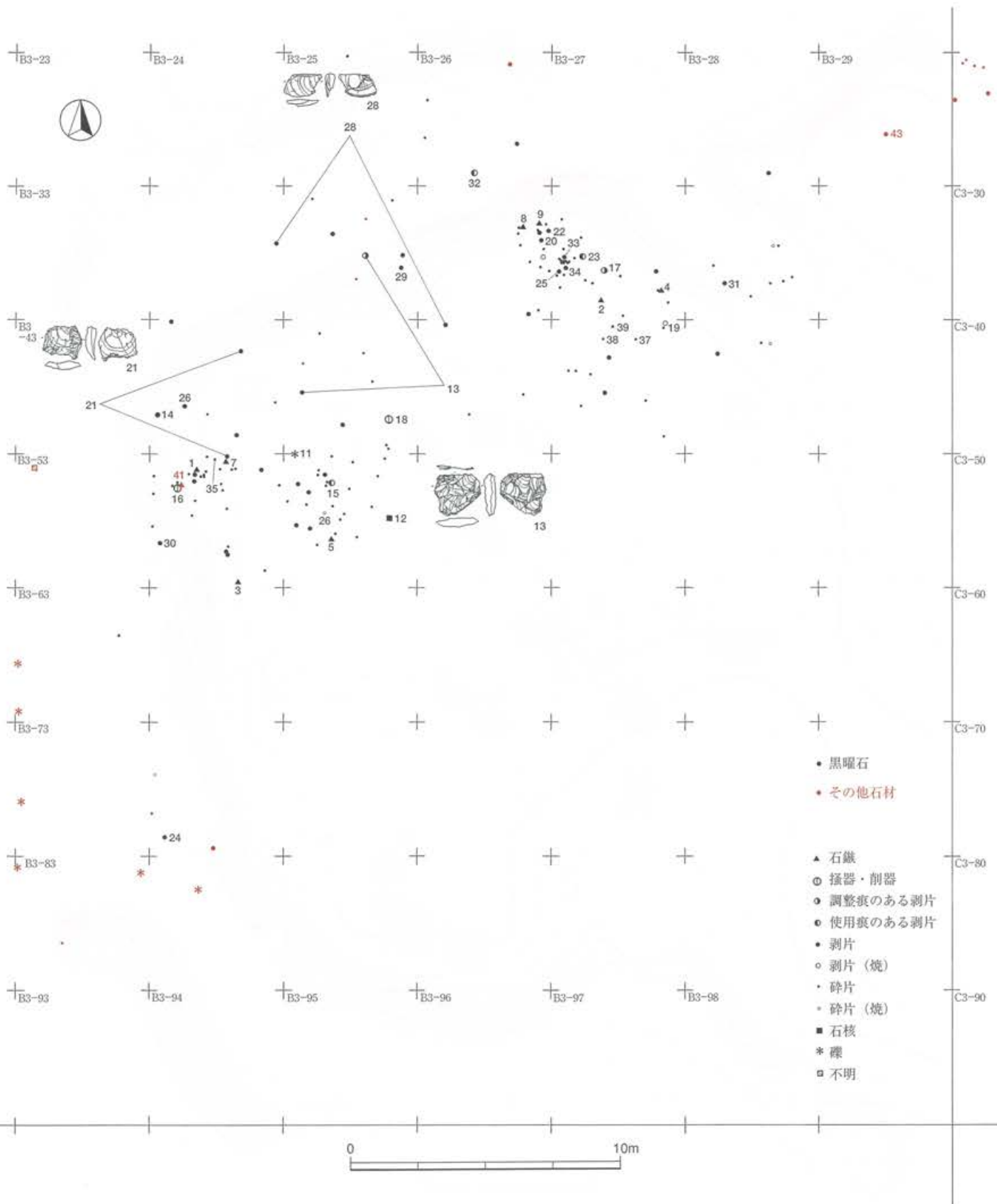
19 接37 CI-25-19·88·118 石材?

第130图 出土石器(磨石, 敲石)

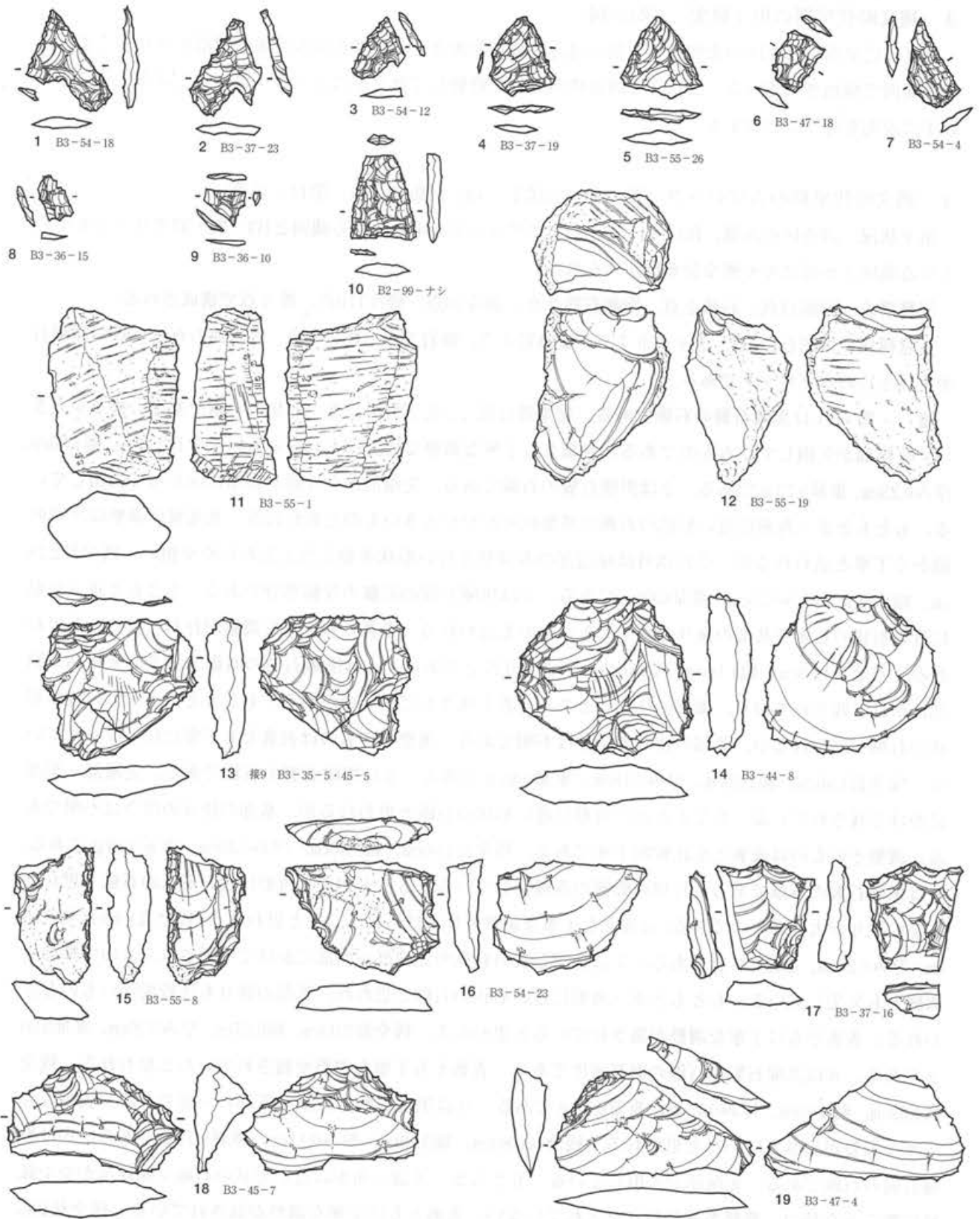
重量1010.0 gである。5は硬砂岩製の磨石である。丸みがありやや細長い不整形をした礫で礫全体に擦痕がみられる。先端の尖った部分を中心に使用されたことが考えられる。全長15.90cm, 幅7.50cm, 厚み4.60 cm, 重量665.00 gである。6は硬砂岩製の磨石である。扁平な楕円礫の平坦面の片面に擦痕が多く見られる。全長8.30cm, 幅7.30cm, 厚み3.50cm, 重量298.38 gである。7は石材不明な敲石である。やや扁平な楕円礫の平らな部分に若干の打撃痕が観察される。敲石として使用されたものと思われる。全長7.55cm, 幅5.50 cm, 厚み2.97cm, 重量174.09 gである。8は流紋岩製と思われるが詳細は不明である。扁平な楕円礫の長軸両端に顕著な打撃痕が見られる。縁辺部にも若干打撃痕が認められる。全長9.05cm, 幅6.70cm, 厚み4.90cm, 重量430.00 gである。9は砂岩製の敲石である。扁平の楕円礫の表面の高い中央部分に打撃痕が観察される。全長6.10cm, 幅4.80cm, 厚み2.65cm, 重量117.90 gである。10は安山岩A製の磨石の半割したものである。縁辺部に打撃痕を多く残す。もともと隅丸方形に近い扁平楕円礫を使用していたものと思われる。礫中央部分にも打撃痕を残す。全長7.50cm, 幅6.65cm, 厚み3.73cm, 重量226.96 gである。11は硬砂岩製の磨石片である。やはり礫中央部と周辺部に打撃痕が認められる。全長7.08cm, 幅4.00cm, 厚み3.90cm, 重量150.39 gである。12は安山岩A製の半割された磨石である。打撃痕というより全体に摩滅痕が見られるものである。やや厚みのある円礫を使用しているものと思われる。全長6.15cm, 幅8.65cm, 厚み4.25cm, 重量329.47 gである。13は硬砂岩製の磨石片である。縁辺部のみの破片であるため縁辺部の打撃痕のみ認められる。もともと扁平な楕円礫を使用していたものと思われる。全長7.93cm, 幅2.30cm, 厚み4.20cm, 重量101.19 gである。14は硬砂岩製の磨石である。厚みのある円礫の縁辺部に打撃による摩滅痕が多く見られる。割れたのは打撃による使用のためと思われる。全長5.60cm, 幅7.50cm, 厚み5.30cm, 重量271.45 gである。15は砂岩製の磨石片である。扁平な楕円礫を使用したものと思われる。平らな中央部分に若干の打撃痕, 縁辺部には顕著な打撃痕が認められる。全長6.60cm, 幅3.00cm, 厚み2.85cm, 重量85.73 gである。16は硬砂岩製の敲石である。やや厚みの円礫の片側をスタンプ状に仕上げている。平坦面にも若干の打撃痕が見られる。全長5.10cm, 幅5.60cm, 厚み3.35cm, 重量125.74 gである。17は硬砂岩製の敲石である。扁平な棒状礫の周辺部分にやや顕著な打撃痕が認められる。全長8.32cm, 幅2.55cm, 厚み0.87cm, 重量33.87 gである。18は石材不明の敲石である。扁平な楕円礫で打撃痕が認められるため敲石と思われる。打撃時の衝撃で分割されたと思われる。全長4.75cm, 幅4.05cm, 厚み1.60cm, 重量47.05 gである。19は石材不明の敲石である。扁平な楕円礫で打撃痕が認められるため敲石と思われる。打撃時の衝撃で分割されたと思われる。全長5.17 cm, 幅4.75cm, 厚み2.00cm, 重量76.34 gである。



第131図 縄文時代早期調査区



第132図 出土状況・Aブロック (器種別・石材別)



第133図 Aブロック出土石器(1)

3 縄文時代早期の出土概要 (第131図)

縄文時代早期は調査区の北側の草創期の包含層調査範囲及び北西部を除き台地縁辺部をとりまくように広い範囲で検出されている。これらを調査時の呼称を踏襲して地点毎にA～Gブロックと言うようにして以下に説明を行うこととする。

4 縄文時代早期のAブロック (第132～134図1～43, 図版70・71, 第14・15表)

出土状況 調査区の西側, B3-44・45・54・55グリッドを中心とする範囲とB3-36・37グリッドを中心とする範囲2か所にやや密な分布域がみられる。

器種構成 石鏃11点, 石核2点, 両極石器2点, 剥片56点, 碎片170点, 礫6点で構成される。

石材構成 黒曜石174点, チャート7点, 安山岩7点, 砂岩5点, 頁岩1点, その他の石材8点で黒曜石が主体を占めるブロックである。

遺物 1は黒曜石製の石鏃である。先端部は鋭く, 正三角形に近い形状の石鏃で基部の挟りが大きい。片脚部が欠損しているものである。表裏とも丁寧な調整で仕上げられている。残全長2.30cm, 幅1.80cm, 厚み0.23cm, 重量0.73gである。2は黒曜石製の石鏃である。先端部から片側が脚部に向かって欠損している。もともと正三角形に近い形状の石鏃で基部挟りがやや大きいものと思われる。基部側の調整は比較的細かく丁寧と思われるが, それ以外は縁辺部のみ調整を行い形状を整えたと思われやや粗い。残全長2.18cm, 幅1.40cm, 厚み0.25cm, 重量0.60gである。3は黒曜石製の石鏃の片脚部分である。もともと正三角形に近い形状の石鏃で基部の挟りがやや大きいものと思われる。表裏とも丁寧な調整が行われていたと思われる。残全長1.40cm, 幅1.10cm, 厚み0.20cm, 重量0.27gである。4は黒曜石製の石鏃である。先端部～胴部にかけて残されており, 脚部の挟りのところが若干残されているのが判る。もともと正三角形に近い形状の石鏃と思われるが, 基部の挟りの深さは不明である。調整そのものは表裏とも丁寧に仕上げられている。残全長1.80cm, 幅1.50cm, 厚み0.18cm, 重量0.45gである。5は黒曜石製の石鏃である。先端部～胴部にかけて残されている。もともと正三角形に近い形状の石鏃と思われるが, 基部の挟りの深さは不明である。調整そのものは表裏とも比較的丁寧である。残全長1.90cm, 幅1.80cm, 厚み0.30cm, 重量0.83gである。6は黒曜石製の石鏃である。片側の脚部のみ残存している。もともと正三角形に近い形状の石鏃と思われ, 基部の挟りが大きいものである。表裏とも丁寧な調整で仕上げられていたと思われる。残全長1.40cm, 幅0.90cm, 厚み0.27cm, 重量0.31gである。7は黒曜石製の石鏃の先端部～胴部にかけて半割されたもので脚部は両脚とも欠失している。もともと正三角形に近い形状の石鏃と思われ, 基部の挟りも比較的深いものと思われる。表裏ともに丁寧な調整が施されていると思われる。残全長2.03cm, 幅0.87cm, 厚み0.20cm, 重量0.50gである。8は黒曜石製の石鏃の胴部破片である。表裏とも丁寧な調整が施されていたと思われる。残全長1.02cm, 幅0.60cm, 厚み0.15cm, 重量0.12gである。9は黒曜石製の石鏃の脚部の一部である。表裏とも丁寧な調整が施されていたと思われる。残全長0.80cm, 幅0.90cm, 厚み0.11cm, 重量0.14gである。10は黒曜石製の石鏃である。先端部が欠損している。もともと二等辺三角形に近い形状の石鏃で側縁部がやや弧状に膨らみを持つ。基部あまり挟りを入れていない。表裏ともに丁寧な調整が施されている。残全長1.95cm, 幅1.50cm, 厚み0.30cm, 重量0.95gである。11は黒曜石の原礫で石核に使用するために当ブロックに持ち込まれたものと思われる。角礫状で全体を風化面で覆われている。全長3.90cm, 幅2.90cm, 厚み1.40cm, 重量23.23gである。12は黒曜石製の石核である。角礫状の原石を用いて大きく縦方向に打割した後, さら



第134図 Aブロック出土石器(2)

に横方向に小さい剥片を剥離している。背面には大きく風化面が残る。全長4.00cm, 幅3.10cm, 厚み2.38cm, 重量22.08 gである。13は接合資料9で黒曜石製の接合した大形剥片である。表裏とも多方向からの小剥離がみられ、一部の縁辺部には細かい調整痕が残されており石鏃等の石器に加工しようとした可能性がある。約5 m程離れた隣のグリッド同士で接合しているものである。14は黒曜石製の大型剥片で背面に複数の剥離面を持つ。左右の縁辺部を中心に細かい調整痕が残されており石鏃等の石器に加工しようとした可能性がある。全長3.55cm, 幅3.80cm, 厚み0.90cm, 重量13.32 gである。15は黒曜石製の剥片で背面に自然面を残す。打撃面側は折れている。縁辺部は細かい調整痕が連続的に入れられており、石器として使用されたかもしくは加工される途中のものである可能性が高い。全長3.10cm, 幅1.73cm, 厚み0.85cm, 重量5.45 gである。16は黒曜石製の搔器である。やや幅広の剥片の両側縁に細かい比較的規則的な調整を施している。背面に一部自然面を残している。全長2.53cm, 幅3.30cm, 厚み0.68cm, 重量6.45 gである。17は黒曜石製の剥片で片側縁が折断している。表裏とも面的調整が行われており、何らかの石器に加工している途中で廃棄されたものであろう。全長2.43cm, 幅2.10cm, 厚み0.50cm, 重量3.91 gである。18は黒曜石製の搔器と思われるものである。横広の剥片の打撃面側に背面側より細かい調整を施している。全長2.43cm, 幅3.90cm, 厚み0.70cm, 重量7.38 gである。19は黒曜石製の横長の剥片である。縁辺部はやや厚みがあるものの先端部側は薄く鋭いため刃器として使用することは可能であろう。また全体に被熱している。全長2.40cm, 幅4.40cm, 厚み0.63cm, 重量6.54 gである。20は黒曜石の扁平な原礫を使用した剥片で表裏面ともに剥離面を残す。あるいは石器を製作しようと考えたかもしれないが、細かな調整を入れる前段階で廃棄している。全長3.80 cm, 幅2.20cm, 厚み0.60cm, 重量5.77 gである。21は5 m程離れた場所から検出された接合資料3で黒曜石製の幅広の剥片である。もともと1枚で剥離した剥片であるが、剥がされた時点で折れた可能性がある。大きな剥片の方は先端部側に刃こぼれ状の小剥離痕がみられる。22は黒曜石製の剥片で先端部が折断されているもので打撃面に自然面があるところから扁平な小楕円礫を使用したとも思われる。背面側に多方向からの小剥離面を残す。全長1.97cm, 幅2.40cm, 厚み0.68cm, 重量4.70 gである。23は黒曜石製のやや縦長で末広りの剥片である。背面は上方向からの剥離面2面と逆方向からの剥離面1面で構成されている。先端部、縁辺部に若干の調整痕が認められる。全体に薄く鋭いため刃器として使用することは可能である。全長3.40cm, 幅2.70cm, 厚み0.57cm, 重量4.59 gである。24は黒曜石製の縦長剥片である。背面には上方向からの剥離面2面が残されている。全体に薄い剥片で縁辺部に刃こぼれ状の小剥離痕が認められる。全長2.82cm, 幅2.10cm, 厚み0.30cm, 重量1.98 gである。25は黒曜石製のやや先端部が広がる縦長剥片である。背面は下方向から3面の剥離面で構成されている。左側面の折断はおそらく剥片剥離時に生じたものと思われる。全長2.83cm, 幅2.60cm, 厚み0.60cm, 重量3.92 gである。26は黒曜石製の調整痕があるやや不整な剥片である。背面は左右方向から3面の剥離面が残されている。先端部右側の縁辺部に微細剥離痕が残され、先端部左側縁辺部は折断されている。全長2.48cm, 幅2.30cm, 厚み0.63cm, 重量2.92 gである。27は黒曜石製の小剥片で先端部側に細かい調整がみられる。背面には右横方向からの剥離面2面が残されている。全長2.50cm, 幅2.30cm, 厚み0.50cm, 重量2.61 gである。28は東西約6 m程離れた地点で検出された接合資料13で黒曜石製の小剥片である。もともと1枚で剥離した剥片であるが、剥がされた時点で折れた可能性がある。打撃面は自然面が残されている。背面は右横方向からの剥離面が残されている。29は黒曜石製の剥片で先端部がやや左に傾斜し細くなる不整なものである。背面は上方向から2面、下方向から1面の剥離面3面で構成されている。全体に厚みはあるものの縁辺部は鋭い。全長2.18cm, 幅1.75cm, 厚み0.75cm,

重量2.63 gである。30は黒曜石製の小剥片で先端部がやや左に傾斜し細くなる不整なものである。背面は左方向と下方向からの剥離面が残されている。全体に厚みがなく縁辺部は鋭い。全長2.40cm, 幅1.90cm, 厚み0.23cm, 重量1.01 gである。31は黒曜石製の縦長剥片である。打面は折断している。背面は上・下・左方向より3～4面剥離されている。全体にあまり厚みはなく縁辺部は鋭い。使用痕等の微細剥離痕はみられない。全長2.80cm, 幅1.60cm, 厚み0.55cm, 重量1.96 gである。32は黒曜石製の縦長剥片である。左側縁部の一部に細かい調整痕が残されている。打面と側縁の一部には自然面が残されている。左側側縁部と先端部は折断している。背面には左右と上方向からの剥離面が残されている。全長2.88cm, 幅1.60cm, 厚み0.57 cm, 重量3.20 gである。33は黒曜石製のやや不整な小剥片である。厚みはあまりなく縁辺部は全体に鋭いが、微細剥離痕等はみられない。全長1.72cm, 幅1.65cm, 厚み0.27cm, 重量0.61 gである。34は黒曜石製の縦長の小剥片である。厚みはあまりなく縁辺部は全体に鋭いが、微細剥離痕等はみられない。全長2.10cm, 幅1.25cm, 厚み0.30cm, 重量0.59 gである。35は黒曜石製の縦長の小剥片である。厚みはあまりなく縁辺部は全体に鋭いが、微細剥離痕等はみられない。全長2.17cm, 幅1.15cm, 厚み0.20cm, 重量0.62 gである。36～39は黒曜石製の碎片類である。石鏃あるいは搔器等の石器類, あるいは剥片剥離に伴い剥離されたものと思われる。40はチャート製の石鏃である。自然面を片面に残す小剥片から製作された石鏃で、正三角形に近い形状で基部の挟りが比較的大きい。周辺のみ細かい調整で形状を整えている。全長1.57cm, 幅1.32cm, 厚み0.20cm, 重量0.39cmである。41は頁岩製の石鏃である。両面ともに非常に丁寧な調整で仕上げられている。二等辺三角形に近い形状で基部の挟りが比較的少ない。全長2.77cm, 幅1.53cm, 厚み0.30cm, 重量1.11 gである。42はホルンフェルス製の剥片である。右側縁部沿って原礫面を残すところから扁平小円礫から剥離されて剥片と思われる。背面は上方向から3面の剥離面で構成される。右縁辺部は薄く鋭いが、微細剥離痕等は認められない。全長2.90cm, 幅3.15cm, 厚み0.55cm, 重量6.28 gである。43は安山岩製の剥片である。やや幅広い丸みのある剥片で左縁辺部の一部に礫面を残す。背面は右横方向から大きく剥離している。打面調整された後剥離されてもので先端部は鋭い刃部を残すが、微細剥離痕等は認められない。全長3.70cm, 幅3.70cm, 厚み0.52cm, 重量9.71 gである。

5 縄文時代早期のBブロック (第135～142図1～128, 図版71～76, 第14・16表)

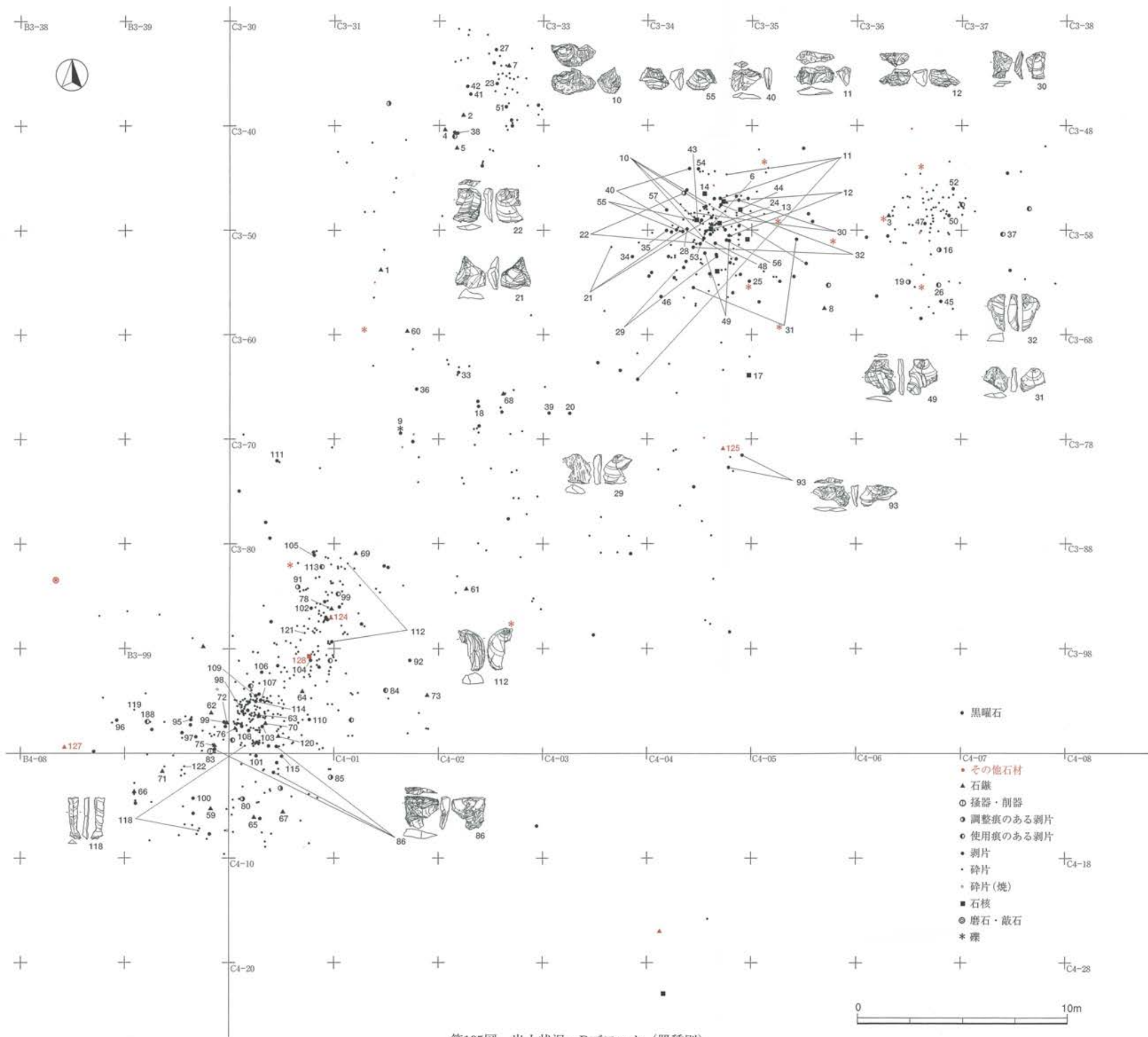
出土状況 調査区の西側Aブロックのやや南東よりに位置する。B3-99, B4-09, C3-80・81, C3-90・91, C4-00グリッドを中心とする径15m程の比較的密に分布する範囲(南群)とC3-32・44・46・54・56・62グリッド付近に径5m程の範囲に点在する場所がみられる。さらにその周りの広い範囲で薄く検出されている。(北群)

器種構成 石鏃36点, 石核13点, 搔器・削器類1点, 礫石斧1点, 剥片175点, 碎片666点, 礫2点で構成される。

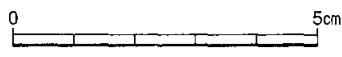
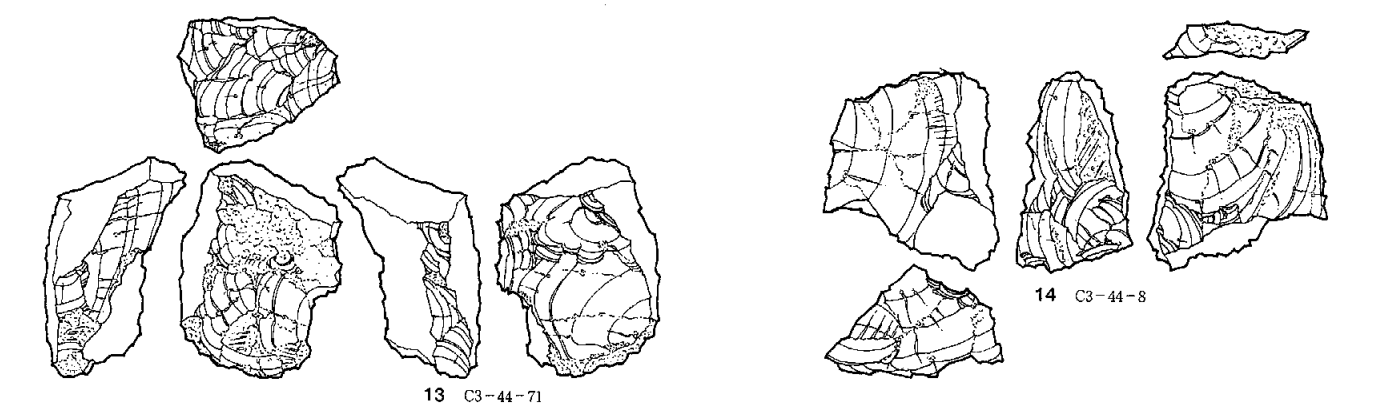
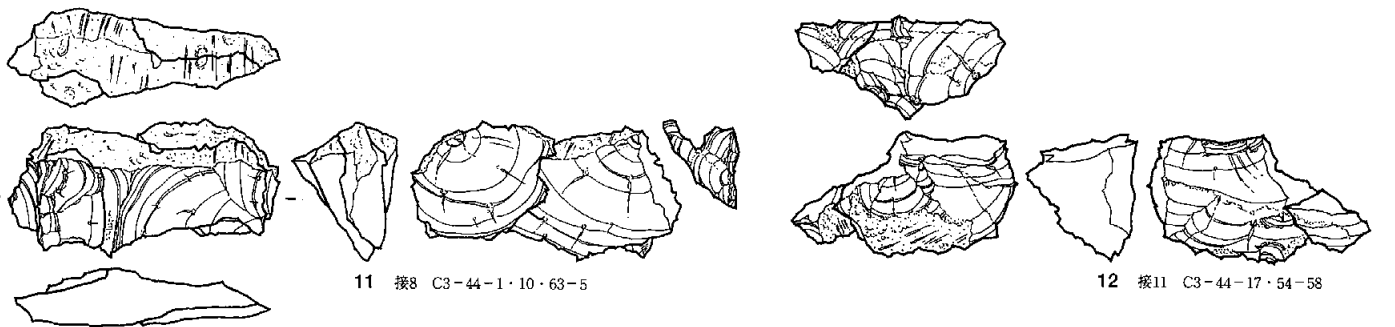
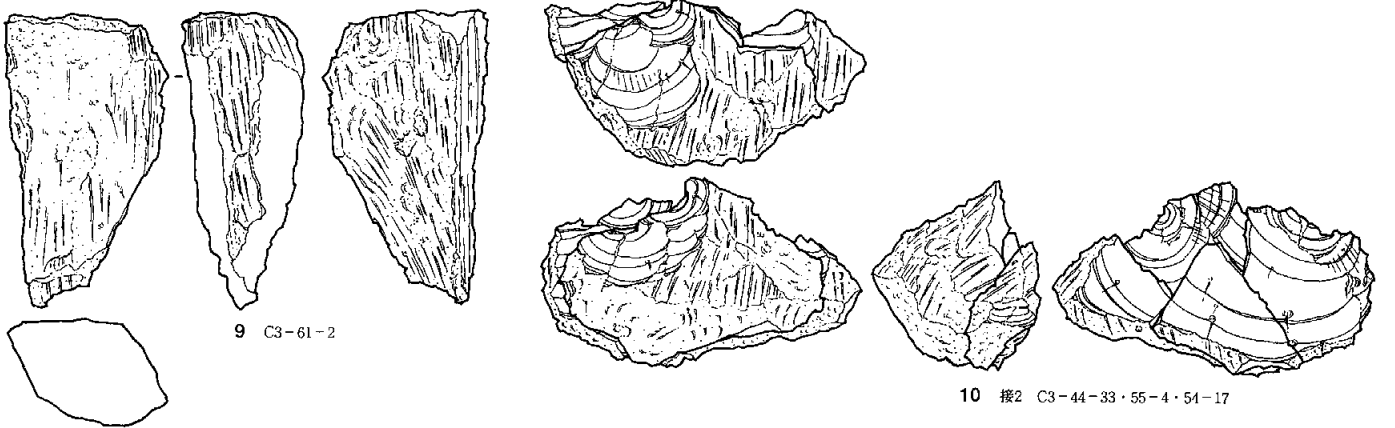
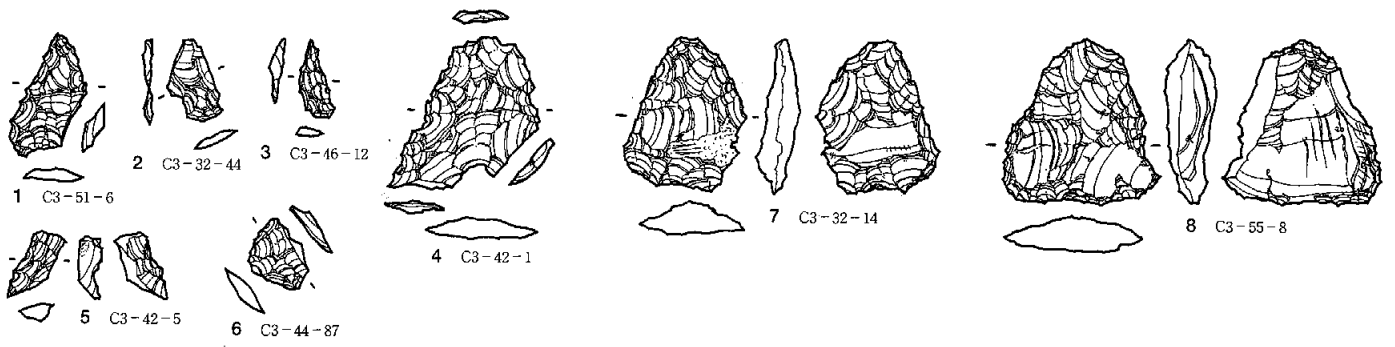
石材構成 黒曜石884点, その他の石材23点で黒曜石が主体を占めるブロックである。

遺物 1は黒曜石製の石鏃である。片脚部が欠損している。先端部は鋭く、正三角形に近い形状の石鏃で基部の挟りは小さいものと思われる。調整は表裏とも比較的粗いが中程まで行われている。残全長2.05cm, 幅1.00cm, 厚み0.20cm, 重量0.54 gである。2は黒曜石製の石鏃片で胴部～脚部が欠損している。表裏の調整はどちらかというところあまり行われていない。残全長1.40cm, 幅0.80cm, 厚み0.18cm, 重量0.20 gである。3は黒曜石製の石鏃片である。片脚から胴部の一部が残存している。もともと正三角形に近い形

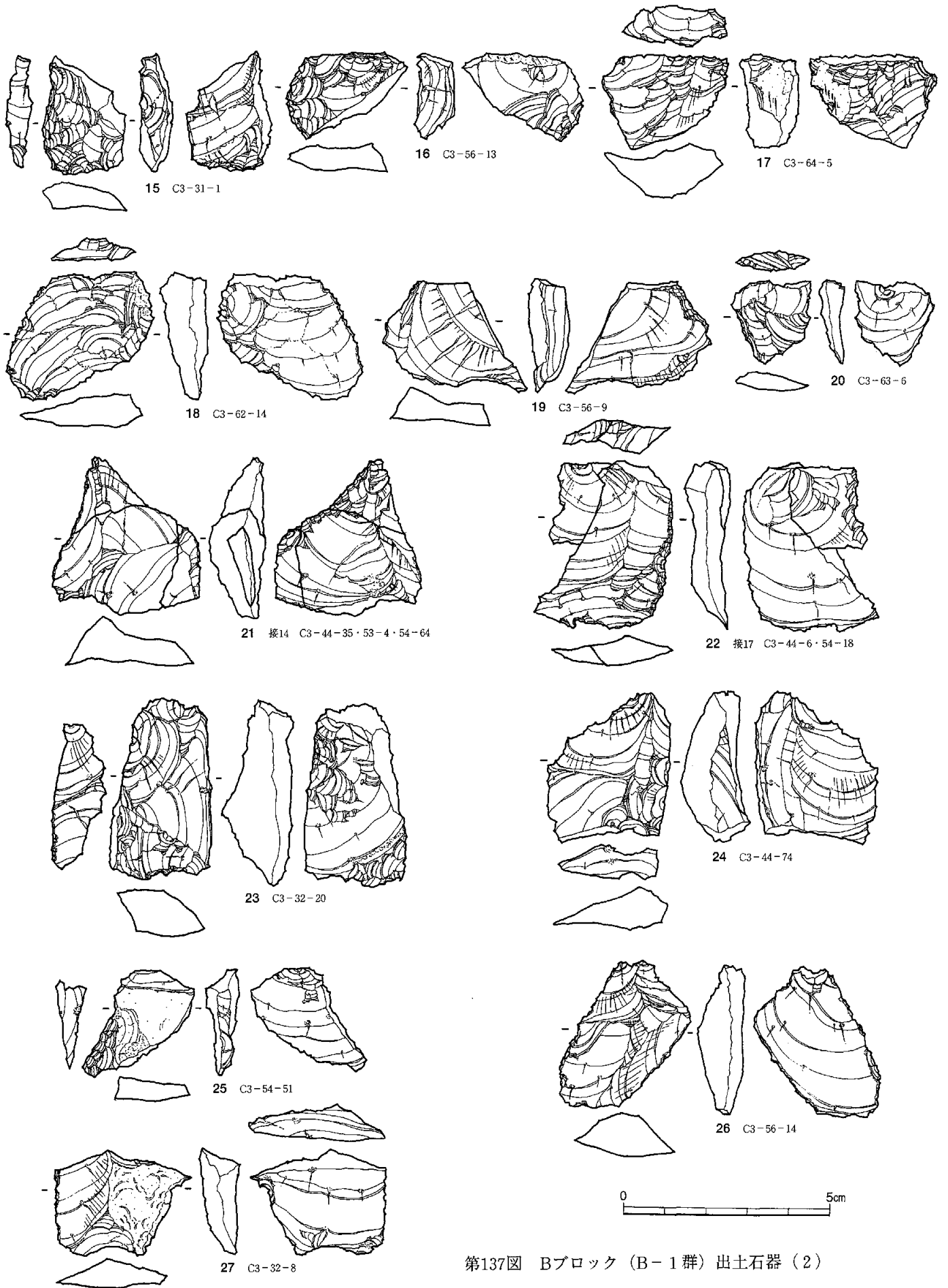
状で基部の抉りの比較的深いものと思われる。表裏の調整も残存部分からみるとかなり丁寧に行われていたことが判る。残全長1.28cm, 幅0.50cm, 厚み0.17cm, 重量0.11gである。4は黒曜石製の石鏃未製品と思われる。あるいは製作途中で脚部が欠損したために廃棄したものかと思われる。表裏とも周辺部分を比較的粗く調整し形状を整え, 基部の抉り部分の調整を行っているときに折れたようにも見える。全長2.55cm, 幅2.50cm, 厚み0.37cm, 重量1.70gである。5は黒曜石製の石鏃片である。胴部の一部と思われる。形状その他は不明である。調整は残存部分を見る限り比較的丁寧に施されている。残全長1.10cm, 幅0.60cm, 厚み0.30cm, 重量0.19gである。6は黒曜石製の石鏃片である。胴部から脚部の一部が残存している。基部の抉りがみられるもので表裏ともやや大雑把な調整が行われている。残全長1.20cm, 幅1.00cm, 厚み0.22cm, 重量0.26gである。7は黒曜石製の石鏃未製品である。周辺部分を比較的細かく調整して, 正三角形に近い形状に整えていく段階で片脚部分を折断してしまったのかもしれない。表面中央には一部原礫面を残し, 裏面中央部には主剥離面が残る。全長2.57cm, 幅1.90cm, 厚み0.53cm, 重量2.44gである。8は黒曜石製の石鏃未製品である。表裏面とも基部と先端部に細かい調整を施し形状を整えていく段階で右側縁部が縦方向に折断してしまっている。この段階で廃棄されたかとも思われる。全長2.75cm, 幅2.65cm, 厚み0.60cm, 重量4.47gである。9は黒曜石製の原石である。細長い扁平な角礫で全体が自然面に覆われている。石鏃など小形の石器を製作するために持ち込まれたものと思われる。全長4.90cm, 幅2.70cm, 厚み1.70cm, 重量26.18gである。10は接合資料2で北群の中央部分で3点の黒曜石製の石核, 剥片が接合するものである。楕円礫の短軸方向に打面を設定し, 横広の不整な剥片を剥ぎ取り石鏃等の小形の石器を製作する剥片素材を作出したものである。この資料は特に最終段階を迎えたものと思われる。裏面は礫面が大きく残されていることが判る。11は接合資料8で北群の中央部分で黒曜石製の3点の剥片が接合するものである。いずれの剥片も原礫面が打面で10の資料より前段階にあたる剥片と思われる。12は接合資料11で北群の中央部分で黒曜石製の石核1点, 剥片類3点が接合するものである。打割された剥離面を打面にして厚みのある小剥片が剥がされている。13は黒曜石製の石核である。厚みがある小角礫を使用して多方向から打面転移を行い, 小剥片を剥がしている。全長3.60cm, 幅2.70cm, 厚み2.27cm, 重量18.48gである。14は黒曜石製の石核である。大きく剥がされた剥片を素材にして再利用で石核に転用している。先端部及び側縁下半部に打撃を入れ小剥片を剥離しようとしている。有用な剥片が取れたかどうかは不明である。全長3.30cm, 幅2.85cm, 厚み1.95cm, 重量14.20gである。15は黒曜石製の調整された剥片である。背面には石器製作途中のための調整が先端部から左縁辺部にかけてみられる。右側縁辺部から打面部側は折断されている。残全長2.90cm, 幅2.03cm, 厚み0.70cm, 重量4.21gである。16は黒曜石製の搔器である。先端部側は折断されて欠失しているが, おそらく打撃面を除き半円形に刃部を巡らしたものと思われる。打面部には原礫面が残されている。残全長2.10cm, 幅2.65cm, 厚み0.65cm, 重量5.02gである。17は黒曜石製の石核である。打割された剥離面を打面にして表面側は上方向から, 裏面側は下方向からと剥離方向を移動している。また片側側面には原礫面が残されている。全長2.30cm, 幅3.05cm, 厚み1.20cm, 重量9.26gである。18は黒曜石製の調整痕のある剥片である。やや不整な縦長剥片の背面側の先端部に細かい調整を連続的に施している。また主剥離面側の側縁部には横方向から大きく剥離が行われている。背面には一部礫面が残されている。全長3.10cm, 幅3.10cm, 厚み0.80cm, 重量9.27gである。19は黒曜石製の剥片である。もともと横広の剥片と思われるが片側側縁と打撃面が折断されている。主剥離面側の右側縁部に沿って調整痕と思われる小剥離がみられる。全長2.72cm, 幅2.90cm, 厚み0.80cm, 重量6.07gである。20は黒曜石製の小剥片である。背



第135図 出土状況・Bブロック (器種別)

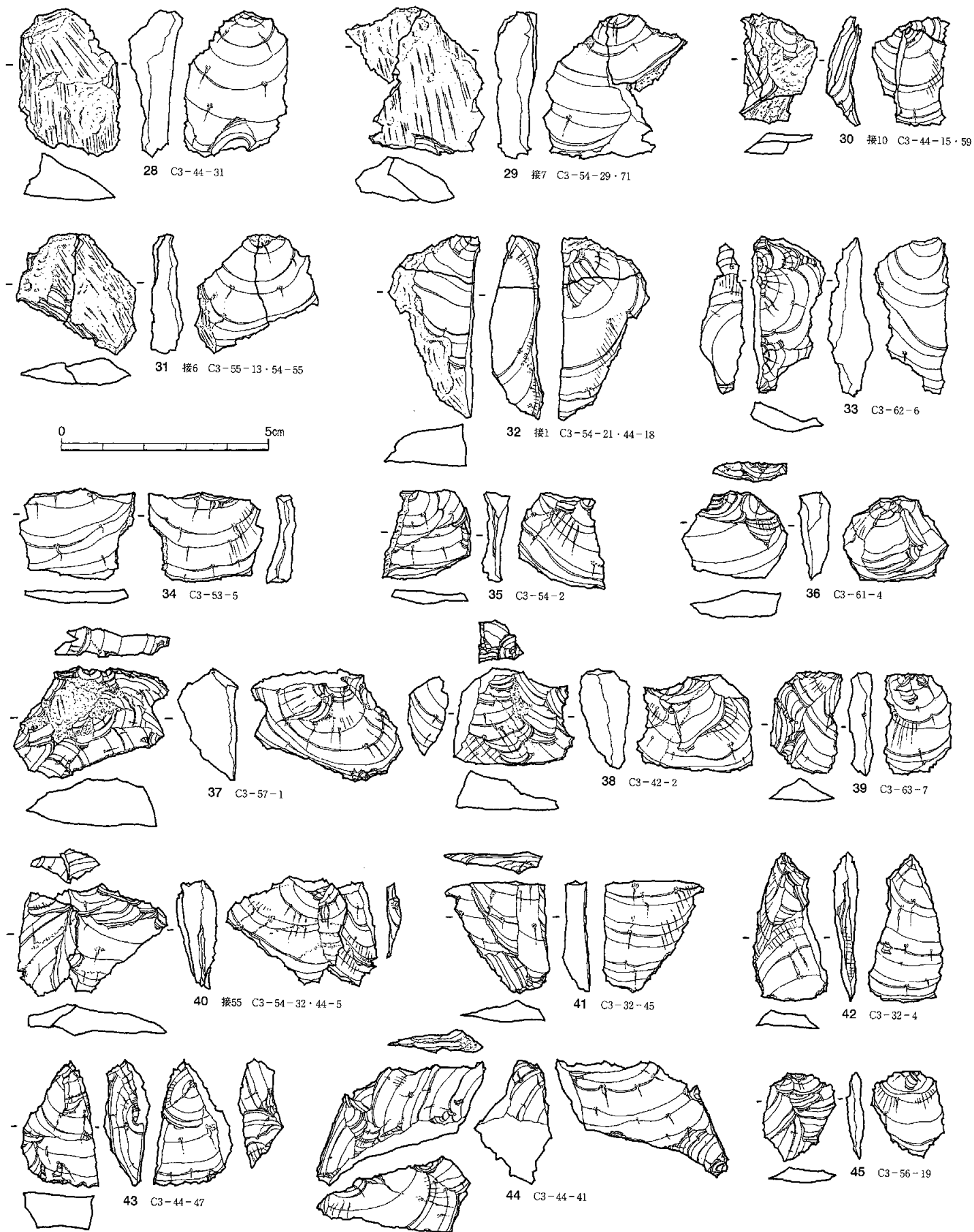


第136図 Bブロック (B-1群) 出土石器 (1)



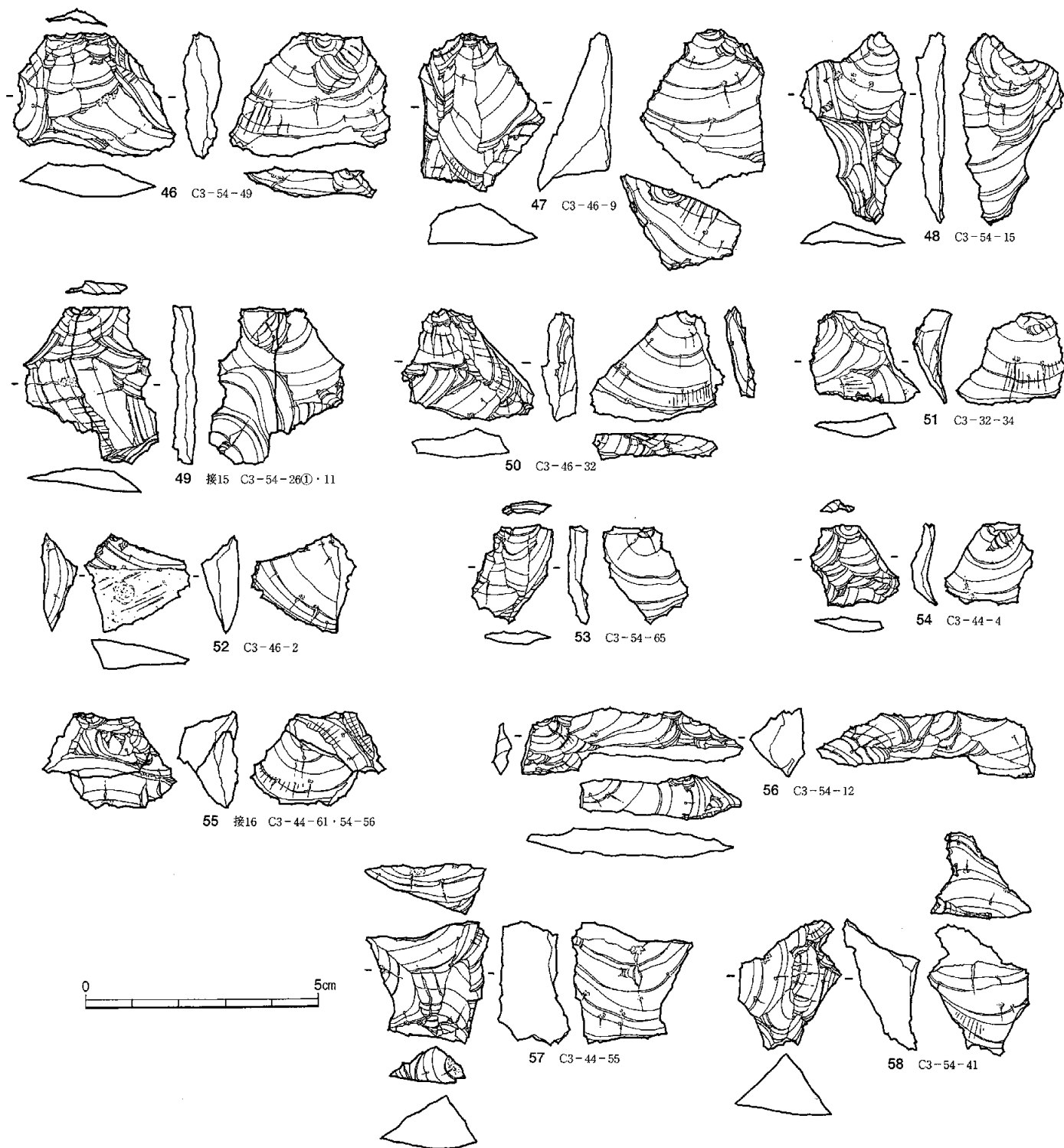
第137図 Bブロック (B-1群) 出土石器 (2)

面には打面転移による左右・上方向からの剥離面が残されている。全長2.03cm, 幅1.90cm, 厚み0.45cm, 重量1.75gである。21は接合資料14で北群の中央部分で黒曜石製の剥片2点(もともと搔器と思われる)が接合している。主剥離面の先端部に沿って比較的規則正しい調整が入れられていた搔器を石核として2次利用して剥片剥離したものである。22は接合資料17で北群の中央部分で黒曜石製の剥片2点が接合している。もともと1枚の剥片で打割された時点で折れたものか後々折れたものかどうかは不明である。いずれの剥片にも使用痕もしくは調整痕がみられる。23は黒曜石製のやや厚みの残る剥片である。おそらく2次利用で石核に転用したために小剥離痕が複数残されている。全長4.45cm, 幅2.45cm, 厚み1.13cm, 重量16.42gである。24は黒曜石製の剥片である。先端部は折断されている。背面側の側縁部の小剥離はおそらく2次利用で石核に転用したためのものであると思われる。全長3.63cm, 幅2.90cm, 厚み1.00cm, 重量12.45gである。25は黒曜石製の搔器である。縦長のやや不整な小剥片を使用して、背面左側縁部に沿って規則的に調整を施している。背面には原礫面も一部残されている。全長2.55cm, 幅1.90cm, 厚み0.55cm, 重量3.36gである。26は黒曜石製の縦長の厚みのあるやや不整な剥片である。先端部及び縁辺部には微細剥離痕が広く認められる。使用痕かもしれない。全長3.60cm, 幅2.60cm, 厚み1.05cm, 重量8.61gである。27は黒曜石製の剥片である。逆台形様の剥片で打撃面側は折断されている。背面右側はほぼ原礫面で覆われている。左側縁部には不連続な微細剥離痕が残されている。全長2.60cm, 幅3.30cm, 厚み0.75cm, 重量6.00gである。28は黒曜石製の縦長の剥片である。背面は全面原礫面で覆われている。原石から初段階で剥がされた剥片と思われる。全長3.53cm, 幅2.43cm, 厚み1.10cm, 重量7.25gである。29は接合資料7で北群の中央部分で黒曜石製の剥片2点(もともと1枚の剥片と思われる)が接合している。さらに1点は節理面で先端部側が折断している。背面はほぼ原礫面で覆われている。30は接合資料10で北群の中央部分で黒曜石製の小剥片が2枚接合したものである。2枚とも縦長の小剥片でいずれも原礫面が大きく残る。原石から初段階で剥がされたものであると思われる。31は接合資料6で北群の中央部分で剥片2点(もともと1枚の剥片と思われる)が接合している。背面はほぼ原礫面で覆われている。32は接合資料1で北群の中央部分で剥片が2点(もともと1枚の剥片が上下で折断している)が接合している。剥片の右側も折断され欠失していると思われる。背面の縁辺部側に原礫面があることからいくらか剥片剥離が進んだ段階で剥がされたものかと思われる。33は黒曜石製の縦長の剥片である。背面に残された左横からの小剥離は剥片を石核として2次利用した際の剥離面と思われる。全長3.83cm, 幅1.80cm, 厚み0.50cm, 重量4.38gである。34は黒曜石製の剥片である。やや幅広の剥片で厚みがなく縁辺部は鋭い。微細剥離痕等は認められない。全長2.20cm, 幅2.70cm, 厚み0.30cm, 重量2.88gである。35は黒曜石製の剥片である。全体に薄く、左側縁部に沿って原礫面を残している。微細剥離痕等は認められない。全長2.20cm, 幅2.00cm, 厚み0.35cm, 重量1.82gである。36は黒曜石製の剥片である。打面調整されている剥片である。比較的厚みがある。縁辺部等に微細剥離痕等は認められない。全長2.10cm, 幅2.55cm, 厚み0.65cm, 重量3.65gである。37は黒曜石製のやや横広の不整な剥片である。打面は打割された面を使用している。背面は中央部分に原礫面が残され、その周りには多方向からの剥離面が残されている。先端部にやや不連続な小剥離痕が残されている。全長2.75cm, 幅3.50cm, 厚み1.13cm, 重量10.42gである。38は黒曜石製の厚みのある方形に近い剥片である。打面は剥離面で背面は主剥離面と同じ上方向から3面剥離されている。左側面は折断している。全長2.40cm, 幅2.85cm, 厚み0.90cm, 重量6.90gである。39は黒曜石製の剥片である。背面は上方向1面, 右から1面の剥離面2面で構成されている。縁辺部は鋭いが微細剥離痕等は見られない。全長2.50cm, 幅1.60cm, 厚み0.55cm, 重量2.19



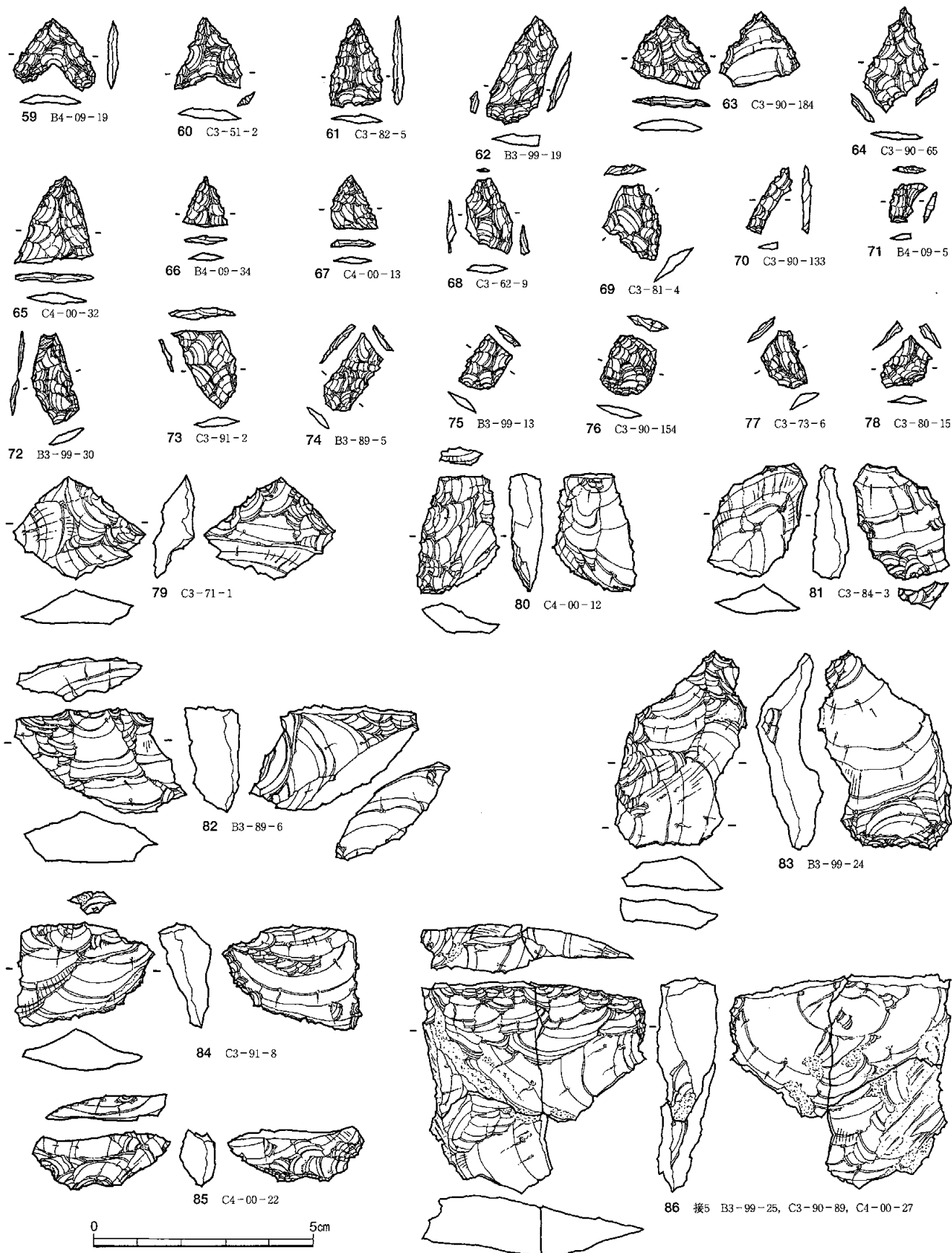
第138図 Bブロック (B-1群) 出土石器 (3)

gである。40は接合資料55で北群の中央部分で黒曜石の剥片が2点接合したものである。大きい剥片の打面部側には調整痕と思われる小剥離が見られる。41は黒曜石製のやや先細りの縦長剥片である。先端部に打撃による剥離痕が残されている。打撃面は折断面である。背面の剥離面は上方向から2面の剥離面が残されている。全長2.70cm, 幅2.40cm, 厚み0.50cm, 重量3.35gである。42は黒曜石製の縦長剥片で打面から胴部にかけて縦方向に折れている。打撃面には打面調整, 縁辺部には微細剥離痕が残されている。背面側には上下方向からの剥離面が1面ずつ残されている。全長3.60cm, 幅1.70cm, 厚み0.40cm, 重量2.55gである。43は黒曜石製の剥片で小剥片を剥離するため再利用されたものと思われる。左側縁は分割された剥離面が残され, 右側には複数の剥離面が残されている。全長3.05cm, 幅1.75cm, 厚み0.88cm, 重量4.87gである。44は黒曜石製の石核転用された剥片である。もともと厚みの残る剥片で下方に大きく剥がされた剥離面が残されている。全長3.00cm, 幅4.15cm, 厚み1.80cm, 重量11.33gである。45は黒曜石製の小剥片である。背面はほぼ上方向から数回剥離された面が残されている。縁辺部に微細剥離痕等は残されていない。全長2.10cm, 幅1.70cm, 厚み0.35cm, 重量1.02gである。46は黒曜石製の剥片である。ほぼ台形状になる剥片でやや厚みがある。先端部はおそらく剥片剥離時に折断されたものと思われる。背面は左右・上方向からの剥離面が残されている。縁辺部には微細剥離痕が多く残されている。全長2.70cm, 幅3.40cm, 厚み0.70cm, 重量6.53gである。47は黒曜石製の断面が厚みのある剥片で石核に転用されている。先端部側に剥離面が残されており, その周りにも微細剥離痕が多く残されている。全長3.40cm, 幅2.60cm, 厚み0.95cm, 重量9.58gである。48は黒曜石製の比較的厚みのない縦長剥片である。背面は左方向からの剥離面と上方向からの剥離面が残されている。先端部は細く縁辺部に微細剥離痕等も認められる。全長4.10cm, 幅2.20cm, 厚み0.47cm, 重量3.16gである。49は接合資料15で北群の中央部分で2点が接合したものである。もともと黒曜石製の1枚のやや不整な縦長剥片である。背面には右方向と上方向からの複数の剥離面が残されている。主剥離面側の異方向からの剥離面は剥片剥離された際の衝撃で生じたものと思われる。50は黒曜石製の不整な台形状の剥片である。背面は上方向と左横方向からの剥離面で構成されている。先端部は折れている。縁辺部は微細剥離痕等は認められない。全長2.37cm, 幅2.70cm, 厚み0.62cm, 重量4.45gである。51は黒曜石製のやや厚みのある不整な剥片である。背面は左斜めと左横方向からの剥離面で構成されている。先端部の縁辺に微細剥離痕が顕著に見られる。使用痕である可能性が高い。全長2.00cm, 幅2.20cm, 厚み0.40cm, 重量2.08gである。52は黒曜石製のやや厚みのある剥片である。背面はほぼ原礫面で覆われている。おそらく剥片剥離を行った際に右半分は折断していると思われる。全長2.10cm, 幅2.20cm, 厚み0.65cm, 重量1.90gである。53は黒曜石製のやや縦長の剥片である。全体に薄い, 縁辺部等には微細剥離痕等は認められない。背面は上方向からの剥離面が見られる。全長2.10cm, 幅1.50cm, 厚み0.25cm, 重量0.96gである。54は黒曜石製のやや縦長の不整な剥片である。背面は上方向と左横方向からの剥離面で構成されている。縁辺部等には微細剥離痕等は認められない。全長1.80cm, 幅1.67cm, 厚み0.30cm, 重量1.09gである。55は接合資料16で北群の中央部分で黒曜石の小剥片2点が接合したものである。背面上に張り付いている厚みのある不整な碎片は石核調整のための多方位の剥離面が残されている。どちらの剥片類にも微細剥離痕等は認められない。56は厚みのある縦長の剥片の先端部に調整が施されている調整痕のある剥片を転用して石核にしたものと思われる。折断面の縁辺部には使用のためか微細剥離痕が認められる。全長1.40cm, 幅4.65cm, 厚み0.60cm, 重量4.07gである。57は黒曜石製の厚みのある逆台形に近い剥片である。打撃面側と先端部の両側ともに折断している。背面には上下方向からの剥離面が残されている。全長2.60cm, 幅2.60cm,



第139図 Bブロック (B-1群) 出土石器 (4)

厚み1.20cm, 重量7.12gである。58は黒曜石製の厚みのある剥片で打面部をさらに剥離して石核として再生している。背面にも左右からの剥離面が残されている。全長2.80cm, 幅2.20cm, 厚み1.30cm, 重量4.76gである。



第140図 Bブロック (B-2群) 出土石器 (1)

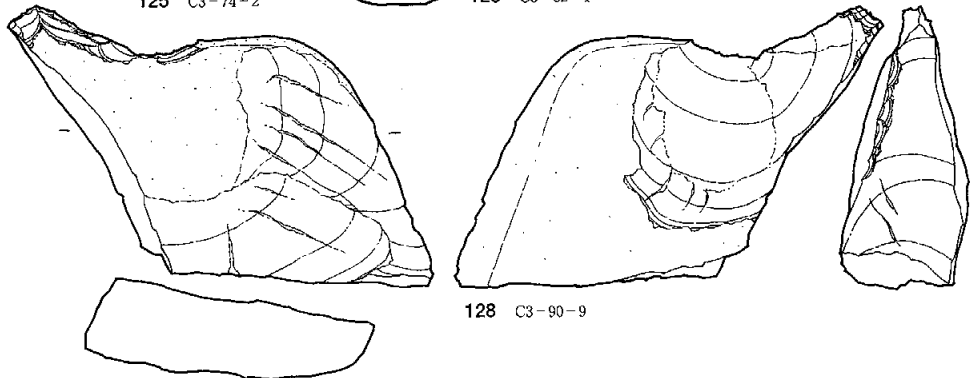
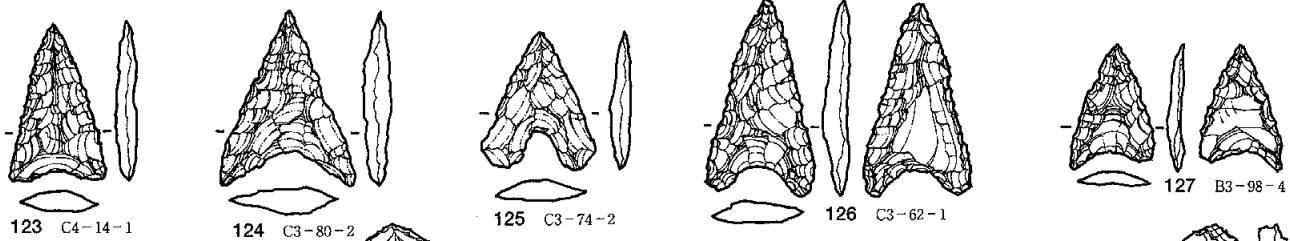
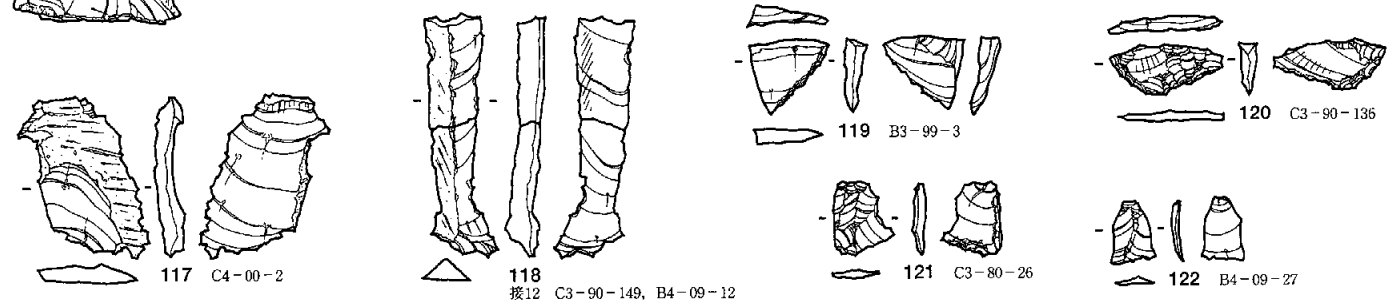
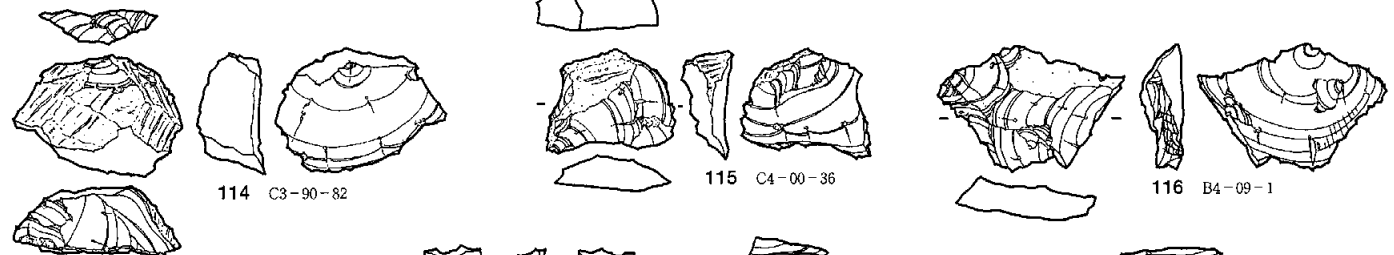
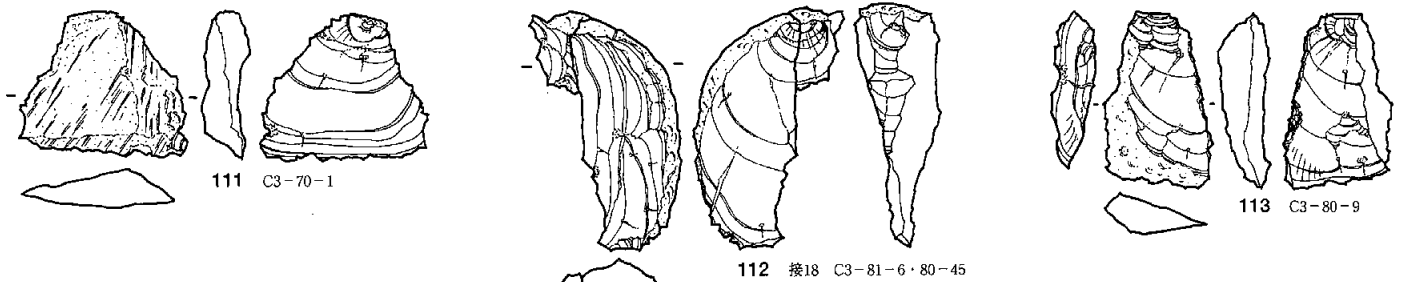
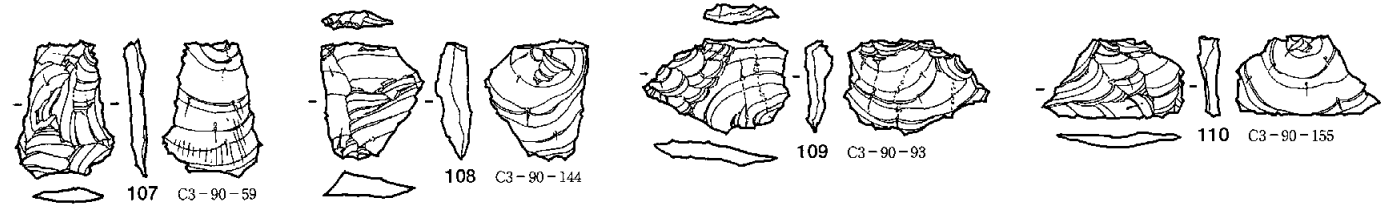
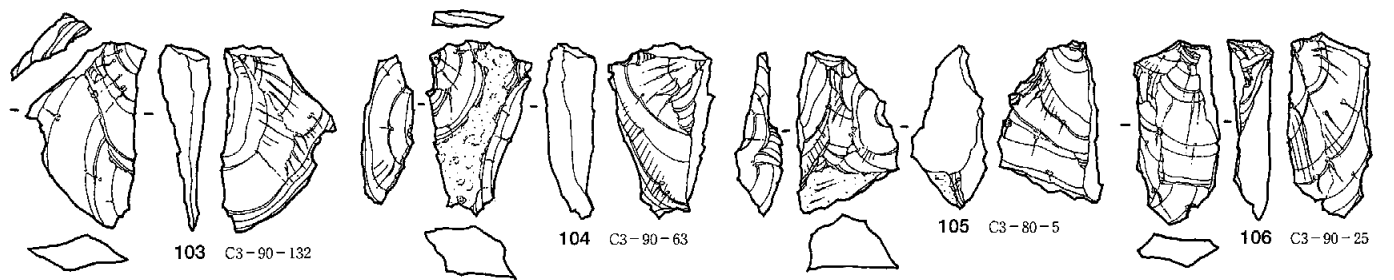
59～129はBブロックの南群で検出された石器である。59は黒曜石製の石鏃である。先端部はやや弧状に丸みを持つ正三角形に近い形状で、基部の抉りは大きい。表裏ともに比較的粗い調整で仕上げられている。全長1.60cm、幅1.90cm、厚み0.20cm、重量0.51gである。60は黒曜石製の石鏃で一部脚部が欠損している。先端部は片側が直線的で、片側が弧状でともややいびつな感は否めないが正三角形に近い形状で、基部の抉りはややくぼむ程度である。表裏ともに比較的粗い調整で仕上げられている。全長1.65cm、幅1.60cm、厚み0.22cm、重量0.54gである。61は黒曜石製の石鏃である。二等辺三角形に近い形状で基部の抉りはほとんど見られない。表裏とも比較的細かい調整で丁寧に仕上げられている。全長2.80cm、幅1.20cm、厚み0.20cm、重量0.44gである。62は黒曜石製の石鏃で片側胴部の一部～脚部が欠損している。形状は正三角形に近い形状で抉りがややある程度である。表裏ともにやや大きめの剥離で調整している。残全長2.50cm、幅1.15cm、厚み0.25cm、重量0.84gである。63は黒曜石製の石鏃で脚部が欠損しているものである。表面はやや大きめの剥離で調整、裏面は縁辺部のみ調整されている。残全長1.70cm、幅1.80cm、厚み0.25cm、重量0.65gである。64は黒曜石製の石鏃で両脚部を欠損している。形状は二等辺三角形に近い形状で抉りが少しある程度である。表裏ともに大きめの剥離で丁寧に調整している。残全長2.40cm、幅1.30cm、厚み0.20cm、重量0.54gである。65は黒曜石製の石鏃で脚部が欠損している。形状は二等辺三角形に近いと思われるが基部の抉りは不明である。調整は縁辺部を中心に表裏とも丁寧に施されている。残全長2.10cm、幅1.70cm、厚み0.23cm、重量0.71gである。66は黒曜石製の石鏃片である。先端部のみ残存している。調整は表裏とも細かい剥離で丁寧である。残全長1.17cm、幅1.03cm、厚み0.18cm、重量0.14gである。67は黒曜石製の石鏃片である。先端部のみ残存している。調整は表裏とも細かい調整で丁寧である。残全長1.38cm、幅1.10cm、厚み0.17cm、重量0.24gである。68は黒曜石製の石鏃片である。先端部のみ残存している。なお片側縁は折断している。調整は表裏ともやや大まかな調整で仕上げられている。残全長1.77cm、幅1.07cm、厚み0.22cm、重量0.50gである。69は黒曜石製の石鏃片である。先端部と片脚が欠損しているものである。形状は二等辺三角形に近く基部の抉りは比較的深いと思われる。調整は表裏とも周辺部分を細かく丁寧にに行われている。残全長1.75cm、幅1.30cm、厚み0.25cm、重量0.50gである。70は黒曜石製の石鏃片である。先端部～胴部の一部が残存している。もともとは二等辺三角形に近い形状と思われる。基部の抉りは不明である。調整は表裏とも丁寧にに行われている。残全長1.60cm、幅0.50cm、厚み0.15cm、重量0.14gである。71は黒曜石製の石鏃片である。片脚のみ残存している。形状は不明であるが基部の抉り深いものである。調整は表裏ともやや大きめの剥離で行われている。残全長0.90cm、幅0.75cm、厚み0.18cm、重量0.16gである。72は黒曜石製の石鏃である。先端部の一部と脚部が欠損している。もともと形状は二等辺三角形で基部の抉りは比較的深いと思われる。調整は表裏ともやや大まかに行われている。残全長2.07cm、幅0.92cm、厚み0.20cm、重量0.44gである。73は黒曜石製の石鏃で胴部～片脚が残存している。形状は不明であるが基部の抉りは深い。調整は表裏ともにやや大まかに行われている。残全長1.82cm、幅1.25cm、厚み0.20cm、重量0.65gである。74は黒曜石製の石鏃片である。胴部～片脚が残存している。形状は不明であるが基部の抉りは深いと思われる。表裏ともやや細かく丁寧に調整されている。残全長1.27cm、幅0.90cm、厚み0.20cm、重量0.38gである。75は黒曜石製の石鏃片である。脚部の一部のみ残存している。形状は不明であるが、基部の抉りは深いと思われる。表裏ともにやや細かく丁寧に調整されている。残全長1.27cm、幅0.80cm、厚み0.18cm、重量0.23gである。76は黒曜石製の石鏃片である。胴部と脚部の一部が残存している。形状は不明であるが基部の抉りはあまりないと思われる。表裏ともにやや細かく丁寧に調整が行われている。残全長1.45cm、



第141図 Bブロック (B-2群) 出土石器 (2)

幅1.10cm, 厚み0.23cm, 重量0.56gである。77は黒曜石製の石鏃片である。胴部～片脚部分にかけて残存している。形状は不明であるが基部の抉りはやや深いと思われる。表裏ともやや大まかな調整が行われている。残全長1.30cm, 幅0.90cm, 厚み0.20cm, 重量0.30gである。78は黒曜石製の石鏃片である。脚部と胴部の一部が残存している。形状は不明であるが基部の抉りはあまりない。表裏ともやや細かく丁寧な調整が行われている。残全長1.20cm, 幅1.00cm, 厚み0.18cm, 重量0.24gである。79は黒曜石製の石鏃未製品である。厚みのある剥片で先端側の縁辺に沿って比較的大きめの剥離で調整が行われている。背面側には大きい剥離面が残されている。全長2.30cm, 幅3.00cm, 厚み0.80cm, 重量3.81gである。80は黒曜石製の縦長の剥片である。背面には横方向に面的調整が施されている。石器として調整途上のものかもしれない。全長2.70cm, 幅1.80cm, 厚み0.65cm, 重量3.61gである。81は黒曜石製の縦長剥片である。主剥離面の先端部側にやや大きめの剥離痕が残されている。使用痕かもしれない。全長2.60cm, 幅2.00cm, 厚み0.65cm, 重量3.13gである。82は黒曜石製の厚みのある大形剥片で石核として再利用されている。片側を大きく折断するように剥離している。一部には細かな調整のような小剥離が見られる。全長2.42cm, 幅3.10cm, 厚み1.20cm, 重量9.96gである。83は黒曜石製のやや不整な縦長剥片で搔器かもしれない。やや平坦に広がった主剥離面の先端部縁辺に沿って細かい刃こぼれ状の微細剥離痕が残されている。全長4.50cm, 幅2.60cm, 厚み0.80cm, 重量11.06gである。84は黒曜石製の横長の不整な剥片である。先端部の縁辺部に沿って細かい刃こぼれ状の微細剥離痕が残されている。全長2.40cm, 幅3.05cm, 厚み0.98cm, 重量5.13gである。85は黒曜石製の横長剥片を再利用した石核と思われる。打面を折断して作り出している。縁辺部にやや不規則な剥離痕が残されている。全長1.30cm, 幅3.10cm, 厚み0.80cm, 重量3.02gである。86は接合資料5で南群の集中部分の中で接合している。3点が接合したものでとも大きな1枚の黒曜石製の剥片である。背面上に上方向から複数の剥離面が見られる。剥片剥離が行われていたことがうかがわれる。87は黒曜石製の横長の剥片で打面部側が厚みのあるものである。先端部の縁辺部に沿って使用痕と思われる微細剥離痕が認められる。全長2.75cm, 幅3.80cm, 厚み0.47cm, 重量6.72gである。88は黒曜石製の剥片である。打面部側は折断され、さらに大きい剥離で調整されている。また先端部側の縁辺部には使用痕と思われる微細剥離痕が認められる。全長2.37cm, 幅2.60cm, 厚み0.70cm, 重量3.87gである。89は黒曜石製のやや不整で厚みがあまりない剥片である。両側縁部には主剥離面側よりの細かな剥離の調整が施されている。全長2.20cm, 幅1.80cm, 厚み0.37cm, 重量3.50gである。90は黒曜石製のやや厚みのある縦長剥片である。先端部に近い両側縁には不連続な微細剥離痕が残されている。全長5.00cm, 幅1.40cm, 厚み0.80cm, 重量5.36gである。91は黒曜石製のやや斜め方向に剥離されて縦長剥片である。両側縁部には使用痕と思われる不連続な細かい剥離痕が認められる。全長3.70cm, 幅2.60cm, 厚み0.70cm, 重量5.89gである。92は黒曜石製の剥片である。石核から打面調整のため剥離された後に縁辺部に細かい剥離痕が残されている。剥片を再利用した調整痕のある剥片ともいえるべきものである。全長4.07cm, 幅2.10cm, 厚み1.10cm, 重量9.00gである。93は接合資料4で南群の集中部分の中で接合している。2点の黒曜石製の剥片が接合している。1枚は縦長剥片, もう1枚は横長剥片である。いずれの剥片にも微細剥離痕等は認められない。94は黒曜石製の厚みのある横長の石核である。幅広い縁辺部には連続的な小剥離痕が認められる。全長2.60cm, 幅3.60cm, 厚み1.00cm, 重量10.98gである。95は黒曜石製の横長の台形に近い剥片である。先端部の縁辺部は折断されている。全長2.60cm, 幅3.50cm, 厚み0.50cm, 重量4.44gである。96は黒曜石製の縦長の先端部の広がった剥片である。背面は左右方向からの剥離面が複数回残されている。縁辺部には微細剥離痕等は認められない。全長2.60

cm, 幅2.33cm, 厚み0.50cm, 重量2.89 gである。97は黒曜石製の剥片である。背面には上方向からと右方向からの剥離面2面が残されている。右縁辺部に小剥離痕が残されている。全長2.13cm, 幅2.00cm, 厚み0.52cm, 重量2.90 gである。98は黒曜石製の剥片である。やや縦長の六角形に近い形状の剥片である。背面には上方向と右方向からの剥離面2面が残されている。全長2.50cm, 幅1.65cm, 厚み0.23cm, 重量1.22 gである。99は黒曜石製の方形の剥片である。背面は左方向からの剥離面が残されている。右側縁部に微細剥離痕が残されている。全長2.25cm, 幅2.20cm, 厚み0.35cm, 重量1.83 gである。100は黒曜石製の剥片である。背面には上下方向から2～3面の剥離面が残されている。左側縁部下半に比較的大きめの剥離痕が残されている。全長2.25cm, 幅2.10cm, 厚み0.47cm, 重量2.31 gである。101は黒曜石製の横長の不整な剥片で先端部が比較的厚みがあるものである。背面は右方向と下方向からの剥離面2面が認められる。全長2.50cm, 幅3.30cm, 厚み0.60cm, 重量3.68 gである。102は黒曜石製の剥片である。打面部は折断面である。厚みがあり逆台形状の剥片で先端部は相対的に薄い。左縁辺部には微細剥離痕が残されている。全長2.00cm, 幅2.65cm, 厚み0.80cm, 重量4.19 gである。103は黒曜石製のやや不整な縦長の剥片である。打面部は厚みがあり先端部にかけて薄くなる。背面は上方向と右方向からの剥離面が残されている。縁辺部には微細剥離痕等は認められない。全長3.10cm, 幅1.80cm, 厚み0.60cm, 重量2.90 gである。104は黒曜石製の縦長剥片である。厚みのある剥片で両側縁は折断面である。背面は原礫面と左方向からの剥離面で構成されている。全長2.90cm, 幅1.60cm, 厚み0.80cm, 重量3.66 gである。105は黒曜石製の厚みのある縦長の剥片である。背面は左右からの剥離面が残されている。さらに先端部側は礫面が残されている。左側縁側は折断されている。全長2.68cm, 幅1.65cm, 厚み0.85cm, 重量4.09 gである。106は黒曜石製の縦長の剥片である。右側縁側は折断している。剥片剥離時に割れたものと思われる。使用痕等の微細剥離痕は認められない。全長3.00cm, 幅1.35cm, 厚み0.55cm, 重量2.88 gである。107は黒曜石製の縦長の剥片である。背面には多方位からの剥離面が残されている。縁辺部は薄いものの微細剥離痕は認められない。全長2.28cm, 幅1.52cm, 厚み0.22cm, 重量1.00 gである。108は黒曜石製のやや不整な縦長の剥片である。背面には下方からの複数の剥離面が残され、先端部には剥片剥離時に生じた小剥離痕が残されている。全長1.95cm, 幅1.65cm, 厚み0.40cm, 重量1.49 gである。109は黒曜石製の横長剥片である。左側縁部に沿って小剥離が施されており、打面部側は一部に折断面が残されている。全長1.55cm, 幅2.40cm, 厚み0.30cm, 重量1.22 gである。110は黒曜石製の横長の剥片である。背面には上方向から4面の剥離面が残されている。全体に薄い縁辺部には微細剥離痕等は認められない。全長1.55cm, 幅1.85cm, 厚み0.20cm, 重量0.67 gである。111は黒曜石製の台形状の剥片である。背面はほぼ原礫面が覆われている。縁辺部には微細剥離痕等は認められない。全長2.43cm, 幅2.80cm, 厚み0.60cm, 重量3.68 gである。112は接合資料18で南群の集中部分で接合している。黒曜石製の剥片2点が接合している。これらには背面には右方向からの剥離面が残されている。また縁辺部に沿って原礫面が大きく残されている。もともとは楕円礫を使用していると思われる。113は黒曜石製の縦長剥片である。やや厚みのある剥片で右側側縁部は細かい剥離痕が残されている。反対側側縁部は折断されている。背面は一部原礫面が残されている。全長2.95cm, 幅1.75cm, 厚み0.60cm, 重量3.14 gである。114は黒曜石製の厚みのある剥片である。打撃面は細かく調整されている。背面はほぼ礫面で覆われている。先端部側は折断されている。全長2.02cm, 幅1.80cm, 厚み1.20cm, 重量5.67 gである。115は黒曜石製の小剥片である。背面には左方向からの剥離面が1面と原礫面が残されている。縁辺部には微細剥離痕等は見られない。全長1.80cm, 幅2.10cm, 厚み0.57cm, 重量2.45 gである。116は黒曜石製の横長の逆台形に近い形状の剥片である。



第142図 Bブロック (B-2群) 出土石器 (3)

背面の打面側に原礫面が残されている。左右両方向からの剥離面も残されている。右側縁部は折断面になっている。全長2.03cm, 幅2.90cm, 厚み0.53cm, 重量3.27gである。117は黒曜石製のやや斜めの縦長の剥片である。背面は礫面と下方からの剥離面1面で構成される。縁辺部には微細剥離痕等は見られない。全長2.65cm, 幅1.60cm, 厚み0.30cm, 重量1.80gである。118は黒曜石製の細長い剥片が折れたものが南群の中で接合資料12として接合したものである。背面は片側が原礫面に覆われている。縁辺部には微細剥離痕が顕著に見られる。119は黒曜石製の碎片で片側に折断面があり, 片側縁側に使用痕とおぼしき小剥離痕が残されている。全長1.20cm, 幅1.30cm, 厚み0.28cm, 重量0.43gである。120は黒曜石製の石鏃片である。打面部側に折断面を持ち, その他の縁辺部には小剥離痕が残されている。全長0.83cm, 幅1.87cm, 厚み0.20cm, 重量0.38gである。121は黒曜石製の小剥片で先端部に使用痕と思われる微細剥離痕を持つ。全長1.25cm, 幅1.05cm, 厚み0.18cm, 重量0.26gである。122は黒曜石製の碎片である。微細剥離痕等は認められない。全長1.07cm, 幅0.65cm, 厚み0.12cm, 重量0.09gである。123はチャート製の石鏃である。二等辺三角形に近い形状で基部の挟りは浅い。調整は表裏とも比較的細かく丁寧に仕上げている。全長2.60cm, 幅1.60cm, 厚み0.32cm, 重量1.27gである。124は安山岩製の石鏃である。二等辺三角形に近い形状で基部の挟りは比較的浅い。調整は表裏とも細かく丁寧に仕上げている。全長2.87cm, 幅2.25cm, 厚み0.42cm, 重量1.94gである。125は安山岩製の石鏃である。正三角形に近い形状で基部の挟りは深い。調整は表裏とも比較的, 細かく丁寧に仕上げている。全長2.30cm, 幅1.90cm, 厚み0.40cm, 重量0.94gである。126はチャート製の石鏃である。二等辺三角形に近い形状で挟りはやや浅い。調整は表面は全体に細かく丁寧に仕上げている。裏面は周辺部を中心に比較的丁寧に仕上げているものの中央部分に旧剥離面を残す。全長3.20cm, 幅1.80cm, 厚み0.35cm, 重量1.77gである。127は頁岩製の石鏃である。二等辺三角形に近い形状で基部の挟りは浅い。表裏とも基部に近い部分に旧剥離面を残すものの比較的周辺部を中心に細かく丁寧に調整されている。全長2.07cm, 幅1.40cm, 厚み0.20cm, 重量0.50gである。128は頁岩製の大型で厚みのある剥片である。打撃面側と側面の一部に比較的粗い調整痕が残されている。あるいは石核かもしれない。全長4.70cm, 幅4.95cm, 厚み1.33cm, 重量56.38gである。

6 縄文時代早期のCブロック (第143~145図1~46, 図版77・78, 第14・17表)

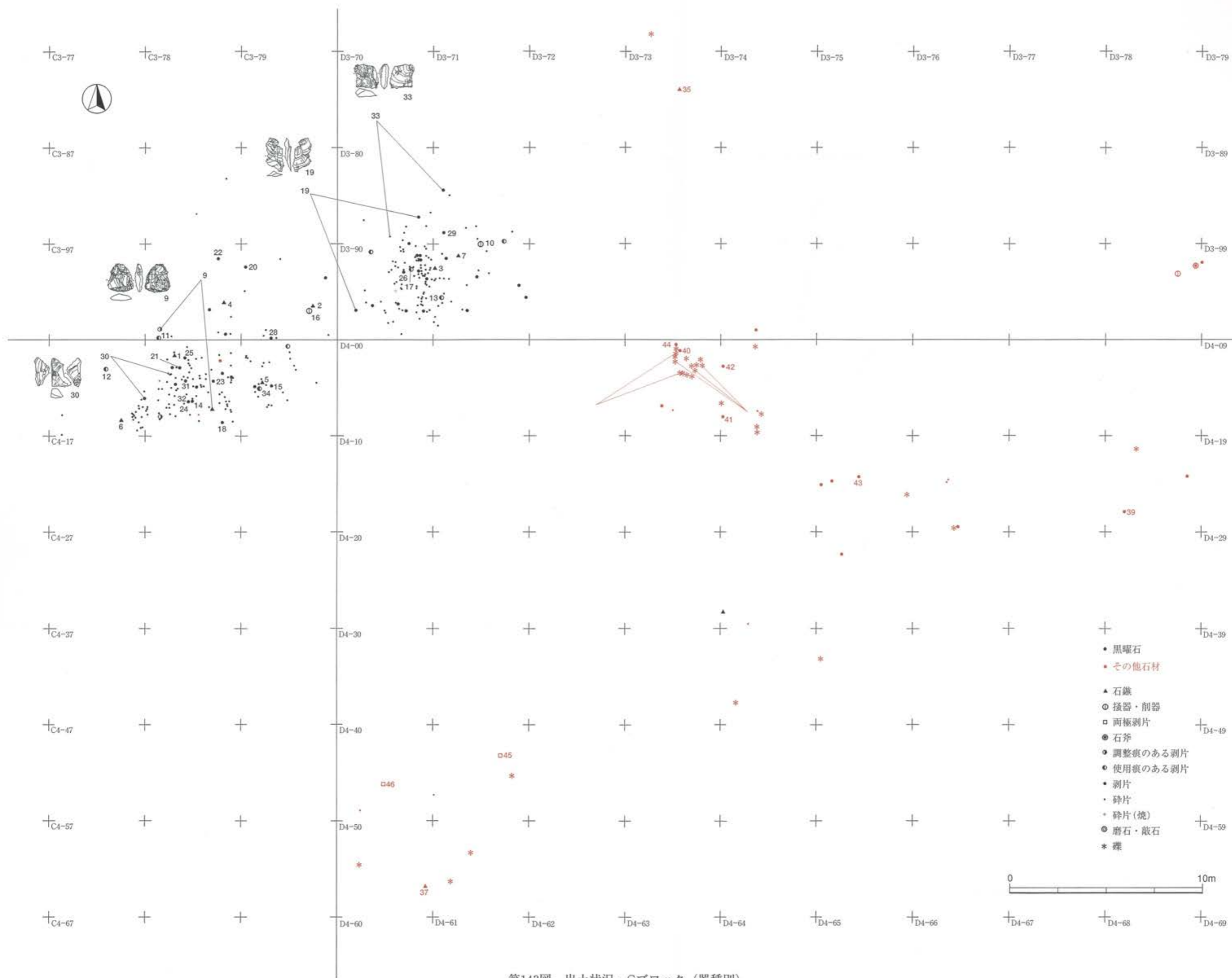
出土状況 調査区の中央Bブロックのやや南東よりに位置する。黒曜石を主体とするC4-08・09グリッドを中心とする径6mの密集範囲とD3-90・91グリッドを中心とする径6m程の密集範囲の間にやや粗く分布する範囲の2つの小ブロックがある。さらに黒曜石以外の石材で構成されるD4-04グリッド付近の密集範囲とD4-50グリッドを中心にやや散漫に分布する範囲がある。

器種構成 石鏃12点, 削器・搔器類3点, 剥片67点, 碎片269点, 礫33点, 磨石2点, 石皿片1点, 石斧片2点で構成される。

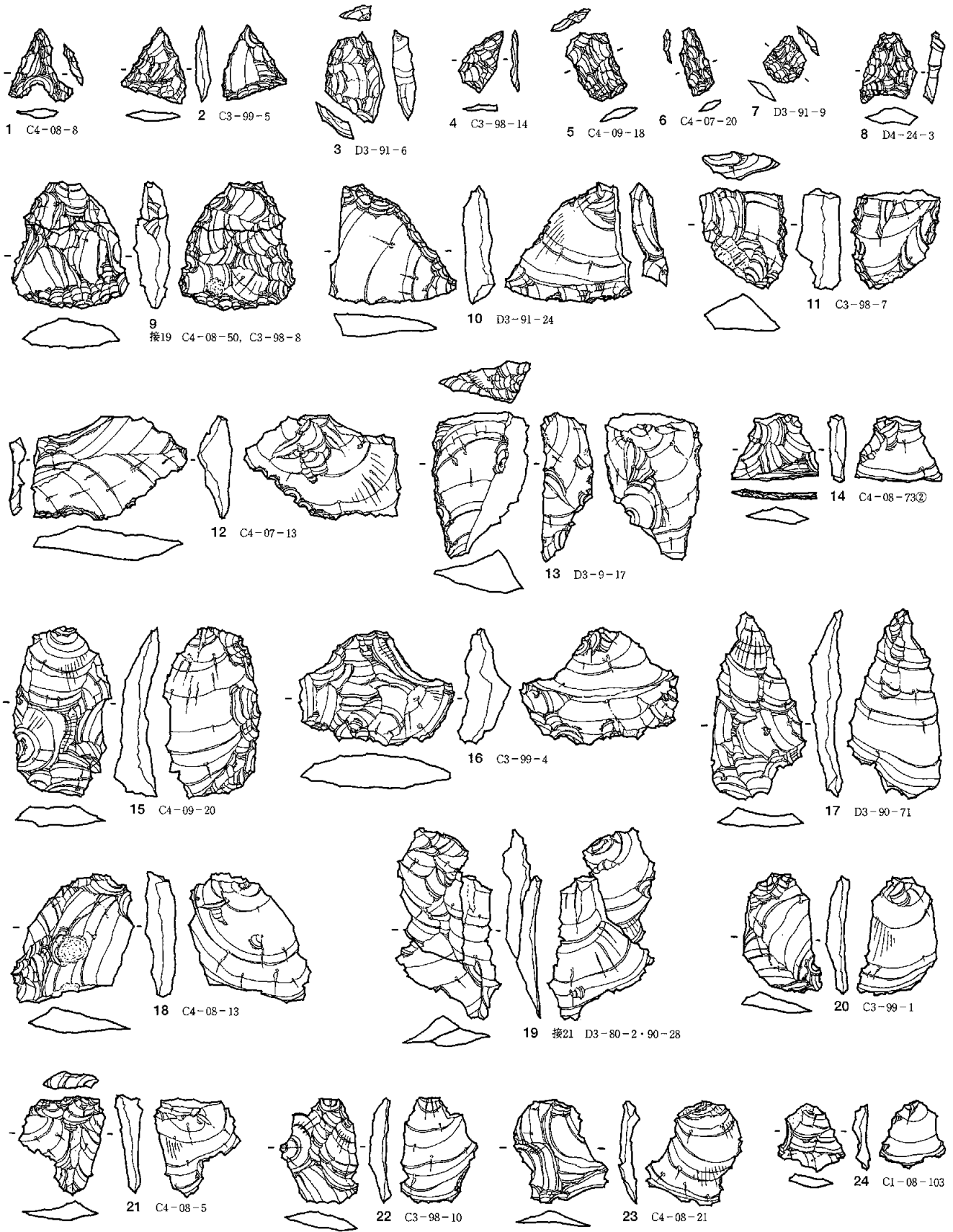
石材構成 黒曜石321点, その他の石材70点で黒曜石が主体を占めるブロックであるが, 礫が多いため他よりその他の石材の比率がやや高い。

遺物 1は黒曜石製の石鏃である。本体の一部が欠損している。もともと先端部は鋭く, 正三角形に近い形態の石鏃で基部の挟りはやや深い。調整は表裏とも比較的粗いが中程まで行われている。残全長1.70cm, 幅1.50cm, 厚み0.22cm, 重量0.37gである。2は黒曜石製の石鏃である。基部側の形がやや不均衡なためあるいは未製品である可能性もある。表裏ともに旧剥離面を大きく残しながら周辺に細かい調整を

施している。全長1.77cm, 幅1.45cm, 厚み0.28cm, 重量0.57gである。3は黒曜石製の石鏃未製品である。先端部は欠損, 基部側も折断面が残されている。おそらく石鏃に加工途中で折れてしまったものと思われる。表裏ともに旧剥離面を中程に残しながら周辺部にやや細かい調整を行っている。残全長2.10cm, 幅1.40cm, 厚み0.45cm, 重量1.40gである。4は黒曜石製の石鏃片である。先端部～胴部の一部と思われる。表裏とも比較的細かい調整が施されている。残全長1.45cm, 幅0.85cm, 厚み0.18cm, 重量0.23gである。5は黒曜石製の石鏃片である。片脚部のみ残存しているものと思われる。表裏とも比較的丁寧な調整が行われている。残全長1.58cm, 幅1.10cm, 厚み0.20cm, 重量0.49gである。6は黒曜石製の石鏃片である。片脚部のみ残存しているものと思われる。表裏とも比較的丁寧な調整が行われている。残全長1.55cm, 幅0.60cm, 厚み0.20cm, 重量0.20gである。7は黒曜石製の石鏃片である。胴部の一部のみ残存している。表裏とも比較的丁寧な調整が行われている。残全長1.00cm, 幅0.85cm, 厚み0.20cm, 重量0.25gである。8は黒曜石製の石鏃である。右側側縁に沿って縦方向に一部折れている。もともと正三角形に近い形状で基部の挟りが比較的浅いものと思われる。表裏とも細かく丁寧な調整が施されている。残全長1.63cm, 幅1.22cm, 厚み0.35cm, 重量0.88gである。9は接合資料19でもともと1個の黒曜石製の削器が折れたものと思われる。南西部の集中部で4m程離れた地点で接合している。先端部側の縁辺部分に細かい剥離で刃部を作り出している。使用して折れたものと思われる。10は黒曜石製の削器と思われる。比較的厚みのある大形剥片で左縁辺部は折断されている。打面から右側縁辺部に沿ってやや大きめの剥離で規則的に調整を施し, 刃部を作り出している。先端部側にもやや不連続な刃こぼれ状の小剥離痕が残されている。全長2.80cm, 幅2.83cm, 厚み0.55cm, 重量5.09gである。11は黒曜石製の剥片と思われるものである。厚みのある剥片で打面部は折断されている。右側縁部に沿って細かい調整が規則的に施されている。左側縁部はやや大きめの剥離面が残されている。全長2.30cm, 幅1.90cm, 厚み0.80cm, 重量4.13gである。12は黒曜石製の剥片である。横長のやや不整な剥片を使って先端部の幅広い縁辺部に沿って剥離痕が残されている。左側縁の一部は折断面を残している。全長2.40cm, 幅3.50cm, 厚み0.60cm, 重量5.12gである。13は黒曜石製の剥片である。厚みのある剥片の左側縁部に沿って大小不連続な剥離痕が残されている。また石核に転用されて剥片が剥がされたとも考えられる剥離面が2～3枚残されている。全長3.40cm, 幅2.15cm, 厚み1.00cm, 重量7.40gである。14は黒曜石製の台形状の小剥片である。表裏面ともに小剥離痕を少し入れてある。石鏃の未製品とも考えられる。全長1.55cm, 幅2.00cm, 厚み0.30cm, 重量1.03gである。15は黒曜石製の剥片である。縦長の大型剥片で右側縁部にやや不規則な剥離痕が多数見られる。全長3.90cm, 幅2.15cm, 厚み0.45cm, 重量6.03gである。16は黒曜石製の横長の剥片である。やや厚みのある剥片で先端部の縁辺部にやや不連続な小剥離痕が残されている。搔器になるかもしれない。全長2.60cm, 幅3.50cm, 厚み0.80cm, 重量6.85gである。17は黒曜石製の縦長の剥片で先端部がやや広がりのある剥片である。剥離された時点で逆方向の剥離面も形成されてものと思われる。縁辺部は比較的薄いものの微細剥離痕等は認められない。全長4.30cm, 幅2.10cm, 厚み0.47cm, 重量3.73gである。18は黒曜石製の剥片である。背面には右横方向からの剥離面が残されている。打撃面側の縁辺部に調整痕とおぼしき小剥離が認められる。全長2.90cm, 幅2.40cm, 厚み0.60cm, 重量4.49gである。19は接合資料21でブロックの北東部分の密な部分で接合しているものである。黒曜石製の縦長剥片が2枚接合している。使用痕と思われるような顕著な微細剥離痕等は認められない。20は黒曜石製の縦長の剥片である。背面には下斜め方向からの剥離面2面が残されている。打面部は調整されている。先端部の縁辺部側には若干の微細剥離痕等が認められる。全長2.72cm, 幅1.63cm, 厚み0.40cm, 重量



第143図 出土状況・Cブロック (器種別)

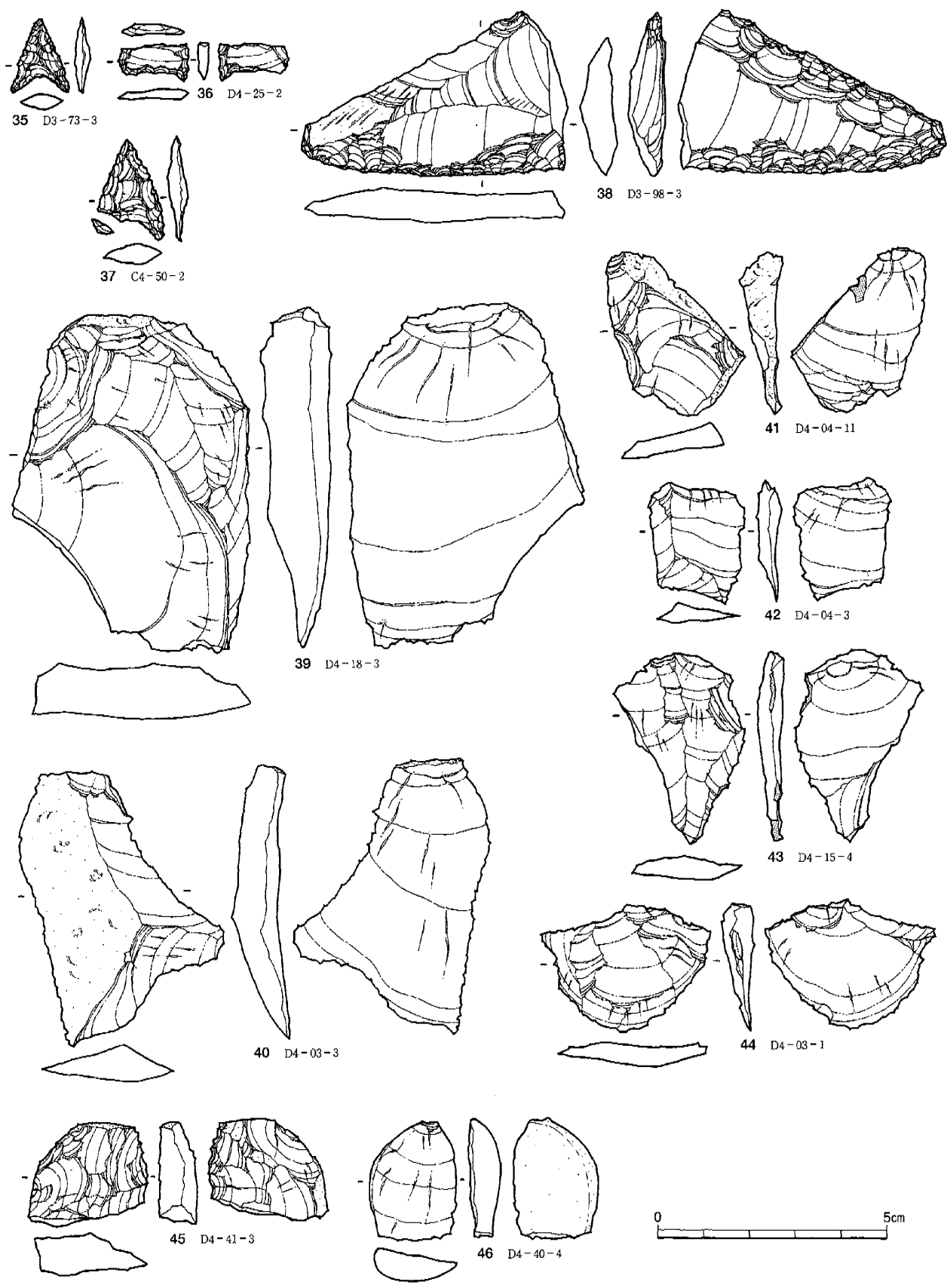


第144図 Cブロック出土石器 (1)



第145図 Cブロック出土石器(2)

2.08 gである。21は黒曜石製の不整な剥片である。背面は左横方向からと上方向からの剥離面が残されている。打面部は調整されている。縁辺部には微細剥離痕等は認められない。全長2.25cm, 幅1.83cm, 厚み0.45cm, 重量1.54 gである。22は黒曜石製のやや不整な縦長の剥片である。背面には上・左横方向からの剥離面が残されている。縁辺部には若干の微細剥離痕等が残されている。全長2.42cm, 幅1.70cm, 厚み0.40cm, 重量1.34 gである。23は黒曜石製のやや不整な縦長の剥片である。背面には左右両方向からの剥離面が残されている。先端部の縁辺部には小剥離痕が残されている。全長2.40cm, 幅1.80cm, 厚み0.30cm, 重量1.34 gである。24は黒曜石製の小剥片である。打面部に一部原礫面が残されている。左縁辺部には微細剥離痕が残されている。全長1.53cm, 幅1.55cm, 厚み0.25cm, 重量0.50 gである。25は黒曜石製の横長の剥片である。厚みのある剥片で石核として転用していると思われる。断面部分が剥離面となっている。縁辺部には微細剥離痕が残されている。全長2.55cm, 幅3.15cm, 厚み1.30cm, 重量8.40 gである。26は黒曜石製の剥片である。打撃面と左側縁部分を折断して使用しているものと思われる。先端部側の縁辺部には微細剥離痕



第146図 Cブロック出土石器(3)

等が認められる。全長1.81cm, 幅2.90cm, 厚み0.60cm, 重量3.84gである。27は縦長の剥片である。左側縁部は縦方向に折断している。右側縁部には不規則な微細剥離痕が認められる。全長3.33cm, 幅1.65cm, 厚み0.45cm, 重量2.91gである。28は黒曜石製の剥片である。打撃面側から左側縁部にかけては比較的規則的な剥離痕が残されている。右側縁部は折断面が残されている。石核に転用された可能性もある。全長2.60cm, 幅2.05cm, 厚み0.80cm, 重量3.68gである。29は黒曜石製の縦長剥片で厚みのあるものである。側面, 打撃面, 主剥離面には石核として転用されたための剥離面が残されている。全長2.53cm, 幅2.05cm, 厚み1.05cm, 重量6.28gである。30は黒曜石製の剥片である。接合資料42で背面側には大きく原礫面を残す。両側縁は石核転用されて剥離されたものと思われる。31は黒曜石製の剥片である。背面には大きく原礫面を残す。右側縁辺部は折断面が残されている。縁辺部等には微細剥離痕等は残されていない。全長3.10cm, 幅1.70cm, 厚み0.45cm, 重量4.16gである。32は黒曜石製の剥片である。背面はほぼ原礫面で覆われている。厚みのある剥片で縁辺部等には微細剥離痕等は認められない。全長2.50cm, 幅2.10cm, 厚み0.88cm, 重量4.10gである。33は接合資料20でブロックの北東部分で接合した黒曜石製の剥片と石核(大形剥片の転用)である。34は黒曜石製のやや不整な縦長の剥片である。背面は上方向からの剥離面と原礫面で構成されている。縁辺部と先端部には微細剥離痕が大きく残されている。全長2.75cm, 幅2.40cm, 厚み0.50cm, 重量3.10gである。35はチャート製の石鏃である。正三角形に近い形状で基部の抉りはやや深い。表裏ともにやや大きめの調整ではあるが丁寧に仕上げている。全長1.63cm, 幅1.30cm, 厚み0.30cm, 重量0.38gである。36はチャート製の石鏃片である。基部のみ残存している。もともと正三角形に近い形状で基部の抉りは浅い。表裏とも周辺のみ小剥離で調整されている。残全長0.88cm, 幅1.65cm, 厚み0.20cm, 重量0.40gである。37はチャート製の石鏃である。片脚部のみ欠損している。二等辺三角形に近い形状で基部の抉りが比較的浅い。表裏とも比較的大きめであるが丁寧に調整されている。全長2.22cm, 幅1.90cm, 厚み0.40cm, 重量0.84gである。38は頁岩製の搔器である。縦長の剥片の両側縁に連続的な小剥離を入れて刃部を作り出している。打撃面は折断面が残されている。全長3.60cm, 幅5.75cm, 厚み0.75cm, 重量14.75gである。39は安山岩A製の大型剥片である。背面には左方向から複数の剥離面が残されている。縁辺部等には微細剥離痕等は認められない。全長7.40cm, 幅5.10cm, 厚み1.25cm, 重量61.31gである。40は安山岩A製の縦長の剥片である。背面には上方向からと右方向からの剥離面2面と原礫面が残されている。縁辺部には微細剥離痕等が残されている。全長6.00cm, 幅6.00cm, 厚み0.85cm, 重量16.46gである。41は安山岩A製の縦長の不整な剥片である。背面には左方向からと下方向からの剥離面2面と原礫面が一部残されている。縁辺部等には微細剥離痕等は見られない。全長3.60cm, 幅2.60cm, 厚み0.60cm, 重量5.77gである。42は安山岩A製の剥片である。背面には上方向からの剥離面が複数残されている。縁辺部等には微細剥離痕等は残されていない。全長2.70cm, 幅2.10cm, 厚み0.50cm, 重量2.27gである。43は安山岩A製の縦長の剥片である。背面には上方向からの剥離面が2~3面残されている。縁辺部等には微細剥離痕等は残されていない。全長4.20cm, 幅2.50cm, 厚み0.57cm, 重量5.19gである。44は安山岩A製の扇形の横広の剥片である。背面には上方向からの剥離面が残されている。縁辺部等には微細剥離痕等は残されていない。全長2.80cm, 幅3.65cm, 厚み0.50cm, 重量5.37gである。45はチャート製の両極石器(剥片)である。右縁辺部には石器製作途中と思われる調整痕が残されている。全長2.25cm, 幅2.50cm, 厚み0.85cm, 重量6.89gである。46はチャート製の楕円礫を分割した両極石器(剥片)である。縁辺部等には微細剥離痕等は認められない。全長2.60cm, 幅1.90cm, 厚み0.68cm, 重量4.44gである。

7 縄文時代早期のDブロック (第147~155図1~140, 図版79~84, 第14・18表)

出土状況 調査区の北東側に位置する。D1-90・91グリッドを中心とする径10mの集中範囲 (D-1群), とC2-46グリッドを中心に径6m程に密集する範囲 (D-2群), D3-32・41・42グリッドを中心とする径15m程の集中範囲 (D-3群), C2-78・79・88・98・99グリッドを中心にやや粗く分布する範囲 (D-4群) の4か所がある。各々同士の関係は接合関係などから判断すると独立性が強いと思われる。

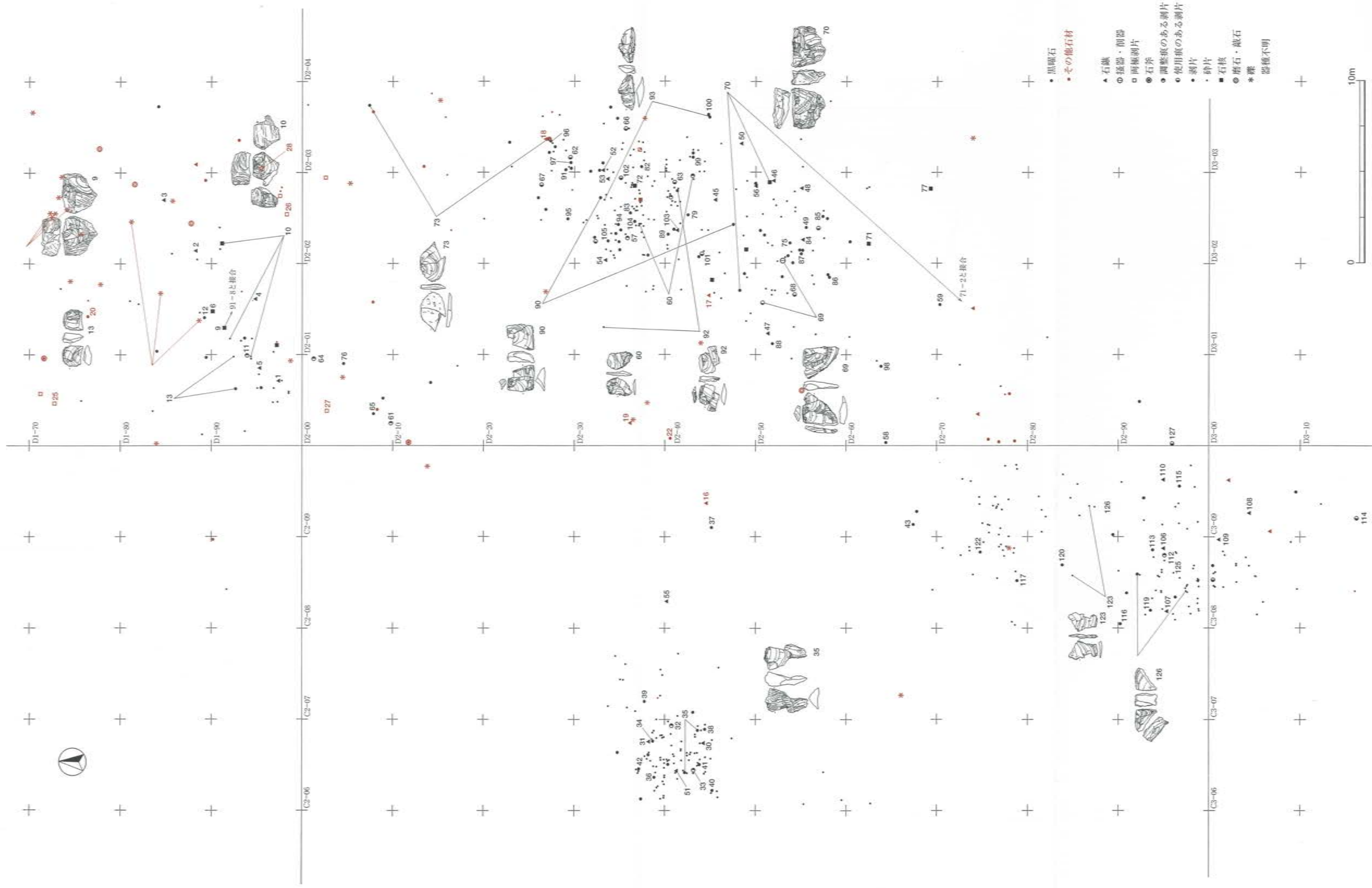
器種構成 石鏃39点, 石核12点, 削器類1点, 磨石3点, 両極石器6点, 敲石4点, 剥片157点, 碎片451点, 礫42点で構成される。

石材構成 黒曜石685点, その他の石材183点で黒曜石が主体を占めるブロックである。

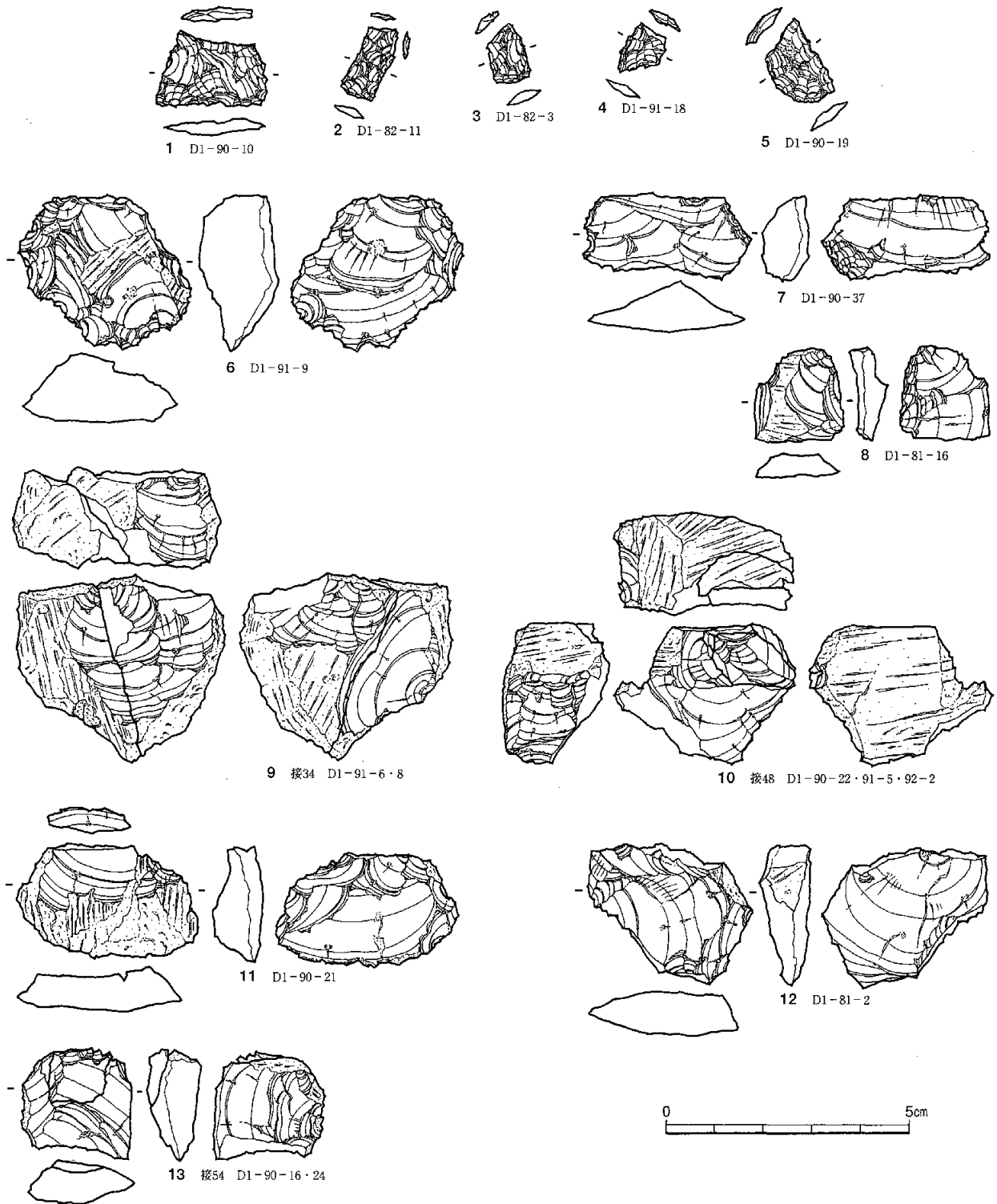
遺物 (D-1群) 1は黒曜石製の石鏃である。先端部が欠損している。もともと先端部は鋭く, 正三角形に近い形状の石鏃で基部の挟りはない。調整は表裏とも比較的粗く中程まで及んでいない。残全長1.55cm, 幅2.30cm, 厚み0.30cm, 重量1.13gである。2は黒曜石製の石鏃片である。胴部と脚部の一部が残存している。形状は不明である。調整は表裏とも比較的細かい調整が施されている。残全長1.40cm, 幅0.80cm, 厚み0.18cm, 重量0.34gである。3は黒曜石製の石鏃片である。胴部の一部が残存している。形状は不明である。表裏とも細かい調整が残されている。残全長1.28cm, 幅0.80cm, 厚み0.20cm, 重量0.25gである。4は黒曜石製の石鏃片である。胴部から脚部の一部が残存している。形状は不明であるが, 基部の挟りはややあるのではないかとと思われる。表裏とも比較的細かい調整が施されている。残全長1.05cm, 幅0.80cm, 厚み0.18cm, 重量0.16gである。5は黒曜石製の石鏃片である。胴部から脚部にかけて残存している。形状は不明であるが, 基部の挟りはややあるのではないかとと思われる。表裏とも比較的細かい調整が施されている。残全長1.70cm, 幅1.05cm, 厚み0.23cm, 重量0.55gである。6は黒曜石製の石核である。比較的厚みのある剥片を使用して全周にわたって比較的小規模の剥片剥離を行っている。全長3.22cm, 幅3.40cm, 厚み1.45cm, 重量14.21gである。7は黒曜石製の横長の剥片である。剥片の両側縁部に沿って使用痕と思われる微細剥離痕等が認められる。全長1.80cm, 幅3.30cm, 厚み1.05cm, 重量5.19gである。8は黒曜石製の剥片である。背面には原礫面が残されている。裏面の左側縁部に沿って剥離痕が残されており石鏃等の石器の加工途中ではないかと思われる。全長1.97cm, 幅1.80cm, 厚み0.50cm, 重量2.05gである。9は接合資料34で黒曜石の石核と剥片が接合したものである。角礫を原石に使用して剥片剥離を行っているが, 礫面を大きく残していることからかなり初期の段階で割れてしまって廃棄されることがうかがわれる。10は接合資料48で黒曜石の最終段階の石核と剥片が接合した接合資料である。背面に大きく原礫面を残しており, これも原石として角礫が使用されることがうかがわれる資料である。11は黒曜石製の横長の剥片である。背面には上方向からの剥離面と原礫面が残されている。左右の縁辺部にはやや不連続な剥離痕が残されている。全長2.35cm, 幅3.60cm, 厚み0.87cm, 重量8.41gである。12は黒曜石製のやや不整は剥片である。打撃面側に一部原礫面が残されている。縁辺部等には微細剥離痕等は認められない。全長2.90cm, 幅3.30cm, 厚み0.90cm, 重量8.24gである。13は接合資料54で黒曜石製の剥片と碎片が接合するものである。背面に右方向から剥離されている碎片として接合している。14はチャート製の石鏃である。先端部と脚部の一部が欠損している。表裏ともに周辺部分を調整している。基部の挟りはない。残全長1.73cm, 幅1.53cm, 厚み0.30cm, 重量0.91gである。15はチャート製の石鏃である。二等辺三角形に近い形状で基部の挟りがやや深い。調整は表裏ともに基部付近に旧剥離面を残すものの縁辺部を中心に細かい剥離で丁寧に行われている。全長3.38cm, 幅2.30cm, 厚み0.42cm, 重量2.37gである。16は安山岩A製の石鏃である。やや細身の二

等辺三角形に近い形状で基部の抉りは浅い。調整は表裏面ともに基部付近に旧剥離面を残すものの縁辺部を中心に細かい剥離で丁寧に行われている。全長2.80cm, 幅1.55cm, 厚み0.35cm, 重量1.31gである。17はメノウ製の石鏃である。縁辺部がややふくらみ五角形に近い形状である。基部の抉りは浅い。調整は表裏面ともに全面に細かい剥離で丁寧に行われている。全長3.05cm, 幅1.75cm, 厚み0.40cm, 重量2.08gである。18は流紋岩製の石鏃である。二等辺三角形に近い形状で基部の抉りはない。調整は表裏面ともに全面に細かい剥離で丁寧に行われている。全長2.48cm, 幅1.70cm, 厚み0.47cm, 重量1.45gである。19はチャート製の石鏃である。片脚が欠損している。やや横広がり二等辺三角形に近い形状で基部の抉りは比較的深い。調整は表裏面ともに全面に細かい剥離で丁寧に行われている。全長2.70cm, 幅2.00cm, 厚み0.40cm, 重量1.93gである。20は頁岩製の厚みのあるやや不整な縦長剥片である。左側縁部上半部には微細剥離痕, 下半部は折断面が残されている。全長4.80cm, 幅3.10cm, 厚み0.87cm, 重量17.32gである。21は石英製の剥片である。打面部と先端部に打撃痕がある。全長1.95cm, 幅1.90cm, 厚み0.33cm, 重量1.65gである。22はメノウ製のやや斜め縦長の剥片である。背面は上方向からの剥離面3面で構成されている。縁辺部等には微細剥離痕等は認められない。全長1.90cm, 幅1.70cm, 厚み0.50cm, 重量2.07gである。23は石材不明の台形に近い形状の剥片である。背面には左横方向からの剥離面2面が残されて, 左下半の側縁部は折断されている。右側縁部に沿って比較的大きめの剥離面が規則的に残されている。全長3.60cm, 幅3.20cm, 厚み0.50cm, 重量5.76gである。24はチャート製のやや不整な縦長剥片である。背面には上方向からと左横方向からの剥離面が残されている。左側縁部と先端部右側の縁辺部に沿って小剥離痕が残されている。全長3.40cm, 幅2.02cm, 厚み0.35cm, 重量3.84gである。25はチャート製の両極石器(剥片)である。両設打面により剥離されたと考えられ上下からの剥離痕が残されている。縁辺部等には微細剥離痕等は認められない。全長4.10cm, 幅1.70cm, 厚み0.80cm, 重量7.56gである。26は安山岩A製の両極石器(剥片)である。背面に下からの剥離面と原礫面が残されている。全長2.50cm, 幅1.30cm, 厚み0.70cm, 重量2.88gである。27は安山岩A製の両極石器(石核)である。打面部と先端部に打撃痕がある。全長3.70cm, 幅1.40cm, 厚み0.90cm, 重量6.43gである。28は安山岩A製の石器未製品である。石鏃もしくは石錐などの石器を製作途中で廃棄されてような感がある。全長2.33cm, 幅2.03cm, 厚み0.80cm, 重量3.92gである。29はチャート製の礫器(石斧?)である。礫を半割して背面側から調整を入れて刃部を作り出している。全長7.55cm, 幅7.18cm, 厚み2.85cm, 重量187.63gである。

(D-2群)30は黒曜石製の石鏃である。片脚が欠損している。正三角形の形状で基部の抉りはほとんどない。表面は細かい調整が中央部分まで及ぶ。裏面は周辺部分のみ細かい調整を施し形状を整えているため中央部分に旧剥離面が残る。残全長1.85cm, 幅1.40cm, 厚み0.27cm, 重量0.68gである。31は黒曜石製の石鏃である。正三角形の形状に近く基部の抉りが浅い。表裏面ともにやや細かい調整が施されている。全長1.45cm, 幅1.40cm, 厚み0.18cm, 重量0.35gである。32は黒曜石製の剥片で石核として転用されている。縁辺部に一部原礫面が残されている。また先端部側に連続的な剥離痕が残されている。打撃面, 先端部側とも折断面が残されている。全長1.60cm, 幅2.90cm, 厚み0.85cm, 重量3.87gである。33は黒曜石製の剥片である。表裏ともに多方位からの剥離面が残されている。背面側には一部原礫が残されている。右側縁部には搔器に転用された小剥離痕が認められる。全長2.63cm, 幅3.05cm, 厚み1.20cm, 重量11.45gである。34は黒曜石製の石鏃未製品である。正三角形に近い形状で右側面に原礫面をわずかに残す。調整は周辺部をわずかに剥離して終えている。製作途中で廃棄したかどうかは不明である。全長1.55cm, 幅2.00cm, 厚み

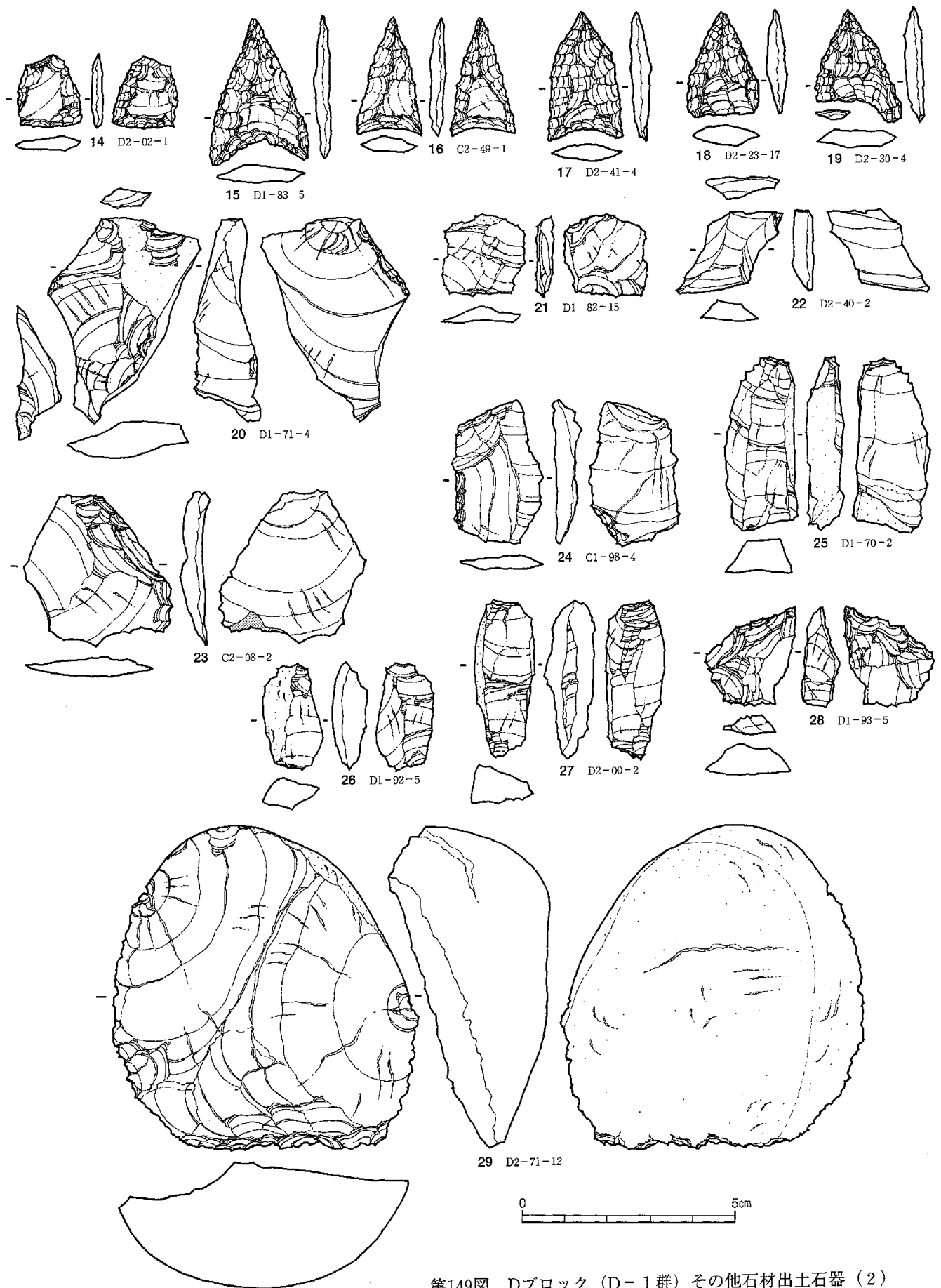


第147図 出土状況・Dブロック (器種別)



第148図 Dブロック (D-1群) 出土石器 (1)

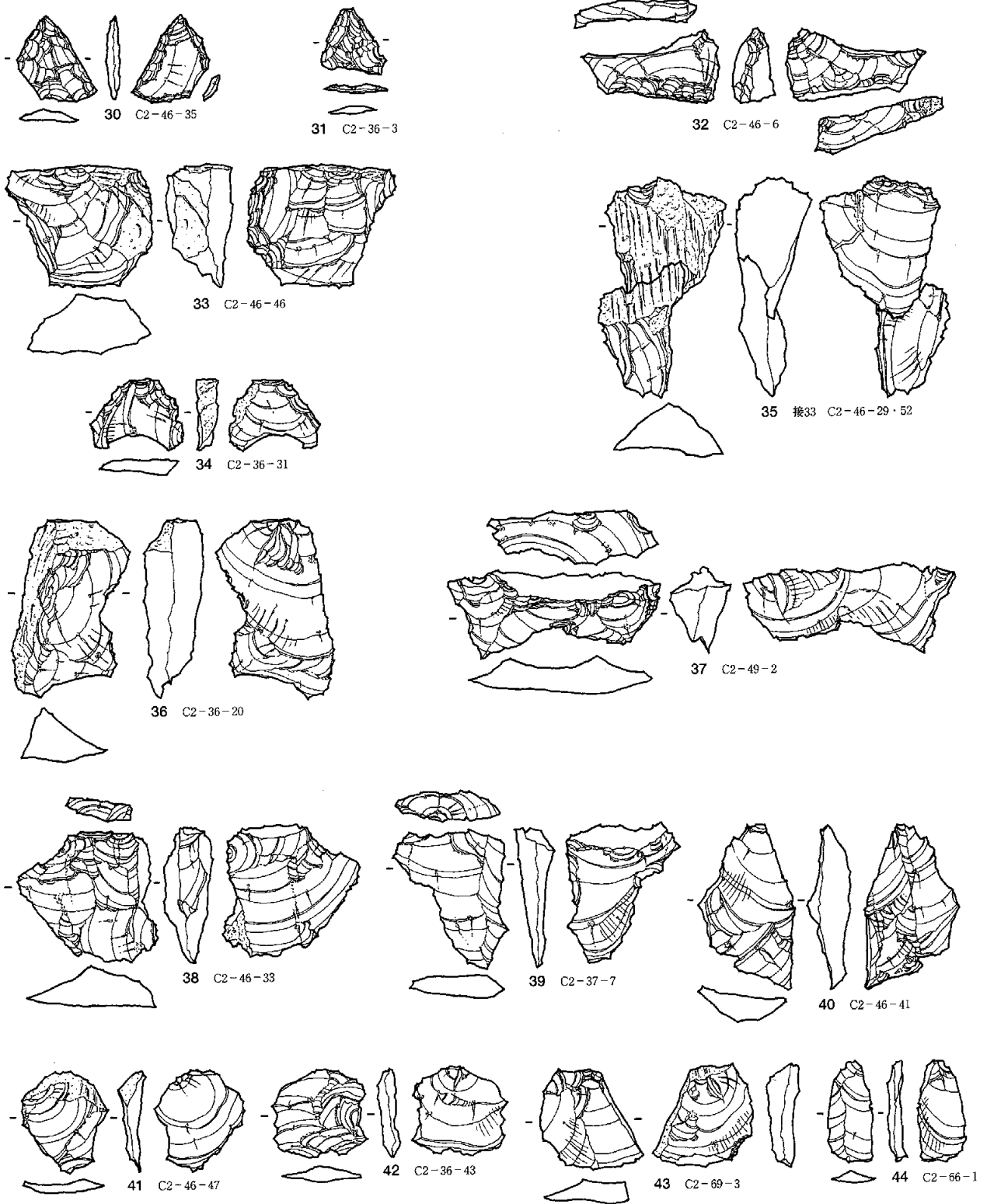
0.33cm, 重量1.18gである。35は接合資料33で黒曜石の剥片が2点接合したものである。下方の剥片は左側面から剥がされており、その後上方向からの剥離がおこなわれたものと思われる。いずれの剥片とも背面に大きく原礫面が残されている。36は黒曜石製の縦長剥片で厚みのあるものである。背面には右方向に2枚の剥離面が残されている。打面側と左側縁側は大きく礫面で覆われている。角礫を石核として使用して



第149図 Dブロック (D-1群) その他石材出土石器 (2)

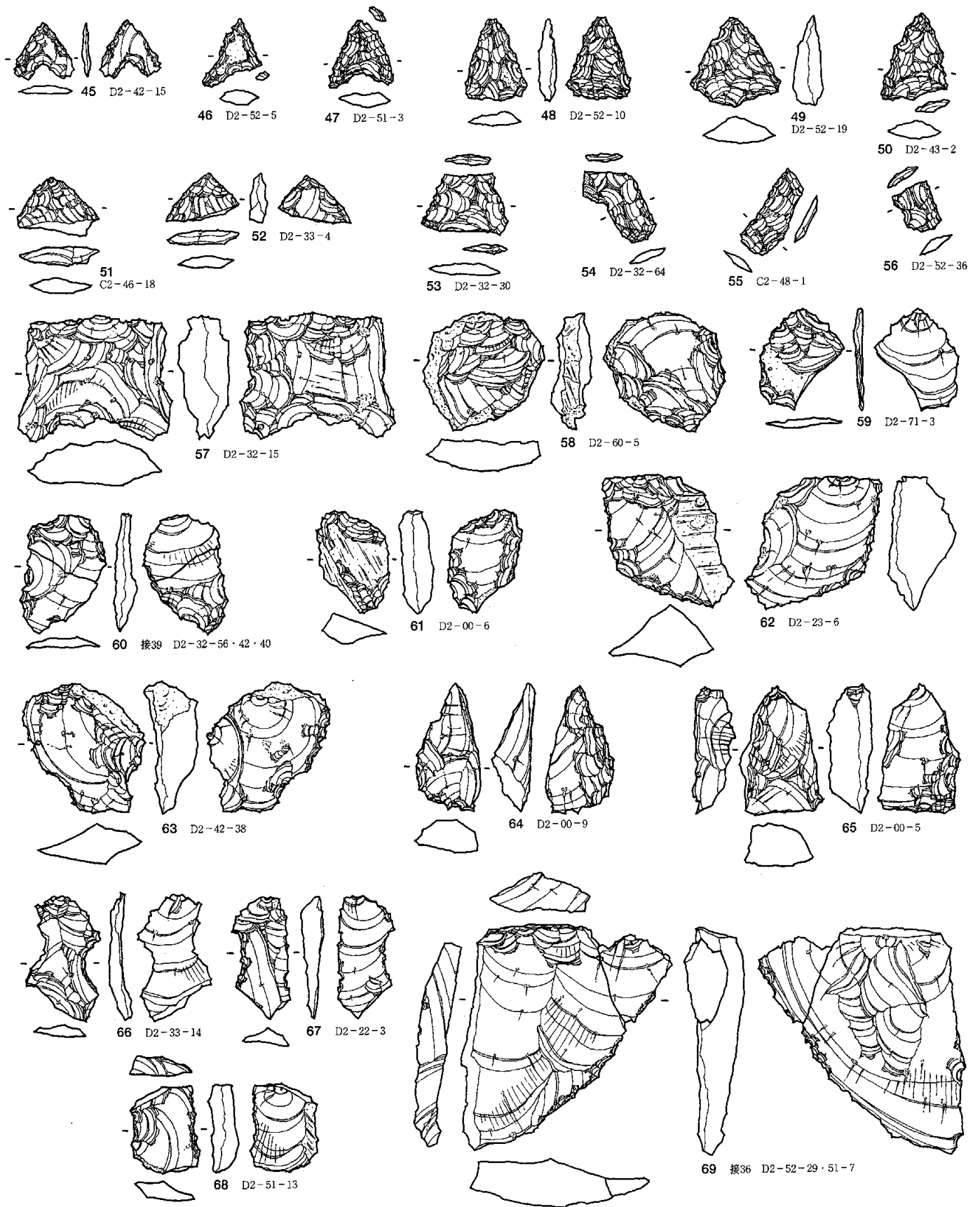
いたことがうかがわれる資料である。右縁辺部には微細剥離痕が残されている。全長3.83cm, 幅2.15cm, 厚み1.10cm, 重量7.76gである。37は黒曜石製の剥片で打面部側が折断されているため横長になっている。背面に2～3面の剥離面が残されているため石核に転用された可能性もある。縁辺部には微細剥離痕等は認められない。全長1.90cm, 幅4.50cm, 厚み0.80cm, 重量5.80gである。38は黒曜石製のやや横広の剥片である。打撃面は調整された面を使用している。背面は上からの剥離面2面, 右からの剥離面1面が残されている。右側縁部の一部は剥片剥離時に折断されている。縁辺部等には微細剥離痕は認められない。全長2.80cm, 幅2.80cm, 厚み0.90cm, 重量6.48gである。39は黒曜石製のやや不整な縦長の剥片である。打撃面は調整された面を使用している。背面は上からの剥離面2面で構成されている。縁辺部に微細剥離痕等は認められない。全長2.95cm, 幅2.40cm, 厚み0.50cm, 重量3.01gである。40は黒曜石製の縦長の不整な剥片である。背面には主剥離面と同方向からの剥離面のみ残されている。縁辺部等には微細剥離痕等は認められない。全長3.50cm, 幅2.00cm, 厚み0.60cm, 重量3.62gである。41は黒曜石製の剥片である。打面部には原礫面が少し残されている。背面には主剥離面と同方向からの剥離面のみ残されている。縁辺部等には微細剥離痕等は認められない。全長2.15cm, 幅1.85cm, 厚み0.23cm, 重量1.17gである。42は黒曜石製の剥片である。背面には下方向からと右方向からの剥離面が複数残されている。縁辺部等には微細剥離痕等は認められない。全長1.90cm, 幅2.00cm, 厚み0.33cm, 重量1.41gである。43は黒曜石製の剥片である。背面は主剥離面と同方向からの剥離面2面が残されている。右側縁部は縦方向に折断されている。縁辺部等には使用痕とおぼしき小剥離痕は残されていない。全長2.17cm, 幅1.90cm, 厚み0.48cm, 重量2.75gである。44は黒曜石製の縦長の小剥片である。縁辺部は薄く刃器として使用可能であるが, 使用痕等の微細剥離痕等は認められない。全長2.20cm, 幅0.95cm, 厚み0.25cm, 重量0.53gである。

(D-3群)45は黒曜石製の石鏃である。正三角形に近い形状で基部の抉りは深い。表裏面とも縁辺部を細かく剥離して調整しており, 中程は旧剥離面をそのまま残す。全長1.33cm, 幅1.40cm, 厚み0.20cm, 重量0.29gである。46は黒曜石製の石鏃で片脚が欠損している。もともと正三角形に近い形状で基部の抉りはやや深い。表裏面とも縁辺部を細かく剥離して調整しており, 中央部分には旧剥離面を大きく残す。残全長1.65cm, 幅1.10cm, 厚み0.38cm, 重量0.50gである。47は黒曜石製の石鏃で先端部の一部を欠損する。正三角形に近い形状で基部の抉りはやや深い。表裏面とも縁辺部から中央部分まで細かく剥離して調整している。残全長1.60cm, 幅1.53cm, 厚み0.33cm, 重量0.67gである。48は黒曜石製の石鏃である。二等辺三角形に近い形状で基部の抉りはない。表裏面とも縁辺部から中央部分まで細かく剥離して調整している。全長1.98cm, 幅1.50cm, 厚み0.38cm, 重量1.00gである。49は黒曜石製の石鏃である。形状はほぼ正三角形に近く, 基部はどちらかという凸基状である。あるいは基部側が厚いため調整を途中で止めたかもしれない。表裏面とも縁辺部から中央部分まで細かく剥離して調整している。全長2.10cm, 幅2.10cm, 厚み0.65cm, 重量2.28gである。50は黒曜石製の石鏃である。基部の右側が一部欠損している。形状は二等辺三角形に近く, 基部の抉りはほとんどないと思われる。表裏面とも縁辺部から中央部分まで細かく剥離して調整してある。全長2.10cm, 幅1.50cm, 厚み0.40cm, 重量1.23gである。51は黒曜石製の石鏃片である。先端部のみ残存している。形状, 基部の抉りは不明である。表裏面とも残存部分の調整は細かい剥離が施されている。残全長1.40cm, 幅1.90cm, 厚み0.40cm, 重量0.93gである。52は黒曜石製の石鏃片である。先端部のみ残存している。形状, 基部の抉りは不明である。表面は比較的細かい剥離で調整されているが, 裏面は縁辺部のみ調整されていて中央部分は旧剥離面を残している。残全長1.20cm, 幅1.60cm, 厚み0.30cm, 重量0.59



第150図 Dブロック (D-2群) 出土石器

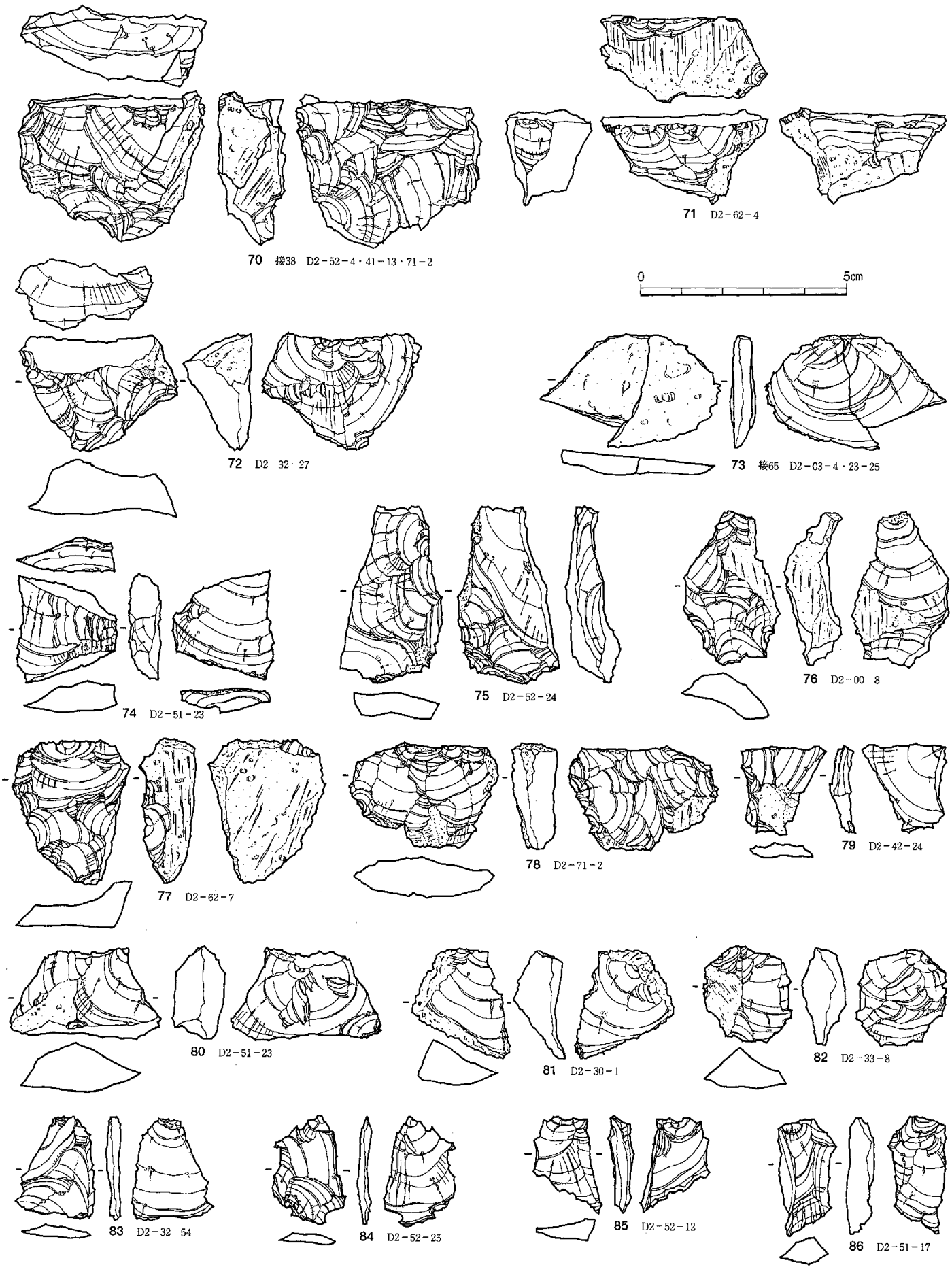
gである。53は黒曜石製の石鏃である。先端部と基部の一部が欠損している。もともと二等辺三角形に近い形状で基部の抉りはないものと思われる。表裏面とも細かい剥離で調整されている。残全長1.43cm, 幅2.05cm, 厚み0.30cm, 重量0.95gである。54は黒曜石製の石鏃片である。片脚部と胴部の一部が残存している。形状は不明であるが基部の抉りは深い。残存部分は細かい剥離で調整されている。残全長1.70cm, 幅1.40cm, 厚み0.20cm, 重量0.61gである。55は黒曜石製の石鏃である。片脚が欠損している。もともと正三角形の形状で基部の抉りはやや深い。表裏面とも細かい剥離で調整されている。56は黒曜石製の石鏃片である。片脚部のみ残存している。形状は不明であるが基部の抉りは深い。残存部分は細かい剥離で調整されている。残全長2.07cm, 幅1.00cm, 厚み0.20cm, 重量0.48gである。57は黒曜石製の剥片もしくは石鏃等の未製品ではないだろうか。縁辺部をかなり調整しており、石鏃の基部らしき形状となっている。ただし厚みがあり、はっきりしたことは判らない。全長2.90cm, 幅3.55cm, 厚み1.07cm, 重量11.87gである。58は黒曜石製の剥片である。礫面を一部残す剥片で裏面の縁辺部に沿って小剥離を施している。石鏃等の小形の石器の未製品である可能性もある。全長2.77cm, 幅2.75cm, 厚み0.75cm, 重量6.62gである。59は黒曜石製の剥片で石鏃等の未製品とも思われるものである。縦長剥片の縁辺部の調整を行っている途中で折れてしまったような感じである。全長2.40cm, 幅1.90cm, 厚み0.20cm, 重量0.80gである。60は接合資料39で黒曜石製の縦長剥片が中程で折れたものが接合しており、表裏面に石錐か石鏃等を製作しようとしたと思われる多数の調整痕が残されている。61は黒曜石製の剥片と思われる。背面に礫面を残す縦長剥片の両側縁と打面部側に比較的規則的な小剥離を施している。全長2.45cm, 幅1.60cm, 厚み0.65cm, 重量3.19gである。62は黒曜石製の剥片である。大形でやや縦長の剥片で厚みがある。背面には大きく原礫面が残されて、左側縁部に広く微細剥離痕が残されている。また裏面には2枚の大きい剥離面が認められる。石核として転用されたのかもしれない。全長3.17cm, 幅2.65cm, 厚み1.37cm, 重量9.63gである。63は黒曜石製のやや縦長な不整な剥片である。打撃面側に原礫面が残されている。背面の右側の大きく、左側縁辺部に沿って細かい剥離が認められる。剥片そのものが比較的厚みがあり、石核転用した可能性もある。全長3.10cm, 幅2.75cm, 厚み1.00cm, 重量7.90gである。64は黒曜石製の剥片で石鏃未製品かもしれない。そうだとすれば製作途中で折れてしまったものである可能性が高い。縁辺部に細かい剥離で調整されている。全長3.02cm, 幅1.53cm, 厚み0.80cm, 重量3.30gである。65は黒曜石製の縦長の剥片である。打面は調整されている。裏面に左右からの調整痕と思われる小剥離が残されている。全長3.07cm, 幅1.80cm, 厚み1.00cm, 重量6.39gである。66は黒曜石製の剥片である。縦長剥片の右側縁部がアーチ状にくぼむように微細剥離痕が形成されている。使用された結果であろう。全長3.00cm, 幅1.55cm, 厚み0.30cm, 重量1.46gである。67は黒曜石製の剥片である。縦長剥片の左側縁部がアーチ状にややくぼむように微細剥離痕が形成されている。66に似た印象のあるものである。似た用途で使用されてのものであろうか。全長2.90cm, 幅1.35cm, 厚み0.28cm, 重量1.32gである。68は黒曜石製の剥片である。背面には左横方向よりの剥離面1面が残されている。剥片の右側縁部に沿って微細剥離痕が残されており、使用痕であろうか。全長2.07cm, 幅1.62cm, 厚み0.43cm, 重量1.97gである。69は接合資料36でD-3群の中で近接して接合しており、状況からして使用されていて折れたため廃棄されたものと思われる。もともとは黒曜石製の大型の縦長剥片の右側縁部に連続的な微細剥離痕が残されているものである。70は接合資料38でD-3群のやや南よりでやや離れた状態で石核1点と小剥片2点が接合している。石核は一部に原礫面を残し、打面転移を繰り返しながら小剥片を剥離して廃棄されたものと思われる。71は黒曜石製の石核である。打撃面はほぼ原礫面であり、もともと小さな角礫状のも



0 5cm

第151図 Dブロック (D-3群) 出土石器 (1)

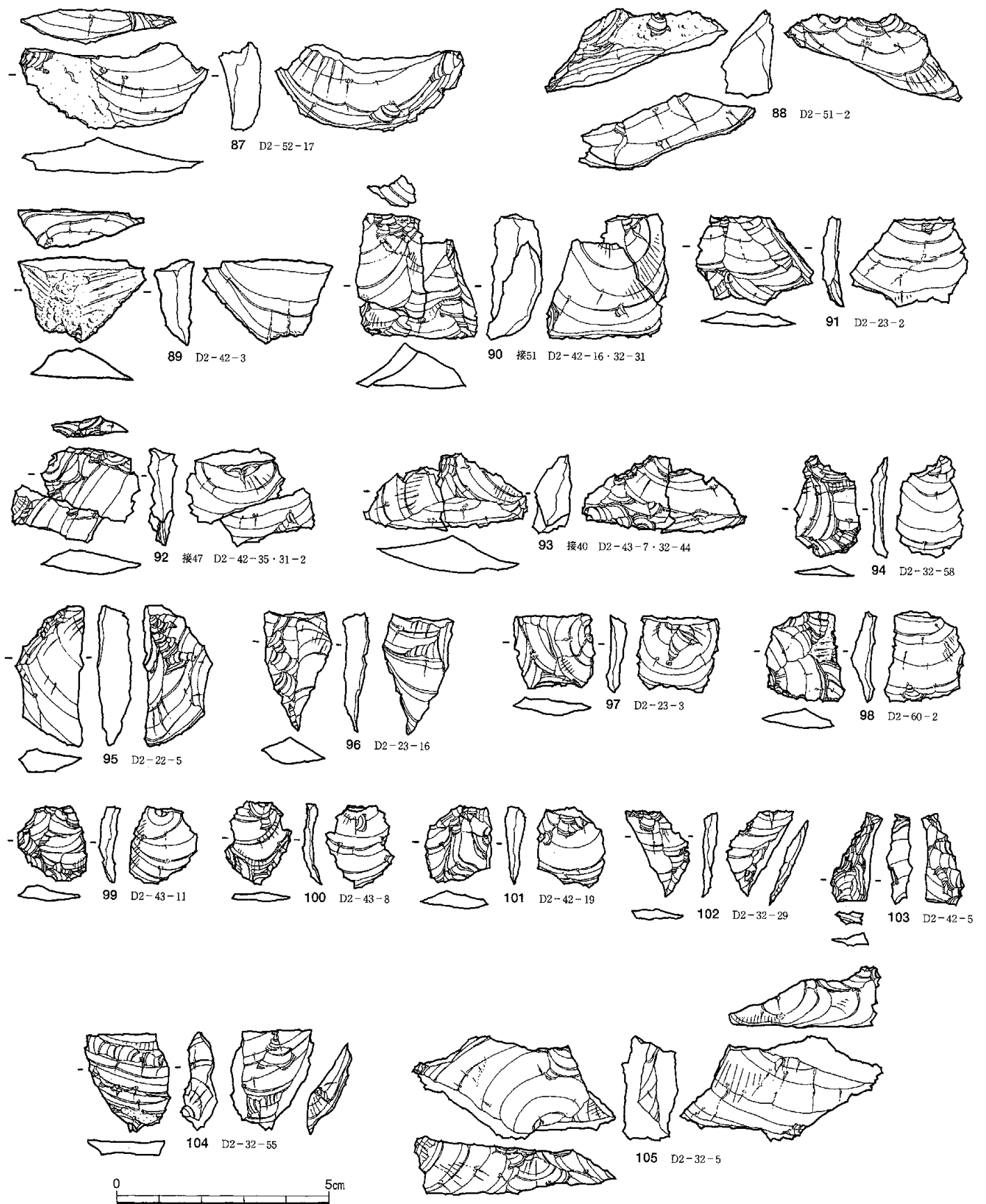
のを原石としていたと考えられ側面にも礫面が残されている。表側の剥離面から想像すると先端部の細長くなるやや縦長の剥片が剥がされたものと思われる。全長2.30cm, 幅4.05cm, 厚み2.10cm, 重量14.50gである。72は黒曜石製の石核である。厚みのある大形剥片を再利用して多方位から小剥片を剥離している。右側面には一部丸みのある原礫面が残されている。比較的丸みのある小礫が原石として選択された結果かもしれない。全長2.88cm, 幅3.60cm, 厚み1.35cm, 重量13.52gである。73は接合資料65でもともと1度の剥離で剥がされて黒曜石の横長の剥片である。背面はほぼ原礫面で覆われていることから剥片剥離の初期の段階で剥がされたものと思われる。74は黒曜石製の剥片である。打撃面側と先端部側に折断面が残されている。また先端部側の裏面縁辺部に微細剥離痕が認められる。全長2.60cm, 幅2.40cm, 厚み0.75cm, 重量4.69gである。75は黒曜石製の剥片である。縦長剥片で左側に折断面を有し, 先端部から右側縁部にかけてやや不規則な大小の剥離で調整が行われている。背面には一部原礫面が残されている。全長4.30cm, 幅2.25cm, 厚み0.55cm, 重量9.84gである。76は黒曜石製の剥片である。縦長剥片の先端部と左側縁部に小剥離痕が残されている。背面から右側面には原礫面が大きく残されており, 原石が大きいことが想像される。全長3.73cm, 幅2.37cm, 厚み0.80cm, 重量7.19gである。77は黒曜石製の石核である。背面が原礫面で覆われる縦長剥片を使用して周辺部より比較的大きな剥片剥離を行っている。全長3.45cm, 幅2.75cm, 厚み1.10cm, 重量10.33gである。78は黒曜石製の剥片である。背面の左側面にやや大きめの剥離で調整が行われている。表裏面ともに原礫面が少し残っていることから原石は比較的薄い板状の小角礫が使用されたものと思われる。全長2.55cm, 幅3.45cm, 厚み0.95cm, 重量9.88gである。79は黒曜石製の剥片である。背面には原礫面が残されている。剥片そのものが縦方向に折断された後に折断面に沿って比較的大きな剥離によって調整されている。全長2.13cm, 幅2.05cm, 厚み0.35cm, 重量1.67gである。80は黒曜石製の横長の剥片である。厚みのある剥片で背面に一部原礫面に覆われている。縁辺部等に微細剥離痕等は認められない。全長2.25cm, 幅3.10cm, 厚み1.18cm, 重量8.57gである。81は黒曜石製の剥片である。背面の左側縁には原礫面が残されている。右側縁部にはアーチ状にくぼむ微細剥離痕が残されている。使用痕と思われる。全長2.65cm, 幅2.20cm, 厚み1.00cm, 重量4.61gである。82は黒曜石製の剥片である。比較的厚みのある剥片で背面は上方向からの剥離面と原礫面で構成されている。縁辺部等には微細剥離痕等は認められない。全長2.38cm, 幅2.10cm, 厚み1.00cm, 重量4.19gである。83は黒曜石製の縦長剥片である。やや薄い剥片で背面には上下方向からの剥離面が複数残されている。縁辺部等には微細剥離痕等は認められない。全長2.50cm, 幅1.90cm, 厚み0.30cm, 重量1.21gである。84は黒曜石製の縦長の剥片である。背面には左横方向と下方向からの剥離面が残されている。縁辺部の先端部側に微細剥離痕が若干残されている。全長2.70cm, 幅1.70cm, 厚み0.25cm, 重量1.18gである。85は黒曜石製の剥片である。打撃面と右側縁部が折断面である。先端部側は非常に薄い微細剥離痕等は認められない。全長2.33cm, 幅1.50cm, 厚み0.50cm, 重量1.48gである。86は黒曜石製の縦長の剥片である。比較的厚みのある剥片で左縁辺部は折断面である。先端部から右側縁部にかけては微細剥離痕等は認められない。全長2.88cm, 幅1.47cm, 厚み0.65cm, 重量2.14gである。87は黒曜石製の横長の剥片である。比較的厚みがあり打面部側は折断面である。背面には一部原礫面が残されている。縁辺部等には微細剥離痕等は認められない。全長2.10cm, 幅4.40cm, 厚み0.87cm, 重量6.35gである。88は黒曜石製の剥片である。背面には原礫が大きく残されている。左縁辺部は調整痕が認められる。もともと厚みのある剥片で背面側から折断され二等辺三角形のような形状となっている。石核に再利用しようと考えたのかもしれない。全長2.07cm, 幅3.30cm, 厚み1.20cm, 重量6.92gである。89は黒曜石製の剥片である。



第152図 Dブロック (D-3群) 出土石器 (2)

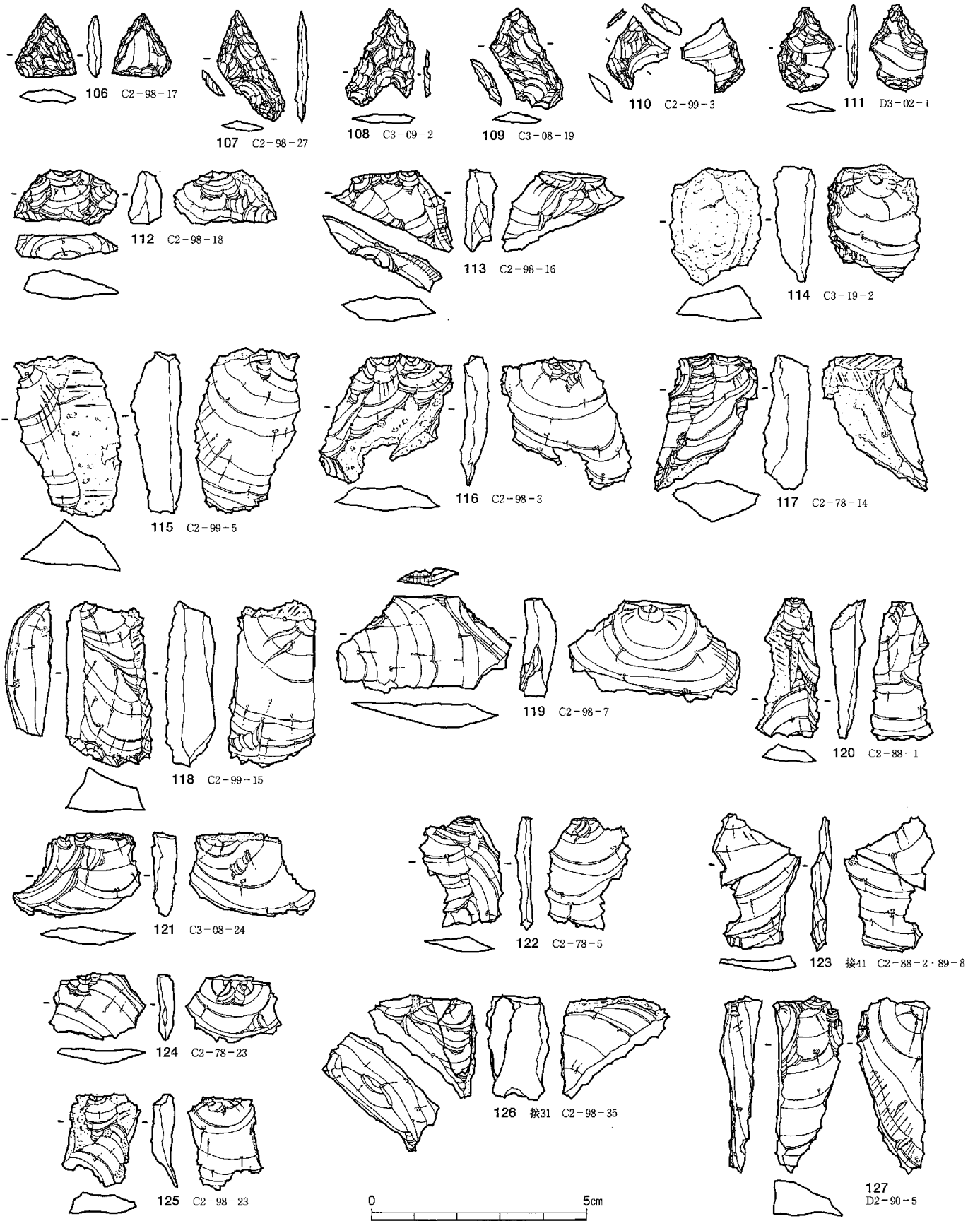
背面はほぼ原礫面で覆われている。打面部側は折断されている。右側縁部には微細剥離痕が認められる。全長6.92cm、幅2.90cm、厚み0.73cm、重量4.39gである。90は接合資料51でD-3群のほぼ中央部分で5mほど離れて接合している。黒曜石製の剥片2点が接合しており、この周辺部分で石器素材としての剥片剥離作業が行われていたことを示唆している。いずれの剥片の縁辺部にも微細剥離痕等は認められない。91は黒曜石製の剥片である。背面には上方向からの剥離面が2~3枚残されている。先端部の一部は折れている。縁辺部等には微細剥離痕等は認められない。全長2.15cm、幅2.60cm、厚み0.30cm、重量2.39gである。92は接合資料47でもともと黒曜石製の剥片であったものが折れてしまったか、あるいは剥片剥離作業時の折れてしまったものかのどちらかであろう。D-3群の中程東西10mほど離れて接合している状態からこの場所が作業場であり、まとめて廃棄したのではないことを示しているのであろうか。93は接合資料40でもともと黒曜石製の横長の剥片が真ん中で折れてしまったものであろう。接合したものの各々に調整痕のようなものが認められる。94は黒曜石製の剥片である。全体に薄く、打面側は折断気味である。縁辺部に微細剥離痕等は認められない。全長2.40cm、幅1.55cm、厚み0.23cm、重量0.98gである。95は黒曜石製の縦長の剥片である。剥片剥離の際に半割したようで左側縁側に縦方向に折断面が残る。縁辺部等には微細剥離痕等は認められない。全長3.37cm、幅1.62cm、厚み0.57cm、重量3.45gである。96は黒曜石製の縦長の剥片である。打撃面は折断されている。先端部は細く尖り気味で二等辺三角形に近い形状である。縁辺部等には微細剥離痕等は認められない。全長2.87cm、幅1.55cm、厚み0.65cm、重量1.99gである。97は黒曜石製の剥片である。ほぼ正方形に近い形状で全体に薄く縁辺部に若干の微細剥離痕は認められる。全長1.83cm、幅1.90cm、厚み0.40cm、重量1.47gである。98は黒曜石製の剥片である。背面に左横方向の剥離面が大きく残されている。先端部に微細剥離痕が残されている。全長2.13cm、幅1.80cm、厚み0.50cm、重量1.55gである。99は黒曜石製の剥片である。全体に薄く背面は上方向からの剥離面1面が大きく残されている。縁辺部等には微細剥離痕等は認められない。全長1.80cm、幅1.60cm、厚み0.40cm、重量0.98gである。100は黒曜石製の剥片でやや縦長気味である。全体に薄く背面は上方向からの剥離面1面が大きく残されている。縁辺部等には微細剥離痕等は認められない。全長1.95cm、幅1.40cm、厚み0.20cm、重量0.60gである。101は黒曜石製の剥片である。背面には上方向からの剥離面2面が残されている。右縁辺部には若干の剥離痕が残されている。全長1.85cm、幅1.67cm、厚み0.37cm、重量1.14gである。102は黒曜石製の剥片である。左側縁は折断面で右縁辺部には小剥離痕が残されている。全長2.03cm、幅1.18cm、厚み0.27cm、重量0.69gである。103は黒曜石製の石鏃片、もしくは製作途中の破損品であろうか。縁辺部に沿って細かい調整が施されており、石鏃に加工途中で折れたような感じもする。全長2.17cm、幅0.90cm、厚み0.30cm、重量0.93gである。104は黒曜石製の剥片である。両側縁が折断面で逆方向に折れているために一度に折り取った可能性もある。その他の縁辺部等には微細剥離痕等は認められない。全長2.33cm、幅1.90cm、厚み0.32cm、重量3.15gである。105は黒曜石製の剥片である。大形の剥片を再利用し石核として周辺部を折り取るような剥離を行い、小剥片を剥ぎ取っているようである。全長2.45cm、幅4.78cm、厚み1.40cm、重量10.89gである。

(D-4群) 106は黒曜石製の石鏃である。形状はほぼ正三角形を呈し、基部の挟りは全くない。表面の調整は周辺部からほぼ中央部分まで細かく丁寧の施されている。裏面は周辺部のみ細かく調整され旧剥離面を大きく残している。全長1.50cm、幅1.40cm、厚み0.30cm、重量0.59gである。107は黒曜石製の石鏃である。片脚が欠損している。もともとは二等辺三角形に近い形状で基部の挟りはやや深いものである。表裏面とも調整は細かく丁寧に施されている。残全長2.65cm、幅1.17cm、厚み0.20cm、重量0.70gである。108は

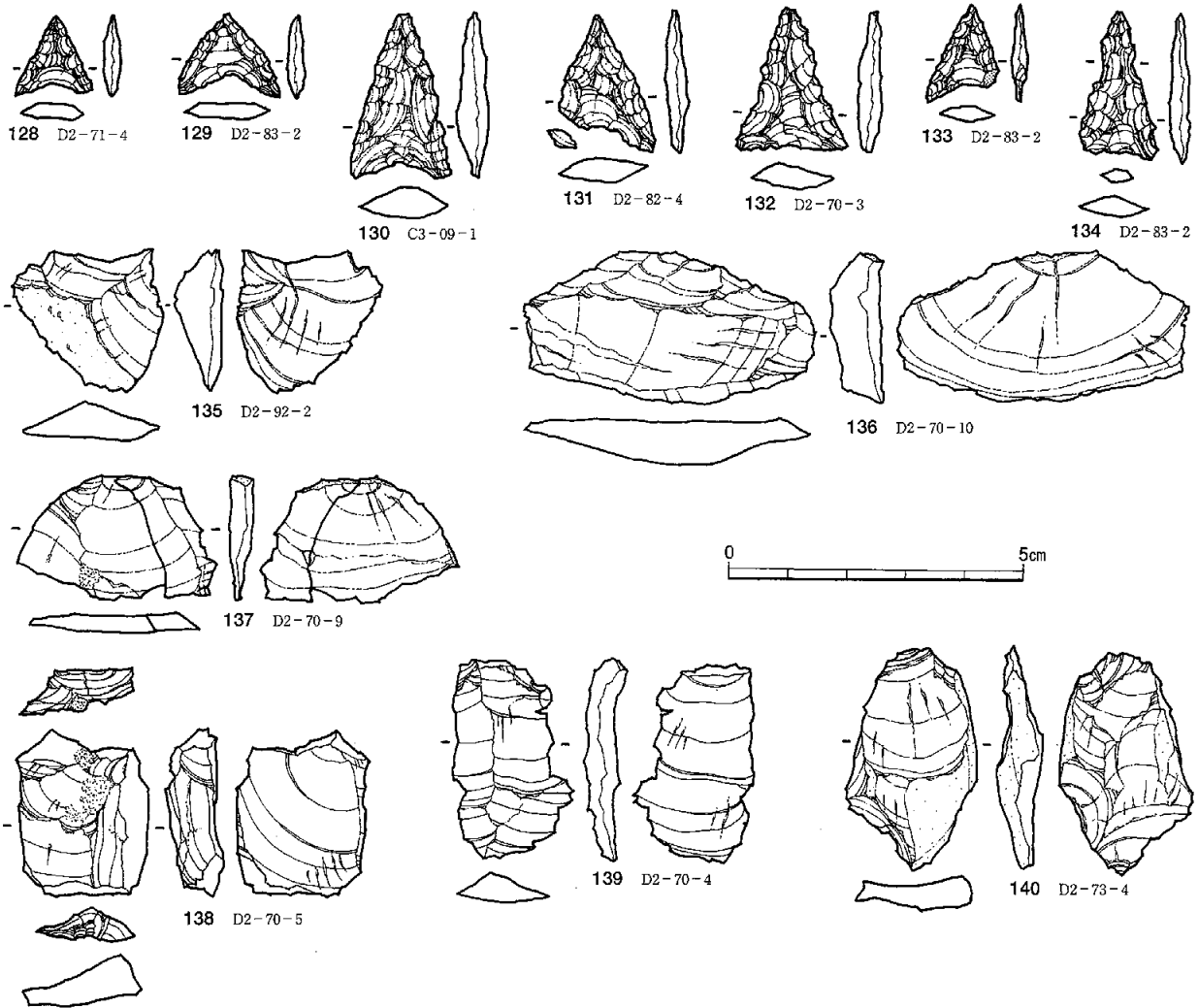


第153図 Dブロック (D-3群) 出土石器 (3)

黒曜石製の石鏃である。片脚部分が縦方向に折断されている。もともとは二等辺三角形に近い形状で基部の挟りはやや深いものである。表裏面とも調整は細かく丁寧に施されている。残全長2.30cm、幅1.60cm、厚み0.20cm、重量0.75gである。109は黒曜石製の石鏃である。片脚と胴部の一部が大きく欠損している。もともと正三角形に近い形状で基部の挟りは少しあるようである。表裏面の調整はやや大きめの剥離で比較的丁寧にされている。残全長2.40cm、幅1.30cm、厚み0.23cm、重量0.92gである。110は黒曜石製の石鏃片である。片脚のみ残存しており、形状は不明であるが基部の挟りはややあるものと思われる。調整は周辺部に細かく丁寧に行なっていると思われるが、裏面では中程にまでには及んでいない。あるいは製作途中である可能性も高い。残全長1.65cm、幅1.25cm、厚み0.22cm、重量0.47gである。111は黒曜石製の石鏃未製品である。小剥片を素材として基部付近の調整を行っている際に折れて廃棄されたとと思われる。この場所に石鏃の製作跡があったことを裏付ける資料になるとと思われる。全長1.97cm、幅1.30cm、厚み0.27cm、重量0.56gである。112は黒曜石製の折断された剥片である。先端部側が折断されており裏面側には剥離痕が大きく残されている。意図されたものかどうかは判断出来ない。全長1.27cm、幅2.30cm、厚み0.68cm、重量2.47gである。113は黒曜石製の折断された剥片である。先端部側が斜め方向に折断されている。縁辺部等には微細剥離痕等は認められない。全長1.90cm、幅2.67cm、厚み0.55cm、重量2.77gである。114は黒曜石製の剥片である。背面が円礫状の原礫面で覆われている。右側側縁部に沿ってやや大きな調整痕が見られる。全長2.73cm、幅2.10cm、厚み0.80cm、重量5.16gである。115は黒曜石製の縦長剥片である。背面は上方向からの剥離面1面と原礫面で構成されている。比較的厚みのある剥片であるが縁辺部等は鋭いため刃器として使用することは可能である。また石器の素材としても利用可能である。全長3.80cm、幅2.40cm、厚み1.07cm、重量8.59gである。116は黒曜石製の剥片である。やや不整な剥片で背面に上方向の小剥離面と原礫面が残されていることから比較的初期段階での剥離で剥がされたものと思われる。全長3.03cm、幅2.60cm、厚み0.60cm、重量3.93gである。117は黒曜石製の剥片である。もともと板状の原石から剥離しており、打撃面側には若干の調整痕らしきものが認められる。縁辺部等にも微細剥離痕が残されている。全長3.27cm、幅2.07cm、厚み0.95cm、重量6.23gである。118は黒曜石製の剥片である。左側縁部は折断面が見られるが、おそらく最初の剥片剥離時に折れてしまったものと思われる。先端部に小剥離痕が残されている。右側縁部と打面部に原礫面が残されていることから考えると板状の石核素材から剥がされた剥片を使用したものと思われる。全長3.85cm、幅2.00cm、厚み1.03cm、重量9.51gである。119は黒曜石製の横長剥片である。背面には左横方向からの剥離面が大きく残されている。先端部右側に調整痕らしき小剥離痕が認められる。全長2.30cm、幅4.00cm、厚み0.60cm、重量6.05gである。120は黒曜石製の縦長剥片である。背面には打面部側と左側縁にかけて原礫面が残されている。また上下方向からの剥離面も残されている。縁辺部等には微細剥離痕等は認められない。全長3.27cm、幅1.30cm、厚み0.40cm、重量2.33gである。121は黒曜石製の剥片である。打撃面が原礫面に覆われている。背面は上方向からの剥離面2面が残されている。右側縁辺部には微細剥離痕が認められる。全長2.00cm、幅2.80cm、厚み0.45cm、重量2.32gである。122は黒曜石製の縦長の剥片である。背面には上方向と左横方向からの剥離面が残されている。縁辺部は鋭いものの微細剥離痕等は認められない。全長2.63cm、幅1.90cm、厚み0.38cm、重量1.51gである。123は接合資料41でももともとは黒曜石製の縦長の剥片で2点の碎片となっている。左右の縁辺部は薄くいずれも折断されている。124は黒曜石製の小剥片である。背面は下方向からの剥離面が残されている。縁辺部等は薄く鋭いものの微細剥離痕等は認められない。全長1.60cm、幅2.10cm、厚み0.30cm、重量1.18gである。125は黒曜石製の縦長の碎片である。



第154図 Dブロック (D-4群) 出土石器 (1)



第155図 Dブロック (D-4群) その他石材出土石器 (2)

背面には上下方向からの剥離面が残されている。半分ほど原礫面が残されている。縁辺部等は薄く鋭いが微細剥離痕等は認められない。全長2.20cm, 幅1.60cm, 厚み0.49cm, 重量1.85である。126は接合資料31で黒曜石の剥片が2点で接合している。厚みのある剥片を素材に石核転用し横長の剥片を剥ぎ取っているようにも思われる。原礫面が一部残されている。127は黒曜石製の縦長の剥片である。剥片剥離された時に縦方向に折れたものと思われる。両側縁部にはその時生じたと思われる剥離痕が残されている。全長4.10cm, 幅1.50cm, 厚み0.80cm, 重量3.91gである。128は頁岩製の石鏃である。正三角形に近い形状で基部の扱りは比較的浅い。表裏面とも細かな調整で丁寧に仕上げられている。全長1.35cm, 幅1.30cm, 厚み0.28cm, 重量0.27gである。129は流紋岩製の石鏃である。正三角形に近い形状で基部の扱りはやや深い。表裏面ともに周辺部分を細かい調整で丁寧に仕上げている。中央には旧剥離面がかなり残されている。全長1.40cm, 幅1.73cm, 厚み0.27cm, 重量0.48gである。130は安山岩A製の石鏃である。二等辺三角形に近い形状で基部の扱りはやや浅い。表裏面とも全体に細かい調整で丁寧に仕上げている。全長2.80cm, 幅1.70cm, 厚み0.55cm, 重量2.09gである。131は安山岩A製の石鏃である。片脚が欠損している。もともと二等辺三角形に近い形状で基部の扱りはややある。残全長2.42cm, 幅1.50cm, 厚み0.40cm, 重量1.07gである。132はチャー

ト製の石鏃である。二等辺三角形に近い形状で基部の抉りはない。いわゆる平基鏃と呼ばれるものである。表裏面とも基部付近に旧剥離面を残すものの縁辺部は比較的丁寧に調整して仕上げている。全長2.48cm, 幅1.90cm, 厚み0.42cm, 重量1.38gである。133はチャート製の石鏃である。片脚は調査時に折断したものであると思われる。もともと正三角形に近い形状で基部の抉りはやや深いものと思われる。表裏面とも基部の近辺に旧剥離面を残すものの縁辺部は比較的丁寧に調整し仕上げている。全長1.65cm, 幅1.10cm, 厚み0.28cm, 重量0.34gである。134はチャート製の石鏃である。胴部の中程近くをやや細く作り出しているのが特徴である。基部の抉りも浅い。表裏面とも細かい調整で仕上げられている。全長2.50cm, 幅1.40cm, 厚み0.30cm, 重量0.87gである。135は安山岩製の剥片である。中央部分が厚みのある剥片で、背面は上方向からの剥離面2面と原礫面で構成されている。縁辺部には微細剥離痕等は認められない。全長2.40cm, 幅2.45cm, 厚み0.67cm, 重量3.90gである。136は安山岩製の横長の剥片である。全体に厚みのある剥片で背面の左横方向からの剥離面と上方向からの剥離面が複数残されている。縁辺部等には微細剥離痕等は認められない。全長2.60cm, 幅4.90cm, 厚み0.80cm, 重量10.94gである。137は安山岩製の横長の剥片が割れたものである。おそらくは剥片剥離を行った際に割れたものと思われる。縁辺部等には微細剥離痕等は認められない。全長2.13cm, 幅3.40cm, 厚み0.30cm, 重量2.74gである。138はメノウ製の剥片である。打面部側は調整されてから剥離されている。先端部は打撃痕が認められる。右側縁辺部は折断面が残されている。背面は殆ど原礫面と風化面によって構成されている。縁辺部等には微細剥離痕等は認められない。全長2.90cm, 幅2.20cm, 厚み0.70cm, 重量6.66gである。139はメノウ製の縦長剥片である。背面は上方向からの剥離面2面で構成されている。縁辺部等には微細剥離痕等は認められない。全長3.40cm, 幅1.90cm, 厚み0.50cm, 重量3.83gである。140はチャート製の両極石器(剥片)である。背面に原礫面を大きく残す縦長剥片の左先端部から側縁部にかけてやや大きめの剥離で調整されている。石器の未製品である可能性も考えられる。全長3.80cm, 幅2.10cm, 厚み0.57cm, 重量5.93gである。

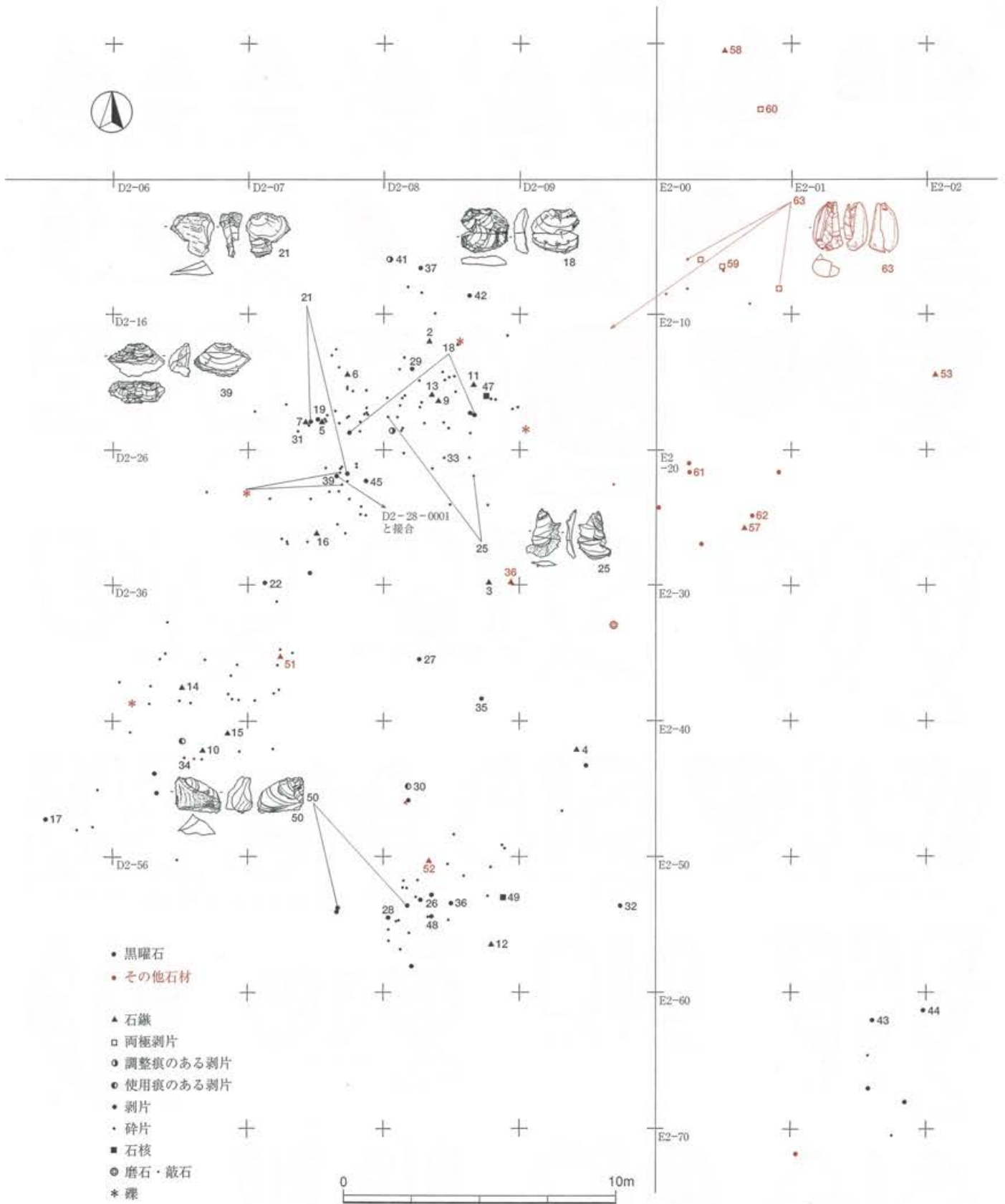
8 縄文時代早期のEブロック(第156~159図1~64, 図版85・86, 第14・19表)

出土状況 調査区の北東側Dブロックの東に近接して位置する。D2-17・18・27・28グリッドを中心とする径10mの集中範囲, とD2-36・37・46・47グリッドを中心に径10m程に集中する範囲とそれ以外の散在する範囲が認められる。黒曜石以外の石材は全体にやや東よりに分布しているようである。

器種構成 石鏃24点, 石核2点, 両極石器4点, 石斧2点, 敲石3点, 剥片56点, 碎片158点, 礫6点で構成される。

石材構成 黒曜石225点, その他の石材39点で黒曜石が主体を占めるブロックである。

遺物 1は黒曜石製の石鏃である。正三角形に近い形状で基部の抉りは見られない。一辺の調整が全く行われていないことから未製品である可能性もある。他の部分の調整は細かい調整が施されている。全長1.47cm, 幅1.25cm, 厚み0.40cm, 重量0.58gである。2は黒曜石製の石鏃である。片脚と先端の一部が欠損している。正三角形に近い形状で基部の抉りはない。表面の調整は中央まで細かい剥離で丁寧に行われている。裏面は周辺部分を細かく丁寧に行っているが基部を中心に大きく旧剥離面を残している。残全長1.95cm, 幅1.60cm, 厚み0.30cm, 重量1.11gである。3は黒曜石製の石鏃である。縁辺部がやや弧状に張り出した二等辺三角形に近い形状で基部の抉りは浅い。表裏面とも中央部分まで細かい剥離で丁寧に調整されている。全長2.40cm, 幅1.50cm, 厚み0.35cm, 重量1.00gである。4は黒曜石製の石鏃である。正三

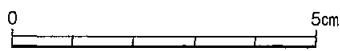
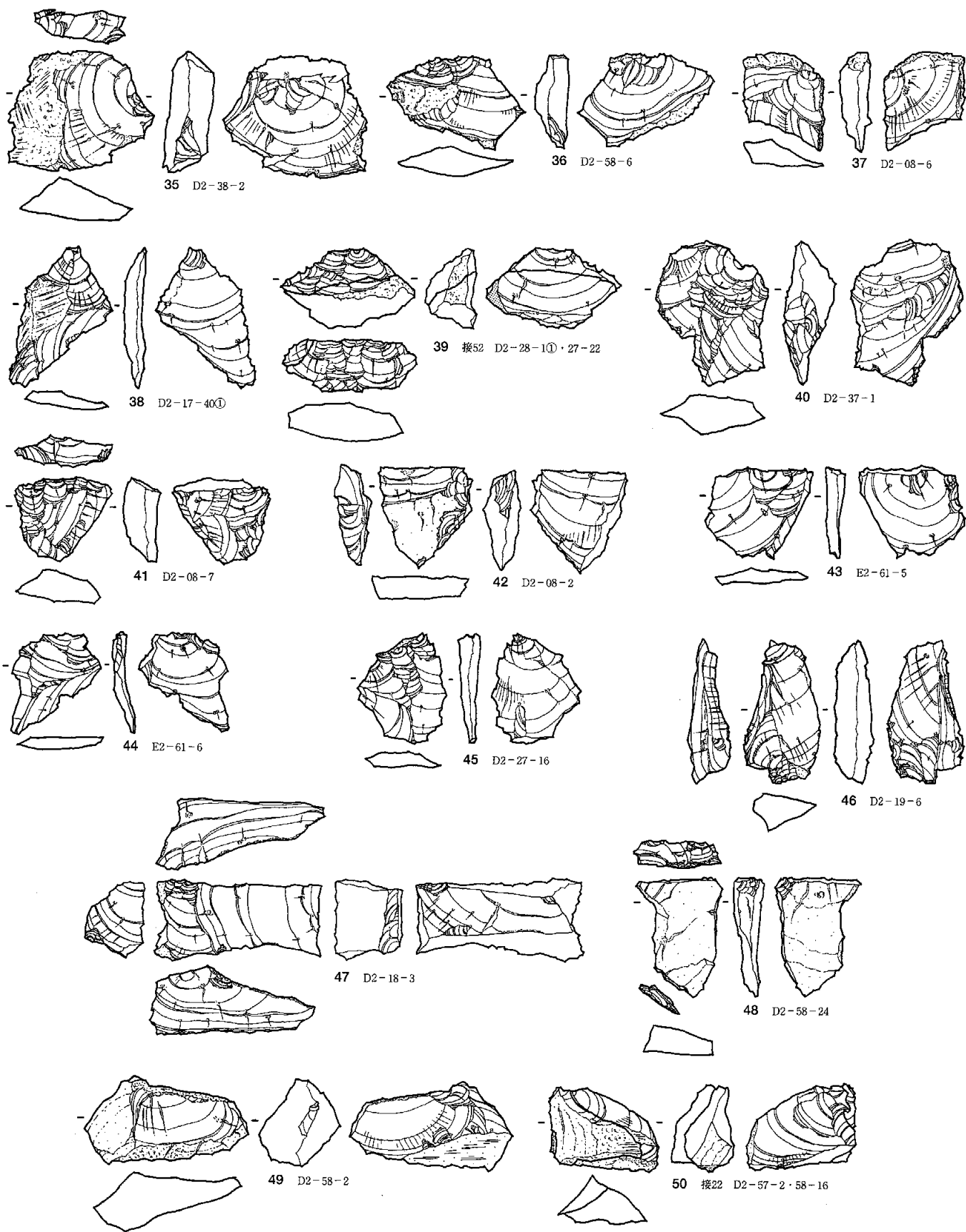


第156図 出土状況・Eブロック（器種別・石材別）



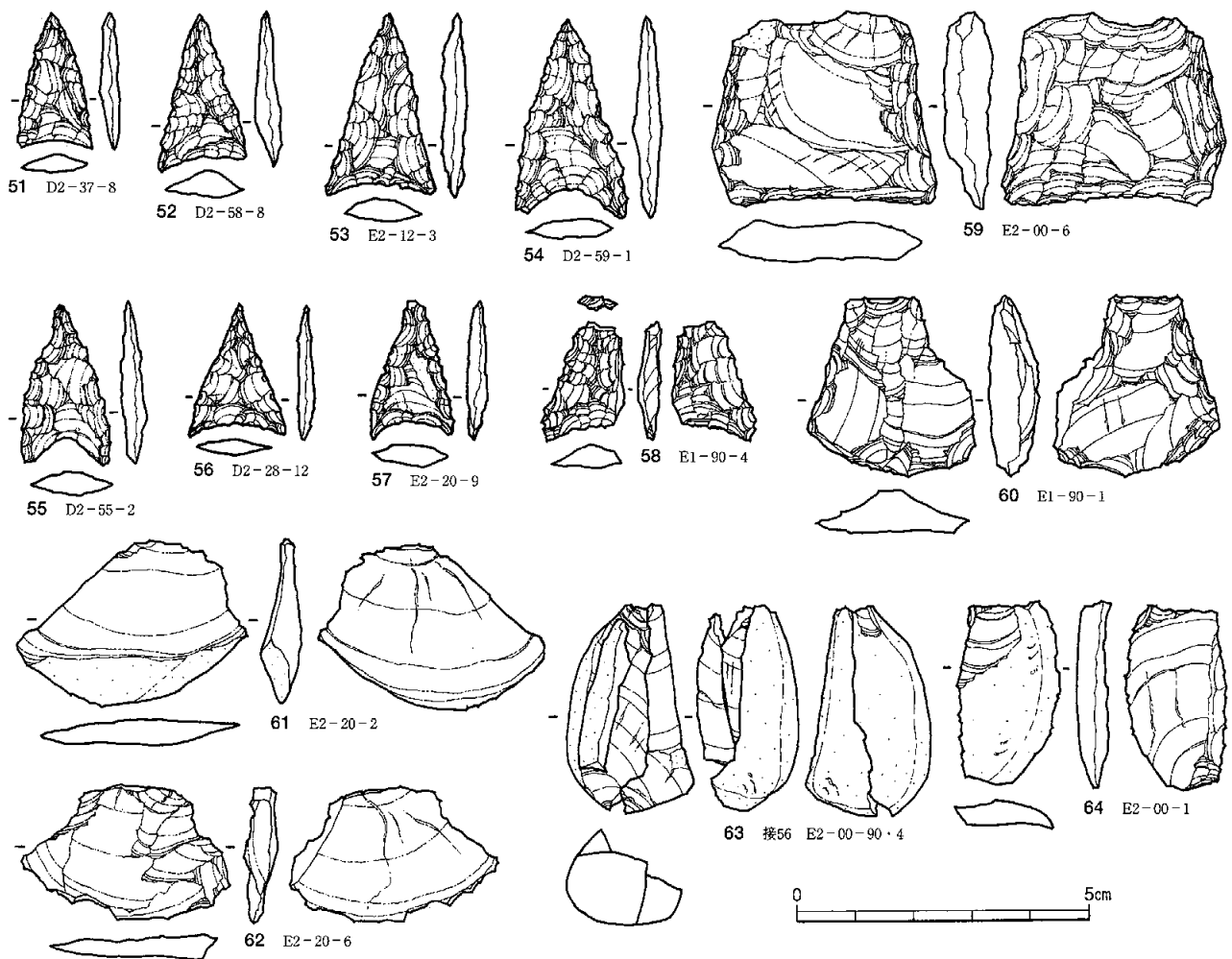
第157図 Eブロック出土石器 (1)

角形に近い形状で基部の抉りはない。表裏面とも中央部分まで細かい剥離で丁寧に調整されている。全長1.70cm, 幅1.40cm, 厚み0.40cm, 重量0.64gである。5は黒曜石製の石鏃片である。先端部のみ残存している。形状は不明で基部の抉りも不明である。表裏面とも残りの部分では細かい剥離で丁寧に調整されている。全長1.23cm, 幅1.42cm, 厚み0.20cm, 重量0.28gである。6は黒曜石製の石鏃片である。先端部のみ残存している。形状は不明で基部の抉りも不明である。表裏面とも残りの部分では細かい剥離で丁寧に調整されている。全長1.10cm, 幅1.22cm, 厚み0.18cm, 重量0.21gである。7は黒曜石製の石鏃である。片脚と胴部の一部が欠損している。もともと正三角形に近い形状で基部の抉りはやや深い。表裏面とも細かい剥離で丁寧に調整されている。残全長2.00cm, 幅1.20cm, 厚み0.18cm, 重量0.48gである。8は黒曜石製の石鏃である。両脚と先端部の一部が欠損している。もともと正三角形に近い形状で基部の抉りが浅いものと思われる。表裏面とも細かい剥離で丁寧に調整されている。残全長1.83cm, 幅1.60cm, 厚み0.20cm, 重量0.54gである。9は黒曜石製の石鏃である。先端部が欠損している。もともと二等辺三角形に近い形状と思われる。基部の抉りは浅く表裏面とも残った部分では細かい剥離で調整されている。残全長1.10cm, 幅1.70cm, 厚み0.28cm, 重量0.51gである。10は黒曜石製の石鏃である。先端部がやや欠損している。もともと正三角形に近い形状と思われる。基部の抉りはやや深い。表裏面とも残った部分では細かい剥離で丁寧な調整が行われている。残全長1.50cm, 幅1.80cm, 厚み0.28cm, 重量0.64gである。11は黒曜石製の石鏃である。先端部から胴部にかけて斜めに折れて欠損している。もともと正三角形に近い形状で基部の抉りはやや深い。表裏面とも残った部分では細かい剥離で丁寧な調整が行われている。残全長1.40cm, 幅1.90cm, 厚み0.22cm, 重量0.36gである。12は黒曜石製の石鏃片である。先端部から基部にかけて縦方向に折断されている。もともと二等辺三角形に近い形状になると思われる。基部の抉りはやや浅いと思われる。表裏面とも残った部分では細かい剥離で丁寧な調整が行われている。残全長2.05cm, 幅1.05cm, 厚み0.23cm, 重量0.60gである。13~16は黒曜石製の石鏃の一部である。13~15は脚部, 16は胴部の破片である。形状は不明で基部の抉りについても不明である。調整は表裏面ともに細かい剥離で調整されている。17は黒曜石製の削器である。やや厚みのある剥片を使って背面の左側縁部に沿って比較的大きめの剥離で刃部を作り出している。また、裏面の打面部側に沿って大まかな剥離で調整を入れている。全長2.00cm, 幅2.50cm, 厚み2.50cm, 重量5.43gである。18(接合資料23)は黒曜石製の剥片で2枚に折断されて使用した可能性がある。接合された剥片の両側縁に打撃による剥離痕が残されている。分割して再利用されたのかもしれない。19は黒曜石製の剥片である。厚みがあり方形に近い形状で背面はほぼ原礫面で覆われている。上下両端には剥片剥離時に生じた小剥離が認められる。縁辺部等に微細剥離痕は認められない。全長2.50cm, 幅1.98cm, 厚み1.10cm, 重量6.48gである。20は黒曜石製のやや不整な縦長の剥片である。厚みがあり先端部が先細る形状である。背面はほぼ原礫面で覆われている。縁辺部等には微細剥離痕等は認められない。全長3.40cm, 幅2.20cm, 厚み1.00cm, 重量5.35gである。21は接合資料32で黒曜石の剥片が2点接合している。いずれも背面に原礫面が残されており、剥片剥離の初期の段階に近いものと思われる。22は黒曜石製の剥片である。背面には上方向からの剥離面1面と原礫面で構成されている。縁辺部等には微細剥離痕等は認められない。全長2.40cm, 幅2.35cm, 厚み0.60cm, 重量2.76gである。23は黒曜石製の剥片である。背面には縁辺部に沿って原礫面が一部残されている。また、主剥離面側には剥離面と異なるやや斜め方向からの剥離面が残されている。縁辺部等には微細剥離痕等は認められない。全長2.35cm, 幅2.30cm, 厚み0.57cm, 重量3.80gである。24は黒曜石製の剥片である。背面には上方向からの剥離面と原礫面が残されている。縁辺部等には微



第158図 Eブロック出土石器(2)

細剥離痕等は認められない。全長2.40cm, 幅1.80cm, 厚み0.50cm, 重量2.49gである。25は接合資料53でもともと黒曜石の剥片1点である。背面には上方向からの剥離面と原礫面が残されている。縁辺部等には微細剥離痕等は認められない。26は黒曜石製の縦長剥片である。背面はほぼ原礫面で覆われている。縁辺部等に微細剥離痕等は認められない。全長3.08cm, 幅1.35cm, 厚み0.45cm, 重量2.37gである。27は黒曜石製の縦長剥片である。打面部から胴部にかけて厚みがあり, 先端部が細長くなる形状である。左側縁辺部は若干の調整による剥離が残されている。打面部から右側縁辺部は原礫面が残されており板状の小角礫を石材として使用したことがうかがわれる資料である。全長3.20cm, 幅1.40cm, 厚み1.00cm, 重量4.49gである。28は黒曜石製の縦長の小剥片である。背面の左側には上方向からと左方向からの剥離面2面が残されている。また右側面は縁辺部に原礫面が残されている。全長1.97cm, 幅1.22cm, 厚み0.45cm, 重量1.32gである。29は黒曜石製の剥片である。打面部は調整面を使用して行われている。背面には上方向からの剥離面2面が残されている。縁辺部等には微細剥離痕等は認められない。全長1.73cm, 幅1.80cm, 厚み0.70cm, 重量1.94gである。30は黒曜石製の細長い縦長剥片である。片面に原礫面を残すことから剥片剥離の比較的初期の段階で剥がされたものと思われる。縁辺部等には微細剥離痕等は認められない。全長3.53cm, 幅0.90cm, 厚み0.27cm, 重量0.95gである。31は黒曜石製の剥片である。剥離時に打面部と先端部の一部が折断したものと思われる。背面には上方向からの剥離面が大きく残されている。全長2.30cm, 幅1.80cm, 厚み0.33cm, 重量1.02gである。32は黒曜石製の縦長剥片である。背面には小剥片を剥離したような多方位からの剥離面が認められる。縁辺部等には微細剥離痕等は認められない。全長2.50cm, 幅1.70cm, 厚み0.20cm, 重量1.16gである。33・34は黒曜石製の小剥片である。いずれも縁辺部は鋭く刃器として使用した可能性も考えられる。33は全長1.50cm, 幅0.80cm, 厚み0.12cm, 重量0.16gである。34は全長1.45cm, 幅0.60cm, 厚み0.10cm, 重量0.10gである。35は黒曜石製のやや厚みのある剥片で台形状の形状をしている。剥片剥離は既剥離面から行われている。背面には右方向からの大きな剥離面と左縁辺に沿って原礫面を残している。剥片剥離時に右先端部は一部折断していると思われる。縁辺部等には微細剥離痕等は認められない。全長2.80cm, 幅3.30cm, 厚み0.92cm, 重量9.75gである。36は黒曜石製のやや横広の不整な剥片である。背面は上からの2～3面の剥離面と原礫面で構成されている。裏面の縁辺部の一部には原礫面が残されている。縁辺部等には微細剥離痕等は認められない。全長2.15cm, 幅2.80cm, 厚み0.70cm, 重量3.65gである。37は黒曜石製のやや不整の剥片である。打面部には原礫面が残されている。縁辺部は薄いものの微細剥離痕等は認められない。全長2.25cm, 幅1.87cm, 厚み0.60cm, 重量2.65gである。38は黒曜石製の縦長の剥片である。打面部と先端部が細くなる形状である。背面には上からと右からの剥離面が2面ずつと礫面が残されている。右縁辺部には不連続な微細剥離痕が見られる。全長3.25cm, 幅2.00cm, 厚み0.35cm, 重量2.20gである。39は接合資料52で黒曜石製の剥片を再利用して石核にしたものと思われる。先端部側で剥離された面には細長い剥離面が多く残されている。背面と側面の一部には原礫面が一部残されている。40は黒曜石製の剥片である。先端部は剥片剥離の際に折断されたものと思われる。右側側縁は調整を行い縁辺を潰している。左側縁部に沿って微細剥離痕と折断された箇所が認められる。全長3.33cm, 幅2.60cm, 厚み0.97cm, 重量6.60gである。41は黒曜石製の石器の未完成品とでもいべきものであろうか。両面ともに調整が入る。背面には一部原礫面が残されている。石鏃の未製品とするにはやや厚みが残る。全長1.95cm, 幅2.20cm, 厚み0.73cm, 重量3.36gである。42は黒曜石製の剥片である。打面部側と左側縁部は折断されている。右側縁部はやや不連続な小剥離痕が残されている。全長2.32cm, 幅2.10cm, 厚み0.50cm, 重量3.75gである。43は黒



第159図 Eブロック・その他石材出土石器 (3)

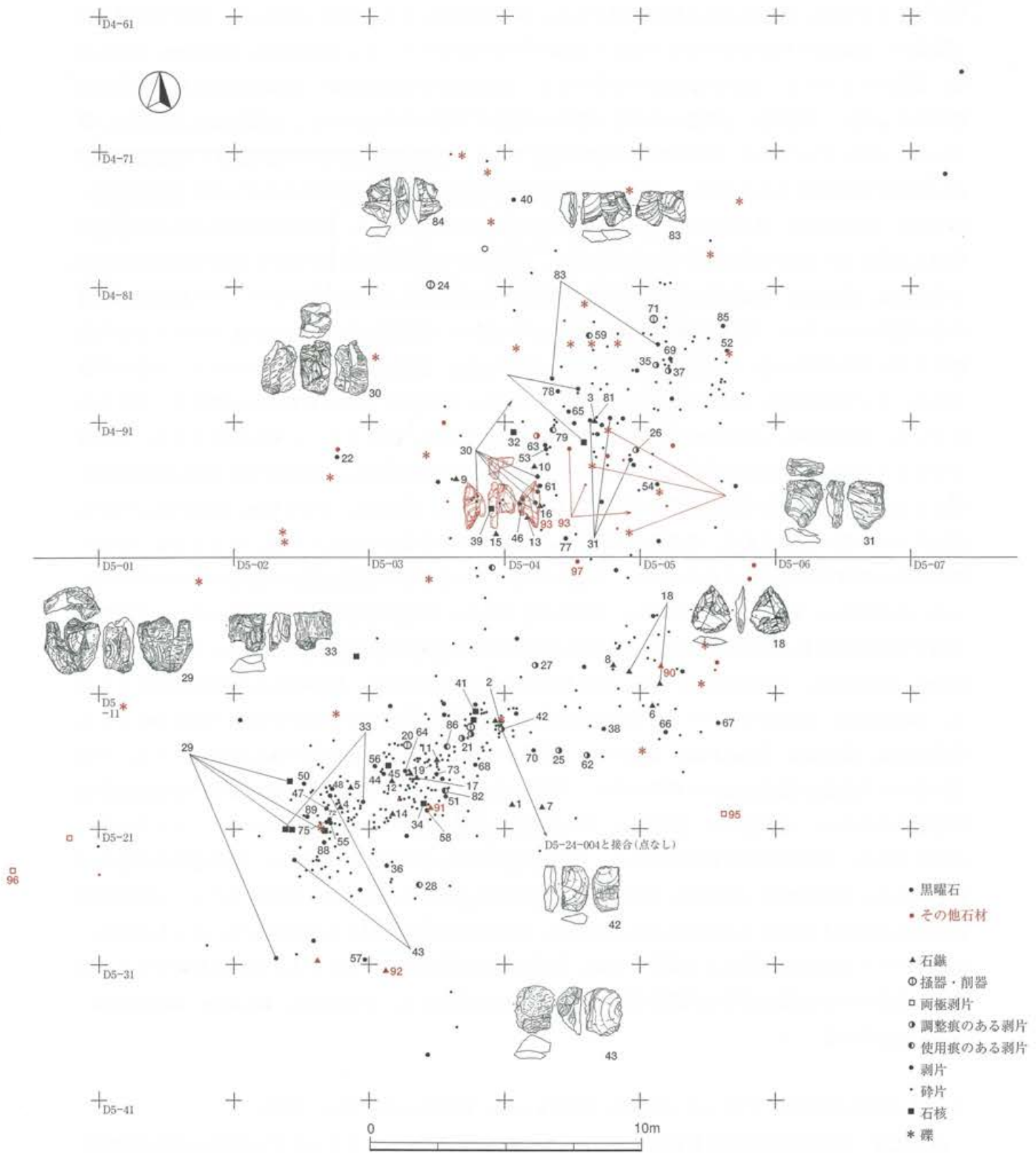
曜石製の剥片である。背面には上方向からの剥離面3面で構成されている。左縁辺部には調整痕が残されている。全長2.10cm, 幅2.28cm, 厚み0.40cm, 重量1.79gである。44は黒曜石製の剥片で先端部が先細るものである。先端部の縁辺に不連続な微細剥離痕が残されている。全長2.30cm, 幅2.00cm, 厚み0.30cm, 重量1.45gである。45は黒曜石製の剥片で先端部が折断している。打面部には調整痕が残されている。縁辺部等には微細剥離痕等は見られない。全長2.53cm, 幅2.10cm, 厚み0.38cm, 重量1.90gである。46は黒曜石製の縦長剥片で剥片剥離時に縦方向に折れているものである。表裏面ともに剥片剥離の方向と逆方向に複数の小剥離痕が残されている。縦方向に折断面にも微細剥離痕が残されている。全長3.30cm, 幅1.70cm, 厚み0.87cm, 重量4.06gである。47は黒曜石製の石核である。厚みのある剥片を再利用して小剥片を剥がされている。また右側縁辺部には調整痕が残されている。全長1.90cm, 幅3.80cm, 厚み1.55cm, 重量11.81gである。48は黒曜石製の縦長剥片である。表裏とも風化面である。頭部に調整痕, 先端部に折断面が残されている。全長2.75cm, 幅1.93cm, 厚み0.63cm, 重量3.39gである。49は黒曜石製の石核である。厚みのある剥片を素材にして表裏面ともに原礫面が残るところから小角礫が素材となっている。打面部の縁辺部には微細剥離痕が多少残されている。全長2.03cm, 幅3.75cm, 厚み1.40cm, 重量8.86gである。50は接合資料22で黒曜石製の剥片2点が接合しているものである。片方の背面側に接合している剥片は背面がほぼ原礫面で覆われていて, もう一つの剥片は右側面に原礫面が残されている。これらのことから小角礫を素材として使用し

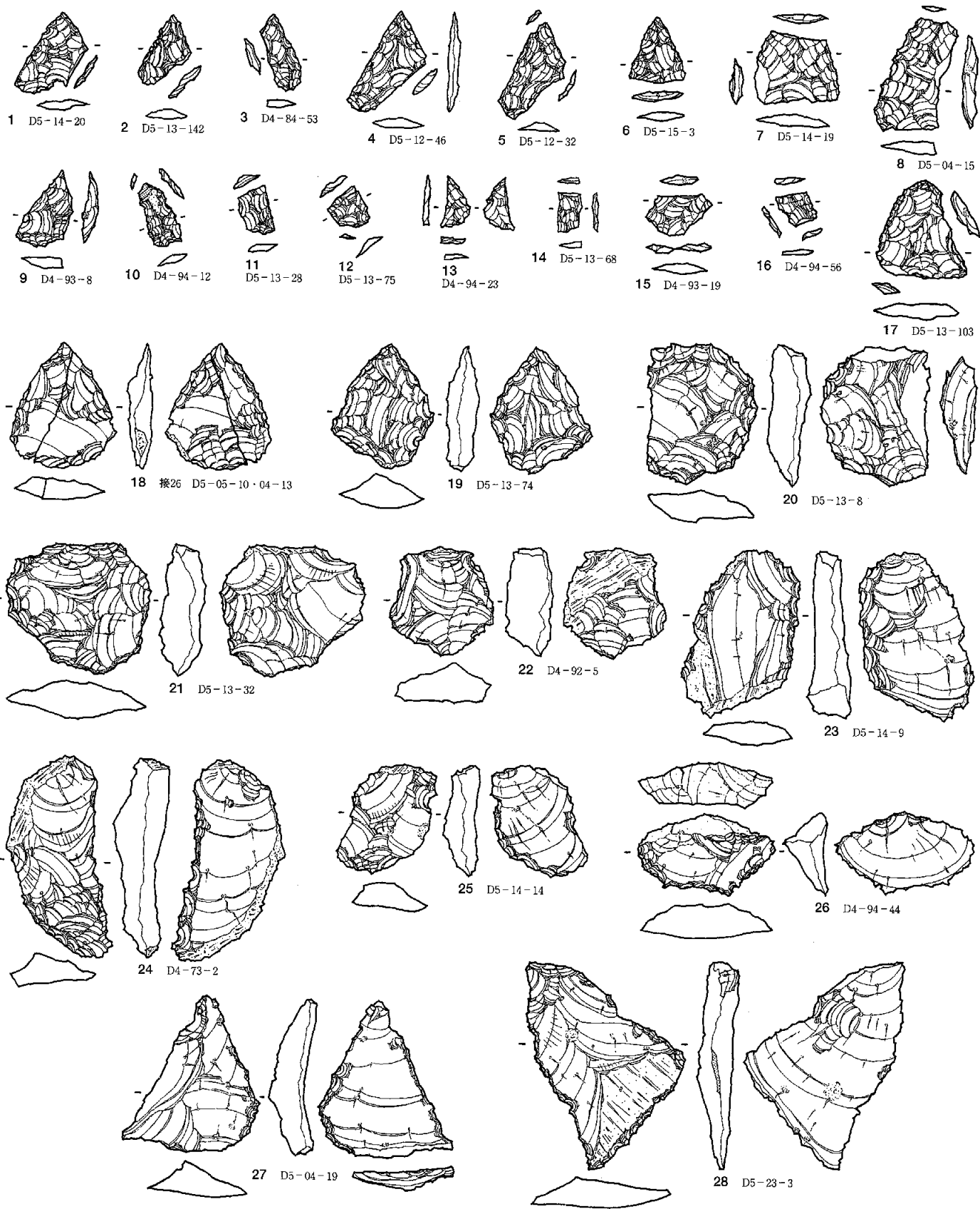
ていてことが判る。51は安山岩A製の石鏃である。縁辺が弧状になる二等辺三角形に近い形状で基部の扱りは浅い。表裏面とも調整は中程まで細かい剥離で丁寧に行われている。全長2.40cm, 幅1.30cm, 厚み0.30cm, 重量0.77gである。52は安山岩製の石鏃である。縁辺部はほぼ直線的な二等辺三角形に近い形状で基部の扱りは浅い。表裏面とも調整は中程まで細かい剥離で丁寧に行われている。全長2.65cm, 幅1.55cm, 厚み0.47cm, 重量1.17gである。53は安山岩A製の石鏃である。先端部側の縁辺部が張り出す二等辺三角形に近い形状で基部の扱りはやや浅い。表裏面とも調整は中程まで細かい剥離で行われている。全長3.63cm, 幅1.90cm, 厚み0.40cm, 重量1.50gである。54は安山岩A製の石鏃である。やや胴部側がふくらみ不整な二等辺三角形に近い形状で基部の扱りは比較的浅い。表裏面とも調整は中程まで細かい剥離で行われている。全長3.45cm, 幅1.95cm, 厚み0.35cm, 重量2.25gである。55は安山岩A製の石鏃である。やや縁辺部の胴部付近が弧状にふくらむ二等辺三角形で基部の扱りはやや深い。表裏面とも調整は中程までやや大きめの剥離で丁寧に行われている。全長2.78cm, 幅1.55cm, 厚み0.40cm, 重量1.30gである。56はチャート製の石鏃である。正三角形に近い二等辺三角形で基部の扱りは浅い。表裏面とも中程まで細かい剥離で丁寧に行われている。全長2.30cm, 幅1.67cm, 厚み0.27cm, 重量0.79gである。57はチャート製の石鏃である。基部側がややふくらみ加減の二等辺三角形に近い形状で基部の扱りは比較的浅い。表裏面とも中程に旧剥離面を残すため周辺部の調整を主体に形状を整えている。全長2.40cm, 幅2.43cm, 厚み0.38cm, 重量0.93gである。58はチャート製の石鏃である。先端部と胴部から基部にかけて片側を欠損している。もともとは二等辺三角形に近い形状で基部の扱りはやや浅い。表裏とも残っている部分の調整は細かい剥離で丁寧に行われている。全長2.05cm, 幅1.30cm, 厚み0.42cm, 重量1.13gである。59は砂岩製の両極石器である。一部原礫面を残す台形状の大形の剥片の縁辺部に比較的大きめの剥離で規則的に調整を施している。全長3.35cm, 幅3.80cm, 厚み0.65cm, 重量13.24gである。60は頁岩製の両極石器である。厚みのある剥片を素材にしており, 右縁辺部は一部折断されているものの先端部から左縁辺部にかけてやや大きい剥離で調整されている。全長3.10cm, 幅2.82cm, 厚み0.70cm, 重量7.06gである。61はホルンフェルス製の横広の剥片である。打面部に比べて先端部が弧状に広がり厚みが増す。先端部には大きく節理面が残る。縁辺部等には微細剥離痕等は認められない。全長2.85cm, 幅3.35cm, 厚み0.50cm, 重量4.97gである。62はホルンフェルス製の横広の剥片である。右側側縁部は折断面である。やや弧状に広がった先端部の縁辺部は一部不連続な剥離痕が認められる。全長2.35cm, 幅3.50cm, 厚み0.40cm, 重量3.40gである。63は接合資料56でチャート製の両極打撃による剥片と石核が3点接合したものである。扁平な小円礫を素材として使用していたことが判る。64はチャート製の両極打撃による剥片である。上下両端に打撃痕が残されている。背面に礫面を大きく残すところから63と同様に扁平小円礫を使用していたものと思われる。全長3.20cm, 幅1.80cm, 厚み0.50cm, 重量3.79gである。

9 縄文時代早期のFブロック (第160~167図1~98, 図版87~92, 第14・20表)

出土状況 調査区の最南端に位置する。D4-84・85・94・95グリッドを中心とする径20mの集中範囲とD5-12~14グリッドを中心に北東方向に5m幅で15m程の範囲に集中する部分とその周辺に散在する範囲が認められる。黒曜石以外の石材は全体にほぼまんべんなく分布しているようである。

器種構成 石鏃23点, 石核12点, 削・搔器5点, 両極石器5点, 剥片105点, 碎片359点, 礫37点で構成される。





0 5cm

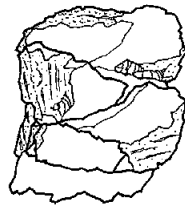
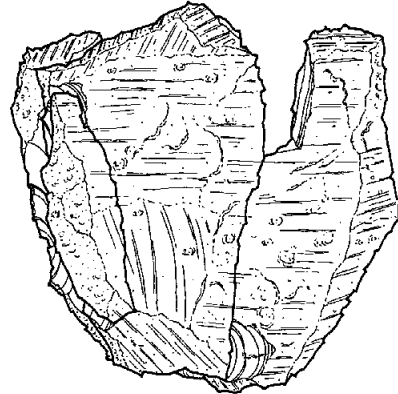
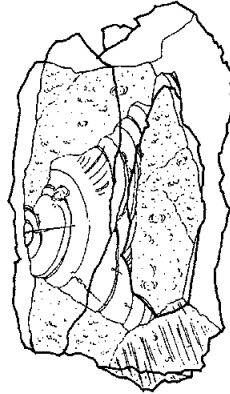
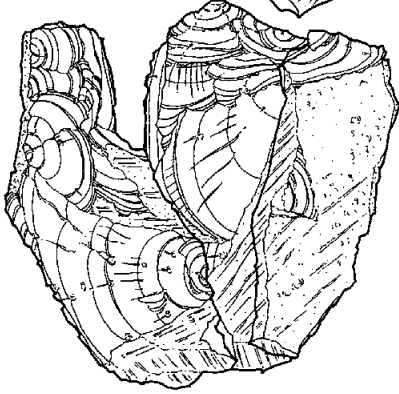
第161図 Fブロック出土石器 (1)

石材構成 黒曜石 1点, その他の石材 2点で黒曜石が主体を占めるブロックである。

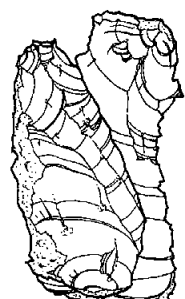
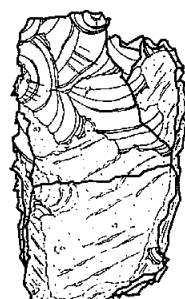
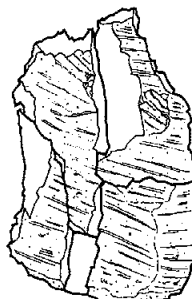
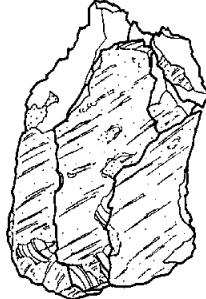
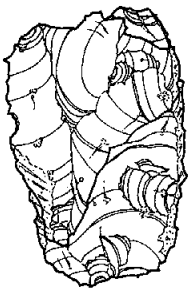
遺物 1は黒曜石製の石鏃である。片脚部が欠損しているが、もともとは正三角形に近い形状で基部は挟りはやや深い。表裏面とも調整はほぼ中央部まで達しているが、比較的大きめの剥離で調整されている。残全長1.90cm, 幅1.30cm, 厚み0.22cm, 重量0.53gである。2は黒曜石製の石鏃である。片脚部が欠損しているが、もともとは正三角形に近い形状で基部の挟りは深い。表裏面とも比較的大きい剥離で調整されている。残全長1.62cm, 幅1.00cm, 厚み0.20cm, 重量0.29gである。3は黒曜石製の石鏃である。片側の胴部から脚部が欠損しているが、もともと正三角形に近い形状で基部の挟りは深い。表裏面とも比較的丁寧調整されている。残全長1.73cm, 幅0.70cm, 厚み0.20cm, 重量0.30gである。4は黒曜石製の石鏃である。片脚部が欠損しているが、もともとは正三角形に近い形状で基部の挟りは深い。表裏面とも細かい剥離で比較的丁寧に調整されている。残全長2.30cm, 幅1.30cm, 厚み0.23cm, 重量0.68gである。5は黒曜石製の石鏃である。先端部の一部と片脚部が欠損しているが、もともと正三角形に近い形状で基部の挟りは深い。表裏面とも細かい剥離で比較的丁寧に調整されている。残全長2.23cm, 幅1.20cm, 厚み0.20cm, 重量0.57gである。6は黒曜石製の石鏃片である。先端部から胴部にかけて残存しており、形状や基部の挟り等は不明である。表裏面とも細かい剥離で比較的丁寧に調整されている。残全長1.55cm, 幅1.30cm, 厚み0.20cm, 重量0.40gである。7は黒曜石製の石鏃である。先端部と片脚部の一部が欠損している。形状は不明であるが基部の挟りは浅いものと思われる。表裏面ともやや大きめではあるが、丁寧に中程まで調整されている。残全長1.70cm, 幅1.90cm, 厚み0.30cm, 重量1.30gである。8は黒曜石製の石鏃である。先端部の一部と胴部から片脚部を大きく欠損している。もともと二等辺三角形に近い形状で基部の挟りは殆どないものと思われる。残全長2.60cm, 幅1.50cm, 厚み0.30cm, 重量1.45gである。9は黒曜石製の石鏃である。片脚部が縦方向に欠損している。もともと正三角形に近い形状で基部の挟りはやや深いと思われる。表裏面ともやや大きめの剥離でやや大雑把に調整されている。残全長1.88cm, 幅1.10cm, 厚み0.28cm, 重量0.51gである。10~16は黒曜石製の石鏃片である。脚部もしくは胴部の一部が残存している。形状等は不明である。調整等は比較的細かい剥離で丁寧に行われているようである。17は黒曜石製の石鏃もしくはその未製品である。正三角形に近い形状に仕上げている際に右側側縁部が折れたと思われる、ここで製作を断念した可能性がある。先端部側があまり鋭く仕上がっていないため未製品と考えたほうが良さそうである。残全長2.27cm, 幅2.10cm, 厚み0.40cm, 重量2.00gである。18は接合資料26である。2点で黒曜石製の石鏃未製品となり石鏃を製作途中で折れたのでそのまま廃棄されたと考えられる。先端部側の調整と基部側の調整は縁辺部を中心に剥離を施しており、その段階で縦方向に折断したものと思われる。表裏とも中程に旧剥離面が残されている。19は黒曜石製の剥片である。先端部側は縁辺部を大まかな調整のみで仕上げであり、基部側がもともとの剥片の厚みがあり調整が困難であるため石器製作を放棄したかのように思われる。菱形に近い尖頭器のような形状をしている。全長2.90cm, 幅2.30cm, 厚み0.80cm, 重量3.66gである。20は黒曜石製の搔器である。左側縁部が折断されているが、仮に残存していると仮定すると円形の搔器状となり周辺全体に刃部を持った石器であって使用されていた可能性が高い。残全長3.23cm, 幅2.40cm, 厚み0.70cm, 重量7.95gである。21は黒曜石製の剥片である。表裏面とも剥片剥離を大きく行った後に周辺部に細かい剥離が連続的に残されている。もともと板状の原礫を素材とした石核を転用して搔器のように使った可能性が高い。全長3.03cm, 幅3.37cm, 厚み0.90cm, 重量10.13gである。22は黒曜石製の剥片である。背面の一部には原礫面が残されている。裏面の両縁辺部には微細剥離痕が連続的に認められる。全長2.50cm,



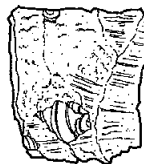
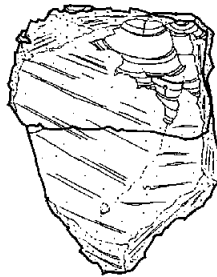
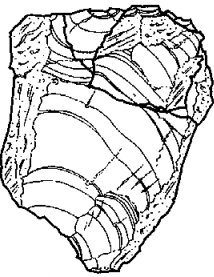
29 接30 D5-22-6・8・23・12-29



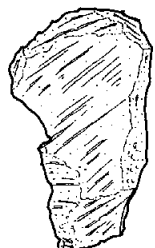
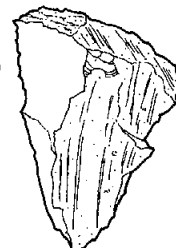
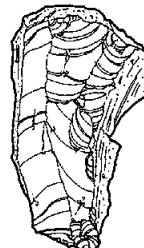
30 接27+接29
接27 D4-93-7, D4-94-19・22
接29 D4-94-13・17, D4-84-4



31 接24 D4-84-44・46, D4-94-58

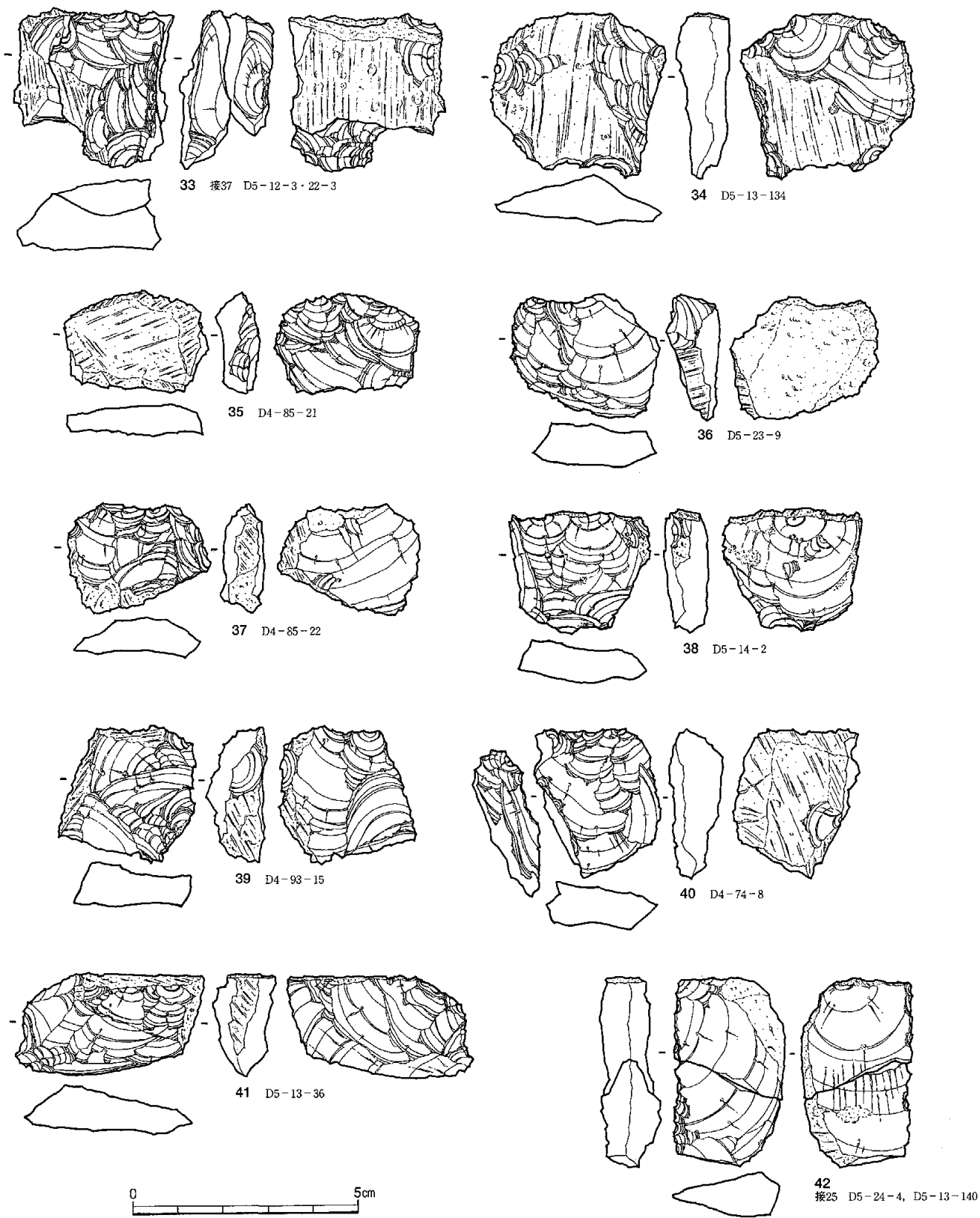


32 D4-94-2

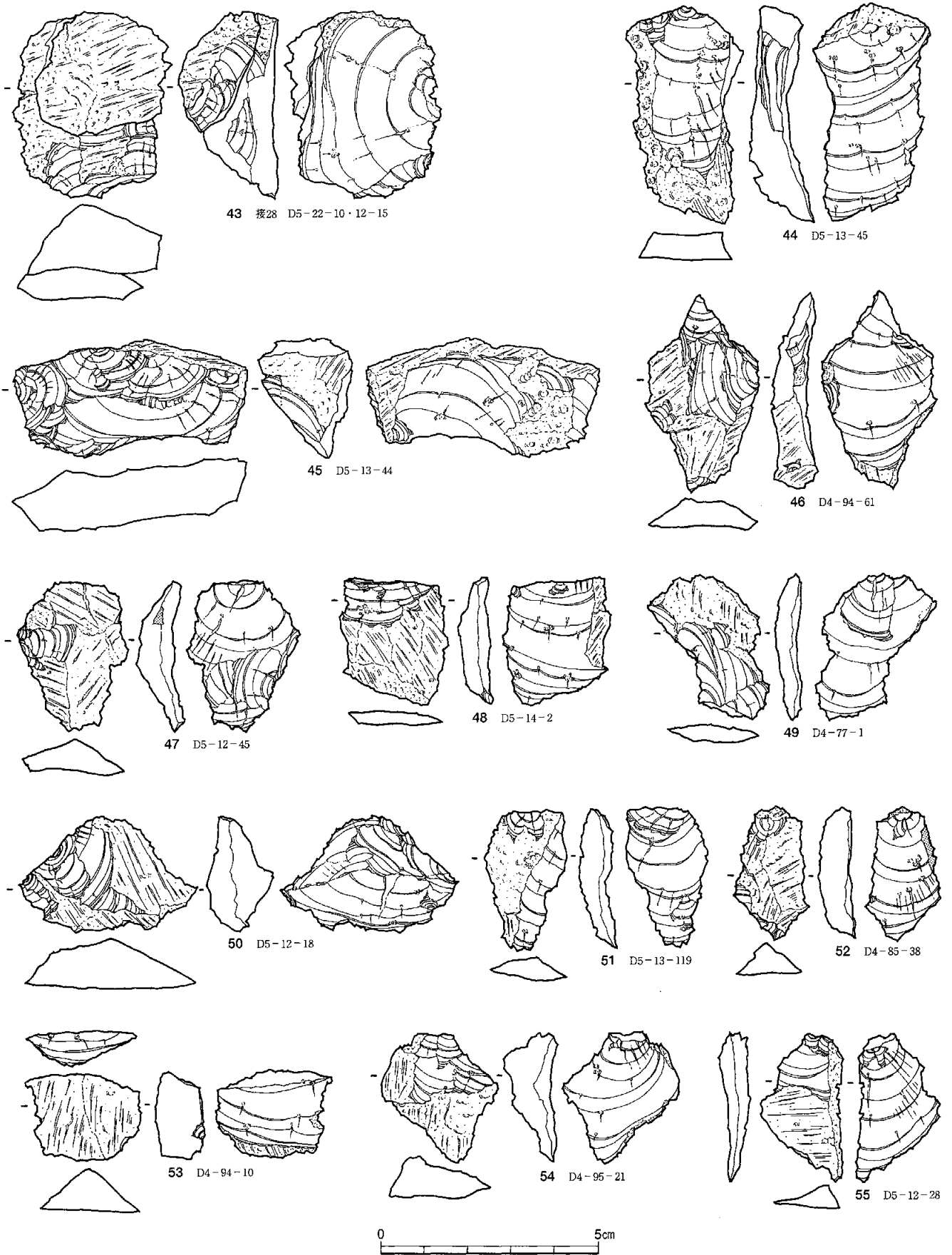


第162図 Fブロック出土石器(2)

幅2.40cm, 厚み0.90cm, 重量6.13gである。23は黒曜石製の剥片である。先端部と縁辺部の一部に原礫面が残されているやや厚みのある縦長剥片を素材にして, 両縁辺部にやや大小不連続な調整痕が認められる。全長3.85cm, 幅2.40cm, 厚み0.60cm, 重量9.77gである。24は黒曜石製の削器である。背面の先端部付近には尖頭器状に面的に調整された箇所が認められる。裏面は片側縁辺部に沿って連続的な調整痕が残されている。刃部として機能させたと思われる。また礫面も一部残されていることから素材の原石はあまり大きくないことがうかがわれる。全長4.65cm, 幅2.52cm, 厚み0.80cm, 重量10.10gである。25は黒曜石製の剥片である。背面に多方位からの剥離面を持つやや縦長の剥片で厚みは比較的ある。右側縁部から先端部にかけて著しい小剥離痕が認められる。全長2.53cm, 幅1.85cm, 厚み0.62cm, 重量3.90gである。26は黒曜石製の剥片である。剥離面を打面にして剥がされた横広の剥片が素材となっている。広い先端部側の縁辺部に沿って著しい小剥離痕が認められる。全長1.90cm, 幅3.15cm, 厚み0.80cm, 重量4.75gである。27は黒曜石製の剥片(削器?)である。打面部が細く先端部が三角形に広がるやや縦長の剥片の両側縁に沿って細かい調整痕が残されている。先端部の一部が折断されていることと一部縁辺部に丸みを持たせているような感があるため石鏃に加工しようとしていた可能性もある。全長3.60cm, 幅3.65cm, 厚み0.80cm, 重量5.95gである。28は黒曜石製の剥片である。打面部は細く先端部が斜めに広がる不整な三角形になる。背面先端部側に原礫面が残されている。先端部以外の縁辺部には使用痕と思われる比較的連続的な小剥離痕は顕著に認められる。石鏃製作の初段階である可能性も考えられる。全長4.80cm, 幅3.50cm, 厚み0.70cm, 重量8.97gである。29は接合資料30で黒曜石製の石核1点と剥片4点が接合したものである。集中部分の南群のさらに最も西側で接合している。やや大きめの角礫を素材にして任意な方向から剥離して小剥片を剥ぎ取ったと考えられ, 欠落した前左部分は横方向に小さく剥ぎ取られた跡が残されている。30は接合資料27と接合資料29からなり各々3点ずつ接合するものである。北群の西側で集中して接合しており, 上下に打撃痕を持つ縦長剥片が接合している。縁辺部に沿って微細剥離痕等が認められるものも見られる。大きく原礫面も残されていることから石核素材としてあまり大きな角礫ではないことが判る。31は接合資料24で30よりやや東側に位置し黒曜石製の石核1点と剥片2点が接合する。上下方向からの剥離面が複数あり最後に横広の剥片が剥がされて終了となっている。打面側と側面, 裏面に原礫面が残されており, 板状の角礫が石核素材として使用されたものと思われる。32は黒曜石製の石核である。角礫の短辺部分を打面として縦長剥片を複数剥離している。上面, 側面とも大きく原礫面が残されている段階で廃棄されている。全長4.03cm, 幅2.35cm, 厚み2.60cm, 重量22.84gである。33は接合資料37で南群の29の東側に隣接して黒曜石製の石核1点と剥片1点が接合している。33が剥がされていない前段階で右側面上で横広の剥片が剥がされていることがわかる。背面上の接合するやや縦長の剥片の背面には多方位の小剥離面が残されている。また右側面には調整痕が残されている。比較的板状になる角礫が石核素材として使用されたものと思われる。34は黒曜石製の石核と思われるものである。板状の角礫そのものを素材として右側縁部にやや粗い大きめの剥離が調整として残されている。先端部側は薄くなりどちらかというところ折断されたような剥離面である。裏面の上方から小剥片を剥がしたと思われる剥離痕があり石核として利用したとも思われる。両面, 側面とも大きく原礫面が残されている。全長3.70cm, 幅3.70cm, 厚み1.07cm, 重量14.92gである。35は黒曜石製の横広の剥片で台形に近い不整形な形状である。背面はほぼ原礫面で覆われている。縁辺部も角礫の一部が残っているため剥片剥離の初期の段階で大きく剥がされた剥片でそのまま廃棄されたものと思われる。全長2.30cm, 幅3.15cm, 厚み0.70cm, 重量6.66gである。36は黒曜石製のやや横広な剥片でかなり



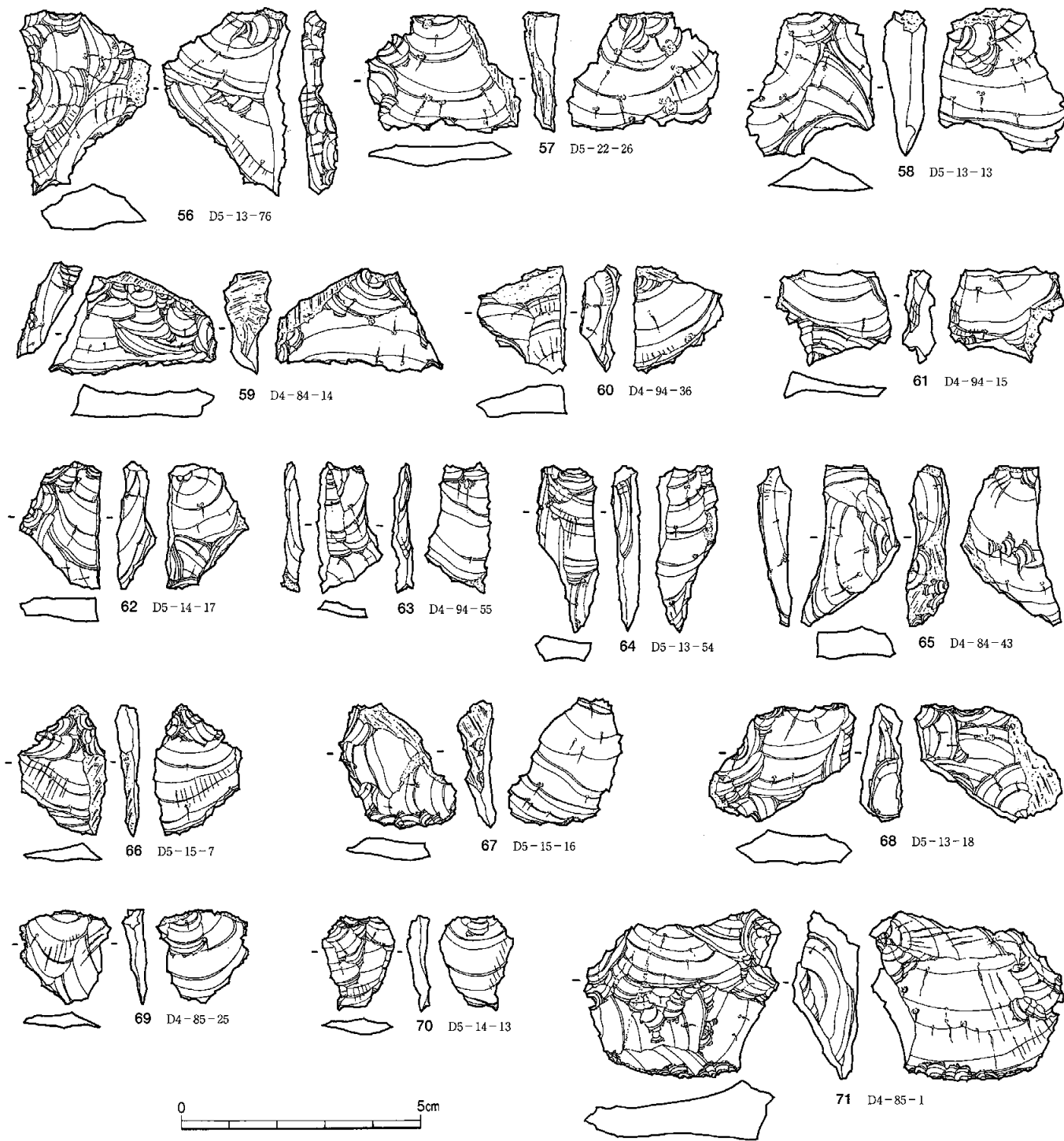
第163図 Fブロック出土石器 (3)



第164図 Fブロック出土石器(4)

分厚い。上側に一部剥離面が残されている。ほぼ最終段階の残核になる資料である。全長2.70cm, 幅3.23cm, 厚み0.95cm, 重量10.98gである。37は黒曜石製の横広の剥片である。背面の先端部から側面に沿って原礫面がやや大きく残されている。背面上には多方位からの剥離面が残されている。剥片そのものに調整痕は認められない。全長2.40cm, 幅3.12cm, 厚み0.75cm, 重量7.68gである。38は黒曜石製の逆台形状の形状をした厚みのある剥片である。打面部と側面の一部は原礫面が残されている。背面上には上下方向からと左側面を折断するような剥離面が残されている。調整痕等は認められない。全長2.73cm, 幅3.10cm, 厚み0.80cm, 重量10.16gである。39は黒曜石製の石核である。板状の角礫の裏表に多方位から小剥片を剥ぎ取っている。側面には大きく原礫面が残されている。調整痕等は認められない。全長3.05cm, 幅2.90cm, 厚み0.95cm, 重量9.74gである。40は黒曜石製の剥片である。最初に剥がされた板状の剥片の主剥離面側に多方位から小剥離を行っている。左側面は折断されている。大きく原礫面が残されている剥片が転用された石核と思われる資料である。全長3.30cm, 幅2.70cm, 厚み0.95cm, 重量9.67gである。41は黒曜石製の横長の石核である。打面側と右側面に沿って原礫面が大きく残されている。背面には上方向から複数の剥離面が残されている。左縁辺部から先端部の一部に不連続な小剥離痕が認められる。使用痕である可能性も考えられる。全長2.28cm, 幅3.80cm, 厚み1.00cm, 重量11.44gである。42は接合資料25でもともと1点の黒曜石製の搔器になるものと思われる。やや厚みのある縦長剥片の左縁辺部に連続的な小剥離痕が認められる。打面側と右側縁部はほぼ原礫面で覆われている。板状の角礫を素材として剥がされた剥片を使用している。43は接合資料28で南群の南側で黒曜石製の剥片が2点接合しているものである。背面上の剥片は剥離面以外全面を原礫面で覆われている。一方の大きな剥片は左横方向から剥離が行われている。当初の剥離の段階で大きく剥がされ分割され大きい物が石核として使用されたことがうかがわれる資料である。44は黒曜石製の縦長剥片である。背面は上方向の剥離面1面と先端部、縁辺部を原礫面が覆っている。右縁辺部は一部折断されている。縁辺部等に微細剥離痕等は認められない。全長5.05cm, 幅2.50cm, 厚み0.63cm, 重量12.85gである。45は黒曜石製の石核である。板状の角礫を横方向に使用して表面を上方向と左方向から、裏面を下方向から剥離している。全長2.73cm, 幅5.40cm, 厚み1.45cm, 重量25.54gである。46は黒曜石製の縦長の不整な菱形に近い形状の剥片である。打面部側は薄く折れて細くなっており先端部はやや厚みを増す。背面には上方向と右横方向からの剥離面と原礫面が大きく残されている。縁辺部等の微細剥離痕等は認められない。全長4.55cm, 幅2.55cm, 厚み0.70cm, 重量9.14gである。47は黒曜石製の縦長の剥片である。背面には左横方向からの小剥離面と大きく原礫面が残されている。縁辺部は比較的薄くなっているが微細剥離痕等は認められない。全長3.45cm, 幅2.40cm, 厚み0.80cm, 重量5.60gである。48は黒曜石製のやや縦長の剥片である。背面には上方向からの剥離面と大きく原礫面が残されている。縁辺部等に微細剥離痕等は認められない。全長2.95cm, 幅2.40cm, 厚み0.37cm, 重量5.48gである。49は黒曜石製の縦長の不整形な剥片である。背面には左横方向からの複数の剥離面と大きく原礫面が残されている。縁辺部等に微細剥離痕等は認められない。全長3.33cm, 幅2.40cm, 厚み0.40cm, 重量3.24gである。50は黒曜石製の横広の剥片でやや丸みのある台形状の形状である。背面には原礫面が残されているものの斜め左方向からの剥離面が認められる。剥片を石核に再利用した可能性も考えられる。全長2.70cm, 幅4.00cm, 厚み1.20cm, 重量10.26gである。51は黒曜石製の縦長剥片である。背面の右側は上方向からの剥離面で左側は原礫面で構成されている。縁辺部等に微細剥離痕等は認められない。全長3.20cm, 幅1.90cm, 厚み0.60cm, 重量3.41gである。52は黒曜石製の縦長剥片である。背面はほぼ原礫面で覆われている。縁辺部等に微細剥離痕は認められな

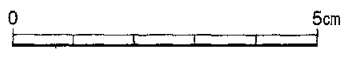
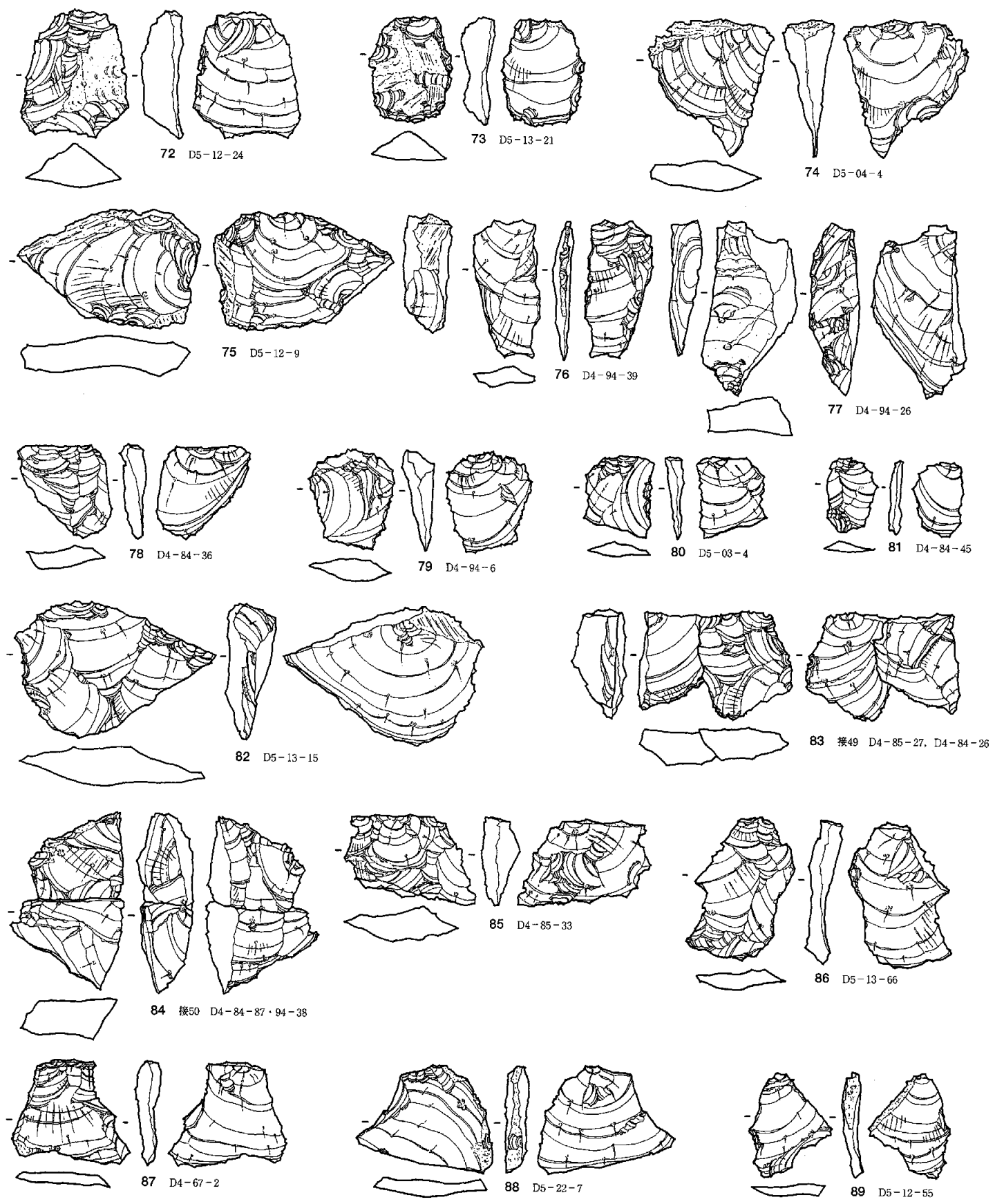
い。全長3.05cm, 幅1.60cm, 厚み0.73cm, 重量3.26gである。53は黒曜石製のやや横広の剥片で厚みがある。打面部は剥離面で背面はほぼ原礫面で覆われている。縁辺部等には微細剥離痕等は認められない。全長2.03cm, 幅2.50cm, 厚み1.00cm, 重量5.48gである。54は黒曜石製の剥片で縦長でやや菱形に近い形状している。厚みがあり背面には上方向から2～3面の剥離面と先端部にかけて原礫面が大きく残されている。縁辺部等には微細剥離痕等は認められない。全長3.00cm, 幅2.70cm, 厚み0.95cm, 重量5.61gである。55は黒曜石製の縦長の不整形な剥片である。やや薄く背面には上方向からの剥離面と先端部にかけて大きく原礫面を残す。縁辺部は薄いためやや不連続な微細剥離痕が残されている。全長3.48cm, 幅1.90cm, 厚み0.60cm, 重量2.59gである。56は黒曜石製の不整形な縦長の剥片である。折断面となる左側縁辺部に沿って使用痕かとも思われる連続的な小剥離痕が認められる。右側先端部付近にも微細剥離痕が認められる。全長3.90cm, 幅2.50cm, 厚み1.00cm, 重量7.75gである。57は黒曜石製のやや横広の剥片で台形に近い形状をしている。打撃面と右縁辺部に沿って原礫面が僅かに残されている。縁辺部等には微細剥離痕等は残されていない。全長2.50cm, 幅3.00cm, 厚み0.40cm, 重量3.28gである。58は黒曜石製のやや先端部の広がり気味の不整形な剥片である。背面には上下方向からの剥離面が残されている。打面部は原礫面に覆われている。縁辺部等に微細剥離痕は認められない。全長3.00cm, 幅2.70cm, 厚み0.70cm, 重量5.27gである。59は黒曜石製の剥片である。台形に近い形状でやや厚みがある。打面部には大きく原礫面を残す。背面側には打面調整のための剥離痕が残されている。広がった先端部に不連続な微細剥離痕が多く残されている。全長2.20cm, 幅3.50cm, 厚み0.65cm, 重量5.65gである。60は黒曜石製の小剥片である。打面部に原礫面が残されている。右側縁部は折断面である。縁辺部等は薄いが微細剥離痕等は認められない。全長2.23cm, 幅1.90cm, 厚み0.60cm, 重量2.55gである。61は黒曜石製の剥片である。やや不整形な方形に近い形状をしている。左縁辺部の裏側に少し原礫面が残されている。縁辺部等に微細剥離痕は認められない。全長2.00cm, 幅2.40cm, 厚み0.48cm, 重量1.87gである。62は黒曜石製のやや縦長の剥片である。右側縁部は折断面である。左側縁部の一部に少し原礫面が残されている。背面の左側縁部に調整痕とおぼしき剥離が認められる。裏面先端部には剥離時の打撃による下方よりの小剥離痕が残されている。全長2.70cm, 幅1.65cm, 厚み0.50cm, 重量3.00gである。63は黒曜石製の縦長剥片である。左側縁部は剥離時に折断したものである。その他の縁辺部等には微細剥離痕等は認められない。全長2.73cm, 幅1.30cm, 厚み0.21cm, 重量1.25gである。64は黒曜石製の縦長剥片である。先端部は細く尖っている。打面部に近い右縁辺部は折断されている。剥離時に折断したものである。その他の縁辺部等には微細剥離痕等は認められない。全長3.50cm, 幅1.20cm, 厚み0.57cm, 重量2.36gである。65は黒曜石製の縦長の剥片である。背面には右横方向の剥離面が残されている。打面部と右縁辺部から先端部にかけて原礫面が大きく残されている。左側縁部は折断されているが、おそらく剥片剥離時に生じたものである。全長3.37cm, 幅1.60cm, 厚み0.60cm, 重量5.30gである。66は黒曜石製の剥片である。打撃面側に調整を入れているために尖っている。先端部側の縁辺部等には微細剥離痕等は認められない。石鏃等の石器の未製品である可能性もある。全長2.75cm, 幅1.80cm, 厚み0.35cm, 重量1.68gである。67は黒曜石製の剥片である。縦長剥片の先端部側にやや大きめの剥離で調整を施している。打面部から右縁辺部にかけて一部原礫面が残されている。全長2.67cm, 幅2.20cm, 厚み0.40cm, 重量3.13gである。68は黒曜石製の剥片である。もともと小さな扁平な楕円礫を素材としており、石核として機能していたものかもしれない。全長2.43cm, 幅2.60cm, 厚み0.70cm, 重量6.66gである。69は黒曜石製の小剥片である。打撃面に少し原礫面が残されている。縁辺部は薄いが微細剥離痕等は認められない。全長1.95



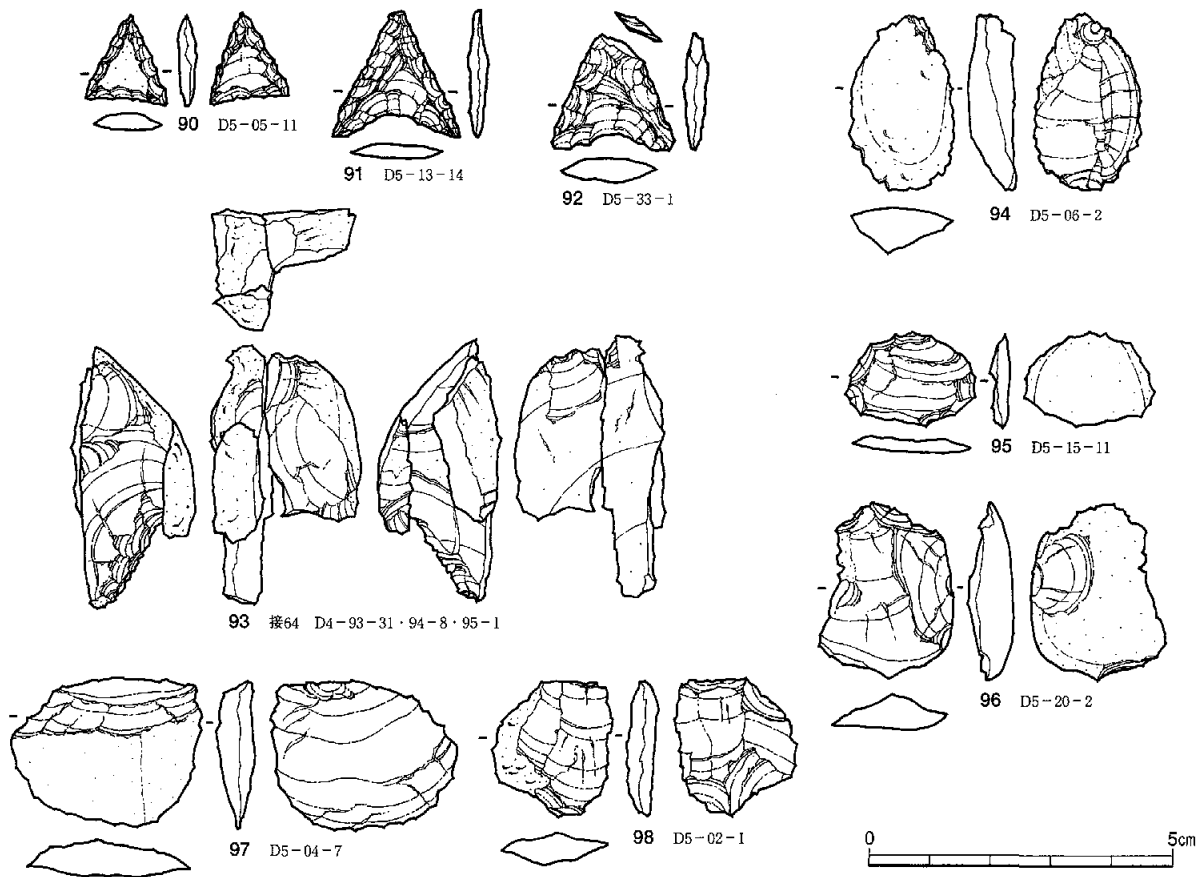
第165図 Fブロック出土石器(5)

cm, 幅1.90cm, 厚み0.30cm, 重量1.01gである。70は黒曜石製のやや縦長の小剥片である。縁辺部は薄いだが微細剥離痕等は認められない。全長1.97cm, 幅1.65cm, 厚み0.35cm, 重量0.86gである。71は黒曜石製の削器である。背面上には大きく剥離された剥離面が複数ある。先端部に縁辺部に沿って連続的な小剥離痕が認められる。全長3.03cm, 幅4.02cm, 厚み1.23cm, 重量15.78gである。72は黒曜石製の縦長の剥片である。やや先端部側が広がる形状である。打面部は調整されている。背面には左横方向からの剥離面と右側面付近に大きく原礫面が残されている。右側縁部には不連続な小剥離痕が認められる。全長3.03cm, 幅2.50cm, 厚み1.05cm, 重量7.27gである。73は黒曜石製の剥片である。扁平な小楕円礫から剥離された剥片を素材と

している。背面上に原礫面が大きく残されている。縁辺部から先端部にかけて小剥離痕が不連続に残されている。全長2.57cm, 幅2.00cm, 厚み0.70cm, 重量3.70gである。74は黒曜石製の剥片である。逆三角形に近い形状で打面部に厚みがあり, 先端部にかけて薄くなる。打面部には大きく原礫面が残されている。縁辺部等には小剥離痕, 微細剥離痕等が認められる。全長3.27cm, 幅2.90cm, 厚み0.77cm, 重量6.90gである。75は黒曜石製の剥片である。背面上には右横方向からの大きい剥離面が残されている横長の剥片を素材にしている。裏面の打面側より縁辺部に沿って比較的大きめの面的調整を行っている。表裏面とも原礫面が残されていることから考えると小さい扁平礫を使用しているものと思われる。全長2.85cm, 幅4.30cm, 厚み0.80cm, 重量13.97gである。76は黒曜石製の縦長の剥片である。右側縁部の一部は刃潰しされたような微細剥離痕が認められる。左側縁部は折断面となっている。全長3.30cm, 幅1.50cm, 厚み0.40cm, 重量2.13gである。77は黒曜石製の厚みのある縦長の剥片である。左側縁部は折断面となっている。また先端部には逆方向の剥離面が残されている。上下両設打面より剥離された剥片かもしれない。全長4.10cm, 幅2.05cm, 厚み0.90cm, 重量9.23gである。78は黒曜石製のやや縦長の小剥片である。背面に上方向からの打面調整のための小剥離が多数残されている。両縁辺部は原礫面が残されている。縁辺部等には微細剥離痕等は認められない。全長2.20cm, 幅2.10cm, 厚み0.50cm, 重量2.22gである。79は黒曜石製の剥片である。背面には左横方向からの剥離面が残されている。縁辺部等は薄いが微細剥離痕は認められない。全長2.40cm, 幅2.07cm, 厚み0.55cm, 重量2.49gである。80は黒曜石製の方形に近い小剥片である。背面には右横方向からの剥離面が残されている。右縁辺部に微細剥離痕が認められる。全長1.98cm, 幅1.60cm, 厚み0.30cm, 重量1.15gである。81は黒曜石製の縦長の碎片である。背面の先端部には逆方向の剥離面が残されている。上下両設打面より剥離された剥片かもしれない。全長1.77cm, 幅1.20cm, 厚み0.27cm, 重量0.51gである。82は黒曜石製の横長の剥片である。剥離されるまでは石核として使用されたと思われる。上方向からの剥離面が多く残されている。左縁辺部から先端部にかけて小剥離痕が残されている。打面部裏側には原礫面が一部残されている。全長3.77cm, 幅4.60cm, 厚み0.95cm, 重量12.24gである。83は接合資料49で北群の最も北側で接合しているものである。黒曜石製の剥片2点が接合しており, 右側で接合する剥片は多方位からの剥離面が残されている。84は接合資料50で北群の北側で接合しているものである。もともとは黒曜石製の1枚の剥片で胴部中程で折断している。背面上に一部原礫面が残されている。85は黒曜石製の小剥片でやや横長の平行四辺形に近い形状をしている。縁辺部等には微細剥離痕等は認められない。全長2.10cm, 幅2.80cm, 厚み0.80cm, 重量4.02gである。86は黒曜石製の縦長の剥片である。打面部から左縁辺部にかけて一部折断面が残されている。背面には上方向からの剥離面2面が残されている。縁辺部等には微細剥離痕等は認められない。全長3.43cm, 幅2.20cm, 厚み0.40cm, 重量3.61gである。87は黒曜石製の剥片である。台形に近い形状をしている。背面には上方向からの剥離面が残されている。縁辺部等には微細剥離痕等は認められない。全長2.50cm, 幅2.70cm, 厚み0.30cm, 重量2.58gである。88は黒曜石製の剥片である。やや打面部が細いものの台形に近い形状をしている。背面には下方向からの剥離面が残されている。右縁辺部に沿って原礫面が残されている。縁辺部等には微細剥離痕等は認められない。全長2.57cm, 幅3.25cm, 厚み0.40cm, 重量4.09gである。89は黒曜石製のやや縦長の不整形な剥片で打撃面と先端部が細くなり三角形に近い形状になるものである。右縁辺部に沿って原礫面が残されている。先端部と左縁辺部に小剥離と微細剥離痕が残されており, あるいは石鏃等の未製品とも考えられる。全長2.50cm, 幅2.00cm, 厚み0.30cm, 重量1.40gである。90はチャート製の石鏃である。正三角形に近い形状で基部の扱いは殆どない。表面は原礫面,

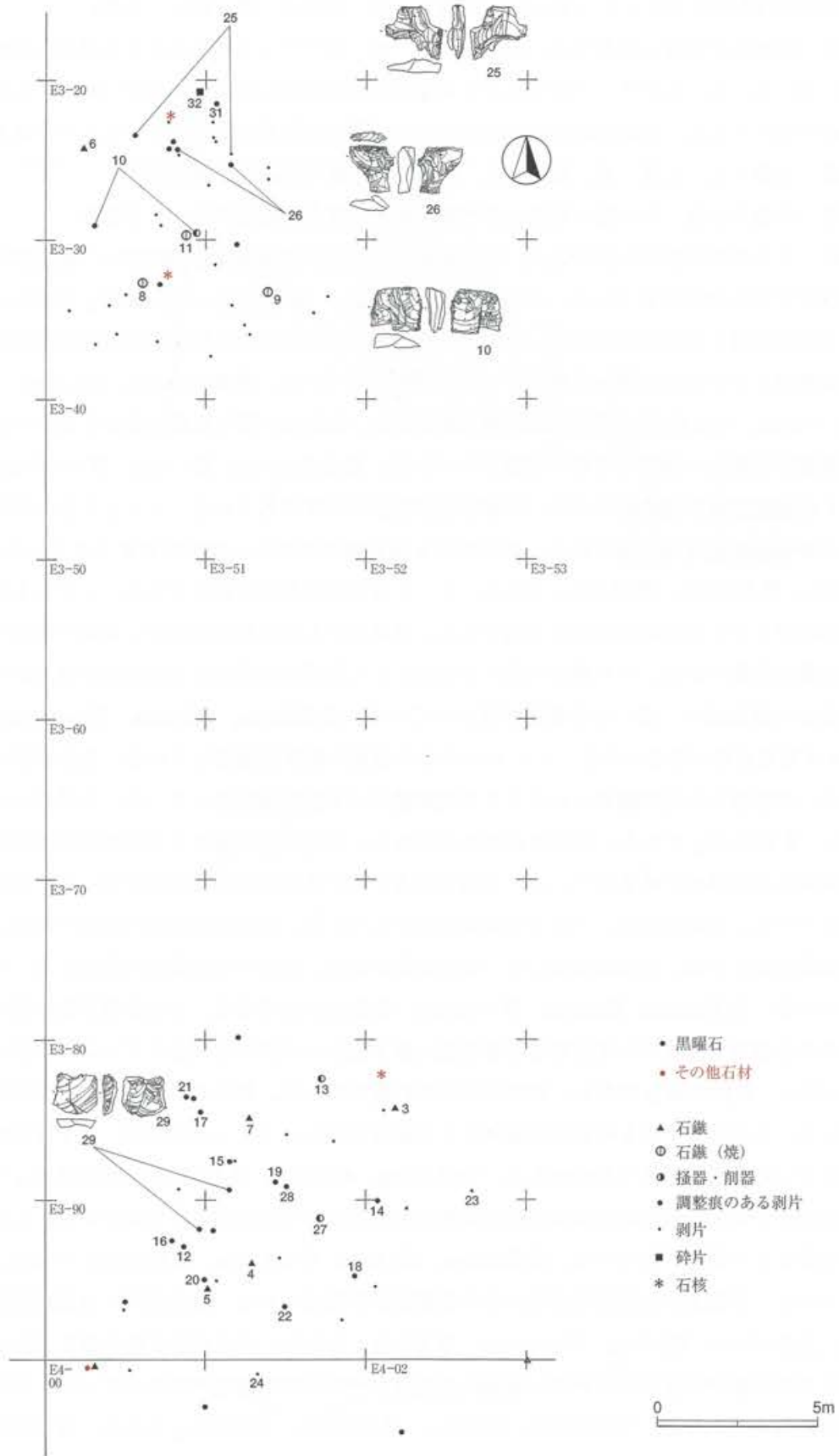


第166図 Fブロック出土石器(6)



第167図 Fブロック出土石器（7）

裏面は中程に旧剥離面を残しながら周辺部分を細かい剥離で調整し仕上げている。全長1.50cm、幅1.35cm、厚み0.30cm、重量0.29gである。91はチャート製の石鏃である。正三角形に近い形状で基部の挟りは比較的浅い。表裏面とも中程まで細かい剥離で調整し仕上げている。全長2.10cm、幅2.10cm、厚み0.23cm、重量0.79gである。92は安山岩製の石鏃である。先端部が一部欠損している。もともと正三角形に近い形状で基部の挟りは比較的浅い。表裏面とも中程まで細かい剥離で調整し仕上げている。残全長1.90cm、幅2.05cm、厚み0.40cm、重量1.26gである。93は接合資料64である。チャート製の剥片が3点北群のやや東よりで接合している。いずれの剥片も厚みが比較的あり上方の打面側には原礫面が大きく残る。大きくて長い剥片の先端部側には調整痕が残されている。94はチャート製の両極石器（剥片）である。上下方向に打撃痕が残されている。背面はほぼ原礫面で覆われている。全長2.90cm、幅1.70cm、厚み0.80cm、重量4.61gである。95はチャート製の両極石器（剥片）である。上下左右に打撃痕が残されている。裏面は原礫面で覆われている。全長1.60cm、幅2.15cm、厚み0.25cm、重量1.29gである。96はチャート製の両極石器（剥片）である。扁平な小楕円礫を素材として用いており、上下左右に打撃痕を残す。裏面に大きく原礫面が残されている。全長2.90cm、幅2.20cm、厚み0.60cm、重量4.58gである。97はホルンフェルス製の剥片である。やや横広で全体に丸みのあるものである。背面には上方向からの調整のための多数の小剥離面と中程から先端部にかけて大きく原礫面を残している。全長2.40cm、幅3.05cm、厚み0.60cm、重量5.49gである。98は安山岩A製の両極石器（剥片）である。上下方向に複数の打撃痕を残す。背面には一部原礫面が残されている。素材として丸みのある扁平円礫を使用したものと思われる。全長2.25cm、幅1.90cm、厚み0.60cm、重量2.16gである。



第168図 出土状況・Gブロック（器種別）

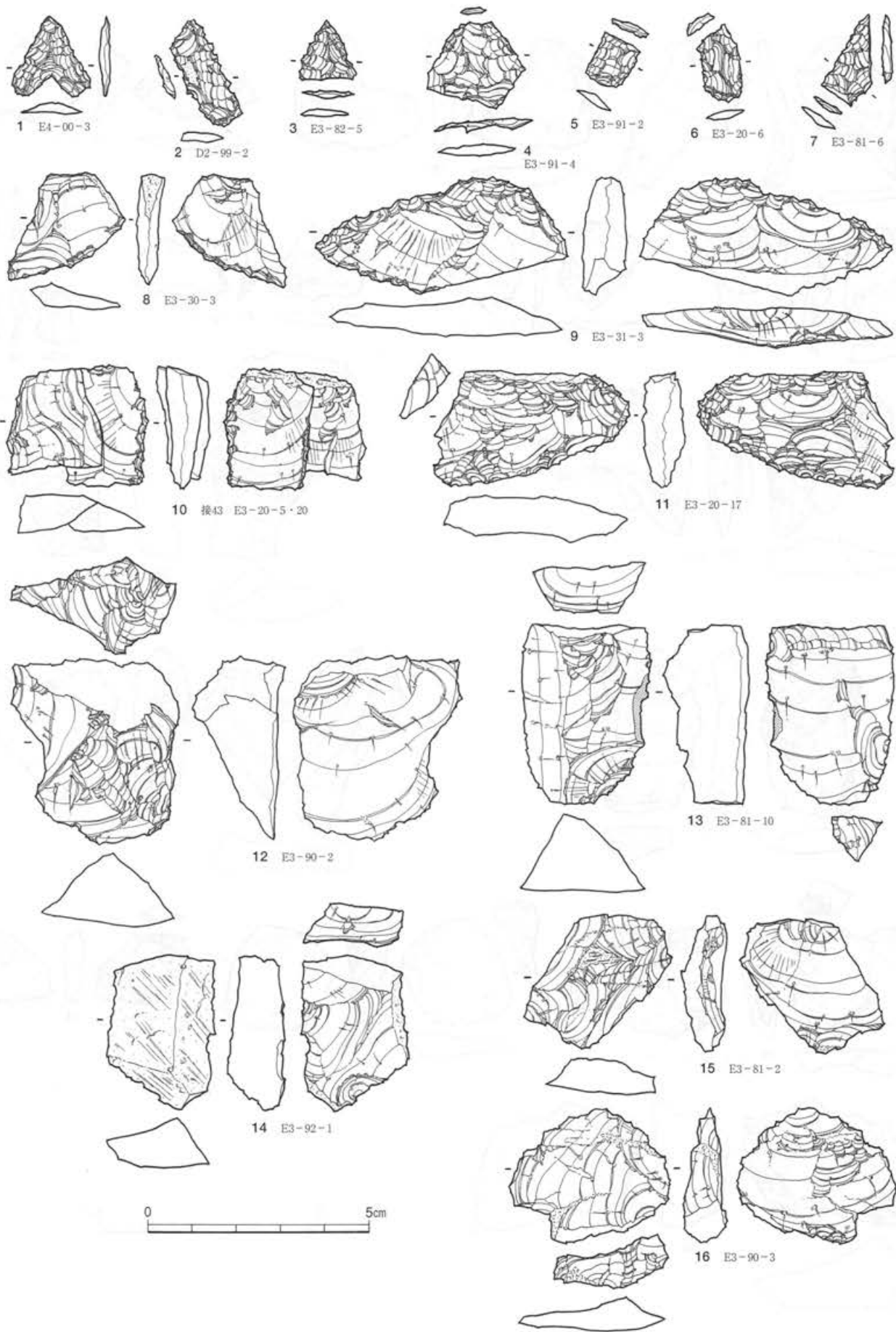
10 縄文時代早期のGブロック (第168～170図1～32, 図版92・93, 第14・21表)

出土状況 調査区の東端に位置する。E3-20・21・30・31グリッドを中心とする径10mの集中範囲(北群)とE3-80・81・90・91グリッドを中心とする径10m程の範囲に集中する部分(南群)とその周辺に散在する範囲が認められる。黒曜石以外の石材はそれらの範囲に散漫に分布しているようである。

器種構成 石鏃7点, 石核1点, 搔器3点, 剥片32点, 碎片46点で構成される。

石材構成 黒曜石89点, その他の石材3点で黒曜石が主体を占めるブロックである。

遺物 1は黒曜石製の石鏃である。正三角形に近い形状で基部は比較的深い。表裏面とも中程まで細かい剥離で丁寧に調整されている。全長1.90cm, 幅1.80cm, 厚み0.27cm, 重量0.56gである。2は黒曜石製の石鏃で胴部片側より片脚部が欠損している。もともと正方形に近い形状で基部の挟りはやや深いと思われる。表裏面とも中程まで細かい剥離で丁寧に調整されている。残全長2.40cm, 幅1.10cm, 厚み0.20cm, 重量0.58gである。3は黒曜石製の石鏃の先端部である。形状は不明で基部の形状も定かではない。表裏面とも残存部では細かい剥離で丁寧に調整されている。残全長1.40cm, 幅1.30cm, 厚み0.20cm, 重量0.30gである。4は黒曜石製の石鏃片である。先端部と脚部がほぼ欠損している。もともと正三角形に近い形状と思われるが基部の挟りは不明である。表裏面とも残存部では細かい剥離で調整されている。残全長2.03cm, 幅2.25cm, 厚み0.28cm, 重量1.27gである。5～7は黒曜石製の石鏃片である。いずれも脚部及び胴部の一部のみ残存しているため形状等は不明である。表裏面とも残存部では細かい剥離で調整されている。8は黒曜石製の削器である。やや横広の剥片を素材として先端部の縁辺に小剥離痕が連続的に残されている。打撃面から縁辺部の一部には原礫面が残されている。全長2.52cm, 幅2.08cm, 厚み0.60cm, 重量3.00gである。9は黒曜石製の搔器である。もともと大形の横長の剥片を使用している。先端部側は折断面が残されている。打撃面から左側縁部にかけてやや鋸歯縁状に刃部調整を行っている。全長2.70cm, 幅5.65cm, 厚み0.90cm, 重量13.16gである。10は接合資料43である。黒曜石製の剥片2点が北群で接合している。いずれも打面部には原礫面が残されている。右側で接合している剥片の右縁辺部に沿ってやや不連続な調整痕が残されている。先端部側はいずれも折断面で残されている。11は黒曜石製の搔器である。打面部は原礫面が一部残されている。左側縁辺部には一部折断面がある。広がった先端部の縁辺に沿って刃部の調整が施されている。全長2.60cm, 幅4.20cm, 厚み0.95cm, 重量10.56gである。12は黒曜石製の剥片である。大きく厚みのある剥片を素材にして打面部と背面部に多方位から小剥片を剥離している。全長4.20cm, 幅3.80cm, 厚み1.65cm, 重量22.98gである。13は黒曜石製の剥片である。厚みのある剥片で上下両端に折断面が残されている。この剥片そのものを石核素材として剥片剥離しようとした形跡が, 上下方向からの小剥離面が残されていることからもうかがわれる。全長4.10cm, 幅2.90cm, 厚み1.75cm, 重量22.16gである。14は黒曜石製の剥片である。打面部側は折断面で剥離後右横方向からの剥離も行われている。もともと板状の小角礫を素材として剥がされている。全長3.53cm, 幅2.40cm, 厚み1.15cm, 重量10.99gである。15は黒曜石製の剥片である。背面上には左右両方向からの剥離面が多数見られる。縁辺部等には微細剥離痕等は認められない。全長3.07cm, 幅2.70cm, 厚み0.80cm, 重量8.08gである。16は黒曜石製の剥片である。やや丸みのある剥片で先端部が折断されている。背面には右横方向からの剥離面が残されている。縁辺部等には微細剥離痕等は認められない。全長3.10cm, 幅3.65cm, 厚み0.70cm, 重量8.64gである。17は黒曜石製のやや不整形な縦長の剥片である。先端部右側が一部折断されている。全体に薄く鋭いが縁辺部等に微細剥離痕等は認められない。全長3.40cm, 幅2.20cm, 厚み0.37cm, 重量3.51gである。18は黒曜石製の剥片で打面部



第169図 Gブロック出土石器(1)

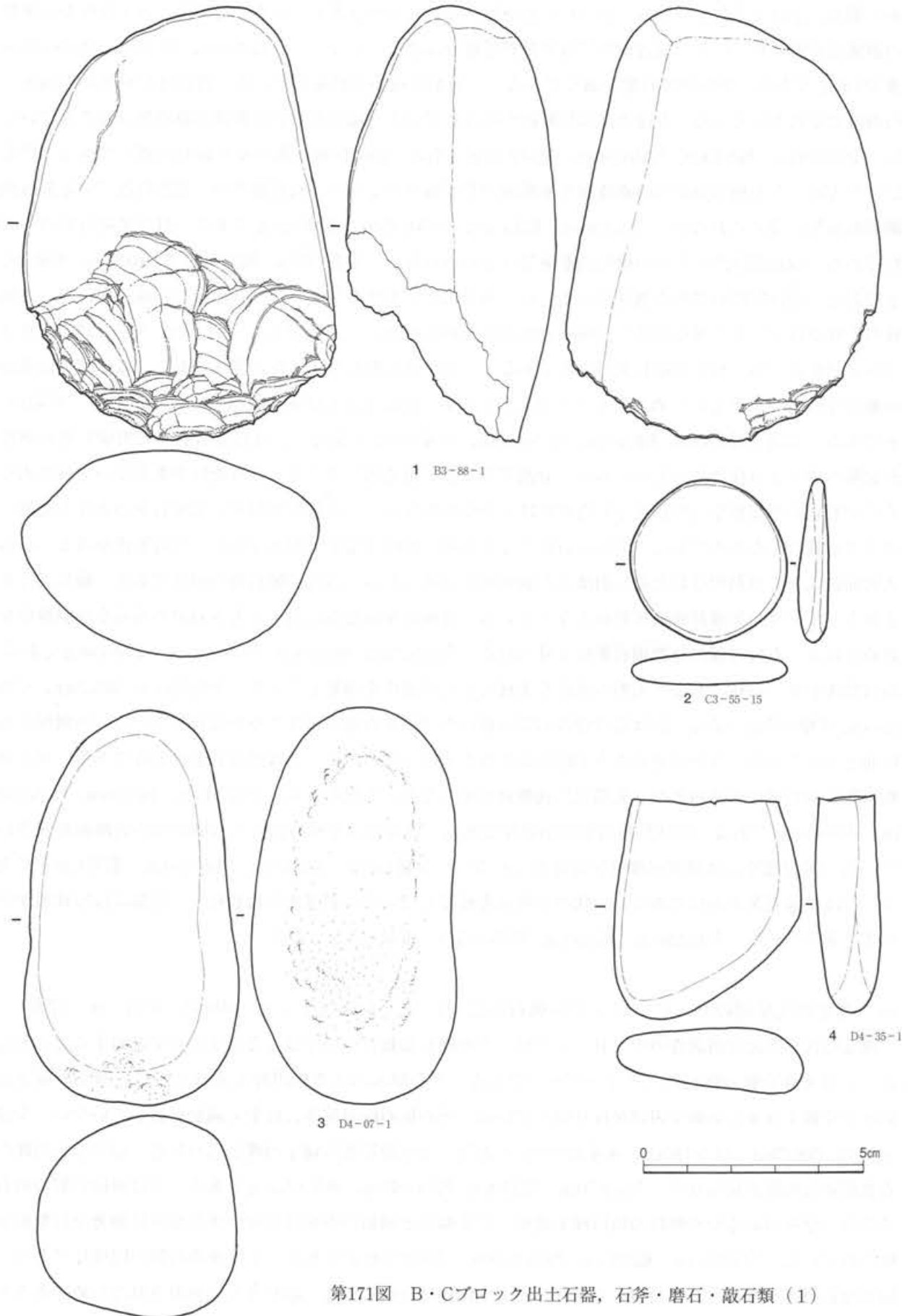


第170図 Gブロック出土石器(2)

から胴部にかけて半欠している。おそらく剥離時になったものと考えられる。背面上には上方向から複数の剥離面が残されている。縁辺部等には微細剥離痕等は認められない。全長2.65cm, 幅2.80cm, 厚み0.50cm, 重量3.44gである。19は黒曜石製の剥片である。三角形に近い形状をしている。背面は左横斜め方向からの剥離面が残されている。右縁辺部は折断面が残されている。縁辺部等には微細剥離痕等は残されていない。全長2.00cm, 幅2.70cm, 厚み0.50cm, 重量2.23gである。20は黒曜石製のやや縦長の剥片である。背面には上方向, 左右横方向からの剥離面と原礫面が若干残されている。右側縁部の一部が折れている他は微細剥離痕等は認められない。全長2.40cm, 幅1.75cm, 厚み0.45cm, 重量2.21gである。21は黒曜石製の小剥片である。縁辺部は薄いものの微細剥離痕等は認められない。全長2.03cm, 幅2.77cm, 厚み0.23cm, 重量0.87gである。22は黒曜石製の小剥片である。正三角形に近い形状をしている。背面側の右縁辺部に沿って原礫面が残されている。縁辺部等には微細剥離痕は認められない。全長1.75cm, 幅2.10cm, 厚み0.37cm, 重量1.18gである。23, 24は黒曜石製の碎片である。一見すると細石刃状になる碎片である。縁辺部等に微細剥離痕等は認められないため使用したとは思われない。23は全長1.23cm, 幅0.67cm, 厚み0.12cm, 重量0.14gである。24は全長1.35cm, 幅0.83cm, 厚み0.13cm, 重量0.19gである。25は接合資料45で黒曜石製の剥片が北群の中で2点接合したものである。分割することで再利用しようとした可能性があるがいずれの剥片もやや形状が不整形なため利用された形跡はうかがわれない。26は接合資料46で黒曜石製の剥片が北群の中で2点接合したものである。剥片を石核として転用した際に途中で割れてしまった可能性が考えられる。表裏面に大きく再利用された際に剥離した剥離面が認められる。27は黒曜石製の剥片である。縦長剥片を素材としており, 先端部側は折断面となっている。背面の左縁辺部に沿って大きめの不連続な小剥離痕が認められる。右縁辺部には微細剥離痕も見られる。全長3.75cm, 幅2.10cm, 厚み0.60cm, 重量6.98gである。28は黒曜石製の石核である。大形の剥片を素材として小剥片を剥離している。全長3.50cm, 幅3.20cm, 厚み0.90cm, 重量9.37gである。29は接合資料44で南群の中で黒曜石製の剥片2点が接合している。両側縁が折断面となっていることから考えると剥離時に折れたものと思われる。30は黒曜石製の剥片である。剥片剥離の際に両側縁が折断面となり先端部に剥離痕が生じたものと思われる。全長2.40cm, 幅2.40cm, 厚み0.55cm, 重量6.02gである。31は黒曜石製の小剥片である。背面には左横方向と上方向からの剥離面が残されている。縁辺部等には微細剥離痕等は認められない。全長1.60cm, 幅2.10cm, 厚み0.40cm, 重量1.46gである。32は黒曜石製の石核である。板状の小角礫を使用して大小の剥離面を複数残す。片側には原礫面がそのまま残っている。全長2.90cm, 幅3.60cm, 厚み1.65cm, 重量1.65gである。

11 縄文時代早期のB～Cブロックの礫石器について(第171図1～4, 図版94, 第14・16・17表)

縄文時代早期包含層調査の中でB～Cブロックの礫石器類についてはここでまとめて説明することとした。1は硬砂岩製の礫石斧(チョッパー)である。やや厚みのある楕円礫を素材にして先端部の縁辺に沿って片側より多き剥離で刃部を作り出している。その他の縁辺部等には全く調整を施していない。全長9.90cm, 幅6.75cm, 厚み4.65cm, 重量395.00gである。2は砂岩製の扁平円礫と思われる。扁平な小円礫の表裏面状に磨痕が見られる。全長3.70cm, 幅3.58cm, 厚み0.61cm, 重量12.35gである。3は硬砂岩製の磨石である。厚みのあるやや棒状の楕円礫を使用して先端部と側面の中央部に近い平坦部分に顕著な打撃痕が残されている。全長9.05cm, 幅4.90cm, 厚み4.60cm, 重量307.40gである。4は硬砂岩製の円礫片である。扁平な楕円礫を素材として使用している。一方の縁辺は折れている。敲石として使用されたためであろう



第171図 B・Cブロック出土石器，石斧・磨石・敲石類（1）

か。残全長4.99cm, 幅4.25cm, 厚み1.50cm, 重量47.03gである。

12 縄文時代早期のDブロックの礫石器について (第172・173図1～8, 図版95・96, 第14・18表)

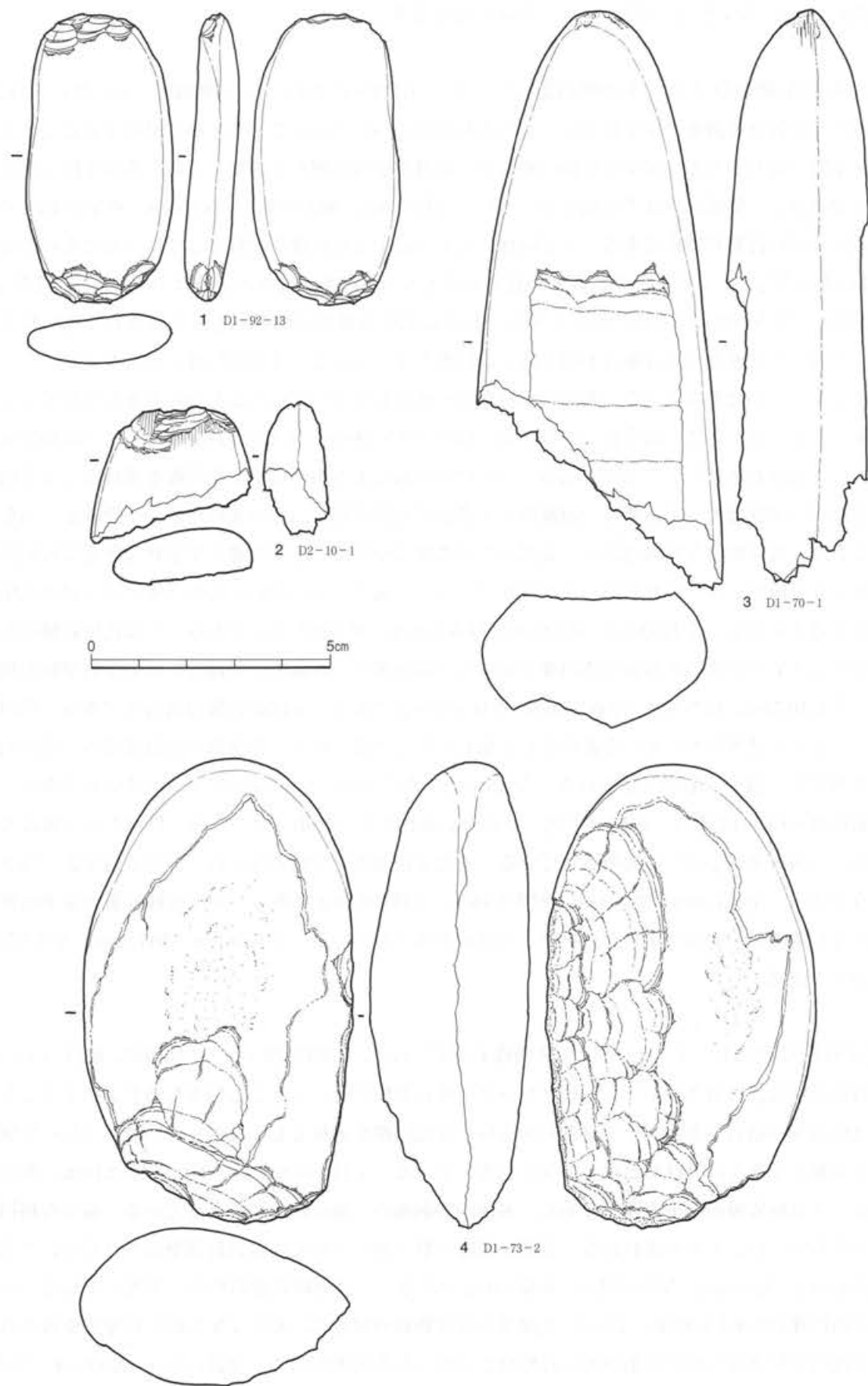
縄文時代早期包含層調査の中でDブロックの礫石器類についてはここでまとめて説明することとした。

1は石材不明で敲石である。扁平な長楕円礫の上下両端を比較的細かく調整し刃部と基部を作り出しているものと思われる。側縁部等は手を加えていない。全長6.10cm, 幅3.15cm, 厚み1.05cm, 重量28.13gである。2は緑泥片岩製の打製石斧片である。1と同様に元々は扁平な楕円礫を素材として作られたものと思われる。基部のみ残存しているため基部に調整が見られるもののその他の部分の調整は不明である。残全長2.80cm, 幅3.40cm, 厚み1.02cm, 重量15.45gである。3は緑泥片岩製の打製石斧もしくは敲石と思われるものである。半割した状態なので詳細は不明であるが打製石斧であるならば刃部に近い箇所が折れていてどういう状態であったかは不明である。基部に小打撃痕や擦痕も残されていることから石斧が折れてしまったと判断すべきかと思われる。残全長12.09cm, 幅5.20cm, 厚み2.80cm, 重量223.72gである。4は砂岩製の打製石斧もしくは敲石と思われるものである。やや厚みのある大きめの扁平な楕円礫を素材として使用している。表面側の刃部は大きく剥離した剥離面でだまかに形状を整え、その後周辺部をやや細かく調整して仕上げている。裏面側は左側縁部から先端部の刃部側にかけて大きく剥離して形状を整えて後周辺部をより細かく仕上げている。反対側から基部にかけては殆ど加工していないことから考えると製作途中である可能性も考えられる。全長9.85cm, 幅5.65cm, 厚み3.30cm, 重量225.15gである。5は花崗岩製の敲石である。やや大きめの厚みのある扁平楕円礫を使用して周辺部分と両面の平坦部分に顕著な打撃痕が残されている。全長10.75cm, 幅7.00cm, 厚み3.70cm, 重量460.00gである。6は砂岩製の敲石片である。楕円礫を半割した(もしくはされた)ものを素材にして敲石にしたと思われる。先端部分と縁部の一部の角張った箇所を利用して敲いたものと思われる。全長7.90cm, 幅7.41cm, 厚み5.45cm, 重量485.00gである。7は硬砂岩製の磨石(半欠)である。円礫を半割したものが素材として使用されている。打割された面にも周辺部の角張った箇所を中心にして使用されている。また平坦面のやや周辺部に沿って少し打撃痕が残されているようである。全長7.10cm, 幅8.90cm, 厚み5.40cm, 重量430.00gである。8は硬砂岩製の扁平円礫である。扁平な長楕円礫の両面の平坦部分を中心に磨痕が残されている。全長7.80cm, 幅4.12cm, 厚み1.75cm, 重量92.58gである。

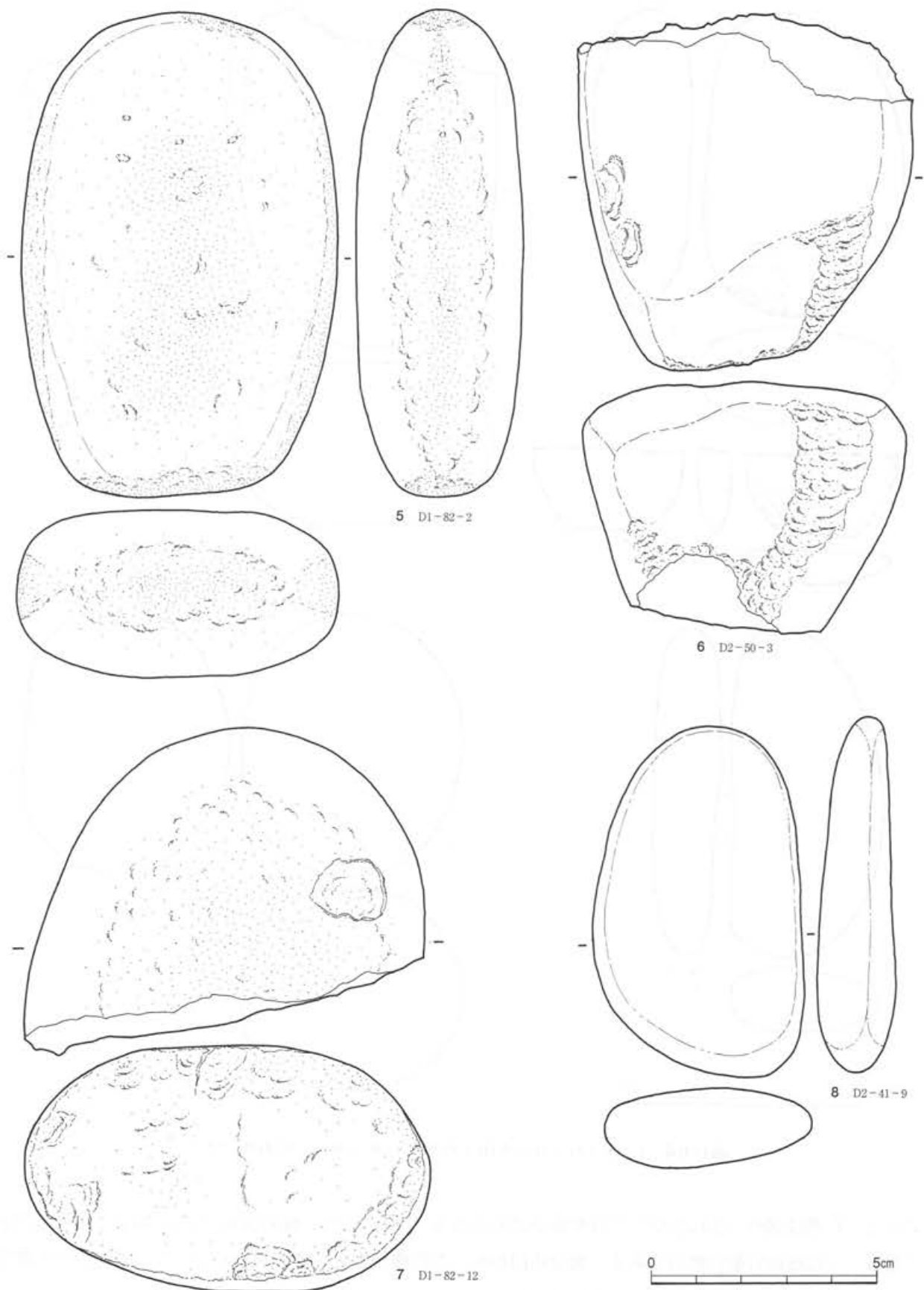
13 縄文時代早期のE・F・Gブロックの礫石器について (第174図1～5, 図版97, 第14・19～21表)

縄文時代早期包含層調査の中でE～Gブロックの礫石器類についてはここでまとめて説明することとした。

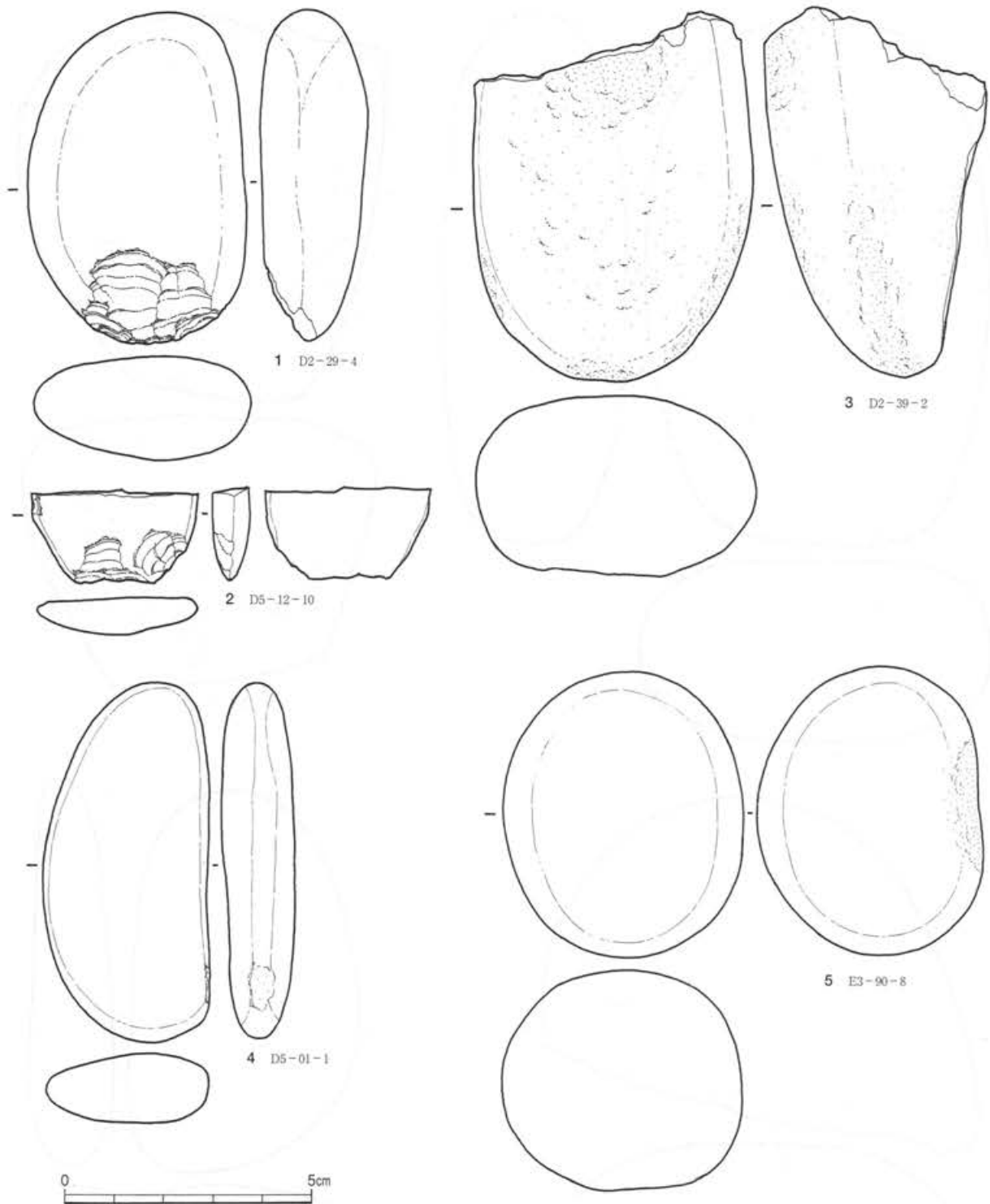
1は砂岩製の敲石である。やや厚みのある扁平な楕円礫を素材として使用している。刃部を片側より剥離して調整してある以外は殆ど礫の形状を利用している。全長6.70cm, 幅4.40cm, 厚み2.10cm, 重量97.56gである。2は砂岩製の扁平円礫片である。刃部から胴部の一部にかけて残存している。扁平な楕円礫を使用して作られていたものと思われる。刃部が剥離調整で整えられている以外調整はされてないと思われる。全長1.88cm, 幅3.38cm, 厚み0.74cm, 重量6.40gである。3は硬砂岩製の磨石(半欠)である。やや厚みがある楕円礫の2/3ほど使用している。先端部分及び側面の縁部にかけて集中的に打撃痕が残されている。また礫の平坦部分の中程に集中的に打撃痕が認められる箇所がある。全長7.50cm, 幅5.65cm, 厚み3.70cm, 重量236.03gである。4は砂岩製の扁平楕円礫である。やや細長い扁平な楕円礫を素材として使用し



第172図 Dブロック出土, 石斧・磨石・蔽石類 (2)



第173図 Dブロック出土，磨石・蔽石類（3）



第174図 E・F・Gブロック出土石器、石斧・磨石・敲石類(4)

ている。右側縁部の一部に集中して打撃痕が認められる。全長7.30cm、幅3.35cm、厚み1.40cm、重量52.32gである。5は硬砂岩製の磨石である。幾分楕円がかった円礫が素材として使われている。裏面の中央部分に集中的な打撃痕が残されている。全長5.80cm、幅4.90cm、厚み4.45cm、重量179.32gである。

第2表 旧石器時代 第1地点 出土遺物一覧表

挿図番号	調査区	遺物番号	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	母岩別分類	レベル	接合	出土層位	備考
第7図1	B2-24	0001	ナイフ形石器	4.70	1.75	0.70	4.55	珩質頁岩①	40.952		IV~V	嶺岡産
	B2-24	0002	碎片(礫面残)	0.70	1.15	0.40	0.24	珩質頁岩①	40.789		IV~V	嶺岡産
	B2-24	0003	碎片	1.70	1.20	0.65	0.87	珩質頁岩①	40.859		IV~V	嶺岡産
第7図3	B2-24	0004	剥片(大形・礫面残)	5.15	6.60	1.50	51.36	珩質頁岩①	40.950		IV~V	嶺岡産
第7図2	B2-24	0005	剥片(石核転用)	1.78	2.10	0.60	2.00	珩質頁岩①	40.908		IV~V	嶺岡産

第3表 旧石器時代 第2地点 出土遺物一覧表

挿図番号	調査区	遺物番号	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	母岩別分類	レベル	接合	出土層位	備考
第11図8	C2-28	0001	剥片	3.18	3.00	0.40	3.64	安山岩A②	40.731		IV~V	
第12図30	C2-28	0002	剥片(小形)	1.48	1.50	0.40	0.64	頁岩②	40.701		IV~V	焼
第11図5	C2-28	0003	石核	5.60	2.70	1.60	28.33	安山岩A②	40.788		IV~V	
第11図2	C2-28	0004	ナイフ形石器	2.70	1.35	0.60	3.14	安山岩A②	40.795		IV~V	
	C2-29	0001	碎片(細片)	1.25	1.15	0.25	0.24	安山岩B②	40.735		IV~V	
	C2-29	0002	碎片(細片)	0.90	1.25	0.35	0.31	安山岩A②	40.790		IV~V	
	C2-29	0003	剥片(小形)	1.20	1.50	0.40	0.48	安山岩B②	40.760		IV~V	
第12図23	C2-29	0004	剥片(小形)	1.50	1.30	0.33	0.71	安山岩A②	40.945		IV~V	
	C2-29	0005	碎片	1.80	1.45	0.90	1.54	安山岩A②	40.828		IV~V	
第11図7	C2-29	0006	剥片	3.53	2.15	0.50	4.18	安山岩A②	40.795		IV~V	
第9,10図1	C2-29	0007	剥片(礫面残)	7.70	9.10	6.65	276.53	安山岩A②	40.721	接1	IV~V	接合のまま計測
第9,10図1	C2-29	0008	剥片					安山岩A②	40.768	接1	IV~V	
	C2-29	0009	碎片(礫面残)	1.20	1.60	0.25	0.26	安山岩A②	40.735		IV~V	
第9,10図1	C2-29	0010	剥片					安山岩A②	40.729	接1	IV~V	右側調整?
第9,10図1	C2-29	0011	剥片	1.45	2.20	0.80	1.65	安山岩A②	40.728	接1	IV~V	
第11図14	C2-29	0012	剥片	3.55	1.85	0.55	3.88	安山岩A②	40.737		IV~V	
	C2-29	0013	碎片	1.65	1.50	0.70	1.62	安山岩A②	40.820		IV~V	
第9,10図1	C2-29	0014	剥片					安山岩A②	40.730	接1	IV~V	
	C2-29	0015	剥片	2.05	1.60	0.70	1.65	安山岩A②	40.781		IV~V	
	C2-29	0016	碎片	0.85	1.40	0.50	0.44	安山岩A②	40.795		IV~V	
第12図20	C2-29	0017	碎片	1.48	2.30	0.35	1.47	安山岩A②	40.820	接3	IV~V	接合のまま計測
	C2-29	0018	剥片	2.80	1.65	0.65	1.74	安山岩A②	40.705		IV~V	
	C2-29	0019	碎片	0.75	1.20	0.25	0.14	安山岩A②	40.655		IV~V	
	C2-29	0020	碎片	1.70	1.00	0.55	0.55	安山岩A②	40.815		IV~V	
第9,10図1	C2-29	0021	剥片(礫面残)	2.85	3.00	0.40	3.56	安山岩A②	40.752	接1	IV~V	
第9,10図1	C2-29	0022	剥片	2.85	2.30	0.67	6.78	安山岩A②	40.735	接1	IV~V	
	C2-29	0023	碎片(微細片)	0.30	0.80	0.25	0.03	安山岩A②	40.750		IV~V	
第9,10図1	C2-29	0024	剥片(礫面残)					安山岩A②	40.812	接1	IV~V	
	C2-29	0025	碎片	0.30	1.35	0.30	0.07	安山岩A②	40.777		IV~V	
第12図17	C2-29	0026	剥片	1.50	2.05	0.47	1.03	安山岩A②	40.740		IV~V	
	C2-29	0027	碎片	0.60	1.55	0.25	0.10	安山岩A②	40.695		IV~V	
	C2-29	0028	碎片(礫面残)	0.75	1.95	0.35	0.35	安山岩A②	40.685		IV~V	
第9,10図1	C2-29	0029	碎片				0.00	安山岩A②	40.683	接1	IV~V	
第12図18	C2-29	0030	剥片	1.85	2.10	0.78	2.47	安山岩A②	40.680		IV~V	
第9,10図1	C2-29	0031	剥片				4.28	安山岩A②	40.737	接1	IV~V	
	C2-29	0032	剥片	2.00	1.40	0.60	1.58	安山岩A②	40.820		IV~V	
第9,10図1	C2-29	0033	碎片					安山岩A②	40.640	接1	IV~V	
第12図24	C2-29	0034	剥片(小形)	1.20	1.55	0.25	0.63	安山岩A②	40.677		IV~V	
	C2-29	0035	碎片	1.15	1.10	0.40	0.31	安山岩A②	40.747		IV~V	
	C2-29	0036	碎片	0.70	0.85	0.25	0.10	安山岩B②	40.753		IV~V	
	C2-29	0037	碎片	1.85	0.65	0.50	0.64	安山岩A②	40.750		IV~V	
	C2-29	0038	碎片	0.90	1.55	0.30	0.24	安山岩A②	40.890		IV~V	
第12図29	C2-29	0039	剥片(小形)	1.40	1.82	0.45	0.89	頁岩②	40.925		IV~V	焼
	C2-29	0040	碎片	1.10	1.35	0.30	0.41	安山岩A②	40.777		IV~V	
第9,10図1	C2-29	0041	剥片				0.00	安山岩A②	40.795	接1	IV~V	
	C2-29	0042	碎片	0.60	1.40	0.25	0.15	安山岩A②	40.690		IV~V	
第11図4	C2-29	0043	剥片	2.72	2.20	0.85	6.06	安山岩A②	40.673		IV~V	
	C2-29	0044	碎片	1.20	0.85	0.55	0.44	安山岩A②	40.730		IV~V	
	C2-29	0045	碎片	1.65	1.30	0.40	0.47	安山岩A②	40.725		IV~V	
	C2-29	0046	碎片	1.60	1.15	0.40	0.43	安山岩A②	40.765		IV~V	
	C2-29	0047	碎片	1.65	0.65	0.40	0.22	安山岩A②	40.656		IV~V	
	C2-29	0048	剥片(小形)	1.80	1.35	0.50	0.94	安山岩A②	40.735		IV~V	
第12図21	C2-29	0049	碎片	2.05	1.90	0.30	1.38	安山岩A②	40.712	接2	IV~V	接合のまま計測
第11図3	C2-29	0051	剥片	3.60	2.10	1.00	6.50	安山岩A②	40.645		IV~V	左側調整
第11図10	C2-29	0052	剥片	2.73	1.70	0.60	2.69	安山岩A②	40.750		IV~V	
	C2-29	0053	碎片	1.25	1.85	0.30	0.41	安山岩B②	40.750		IV~V	
第9,10図1	C2-29	0054	剥片(小形)	1.98	1.20	0.40	0.87	安山岩A②	40.747	接1	IV~V	
	C2-29	0055	碎片(細片)	0.60	0.70	0.20	0.05	安山岩A②	40.700		IV~V	
	C2-29	0056	碎片	1.10	1.50	0.30	0.34	安山岩A②	40.690		IV~V	
	C2-29	0057	碎片(細片)	0.65	0.55	0.15	0.03	安山岩A②	40.655		IV~V	
第11図13	C2-29	0058	剥片	1.90	3.30	1.00	4.51	安山岩A②	40.650		IV~V	
	C2-29	0059	碎片(細片)	0.85	0.55	0.30	0.12	安山岩A②	40.677		IV~V	
	C2-29	0060	碎片	1.65	1.05	0.45	0.47	安山岩A②	40.681		IV~V	
	C2-29	0061	碎片	1.60	1.25	0.40	0.34	安山岩A②	40.740		IV~V	
第9,10図1	C2-29	0062	石核(礫面残)				0.00	安山岩A②	40.730	接1	IV~V	
	C2-29	0063	碎片	0.60	1.70	0.40	0.21	安山岩A②	40.665		IV~V	

挿入番号	調査区	遺物番号	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	母岩別分類	レベル	接合	出土層位	備考
	C2-29	0064	碎片	1.00	1.05	0.50	0.33	安山岩A②	40.693		IV~V	
	C2-29	0065	碎片	0.90	1.55	0.50	0.50	安山岩A②	40.656		IV~V	
	C2-29	0066	剥片(小形)	1.05	1.80	0.35	0.44	安山岩B②	40.650		IV~V	
	C2-29	0067	碎片	1.30	0.75	0.45	0.24	安山岩A②	40.720		IV~V	
	C2-29	0068	碎片	0.85	1.30	0.30	0.20	安山岩B②	40.695		IV~V	
	C2-29	0069	碎片	1.60	0.40	0.35	0.09	安山岩A②	40.702		IV~V	
第9,10図1	C2-29	0070	剥片(礫面残)	3.53	2.90	0.90	11.39	安山岩A②	40.650	接1	IV~V	
	C2-29	0071	碎片(細片)	0.75	0.95	0.25	0.12	安山岩A②	40.620		IV~V	
	C2-29	0072	剥片(小形・礫面残)	1.50	2.05	0.50	1.25	安山岩A②	40.625		IV~V	
	C2-29	0073	碎片(細片)	1.00	0.90	0.25	0.18	安山岩A②	40.655		IV~V	調整片?
	C2-29	0074	碎片	0.70	0.75	0.40	0.13	安山岩A②	40.705		IV~V	
	C2-29	0075	碎片	0.65	1.25	0.35	0.26	安山岩A②	40.645		IV~V	
	C2-29	0076	碎片	0.95	0.65	0.30	0.10	安山岩A②	40.672		IV~V	
	C2-29	0077	剥片(小形)	1.55	1.30	0.45	0.65	安山岩A②	40.645		IV~V	
第9,10図1	C2-29	0078	剥片				0.00	安山岩A②	40.615	接1	IV~V	
	C2-29	0079	碎片	1.10	1.75	0.40	0.58	安山岩A②	40.625		IV~V	
	C2-29	0080	碎片	1.25	0.65	0.25	0.10	安山岩A②	40.655		IV~V	
	C2-29	0081	碎片	1.35	0.95	0.50	0.40	安山岩A②	40.627		IV~V	
	C2-29	0082	剥片(小形)	1.60	1.20	0.35	0.55	安山岩A②	40.640		IV~V	
	C2-29	0083	碎片	1.80	0.60	0.40	0.28	安山岩B②	40.642		IV~V	
第11図15	C2-29	0084	剥片	2.45	1.10	0.60	1.97	安山岩A②	40.605		IV~V	
第12図19	C2-29	0085	剥片	1.05	1.30	0.60	1.56	安山岩A②	40.610		IV~V	
第9,10図1	C2-38	0001	剥片(礫面残)				0.00	安山岩A②	40.803	接1	IV~V	
第12図27	C2-38	0003	剥片(礫面残)	5.63	2.50	0.88	12.40	頁岩②	41.137		IV~V	
第11図9	C2-38	0004	剥片	3.50	2.40	1.00	10.76	安山岩A②	40.870		IV~V	
第11図11	C2-38	0005	剥片	3.17	1.57	0.60	3.72	安山岩A②	40.773		IV~V	
第9,10図1	C2-38	0006	剥片				0.87	安山岩A②	40.887	接1	IV~V	
第9,10図1	C2-38	0007	石核				0.00	安山岩A②	40.871	接1	IV~V	
第11図6	C2-38	0008	剥片	2.40	3.00	1.05	8.46	安山岩A②	40.985		IV~V	
	C2-38	0009	碎片(礫面残)	1.30	1.50	0.65	1.11	黒曜石②	41.210		IV~V	
	C2-38	0010	碎片	2.10	0.70	0.30	0.38	安山岩A②	40.750		IV~V	
	C2-38	0011	碎片	0.80	0.60	0.20	0.06	黒曜石②	41.120		IV~V	
	C2-38	0012	碎片(礫面残)	1.95	1.05	0.50	0.54	黒曜石②	41.305		IV~V	
	C2-38	0013	碎片(微細片)	0.45	0.55	0.20	0.02	黒曜石②	41.321		IV~V	
	C2-38	0014	碎片	1.20	1.85	0.45	0.56	黒曜石②	41.105		IV~V	
	C2-38	0015	剥片(小形)	1.30	1.45	0.45	0.62	黒曜石②	40.965		IV~V	
	C2-38	0016	碎片	1.20	1.50	0.80	0.81	黒曜石②	41.045		IV~V	
	C2-38	0017	碎片(礫面残)	1.50	1.20	0.30	0.28	黒曜石②	41.180		IV~V	
	C2-38	0018	碎片	1.00	1.40	0.50	0.32	黒曜石②	41.215		IV~V	
第11図12	C2-38	0021	剥片	4.10	1.40	0.80	4.76	安山岩A②	40.715		IV~V	
第9,10図1	C2-38	0022	剥片				0.00	安山岩A②	40.760	接1	IV~V	
第9,10図1	C2-38	0023	剥片	4.10	4.20	0.90	23.26	安山岩A②	40.757	接1	IV~V	遺物番号消?
第12図33	C2-39	0002	剥片	4.00	4.30	0.65	15.17	硬砂岩②	40.780		II	
第12図31	C2-39	0003	剥片	2.23	1.93	0.60	2.67	メノウ②	40.650		II	
第12図32	C2-39	0004	剥片(礫面残)	2.10	1.20	0.23	0.66	メノウ②	40.610		II	
第12図20	C2-39	0005	剥片(小形)				0.00	安山岩A②	40.735	接3	IV~V	接合のまま計測
第9,10図1	C2-39	0005	剥片					安山岩A②	40.735	接1	IV~V	右側調整?
第12図22	C2-39	0006	剥片(小形)	1.60	1.70	0.30	0.87	安山岩A②	40.802		IV~V	
第12図21	C2-39	0007	剥片				0.00	安山岩A②	40.740	接2	IV~V	接合のまま計測
第12図16	C2-39	0009	剥片(礫面残)	1.40	2.10	0.45	1.26	安山岩A②	40.780		IV~V	
	C2-39	0010	剥片	1.00	1.55	0.55	0.50	安山岩A②	40.765		IV~V	
	C2-39	0011	剥片	1.50	0.75	0.40	0.23	安山岩A②	40.880		IV~V	
	C2-39	0012	剥片	0.95	1.20	0.25	0.24	安山岩A②	40.815		IV~V	
第12図28	C2-39	0014	剥片(礫面残)	3.02	1.90	1.05	7.83	頁岩②	41.275		II~III	
第12図25	C2-39	0015	剥片	2.90	1.60	0.75	2.48	安山岩B②	40.780		IV~V	
第12図26	C2-39	0016	剥片(礫面残)	4.20	3.60	1.10	14.87	頁岩②	40.805		IV~V	
	C2-39	0017	剥片	0.90	1.45	0.20	0.22	安山岩A②	40.677		IV~V	
第9,10図1	C2-39	0018	剥片(礫面残)				0.00	安山岩A②	40.770	接1	IV~V	

第4表 旧石器時代 第3地点 出土遺物一覽表

挿入番号	調査区	遺物番号	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	母岩別分類	レベル	接合	出土層位	備考
第13図9	E2-02	0003	扁平礫	5.00	3.40	0.60	22.04	砂岩③	41.007		III~IV	表裏片側剥離面有
第13図7	E2-03	0001	剥片	2.52	1.23	0.70	1.98	チャート③	40.828		III~IV	
第13図3	E2-03	0002	剥片	4.90	2.90	0.48	10.52	安山岩A③	40.915		III~IV	
第13図4	E2-03	0003	剥片(礫面残)	4.35	2.70	0.68	7.29	安山岩A③	40.773		III~IV	
第13図8	E2-12	0002	両極(小円礫)	3.60	1.70	0.78	8.28	チャート③	40.863		III~IV	
第13図2	E2-12	0005	剥片(礫面残)	4.68	2.75	0.50	8.37	安山岩A③	40.540		III~IV	
第13図1	E2-13	0001	尖頭器	4.30	1.90	0.60	7.94	安山岩A③				攪乱中
第13図10	E2-13	0002	礫片	8.10	7.30	2.70	235.03	蛇紋岩③				攪乱中
第13図6	E2-13	0003	剥片(礫面残)	2.90	1.40	0.40	1.49	安山岩A③	40.355		III~IV	
第13図5	E2-13	0005	剥片(礫面残)	3.80	2.10	0.50	5.09	安山岩A③	40.690		III~IV	
	E2-13	0006	礫片(小片)	1.70	2.00	0.65	1.84	蛇紋岩③	40.693		III~IV	

第5表 旧石器時代 第4地点 出土遺物一覧表

挿図番号	調査区	遺物番号	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	母岩別分類	レベル	接合	出土層位	備考
第15図5	C1-54	0051	剥片	2.45	3.70	0.70	5.49	メノウ④-①	40.268		Ⅶ~Ⅸ	
第15図1	C1-54	0052	剥片(刃器状)	6.50	2.50	0.72	13.69	珪質頁岩④	40.045		Ⅶ~Ⅸ	
	C1-55	0005	碎片(小片)	1.80	1.70	0.60	1.66	緑泥片岩④	41.285		Ⅶ~Ⅸ	
	C1-55	0007	小円礫	1.60	1.70	0.90	3.55	メノウ④-②	41.184		-	
第15図2	C1-55	0010	剥片(礫面残)	4.25	2.40	0.40	5.37	安山岩A④	41.207		Ⅶ~Ⅸ	
第15図6	C1-55	0011	砥石(半欠)	9.08	6.30	0.40	278.37	硬砂岩④				
第15図4	C1-55	0011	剥片(礫面残)	2.60	4.70	1.10	14.93	ホルンフェルス④				
	C1-55	0011	小円礫	3.70	1.90	1.00	10.40	チャート④-①			-	
	C1-55	0012	碎片	2.30	1.25	0.75	1.36	チャート④-②	40.372		Ⅶ~Ⅸ	
第15図3	C1-45	0093	剥片	1.68	1.95	0.60	2.04	安山岩A④	40.173		Ⅶ~Ⅸ	

第6表 旧石器時代 第5地点 出土遺物一覧表

挿図番号	調査区	遺物番号	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	母岩別分類	レベル	接合	出土層位	備考
第16図1	D2-80	0001	剥片	2.10	3.00	0.95	5.58	黒曜石⑤	40.397			右側使用痕有
	D2-80	0004	碎片	1.70	0.65	0.60	0.44	瑪瑙⑤	40.791		Ⅱ~Ⅲ	
	D2-80	0005	碎片	0.70	1.10	0.30	0.14	黒曜石⑤	40.991		Ⅱ~Ⅲ	
第16図2	D2-80	0006	剥片(礫面残)	1.40	2.70	0.70	2.74	安山岩A⑤	40.892		Ⅳ~Ⅴ	
第16図3	D2-80	0007	剥片	1.70	2.40	0.30	1.84	安山岩A⑤	40.522		Ⅵ~Ⅶ	

第7表 旧石器時代 第6地点 出土遺物一覧表

挿図番号	調査区	遺物番号	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	母岩別分類	レベル	接合	出土層位	備考
	B3-63	0005	剥片	2.10	1.85	0.60	1.39	黒曜石⑥	39.614		Ⅲ層上面	裏右側使用痕有
	B3-63	0006	礫片(微細片)	1.90	1.20	0.70	1.11	頁岩⑥	39.638		Ⅲ層上面	焼
第19図9	B3-64	0001	剥片	2.15	2.45	0.32	2.14	ホルンフェルス⑥	39.125		Ⅳ~Ⅴ	
第18図1	B3-64	0002	剥片	4.67	6.30	1.00	32.54	ホルンフェルス⑥	39.174	接1	Ⅵ	
第18図4	B3-64	0003	剥片(礫面残)	4.25	3.20	0.80	21.30	ホルンフェルス⑥	39.310		Ⅵ	
	B3-64	0005	剥片(細片)	0.75	0.45	0.15	0.03	黒曜石⑥	39.830		Ⅵ	
	B3-64	0006	碎片	1.45	0.85	0.55	0.22	黒曜石⑥	39.645		Ⅵ	
	B3-64	0007	礫片	5.00	4.40	4.10	132.58	石灰岩⑥	39.575		Ⅵ	海性成分痕多数
	B3-64	0008	剥片	1.70	1.50	0.25	0.45	黒曜石⑥	39.694		Ⅵ	
	B3-64	0009	剥片	2.50	1.70	0.70	2.20	黒曜石⑥	39.608		Ⅵ	裏右側調整痕有
	B3-64	0011	剥片	3.20	1.40	0.55	2.11	黒曜石⑥	39.990		Ⅵ	
第19図8	B3-64	0013	剥片	2.70	2.20	0.43	3.78	ホルンフェルス⑥	39.180		Ⅳ~Ⅴ	
	B3-64	0014	碎片	1.15	1.90	0.30	0.77	ホルンフェルス⑥	39.307		Ⅵ	
	B3-64	0015	剥片	3.20	2.55	0.80	4.53	ホルンフェルス⑥	39.260		Ⅵ	
第19図12	B3-64	0016	剥片	2.75	1.42	0.40	1.56	メノウ⑥	39.257		Ⅵ	
第18図2	B3-64	0017	剥片	3.70	6.00	0.95	17.55	ホルンフェルス⑥	39.255	接2	Ⅵ	
	B3-64	0018	碎片	1.10	1.60	0.40	0.62	ホルンフェルス⑥	39.280		Ⅵ	
第18図7	B3-64	0019	剥片(礫面残)	3.95	2.10	0.60	6.25	ホルンフェルス⑥	39.270		Ⅵ	
第18図6	B3-64	0020	剥片(礫面残)	3.95	1.20	0.60	7.14	ホルンフェルス⑥	39.370		Ⅵ	
	B3-64	0021	碎片	1.55	1.45	0.40	0.78	ホルンフェルス⑥	39.367		Ⅵ	
	B3-64	0022	碎片	1.20	0.80	0.50	0.43	ホルンフェルス⑥	39.358		Ⅵ	
	B3-64	0023	碎片	1.60	0.75	0.35	0.38	ホルンフェルス⑥	39.383		Ⅵ	
	B3-64	0024	碎片(礫面残)	1.50	1.20	0.60	1.03	ホルンフェルス⑥	39.245		Ⅵ	
第18図1	B3-64	0025	剥片				0.00	ホルンフェルス⑥	39.206	接1	Ⅵ	
第19図11	B3-64	0026	剥片	4.00	2.90	0.60	5.80	黒曜石⑥	39.068		Ⅵ	使用痕有
第19図13	B3-64	0027	両極石器	2.78	2.70	0.95	7.77	メノウ⑥	39.273		Ⅵ	核部?
第19図14	B3-64	0028	石核	4.40	5.75	4.75	131.04	硬砂岩⑥	39.257		Ⅳ~Ⅴ	焼?
	B3-64	0029	碎片	1.35	1.10	0.65	0.71	ホルンフェルス⑥	39.223		Ⅵ	
第18図3	B3-64	0030	剥片	4.40	4.20	0.97	16.23	ホルンフェルス⑥	39.133		Ⅵ	
第18図5	B3-64	0032	剥片(礫面残)	3.35	3.50	0.60	9.09	ホルンフェルス⑥	39.265		Ⅵ	
	B3-64	0033	碎片	1.75	0.95	0.35	0.43	ホルンフェルス⑥	39.143		Ⅵ	
第19図10	B3-64	0034	剥片(小形)	2.22	1.70	0.47	1.38	ホルンフェルス⑥	39.232		Ⅵ	
第18図1	B3-64	0035	碎片				0.00	ホルンフェルス⑥	39.222	接1	Ⅵ	
第18図1	B3-64	0036	剥片(礫面残)				0.00	ホルンフェルス⑥	39.196	接1	Ⅵ	
第18図2	B3-64	0037	剥片(礫面残)				0.00	ホルンフェルス⑥	39.167	接2	Ⅵ	
	B3-64	0038	碎片	1.50	1.10	0.20	0.26	ホルンフェルス⑥	39.193		Ⅵ	
第18図1	B3-64	0039	剥片				0.00	ホルンフェルス⑥	39.256	接1	Ⅵ	
	B3-64	0040	碎片	1.90	1.20	0.20	0.34	ホルンフェルス⑥	39.160		Ⅵ	
	B3-64	0041	碎片	1.35	1.30	0.40	0.76	ホルンフェルス⑥	39.198		Ⅵ	
第18図1	B3-64	0042	碎片				0.00	ホルンフェルス⑥	39.202	接1	Ⅵ	
	B3-64	0044	碎片	0.75	1.55	0.25	0.27	ホルンフェルス⑥	39.143		Ⅵ	
	B3-64	0045	碎片	1.70	1.60	0.40	0.78	ホルンフェルス⑥	39.113		Ⅵ	
	B3-64	0046	碎片	1.20	2.00	0.50	1.02	ホルンフェルス⑥	39.147		Ⅵ	
	B3-64	0047	碎片	0.60	0.90	0.35	0.17	ホルンフェルス⑥	39.085		Ⅵ	

第8表 旧石器時代 第7地点 出土遺物一覧表

挿図番号	調査区	遺物番号	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	母岩別分類	レベル	接合	出土層位	備考
第21図5	B4-49	0001	剥片	3.75	3.60	1.00	12.51	チャート⑦	37.771		IX層上面	
第21図3	B4-49	0002	剥片	2.68	1.95	0.68	4.10	チャート⑦	37.990		VI~VII	
	B4-49	0003	碎片	1.70	1.20	0.40	0.38	チャート⑦	37.807		VI~VII	
第21図7	B4-49	0004	剥片	2.30	1.40	0.55	2.48	チャート⑦	37.804		VI~VII	
第23図23	B4-49	0005	剥片	2.57	2.80	0.45	3.63	安山岩A⑦	38.013		VI~VII	
第22図12	B4-49	0006	剥片	2.60	2.30	1.15	9.12	石英⑦	38.015		VI~VII	
第23図22	B4-49	0007	剥片(礫面残)	2.70	3.50	0.50	7.27	安山岩A⑦	38.140		VI~VII	
第22図18	B4-49	0008	剥片	1.65	1.45	0.47	0.99	石英⑦	38.120		VI~VII	
	B4-49	0009	碎片	2.30	1.15	0.70	1.43	石英⑦	38.096		VI~VII	
第22図17	B4-49	0010	剥片	1.50	2.13	0.30	1.44	石英⑦	38.352		VI~VII	
	B4-49	0011	碎片	0.80	1.45	0.30	0.23	石英⑦	38.081		VI~VII	
	B4-49	0012	碎片	1.20	0.95	0.60	0.53	石英⑦	38.255		VI~VII	
第21図8	B4-49	0013	剥片(礫面残)	3.20	1.50	0.75	5.64	チャート⑦	38.017		VI~VII	
第23図24	B4-49	0014	剥片(礫面残)	6.23	2.20	0.60	9.00	安山岩A⑦	38.062		VI~VII	
	B4-49	0015	剥片(礫面残)	1.60	2.50	0.60	2.10	安山岩A⑦	38.148		VI~VII	
	B4-49	0016	碎片	1.25	1.00	0.20	0.21	石英⑦	38.177		VI~VII	
第22図13	B4-49	0017	剥片	2.10	2.17	0.40	2.01	石英⑦	38.027		VI~VII	
第22図11	B4-49	0018	剥片	3.10	2.30	0.90	9.23	石英⑦	38.032		VI~VII	
第22図15	B4-49	0019	剥片	1.50	2.10	0.65	2.37	石英⑦	37.912		VI~VII	
第23図27	B4-49	0020	敲石	5.80	4.70	2.20	87.79	硬砂岩⑦	38.128		VI~VII	扁平円礫
	B4-49	0021	碎片	0.80	1.40	0.30	0.28	石英⑦	38.972		VI~VII	
第22図10	B4-49	0022	剥片	4.00	2.50	0.70	9.46	石英⑦	38.197		VI~VII	
第22図9	B4-49	0023	剥片	3.05	4.50	1.00	15.34	石英⑦	38.270	接3	VI~VII	
	B4-49	0024	碎片	0.70	0.70	0.60	0.28	石英⑦	38.113		VI~VII	
	B4-49	0025	碎片(微細片)	0.40	0.65	0.25	0.05	石英⑦	37.900		VI~VII	
第22図9	B4-49	0026	剥片				0.00	石英⑦	38.018	接3	VI~VII	
第22図14	B4-49	0027	剥片	2.18	2.60	0.60	6.23	石英⑦	38.063		VI~VII	
	B4-49	0028	碎片(細片)	0.50	1.05	0.35	0.15	石英⑦	38.157		VI~VII	
	B4-49	0029	碎片(細片)	2.00	1.40	0.65	1.18	石英⑦	38.007		VI~VII	
	B4-49	0030	碎片	2.10	1.05	0.65	0.95	石英⑦	37.947		VI~VII	
	B4-49	0031	碎片	0.90	1.10	0.30	0.27	石英⑦	38.001		VI~VII	
	B4-49	0032	剥片	1.90	2.30	1.35	5.86	石英⑦	38.052		VI~VII	核片?
第23図25	B4-59	0001	剥片	1.75	2.00	0.40	1.50	安山岩A⑦	37.985		IX層上面	
第21図2	B4-59	0002	剥片	3.20	3.30	0.95	10.17	チャート⑦	37.933	接2	IX層上面	
第21図2	B4-59	0003	碎片				0.00	チャート⑦	37.866	接2	VI~VII	
第23図21	B4-59	0004	剥片(礫面残)	4.40	5.75	1.70	31.62	安山岩A⑦	37.820		VI~VII	
第22図9	B4-59	0005	剥片				0.00	石英⑦	37.822	接3	VI~VII	
	B4-59	0006	碎片	0.90	0.95	0.25	0.17	黒曜石⑦	37.695		VI~VII	
第21図1	B4-59	0007	石核	3.60	3.70	4.05	56.84	チャート⑦	37.827	(接2)	VI~VII	
第22図20	C4-40	0001	打製石斧(半欠)	5.60	5.90	1.78	62.96	緑色凝灰岩⑦	38.108		VII層下部	一部外皮残,片面端部磨耗痕有
	C4-40	0002	剥片	1.35	0.85	0.45	0.48	チャート⑦	38.156		VI~VII	
第23図26	C4-40	0003	剥片(礫面残)	5.30	4.00	1.00	25.39	砂岩⑦	38.182	接4	VI~VII	
	C4-40	0004	剥片	3.00	1.80	0.90	4.66	砂岩⑦	38.146		VI~VII	
	C4-40	0005	剥片	0.90	1.20	0.30	0.18	黒曜石⑦	38.099		VI~VII	
第21図4	C4-40	0006	剥片	2.80	3.80	0.60	8.96	チャート⑦	38.110	接1	VI~VII	
第21図6	C4-40	0007	剥片	2.18	1.80	0.60	2.17	チャート⑦	37.997		VII層上部	
第22図16	C4-40	0008	剥片	2.65	2.80	1.18	8.68	石英⑦	38.320		VI~VII	
	C4-40	0009	碎片(細片)	0.50	0.70	0.55	0.18	石英⑦	38.302		VI~VII	
第23図26	C4-40	0010	剥片(礫面残)				0.00	砂岩⑦	38.301	接4	VI~VII	
	C4-40	0011	碎片	1.90	1.10	0.50	0.83	砂岩⑦	38.152		VI~VII	
第21図4	C4-40	0012	剥片				0.00	チャート⑦	38.065	接1	VI~VII	
第22図19	C4-50	0001	剥片	4.10	2.20	0.50	5.02	珪質頁岩⑦	37.908		IX層上面	

第9表 旧石器時代 第8地点 出土遺物一覧表

挿図番号	調査区	遺物番号	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	母岩別分類	レベル	接合	出土層位	備考
第24図3	C5-39	0001	剥片	4.60	4.10	1.25	25.62	珪質頁岩⑧-①	39.148		VII	
第24図4	C5-39	0002	剥片(礫面残)	3.20	3.30	0.80	9.26	珪質頁岩⑧-②	ナシ		I	0001と同じか?
第24図2	D5-30	0001	剥片	3.25	1.25	0.90	4.72	珪質頁岩⑧-①	39.215		VII	
	D5-30	0002	剥片(礫面残)	2.35	1.50	0.60	2.11	珪質頁岩⑧-①	38.892		VII	
第24図1	D5-40	0001	剥片	5.00	2.80	1.20	13.47	珪質頁岩⑧-①	39.200		VI	

第10表 旧石器時代 第9地点 出土遺物一覧表

挿図番号	調査区	遺物番号	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	母岩別分類	レベル	接合	出土層位	備考
第27図6	D5-22	0037	剥片(大形・外皮残)	6.45	5.20	1.25	49.92	安山岩A⑨	39.252		VII~IX	
	D5-23	0014	碎片	2.20	1.80	0.80	1.53	安山岩A⑨	39.384		VII~IX	
第28図17	D5-23	0015	剥片	1.95	2.10	0.30	1.51	安山岩A⑨	39.430		VII	
	D5-23	0016	碎片(細片)	0.65	0.75	0.25	0.09	安山岩A⑨	39.196		VII	
	D5-23	0017	碎片(細片)	0.65	0.50	0.25	0.04	安山岩A⑨	39.153		VII	

挿図番号	調査区	遺物番号	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	母岩別分類	レベル	接合	出土層位	備考
第27図8	D5-23	0018	剥片	2.85	1.40	0.30	1.42	安山岩A⑨	39.168		Ⅶ	
第29図25	D5-23	0019	剥片(礫面残)	6.38	7.63	1.85	87.22	チャート⑨	39.195		Ⅶ	
	D5-23	0020	剥片(礫面残)	2.20	1.95	1.90	5.14	安山岩A⑨	39.200		Ⅶ	核部片?
第27図2	D5-23	0021	剥片	5.30	3.30	3.20	33.12	安山岩A⑨	39.090	接3	Ⅶ	
第27図2	D5-23	0022	剥片				0.00	安山岩A⑨	39.054	接3	Ⅶ	
第27図2	D5-23	0023	石核				0.00	安山岩A⑨	39.328	接3	Ⅶ	
	D5-23	0024	碎片(細片)	0.70	0.70	0.15	0.04	安山岩A⑨	39.131		Ⅶ	
	D5-23	0025	碎片	1.30	2.10	0.90	2.35	安山岩A⑨	39.053		Ⅶ	
	D5-23	0026	碎片(細片)	0.80	0.50	0.15	0.03	安山岩A⑨	39.200		Ⅶ	
第27図5	D5-23	0027	剥片	2.27	2.20	0.90	4.85	安山岩B⑨	39.307		Ⅶ	ややトロ
第28図22	D5-23	0028	剥片	2.65	1.60	0.80	4.95	安山岩A⑨	39.515		Ⅶ	
第29図23	D5-23	0029	剥片	4.50	5.30	3.15	63.22	珪質頁岩⑨	39.204	接5	Ⅶ	
	D5-23	0030	碎片	1.15	0.75	0.30	0.10	黒曜石⑨	39.155		Ⅶ	
	D5-23	0032	碎片	1.25	1.00	0.20	0.20	安山岩A⑨	39.035		Ⅶ	
	D5-23	0033	碎片	1.40	0.95	0.40	0.33	安山岩A⑨	39.016		Ⅶ	
第27図1	D5-23	0034	石核(礫面残)	3.40	3.30	2.75	45.93	安山岩A⑨	39.023		Ⅶ	
第29図23	D5-23	0035	石核(礫面残)				0.00	珪質頁岩⑨	39.030	接5	Ⅶ	
第29図23	D5-23	0036	剥片(礫面残)				0.00	珪質頁岩⑨	39.228	接5	Ⅶ	
第29図23	D5-23	0037	剥片				0.00	珪質頁岩⑨	39.355	接5	Ⅶ	
第29図23	D5-23	0038	剥片(小形)				0.00	珪質頁岩⑨	39.300	接5	Ⅶ	
	D5-23	0039	剥片	1.50	2.65	0.37	1.60	安山岩⑨	39.418		Ⅶ	
第27図3	D5-23	0040	剥片(礫面残)	4.58	2.90	0.70	9.35	安山岩A⑨	39.252		Ⅶ	
第28図18	D5-23	0041	剥片	1.70	2.50	0.43	1.97	安山岩A⑨	39.165		Ⅶ	
第29図23	D5-23	0042	剥片				0.00	珪質頁岩⑨	38.966	接5	Ⅶ	打面調整片
第27図4	D5-32	0001	剥片	1.95	2.50	0.60	4.81	安山岩B⑨	ナシ	接4	Ⅶ~Ⅸ	ややトロ
	D5-33	0003	剥片(礫面残)	3.30	2.20	0.95	4.85	安山岩A⑨	39.124		Ⅸ	
第27図10	D5-33	0004	剥片	2.55	3.60	0.70	6.49	安山岩A⑨	39.262		Ⅸ	
第27図4	D5-33	0005	碎片				0.00	安山岩B⑨	39.098	接4	Ⅶ	ややトロ
第28図20	D5-33	0009	剥片	2.38	4.60	0.75	9.59	安山岩A⑨	39.287	接1	Ⅶ	
	D5-33	0010	剥片(礫面残)	2.15	2.60	0.40	2.46	安山岩A⑨	39.237		Ⅶ~Ⅸ	
	D5-33	0011	碎片	1.75	1.05	0.25	0.41	安山岩A⑨	39.000		Ⅶ~Ⅸ	
第28図21	D5-33	0012	剥片	3.20	2.35	0.85	7.63	安山岩A⑨	39.107		Ⅶ~Ⅸ	核部片?, 黒色
	D5-24	(0002)	碎片					黒曜石⑨	39.527		Ⅲ	
第27図7	D5-24	0003	剥片(礫面残)	3.90	1.00	0.55	2.74	安山岩A⑨	39.163	接2	Ⅶ~Ⅸ	
	D5-34	0001	剥片(礫面残)	2.10	3.30	0.70	4.50	安山岩A⑨	39.153		Ⅶ~Ⅸ	
第28図19	D5-34	0002	剥片	2.35	2.00	0.40	1.78	安山岩A⑨	39.080		Ⅶ	
第28図12	D5-34	0003	剥片	3.90	2.80	0.90	9.38	安山岩A⑨	38.972		Ⅶ	
第28図20	D5-34	0004	剥片				0.00	安山岩A⑨	39.084	接1	Ⅶ	
	D5-34	0006	剥片(礫面残)	2.40	1.60	0.70	2.47	安山岩A⑨	39.220		Ⅶ	
	D5-34	0007	碎片(細片)	0.40	0.60	0.15	0.03	安山岩A⑨	39.244		Ⅶ	
	D5-34	0008	碎片(礫面残)	1.10	1.50	0.45	0.62	安山岩A⑨	39.167		Ⅶ	
	D5-34	0009	碎片	0.85	0.95	0.25	0.12	安山岩A⑨	39.160		Ⅶ	
第28図15	D5-34	0010	剥片	2.20	2.60	0.48	2.96	安山岩A⑨	39.080		Ⅶ	
	D5-34	0011	剥片(礫面残)	2.40	2.30	1.00	4.22	安山岩A⑨	39.180		Ⅶ	焼
	D5-34	0012	碎片	1.20	0.95	0.25	0.23	安山岩A⑨	39.229		Ⅶ	
	D5-34	0013	剥片(礫面残)	1.80	3.20	0.60	4.02	安山岩A⑨	39.088		Ⅶ	
第28図13	D5-34	0014	剥片	4.20	4.60	0.90	19.95	安山岩A⑨	39.090		Ⅶ	
第28図11	D5-34	0015	剥片(礫面残)	5.00	4.50	1.65	45.43	安山岩A⑨	39.100		Ⅶ	黒色
第27図7	D5-34	0016	剥片(礫面残)				0.00	安山岩A⑨	38.944	接2	Ⅶ	
	D5-34	0017	碎片	1.35	1.80	0.55	1.03	安山岩A⑨	39.173		Ⅶ	
第27図9	D5-34	0018	剥片	2.75	4.40	1.10	12.66	安山岩A⑨	39.180		Ⅶ~Ⅸ	
第27図2	D5-34	0019	剥片				0.00	安山岩A⑨	38.914	接3	Ⅶ	注記(D5-23-31)
第28図14	D5-34	0020	剥片	3.40	2.10	0.45	3.47	安山岩A⑨	39.079		Ⅶ	
	D5-34	0021	剥片	2.80	2.40	0.75	3.60	安山岩A⑨	39.120		Ⅶ	
第29図24	D5-13	0010	ナイフ形石器	3.25	1.40	0.50	2.70	珪質頁岩⑨	39.858		Ⅳ~Ⅴ	

第11表 旧石器時代 調査区外 出土遺物一覧表

挿図番号	調査区	遺物番号	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	母岩別分類	レベル	接合	出土層位	備考
第30図1	C3-53	0001	ナイフ形石器	3.30	1.90	0.60	3.51	珪質頁岩	40.740			
第30図2	C3-52	0002	ナイフ形石器	4.10	1.25	0.58	4.31	珪質頁岩	40.880			
第30図3	C2-09	0002	ナイフ形石器	3.60	1.60	0.80	3.18	珪質頁岩	40.853			
第30図4	C3-53	0003	ナイフ形石器	2.78	1.65	0.60	2.50	頁岩?				焼
第30図5	D2-58	0026	ナイフ形石器(欠)	1.60	1.55	0.30	1.19	頁岩	40.749			
第30図6	E3-21	0011	ナイフ形石器(欠)	2.03	1.52	0.35	1.41	頁岩	40.394			
第30図7	C4-12	0002	剥片	2.97	1.30	0.40	2.14	頁岩	39.416		Ⅱ	裏右側使用痕?
第30図8	D2-90	0004	ナイフ形石器	2.80	1.10	0.33	1.07	瑪瑙	40.980			
第30図9	D3-91	0019	ナイフ形石器	2.90	1.60	0.48	2.14	安山岩	40.463		Ⅱc	

第12表 縄文時代 草創期 出土石器一覽表

挿図番号	調査区	遺物番号	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	石材	レベル	接合	出土層位	備考
第86図1	C1-25	0176	有舌尖頭器	3.40	1.30	0.55	2.11	安山岩A	41.046		IIc	
第86図2	D2-13	0005	有舌尖頭器	3.20	1.10	0.65	1.93	安山岩A				一括
第86図3	C1-25	0041	有舌尖頭器	3.60	1.70	0.75	3.73	安山岩A	41.252		IIc	
第86図4	D2-47	0004	有舌尖頭器	5.00	1.80	0.70	5.26	安山岩A				一括
第86図5	C1-26	0641	有舌尖頭器	2.50	1.30	0.40	1.08	安山岩A	41.336		II~III	
第86図6	C1-35	0069	有舌尖頭器	2.90	1.40	0.40	1.43	安山岩A	41.467		IIc	
第86図7	D2-18	0013	有舌尖頭器	3.40	1.65	0.30	1.67	安山岩A				一括
第86図8	C1-15	0040	有舌尖頭器	2.20	1.30	0.30	0.92	安山岩A	41.207		IIc	
第86図9		0462	有舌尖頭器	2.80	1.75	0.65	2.67	安山岩A	40.919		III	
第86図10	C1-16	0271	有舌尖頭器	3.20	1.90	0.80	3.59	安山岩A	40.902		IIc	
第86図11	C1-27	0150	有舌尖頭器	3.50	2.15	0.75	3.63	安山岩A	40.799		IIc	
第86図12	C1-05	0006	有舌尖頭器	3.25	1.80	0.60	3.12	安山岩A	40.712		IIc	
第86図13	C1-24	0046	有舌尖頭器	3.40	1.90	0.60	3.31	安山岩A	40.999		IIc	
第86図14	C1-24	0003	有舌尖頭器	4.10	1.80	1.10	5.26	安山岩A	41.300			一括
第86図15	C1-26	1312	有舌尖頭器	3.60	1.80	1.00	4.47	安山岩A	40.867		III	
第86図16	C1-47	0015	有舌尖頭器	4.00	1.70	0.80	4.58	安山岩A	41.189		II	
第86図17	C1-26	0552	有舌尖頭器	2.70	1.30	0.40	1.39	安山岩A	41.309		II~III	
第87図18	C1-36	0156	有舌尖頭器	4.60	1.70	0.90	5.48	安山岩A	41.158		III	
第87図19	C1-27	0060	有舌尖頭器	4.10	2.00	0.70	4.43	安山岩A	41.026		IIc	
第87図20	C1-16	0667	有舌尖頭器	4.10	1.95	0.70	4.70	安山岩A	40.932		III	
第87図21	C1-15	0112	有舌尖頭器	3.80	1.85	0.80	5.73	安山岩A	40.992		IIc	被熱
第87図22	C1-26	0338	有舌尖頭器	3.90	1.95	0.60	4.79	安山岩A	40.972		III	
第87図23	C1-26	0853	有舌尖頭器	3.70	2.10	0.70	6.29	安山岩A	41.194		IIc	
第87図24	C1-15	0199	有舌尖頭器	2.70	2.00	0.70	3.90	安山岩A	41.069		IIc	
第87図25	C1-35	0138	有舌尖頭器	3.10	1.80	0.60	3.72	安山岩A	41.160		II~III	
第87図26	C1-14	0002	有舌尖頭器	3.70	1.80	0.60	3.41	安山岩A	41.140		IIc	
第87図27	C1-15	0253	有舌尖頭器	5.50	2.40	0.90	8.95	安山岩A	40.992		IIc	
第87図28	C1-16	0298	有舌尖頭器	5.40	2.15	0.50	5.42	安山岩A	40.890		IIc	
第87図29	C1-16	0650	有舌尖頭器	4.50	1.60	0.75	5.54	安山岩A	40.929		III	
第88図30	C1-26	0729	有舌尖頭器(基部欠)	5.90	2.50	0.70	8.87	安山岩A	41.133	接4	II~III	
第88図30	C1-27	0169	有舌尖頭器(先端欠)					安山岩A	40.706	接4	II~III	
第88図31	C1-14	0038	有舌尖頭器(基部欠)	6.00	2.30	1.30	15.18	安山岩A	41.050		IIc	
第88図32	C1-26	0840	尖頭器(先端部)	1.40	1.00	0.40	0.39	安山岩A	41.312		IIc	
第88図33	C1-16	0465	尖頭器(先端部)	2.10	1.30	0.25	0.68	安山岩A	40.792		III	
第88図34	C1-16	0590	有舌尖頭器	3.40	1.20	0.40	1.52	安山岩A	40.864		III	
第88図35	C1-26	1396	有舌尖頭器(基部欠)	3.50	1.00	0.60	2.15	安山岩A	40.916		III	
第88図36	C1-15	0252	有舌尖頭器(基部欠)	4.80	1.30	0.60	3.38	安山岩A	41.012		IIc	
第88図37	C1-26	1278	有舌尖頭器(脚部)	1.00	0.70	0.40	0.27	安山岩A	40.953		III	
第88図38	D2-47	0001	有舌尖頭器	3.10	1.40	0.35	0.99	安山岩A				一括
第88図39	C1-16	0626	有舌尖頭器	4.30	2.20	1.00	8.00	安山岩A	40.848		III	
第88図40	C1-26	1365	尖頭器(未製品?)	5.50	2.80	1.15	16.72	安山岩A	40.890		III	
第88図41	C1-26	0467	尖頭器(素材)	7.50	3.15	0.85	20.56	安山岩A	40.842		III	
第89図42	C1-16	0181	尖頭器(素材)	5.90	2.35	0.90	10.16	安山岩A	41.112		IIc	
第89図43	C1-26	0793	尖頭器(未製品?)	5.60	2.60	1.35	19.52	安山岩A	41.211	接5	II~III	
第89図43	C1-26	1270	尖頭器(未製品?)					安山岩A	41.112	接5	II~III	
第89図44	C1-15	0251	尖頭器(未製品?)	3.90	2.20	0.65	6.49	安山岩A	40.980		IIc	
第89図45	C1-26	1405	尖頭器(未製品?)	3.70	2.40	0.90	7.28	安山岩A	40.904		III	
第89図46	C1-26	0135	尖頭器(未製品?)	4.30	2.50	1.10	11.05	安山岩A	41.117		III上	
第89図47	D4-04	0004	尖頭器	4.00	2.05	0.90	7.85	安山岩A				
第89図48	C1-16	0346	尖頭器(未製品?)	4.60	2.40	1.00	9.66	安山岩A	40.949		III上	
第89図49	C1-16	0535	尖頭器	5.00	2.60	1.00	12.03	安山岩A	40.903		III	
第89図50	C1-26	0008	尖頭器(未製品?)	4.10	2.60	0.70	7.72	安山岩A	41.217		III上	
第89図51	C1-25	0247	尖頭器(未製品?)	4.10	2.70	0.80	8.84	安山岩A	40.914		IIc	
第89図52	C1-35	0142	尖頭器(半欠)	2.60	2.20	0.70	4.04	安山岩A			試掘埋土	
第90図53	C1-14	0049	尖頭器(半欠)	5.50	2.80	1.10	16.74	安山岩A	40.813	接3	IIc	
第90図53	C1-26	0760	尖頭器(半欠)					安山岩A		接3	IIc	
第90図54	C1-26	1304	尖頭器(半欠)	6.00	2.80	1.00	14.92	安山岩A	40.899	接2	III	
第90図54	C1-26	1447	尖頭器(半欠)					安山岩A	40.908	接2	III	
第90図55	C1-47	0025	尖頭器(未製品)	4.70	2.50	1.25	15.75	安山岩A	41.151		I	
第90図56	C1-27	0045	尖頭器(半欠)	4.10	3.30	1.30	15.40	安山岩A	41.049		IIc	
第90図57	C1-17	0032	尖頭器(半欠)	3.20	2.55	0.85	5.99	安山岩A	40.695			焼け
第90図58	C1-16	0545	尖頭器(半欠)	3.20	3.20	0.90	8.08	安山岩A	40.999		III	
第90図59	C1-26	1089	尖頭器(半欠)	4.90	2.60	0.90	14.56	安山岩A	41.094		IIc	
第91図60	C1-26	1018	尖頭器(半欠)	3.50	2.55	1.05	9.65	安山岩A	41.160		IIc	
第91図61	C1-56	0018	尖頭器(半欠)	3.60	2.10	1.30	6.72	安山岩A	41.087		II	
第91図62	C1-27	0079	尖頭器(先端部片)	2.70	1.45	0.90	3.88	安山岩A	40.912		IIc	
第91図63	C1-15	0144	尖頭器(未製品?)	3.30	1.80	0.75	4.22	安山岩A	41.112		IIc	

挿図番号	調査区	遺物番号	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	石材	レベル	接合	出土層位	備考
第91図64	C1-04	0008	尖頭器(未製品)	4.20	2.65	0.75	9.31	安山岩A	40.838		Ⅱc	
第91図65	C1-26	1537	尖頭器(半欠)	4.00	2.00	1.00	7.97	安山岩A	40.782		Ⅲ	
第91図66	C1-26	1157	尖頭器(未製品?)	3.50	2.50	0.90	7.57	安山岩A	41.092		Ⅱc	
第91図67	C1-46	0019	尖頭器(半欠)	4.10	2.00	0.70	5.74	安山岩A	41.115		Ⅱ	
第91図68	C1-25	0005	尖頭器(半欠)	1.40	1.80	0.40	0.95	安山岩A	41.192		Ⅱc	
第92図1	C1-25	0011	有舌尖頭器	3.20	1.65	0.70	2.86	安山岩B	41.174		Ⅱc	
第92図2	C1-25	0086	有舌尖頭器	3.10	1.65	0.65	2.68	安山岩B	41.069		Ⅱc	
第92図3	C1-15	0078	有舌尖頭器(基部欠)	3.00	1.50	0.70	2.60	安山岩B	41.074		Ⅱc	
第92図4	C1-26	1336	有舌尖頭器(基部欠)	3.40	1.50	0.50	2.46	安山岩B	40.960		Ⅲ	
第92図5	C1-46	0002	有舌尖頭器	3.30	1.70	0.50	2.63	安山岩B			Ⅱ	
第92図6	C1-15	0194	有舌尖頭器(先端欠)	3.10	1.70	0.75	2.78	安山岩B	40.988		Ⅱc	
第92図7	C1-16	0635	有舌尖頭器	3.70	1.40	0.65	2.74	安山岩B	40.617		Ⅲ	
第92図8	C1-25	0265	有舌尖頭器	5.10	1.60	0.60	4.00	安山岩B	41.149		Ⅱ~Ⅲ	
第92図9	C1-26	0855	有舌尖頭器	3.50	1.75	0.90	4.38	安山岩B	41.257		Ⅱc	
第92図10	C1-37	0033	有舌尖頭器(先端欠)	3.50	1.70	0.60	3.49	安山岩B	41.268		Ⅱc	
第92図11	C1-15	0311	有舌尖頭器	6.90	2.15	1.10	13.62	安山岩B	40.909		Ⅱ~Ⅲ	
第92図12	C1-26	0736	尖頭器(未製品)	5.20	1.80	1.00	8.30	安山岩B	41.122		Ⅱ~Ⅲ	
第92図13	C1-26	0971	尖頭器(先端欠)	4.20	1.80	0.90	6.95	安山岩B	41.154		Ⅱc	
第92図14	C1-26	0033	尖頭器(基部欠)	3.30	2.25	1.10	6.52	安山岩B	41.145		Ⅲ上	
第92図15	C1-16	0016	尖頭器(基部欠)	3.10	1.80	0.90	4.28	安山岩B	41.249		Ⅱ~Ⅲ	
第93図16	C1-13	0001	尖頭器(未製品)	4.90	2.50	1.35	17.44	安山岩B	40.933		Ⅱc	
第93図17	C1-26	1480	尖頭器(未製品)	4.50	3.00	1.35	18.99	安山岩B	40.914		Ⅲ	
第93図18	C1-45	0027	尖頭器(先端欠)	2.30	2.70	0.50	4.70	安山岩B	41.275		Ⅱ	
第93図19	C1-26	0524	尖頭器(未製品)	4.60	2.40	1.20	12.61	安山岩B	41.402		Ⅱ~Ⅲ	
第93図20	C1-26	0589	尖頭器(先端欠)	2.40	2.25	1.15	6.04	安山岩B	41.253		Ⅱ~Ⅲ	
第93図21	C1-26	1032	尖頭器(基部欠)	2.50	1.80	0.55	2.05	安山岩B	41.069		Ⅱc	焼け
第94図1	C1-26	0541	有舌尖頭器	2.80	1.35	0.50	1.78	ホルンフェルス	41.315		Ⅱ~Ⅲ	
第94図2	C1-26	1251	有舌尖頭器	2.90	1.70	0.55	2.75	ホルンフェルス	41.009		Ⅱc	
第94図3	C1-16	0477	有舌尖頭器(先端欠)	4.30	1.50	0.60	5.00	ホルンフェルス	40.873		Ⅲ	
第94図4	C1-26	1525	有舌尖頭器(先端欠)	3.70	1.10	0.65	3.15	ホルンフェルス	40.876		Ⅲ	
第94図5	C1-38	0005	有舌尖頭器	4.40	1.65	0.35	3.20	ホルンフェルス	40.939		Ⅱc	
第94図6	C1-16	0302	尖頭器(先端基部欠)	3.90	1.70	0.55	4.23	ホルンフェルス	40.859		Ⅱc	
第94図7	C1-26	1455	尖頭器(先端欠)	4.50	3.60	1.25	21.29	ホルンフェルス	40.017		Ⅲ	
第94図8	C1-16	0041	尖頭器	5.60	2.10	1.30	13.69	ホルンフェルス	41.027		Ⅱ~Ⅲ	
第94図9	C1-36	0116	尖頭器(基部欠)	3.90	2.45	0.90	8.07	ホルンフェルス	41.222		Ⅲ	
第94図10	C1-26	0022	尖頭器(基部欠)	3.45	2.80	0.85	9.22	ホルンフェルス	41.230		Ⅲ上	
第94図11	C1-14	0001	尖頭器	6.40	3.80	1.65	38.52	ホルンフェルス	40.962		Ⅱc	
第94図12	C1-14	0035	尖頭器(基部欠)	5.10	3.25	1.30	17.53	ホルンフェルス	41.018		Ⅱc	
第95図13			尖頭器+剥片接合									
第95図13-a	C1-35	0122	尖頭器(破損)	5.80	4.20	1.40	23.24	ホルンフェルス	41.138	接32	Ⅲ上	
第95図13-a	C1-36	0142	尖頭器片						41.077	接32	Ⅲ	
第95図13-b	C1-26	1057	剥片	4.00	4.40	1.10	17.76	ホルンフェルス	41.110	接32	Ⅱc	
第96図1	C1-36	0025	有舌尖頭器	4.60	2.25	0.90	7.68	チャート	41.345		Ⅱc	
第96図2	C1-27	0019	有舌尖頭器	4.90	2.20	0.65	5.36	チャート	41.092		Ⅱc	
第96図3	C1-25	0171	有舌尖頭器	2.40	1.60	0.50	1.70	チャート	41.075		Ⅱc	
第96図4	C1-25	0078	有舌尖頭器破片	1.45	0.90	0.30	0.36	チャート	41.177		Ⅱc	
第96図5	C1-46	0009	有舌尖頭器(基部欠)	2.15	1.20	0.30	0.70	チャート	41.502		Ⅱ	
第96図6	C1-52	0037	有舌尖頭器(基部欠)	2.50	1.05	0.40	1.16	チャート	41.256		Ⅱc	
第96図7	C1-24	0007	有舌尖頭器	3.40	1.05	0.30	1.12	チャート	41.327		Ⅱc	
第96図8	C1-26	0030	有舌尖頭器(先端欠)	2.70	1.65	0.45	2.29	流紋岩	41.132		Ⅲ上	焼け
第96図9	C1-16	0470	有舌尖頭器(基部欠)	3.80	1.50	0.60	2.92	流紋岩	40.819		Ⅲ	
第96図10	C1-16	0055	有舌尖頭器(茎端欠)	4.75	1.80	0.85	6.52	流紋岩	40.947		Ⅱ~Ⅲ	
第96図11	C1-35	0123	有舌尖頭器(先端欠)	5.60	1.35	0.75	5.89	砂岩	41.043		Ⅲ上	
第96図12	C1-16	0419	有舌尖頭器(先基端欠)	3.00	1.70	0.70	3.80	頁岩	40.838		Ⅲ	
第96図13	C1-36	0040	有舌尖頭器(基部欠)	2.80	1.20	0.60	1.48	頁岩	41.419		Ⅱc	
第96図14	C1-16	0119	有舌尖頭器(茎端欠)	2.90	1.90	0.60	2.55	頁岩	40.962		Ⅱ~Ⅲ	
第96図15	C1-26	1217	有舌尖頭器(先端のみ)	3.40	1.75	0.60	3.05	砂岩	41.047	接17	Ⅱc	
第96図16	C1-27	0144	有舌尖頭器(茎端欠)					砂岩	40.829	接17	Ⅱc	
第96図16	C1-16	0648	有舌尖頭器(先基端部欠)	3.30	1.90	0.70	3.67	頁岩	40.929		Ⅲ	焼け
第96図17	C1-03	0001	石鏃(先端欠)	1.80	2.20	0.30	1.12	安山岩A	40.617		Ⅱc	
第96図18	C1-24	0002	スクレイパー	3.15	3.17	0.70	8.73	安山岩A	41.367			
第96図19	C4-48	0001	尖頭器(先端部欠損)	3.90	1.20	0.65	3.05	チャート			一括	
第97図20	C1-36	0050	尖頭器	5.20	2.30	1.15	11.56	チャート	41.379		Ⅱc	
第97図21	C1-58	0009	有舌尖頭器(未製品)	4.80	2.90	1.70	21.29	チャート	41.146		Ⅱc	
第97図22	C1-15	0088	有舌尖頭器(先端部破片)	2.10	2.00	0.55	2.15	流紋岩	41.069		Ⅱc	
第97図23	C1-37	0007	尖頭器(先端部破片)	2.80	2.10	0.70	3.60	流紋岩	41.100		Ⅱc	焼け
第97図24	C1-26	0569	尖頭器(基部欠)	5.70	3.00	1.25	18.80	流紋岩	41.319		Ⅱ~Ⅲ	
第97図25	E3-31	0010	尖頭器	8.60	1.60	0.80	9.73	頁岩			一括	

挿図番号	調査区	遺物番号	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	石材	レベル	接合	出土層位	備考
第97図26	C1-14	0030	尖頭器(先端部破片)	3.00	2.00	1.00	5.43	凝灰岩	41.217		Ⅱc	
第97図27	C1-26	0197	尖頭器(先端部破片)	3.00	2.25	0.55	3.31	凝灰岩	41.057		Ⅲ	
第97図28	D2-60	0003	尖頭器	4.00	2.05	0.90	7.85	凝灰岩			一括	
第97図29	C1-16	0563	尖頭器	6.70	2.60	1.30	19.80	頁岩	40.992		Ⅲ	
第98図1	C1-25	0060	打製石斧	8.60	3.70	2.05	81.48	ホルンフェルス	41.092		Ⅱc	
第98図2	C1-35	0102	打製石斧	12.70	5.60	2.65	212.40	砂岩	41.200		Ⅱc	
第99図3	D1-70	0003	打製石斧	7.40	3.60	2.65	78.56	砂岩				早期抽出分
第99図4	C1-15	0119	打製石斧	10.20	5.30	2.30	133.37	ホルンフェルス	40.982		Ⅱc	
第100図5-a	C1-26	0605	剥片(石斧製作に伴う)	2.90	2.30	0.60	3.43	砂岩	41.152	接19	Ⅱ~Ⅲ	
第100図5-b	C1-44	0036	打製石斧	9.70	4.30	3.35	118.61	砂岩	41.101	接19	Ⅱ	
第101図6-a	C1-48	0017	剥片(石斧製作に伴う)					砂岩		接18		
第101図6-b	C1-26	1550	打製石斧	10.80	4.10	3.55	162.79	砂岩		接18		
第102図7	C1-44	0029	打製石斧	5.40	4.20	0.90	28.15	ホルンフェルス	41.332		Ⅱ	
第102図8	C1-56	0010	打製石斧	4.20	2.90	0.87	16.32	流紋岩	41.193		Ⅱ	
第102図9	C1-27	0117	打製石斧	5.30	2.35	1.25	15.64	砂岩	40.760		Ⅱc	
第102図10-a	C1-26	0164	打製石斧	5.33	6.30	1.90	70.02	砂岩	41.149	接23	Ⅲ	
第102図10	C1-26	1322	破片					砂岩	40.852	接23	Ⅲ	
第102図10	C1-14	0014	剥片					砂岩	40.983	接23	Ⅱc	
第103図11	C1-16	0476	石錐	4.90	3.50	1.50	23.14	ホルンフェルス	40.870		Ⅲ	
第103図12	C1-16	0023	石錐	4.00	2.90	1.00	11.37	安山岩A	41.172		Ⅱ~Ⅲ	
第103図13	C1-26	0960	石錐	4.40	3.30	0.60	7.52	ホルンフェルス	41.150		Ⅱc	
第103図14	C1-16	0378	石錐(未製品?)	4.50	2.80	0.40	4.86	頁岩	40.872		Ⅲ	調整あり
第104図15	C1-26	0578	搔器	3.80	2.20	0.40	4.28	チャート	41.239		Ⅱ~Ⅲ	
第104図16	C1-47	0024	削器(半欠)	4.80	3.15	0.50	9.31	チャート	41.171	接28	Ⅱ	
第104図16	C1-48	0010	削器片(半欠)					チャート	41.241	接28	Ⅱ	
第104図17	C1-25	0098	搔器	2.25	4.40	1.10	11.50	頁岩	41.089		Ⅱc	
第104図18	C1-35	0022	搔器	4.50	6.00	1.30	36.21	安山岩A	41.437		Ⅱc	
第104図19	C1-15	0248	搔器	3.70	7.00	1.20	29.07	安山岩A	41.054		Ⅱc	
第104図20	C1-15	0003	搔器	4.40	6.40	0.85	29.09	頁岩	40.987		Ⅱc	
第104図21	C1-16	0222	削器	2.60	1.90	0.40	3.02	安山岩A	40.918		Ⅱc	
第104図22	C1-24	0048	削器	3.20	1.55	0.60	4.12	安山岩A	40.974		Ⅱc	
第105図23	C1-24	0050	搔器	3.50	4.10	0.90	11.67	頁岩	40.963		Ⅱc	
第105図24	C1-26	1407	削器	3.20	3.80	0.62	8.86	安山岩A	40.887		Ⅲ	
第105図25	C1-16	0097	削器(搔器)	3.90	4.50	1.00	17.39	チャート	41.027		Ⅱ~Ⅲ	
第105図26	C1-15	0012	調整剥片	3.45	3.20	0.60	9.84	安山岩A	41.190		Ⅱc	
第105図27	C1-24	0004	削器	3.25	4.85	1.30	24.60	安山岩A	41.189		確認分	
第105図28	C1-26	1354	搔器	4.10	2.47	0.80	12.77	安山岩A	40.918		Ⅲ	
第105図29	C1-16	0383	搔器	3.30	4.90	1.20	17.98	安山岩A	40.807		Ⅲ	
第105図30	C1-26	0782	削器	4.15	3.70	0.50	11.14	安山岩A	41.249		Ⅱ~Ⅲ	
第105図31	C1-14	0015	搔器	1.95	5.03	0.40	6.13	安山岩A	41.018		Ⅱc	
第105図32	C1-26	0276	搔器	2.70	3.35	1.00	10.92	珪質頁岩	41.056		Ⅲ	
第106図1	C1-25	0252	剥片(外皮部)	5.40	4.10	1.35	45.47	安山岩A	41.133	接9	Ⅱc	
第106図1	C1-44	0002	剥片(外皮残)					安山岩A	41.208	接9	Ⅱc	
第106図1	C1-44	0003	剥片(外皮残)					安山岩A	41.312	接9	Ⅱc	
第106図2	C1-26	0086	剥片(外皮残)	3.10	5.05	1.40	28.54	安山岩A	41.050	接10	Ⅱc	
第106図2	C1-26	0725	剥片(外皮部)					安山岩A	41.027	接10	Ⅱc	
第106図3	C1-14	0013	尖頭器	6.03	3.50	1.25	34.22	安山岩A	41.069	接1	Ⅱc	
第106図3	C1-15	0206	尖頭器					安山岩A	40.987	接1	Ⅱc	
第106図4	C1-16	0300	剥片	3.10	3.05	0.75	6.79	安山岩A	40.966		Ⅱc	
第106図5	C1-37	0014	剥片(外皮部)	4.10	3.30	0.80	17.16	安山岩A	41.181		Ⅱc	
第106図6	C1-26	0947	剥片(外皮部)	2.90	3.80	0.70	8.03	安山岩A	41.122		Ⅱc	
第106図7	C1-25	0064	剥片(外皮部)	3.75	3.50	1.05	15.52	安山岩A	41.517		Ⅱc	
第106図8	C1-25	0138	剥片(外皮部)	4.95	3.45	1.60	34.31	安山岩A	41.180		Ⅱc	
第107図9	C1-15	0174	剥片(外皮残)	4.42	3.50	0.65	10.23	安山岩A	41.025		Ⅱc	
第107図10	C1-26	0563	剥片(外皮残)	3.30	3.70	0.70	16.48	安山岩A	41.358		Ⅱc	
第107図11	C1-25	0141	剥片(外皮残)	3.85	4.30	0.90	21.00	安山岩A	41.134		Ⅱc	端部欠
第107図12	C1-14	0041	剥片	3.72	3.60	1.00	15.46	安山岩A	40.982		Ⅱc	端部欠
第107図13	C1-26	1011	尖頭器(未製)?	3.05	3.10	1.10	13.70	安山岩A	41.112		Ⅱc	
第107図14	C1-24	0044	剥片	2.90	3.60	0.70	7.76	安山岩A	41.011		Ⅱc	端部欠
第107図15	C1-16	0553	剥片(外皮残)	3.15	2.50	0.70	8.69	安山岩A	41.022		Ⅲ	端部欠
第107図16	C1-16	0019	剥片(外皮残)	3.03	2.77	0.50	4.86	安山岩A	41.242		Ⅱ~Ⅲ	端部欠
第107図17	C1-26	0232	剥片	3.80	2.45	0.31	4.14	安山岩A	40.999		Ⅲ	
第107図18	C1-16	0064	剥片	3.20	3.45	0.70	9.18	安山岩A	41.012	接7	Ⅲ	
第107図18	C1-26	0436	剥片(外皮残)					安山岩A	40.824	接7	Ⅲ	半欠
第107図19	C1-25	0089	剥片(外皮残)	2.90	3.30	0.50	5.78	安山岩A	41.248		Ⅱc	
第107図20	C1-26	0992	剥片(小形)	2.25	2.40	0.45	1.66	安山岩A	41.046		Ⅱc	
第108図21	C1-15	0131	剥片(外皮残)	3.65	3.23	0.57	7.37	安山岩A	41.172		Ⅱ	
第108図22	C1-16	0542	剥片	3.00	4.00	0.60	5.83	安山岩A	40.897		Ⅲ	

挿図番号	調査区	遺物番号	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	石材	レベル	接合	出土層位	備考
第108図23	C1-37	0021	剥片	3.05	3.40	0.55	5.62	安山岩A	41.109		IIc	
第108図24	C1-16	0543	剥片(外皮残)	3.70	3.40	0.50	5.93	安山岩A	41.040		III	
第108図25	C1-15	0065	剥片(外皮残)	2.95	4.30	0.60	8.50	安山岩A	41.102		IIc	
第108図26	C1-15	0273	剥片(外皮残)	3.78	2.77	0.30	3.00	安山岩A	40.932		IIc	
第108図27	C1-16	0008	剥片	3.60	3.10	0.52	7.62	安山岩A	41.122		II~III	
第108図28	C1-26	0601	剥片	3.60	2.90	0.40	3.09	安山岩A	41.178		II~III	
第108図29	C1-16	0117	剥片	3.00	2.60	0.40	4.20	安山岩A	40.967		II~III	
第108図30	C1-26	0939	剥片(外皮残)	3.50	2.60	0.65	8.47	安山岩A	41.017		IIc	
第108図31	C1-16	0014	剥片	3.60	2.60	0.65	5.95	安山岩A	41.187	接6	II~III	端部欠
第108図31	C1-25	0066	剥片(外皮残)					安山岩A	41.230	接6	IIc	頭部欠
第109図32	C1-26	1087	剥片(外皮残)	2.30	3.10	0.60	5.34	安山岩A	41.009		IIc	
第109図33	C1-15	0059	剥片(外皮残)	2.45	3.00	0.28	2.52	安山岩A	41.340		IIc	
第109図34	C1-26	1263	剥片(小形)外皮残	2.60	2.00	0.40	2.04	安山岩A	40.979		III	
第109図35	C1-15	0249	剥片(外皮残)	1.93	3.05	0.40	2.08	安山岩A	41.024		IIc	
第109図36	C1-16	0592	剥片	2.07	2.85	0.40	2.43	安山岩A	40.722		III	
第109図37	C1-26	0064	剥片(小形)	2.25	2.30	0.30	2.20	安山岩A	41.295		III上	
第109図38	C1-17	0007	剥片(外皮残)	2.03	2.87	0.40	2.87	安山岩A	40.687		IIc	
第109図39	C1-26	1229	剥片(小形)	2.40	2.60	0.20	1.50	安山岩A	41.112		IIc	
第109図40	C1-17	0043	剥片(外皮残)	3.38	2.70	0.30	3.49	安山岩A	40.608		IIc	
第109図41	C1-26	1031	剥片	2.60	3.30	0.60	3.43	安山岩A	41.124		IIc	
第109図42	C1-26	1236	剥片	3.00	2.10	0.55	4.72	安山岩A	41.086		IIc	
第109図43	C1-26	0629	剥片(小形)	3.20	2.20	0.30	2.27	安山岩A	41.270		II~III	
第109図44	C1-15	0229	剥片	3.25	2.00	0.47	3.82	安山岩A	41.052		II	
第109図45	C1-26	0746	剥片	2.65	3.10	0.40	3.54	安山岩A	41.166		II~III	
第109図46	C1-14	0032	剥片	2.32	2.20	0.40	1.72	安山岩A	41.147		IIc	
第109図47	C1-14	0045	剥片	2.55	2.90	0.37	2.86	安山岩A	40.953		IIc	
第109図48	C1-05	0003	剥片	2.35	1.95	0.50	2.83	安山岩A	40.537		IIc	
第109図49	C1-25	0042	剥片(小形)	2.50	2.20	0.30	1.76	安山岩A	41.177		IIc	
第109図50	C1-26	0284	剥片(小形)	1.80	2.00	0.30	1.42	安山岩A	40.957		III	
第109図51	C1-28	0009	剥片(小形)	1.70	2.50	0.28	1.04	安山岩A	40.547		IIc	
第110図52	C1-26	1316	剥片(小形)	2.00	2.30	0.47	1.86	安山岩A	40.857		III	
第110図53	C1-46	0006	剥片(小形)外皮残	1.87	2.20	0.37	1.61	安山岩A	41.229		II	
第110図54	C1-16	0081	剥片(外皮部)	2.50	2.00	0.40	1.81	安山岩A	41.142		II~III	
第110図55	C1-26	0315	剥片(小形)外皮残	2.03	1.70	0.22	1.14	安山岩A	40.981		III	
第110図56	C1-15	0141	碎片	1.53	2.25	0.29	0.92	安山岩A	41.072		IIc	
第110図57	C1-37	0013	碎片	1.50	2.30	0.30	1.10	安山岩A	41.292		IIc	
第110図58	C1-16	0618	剥片(小形)外皮残	1.93	2.07	0.28	1.08	安山岩A	40.934		III	
第110図59	C1-26	0239	碎片(外皮部)	1.73	1.80	0.33	1.37	安山岩A	41.062		III	
第110図60	C1-35	0134	剥片(小形)	1.60	2.40	0.40	1.73	安山岩A	41.318		III	
第110図61	C1-26	1013	剥片(小形)外皮残	1.65	2.20	0.60	1.88	安山岩A	41.117		IIc	
第110図62	C1-15	0234	剥片	1.95	2.60	0.30	1.33	安山岩A	40.933		II	
第110図63	C1-26	0041	碎片	1.30	1.40	0.20	0.43	安山岩A	41.092		III上	
第110図64	C1-26	0817	碎片	1.30	1.40	0.20	0.45	安山岩A	41.136		II~III	
第110図65	C1-26	1490	剥片(小形)外皮残	2.20	1.90	0.65	2.58	安山岩A	40.908		III	
第110図66	C1-26	0789	碎片	1.27	1.50	0.15	0.30	安山岩A	41.227		II~III	
第110図67	C1-26	0234	碎片	1.50	2.60	0.30	0.86	安山岩A	41.074		III	
第110図68	C1-15	0162	剥片(外皮残)	4.03	2.50	1.10	9.79	安山岩A	41.088	接13	IIc	
第110図68	C1-16	0001	剥片(外皮残)					安山岩A		接13	II~III	
第110図68	C1-25	0076	剥片(外皮残)					安山岩A	41.247	接13	IIc	
第110図69	C1-16	0463	剥片(外皮残)	3.50	2.10	0.50	4.79	安山岩A	40.907		III	
第110図70	C1-16	0655	剥片(外皮残)	3.70	2.12	0.50	3.71	安山岩A	40.866		III	
第110図71	C1-58	0003	剥片(外皮残)	4.70	1.13	0.40	3.16	安山岩A	41.187		IIc	
第110図72	C1-26	1061	剥片(外皮残)	4.10	1.50	0.55	3.72	安山岩A	41.109		IIc	
第110図73	C1-46	0021	剥片(小形)外皮残	3.60	1.25	0.42	2.10	安山岩A	41.113		IIc	
第110図74	C1-26	1129	剥片(小形)	3.78	1.30	0.35	1.97	安山岩A	41.126		IIc	
第110図75	C1-15	0314	剥片(小形)	2.60	1.20	0.27	1.02	安山岩A	41.010		II~III	端部欠
第111図76	C1-26	1549	剥片(外皮部)	3.90	3.00	0.65	11.78	安山岩A				
第111図77	C1-15	0224	剥片(外皮残)	5.72	3.50	1.80	34.56	安山岩A	40.910		IIc	
第111図78	C1-14	0036	剥片(外皮残)	5.33	1.75	1.20	17.13	安山岩A	41.047		IIc	端部欠
第111図79	C1-30	0001	剥片(外皮残)	6.02	2.60	1.17	24.17	安山岩A	40.563		IIc	
第111図80	C1-16	0392	剥片(外皮残)	3.03	3.90	0.80	9.99	安山岩A	40.815	接12	III	
第111図80	C1-27	0178	剥片					安山岩A	40.890	接12	IIc	
第111図81	C1-15	0152	剥片(外皮残)	3.90	3.10	0.40	8.17	安山岩A	41.072	接11	IIc	
第111図81	C1-35	0136	剥片					安山岩A	41.200	接11	II~III	
第111図82	C1-90	0011	剥片	3.40	3.00	0.60	5.55	安山岩A				
第112図83	C1-25	0248	核部(外皮残)	4.25	5.80	1.75	58.08	安山岩A				
第112図84	C1-26	0658	石核?	3.20	5.25	2.10	35.90	安山岩A	41.302		II~III	
第112図84	C1-26	0658	石核?	3.20	5.25	2.10	35.90	安山岩A	41.302		II~III	

採回番号	調査区	遺物番号	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	石材	レベル	接合	出土層位	備考
第113図1	C1-34	0019	核部?	2.40	4.80	3.65	36.82	安山岩B	41.122		II	
第113図2	C1-24	0032	礫片	5.75	5.20	1.80	59.73	安山岩B	41.075		II c	
第113図3	C1-16	0037	剥片(外皮部)	4.13	4.20	0.95	16.49	安山岩B	41.032		II~III	
第113図4	C1-16	0288	剥片(外皮部)	4.10	4.60	0.85	21.17	安山岩B	40.827		II c	
第113図5	C1-16	0129	剥片(外皮残)	3.40	4.80	1.30	17.56	安山岩B	40.958		II~III	
第113図6	C1-14	0031	剥片(外皮部)	3.00	3.00	1.60	16.43	安山岩B	41.195		II c	端部欠
第113図7	C1-16	0286	剥片(外皮残)	4.43	5.20	1.20	26.50	安山岩B	40.854		II c	
第113図8	C1-54	0028	剥片(外皮部)	6.00	2.45	1.20	21.19	安山岩B	41.297		II	
第114図9	C1-26	0058	尖頭器(未製)	3.20	5.10	0.90	14.46	安山岩B	41.087	接16	III上	
第114図9	C1-47	0009	尖頭器(未製)					安山岩B	41.335	接16	II	
第114図10	C1-28	0020	石斧片?	3.90	4.30	1.60	23.64	安山岩B	40.682		II c	
第114図11	C1-37	0025	剥片	4.57	2.60	0.68	8.52	安山岩B	41.082		II c	焼け
第114図12	C1-26	0217	剥片	4.37	2.30	0.70	8.90	安山岩B	41.020		III	
第114図13	C1-25	0270	剥片	5.60	1.90	0.77	6.86	安山岩B	41.154		II~III	
第114図14	C1-26	1167	剥片	4.10	2.60	0.65	7.20	安山岩B	41.012		II c	
第114図15	C1-27	0025	剥片	3.87	1.80	0.45	2.77	安山岩B	41.142		II c	
第114図16	C1-26	1390	剥片	2.58	3.30	0.60	4.38	安山岩B	40.862		III	
第114図17	C1-27	0027	剥片	2.20	2.70	0.40	1.81	安山岩B	40.997		II c	
第114図18	C1-37	0003	剥片(小形)	2.40	2.30	0.30	1.48	安山岩B	40.990		II c	
第114図19	C1-26	0820	剥片	2.30	2.60	0.30	2.08	安山岩B	41.214		II c	
第114図20	C1-26	1242	碎片	2.00	1.70	0.30	0.90	安山岩B	41.164		II c	
第114図21	C1-25	0173	碎片	1.58	2.10	0.25	0.90	安山岩B	41.127		II c	
第114図22	C1-16	0050	剥片	1.98	2.30	0.40	1.43	安山岩B	40.872		II~III	
第114図23	C1-26	1189	剥片(小形)	1.70	2.45	0.30	1.44	安山岩B	41.077		II c	
第115図1	C1-26	1140	剥片(外皮部)	3.88	4.67	0.58	12.83	ホルンフェルス	41.106		II c	
第115図2	C1-15	0291	剥片	4.40	4.10	0.90	22.11	ホルンフェルス	41.006		II~III	
第115図3	C1-26	0595	剥片	3.20	3.80	0.50	6.43	ホルンフェルス	41.180		II~III	
第115図4	C1-37	0010	剥片	3.50	4.00	0.50	7.17	ホルンフェルス	41.334		II c	
第115図5	C1-26	1190	剥片	3.10	3.40	0.30	3.42	ホルンフェルス	41.072		II c	
第115図6	C1-16	0445	剥片	3.50	2.70	0.33	3.44	ホルンフェルス	40.677		III	
第115図7	C1-26	0024	剥片(小形)	2.30	2.00	0.39	2.02	ホルンフェルス	41.227		III上	
第115図8	C1-25	0117	剥片(小形)	2.40	2.17	0.50	2.97	ホルンフェルス	41.099		II c	
第115図9	C1-15	0228	剥片	2.10	2.25	0.45	2.26	ホルンフェルス	41.040		II	
第115図10	C1-25	0248	剥片(小形)	2.15	2.10	0.30	1.44	ホルンフェルス				
第115図11	C1-26	0661	剥片(小形)	1.45	2.80	0.37	1.39	ホルンフェルス	41.290		II~III	
第115図12	C1-26	1398	碎片	2.13	2.50	0.60	4.18	ホルンフェルス	40.926	接31	III	
第115図12	C1-26	1399	剥片(小形)					ホルンフェルス	40.918	接31	III	
第115図13	C1-28	0021	剥片(外皮残)	3.49	2.45	0.58	3.78	ホルンフェルス	40.792		II c	
第115図14	C1-36	0074	剥片(外皮残)	4.38	2.00	0.47	4.92	ホルンフェルス	41.282		II c	
第116図15	C1-15	0181	剥片					ホルンフェルス	41.047	接15	II c	
第116図15	C1-15	0057	剥片	3.60	8.35	1.80	32.81	ホルンフェルス	41.167	接15	II c	
第116図15	C1-15	0232	剥片					ホルンフェルス	40.909	接15	II	
第116図15	C1-26	0248	碎片					ホルンフェルス	41.093	接15	III	
第116図16	C1-27	0041	剥片	3.30	4.40	0.70	9.53	ホルンフェルス	41.012		II c	
第116図17	C1-16	0641	尖頭器(先端のみ)	2.42	2.58	0.80	5.21	ホルンフェルス	41.044		III	
第116図18	C1-44	0027	尖頭器(先端のみ)	2.30	2.70	0.50	4.70	ホルンフェルス	41.217		II	
第116図1	C1-15	0128	剥片	2.80	3.10	0.70	5.94	凝灰岩	41.237		II c	
第116図2	C1-26	0325	剥片(小形) 外皮残	1.30	1.97	0.60	1.33	凝灰岩	40.996		III	
第116図3	C1-26	1521	碎片	1.58	1.80	0.25	0.61	凝灰岩	40.881		III	
第116図4	C1-26	0150	碎片	1.30	1.50	0.50	0.52	凝灰岩			III	
第117図1	C1-16	0077	剥片(小形)	4.20	4.80	1.73	35.81	砂岩	40.912	接22	III	
第117図1	C1-25	0306	剥片					砂岩	41.098	接22	II~III	
第117図1	C1-58	0010	剥片					砂岩		接22		
第117図2	C1-26	0527	剥片	4.10	2.98	0.55	7.39	砂岩	41.412		II~III	
第117図3	C1-33	0001	礫片	6.43	3.85	0.75	37.02	砂岩			II	
第117図4	C1-26	0307	剥片(小形)	2.90	1.95	0.50	2.98	砂岩	40.978		III	
第117図5	C1-04	0009	剥片	3.03	1.90	0.40	2.52	砂岩	40.900		II c	
第117図6	C1-25	0022	剥片(小形)	2.27	2.10	0.35	1.89	砂岩	41.262		II c	
第117図7	C1-26	0461	剥片(小形)	2.37	1.90	0.30	1.31	砂岩	40.937		III	
第117図8	C1-24	0035	剥片(小形)	1.88	2.00	0.40	1.62	砂岩	41.029		II c	
第117図9	C1-25	0296	剥片(小形)	1.85	1.75	0.35	1.49	砂岩	41.130		II~III	
第117図10	C1-16	0425	剥片(小形)	1.82	1.70	0.29	0.90	砂岩	40.904		III	
第117図11	C1-15	0086	碎片	1.90	1.65	0.45	1.19	砂岩	40.999		II c	
第117図12	C1-26	1053	碎片	1.67	1.45	0.23	0.72	砂岩	41.047		II c	
第117図13	C1-25	0204	碎片	2.10	1.15	0.23	0.65	砂岩	41.099		II c	
第117図14	C1-26	0836	碎片	1.58	0.98	0.28	0.56	砂岩	41.222		III	
第117図15	C1-26	1469	剥片(小形)					砂岩	40.929	接20	III	
第117図15	C1-26	0861	剥片(小形)	3.70	2.30	0.50	4.50	砂岩	41.194	接20	III	

挿図番号	調査区	遺物番号	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	石材	レベル	接合	出土層位	備考
第117図15	C1-26	0904	剥片(小形)					砂岩	41.157	接20	Ⅲ	
第117図16	C1-26	1367	碎片					砂岩	40.927	接21	Ⅲ	
第117図16	C1-16	0340	剥片	3.10	1.85	0.35	2.34	砂岩	40.937	接21	Ⅲ	
第117図17	C1-25	0292	剥片	3.50	2.10	0.55	5.04	砂岩	41.102		Ⅱc	
第118図1	C1-17	0020	搔器or削器(半欠)	2.60	4.10	0.90	7.67	流紋岩	40.612		Ⅱc	
第118図2	C1-37	0009	尖頭器片?	3.10	2.05	0.70	4.85	流紋岩	40.835		Ⅱc	焼け
第118図3	C1-27	0011	打製石斧(半欠)	3.77	5.15	1.90	29.25	流紋岩	40.932		Ⅱc	
第118図4	C1-35	0028	剥片(外皮残)					流紋岩	41.242	接33	Ⅱc	
第118図4	C1-25	0260	剥片(外皮残)	3.20	5.50	0.90	17.98	流紋岩	41.204	接33	Ⅱ~Ⅲ	
第118図5	C1-26	0628	搔器?	3.80	5.00	1.70	35.69	流紋岩	41.269		Ⅱc	
第118図6	C1-15	0002	剥片(外皮部)	5.18	3.75	1.20	19.97	流紋岩	40.932		Ⅱc	
第118図7	C1-44	0038	剥片(外皮部)	3.80	3.90	0.90	13.78	流紋岩	41.088		Ⅱ	
第119図8	C1-15	0294	剥片(外皮残)	3.00	4.00	0.80	12.57	流紋岩	41.032		Ⅱ~Ⅲ	
第119図9	C1-26	0267	剥片	3.30	3.20	0.37	5.93	流紋岩	41.028		Ⅲ	
第119図10	C1-26	0582	剥片	3.20	2.80	0.43	5.68	流紋岩	41.248		Ⅱ~Ⅲ	
第119図11	C1-16	0586	剥片(小形) 外皮残	3.07	2.40	0.30	2.81	流紋岩	40.977		Ⅲ	
第119図12	C1-35	0098	剥片	2.40	2.60	0.40	2.33	流紋岩	41.240		Ⅱc	
第119図13	C1-26	0326	剥片(外皮残)					流紋岩	41.000	接34	Ⅲ	
第119図13	C1-25	0224	剥片	2.95	2.70	0.53	4.75	流紋岩	40.908	接34	Ⅱc	
第119図14	C1-14	0043	剥片(外皮残)	2.80	2.85	0.45	3.01	流紋岩	40.834		Ⅱc	
第119図15	C1-24	0038	剥片	2.40	2.70	0.40	2.52	流紋岩	40.950		Ⅱc	
第119図16	C1-16	0549	剥片	2.35	1.50	0.25	2.10	流紋岩	40.882		Ⅲ	
第119図17	C1-26	0525	剥片	2.30	2.10	0.35	2.09	流紋岩	41.399		Ⅱ~Ⅲ	
第119図18	C1-26	1281	剥片(小形)	2.30	1.80	0.30	1.27	流紋岩	40.922		Ⅲ	
第119図19	C1-26	0142	碎片	1.78	1.87	0.35	1.07	流紋岩	41.086		Ⅲ上	
第119図20	C1-16	0527	剥片	2.42	1.50	0.20	0.96	流紋岩	40.801		Ⅲ	
第119図21	C1-26	1487	剥片(小形)	2.18	2.00	0.35	1.50	流紋岩	40.999		Ⅲ	
第119図22	C1-24	0039	剥片(小形)	2.48	1.60	0.22	0.89	流紋岩	40.949		Ⅱc	
第119図23	C1-26	0556	剥片(小形)	1.33	1.60	0.30	0.96	流紋岩	41.317		Ⅱ~Ⅲ	
第119図24	C1-26	1169	剥片(外皮残)	1.83	2.05	0.30	1.57	流紋岩	41.064		Ⅱc	
第119図25	C1-26	0494	碎片	2.20	1.50	0.30	1.18	流紋岩	40.689		Ⅲ	
第119図26	C1-26	0874	碎片	2.30	1.10	0.20	0.66	流紋岩	41.164		Ⅱc	
第119図27	C1-26	0205	碎片	2.10	1.40	0.20	0.53	流紋岩	40.944		Ⅲ	
第119図28	C1-25	0180	剥片	1.92	1.55	0.30	1.04	流紋岩	41.050		Ⅱc	
第119図29	C1-26	1169	剥片(外皮残)	1.83	2.05	0.30	1.57	流紋岩	41.064		Ⅱc	
第119図30	C1-26	0328	剥片	1.55	1.40	0.27	0.64	流紋岩	41.001		Ⅲ	
第120図1	C1-16	0109	剥片(外皮残)					頁岩	41.107	接25	Ⅱ~Ⅲ	焼け
第120図1	C1-16	0629	剥片(外皮残)					頁岩	40.885	接25	Ⅲ	
第120図1	C1-26	0517	剥片(外皮残)					頁岩	40.760	接25	Ⅲ	
第120図1	C1-26	1344	剥片(外皮部)					頁岩	40.955	接25	Ⅲ	
第120図1	C1-36	0155	剥片(小形)					頁岩	41.200	接25		
第120図2	C1-35	0131	削器	2.86	3.70	1.05	11.10	頁岩	40.985		Ⅲ上	
第120図3	C1-26	1512	搔器	4.73	2.25	1.10	12.70	頁岩	40.900		Ⅲ	
第120図4	C1-26	0878	核部片(外皮部)					頁岩	41.164	接24	Ⅱc	
第120図4	C1-25	0232	核部片(外皮残)	2.90	5.70	1.90	29.74	頁岩	40.967	接24	Ⅱc	
第120図5	C1-26	0924	剥片(外皮残)	1.20	2.75	0.75	2.04	頁岩	41.071		Ⅱc	
第120図6	C1-46	0015	核部片?	5.00	4.10	0.70	22.26	頁岩	41.439		Ⅱc	
第120図7	C1-26	0821	剥片(削器様?)	4.95	4.55	0.77	22.98	頁岩	41.232		Ⅱ~Ⅲ	
第121図8	C1-15	0019	剥片(外皮部)	3.35	4.60	0.60	11.39	頁岩	41.080		Ⅱc	
第121図9	C1-15	0215	剥片(外皮残)	1.95	3.30	0.45	3.15	頁岩	40.861		Ⅱc	
第121図10	C1-47	0026	剥片	2.30	3.50	0.40	2.66	頁岩	41.330		Ⅱ	
第121図11	C1-16	0208	剥片	2.20	2.60	0.55	2.62	頁岩	41.022		Ⅱc	
第121図12	C1-35	0141	剥片(小形)	2.22	2.00	0.30	1.58	頁岩	41.400		Ⅱ~Ⅲ	
第121図13	C1-16	0011	剥片(外皮残)	2.00	2.70	0.30	1.65	頁岩	41.117		Ⅱ~Ⅲ	
第121図14	C1-26	1375	剥片	2.00	2.10	0.50	2.41	頁岩	40.922		Ⅲ	
第121図15	C1-16	0606	剥片(小形) 外皮残	1.90	2.00	0.53	2.14	頁岩	40.832		Ⅲ	
第121図16	C1-15	0288	剥片(小形)	2.15	2.20	0.22	0.75	頁岩	40.934		Ⅱc	
第121図17	C1-17	0021	剥片(小形)	1.40	2.50	0.48	1.94	頁岩	40.944		Ⅱc	
第121図18	C1-26	0564	剥片(小形)	2.30	1.93	0.30	1.39	頁岩	41.350		Ⅱ~Ⅲ	
第121図19	C1-27	0145	剥片(小形)	2.50	1.80	0.33	1.31	頁岩	41.050		Ⅱ~Ⅲ	
第121図20	C1-27	0147	剥片	2.95	2.20	0.57	2.22	頁岩	40.713		Ⅱ~Ⅲ	
第121図21	C1-17	0021	剥片(小形)	1.40	2.50	0.48	1.94	頁岩	40.944		Ⅱc	
第121図22	C1-15	0279	剥片	1.68	1.60	0.20	0.67	頁岩	40.950		Ⅱc	
第121図23	C1-15	0221	剥片	1.40	1.80	0.30	0.68	頁岩	40.950		Ⅱc	
第121図24	C1-15	0171	剥片	1.32	1.60	0.20	0.37	頁岩	40.963		Ⅱc	
第121図25	C1-16	0200	剥片(外皮残)	4.00	2.53	0.80	8.30	頁岩	41.047		Ⅱc	
第121図26	C1-26	1247	剥片(外皮残)					頁岩	41.064	接26	Ⅱc	
第121図26	C1-26	1105	剥片	3.98	2.40	0.45	5.58	頁岩	41.046	接26	Ⅱc	

挿図番号	調査区	遺物番号	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	石材	レベル	接合	出土層位	備考
第121図27	C1-15	0278	剥片(外皮残)	4.00	1.70	0.20	1.83	頁岩	40.932		IIc	
第121図28	C1-16	0201	剥片(外皮残)	3.85	1.30	0.30	1.79	頁岩	41.052		II	
第121図29	C1-16	0380	剥片	4.63	1.45	0.35	2.34	頁岩	40.847		III	
第122図1上	C1-16	0049	尖頭器未製?	3.30	2.15	0.95	9.30	メノウ	40.949		II~III	端部欠
第122図2上	C1-15	0066	尖頭器	3.20	2.00	0.50	5.43	メノウ	41.108		IIc	
第122図3上	C1-26	0980	剥片(外皮残)	2.25	3.40	0.65	5.52	メノウ	41.100		IIc	
第122図4上	C1-16	0078	剥片(外皮残)	2.40	1.80	0.50	2.83	メノウ	41.162		II~III	
第122図5上	C1-16	0554	碎片(外皮部)	2.13	1.60	0.35	1.45	メノウ	41.055		III	
第122図6上	C1-26	0055	碎片	1.37	1.63	0.30	0.77	メノウ	41.114		III	
第122図7上	C1-26	0190	剥片(小形)	1.60	1.65	0.30	0.81	メノウ	41.112		III	端部欠
第122図8上	C1-26	0016	碎片	1.30	1.10	0.20	0.33	メノウ	41.192		III上	
第122図9上	C1-26	0842	碎片	1.05	1.50	0.17	0.25	メノウ	41.239		IIc	
第122図10上	C1-25	1241	碎片	2.00	1.07	0.15	0.40	メノウ	41.150		IIc	
第122図11上	C1-48	0021	核部?(外皮残)	2.85	2.90	1.75	20.40	メノウ			IIc	
第122図1下	C1-42	0002	楔形石器片?	2.98	1.95	0.75	5.77	チャート	41.115		II	
第122図2下	C1-15	0225	碎片					チャート	40.947	接29	II	
第122図2下	C1-15	0087	碎片	2.13	1.90	0.25	1.46	チャート	41.117	接29	IIc	
第122図3下	C1-47	0020	碎片					チャート	41.136	接30	II	
第122図3下	C1-05	0005	剥片	2.63	1.60	0.32	1.60	チャート	40.842	接30	IIc	
第122図4下	C1-26	1545	剥片(小形)外皮残	2.28	2.40	0.35	2.22	チャート	40.797		III	
第122図5下	C1-25	0164	碎片(外皮部)	1.80	1.50	0.20	0.89	チャート	41.368		IIb	
第122図6下	C1-41	0001	剥片	1.90	2.00	0.23	1.12	チャート	41.192		IIc	
第123図1	C1-48	0015	軽石(矢柄研磨器)	7.20	6.75	2.70	68.91		41.134		IIc	
第123図2	C1-25	0186	軽石	5.25	3.55	1.70	22.75		41.043		IIc	
第123図3	C1-36	0152	軽石	5.50	2.40	2.10	14.12		41.100		IIc	
第123図4	C1-35	0093	軽石(研磨材)	5.00	4.90	2.25	37.99		41.192		IIc	
第123図5	C1-14	0007	軽石	4.43	4.90	1.60	17.11		41.128		IIc	
第123図6	C1-26	0250	軽石	2.90	2.50	1.85	10.63		41.035		IIc	
第123図7	C1-15	0222	軽石	2.55	4.15	1.00	6.09		40.984		IIc	
第124図1	C1-15	0259	礫片	5.70	11.30	2.17	132.61	緑泥片岩	41.009		IIc	
第124図2	C1-54	0007	石斧(刃部端部のみ)	2.30	3.65	1.37	10.67	角閃石	41.287		II	
第124図3	C1-35	0008	碎片	2.40	4.40	0.60	7.50	角閃石	41.237	接35	II	
第124図3	C1-58	0007	剥片					角閃石	41.166	接35	II	
第124図4	C1-54	0029	剥片	2.37	3.70	0.65	5.58	角閃石	41.276		II	
第125図1	C1-02	0001	敲石	10.00	6.90	4.45	425.00	硬砂岩	40.755		IIc	
第125図2	C1-25	0073	礫片	11.10	4.60	3.95	261.74	チャート	41.072	接39	IIc	
第125図2	C1-34	0031	礫(半欠)					チャート	41.189	接39	III上	
第126図3	C1-44	0016	礫	11.05	4.86	5.25	385.50	チャート	41.467		II	
第126図4	C1-48	0005	礫片					石英	41.135	接36	II	
第126図4	C1-35	0094	礫片					石英	41.166	接36	II	
第126図4	C1-35	0096	礫片					石英	41.132	接36	IIc	
第126図4	C1-35	0127	礫片					石英	41.111	接36	III	
第126図4	C1-26	0143	礫片					石英	41.052	接36	III	
第126図4	C1-25	0102	礫片					石英	41.037	接36	IIc	
第126図4	C1-25	0248	礫小片					石英		接36	IIc	
第126図4	C1-24	0028	礫片					石英	41.165	接36	IIc	
第126図4	C1-15	0110	礫片(小片)					石英	41.022	接36	IIc	
第126図4	C1-15	0133	礫小片					石英	41.103	接36	IIc	
第126図4	C1-14	0003	礫片	12.58	10.80	7.20	1010.0	石英	41.010	接36	IIc	
第126図4	C1-14	0006	礫片					石英	41.124	接36	IIc	
第127図5	C1-26	1022	磨石	15.90	7.50	4.60	665.00	硬砂岩	41.088		IIc	
第128図6	C1-54	0044	磨石	8.30	7.30	3.50	298.38	硬砂岩	41.205		II	
第128図7	C1-16	0079	扁平円礫	7.55	5.50	2.97	174.09	石材不明	41.147		II~III	
第128図8	C1-40	0019	磨・敲石	9.05	6.70	4.90	430.00	流紋岩?	41.145		IIc	
第128図9	C1-50	0022	磨石	6.10	4.80	2.65	117.90	硬砂岩	41.177		IIc	
第129図10	C1-35	0115	磨石(半欠)	(7.50)	6.65	3.73	226.96	安山岩	41.204		III	
第129図11	C1-68	0001	敲石片	7.08	4.00	3.90	150.39	硬砂岩			II	
第129図12	C1-26	1206	磨石	(6.15)	8.65	4.25	329.47	安山岩	41.022		IIc	
第129図13	C1-51	0003	磨石	7.93	2.30	4.20	101.19	硬砂岩	41.220		IIc	
第130図14	C1-26	1119	磨・敲石片	5.60	7.50	5.30	271.45	硬砂岩	41.146		IIc	
第130図15	C1-13	0002	敲石	6.60	3.00	2.85	85.73	砂岩	40.868		IIc	
第130図16	C1-51	0013	敲石	5.10	5.60	3.35	125.74	硬砂岩	41.141		IIc	
第130図17	C1-16	0365	磨石	8.32	2.55	0.87	33.87	硬砂岩	40.624		III	
第130図18	C1-14	0037	礫(半欠)	4.75	4.05	1.60	47.05	石材不明	41.052	接38	IIc	
第130図18	C1-16	0373	小円礫(半欠)					石材不明	40.777	接38	III	
第130図19	C1-25	0019	礫小片	5.17	4.75	2.00	76.34	石材不明	41.334	接37	IIc	
第130図19	C1-25	0088	礫片					石材不明	41.344	接37	IIc	
第130図19	C1-25	0118	礫片					石材不明	41.324	接37	IIc	

第13表 縄文時代草創期石器・石材別数量・重量表

種別	安山岩A 数量	安山岩A 重量g	安山岩B 数量	安山岩B 重量g	メノウ 数量	メノウ 重量g	頁岩 数量	頁岩 重量g	チャート 数量	チャート 重量g	砂岩 数量	砂岩 重量g	流紋岩 数量	流紋岩 重量g	沖ノ丸 数量	沖ノ丸 重量g	凝灰岩 数量	凝灰岩 重量g	その他 数量	その他 重量g	計 数量	計 重量g
有舌尖頭器	40	154.5	12	45.64			4	11.50	8	39.37	3	8.94	4	13.88	6	20.11					77	293.94
尖頭器・未製	34	330.74	11	97.64	2	14.73	2	29.53	2	14.61			3	27.25	10	147.47	3	25.39	1	5.99	68	693.35
掻器・削器類	8	146.76					6	132.92	5	42.44			2	43.36					1	10.92	22	376.4
剥片(外皮部)	208	1093.41	23	247.26	2	8.35	12	33.54	7	25.45	2	3.2	12	77.22	11	60.80	2	3.42	1	1.85	280	1554.5
剥片	238	557.04	57	166.26	2	2.78	23	42.68	18	73.69	27	147.55	27	57.12	48	174.00	1	5.94	7	15.55	448	1242.61
剥片(外皮部)	174	135.90	14	10.62	3	3.65	20	8.66	14	11.65	7	7.42	8	5.99	4	5.83	7	3.13			251	192.85
碎片	936	349.02	301	108.05	18	5.34	93	28.67	61	21.21	129	120.11	113	59.92	151	71.04	97	20.5	73	27.54	1972	811.5
礫・円礫類			6	92.13	1	2.30			5	865.54	12	683.39	2	34.52			4	41.71	43	2602.92	73	4327.51
石斧・磨石	1	226.96	1	23.64							9	903.92	1	29.25	3	243.00			14	2536.89	29	3963.66
棒・圓棒石器									1	5.77			1	430.00							2	435.77
石鏃	1	11.37					1	4.86													4	46.89
石核・原石	4	127.86	1	36.82	1	20.40	3	52.00													9	237.08
その他													1	16.32					15	232.64	17	250.08
計	1644	3133.56	426	828.06	29	57.35	164	344.36	121	1099.73	189	1879.53	174	794.83	235	752.91	114	100.19	140	5201.66	3236	14192.38
比率	50.8%	22.1%	13.2%	5.8%	0.9%	0.4%	5.1%	2.4%	3.7%	7.7%	5.8%	13.2%	5.4%	5.6%	7.3%	5.3%	3.5%	0.7%	4.3%	36.7%		

第14表 縄文時代早期出土石器一覧表

標図番号	ブロック	調査区	遺物番号	出土層位	石材	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	接合	備考
第133図1	A	B3-54	0018		黒曜石	石鏃(欠)	2.30	1.80	0.23	0.73		
第133図2	A	B3-37	0023		黒曜石	石鏃(欠)	2.18	1.40	0.25	0.60		
第133図3	A	B3-54	0012		黒曜石	石鏃(欠)	1.40	1.10	0.20	0.27		
第133図4	A	B3-37	0019		黒曜石	石鏃(欠)	1.80	1.50	0.18	0.45		
第133図5	A	B3-55	0026		黒曜石	石鏃(欠)	1.90	1.80	0.30	0.83		端部欠
第133図6	A	B3-47	0018	II層南北ベルト内	黒曜石	石鏃(欠)	1.40	0.90	0.27	0.31		
第133図7	A	B3-54	0004		黒曜石	石鏃(欠)	2.03	0.87	0.20	0.50		
第133図8	A	B3-36	0015		黒曜石	石鏃(欠)	1.02	0.60	0.15	0.12		
第133図9	A	B3-36	0010		黒曜石	石鏃(欠)	0.80	0.90	0.11	0.14		鍬形
第133図10	A	B2-99		確認	黒曜石	石鏃(欠)	1.95	1.50	0.30	0.95		
第133図11	A	B3-55	0001	IIc層	黒曜石	原石	3.90	2.90	1.40	23.23		
第133図12	A	B3-55	0019		黒曜石	石核	4.00	3.10	2.38	22.08		
第133図13	A	B3-35	0005		黒曜石	剥片				7.20		接9
第133図13	A	B3-45	0005		黒曜石	剥片(小形)半欠				1.06		接9
第133図14	A	B3-44	0008		黒曜石	剥片	3.55	3.80	0.90	13.32		
第133図15	A	B3-55	0008	IIc層	黒曜石	剥片(外皮残)半欠	3.10	1.73	0.85	5.45		
第133図16	A	B3-54	0023		黒曜石	搔器(半欠)	2.53	3.30	0.68	6.45		左側使用痕
第133図17	A	B3-37	0016	II層	黒曜石	剥片(片割欠)	2.43	2.10	0.50	3.91		砂岩
第133図18	A	B3-45	0007		黒曜石	搔器片?	2.43	3.90	0.70	7.38		
第133図19	A	B3-47	0004		黒曜石	剥片	2.40	4.40	0.63	6.54		核部片?
第134図20	A	B3-36	0017		黒曜石	剥片	3.80	2.20	0.60	5.77		
第134図21	A	B3-44	0002		黒曜石	剥片(小形)半欠				1.51		接3
第134図21	A	B3-54	0036		黒曜石	剥片(半欠)				3.21		接3
第134図22	A	B3-36	0012		黒曜石	剥片(外皮残)	1.97	2.40	0.68	4.70		
第134図23	A	B3-37	0013		黒曜石	剥片	3.40	2.70	0.57	4.59		
第134図24	A	B3-74	0004		黒曜石	剥片	2.82	2.10	0.30	1.98		
第134図25	A	B3-37	0006		黒曜石	剥片	2.83	2.60	0.60	3.92		
第134図26	A	B3-44	0007		黒曜石	剥片	2.60	2.25	0.40	2.57		両面に調整有, 石鏃未製
第134図27	A	B3-45	0010	南北ベルト内	黒曜石	剥片(小形)	2.50	2.30	0.50	2.61		チャート
第134図28	A	B3-34	0001		黒曜石	剥片(小形)				1.59		接13
第134図28	A	B3-46	0001	IIc層	黒曜石	剥片(小形)半欠				0.87		接13
第134図29	A	B3-35	0007		黒曜石	剥片(小形)	2.18	1.75	0.75	2.63		焼
第134図30	A	B3-54	0028		黒曜石	剥片	2.40	1.90	0.23	1.01		
第134図31	A	B3-38	0005		黒曜石	剥片	2.80	1.60	0.55	1.96		
第134図32	A	B3-26	0003		黒曜石	剥片(片割欠)	2.88	1.60	0.57	3.20		
第134図33	A	B3-37	0011		黒曜石	剥片(小形)	1.72	1.65	0.27	0.61		
第134図34	A	B3-37	0008		黒曜石	剥片(小形)	2.10	1.25	0.30	0.59		
第134図35	A	B3-54	0037		黒曜石	碎片	2.17	1.15	0.20	0.62		
第134図36	A	B3-55	0024		黒曜石	碎片	1.05	1.43	0.22	0.55		
第134図37	A	B3-47	0003		黒曜石	碎片	1.30	0.80	0.10	0.14		
第134図38	A	B3-47	0002		黒曜石	碎片	1.10	0.73	0.11	0.09		
第134図39	A	B3-47	0001	II層	黒曜石	碎片	1.10	0.50	0.10	0.08		
第134図40	A	B3-33	0001	I層(表土)	チャート	石鏃	1.57	1.32	0.20	0.39		焼
第134図41	A	B3-54	0021		頁岩	石鏃	2.77	1.53	0.30	1.11		
第134図42	A	B3-46	0043		ホルンフェルス	剥片(外皮残)	2.90	3.15	0.55	6.28		
第134図43	A	B3-29	0001	II層	安山岩	剥片(外皮残)	3.70	3.70	0.52	9.71		
第136図1	B	C3-51	0006		黒曜石	石鏃(欠)	2.05	1.00	0.20	0.54		
第136図2	B	C3-32	0044		黒曜石	石鏃(欠)	1.40	0.80	0.18	0.20		
第136図3	B	C3-46	0012		黒曜石	石鏃(欠)	1.28	0.50	0.17	0.11		
第136図4	B	C3-42	0001	III層	黒曜石	石鏃(欠)	2.55	2.50	0.37	1.70		
第136図5	B	C3-42	0005	III層	黒曜石	石鏃片?	1.10	0.60	0.30	0.19		
第136図6	B	C3-44	0087		黒曜石	石鏃(欠)	1.20	1.00	0.22	0.26		
第136図7	B	C3-32	0014		黒曜石	石鏃(欠)	2.57	1.90	0.53	2.44		
第136図8	B	C3-55	0008		黒曜石	石鏃(未製)	2.75	2.65	0.60	4.47		プレ調査区外へ
第136図9	B	C3-61	0002		黒曜石	原石	4.90	2.70	1.70	26.18		
第136図10	B	C3-44	0033		黒曜石	石核?(外皮残)				20.27		接2
第136図10	B	C3-44	0089		黒曜石	剥片(外皮残)				2.41		接2
第136図10	B	C3-54	0017		黒曜石	剥片(外皮残)				3.03		接2
第136図10	B	C3-55	0004		黒曜石	剥片(外皮残)				4.21		接2
第136図11	B	C3-44	0001		黒曜石	碎片(外皮残)				1.10		接8
第136図11	B	C3-44	0010		黒曜石	剥片(外皮残)				2.04		接8
第136図11	B	C3-63	0005		黒曜石	剥片(外皮残)				7.89		接8
第136図12	B	C3-44	0017		黒曜石	石核片?				8.77		接11
第136図12	B	C3-54	0058		黒曜石	碎片				0.78		接11
第136図13	B	C3-44	0071		黒曜石	石核	3.60	2.70	2.27	18.48		
第136図14	B	C3-44	0008		黒曜石	石核片	3.30	2.85	1.95	14.20		
第137図15	B	C3-31	0001	II層	黒曜石	剥片	2.90	2.03	0.70	4.21		先端のみ
第137図16	B	C3-56	0013		黒曜石	搔器	2.10	2.65	0.65	5.02		
第137図17	B	C3-64	0005		黒曜石	石核	2.30	3.05	1.20	9.26		
第137図18	B	C3-62	0014		黒曜石	調整された剥片	3.10	3.10	0.80	9.27		
第137図19	B	C3-56	0009		黒曜石	剥片	2.72	2.90	0.80	6.07		青灰色
第137図20	B	C3-63	0006		黒曜石	剥片(小形)	2.03	1.90	0.45	1.75		
第137図21	B	C3-44	0035		黒曜石	剥片				8.24		接14
第137図21	B	C3-53	0004		黒曜石	碎片				1.54		接14
第137図21	B	C3-54	0064		黒曜石	碎片				0.75		接14
第137図22	B	C3-44	0006		黒曜石	剥片				7.92		接17
第137図22	B	C3-54	0018		黒曜石	剥片(小形)				1.73		接17 灰
第137図23	B	C3-32	0020		黒曜石	剥片	4.45	2.45	1.13	16.42		上下欠
第137図24	B	C3-44	0074		黒曜石	石核	3.63	2.90	1.00	12.45		灰
第137図25	B	C3-54	0051		黒曜石	搔器	2.55	1.90	0.55	3.36		灰

挿入番号	ブロック	調査区	遺物番号	出土層位	石材	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	接合	備考
第137図26	B	C3-56	0014		黒曜石	剥片	3.60	2.60	1.05	8.61		灰
第137図27	B	C3-32	0008		黒曜石	剥片(外皮残)	2.60	3.30	0.75	6.00		灰
第138図28	B	C3-44	0031		黒曜石	剥片(外皮部)	3.53	2.43	1.10	7.25		
第138図29	B	C3-54	0029		黒曜石	剥片(外皮部)				6.94	接7	核部?, 灰
第138図29	B	C3-54	0071		黒曜石	碎片(外皮部)				2.38	接7	
第138図30	B	C3-44	0015		黒曜石	剥片(小形)半欠				1.36	接10	灰
第138図30	B	C3-44	0059		黒曜石	碎片(外皮部)				0.95	接10	
第138図31	B	C3-54	0055		黒曜石	剥片(外皮部)				3.51	接6	
第138図31	B	C3-55	0013		黒曜石	剥片(小形)外皮残				1.91	接6	灰
第138図32	B	C3-44	0018		黒曜石	剥片(外皮残)				7.26	接1	灰
第138図32	B	C3-54	0021		黒曜石	碎片(外皮残)				1.85	接1	
第138図33	B	C3-62	0006	Ⅱc層~Ⅲ層上面	黒曜石	剥片	3.83	1.80	0.50	4.38		灰
第138図34	B	C3-53	0005		黒曜石	剥片(外皮残)	2.20	2.70	0.30	2.88		灰
第138図35	B	C3-54	0002		黒曜石	剥片(外皮残)	2.20	2.00	0.35	1.82		
第138図36	B	C3-61	0004		黒曜石	剥片(小形)	2.10	2.55	0.65	3.65		灰
第138図37	B	C3-57	0001		黒曜石	剥片	2.75	3.50	1.13	10.42		
第138図38	B	C3-42	0002	Ⅲ層	黒曜石	剥片	2.40	2.85	0.90	6.90		灰
第138図39	B	C3-63	0007		黒曜石	剥片(小形)	2.50	1.60	0.55	2.19		灰
第138図40	B	C3-44	0005		黒曜石	剥片				3.87	接55	
第138図40	B	C3-54	0032		黒曜石	剥片(小形)半欠				1.96	接55	
第138図41	B	C3-32	0045		黒曜石	剥片	2.70	2.40	0.50	3.35		灰
第138図42	B	C3-32	0043		黒曜石	剥片	3.60	1.70	0.40	2.55		灰
第138図43	B	C3-44	0047		黒曜石	剥片	3.05	1.75	0.88	4.87		
第138図44	B	C3-44	0041		黒曜石	石核	3.00	4.15	1.80	11.33		
第138図45	B	C3-56	0019		黒曜石	剥片(小形)	2.10	1.70	0.35	1.02		
第139図46	B	C3-54	0044		黒曜石	剥片	2.70	3.40	0.70	6.53		
第139図47	B	C3-46	0009		黒曜石	剥片	3.40	2.60	0.95	9.58		
第139図48	B	C3-54	0015		黒曜石	剥片	4.10	2.20	0.47	3.16		灰
第139図49	B	C3-54	0011		黒曜石	剥片(小形)				1.47	接15	
第139図49	B	C3-54	0026		黒曜石	剥片				2.67	接15	
第139図50	B	C3-46	0032	Ⅱ層	黒曜石	剥片	2.37	2.70	0.62	4.45		
第139図51	B	C3-32	0034		黒曜石	剥片(小形)	2.00	2.20	0.40	2.08		
第139図52	B	C3-46	0002		黒曜石	剥片(半欠)	2.10	2.20	0.65	1.90		
第139図53	B	C3-54	0065		黒曜石	剥片(小形)	2.10	1.50	0.25	0.96		
第139図54	B	C3-44	0004		黒曜石	剥片(小形)	1.80	1.67	0.30	1.09		
第139図55	B	C3-44	0061		黒曜石	碎片				2.79	接16	灰
第139図55	B	C3-54	0056		黒曜石	剥片(小形)				1.78	接16	
第139図56	B	C3-54	0012		黒曜石	剥片	1.40	4.65	0.60	4.07		灰
第139図57	B	C3-44	0055		黒曜石	剥片	2.60	2.60	1.20	7.12		灰
第139図58	B	C3-54	0041		黒曜石	剥片	2.80	2.20	1.30	4.76		
第140図59	B	B4-09	0019		黒曜石	石鏃(完)	1.60	1.90	0.20	0.51		
第140図60	B	C3-51	0002		黒曜石	石鏃(完)	1.65	1.60	0.22	0.54		灰碇
第140図61	B	C3-82	0005		黒曜石	石鏃(完)	2.80	1.20	0.20	0.44		
第140図62	B	B3-99	0019		黒曜石	石鏃(欠)	2.50	1.15	0.25	0.84		
第140図63	B	C3-90	0184		黒曜石	石鏃(欠)	1.70	1.80	0.25	0.65		
第140図64	B	C3-90	0065		黒曜石	石鏃(欠)	2.40	1.30	0.20	0.54		
第140図65	B	C4-00	0032	Ⅱ層	黒曜石	石鏃(欠)	2.10	1.70	0.23	0.71		
第140図66	B	B4-09	0034		黒曜石	石鏃(欠)	1.17	1.03	0.18	0.14		
第140図67	B	C4-00	0013		黒曜石	石鏃(欠)	1.38	1.10	0.17	0.24		
第140図68	B	C3-82	0009		黒曜石	石鏃(欠)	1.77	1.07	0.22	0.50		プレNa2へ
第140図69	B	C3-81	0004		黒曜石	石鏃(欠)	1.75	1.30	0.25	0.50		プレNa2へ
第140図70	B	C3-90	0133		黒曜石	石鏃(欠)	1.60	0.50	0.15	0.14		プレNa2へ
第140図71	B	B4-09	0005	Ⅲ層上面	黒曜石	石鏃(欠)	0.90	0.75	0.18	0.16		
第140図72	B	B3-99	0030	Ⅱ層	黒曜石	石鏃(欠)	2.07	0.92	0.20	0.44		
第140図73	B	C3-91	0002	Ⅱ層	黒曜石	石鏃(欠)	1.82	1.25	0.20	0.65		
第140図74	B	B3-89	0005		黒曜石	石鏃(欠)	1.27	0.90	0.20	0.38		
第140図75	B	B3-99	0013		黒曜石	石鏃(欠)	1.27	0.80	0.18	0.23		
第140図76	B	C3-90	0154		黒曜石	石鏃(欠)	1.45	1.10	0.23	0.56		
第140図77	B	C3-73	0006	Ⅱ層南北ベルト内	黒曜石	石鏃(欠)	1.30	0.90	0.20	0.30		
第140図78	B	C3-80	0015		黒曜石	石鏃(欠)	1.20	1.00	0.18	0.24		
第140図79	B	C3-71	0001	Ⅱ層一括	黒曜石	石鏃(未製)	2.30	3.00	0.80	3.81		灰
第140図80	B	C4-00	0012		黒曜石	剥片	2.70	1.80	0.65	3.61		
第140図81	B	C3-84	0003		黒曜石	剥片	2.60	2.00	0.65	3.13		
第140図82	B	B3-89	0006	Ⅱ層南北ベルト内	黒曜石	核部?	2.42	3.10	1.20	9.96		
第140図83	B	B3-99	0024		黒曜石	核部?	4.50	2.60	0.80	11.06		
第140図84	B	C3-91	0008	Ⅱ層	黒曜石	剥片	2.40	3.05	0.98	5.13		
第140図85	B	C4-00	0022		黒曜石	剥片	1.30	3.10	0.80	3.02		右側調整
第140図86	B	B3-99	0025		黒曜石	剥片(外皮残)				7.38	接5	
第140図86	B	C3-90	0139		黒曜石	剥片(外皮残)				14.17	接5	灰
第140図86	B	C4-00	0027		黒曜石	剥片(半欠)				7.32	接5	
第141図87	B	C3-84	0001	Ⅱ層一括	黒曜石	剥片	2.75	3.80	0.47	6.72		
第141図88	B	B3-99	0005		黒曜石	剥片	2.37	2.60	0.70	3.87		
第141図89	B	C3-81	0013		黒曜石	剥片	2.20	1.80	0.37	3.50		灰
第141図90	B	C3-90	0062		黒曜石	剥片	5.00	1.40	0.80	5.36		
第141図91	B	C3-80	0058		黒曜石	剥片	3.70	2.60	0.70	5.89		
第141図92	B	C3-91	0001	確認	黒曜石	剥片	4.07	2.10	1.10	9.00		
第141図93	B	C3-74	0001		黒曜石	剥片				2.56	接4	灰
第141図93	B	C3-74	0005		黒曜石	剥片(小形)				2.02	接4	
第141図94	B	C4-24	0002	Ⅲ層上面	黒曜石	石核	2.60	3.60	1.00	10.98		
第141図95	B	B3-99	0022		黒曜石	剥片	2.60	3.50	0.50	4.44		
第141図96	B	B3-98	0001		黒曜石	剥片	2.60	2.33	0.50	2.89		

挿入番号	ブロック	調査区	遺物番号	出土層位	石材	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	接合	備考
第141図97	B	B3-99	0011		黒曜石	剥片	2.13	2.00	0.52	2.90		
第141図98	B	C3-90	0169	Ⅲ層上面	黒曜石	剥片(小形)	2.50	1.65	0.23	1.22		
第141図99	B	B3-99	0029	Ⅱ層	黒曜石	剥片	2.25	2.20	0.35	1.83		
第141図100	B	B4-09	0020		黒曜石	剥片	2.25	2.10	0.47	2.31		
第141図101	B	C4-00	0004	Ⅱc層	黒曜石	剥片	2.50	3.30	0.60	3.68		先端のみ
第141図102	B	C3-80	0017		黒曜石	剥片	2.00	2.65	0.80	4.19		
第142図103	B	C3-90	0132		黒曜石	剥片	3.10	1.80	0.60	2.90		灰
第142図104	B	C3-90	0063		黒曜石	剥片(外皮残)半欠	2.90	1.60	0.80	3.66		灰
第142図105	B	C3-80	0005		黒曜石	剥片	2.68	1.65	0.85	4.09		
第142図106	B	C3-90	0025		黒曜石	剥片	3.00	1.35	0.55	2.88		
第142図107	B	C3-90	0059		黒曜石	剥片(小形)	2.28	1.52	0.22	1.00		灰
第142図108	B	C3-90	0144		黒曜石	剥片(小形)	1.95	1.65	0.40	1.49		
第142図109	B	C3-90	0093	Ⅲ層上面	黒曜石	剥片(小形)	1.55	2.40	0.30	1.22		灰
第142図110	B	C3-90	0155		黒曜石	剥片(小形)	1.55	1.85	0.20	0.67		灰
第142図111	B	C3-70	0001	Ⅱ層	黒曜石	剥片(外皮部)	2.43	2.80	0.60	3.68		灰
第142図112	B	C3-80	0045		黒曜石	剥片(外皮残)半欠				6.88	接18	灰
第142図112	B	C3-81	0006		黒曜石	碎片				1.28	接18	
第142図113	B	C3-80	0009		黒曜石	剥片(外皮残)半欠	2.95	1.75	0.60	3.14		灰
第142図114	B	C3-90	0082	Ⅱ層	黒曜石	剥片(外皮残)	2.02	1.80	1.20	5.67		灰
第142図115	B	C4-00	0036	Ⅲ層上面	黒曜石	剥片(小形)外皮残	1.80	2.10	0.57	2.45		
第142図116	B	B4-09	0001	攪乱	黒曜石	剥片	2.03	2.90	0.53	3.27		
第142図117	B	C4-00	0002	攪乱	黒曜石	剥片(小形)外皮残	2.65	1.60	0.30	1.80		灰
第142図118	B	B4-09	0012		黒曜石	碎片(外皮残)				0.76	接12	
第142図118	B	C3-90	0149		黒曜石	碎片				0.80	接12	片脚欠(灰)
第142図119	B	B3-99	0003		黒曜石	碎片	1.20	1.30	0.28	0.43		
第142図120	B	C3-90	0136	Ⅲ層上面	黒曜石	石鏃片?	0.83	1.87	0.20	0.38		
第142図121	B	C3-80	0026		黒曜石	碎片	1.25	1.05	0.18	0.26		
第142図122	B	B4-09	0027		黒曜石	碎片	1.07	0.65	0.12	0.09		
第142図123	B	C4-14	0001	Ⅱ層	チャート	石鏃(完)	2.60	1.60	0.32	1.27		灰
第142図124	B	C3-80	0021		安山岩	石鏃(完)	2.87	2.25	0.42	1.94		灰
第142図125	B	C3-74	0002		安山岩	石鏃(完)	2.30	1.90	0.40	0.94		灰
第142図126	B	C3-62	0001	Ⅱ層一括	チャート	石鏃(完)	3.20	1.80	0.35	1.77		
第142図127	B	B3-98	0004		頁岩	石鏃(完)	2.07	1.40	0.20	0.50		
第142図128	B	C3-90	0009		頁岩?	石核?	4.70	4.95	1.33	56.38		
第171図1	B	B3-88	0001	Ⅱ層チョッパー	硬砂岩	石斧(打)	9.90	6.75	4.65	395.00		
第171図2	B	C3-85	0015	Ⅱ層	砂岩?	扁平円礫	3.70	3.58	0.61	12.35		
第144図1	C	C4-08	0008	Ⅱc層	黒曜石	石鏃(欠)	1.70	1.50	0.22	0.37		
第144図2	C	C3-99	0005	Ⅱb層	黒曜石	石鏃(完)	1.77	1.45	0.28	0.57		
第144図3	C	D3-91	0006		黒曜石	石鏃片(欠)	2.10	1.40	0.45	1.40		
第144図4	C	C3-98	0014		黒曜石	石鏃(欠)	1.45	0.85	0.18	0.23		
第144図5	C	C4-09	0018	Ⅱb層	黒曜石	石鏃(欠)	1.58	1.10	0.20	0.49		
第144図6	C	C4-07	0020		黒曜石	石鏃(欠)	1.55	0.60	0.20	0.20		
第144図7	C	D3-91	0009		黒曜石	石鏃(欠)	1.00	0.85	0.20	0.25		
第144図8	C	D4-24	0003		黒曜石	石鏃(欠)	1.63	1.22	0.35	0.88		
第144図9	C	C3-98	0006		黒曜石	剥片				1.45	接19	
第144図9	C	C4-08	0050		黒曜石	石鏃(未製)				4.39	接19	
第144図10	C	D3-91	0024		黒曜石	削器	2.80	2.83	0.55	5.09		
第144図11	C	C3-98	0007		黒曜石	剥片(外皮残)	2.30	1.90	0.80	4.13		左側R
第144図12	C	C4-07	0013	Ⅱ層	黒曜石	剥片	2.40	3.50	0.60	5.12		
第144図13	C	D3-91	0017		黒曜石	剥片	3.40	2.15	1.00	7.40		
第144図14	C	C4-08	0073		黒曜石	剥片(小形)	1.55	2.00	0.30	1.03		
第144図15	C	C4-09	0020	Ⅱb層	黒曜石	剥片	3.90	2.15	0.45	6.03		
第144図16	C	C3-99	0004	Ⅱb層	黒曜石	搔器?(半欠)	2.60	3.50	0.80	6.85		
第144図17	C	D3-90	0071		黒曜石	剥片	4.30	2.10	0.47	3.73		
第144図18	C	C4-08	0013		黒曜石	剥片	2.90	2.40	0.60	4.49		
第144図19	C	D3-80	0002		黒曜石	剥片				2.19	接21	
第144図19	C	D3-90	0028		黒曜石	剥片				2.24	接21	
第144図20	C	C3-99	0001	Ⅱc層	黒曜石	剥片	2.72	1.63	0.40	2.08		
第144図21	C	C4-08	0005	Ⅱc層	黒曜石	剥片(小形)	2.25	1.83	0.45	1.54		
第144図22	C	C3-98	0010		黒曜石	剥片(小形)	2.42	1.70	0.40	1.34		
第144図23	C	C4-08	0021		黒曜石	剥片	2.40	1.80	0.30	1.34		
第144図24	C	C4-08	0103		黒曜石	碎片	1.53	1.55	0.25	0.50		
第145図25	C	C4-08	0029		黒曜石	剥片	2.55	3.15	1.30	8.40		
第145図26	C	D3-90	0018		黒曜石	剥片(半欠)	1.81	2.90	0.60	3.84		
第145図27	C	D3-90	0024		黒曜石	剥片(半欠)	3.33	1.65	0.45	2.91		
第145図28	C	C3-99	0011	Ⅱb層	黒曜石	剥片(半欠)	2.60	2.05	0.80	3.68		
第145図29	C	D3-81	0003		黒曜石	剥片(半欠)	2.53	2.05	1.05	6.28		
第145図30	C	C4-07	0002		黒曜石	剥片(外皮残)				4.60	接42	
第145図30	C	C4-08	0010	Ⅱc層	黒曜石	碎片(外皮残)				0.79	接42	
第145図31	C	C4-08	0037		黒曜石	剥片(外皮部)半欠	3.10	1.70	0.45	4.16		
第145図32	C	C4-08	0049		黒曜石	剥片(外皮部)	2.50	2.10	0.88	4.10		
第145図33	C	D3-80	0007		黒曜石	碎片				1.77	接20	
第145図33	C	D3-81	0001	Ⅱb層	黒曜石	剥片(外皮残)				8.27	接20	
第145図34	C	C4-09	0015	Ⅱb層	黒曜石	剥片(外皮残)	2.75	2.40	0.50	3.10		
第146図35	C	D3-73	0003	Ⅲ層	チャート	石鏃(完)	1.63	1.30	0.30	0.38		
第146図36	C	D4-25	0002	Ⅱ層一括	チャート	石鏃(欠)	0.88	1.65	0.20	0.40		
第146図37	C	D4-50	0002		チャート	石鏃(欠)	2.22	1.90	0.40	0.84		
第146図38	C	D3-98	0003		頁岩	搔器	3.60	5.75	0.75	14.75		
第146図39	C	D4-18	0003	Ⅱ層	安山岩	剥片	7.40	5.10	1.25	61.31		
第146図40	C	D4-03	0003		安山岩	剥片(外皮残)	6.00	3.90	0.85	16.46		
第146図41	C	D4-04	0011		安山岩	剥片(外皮部)	3.60	2.60	0.60	5.77		

棟図番号	ブロック	調査区	遺物番号	出土層位	石材	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	接合	備考
第146図42	C	D4-04	0003	Ⅱc層	安山岩	剥片	2.70	2.10	0.50	2.27		
第146図43	C	D4-15	0004		安山岩	剥片	4.20	2.50	0.57	5.19		
第146図44	C	D4-03	0001	Ⅲ層	安山岩	剥片	2.80	3.65	0.50	5.37		
第146図45	C	D4-41	0003		チャート	両極石器	2.25	2.50	0.85	6.89		
第146図46	C	D4-40	0004		チャート	両極石器	2.60	1.90	0.68	4.44		
第171図3	C	D4-07	0001	Ⅱ層	硬砂岩	磨石?	9.05	4.90	4.60	307.40		
第171図4	C	D4-35	0001	Ⅱc層	硬砂岩	円礫片	4.99	4.25	1.50	47.03		
第148図1	D	D1-90	0010		黒曜石	石鏃(欠)	1.55	2.30	0.30	1.13		
第148図2	D	D1-82	0011		黒曜石	石鏃(欠)	1.40	0.80	0.18	0.34		
第148図3	D	D1-82	0003		黒曜石	石鏃(欠)	1.28	0.80	0.20	0.25		
第148図4	D	D1-91	0018		黒曜石	石鏃(欠)	1.05	0.80	0.18	0.16		
第148図5	D	D1-90	0019		黒曜石	石鏃(欠)	1.70	1.05	0.23	0.55		
第148図6	D	D1-91	0009	Ⅱ~Ⅲ層	黒曜石	石核(外皮残)	3.22	3.40	1.45	14.21		
第148図7	D	D1-90	0037	Ⅱ層東西ベルト内	黒曜石	剥片	1.80	3.30	1.05	5.19		
第148図8	D	D1-81	0016	Ⅱ層南北ベルト内	黒曜石	剥片(小形)外皮残	1.97	1.80	0.50	2.05		
第148図9	D	D1-91	0006	Ⅱc層	黒曜石	石核(外皮残)				14.26		接34
第148図9	D	D1-91	0008		黒曜石	石核(外皮残)				20.00		接34
第148図10	D	D1-90	0022		黒曜石	碎片				0.82		接48
第148図10	D	D1-91	0005	Ⅱc層	黒曜石	碎片(外皮部)				0.83		接48
第148図10	D	D1-92	0002		黒曜石	石核(外皮残)				19.25		接48
第148図11	D	D1-90	0021		黒曜石	剥片(外皮残)	2.35	3.60	0.87	8.41		
第148図12	D	D1-81	0002	Ⅱ~Ⅲ層	黒曜石	剥片	2.90	3.30	0.90	8.24		
第148図13	D	D1-90	0024		黒曜石	碎片				0.39		接54
第148図13	D	D1-90	0016	Ⅱ~Ⅲ層	黒曜石	剥片(外皮残)				5.01		接54 両面調整
第149図14	D	D2-02	0001	Ⅱ層一括	チャート	石鏃(欠)	1.73	1.53	0.30	0.91		
第149図15	D	D1-83	0005		チャート	石鏃(完)	3.38	2.30	0.42	2.37		
第149図16	D	C2-49	0001		安山岩	石鏃(完)	2.80	1.55	0.35	1.31		
第149図17	D	D2-41	0004		メノウ	石鏃(完)	3.05	1.75	0.40	2.08		
第149図18	D	D2-23	0017		流紋岩	石鏃(完)	2.48	1.70	0.47	1.45		
第149図19	D	D2-30	0004		チャート	石鏃(欠)	2.70	2.00	0.40	1.93		
第149図20	D	D1-71	0004		頁岩	剥片(外皮残)	4.80	3.10	0.87	17.32		
第149図21	D	D1-82	0015		石英	剥片(小形)	1.95	1.90	0.33	1.65		
第149図22	D	D2-40	0002		メノウ	剥片(小形)	1.90	1.70	0.50	2.07		
第149図23	D	C2-08	0002		?	剥片	3.60	3.20	0.50	5.76		
第149図24	D	C1-98	0004		チャート	剥片	3.40	2.02	0.35	3.84		
第149図25	D	D1-70	0002		チャート	両極石器	4.10	1.70	0.80	7.56		
第149図26	D	D1-92	0005		安山岩	両極石器	2.50	1.30	0.70	2.88		
第149図27	D	D2-00	0002		安山岩	両極石器	3.70	1.40	0.90	6.43		
第149図28	D	D1-93	0005		安山岩	石器未製品	2.33	2.03	0.80	3.92		
第149図29	D	D1-71	0012	Ⅱ層東西ベルト内	チャート	石斧?	7.55	7.18	2.85	187.63		
第150図30	D	C2-46	0035		黒曜石	石鏃(欠)	1.85	1.40	0.27	0.68		
第150図31	D	C2-36	0003		黒曜石	石鏃(欠)	1.45	1.40	0.18	0.35		
第150図32	D	C2-46	0006		黒曜石	剥片	1.60	2.90	0.85	3.87		
第150図33	D	C2-46	0046		黒曜石	剥片	2.63	3.05	1.20	11.45		
第150図34	D	C2-36	0031		黒曜石	剥片(小形)外皮残	1.55	2.00	0.33	1.18		
第150図35	D	C2-46	0029		黒曜石	剥片(外皮残)				2.98		接33
第150図35	D	C2-46	0052		黒曜石	剥片(外皮部)				6.69		接33
第150図36	D	C2-36	0020		黒曜石	剥片(外皮残)	3.83	2.15	1.10	7.76		
第150図37	D	C2-49	0002		黒曜石	剥片	1.90	4.50	0.80	5.80		
第150図38	D	C2-46	0033		黒曜石	剥片	2.80	2.80	0.90	6.48		
第150図39	D	C2-37	0007		黒曜石	剥片	2.95	2.40	0.50	3.01		
第150図40	D	C2-46	0041		黒曜石	剥片	3.50	2.00	0.60	3.62		
第150図41	D	C2-46	0047		黒曜石	剥片(小形)外皮残	2.15	1.85	0.23	1.17		
第150図42	D	C2-36	0043		黒曜石	剥片(小形)	1.90	2.00	0.33	1.41		
第150図43	D	C2-69	0003		黒曜石	剥片(外皮残)	2.17	1.90	0.48	2.75		
第150図44	D	C2-66	0001		黒曜石	碎片	2.20	0.95	0.25	0.53		
第151図45	D	D2-42	0015	Ⅱ~Ⅲ層	黒曜石	石鏃(完)	1.33	1.40	0.20	0.29		核部片?
第151図46	D	D2-52	0005		黒曜石	石鏃(欠)	1.65	1.10	0.38	0.50		調整有
第151図47	D	D2-51	0003		黒曜石	石鏃(欠)	1.60	1.53	0.33	0.67		
第151図48	D	D2-52	0010		黒曜石	石鏃(完)	1.98	1.50	0.38	1.00		
第151図49	D	D2-52	0019		黒曜石	石鏃(欠)	2.10	2.10	0.65	2.28		裏面調整?
第151図50	D	D2-43	0002	Ⅱ~Ⅲ層	黒曜石	石鏃(欠)	2.10	1.50	0.40	1.23		
第151図51	D	C2-46	0018		黒曜石	石鏃(欠)	1.40	1.90	0.40	0.93		
第151図52	D	D2-33	0004		黒曜石	石鏃(欠)	1.20	1.60	0.30	0.59		
第151図53	D	D2-32	0030		黒曜石	石鏃(欠)	1.43	2.05	0.30	0.95		
第151図54	D	D2-32	0064		黒曜石	石鏃(欠)	1.70	1.40	0.20	0.61		
第151図55	D	C2-48	0001		黒曜石	石鏃(欠)	2.07	1.00	0.20	0.48		縁辺部のみ
第151図56	D	D2-52	0036		黒曜石	石鏃(欠)	1.23	0.92	0.23	0.28		
第151図57	D	D2-32	0015		黒曜石	剥片	2.90	3.55	1.07	11.87		
第151図58	D	D2-60	0005		黒曜石	剥片	2.77	2.75	0.75	6.62		
第151図59	D	D2-71	0003	Ⅱ~Ⅲ層	黒曜石	剥片(小形)外皮残	2.40	1.90	0.20	0.80		
第151図60	D	D2-32	0056		黒曜石	碎片				0.66		接39 先端のみ
第151図60	D	D2-42	0040		黒曜石	剥片(小形)半欠				1.22		接39
第151図61	D	D2-00	0006		黒曜石	剥片(小形)外皮残	2.45	1.60	0.65	3.19		
第151図62	D	D2-23	0006		黒曜石	剥片(外皮残)	3.17	2.65	1.37	9.63		
第151図63	D	D2-42	0038		黒曜石	剥片(外皮残)	3.10	2.75	1.00	7.90		
第151図64	D	D2-00	0009		黒曜石	剥片	3.02	1.53	0.80	3.30		
第151図65	D	D2-00	0005		黒曜石	剥片	3.07	1.80	1.00	6.39		
第151図66	D	D2-33	0014		黒曜石	剥片(小形)	3.00	1.55	0.30	1.46		
第151図67	D	D2-22	0003		黒曜石	剥片(小形)	2.90	1.35	0.28	1.32		
第151図68	D	D2-51	0013		黒曜石	剥片(小形)	2.07	1.62	0.43	1.97		

挿入番号	ブロック	調査区	遺物番号	出土層位	石材	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	接合	備考
第151図69	D	D2-52	0029		黒曜石	削器				21.86	接36	
第151図69	D	D2-51	0007		黒曜石	剥片(半欠)				1.48	接36	
第152図70	D	D2-71	0002	攪乱	黒曜石	砕片(外皮部)				1.20	接38	
第152図70	D	D2-52	0004		黒曜石	石核(外皮残)				23.06	接38	
第152図70	D	D2-41	0013		黒曜石	剥片(小形)半欠				0.55	接38	
第152図71	D	D2-62	0004	Ⅱ層	黒曜石	石核(外皮残)	2.30	4.05	2.10	14.50		
第152図72	D	D2-32	0027		黒曜石	石核	2.88	3.60	1.35	13.52		
第152図73	D	D2-03	0004		黒曜石	剥片(外皮部)半欠				2.50	接65	
第152図73	D	D2-23	0025		黒曜石	剥片(外皮部)半欠	1.35	2.40	0.55	3.52	接65	
第152図74	D	D2-51	0023	Ⅱ層南北ベルト内	黒曜石	剥片(半欠)	2.60	2.40	0.75	4.69		遺物不明
第152図75	D	D2-52	0024		黒曜石	剥片(半欠)	4.30	2.25	0.55	9.84		
第152図76	D	D2-00	0008		黒曜石	剥片(外皮残)	3.73	2.37	0.80	7.19		両面調整?
第152図77	D	D2-62	0007		黒曜石	石核?(外皮部)	3.45	2.75	1.10	10.33		
第152図78	D	D2-71	0002	攪乱	黒曜石	剥片	2.55	3.45	0.95	9.88		
第152図79	D	D2-42	0024		黒曜石	剥片(小形)外皮残	2.13	2.05	0.35	1.67		
第152図80	D	D2-51	0023	Ⅱ層南北ベルト内	黒曜石	剥片	2.25	3.10	1.18	8.57		
第152図81	D	D2-30	0001	Ⅱ層一括	黒曜石	剥片(外皮残)	2.65	2.20	1.00	4.61		
第152図82	D	D2-33	0008		黒曜石	剥片(外皮残)	2.38	2.10	1.00	4.19		
第152図83	D	D2-32	0054		黒曜石	剥片(小形)	2.50	1.90	0.30	1.21		
第152図84	D	D2-52	0025		黒曜石	剥片(小形)	2.70	1.70	0.25	1.18		
第152図85	D	D2-52	0012		黒曜石	剥片(小形)半欠	2.33	1.50	0.50	1.48		
第152図86	D	D2-51	0017		黒曜石	剥片(小形)	2.88	1.47	0.65	2.14		
第153図87	D	D2-52	0017		黒曜石	剥片(外皮残)	2.10	4.40	0.87	6.35		
第153図88	D	D2-51	0002		黒曜石	剥片(半欠)	2.07	3.30	1.20	6.92		
第153図89	D	D2-42	0003		黒曜石	剥片(外皮部)半欠	2.00	2.90	0.73	4.39		
第153図90	D	D2-32	0031	Ⅱ～Ⅲ層	黒曜石	剥片				4.73	接51	
第153図90	D	D2-42	0016	Ⅱ～Ⅲ層	黒曜石	剥片(半欠)				3.28	接51	
第153図91	D	D2-23	0002		黒曜石	剥片	2.15	2.60	0.30	2.39		
第153図92	D	D2-31	0002		黒曜石	砕片				1.02	接47	
第153図92	D	D2-42	0035		黒曜石	剥片				2.03	接47	
第153図93	D	D2-32	0044		黒曜石	砕片				2.08	接40	
第153図93	D	D2-43	0007		黒曜石	剥片(半欠)				2.76	接40	
第153図94	D	D2-32	0058		黒曜石	剥片(小形)	2.40	1.55	0.23	0.98		
第153図95	D	D2-22	0005		黒曜石	剥片(半欠)	3.37	1.62	0.57	3.45		
第153図96	D	D2-23	0016	Ⅱ～Ⅲ層	黒曜石	剥片	2.87	1.55	0.65	1.99		
第153図97	D	D2-23	0003		黒曜石	剥片	1.83	1.90	0.40	1.47		
第153図98	D	D2-60	0002	Ⅱ～Ⅲ層	黒曜石	剥片(小形)	2.13	1.80	0.50	1.55		
第153図99	D	D2-43	0011		黒曜石	剥片(小形)	1.80	1.60	0.40	0.98		
第153図100	D	D2-43	0008		黒曜石	剥片(小形)	1.95	1.40	0.20	0.60		草創期へ
第153図101	D	D2-42	0019		黒曜石	剥片(小形)	1.85	1.67	0.37	1.14		
第153図102	D	D2-32	0029		黒曜石	剥片(小形)半欠	2.03	1.18	0.27	0.69		
第153図103	D	D2-42	0005		黒曜石	石鏃(欠)	2.17	0.90	0.30	0.93		
第153図104	D	D2-32	0055		黒曜石	剥片(半欠)	2.33	1.90	0.32	3.15		
第153図105	D	D2-32	0005		黒曜石	剥片	2.45	4.78	1.40	10.89		
第154図106	D	C2-98	0017		黒曜石	石鏃(完)	1.50	1.40	0.30	0.59		
第154図107	D	C2-98	0027		黒曜石	石鏃(欠)	2.65	1.17	0.20	0.70		灰色
第154図108	D	C3-09	0002		黒曜石	石鏃(欠)	2.30	1.60	0.20	0.75		
第154図109	D	C3-08	0019		黒曜石	石鏃(欠)	2.40	1.30	0.23	0.92		
第154図110	D	C2-99	0003		黒曜石	石鏃(欠)	1.65	1.25	0.22	0.47		
第154図111	D	D3-02	0001	攪乱	黒曜石	石鏃?	1.97	1.30	0.27	0.56		
第154図112	D	C2-98	0018		黒曜石	剥片	1.27	2.30	0.68	2.47		核部?
第154図113	D	C2-98	0016		黒曜石	剥片	1.90	2.67	0.55	2.77		核部片?
第154図114	D	C3-19	0002	Ⅱ～Ⅲ層	黒曜石	剥片(外皮部)	2.73	2.10	0.80	5.16		
第154図115	D	C2-99	0005		黒曜石	剥片(外皮残)	3.80	2.40	1.07	8.59		
第154図116	D	C2-98	0003		黒曜石	剥片(外皮残)	3.03	2.60	0.60	3.93		
第154図117	D	C2-78	0014		黒曜石	剥片(外皮残)	3.27	2.07	0.95	6.23		
第154図118	D	C2-99	0015	Ⅱ層南北ベルト内	黒曜石	剥片(外皮残)半欠	3.85	2.00	1.03	9.51		
第154図119	D	C2-98	0007		黒曜石	剥片	2.30	4.00	0.60	6.05		
第154図120	D	C2-88	0001		黒曜石	剥片(小形)外皮残	3.27	1.30	0.40	2.33		灰色
第154図121	D	C3-08	0024	Ⅱ～Ⅲ層一括	黒曜石	剥片(外皮残)	2.00	2.80	0.45	2.32		
第154図122	D	C2-78	0005		黒曜石	剥片	2.63	1.90	0.38	1.51		
第154図123	D	C2-88	0002		黒曜石	砕片				1.17	接41	
第154図123	D	C2-89	0008		黒曜石	砕片				0.51	接41	
第154図124	D	C2-78	0023	Ⅱ層東西ベルト内	黒曜石	剥片(小形)	1.60	2.10	0.30	1.18		
第154図125	D	C2-98	0023		黒曜石	砕片(外皮残)	2.20	1.60	0.49	1.85		
第154図126	D	C2-98	0009		黒曜石	剥片(外皮残)				7.18	接31	嫩型?, 片脚のみ
第154図126	D	C2-98	0035		黒曜石	砕片(外皮残)				0.55	接31	
第154図127	D	D2-90	0005		黒曜石	剥片(半欠)	4.10	1.50	0.80	3.91		
第155図128	D	D2-71	0004		頁岩	石鏃(完)	1.35	1.30	0.28	0.27		
第155図129	D	D2-83	0002	Ⅱ層	流紋岩	石鏃(完)	1.40	1.73	0.27	0.48		
第155図130	D	C3-09	0001	Ⅱ～Ⅲ層	安山岩	石鏃(完)	2.80	1.70	0.55	2.09		
第155図131	D	D2-82	0004	Ⅱ層	安山岩	石鏃(欠)	2.42	1.50	0.40	1.07		
第155図132	D	D2-70	0003		チャート	石鏃(完)	2.48	1.90	0.42	1.38		先端部のみ
第155図133	D	D2-83	0002	Ⅱ層	チャート	石鏃(欠)	1.65	1.10	0.28	0.34		
第155図134	D	C3-09	0003		チャート	石鏃(欠)	2.50	1.40	0.30	0.87		
第155図135	D	D2-92	0002	Ⅱ層	安山岩	剥片(小形)	2.40	2.45	0.67	3.90		
第155図136	D	D2-70	0010		安山岩	剥片	2.60	4.90	0.80	10.94		
第155図137	D	D2-70	0009		安山岩	剥片	2.13	3.40	0.30	2.74		
第155図138	D	D2-70	0005		メノウ	剥片	2.90	2.20	0.70	6.66		
第155図139	D	D2-70	0004		メノウ	剥片	3.40	1.90	0.50	3.83		
第155図140	D	D2-73	0004	Ⅱ層	チャート	両面石器	3.80	2.10	0.57	5.93		

挿入番号	ブロック	調査区	遺物番号	出土層位	石 材	器 種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	接 合	備 考	
第172図1	D	D1-92	0013	II層東西ベルト内	?	敲石	6.10	3.15	1.05	28.13			
第172図2	D	D2-10	0001	II~III層	緑泥片岩	石斧片(基部のみ)	2.80	3.40	1.02	15.45			
第172図3	D	D1-70	0001	II~III層	緑泥片岩	石斧(刃部欠)	12.09	5.20	2.80	223.72			
第172図4	D	D1-73	0002	II~III層	砂岩	敲石	9.85	5.65	3.30	225.15			
第173図5	D	D1-82	0002		花崗岩系	敲石	10.75	7.00	3.70	460.00			
第173図6	D	D2-50	0003		砂岩	敲石片	7.90	7.41	5.45	485.00			
第173図7	D	D1-82	0012		硬砂岩	磨石(半欠)	7.10	8.90	5.40	430.00			
第173図8	D	D2-41	0009		硬砂岩	扁平円鏝	7.80	4.12	1.75	92.58			
第157図1	E	D2-17	0039	II層南北ベルト内	黒曜石	石鏝(完)	1.47	1.25	0.40	0.58			
第157図2	E	D2-18	0012		黒曜石	石鏝(欠)	1.95	1.60	0.30	1.11			
第157図3	E	D2-28	0013		黒曜石	石鏝(完)	2.40	1.50	0.35	1.00			
第157図4	E	D2-49	0003		黒曜石	石鏝(完)	1.70	1.40	0.40	0.64		焼	
第157図5	E	D2-17	0021		黒曜石	石鏝(欠)	1.23	1.42	0.20	0.28			
第157図6	E	D2-17	0005		黒曜石	石鏝(欠)	1.10	1.22	0.18	0.21		焼	
第157図7	E	D2-17	0024		黒曜石	石鏝(欠)	2.00	1.20	0.18	0.48			
第157図8	E	D2-18	0043	II層東西ベルト内	黒曜石	石鏝(欠)	1.83	1.60	0.20	0.54			
第157図9	E	D2-18	0007		黒曜石	石鏝(欠)	1.10	1.70	0.28	0.51			
第157図10	E	D2-46	0006		黒曜石	石鏝(欠)	1.50	1.80	0.28	0.64			
第157図11	E	D2-18	0002		黒曜石	石鏝(欠)	1.40	1.90	0.22	0.36			
第157図12	E	D2-58	0001	II~III層	黒曜石	石鏝(欠)	2.05	1.05	0.23	0.60			
第157図13	E	D2-18	0040		黒曜石	石鏝(欠)	1.35	0.85	0.17	0.25		遺物不明	
第157図14	E	D2-36	0008		黒曜石	石鏝(欠)	1.42	1.30	0.18	0.28		焼	
第157図15	E	D2-46	0003	II~III層	黒曜石	石鏝(欠)	1.08	0.80	0.17	0.15			
第157図16	E	D2-27	0008		黒曜石	石鏝(欠)	1.27	0.83	0.20	0.17		片脚欠	
第157図17	E	D2-45	0002		黒曜石	剥片(半欠)	2.00	2.50	2.50	5.43			
第157図18	E	D2-17	0014		黒曜石	剥片				3.98	接23		
第157図18	E	D2-18	0004		黒曜石	剥片(外皮残)				4.72	接23	片脚欠	
第157図19	E	D2-17	0022		黒曜石	剥片(外皮部)	2.50	1.98	1.10	6.48			
第157図20	E	D2-17	0039	II層南北ベルト内	黒曜石	剥片(外皮部)	3.40	2.20	1.00	5.35			
第157図21	E	D2-17	0023		黒曜石	剥片(小形)外皮残				2.06	接32		
第157図21	E	D2-27	0018		黒曜石	剥片(小形)外皮残				2.14	接32		
第157図22	E	D2-27	0001	II~III層	黒曜石	剥片(外皮残)	2.40	2.35	0.60	2.76			
第157図23	E	D2-17	0041	IIc層東西ベルト内	黒曜石	剥片(外皮残)半欠	2.35	2.30	0.57	3.80		プレ調査区外へ	
第157図24	E	D2-17	0039	II層南北ベルト内	黒曜石	剥片(外皮残)半欠	2.40	1.80	0.50	2.49		欠失面U	
第157図25	E	D2-28	0009		黒曜石	碎片				0.55	接53		
第157図25	E	D2-18	0036		黒曜石	碎片(外皮残)				0.55	接53		
第157図26	E	D2-58	0014		黒曜石	剥片(外皮部)	3.08	1.35	0.45	2.37			
第157図27	E	D2-38	0001		黒曜石	剥片(外皮残)	3.20	1.40	1.00	4.49			
第157図28	E	D2-58	0018		黒曜石	剥片(小形)外皮残	1.97	1.22	0.45	1.32			
第157図29	E	D2-18	0015		黒曜石	剥片(小形)外皮残	1.73	1.80	0.70	1.94			
第157図30	E	D2-48	0006		黒曜石	剥片(半欠)	3.53	0.90	0.27	0.95			
第157図31	E	D2-17	0026		黒曜石	碎片	2.30	1.80	0.33	1.02			
第157図32	E	D2-59	0002	II~III層	黒曜石	剥片(小形)	2.50	1.70	0.20	1.16			
第157図33	E	D2-28	0007		黒曜石	碎片	1.50	0.80	0.12	0.16			
第157図34	E	D2-46	0009		黒曜石	碎片	1.45	0.60	0.10	0.10			
第158図35	E	D2-38	0002		黒曜石	剥片(外皮残)	2.80	3.30	0.92	9.75			
第158図36	E	D2-58	0006		黒曜石	剥片(外皮残)	2.15	2.80	0.70	3.65			
第158図37	E	D2-08	0006		黒曜石	剥片(外皮残)	2.25	1.87	0.60	2.65			
第158図38	E	D2-17	0040	II層東西ベルト内	黒曜石	剥片(外皮残)	3.25	2.00	0.35	2.20			
第158図39	E	D2-28	0001		黒曜石	碎片				1.61	接52		
第158図39	E	D2-27	0022		黒曜石	剥片(半欠)				3.70	接52	鏝型, 片脚欠	
第158図40	E	D2-37	0001		攪乱	黒曜石	剥片	3.33	2.60	0.97	6.60		
第158図41	E	D2-08	0007		黒曜石	剥片(半欠)	1.95	2.20	0.73	3.36			
第158図42	E	D2-08	0002	II~III層	黒曜石	剥片(外皮残)半欠	2.32	2.10	0.50	3.75			
第158図43	E	E2-61	0005		黒曜石	剥片	2.10	2.28	0.40	1.79			
第158図44	E	E2-61	0006		黒曜石	剥片(小形)	2.30	2.00	0.30	1.45			
第158図45	E	D2-27	0016	II~III層	黒曜石	剥片	2.53	2.10	0.38	1.90			
第158図46	E	D2-19	0006	II層東西ベルト内	黒曜石	剥片	3.30	1.70	0.87	4.06			
第158図47	E	D2-18	0003		黒曜石	石核	1.90	3.80	1.55	11.81			
第158図48	E	D2-58	0024		黒曜石	剥片	2.75	1.93	0.63	3.39			
第158図49	E	D2-58	0002		黒曜石	石核	2.03	3.75	1.40	8.86			
第158図50	E	D2-57	0002	II~III層	黒曜石	剥片(小形)外皮残				1.82	接22	鏝?	
第158図50	E	D2-58	0016	II~III層	黒曜石	剥片(半欠)				4.45	接22		
第159図51	E	D2-37	0008		安山岩	石鏝(完)	2.40	1.30	0.30	0.77			
第159図52	E	D2-58	0008		安山岩	石鏝(完)	2.65	1.55	0.47	1.17			
第159図53	E	E2-12	0003		安山岩	石鏝(完)	3.63	1.90	0.40	1.50			
第159図54	E	D2-59	0001		攪乱	安山岩	石鏝(欠)	3.45	1.95	0.35	2.25		
第159図55	E	D2-55	0002	II~III層	安山岩	石鏝(完)	2.78	1.55	0.40	1.30			
第159図56	E	D2-28	0012		チャート	石鏝(完)	2.30	1.67	0.27	0.79			
第159図57	E	E2-20	0009		チャート	石鏝(欠)	2.40	2.43	0.38	0.93			
第159図58	E	E1-90	0004		チャート	石鏝(欠)	2.05	1.30	0.42	1.13			
第159図59	E	E2-00	0006		砂岩	両極石器	3.35	3.80	0.65	13.24			
第159図60	E	E1-90	0001	II~III層	頁岩?	両極石器	3.10	2.82	0.70	7.06			
第159図61	E	E2-20	0002		ホルンフェルス	剥片	2.85	3.35	0.50	4.97			
第159図62	E	E2-20	0006		ホルンフェルス	剥片	2.35	3.50	0.40	3.40			
第159図63	E	D2-19	0005		チャート	剥片(外皮部)	3.60	2.10	1.60	13.55	接56		
第159図63	E	E2-00	0004		チャート	剥片(外皮残)				0.00	接56		
第159図63	E	E2-00	0009		チャート	両極石器				0.00	接56		
第159図64	E	E2-00	0001		攪乱	チャート	剥片(外皮部)	3.20	1.80	0.50	3.79		
第174図1	E	D2-29	0004		砂岩	敲石	6.70	4.40	2.10	97.56			
第174図3	E	D2-39	0002		硬砂岩	磨石(半欠)	7.50	5.65	3.70	236.03			

挿入番号	ブロック	調査区	遺物番号	出土層位	石材	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	接合	備考
第161図1	F	D5-14	0020	II層	黒曜石	石鏃(欠)	1.90	1.30	0.22	0.53		
第161図2	F	D5-13	0142		黒曜石	石鏃(欠)	1.62	1.00	0.20	0.29		
第161図3	F	D4-84	0053		黒曜石	石鏃(欠)	1.73	0.70	0.20	0.30		
第161図4	F	D5-12	0046	IIc層	黒曜石	石鏃(欠)	2.30	1.30	0.23	0.68		
第161図5	F	D5-12	0032	IIc層	黒曜石	石鏃(欠)	2.23	1.20	0.20	0.57		
第161図6	F	D5-15	0003	IIc層下部~III層上部	黒曜石	石鏃(欠)	1.55	1.30	0.20	0.40		
第161図7	F	D5-14	0019	II層	黒曜石	石鏃(欠)	1.70	1.90	0.30	1.30		
第161図8	F	D5-04	0015		黒曜石	石鏃(欠)	2.60	1.50	0.30	1.45		
第161図9	F	D4-93	0008		黒曜石	石鏃(欠)	1.88	1.10	0.28	0.51		
第161図10	F	D4-94	0012		黒曜石	石鏃(欠)	1.50	1.78	0.20	0.26		
第161図11	F	D5-13	0028		黒曜石	石鏃(欠)	1.13	0.70	0.20	0.19		
第161図12	F	D5-13	0075		黒曜石	石鏃(欠)	0.97	0.90	0.15	0.16		
第161図13	F	D4-94	0023		黒曜石	石鏃片?	1.23	0.60	0.12	0.14		
第161図14	F	D5-13	0068		黒曜石	石鏃(欠)	0.95	0.55	0.12	0.11		焼
第161図15	F	D4-93	0019		黒曜石	石鏃(欠)	1.03	1.35	0.28	0.45		
第161図16	F	D4-94	0056		黒曜石	石鏃片	0.85	0.80	0.13	0.15		
第161図17	F	D5-13	0103	IIc層	黒曜石	石鏃(欠)	2.27	2.10	0.40	2.00		
第161図18	F	D5-04	0013		黒曜石	石鏃(未製)				2.20	接26	
第161図18	F	D5-05	0010		黒曜石	石鏃(未製)				1.19	接26	片脚欠
第161図19	F	D5-13	0074		黒曜石	石鏃(欠)	2.90	2.30	0.80	3.66		
第161図20	F	D5-13	0008	IIc層	黒曜石	搔器	3.23	2.40	0.70	7.95		
第161図21	F	D5-13	0032		黒曜石	剥片	3.03	3.37	0.90	10.13		焼
第161図22	F	D4-92	0005	I層	黒曜石	剥片(外皮残)	2.50	2.40	0.90	6.13		
第161図23	F	D5-14	0009	II層	黒曜石	剥片	3.85	2.40	0.60	9.77		
第161図24	F	D4-73	0002	II層	黒曜石	削器	4.65	2.52	0.80	10.10		
第161図25	F	D5-14	0014	II層	黒曜石	剥片	2.53	1.85	0.62	3.90		
第161図26	F	D4-94	0044		黒曜石	剥片	1.90	3.15	0.80	4.75		
第161図27	F	D5-04	0019		黒曜石	剥片(削器?)	3.60	3.65	0.80	5.95		
第161図28	F	D5-23	0003	IIc層	黒曜石	剥片(外皮残)	4.80	3.50	0.70	8.97		
第162図29	F	D5-12	0029		黒曜石	石核(外皮残)				20.25	接30	
第162図29	F	D5-22	0006		黒曜石	石核(外皮残)				49.88	接30	
第162図29	F	D5-22	0008		黒曜石	石核(外皮残)				35.89	接30	
第162図29	F	D5-22	0023		黒曜石	剥片(外皮部)半欠				4.27	接30	
第162図30	F	D4-93	0007		黒曜石	碎片				0.95	接27+29	
第162図30	F	D4-84	0004	I層	黒曜石	剥片(外皮残)				8.04	接27+29	
第162図30	F	D4-94	0013		黒曜石	剥片(外皮残)				9.83	接27+29	
第162図30	F	D4-94	0017		黒曜石	剥片(外皮残)				9.93	接27+29	
第162図30	F	D4-94	0022		黒曜石	剥片(外皮残)				7.18	接27+29	
第162図30	F	D4-94	0019		黒曜石	剥片(外皮部)				9.72	接27+29	
第162図31	F	D4-84	0044		黒曜石	剥片(外皮部)				13.35	接24	
第162図31	F	D4-84	0046	II層	黒曜石	剥片(外皮部)				7.73	接24	
第162図31	F	D4-94	0058		黒曜石	剥片(小形)外皮残				1.26	接24	
第162図32	F	D4-94	0002		黒曜石	石核	4.03	2.35	2.60	22.84		
第163図33	F	D5-22	0003	IIc層	黒曜石	核部?				11.06	接37	
第163図33	F	D5-12	0003		黒曜石	剥片				11.00	接37	焼
第163図34	F	D5-13	0134		黒曜石	石核	3.70	3.70	1.07	14.92		
第163図35	F	D4-85	0021		黒曜石	剥片(外皮部)	2.30	3.15	0.70	6.66		核部?
第163図36	F	D5-23	0009	IIc層	黒曜石	剥片	2.70	3.23	0.95	10.98		
第163図37	F	D4-85	0022		黒曜石	剥片(外皮残)	2.40	3.12	0.75	7.68		
第163図38	F	D5-14	0002	II層	黒曜石	剥片	2.73	3.10	0.80	10.16		
第163図39	F	D4-93	0015		黒曜石	核部(外皮残)	3.05	2.90	0.95	9.74		
第163図40	F	D4-74	0008	III層	黒曜石	剥片(外皮部)	3.30	2.70	0.95	9.67		
第163図41	F	D5-13	0036		黒曜石	石核?(外皮残)	2.28	3.80	1.00	11.44		
第163図42	F	D5-13	0140		黒曜石	剥片(外皮残)				4.96	接25	
第163図42	F	D5-24	0004	一括	黒曜石	剥片(外皮残)				7.65	接25	焼
第164図43	F	D5-12	0015		黒曜石	剥片				18.03	接28	
第164図43	F	D5-22	0010		黒曜石	剥片(外皮部)				14.79	接28	4点
第164図44	F	D5-13	0045		黒曜石	剥片(外皮残)	5.05	2.50	0.63	12.85		
第164図45	F	D5-13	0044		黒曜石	石核(外皮残)	2.73	5.40	1.45	25.54		
第164図46	F	D4-94	0061	II層	黒曜石	剥片(外皮残)	4.55	2.55	0.70	9.14		
第164図47	F	D5-12	0045	IIc層	黒曜石	剥片(外皮残)	3.45	2.40	0.80	5.60		
第164図48	F	D5-12	0039	IIc層	黒曜石	剥片(外皮残)	2.95	2.40	0.37	5.48		
第164図49	F	D4-77	0001	III層上面	黒曜石	剥片(外皮残)	3.33	2.40	0.40	3.24		
第164図50	F	D5-12	0018		黒曜石	剥片(外皮残)	2.70	4.00	1.20	10.26		
第164図51	F	D5-13	0119		黒曜石	剥片(外皮残)	3.20	1.90	0.60	3.41		
第164図52	F	D4-85	0038		黒曜石	剥片(小形)外皮部	3.05	1.60	0.73	3.26		焼
第164図53	F	D4-94	0010		黒曜石	剥片(外皮部)	2.03	2.50	1.00	5.48		
第164図54	F	D4-95	0021		黒曜石	剥片(外皮残)	3.00	2.70	0.95	5.61		
第164図55	F	D5-12	0028		黒曜石	剥片(外皮部)	3.48	1.90	0.60	2.59		
第165図56	F	D5-13	0076	II層	黒曜石	剥片	3.90	2.50	1.00	7.75		
第165図57	F	D5-22	0026		黒曜石	剥片(外皮残)	2.50	3.00	0.40	3.28		
第165図58	F	D5-13	0013		黒曜石	剥片	3.00	2.70	0.70	5.27		
第165図59	F	D4-84	0014		黒曜石	剥片(外皮残)	2.20	3.50	0.65	5.65		焼
第165図60	F	D4-94	0036		黒曜石	剥片(半欠)	2.23	1.90	0.60	2.55		
第165図61	F	D4-94	0015		黒曜石	剥片(外皮残)	2.00	2.40	0.48	1.87		
第165図62	F	D5-14	0017	II層	黒曜石	剥片(半欠)	2.70	1.65	0.50	3.00		
第165図63	F	D4-94	0065		黒曜石	剥片(半欠)	2.73	1.30	0.21	1.25		
第165図64	F	D5-13	0064		黒曜石	剥片(小形)半欠	3.50	1.20	0.57	2.36		
第165図65	F	D4-84	0043		黒曜石	剥片(半欠)	3.37	1.60	0.60	5.30		
第165図66	F	D5-15	0007	IIc層下部~III層上部	黒曜石	剥片(小形)外皮残	2.75	1.80	0.35	1.68		
第165図67	F	D5-15	0016	II層	黒曜石	剥片(外皮残)	2.67	2.20	0.40	3.13		遺物不明

採図番号	ブロック	調査区	遺物番号	出土層位	石材	器種	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	接合	備考
第165図68	F	D5-13	0018		黒曜石	剥片(外皮残)	2.43	2.60	0.70	6.66		
第165図69	F	D4-85	0025		黒曜石	剥片(小形)	1.95	1.90	0.30	1.01		核部片?
第165図70	F	D5-14	0013	II層	黒曜石	剥片(小形)	1.97	1.65	0.35	0.86		
第165図71	F	D4-85	0001	IIc層	黒曜石	削器	3.03	4.02	1.23	15.78		
第166図72	F	D5-12	0024		黒曜石	剥片(外皮残)	3.03	2.50	1.05	7.27		
第166図73	F	D5-13	0021		黒曜石	剥片(小形)外皮部	2.57	2.00	0.70	3.70		
第166図74	F	D5-04	0004		黒曜石	剥片(外皮残)	3.27	2.90	0.77	6.90		
第166図75	F	D5-12	0009		黒曜石	剥片	2.85	4.30	0.80	13.97		
第166図76	F	D4-94	0039		黒曜石	剥片	3.30	1.50	0.40	2.13		
第166図77	F	D4-94	0026		黒曜石	剥片(半欠)	4.10	2.05	0.90	9.23		
第166図78	F	D4-84	0036		黒曜石	剥片(小形)	2.20	2.10	0.50	2.22		
第166図79	F	D4-94	0006		黒曜石	剥片(小形)	2.40	2.07	0.55	2.49		右側U
第166図80	F	D5-03	0004		黒曜石	剥片(小形)	1.98	1.60	0.30	1.15		
第166図81	F	D4-84	0045		黒曜石	砕片	1.77	1.20	0.27	0.51		
第166図82	F	D5-13	0015		黒曜石	剥片	3.77	4.60	0.95	12.24		
第166図83	F	D4-85	0027		黒曜石	剥片				4.50	接49	
第166図83	F	D4-84	0026		黒曜石	剥片(半欠)				4.36	接49	
第166図84	F	D4-94	0038		黒曜石	核部片				6.61	接50	
第166図84	F	D4-84	0047		黒曜石	剥片(半欠)				4.91	接50	
第166図85	F	D4-85	0033		黒曜石	剥片	2.10	2.80	0.80	4.02		
第166図86	F	D5-13	0066		黒曜石	剥片	3.43	2.20	0.40	3.61		
第166図87	F	D4-67	0002		黒曜石	剥片	2.50	2.70	0.30	2.58		
第166図88	F	D5-22	0007		黒曜石	剥片(外皮残)	2.57	3.25	0.40	4.09		
第166図89	F	D5-12	0055	IIc層	黒曜石	剥片(小形)外皮残	2.50	2.00	0.30	1.40		
第167図90	F	D5-05	0011		チャート	石鏝(完)	1.50	1.35	0.30	0.29		
第167図91	F	D5-13	0014		チャート	石鏝(欠)	2.10	2.10	0.23	0.79		
第167図92	F	D5-33	0001	IIc層直上~III層上部	安山岩	石鏝(欠)	1.90	2.05	0.40	1.26		
第167図93	F	D4-94	0031	II層	チャート	砕片(外皮残)				0.00	接64	
第167図93	F	D4-94	0008		チャート	剥片	4.30	2.50	2.00	12.85	接64	
第167図93	F	D4-95	0001	II層一括	チャート	剥片(外皮残)				0.00	接64	
第167図94	F	D5-06	0002	III層?	チャート	両極石器	2.90	1.70	0.80	4.61		
第167図95	F	D5-15	0011	II層	チャート	両極石器	1.60	2.15	0.25	1.29		
第167図96	F	D5-20	0002	III層	チャート	両極石器	2.90	2.20	0.60	4.58		
第167図97	F	D5-04	0007		ホルンフェルス	剥片(外皮部)	2.40	3.05	0.60	5.49		
第167図98	F	D5-02	0001	II層一括	安山岩	両極石器	2.25	1.90	0.60	2.16		
第174図2	F	D5-12	0010		砂岩	扁平円礫片	1.88	3.38	0.74	6.40		
第174図4	F	D5-01	0001	II層	砂岩	扁平円礫	7.30	3.35	1.40	52.32		
第169図1	G	E4-00	0003	IIc層	黒曜石	石鏝(完)	1.90	1.80	0.27	0.56		
第169図2	G	D2-99	0002	II層東西ベルト内	黒曜石	石鏝(欠)	2.40	1.10	0.20	0.58		プレNo8へ
第169図3	G	E3-82	0005	IIc層	黒曜石	石鏝(欠)	1.40	1.30	0.20	0.30		
第169図4	G	E3-91	0004	II層	黒曜石	石鏝(欠)	2.03	2.25	0.28	1.27		
第169図5	G	E3-91	0002	II層	黒曜石	石鏝(欠)	1.28	0.97	0.20	0.32		
第169図6	G	E3-20	0006		黒曜石	石鏝(欠)	1.57	1.20	0.20	0.43		
第169図7	G	E3-81	0006	II層	黒曜石	石鏝(欠)	2.10	1.10	0.20	0.46		
第169図8	G	E3-30	0003		黒曜石	削器	2.52	2.08	0.60	3.00		
第169図9	G	E3-31	0003		黒曜石	搔器?	2.70	3.65	0.90	13.16		
第169図10	G	E3-20	0002	II~III層	黒曜石	剥片				4.45	接43	
第169図10	G	E3-20	0005		黒曜石	剥片				5.39	接43	
第169図11	G	E3-20	0017		黒曜石	搔器	2.60	4.20	0.95	10.56		
第169図12	G	E3-90	0002	II層	黒曜石	剥片	4.20	3.80	1.65	22.98		
第169図13	G	E3-81	0010	II層	黒曜石	剥片	4.10	2.90	1.75	22.16		
第169図14	G	E3-92	0001	IIc層	黒曜石	剥片(外皮部)	3.53	2.40	1.15	10.99		
第169図15	G	E3-81	0002	II層	黒曜石	剥片	3.07	2.70	0.80	8.08		
第169図16	G	E3-90	0003	II層	黒曜石	剥片	3.10	3.65	0.70	8.64		
第170図17	G	E3-80	0003	II層	黒曜石	剥片	3.40	2.20	0.37	3.51		
第170図18	G	E3-91	0007	II層	黒曜石	剥片	2.65	2.80	0.50	3.44		
第170図19	G	E3-81	0004	II層	黒曜石	剥片(半欠)	2.60	2.70	0.50	2.23		
第170図20	G	E3-90	0004	II層	黒曜石	剥片(小形)	2.40	1.75	0.45	2.21		
第170図21	G	E3-80	0005	II層	黒曜石	剥片(小形)	2.03	2.77	0.23	0.87		
第170図22	G	E3-91	0009	II層	黒曜石	剥片(小形)	1.75	2.10	0.37	1.18		
第170図23	G	E3-82	0004	IIc層	黒曜石	砕片	1.23	0.67	0.12	0.14		
第170図24	G	E4-01	0001	IIc層	黒曜石	砕片	1.35	0.83	0.13	0.19		
第170図25	G	E3-21	0003		黒曜石	砕片				1.67	接45	
第170図25	G	E3-20	0007		黒曜石	剥片				5.24	接45	
第170図26	G	E3-20	0010		黒曜石	剥片				6.61	接46	
第170図26	G	E3-21	0002		黒曜石	剥片				6.40	接46	
第170図27	G	E3-91	0006	II層	黒曜石	剥片	3.75	2.10	0.60	6.98		
第170図28	G	E3-81	0005	II層	黒曜石	剥片(半欠)	3.50	3.20	0.90	9.37		
第170図29	G	E3-81	0001	II層	黒曜石	剥片(半欠)				2.81	接44	
第170図29	G	E3-90	0001	II層	黒曜石	剥片(半欠)				2.83	接44	
第170図30	G	E3-71	0001	II層	黒曜石	剥片	2.40	2.40	0.55	6.02		
第170図31	G	E3-21	0007		黒曜石	剥片(小形)	1.60	2.10	0.40	1.46		
第170図32	G	E3-20	0015		黒曜石	石核(外皮部)	2.90	3.60	1.65	17.66		
第174図5	G	E3-90	0008	II層東西ベルト内	硬砂岩	磨石?	5.80	4.90	4.45	179.32		

第15表 縄文時代早期 Aプロック石器・石材別数量・重量表

種別	黒曜石 数量	黒曜石 重量g	チャート 数量	チャート 重量g	メノウ 数量	メノウ 重量g	頁岩 数量	頁岩 重量g	安山岩 数量	安山岩 重量g	砂岩 数量	砂岩 重量g	流紋岩 数量	流紋岩 重量g	ホウクリス 数量	ホウクリス 重量g	不明 数量	不明 重量g	その他 数量	その他 重量g	計 数量	計 重量g
石核・原石類	2	45.31																			2	45.31
石鏃・未製品	9	3.95	1	0.39			1	1.11													11	5.45
石器・削器類	2	13.83																			2	13.83
剥片 (外皮部)	4	12.48	1	7.56					1	9.71					1	6.28					7	36.03
剥片	43	106.68							2	34.15	1	0.27									46	141.2
剥片 (外皮部)	3	2.33																			3	2.33
剥片	111	20.25	4	0.83	1	3.22			3	1.21							1	0.84			120	26.35
礫・片礫類									1	38.00	2	83.44	1	71.69			2	18.70	1	4.86	7	216.69
石斧・磨盤石											2	4.89									2	4.89
阿蘇石器																					0	0
その他			1	0.62																	1	0.62
計	174	204.83	7	9.4	1	3.22	1	1.11	7	83.07	5	88.5	1	71.69	1	6.28	3	19.54	1	4.86	201	492.5
比率	86.6%	41.6%	3.5%	1.9%	0.5%	0.7%	0.5%	0.2%	3.5%	16.9%	2.5%	18.0%	0.5%	14.6%	1.3%	1.5%	4.0%	0.5%	1.0%			

第16表 縄文時代早期 Bプロック石器・石材別数量・重量表

種別	黒曜石 数量	黒曜石 重量g	チャート 数量	チャート 重量g	メノウ 数量	メノウ 重量g	頁岩 数量	頁岩 重量g	安山岩 数量	安山岩 重量g	砂岩 数量	砂岩 重量g	流紋岩 数量	流紋岩 重量g	ホウクリス 数量	ホウクリス 重量g	不明 数量	不明 重量g	その他 数量	その他 重量g	計 数量	計 重量g
石核・原石類	12	156.65					1	56.38													13	213.03
石鏃・未製品	31	23.76	2	3.04			1	0.50	2	2.88											36	30.18
石器・削器類	1	11.06																			1	11.06
剥片 (外皮部)	35	153.77	1	5.07																	36	158.84
剥片	139	413.01																			139	413.01
剥片 (外皮部)	36	33.67																			36	33.67
剥片	630	163.96	3	0.72	2	1.56			2	0.90	2	1.41					4	1.53			643	170.08
礫・片礫類											1	12.35					1	28.06	1	385.00	1	395
石斧・磨盤石																					0	0
阿蘇石器																					0	0
その他																					0	0
計	884	955.88	6	8.83	2	1.56	2	56.88	4	3.78	3	13.76	0	0	0	0.0%	5	29.59	1	395	907	1465.28
比率	97.5%	65.2%	0.7%	0.6%	0.2%	0.1%	0.2%	3.9%	0.4%	0.3%	0.3%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.0%	0.1%	27.0%			

第17表 縄文時代早期 Cプロック石器・石材別数量・重量表

種別	黒曜石 数量	黒曜石 重量g	チャート 数量	チャート 重量g	メノウ 数量	メノウ 重量g	頁岩 数量	頁岩 重量g	安山岩 数量	安山岩 重量g	砂岩 数量	砂岩 重量g	流紋岩 数量	流紋岩 重量g	ホウクリス 数量	ホウクリス 重量g	不明 数量	不明 重量g	その他 数量	その他 重量g	計 数量	計 重量g
石核・原石類																					0	0
石鏃・未製品	9	8.78	3	1.62																	12	10.4
石器・削器類	2	11.84					1	14.75													3	26.59
剥片 (外皮部)	10	39.92							4	27.70											14	66.62
剥片	42	116.68	1	2.33					6	103.85	1	8.37							3	61.29	53	292.52
剥片 (外皮部)	8	5.75																			8	5.75
剥片	250	51.16	4	3.49	1	0.35			3	1.04									3	1.84	261	57.88
礫・片礫類									1	21.09	13	240.40					1	142.61	15	478.25	33	887.08
石斧・磨盤石																			2	426.92	2	426.92
阿蘇石器																					3	26.68
その他																					1	416
計	321	233.13	13	37.09	2	1.11	1	14.75	15	488.68	14	248.77	0	0	0	0	1	142.61	24	972.46	391	2138.6
比率	82.1%	10.9%	3.3%	1.7%	0.5%	0.1%	0.3%	0.7%	3.8%	22.9%	3.6%	11.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	6.7%	6.1%	45.5%			

第18表 縄文時代早期 Dブロック石器・石材別数量・重量表

種別	黒曜石 数量	黒曜石 重量g	チャート 数量	チャート 重量g	メノウ 数量	メノウ 重量g	頁岩 数量	頁岩 重量g	安山岩 数量	安山岩 重量g	砂岩 数量	砂岩 重量g	流紋岩 数量	流紋岩 重量g	ホコワカス 数量	ホコワカス 重量g	不明 数量	不明 重量g	その他 数量	その他 重量g	計 数量	計 重量g
石核・原石類	11	157.80															1	91.96			12	249.76
石鏃・未製品	26	18.19	6	7.80	1	2.08	1	0.27	3	4.47			2	1.93							39	34.74
掻器・削器類	1	21.86																			1	21.86
剥片(外皮部)	48	197.13					1	17.32													49	214.45
剥片	92	268.91	2	13.47	4	14.20			8	27.04							1	5.76	1	1.65	108	331.03
砕片(外皮部)	71	77.58			1	0.62						1	0.83								73	79.03
鏃・円鏃類	352	98.38			4	1.03			13	11.07	3	0.95					3	0.87	3	18.54	378	130.84
石斧・磨敵石			10	277.23					2	44.52	7	269.06					7	279.83	16	961.26	42	1831.9
阿蘇石器			1	187.63							3	788.71					1	28.13	8	2609.17	13	3613.64
その他			3	19.32					3	12.84											6	1
計	601	839.85	22	505.45	10	17.83	2	17.59	30	103.86	14	1059.55	2	1.93	0	0	13	406.55	29	3593.15	723	6545.86
比率	83.1%	12.8%	3.0%	7.7%	1.4%	0.3%	0.3%	0.3%	4.1%	1.6%	1.9%	16.2%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	2%	6%	4.0%	54.9%		

第19表 縄文時代早期 Eブロック石器・石材別数量・重量表

種別	黒曜石 数量	黒曜石 重量g	チャート 数量	チャート 重量g	メノウ 数量	メノウ 重量g	頁岩 数量	頁岩 重量g	安山岩 数量	安山岩 重量g	砂岩 数量	砂岩 重量g	流紋岩 数量	流紋岩 重量g	ホコワカス 数量	ホコワカス 重量g	不明 数量	不明 重量g	その他 数量	その他 重量g	計 数量	計 重量g
石核・原石類	2	20.67																			2	20.67
石鏃・未製品	17	9.30	3	2.85					4	5.49											24	17.64
掻器・削器類	22	69.84	3	17.34																	25	87.18
剥片(外皮部)	24	60.58					1	1.16							6	16.65					31	78.39
剥片	25	24.03	3	1.92							2	0.31							1	2.13	28	25.95
砕片	133	30.77	4	4.63	2	0.6					1	38.49						4	30.31	6	168.71	
鏃・円鏃類			1	99.91							1	97.56							1	236.03	2	333.59
石斧・磨敵石											1	13.24									4	21.65
阿蘇石器	2	1.35					1	7.06													0	0
その他																					0	0
計	225	216.54	14	126.65	2	0.6	2	8.22	4	5.49	5	149.6	0	0	6	16.65	0	0	6	268.47	264	792.22
比率	85.2%	27.3%	5.3%	16.0%	0.8%	0.1%	0.8%	1.0%	1.5%	0.7%	1.9%	18.9%	0.0%	0.0%	2.3%	2.1%	0.0%	0.0%	2.3%	33.9%		

第20表 縄文時代早期 Fブロック石器・石材別数量・重量表

種別	黒曜石 数量	黒曜石 重量g	チャート 数量	チャート 重量g	メノウ 数量	メノウ 重量g	頁岩 数量	頁岩 重量g	安山岩 数量	安山岩 重量g	砂岩 数量	砂岩 重量g	流紋岩 数量	流紋岩 重量g	ホコワカス 数量	ホコワカス 重量g	不明 数量	不明 重量g	その他 数量	その他 重量g	計 数量	計 重量g
石核・原石類	12	244.08																			12	244.08
石鏃・未製品	20	16.54	2	1.08					1	1.26											23	18.88
掻器・削器類	5	36.00																			5	36
剥片(外皮部)	50	307.23	1																1	6.13	52	313.36
剥片	46	208.42	3	18.03					2	2.30					1	3.28			1	3.87	53	235.9
砕片(外皮部)	42	45.29	2	0.24					1	14.06											45	59.59
砕片	300	61.70	6	4.19	1	0.51			5	4.09				1	0.47			1	0.53	314	71.49	
鏃・円鏃類			3	123.74					3	375.88	16	706.85					3	96.42	12	1078.22	37	2381.11
石斧・磨敵石																					0	0
阿蘇石器			4	12.83					1	2.16											5	14.99
その他																					0	0
計	475	919.26	21	160.11	1	0.51	0	0	13	399.75	16	706.85	0	0	2	3.75	3	96.42	15	1088.75	546	3375.4
比率	87.0%	27.2%	3.8%	4.7%	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	2.4%	11.8%	2.9%	20.9%	0.0%	0.0%	0.4%	0.1%	0.5%	2.9%	2.7%	32.3%		

第21表 縄文時代早期 Gブロック石器・石材別数量・重量表

種別	黒曜石 数量	黒曜石 重量g	チャート 数量	チャート 重量g	メノウ 数量	メノウ 重量g	頁岩 数量	頁岩 重量g	安山岩 数量	安山岩 重量g	砂岩 数量	砂岩 重量g	流紋岩 数量	流紋岩 重量g	結片 数量	結片 重量g	不明 数量	不明 重量g	その他 数量	その他 重量g	計 数量	計 重量g
石核・原石類	1	17.66																			1	17.66
石鏃・未製品	7	3.92																			7	3.92
石器・削器類	3	26.72																			3	26.72
剥片 (外皮部)	2	12.60																			2	12.6
剥片	30	156.50																	1	17.89	31	174.39
砕片 (外皮部)	6	4.45																			6	4.45
砕片	40	20.97																			40	20.97
礫・円礫類									1	10.86							1	77.67	1	2.84	3	91.37
石斧・磨蔵石																			1	179.32	1	179.32
阿曇石器																					0	0
その他																					0	0
計	89	242.82	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	10.86	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	77.67	3	200.05	94	531.4
比率	94.7%	45.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%	2.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%	14.6%	3.2%	37.6%		

第4章 まとめ

第1節 旧石器時代

一 鎌田甚兵衛山南遺跡（空港No.12遺跡）では、立川ローム層中から石器集中1～9の9ブロックが検出されている。

第1地点はⅣ～Ⅴ層にかけて検出されたブロックで、肉眼観察でオリーブ色に近い嶺岡産の珪質頁岩と思われる同一母岩に近い資料のみで構成されたナイフ形石器、剥片、碎片併せて5点の零細な規模の内容のものである。接合資料もなくこの場所に近接して剥片剥離や石器製作等が行われた可能性も低い。あるいはそうした地点からの搬出されたものの一部かもしれない。

第2地点はⅣ～Ⅴ層にかけて検出された総点数124点のブロックで、安山岩Aが99点で主体を占める。接合資料や碎片の多さから安山岩Aを主要な石材として主に剥片剥離作業をこの場所で行い、廃棄されたということが判る。補完石材として他の安山岩Bなどが使用されたと考えられる。なお、頁岩は分布範囲がやや西よりに位置するため時間差がある可能性が高い。また、時期的には近いブロックである第1地点とは相互の関連性は乏しい。

第3地点はⅢ～Ⅳ層にかけて検出された総点数11点のブロックで、石材は安山岩Aが6点、チャート2点、蛇紋岩2点、砂岩1点で構成されている。石器類は尖頭器が1点で他は剥片、礫という構成である。早期の包含層の遺物を整理抽出した際に確認されたものなのでどういう形でブロックを形成していたかは全く不明と言わざるを得ない。

第4地点はⅦ～Ⅸ層にかけて検出された総点数11点のブロックで、点数の割に石材構成、石器構成とも多様である。敲石が含まれること、東北系頁岩の刃器状剥片（緻密で焦げ茶色の珪質頁岩）などがあり居住空間に比較的近い場所である可能性もある。

第5地点はⅢ層で3点、Ⅶ層で2点検出されて総点数5点のブロックである。Ⅲ層は黒曜石2点、メノウ1点で構成されており、殆ど短期間の行動の痕跡としか言いようがない内容である。Ⅶ層は安山岩Aの剥片2点で、道具として持ち歩いた物の一部である可能性も考えられる。

第6地点はⅥ層に主体がある総点数44点のブロックで、石材はホルンフェルスが32点とその主要部分を占める。石器として使用された剥片を含めこの場所で使用されたと思われる石器類は少なく、逆に石核や接合資料となる剥片や碎片類が多くを占める。この場所ではホルンフェルスでの剥片剥離作業が比較的短時間のうちに行われていたと思われる。他の石材については殆ど短期間の行動の痕跡としかいいようがないようである。

第7地点はⅦ～Ⅸ層にかけて検出された総点数52点のブロックである。石英及びチャート等を主要な石材としているブロックで敲石と石斧を構成要素として内包している。石英及びチャート等の剥片剥離作業と生活空間に関連した石器等を併せ持つブロックということが可能である。第4地点と時間的には近い時期のものではあるが、石材等の類似性はなく接合関係も見られないため時間差があるのかもしれない。

第8地点はⅦ～Ⅸ層にかけて検出された総点数5点のブロックである。5点のうち4点は嶺岡産の珪質頁岩で、残り1点は東北系頁岩である。これらは短期間の行動の痕跡としかいいようがないようである。

第9地点はⅦ～Ⅸ層にかけて検出された総点数60点のブロックである。安山岩Aがそれらの石材の主体を占める。安山岩Aの剥片等は南北2か所の分布範囲両方に接合関係が見られることから一体のものとして考えられる。また補完的石材のチャートは北側の分布範囲に接合関係も留まることから時間差が多少あることも考えられる。

いずれの石器のブロックも比較的小規模で接合関係もあまり煩雑でないことから考えるとどれも比較的短期間で形成されていったものであろうことが推測される。いずれも小規模で短期間の単一な活動結果に基づいて残されたものである可能性が高い。この場所が専ら狩猟採集の場であったことを物語っているのかもしれない。

なお、第8地点と第9地点のブロックは以前、一畝田甚兵衛山西遺跡（空港No.16遺跡）¹⁾の報告書の中で石器集中1（X層）との関連性が指摘されている。

注1 永塚俊司他 2001 「新東京国際空港埋蔵文化財調査報告書XIV—一畝田甚兵衛山西遺跡(空港No.16遺跡)—」
千葉県文化財センター

第2節 縄文時代

縄文時代に関連した遺構は陥穴13基と土坑1基が検出されている。いずれも台地上の南側に平坦面か緩斜面に沿ってやや散漫に検出されている。覆土中から早期～前期にかけての土器片や石器類が検出されていることから判断すると早期の早い時期に狩猟場として機能していたことが考えられる。早期末の条痕文系の土器が全く皆無であることも特徴的である。

遺物は包含層の調査で草創期～中期までの土器片、石器類が多量に出土している。

草創期は調査区の関係から北側の大グリッドのC1グリッドを中心に土器は第I群土器(隆起線文土器)が100点余り出土している。(第35図参照) C1-13～C1-58グリッド付近に広く拡散している。特にC1-26・27グリッド付近に多く検出されている。一方石器類はC1-13～C1-48グリッド付近に広く拡散している。特にC1-26グリッドでは密集している状況が見られるためこれらの土器群と石器群は伴うものとして考えても良いと思われる。もっとも主要な石材である安山岩AはC1-14～16・24～26グリッドを密集範囲にして接合関係も煩雑である。有舌尖頭器の折断されたもの、または製作途中で廃棄されたもの等もこのあたりに多く見られるようである。また尖頭器製作に伴う碎片等もこの範囲に集中して検出されていることから、尖頭器製作の場所であることは間違いないと思われる。補完石材である安山岩B(トロ)やチャート、ホルンフェルス等も多少のずれはあるものの似たような場所で同じ様な行動を行っていたことが考えられる。この場所に限定して考えてみると石器製作を行って周辺へ供給していたことが考えられる。特に有舌尖頭器等をみるとそのことが顕著ではある。どのくらいの期間そうした関係があったかは不明であるが、この場所への石材の供給の問題と絡めて非常に興味深い問題を提示していると思われる。明らかな定住性がうかがわれないことからどのような生産形態であったかはよく判らない。間歇的に生産と移動を繰り返し行っていたのではないかと考えられる。

早期の第II群土器(撚糸文系)は大グリッドのC1～C3, D1～D3, E1～E3グリッドを中心に2,113点出土している。(第36図参照) 台地の北側から北東部分に特に密集し、さらに南東部分にかけてもやや密集している部分が認められる。特にC1-26・36・38・56グリッド付近, D1-62・72・73・83・93グリッド付近,

D2-00・02・10・12・13・18・20～22・27・30・33・40・42・46・57グリッド付近、D4-07グリッド付近に小グリッド単位で20点以上検出された箇所が認められる。また後でも詳しく触れるが、この時期の土器群に呼応して早期のA～Gブロックまでの石器群が分布しているようにも思われる。

早期の第Ⅲ群土器（三戸式）は大グリッドのC1～C4・D1～D4・E3グリッドに散漫に検出され総数76点出土している。（第37図参照）台地の北側と東南部分に散漫に出土している場所があるため大規模な生産活動の場でなくなった可能性がある。早期の陥穴等の遺構はこの時期に作られて台地全体が狩猟場として機能していったのかもしれない。

早期の第Ⅲ群土器（田戸下層）は大グリッドのB1・B3・C1～C5・D1～D5・E1～E4グリッドを中心に1,579点出土している。（第38図参照）台地の北側から北東部分に特に密集し、さらに南東から南側の台地の縁辺を巻くように分布している。特にC1-35・44・45・52・54グリッド付近、D1-61・62・70～72・82・83・92・93グリッド付近、D2-00・10・12・20・21グリッド付近、D3-91グリッド付近に小グリッド単位で20点以上検出された箇所が認められる。土器片から見るとこの時期に台地上では活動の痕跡が最大となるようである。早期のA～Gブロックまでの石器群が分布していた範囲と重なるため石器群の一部がこの時期の可能性も高い。

早期の第Ⅲ群土器（田戸上層）は大グリッドのB1・C1～C5・D1～D5グリッドを中心に248点出土している。（第39図参照）台地の東側では殆ど見られず、北側と南東側に偏って分布している。特にD5-21グリッド付近で50点検出されているのが目を引く。通常この後に続く条痕文系土器がこの台地上で全く残されていないため周辺地域へ移動してしまったのかもしれない。

前期前半の第Ⅳ群土器（黒浜・関山式）は大グリッドのC1～C5・D1～D5・E1～E4グリッドを中心に1,510点出土している。（第40図参照）台地の北側から北東部分に特に集中し、さらに南東から南側の台地の縁辺に分布している。特にC1-26・27・35・36・44・45・54グリッド付近、D1-82グリッド付近、D2-12・13・22グリッド付近、D3-98グリッド付近、D4-74・83・84・92・93・95グリッド付近に小グリッド単位で20点以上検出された箇所が認められる。土器片から見ると田戸下層の時期とほぼ同じ範囲で似たような内容で活動していたのかもしれないがそれ以上のことは判らない。

前期後半の第Ⅴ群土器（諸磯・浮島式を主体とする）は大グリッドのB3・C1～C5・D1～D5・E2～E4グリッドを中心に507点出土している。（第41図参照）台地の北東部にやや集中部分があり、あとはやや分散するように検出されている。特にC1-41グリッド付近、C4-00グリッド付近、D1-62グリッド付近、D2-12グリッド付近、E2-00グリッド付近に小グリッド単位20点以上検出された箇所が認められる。多く検出された箇所が数カ所認められるが、同時期により点在したと考えられるだけではなく時間差を考慮して少しずつ移動していった可能性も併せて考えた方がいいかもしれない。

中期の第Ⅵ群土器（阿玉台～加曾利E式）は大グリッドのC1・D2・D3・D5・E1グリッドを中心に86点出土している。（第42図参照）台地の北部にやや多く検出されていて後は少量検出されている程度である。北の部分で若干の活動の痕跡が認められるが、他は殆ど空白地帯と考えた方がよさそうである。この時期より後はこの台地上での活動は殆ど認められなくなるようである。

縄文時代早期の石器群の全体の細かい成立時期は確定できないが、早期初頭の擦糸文系土器の時期か田戸下層あたりと考えてよさそうである。

Aブロック（第132図参照）は総点数201点で、大きくはB3-37グリッド付近の径5 m程の黒曜石を主体

とする北東支群とB3-54・55グリッド付近の径10m程の黒曜石を主体とする南西支群とB3-84グリッド付近の黒曜石と他の石材が混在する南支群の3個に別れる。北東支群と南西支群とは中間部分に接合する剥片も幾つか見られ緩やかな共有関係が認められる。南支群についてはやや離れていて点数も少なく特に石材が異なる部分ではあまり結びつきが強くないように思われる。石鏃の製作に伴う碎片や未製品の存在、削器や調整痕等のある剥片の存在などから考えると石鏃工房跡や近接して居住空間もあったと想定される。焼けた剥片、礫などの存在は炉のような構造物があったことも推測される。

Bブロック（第135図参照）は総点数907点で、大きくはC3-44・45グリッド付近を密集範囲としてその周辺部に5～10m程離れた形で小ブロックが取り巻く様に点在する北群とC3-90グリッドを中心に密集範囲が細長く北東から南西に繋がる様に形成されている南群に別れている。北側の中心部分では煩雑な接合関係が見られ石鏃等の製作工程の一断面を体現しているようである。北群では石器製作の場所を円形に移動させた結果、馬蹄形のように小ブロックが検出されたのかもしれない。石鏃の製作に伴う碎片や未製品の存在、削器や調整痕のある剥片の存在などから考えると石鏃工房跡や近接して居住空間もあったと想定される。焼けた碎片、礫などの存在は炉のような構造物があったことも推測される。北群と南群の検出状況の違いは接合関係などが存在しないためそのまま時間差などの異なる要因があるのかもしれない。

Cブロック（第143図参照）は総点数391点で、大きくは黒曜石を主体とするC4-08・09グリッドを中心とする径6mの密集範囲とD3-90・91グリッドを中心とする径6m程の密集範囲の間にやや粗く分布する範囲の2つの小ブロック、さらに黒曜石以外の石材で構成されるD4-04グリッド付近の密集範囲とD4-50グリッドを中心にやや散漫に分布する範囲の4つの小ブロックに別れる。北側の隣接してある黒曜石の2つの小ブロックでは石鏃製作の伴う碎片が多く見られることからこれらの場所では石鏃の素材作り、石鏃製作という工程で石鏃製作が行われていた場所である可能性が高い。対して南側のその他の石材の密集範囲は2箇所とも礫や大型の剥片で構成されており、どちらかという居住空間に近い部分であることが想像される。黒曜石で構成される北の2群とその他の石材でほぼ構成される南の2群は接合関係がないため時間差がある可能性がある。

Dブロック（第147図参照）は総点数723点で、大きくはD1-90・91グリッドを中心とする径10mの集中範囲（D-1群）、C2-46グリッドを中心に径6m程に密集する範囲（D-2群）、D3-32・41・42グリッドを中心とする径15m程の集中範囲（D-3群）、C2-78・79・88・98・99グリッドを中心にやや粗く分布する範囲（D-4群）の4つの小ブロックに別れる。各々同士の関係は接合関係などから判断すると独立性が強いと思われる。D-2群での点数の多さはこの場所で繰り返す作業量の多さに起因すると考えられる。点数は少ないものの礫や敲石などもあり、これらの場所で石鏃等の製作が行われていたことが想像される。

Eブロック（第156図参照）総点数264点で、大きくはD2-17・18・27・28グリッドを中心とする径10mの集中範囲、とD2-36・37・46・47グリッドを中心に径10m程に集中する範囲とそれ以外に2箇所の散在する範囲が認められる。また黒曜石以外の石材は全体にやや東よりに分布しているようである。黒曜石を主体とする石器類の小ブロックは全体に見ると南北に弧を描くように形成されている。個々の小ブロックの点数の多少はその場所での作業量の違いによって生じたものと思われる。少しずつ時間差があるのかもしれない。

Fブロック（第160図参照）総点数546点で、大きくはD4-84・85・94・95グリッドを中心とする径20m

の集中範囲とD5-12~14グリッドを中心に北東方向に5m幅で15m程の範囲に集中する部分とその周辺に散在する範囲が認められる。黒曜石以外の石材は全体にほぼまんべんなく分布しているようである。石鏃の製作に伴う碎片や未製品の存在、削器や調整痕等のある剥片の存在などから考えると石鏃工房跡や近接して居住空間もあったと想定される。北群と南群の検出状況の違いは接合関係などが存在しないためそのまま時間差などの異なる要因があるのかもしれない。南群はやや東西方向に細長く検出されているため作業場所の横への移動が考えられる。北群はそれ程大きく作業場所を移動していないようである。

Gブロック（第168図参照）総点数94点で、大きくはE3-20・21・30・31グリッドを中心とする径10mの集中範囲（北群）とE3-80・81・90・91グリッドを中心とする径10m程の範囲に集中する部分（南群）とその周辺に散在する範囲の2箇所に分れている。黒曜石以外の石材はそれらの範囲に散漫に分布しているようである。石鏃の製作に伴う碎片や未製品の存在、削器や調整痕のある剥片の存在などから考えると石鏃工房跡や近接して居住空間もあったと想定される。北群と南群の検出状況の違いは接合関係などが存在しないためそのまま時間差などの異なる要因があるのかもしれない。

こうして早期の石器群のブロックを概観すると見た目にやや大規模なブロックと小規模なブロックが見られる。中心部を持ちながら移動し、点在する小規模ブロックのあり方はどちらかと言うと定住的でない内容である。一方大規模なブロックも繰り返しながら近接した場所での作業を行った結果形成されたということであるから回帰性を暗示していると思われる。また、石核素材について特徴的なことは用いられた主要石材である黒曜石は板状の小角礫が主体であることが出土遺物から想像される。この場所まで素材の形で搬入され、石鏃等の製作を行い消費されるためにある程度選別されていたのかもしれない。

写 真 图 版



一 銀田甚兵衛山南遺跡の周辺地形 (昭和44年撮影)







旧石器時代第2地点ブロック (III~V層) C2-29グリッド付近



旧石器時代第4地点ブロック (VI~VII層) C1-55グリッド付近



旧石器時代第6地点ブロック (VI~VII層) B3-64グリッド付近







縄文時代早期C2-36・37グリッド付近Dブロック遺物出土状況



縄文時代早期C2-88・89・98・99グリッド付近Dブロック遺物出土状況



縄文時代早期D2-41・51グリッド付近Dブロック遺物出土状況



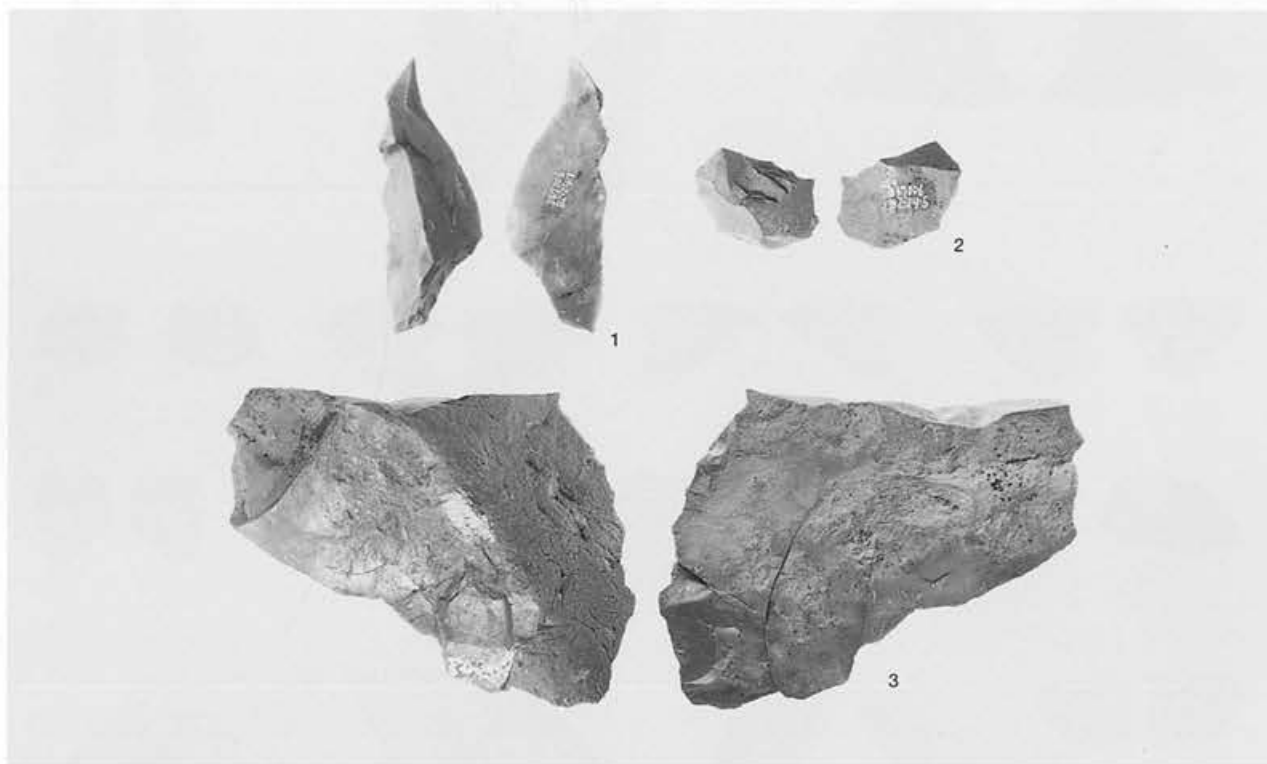
縄文時代早期D2-42・43・52・53グリッド付近Dブロック遺物出土状況



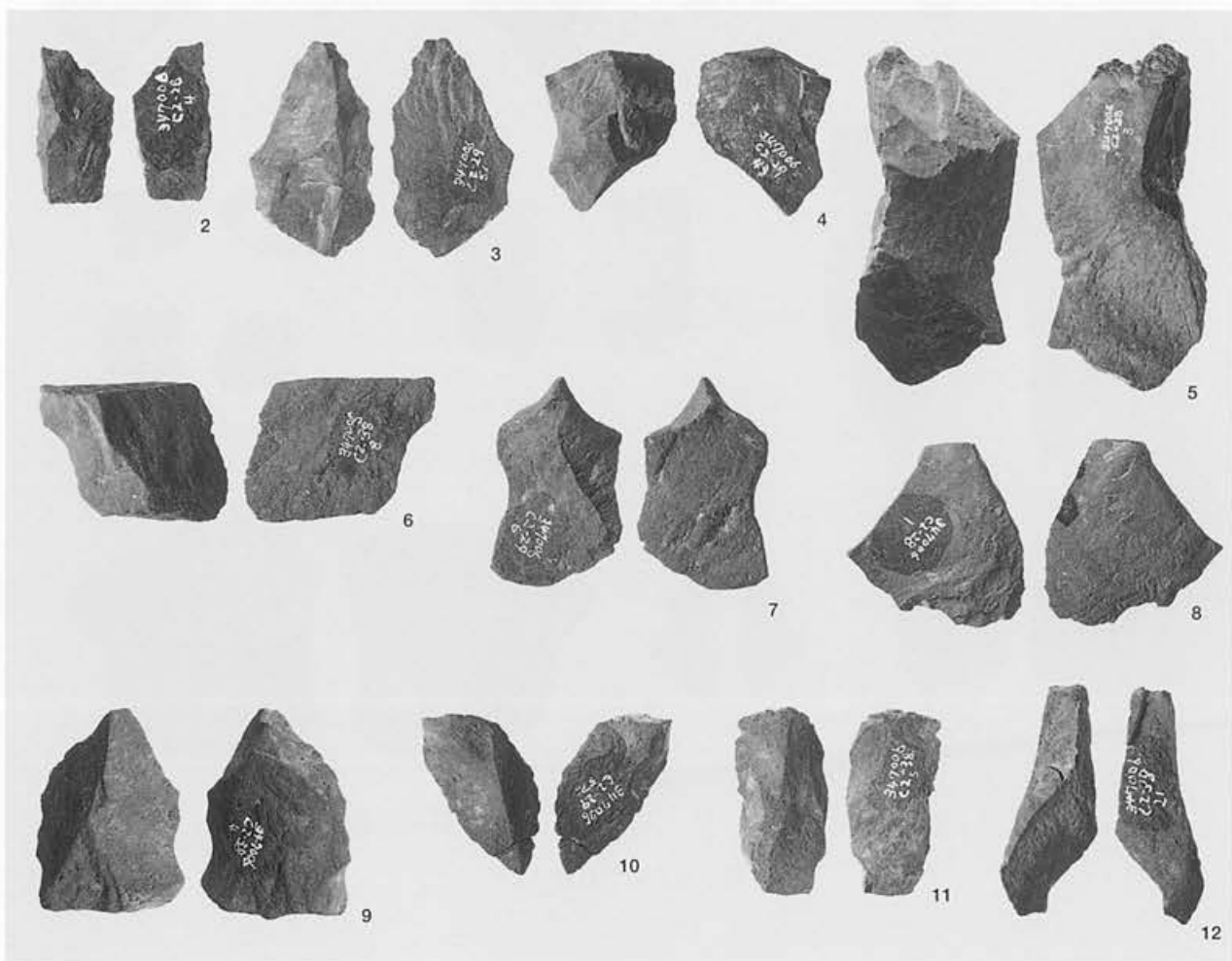
縄文時代早期D2-26・27・36・37グリッド付近Eブロック遺物出土状況



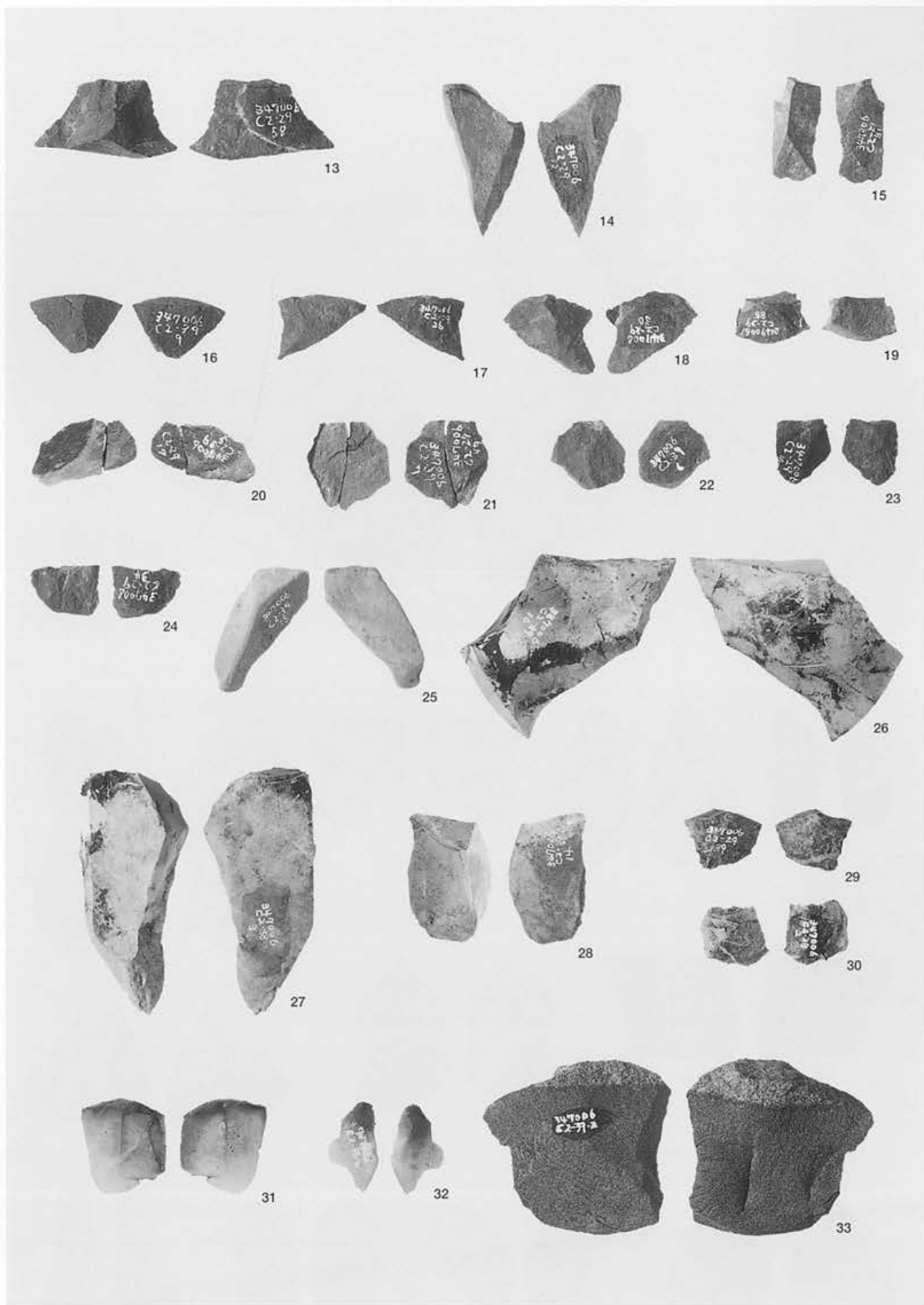
縄文時代早期D4-84・85・94・95グリッド付近Fブロック遺物出土状況



第1地点出土石器



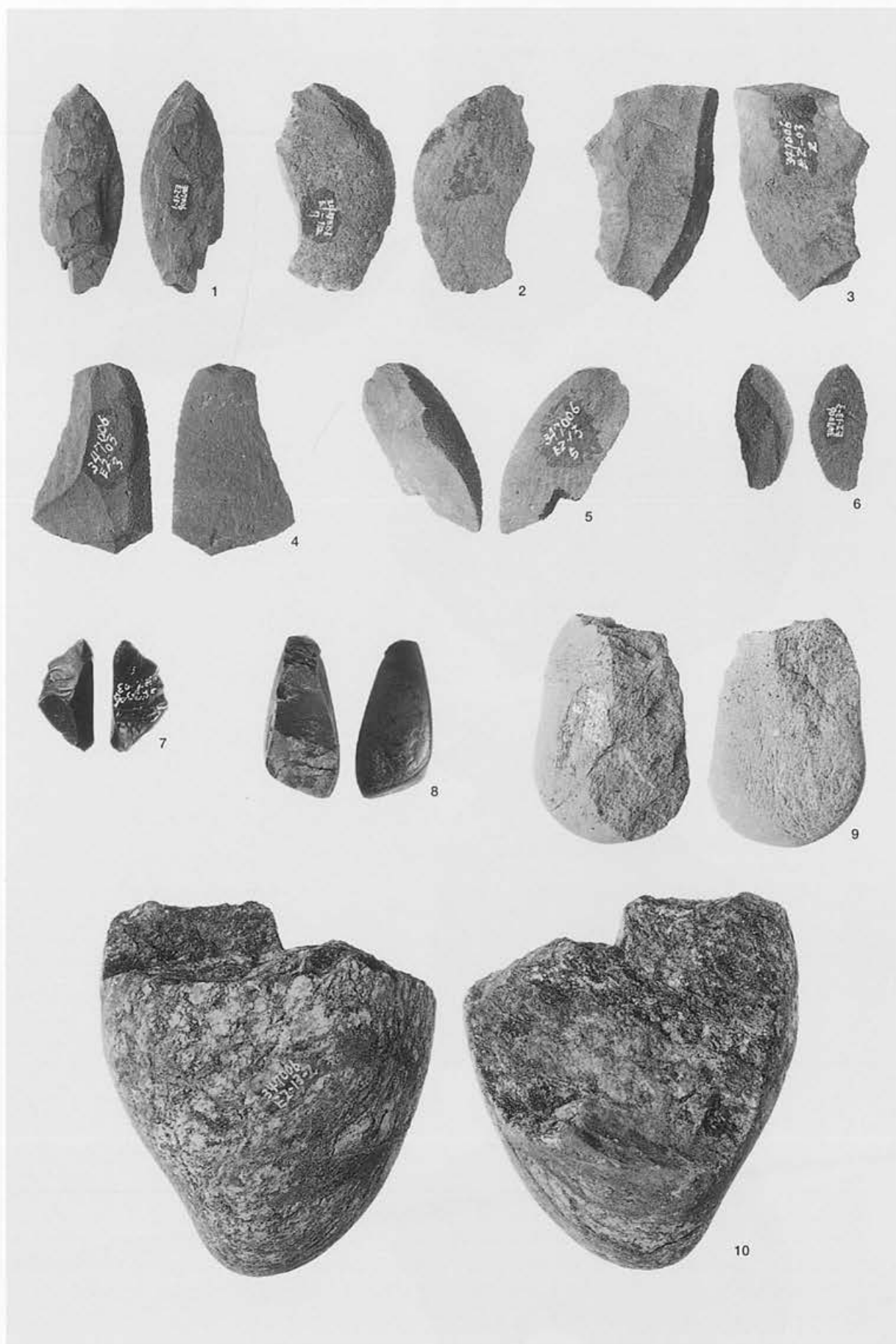
第2地点出土石器 (1)



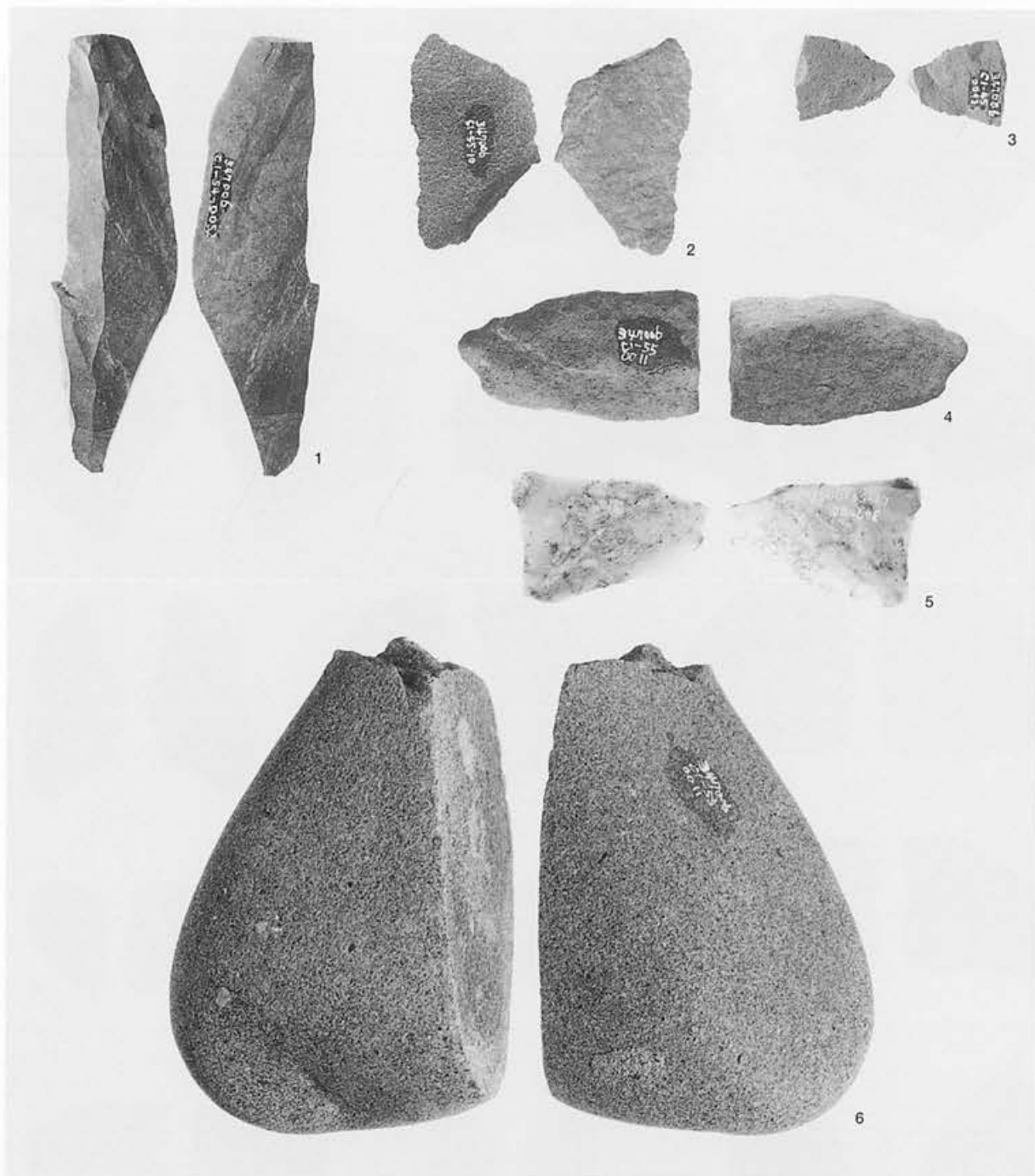
第2地点出土石器(2)



第2地点出土石器(3)



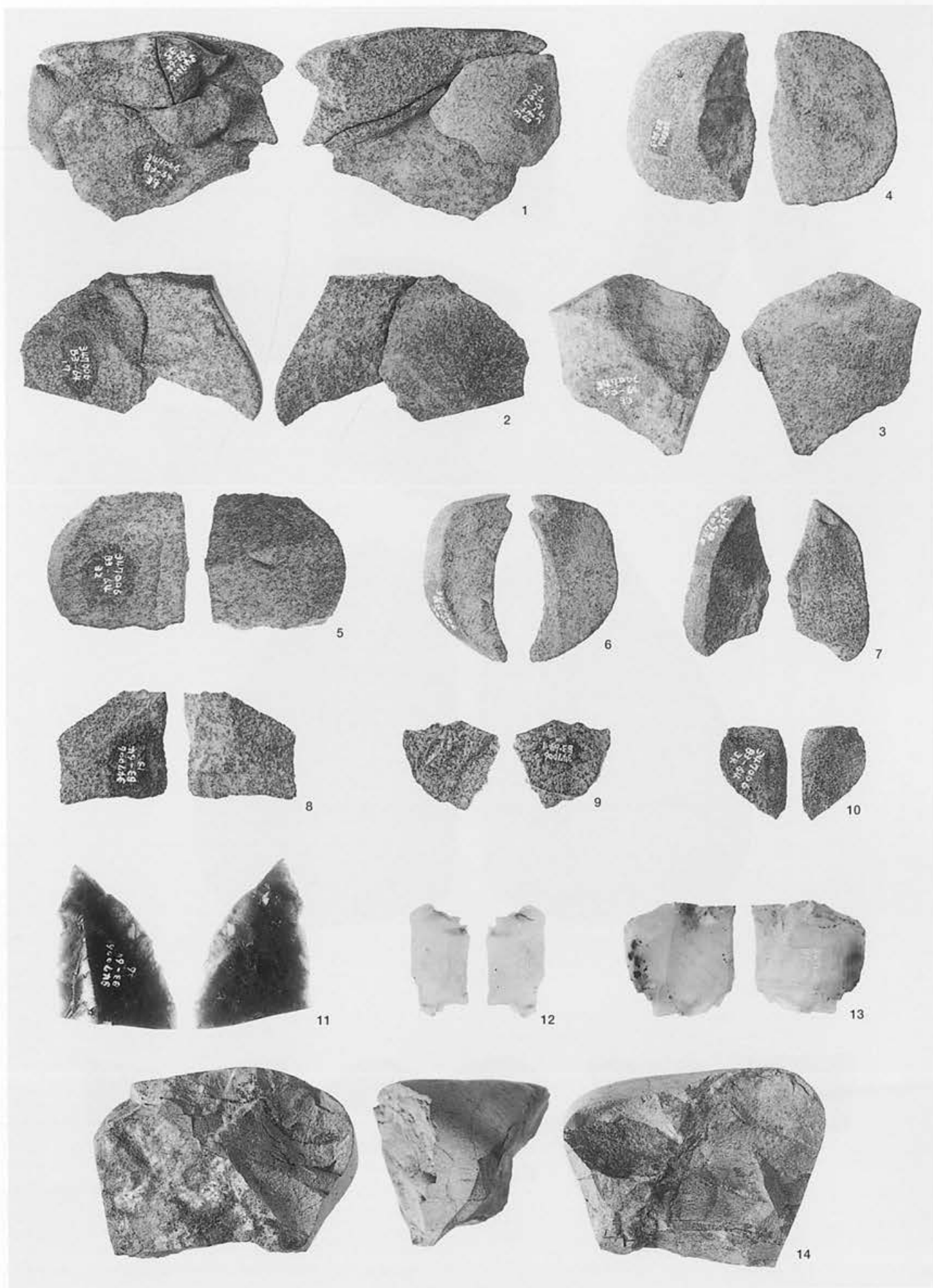
第3地点出土石器



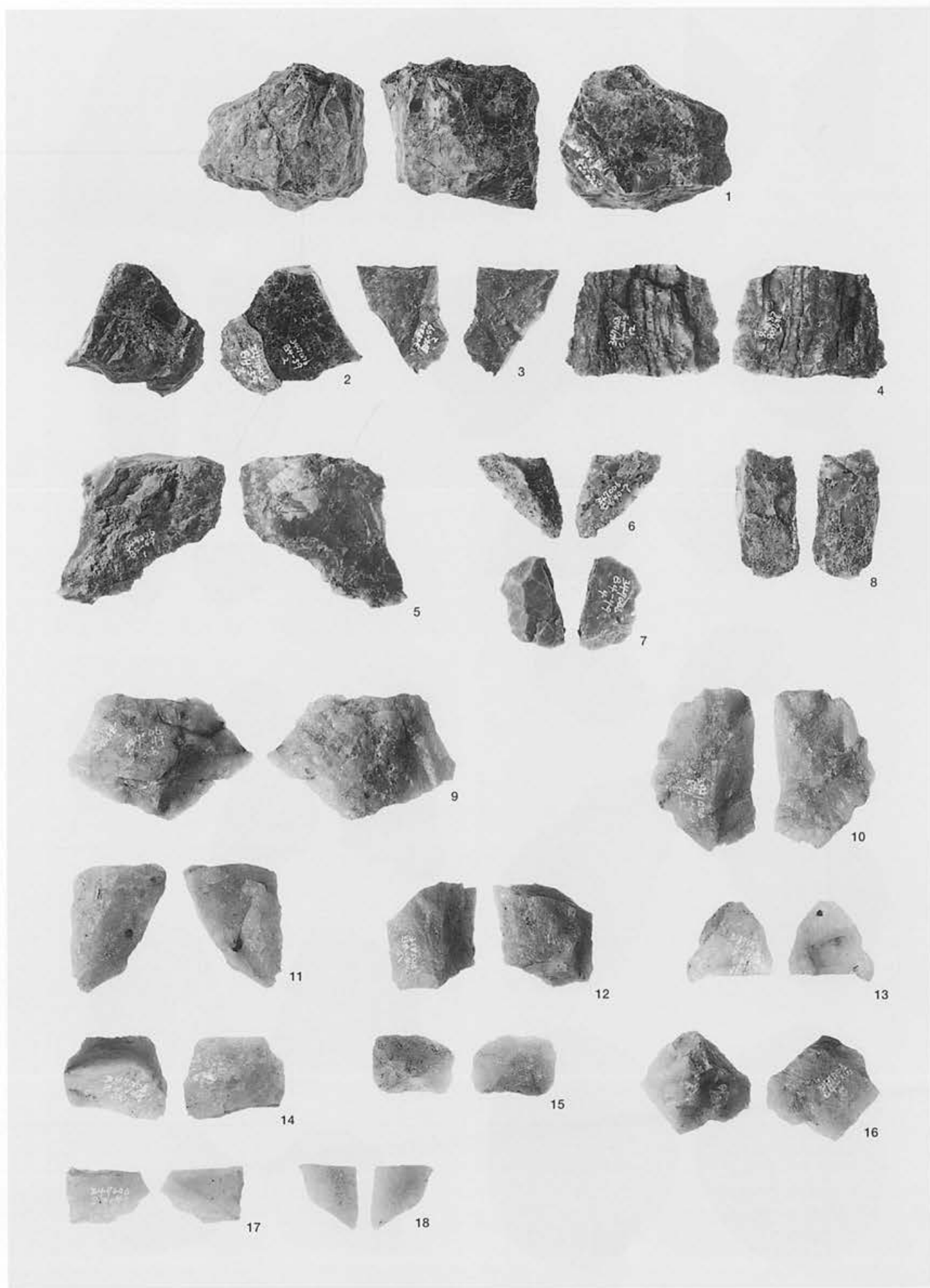
第4地点出土石器



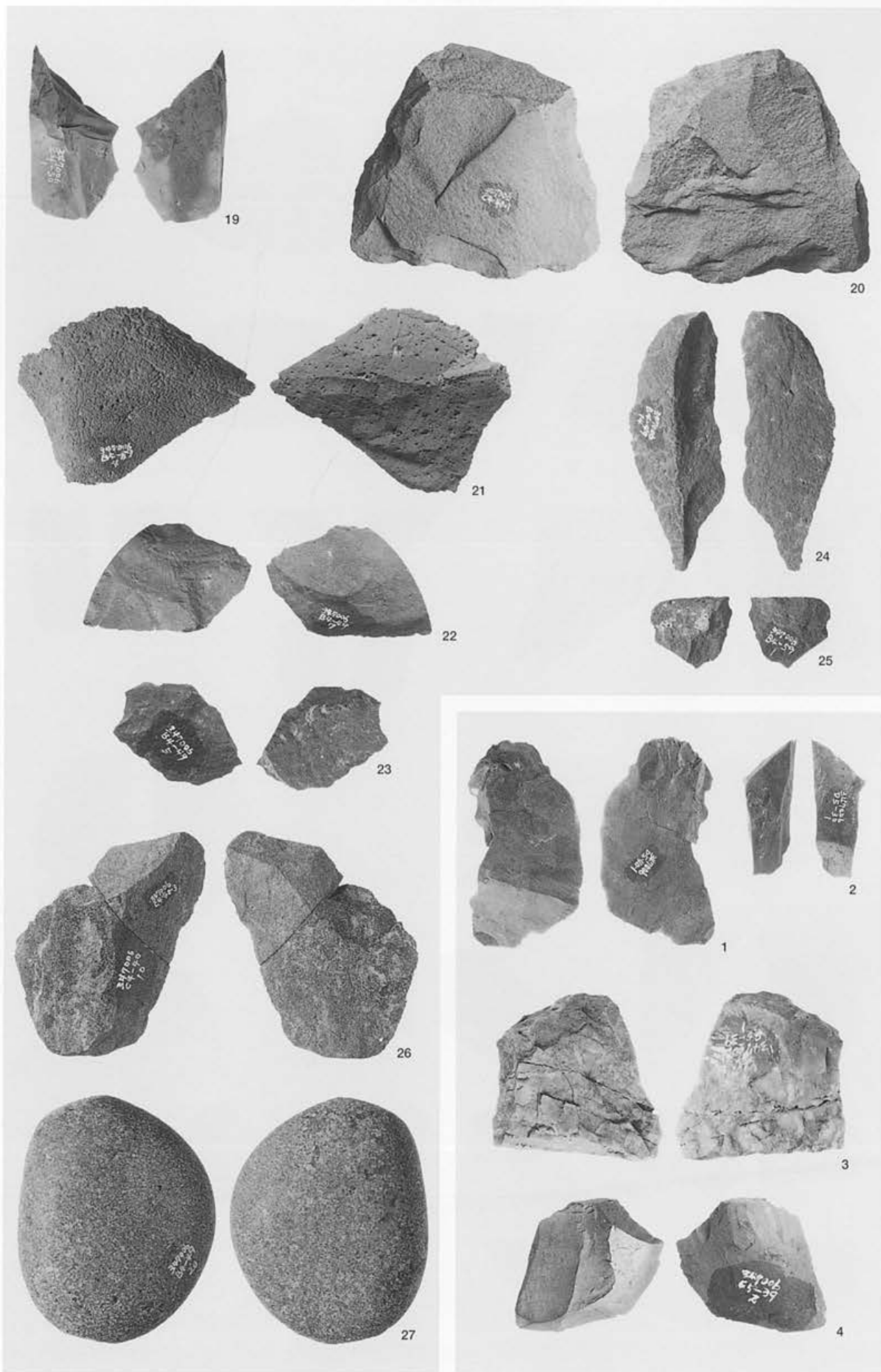
第5地点出土石器



第6地点出土石器

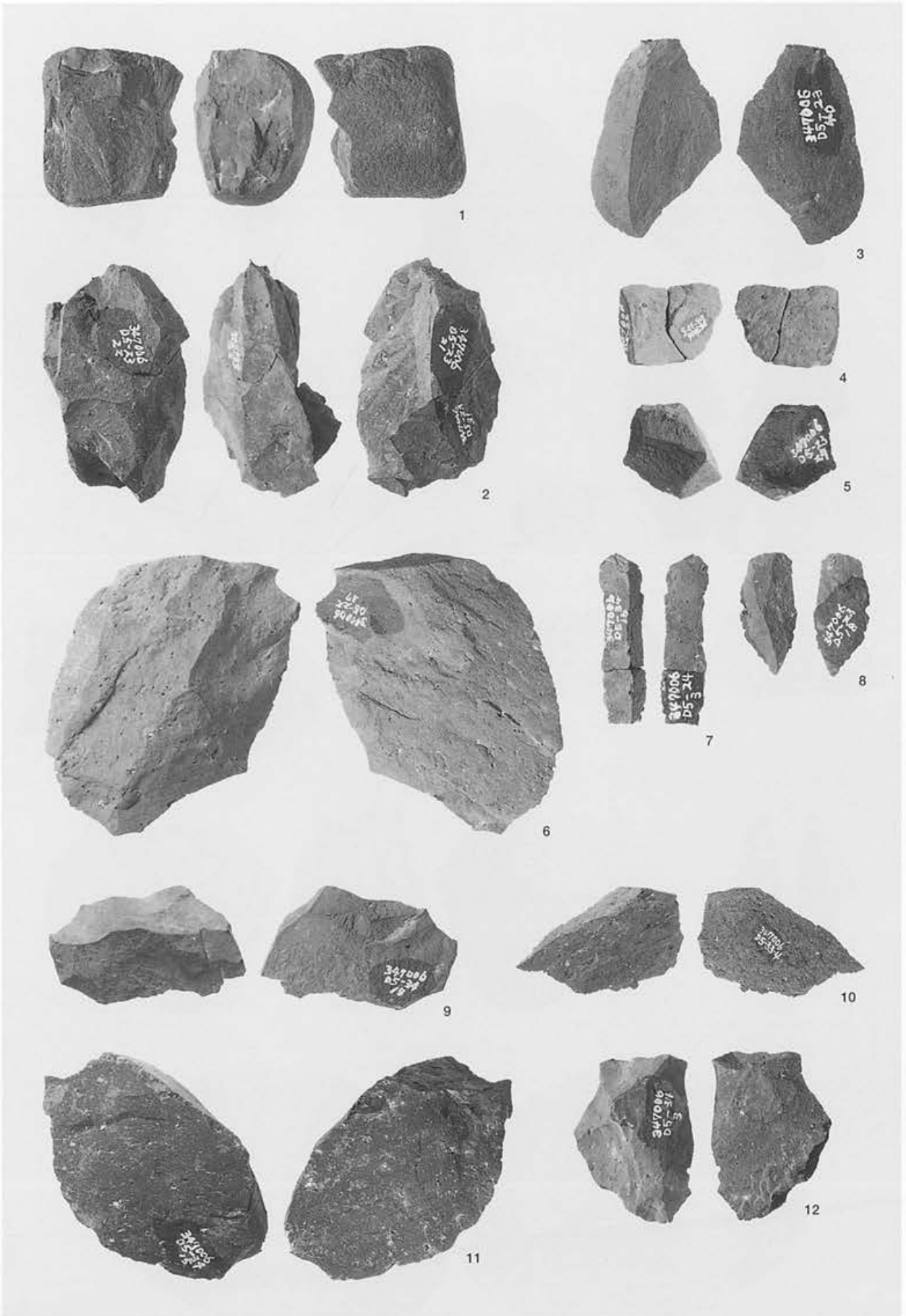


第7地点出土石器(1)

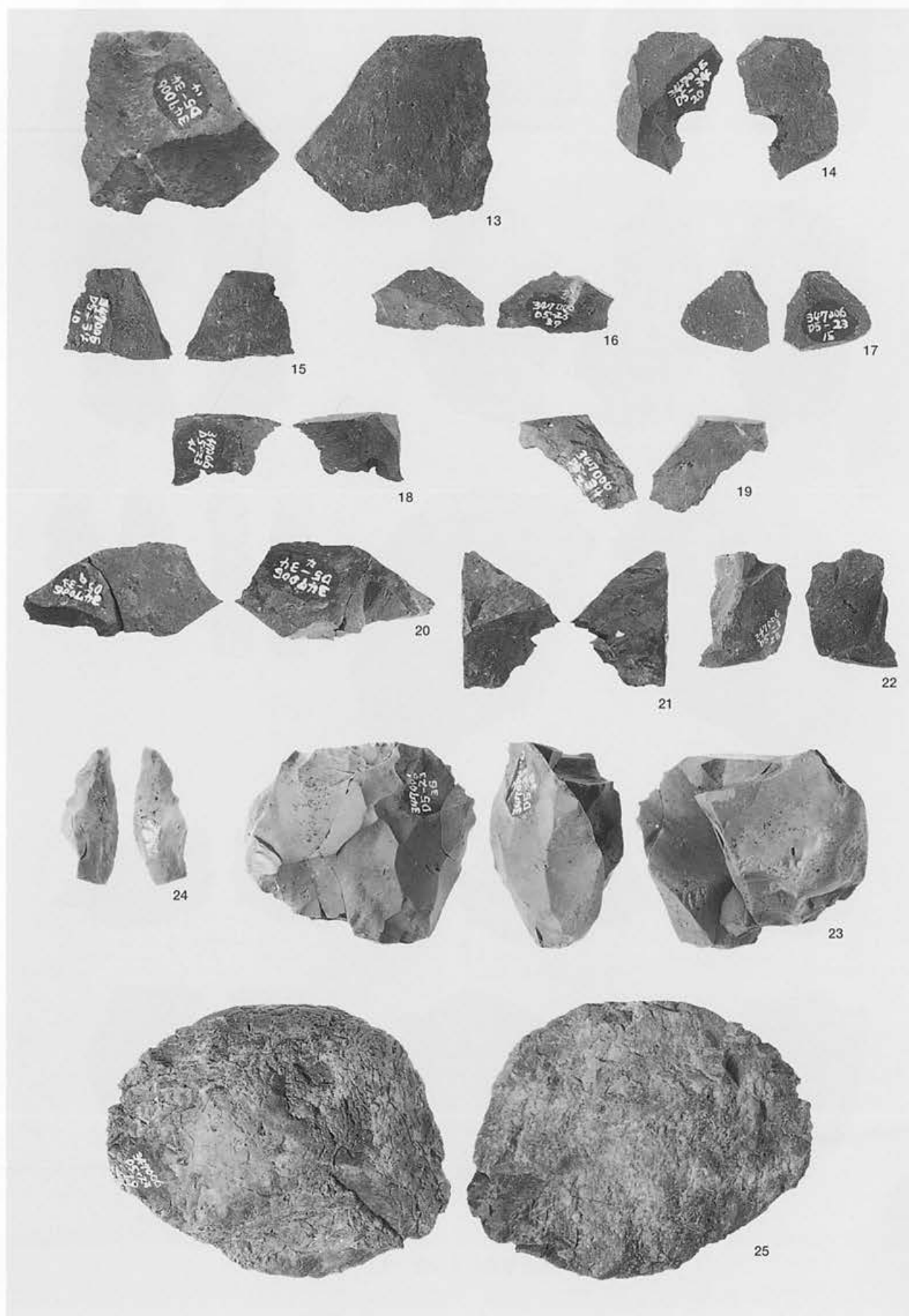


第7地点出土石器(2)

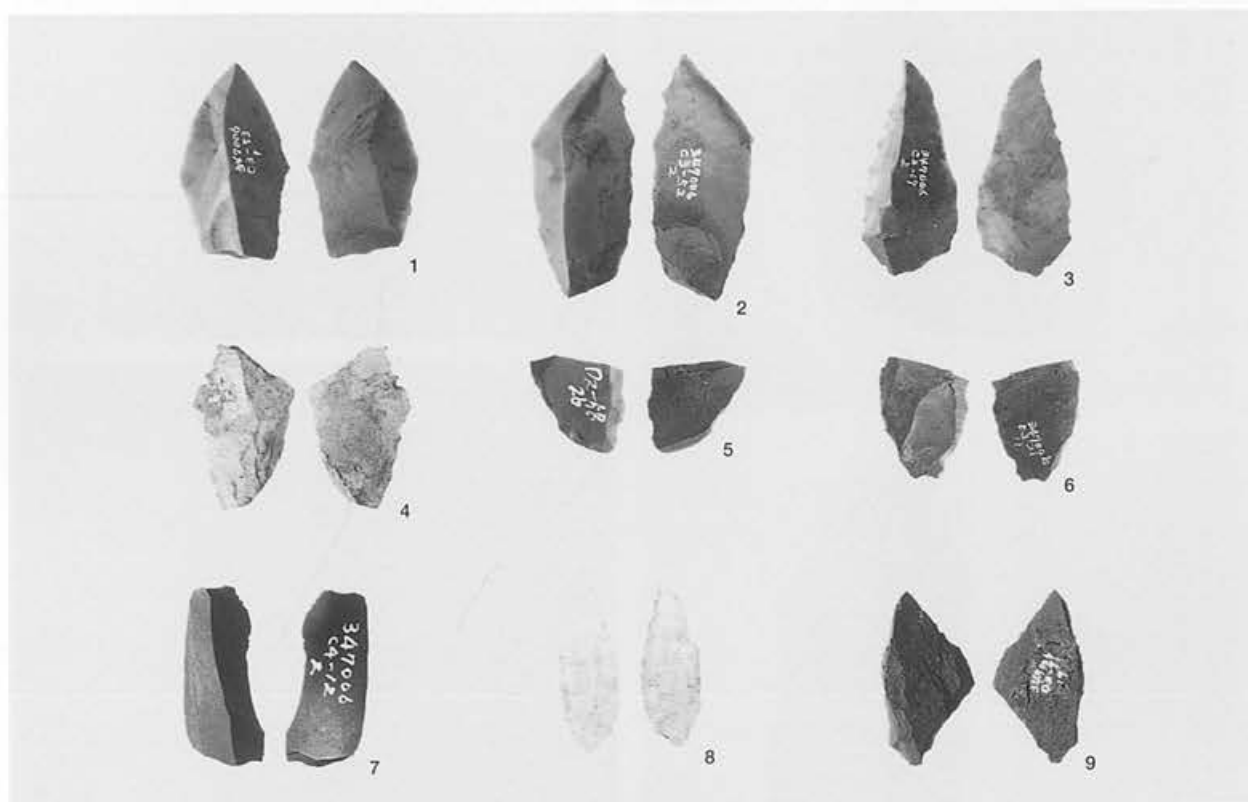
第8地点出土石器



第9地点出土石器(1)



第9地点出土石器(2)



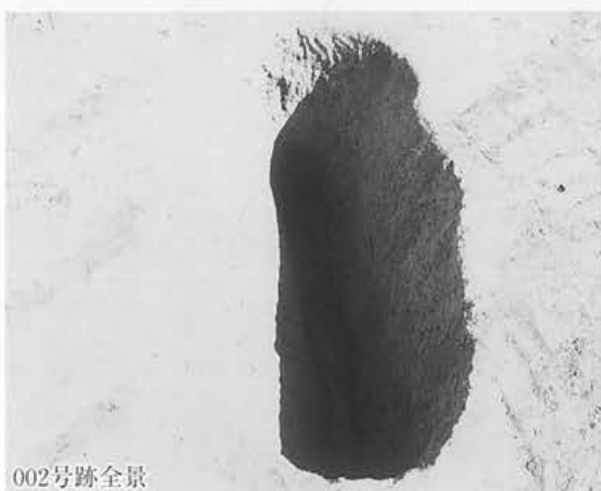
調査区外出土石器



001号跡全景



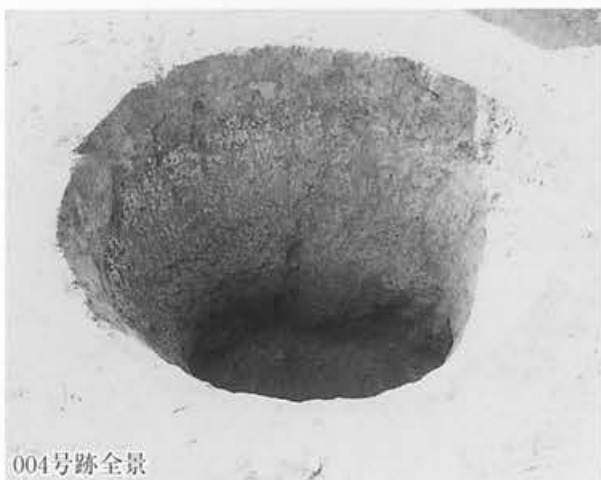
001号跡セクション



002号跡全景



003号跡全景



004号跡全景



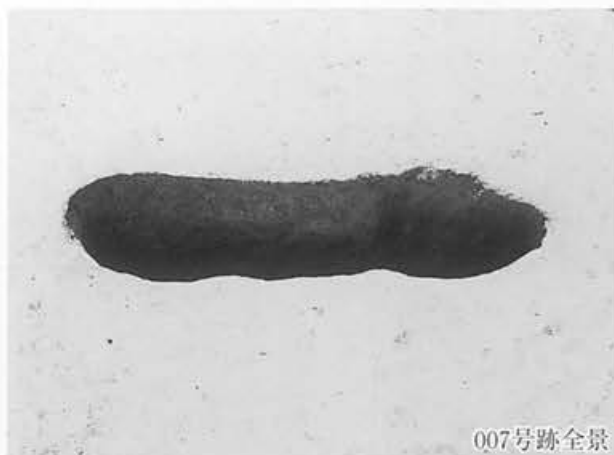
004号跡セクション



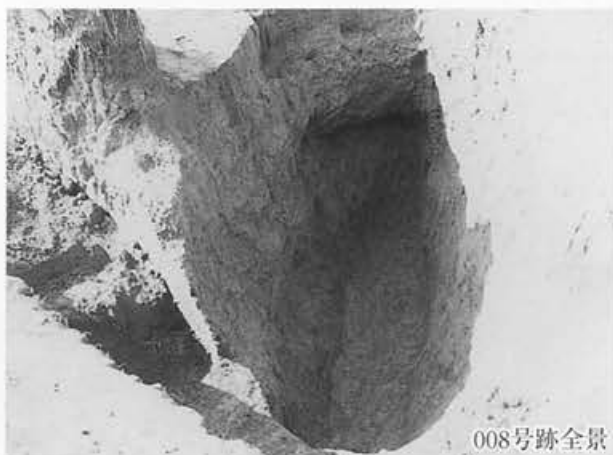
005号跡全景



006号跡全景



007号迹全景



008号迹全景



009号迹全景



010号迹全景



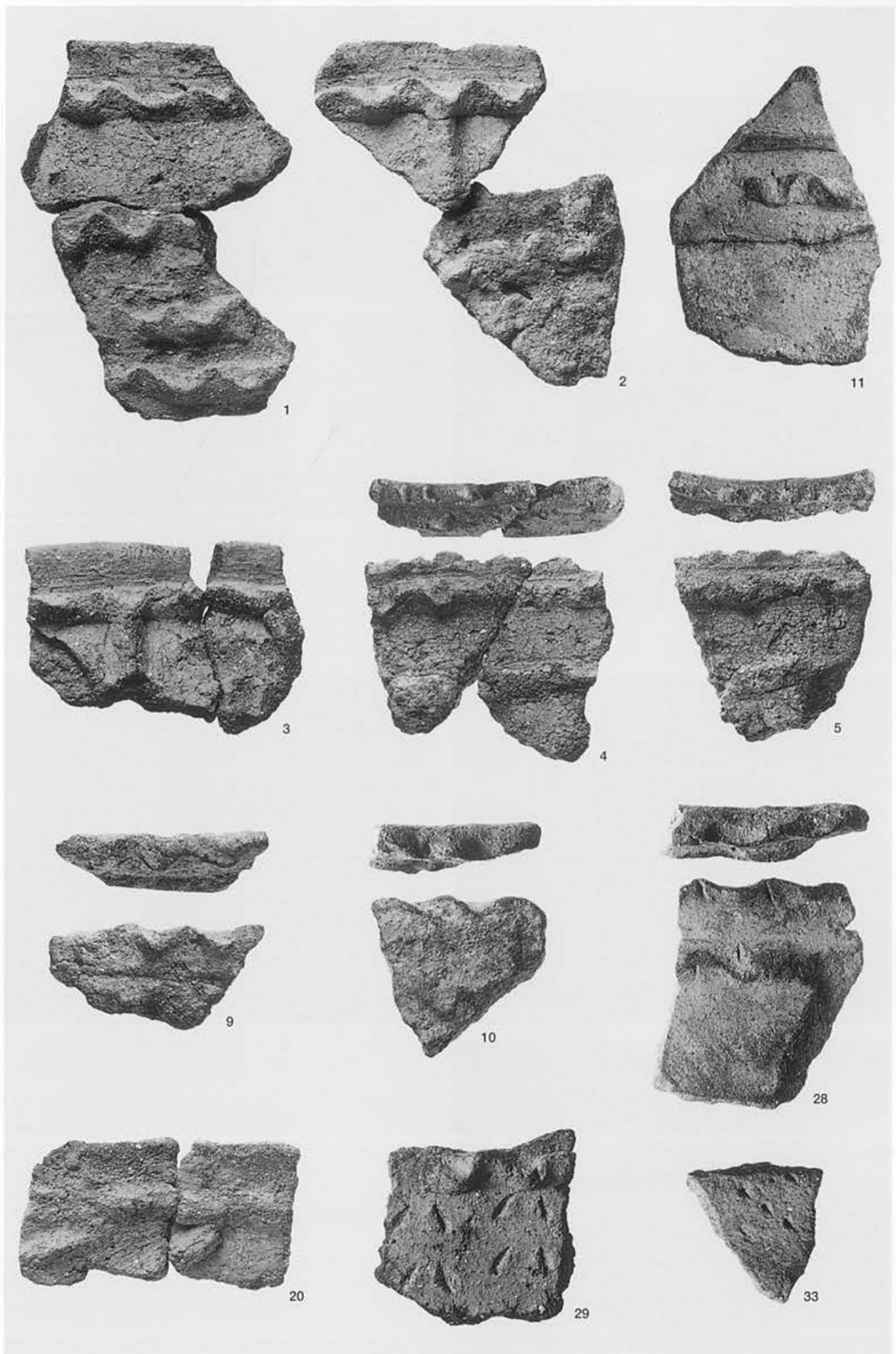
011号迹全景



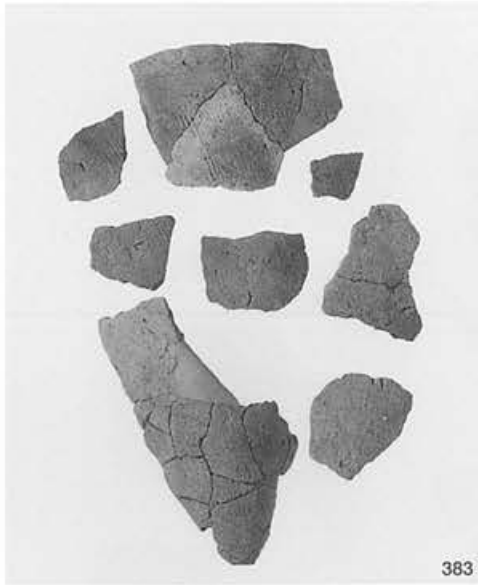
012号迹全景



013号迹全景



隆起線文土器 (残りのよいもの)



383



384



441



442



451



458



459



460



461



590

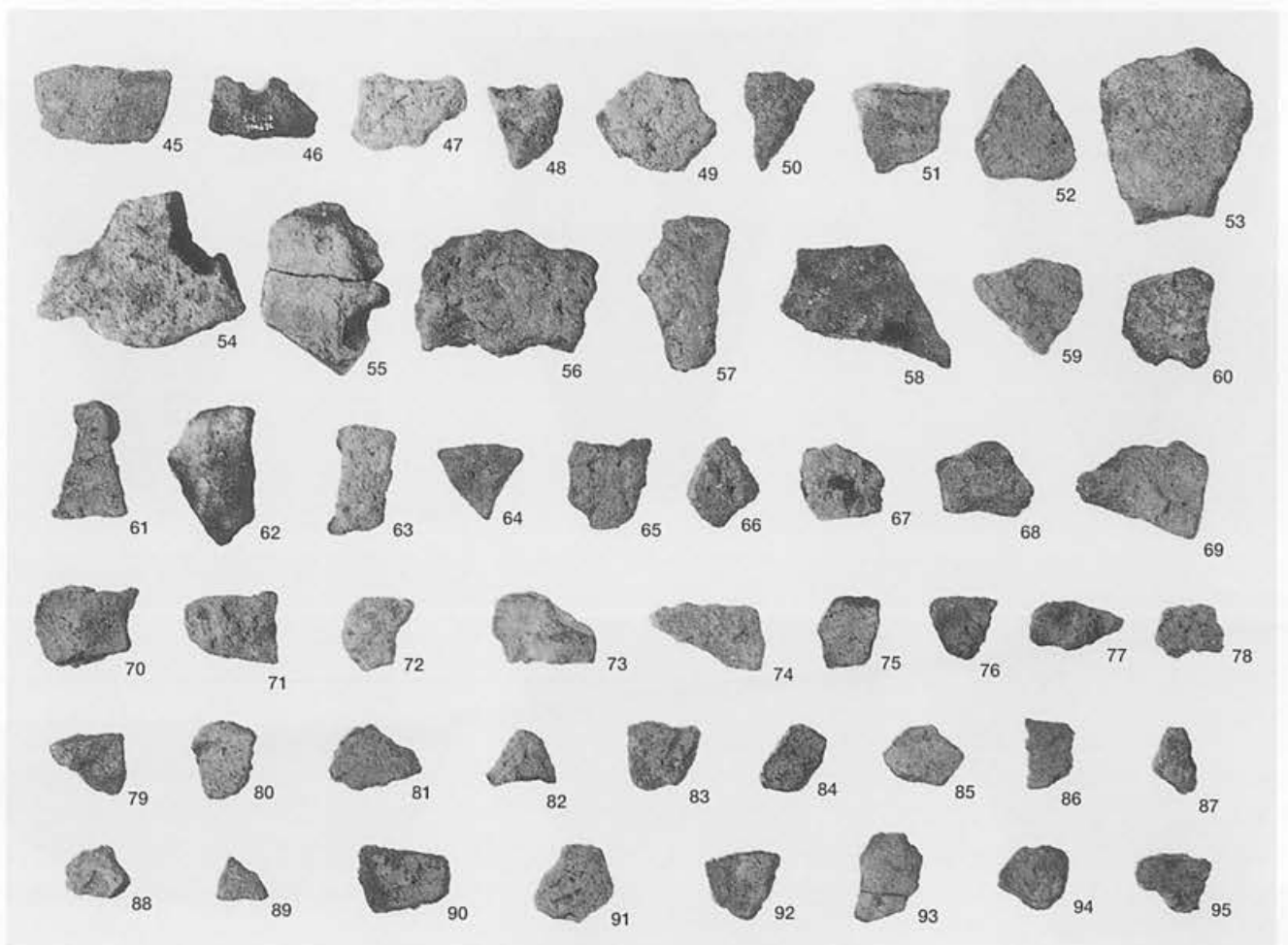
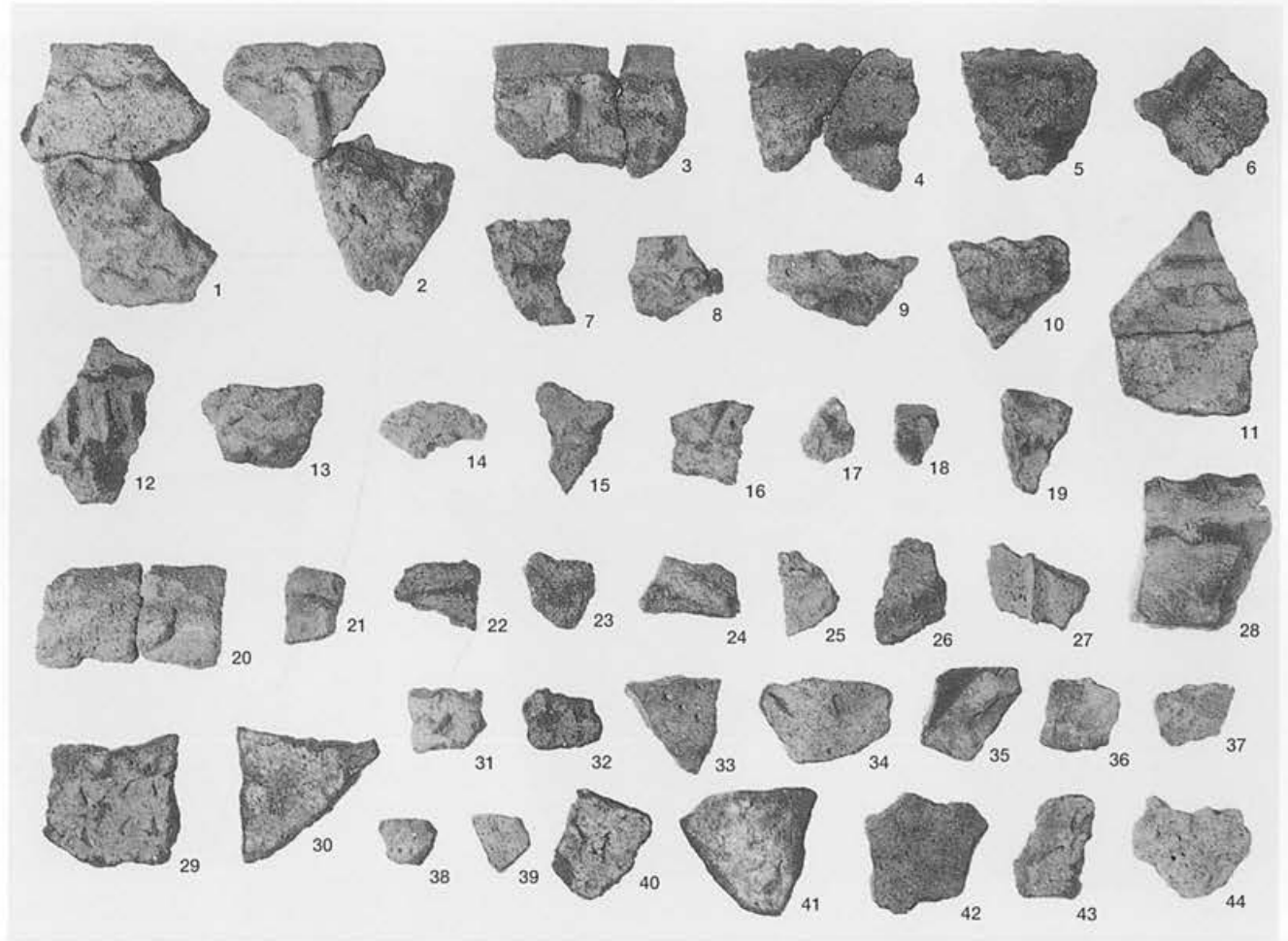


857

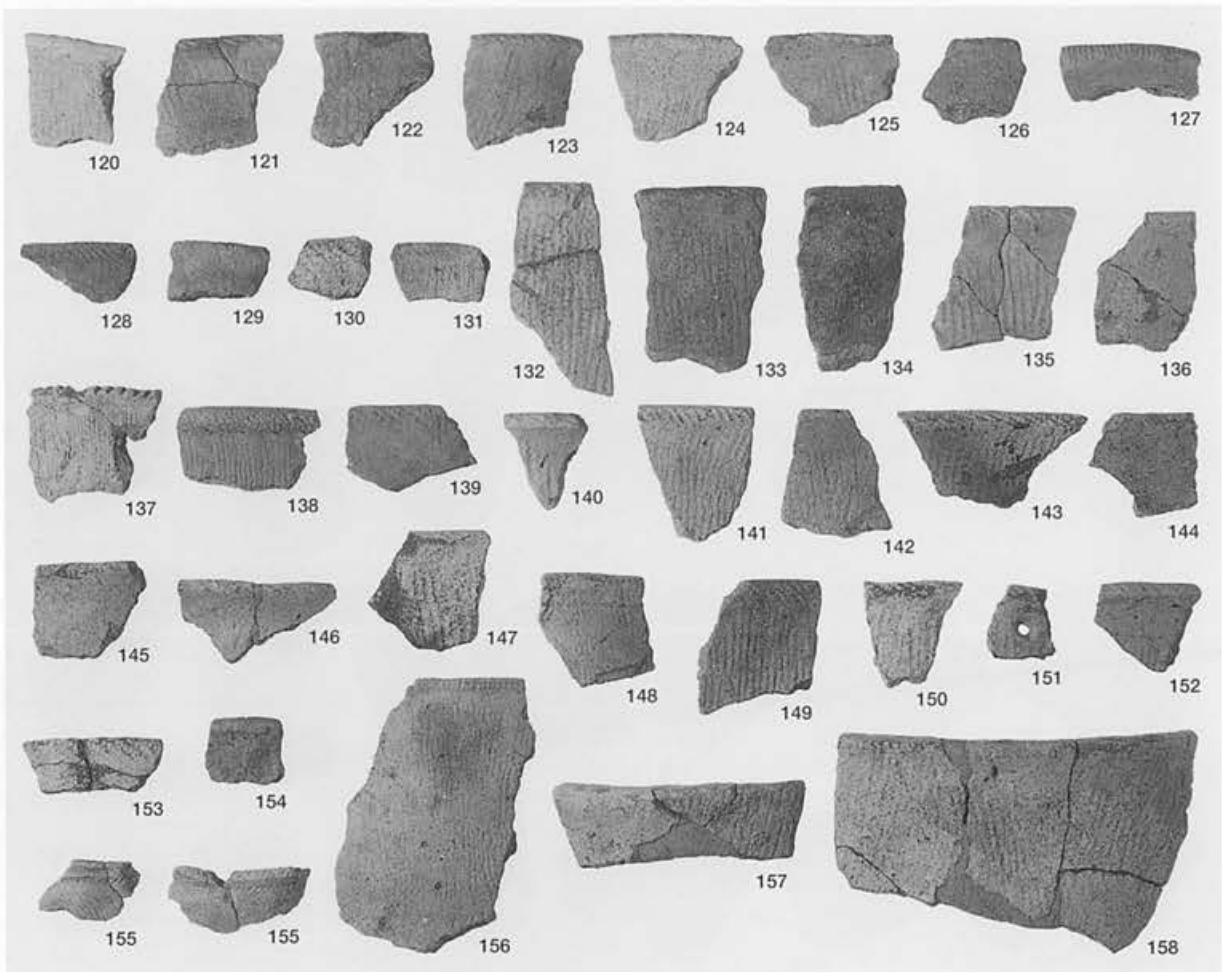
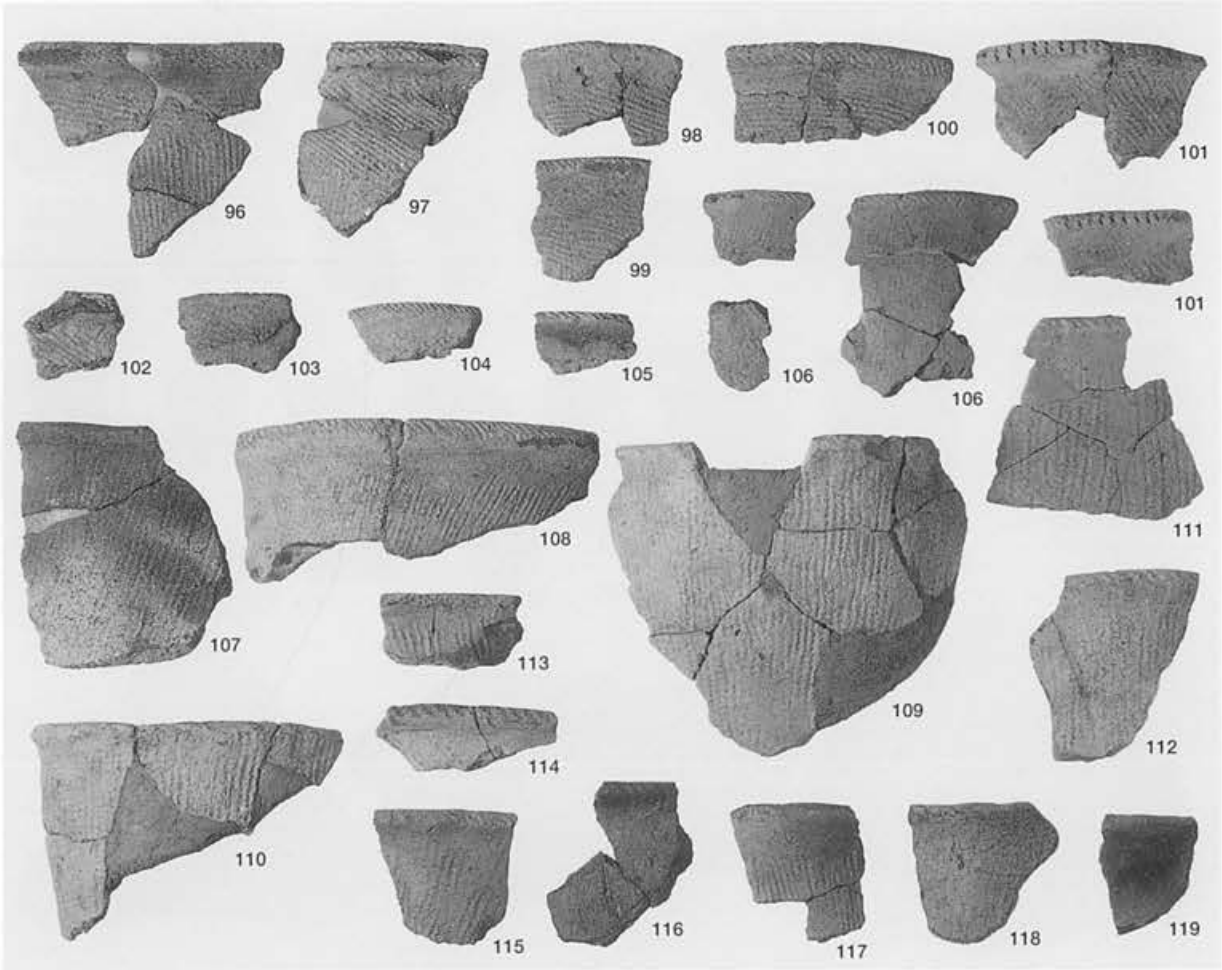


858

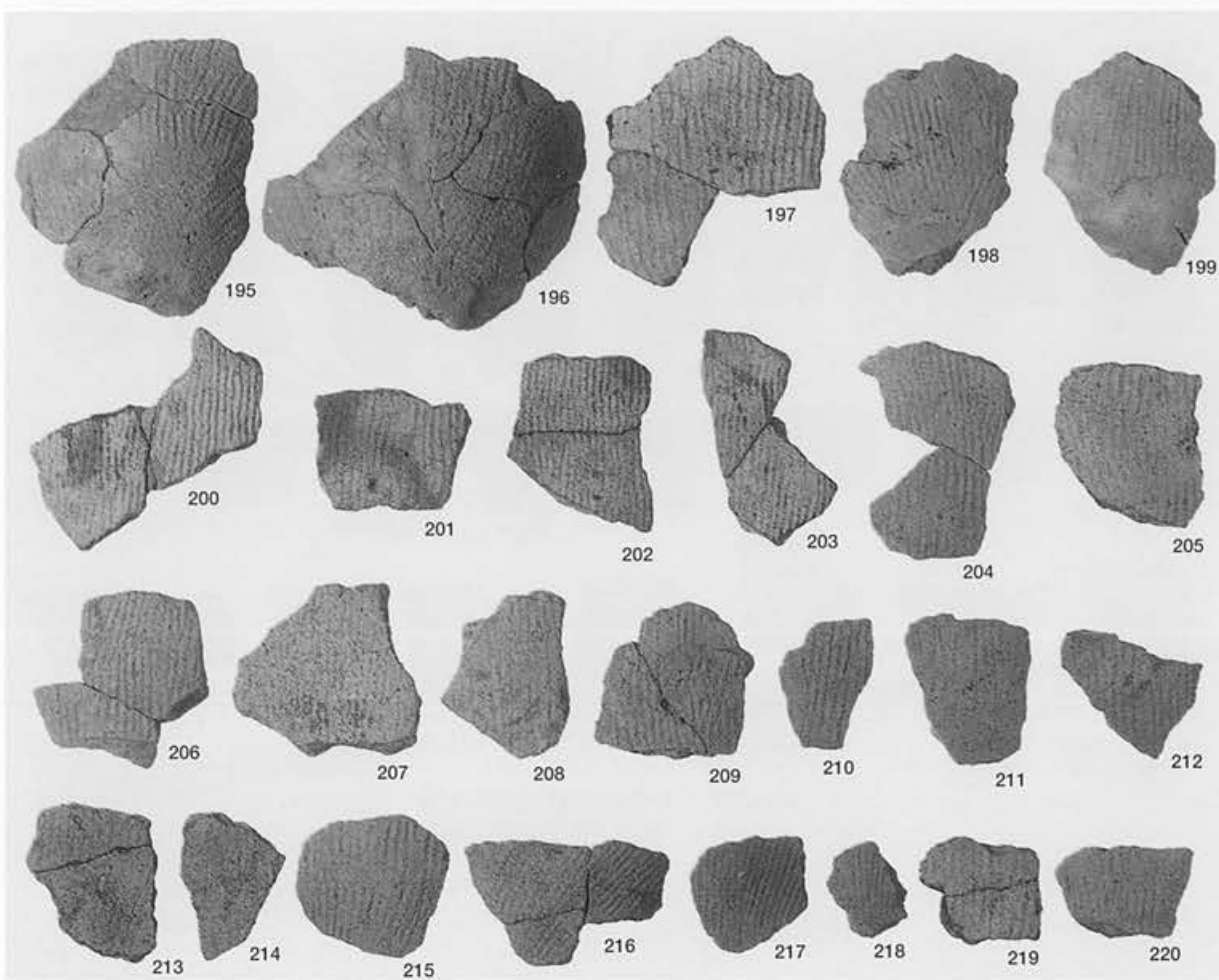
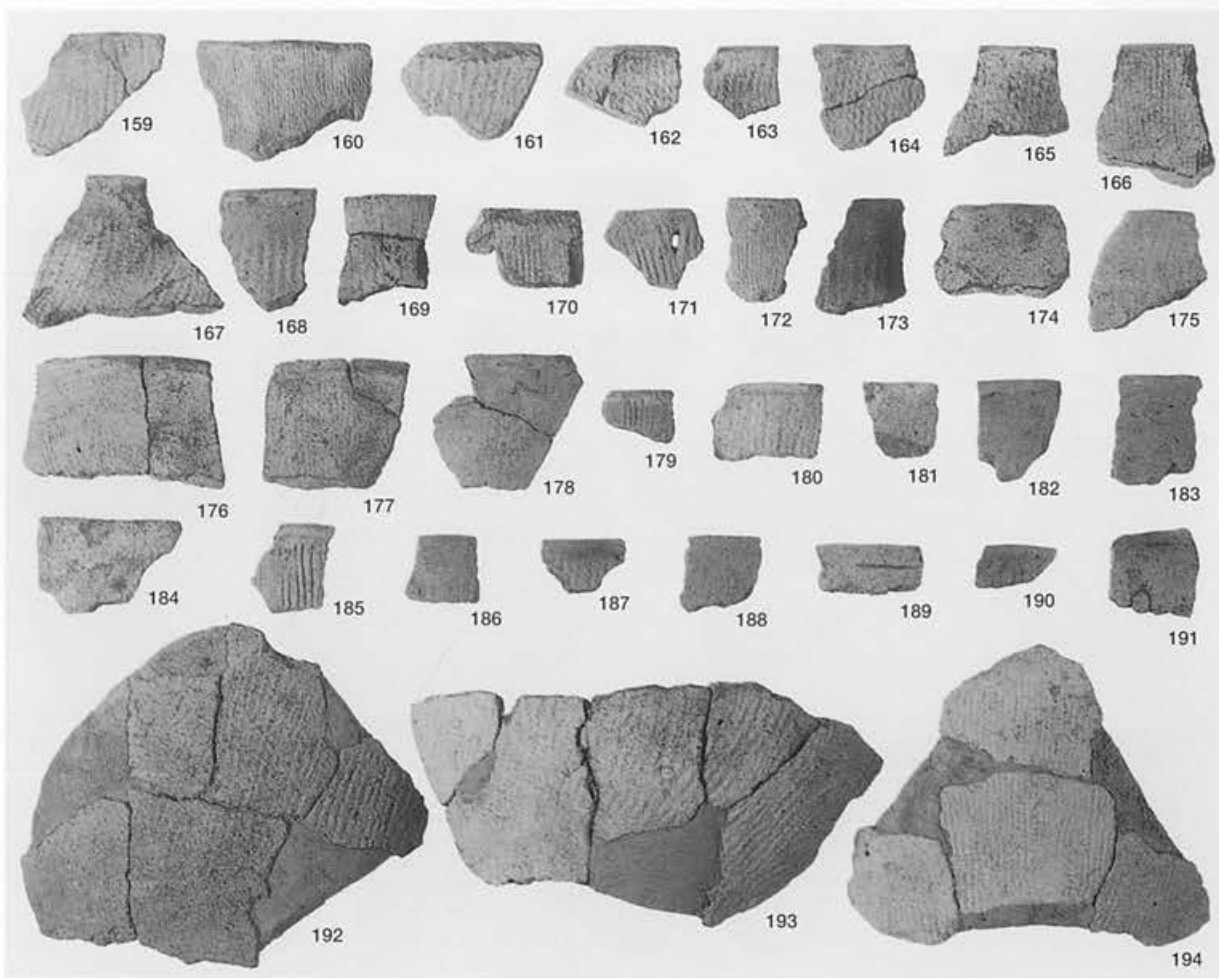
縄文土器 (残りのよいもの)



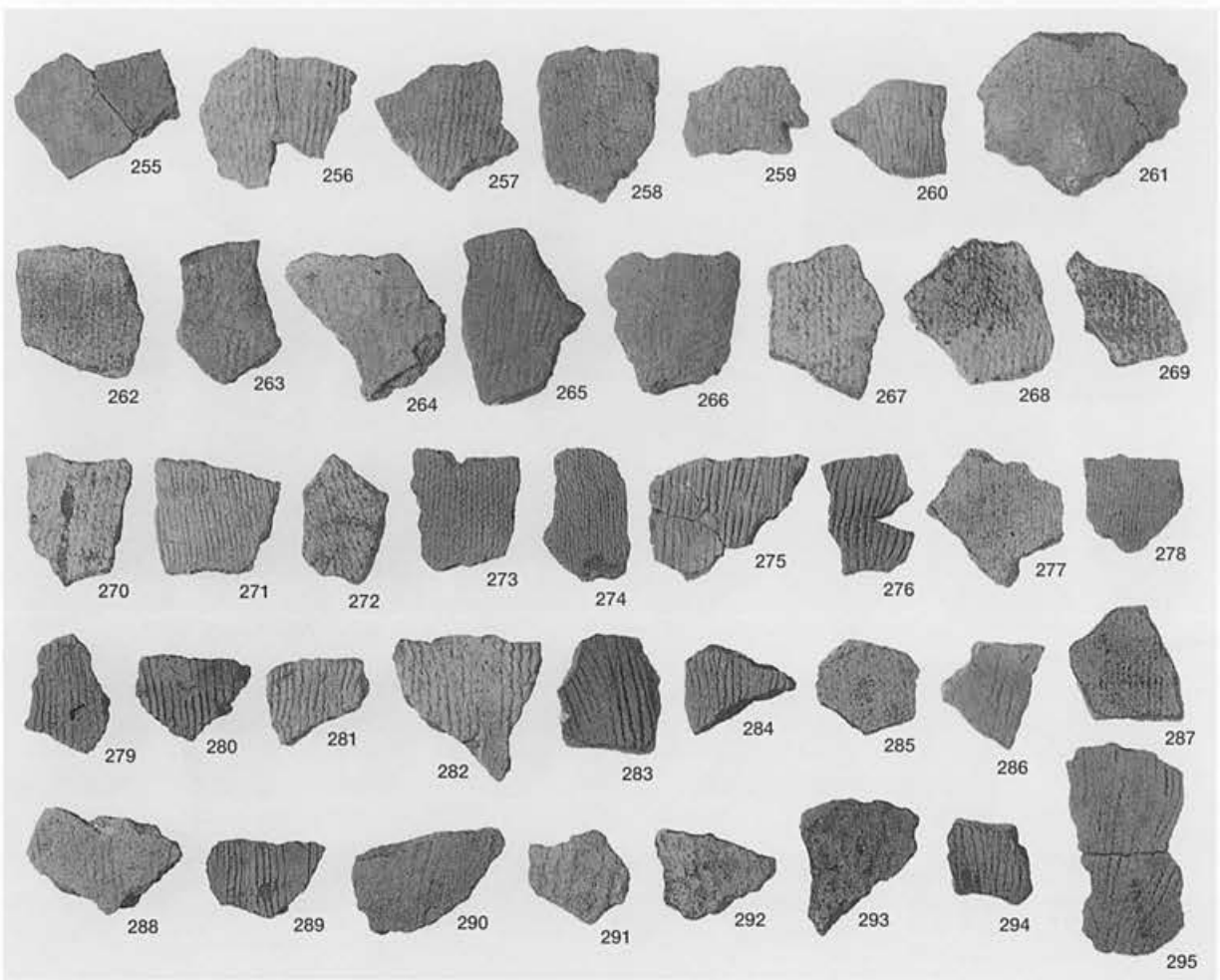
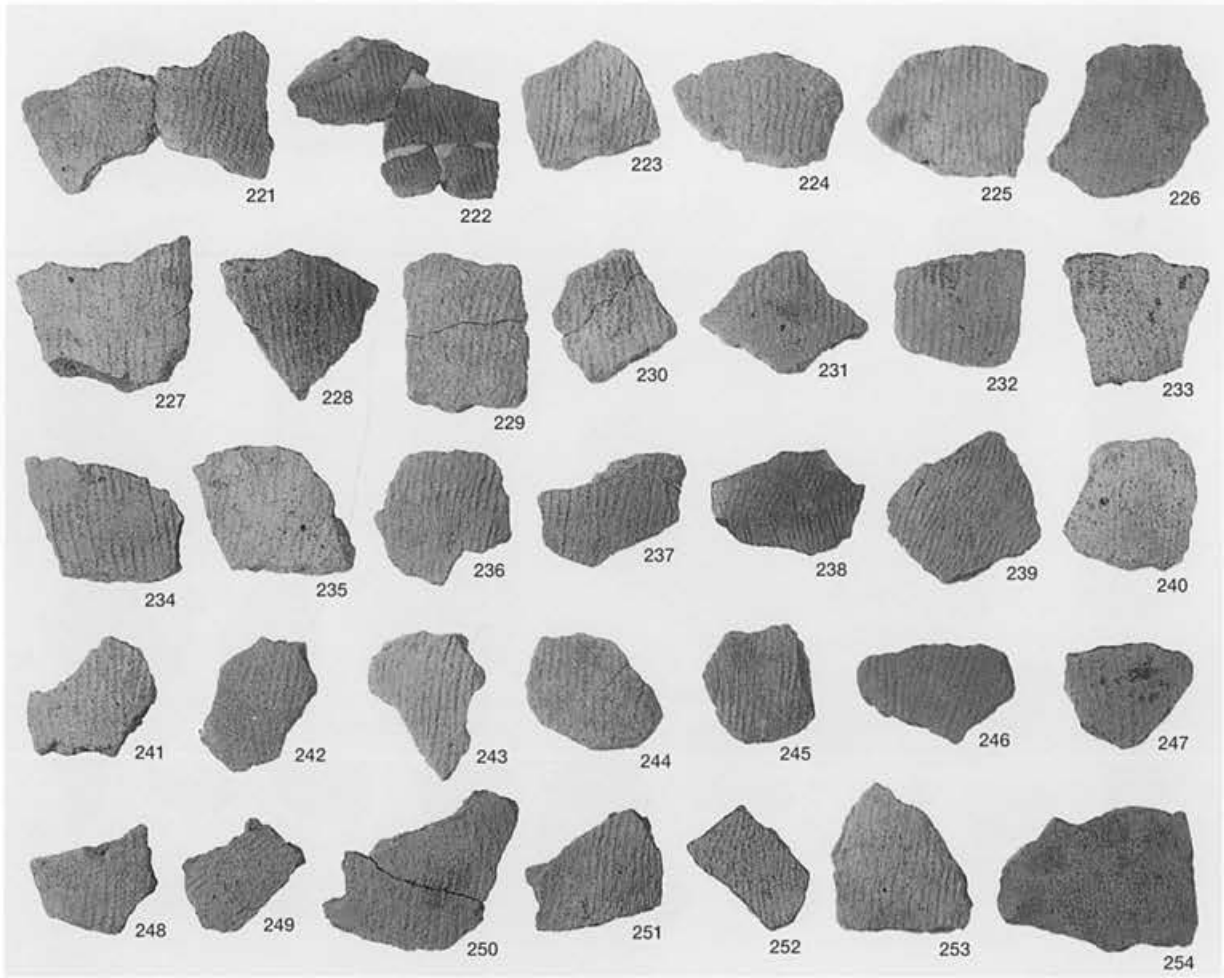
隆起線文土器 (1) (2)



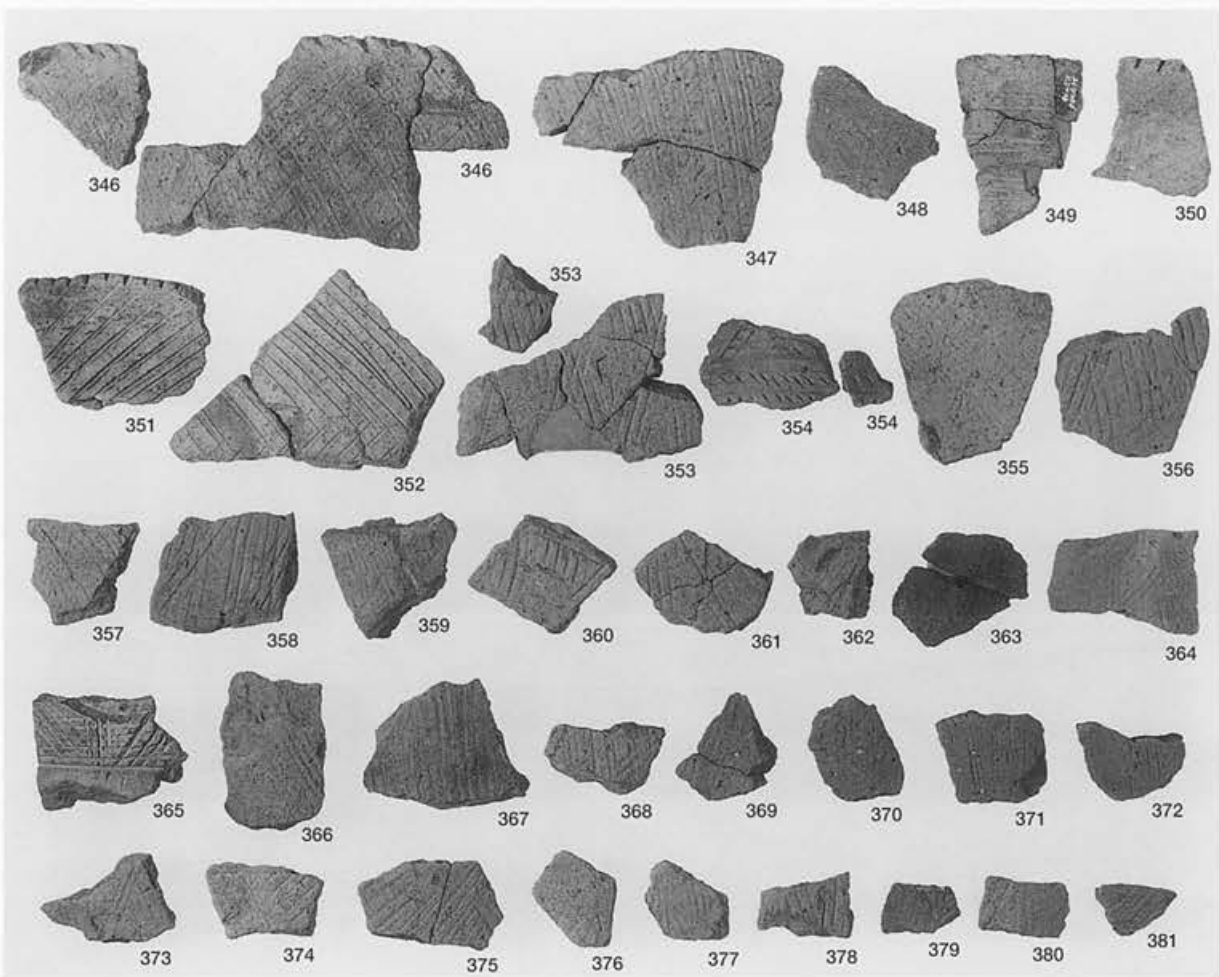
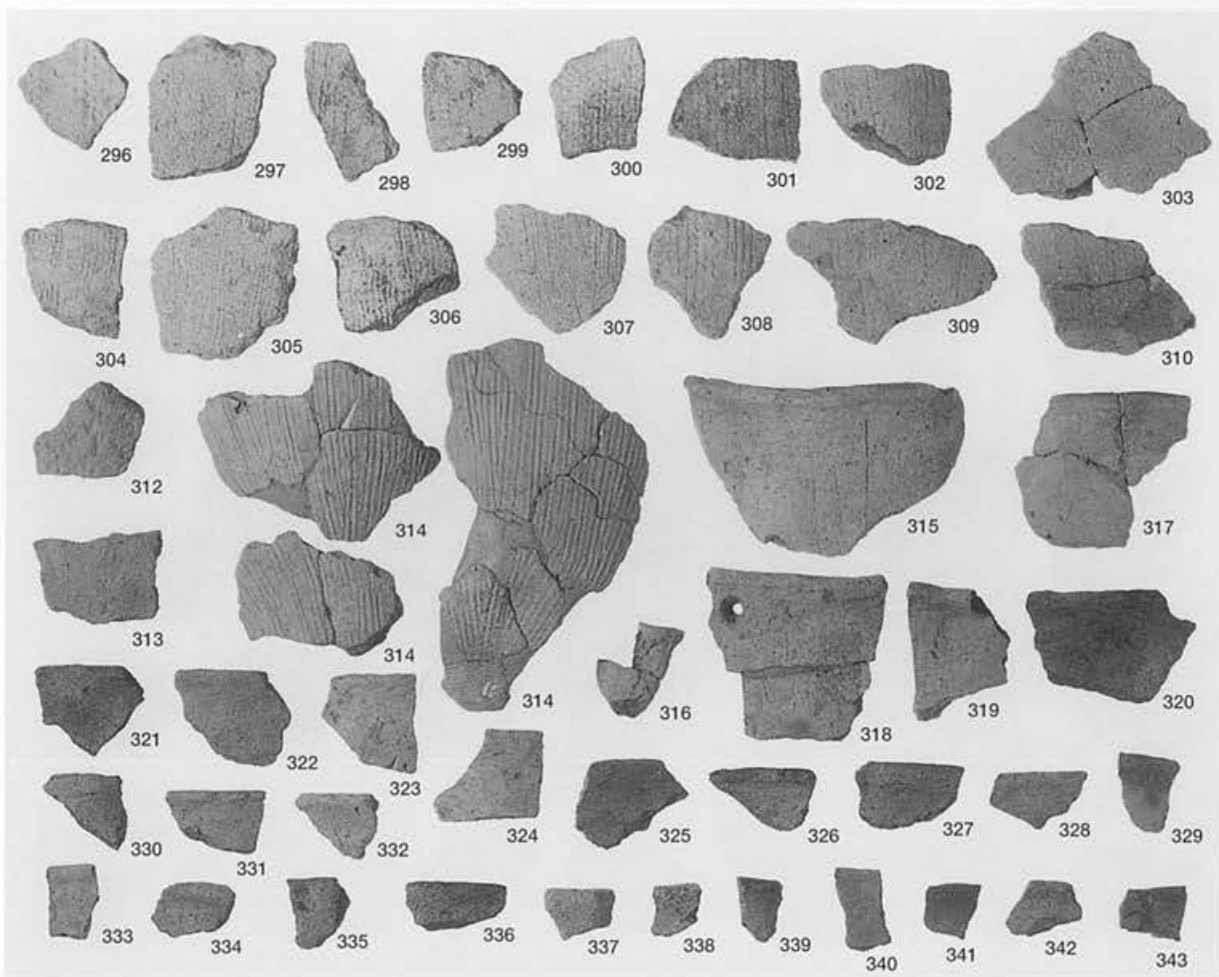
捺糸文系土器 (1) (2)



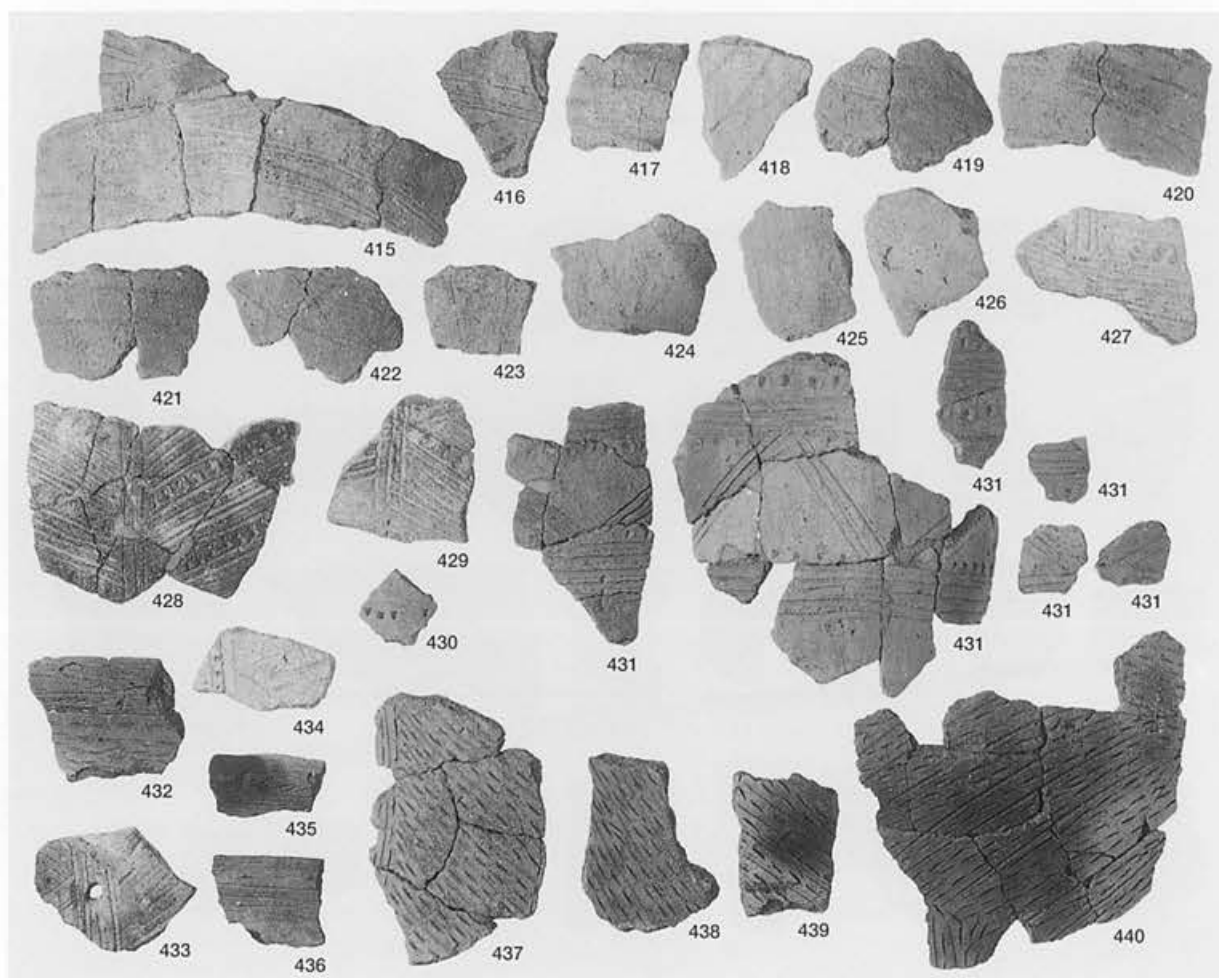
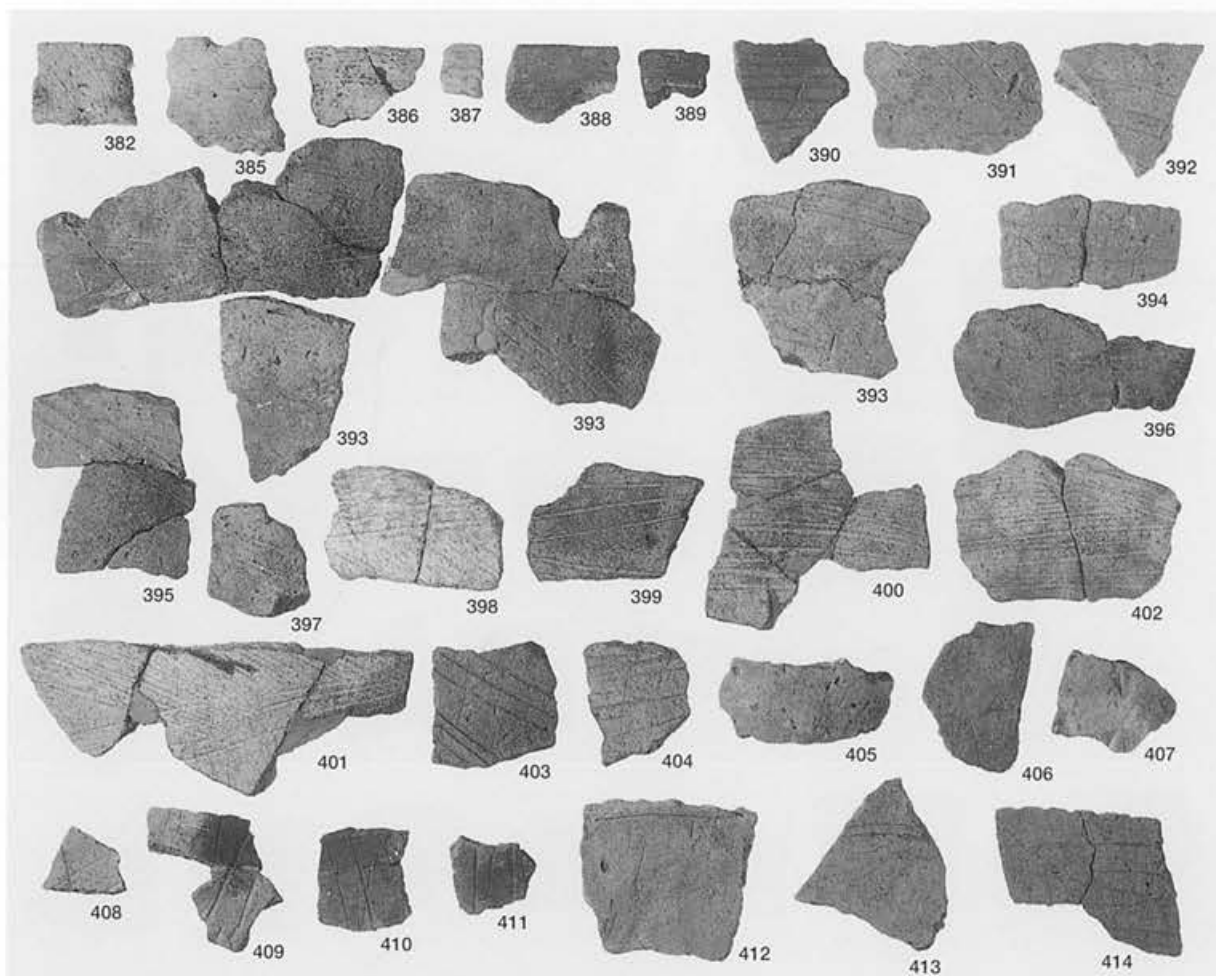
捺糸文系土器 (3) (4)



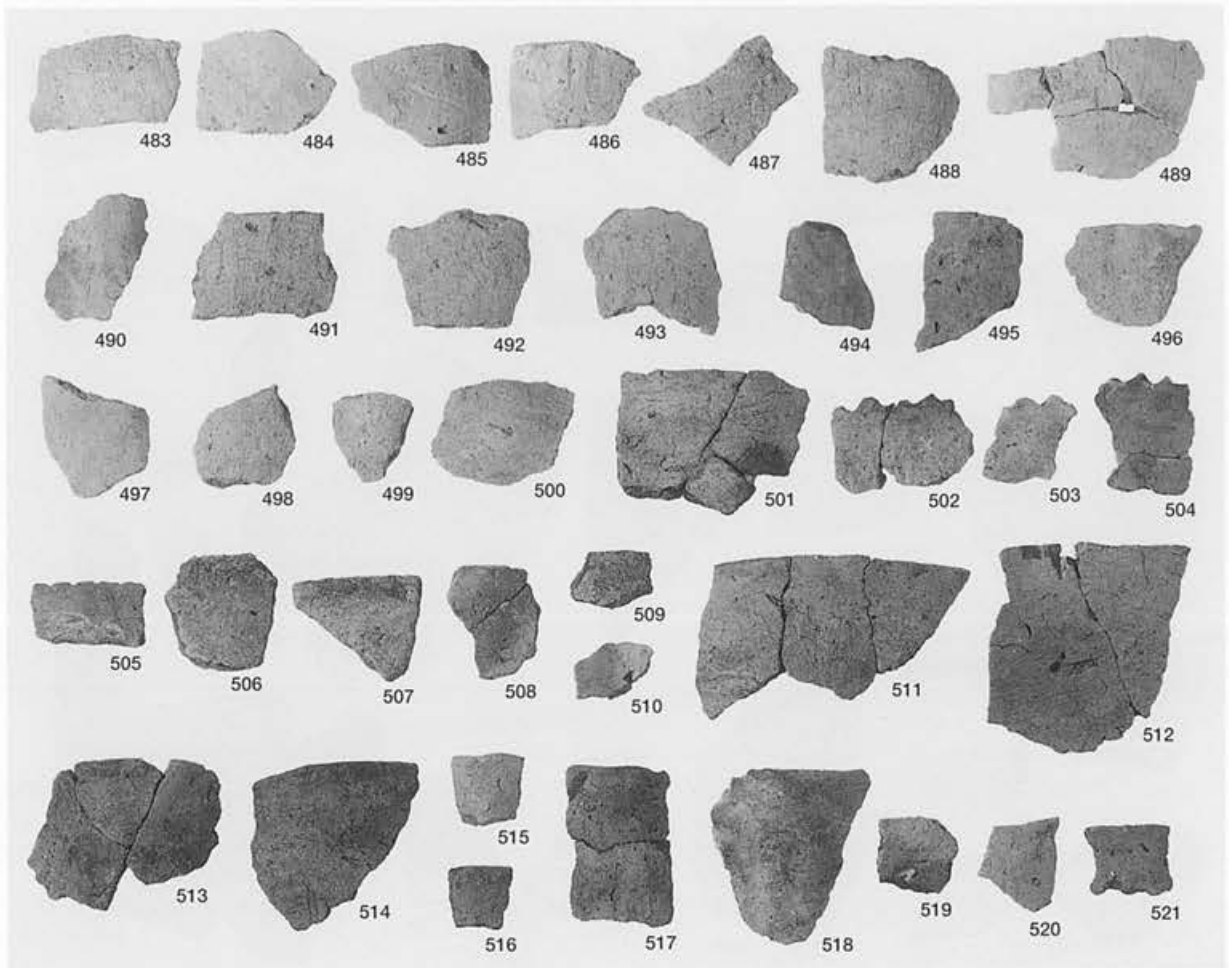
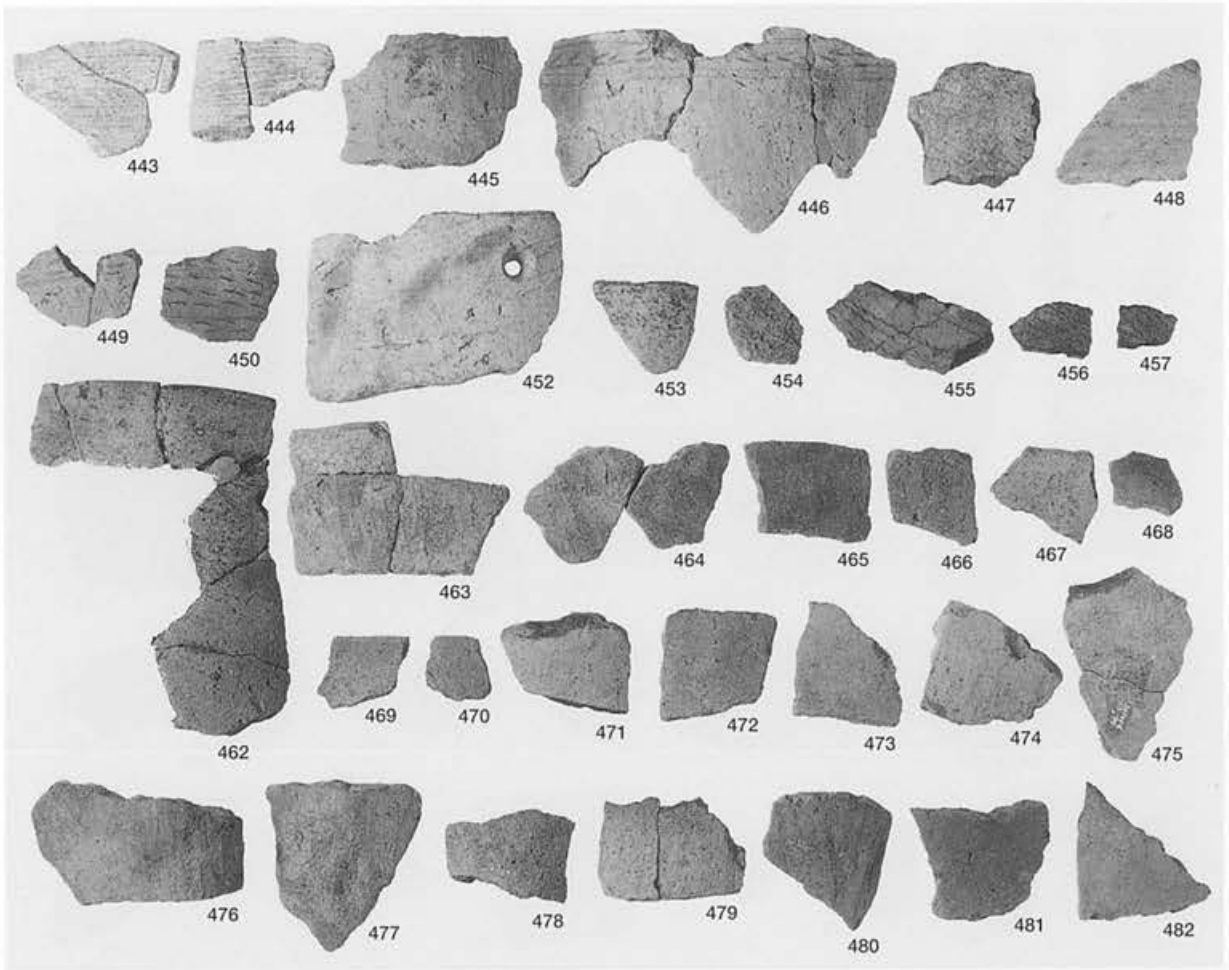
捺糸文系土器 (5) (6)



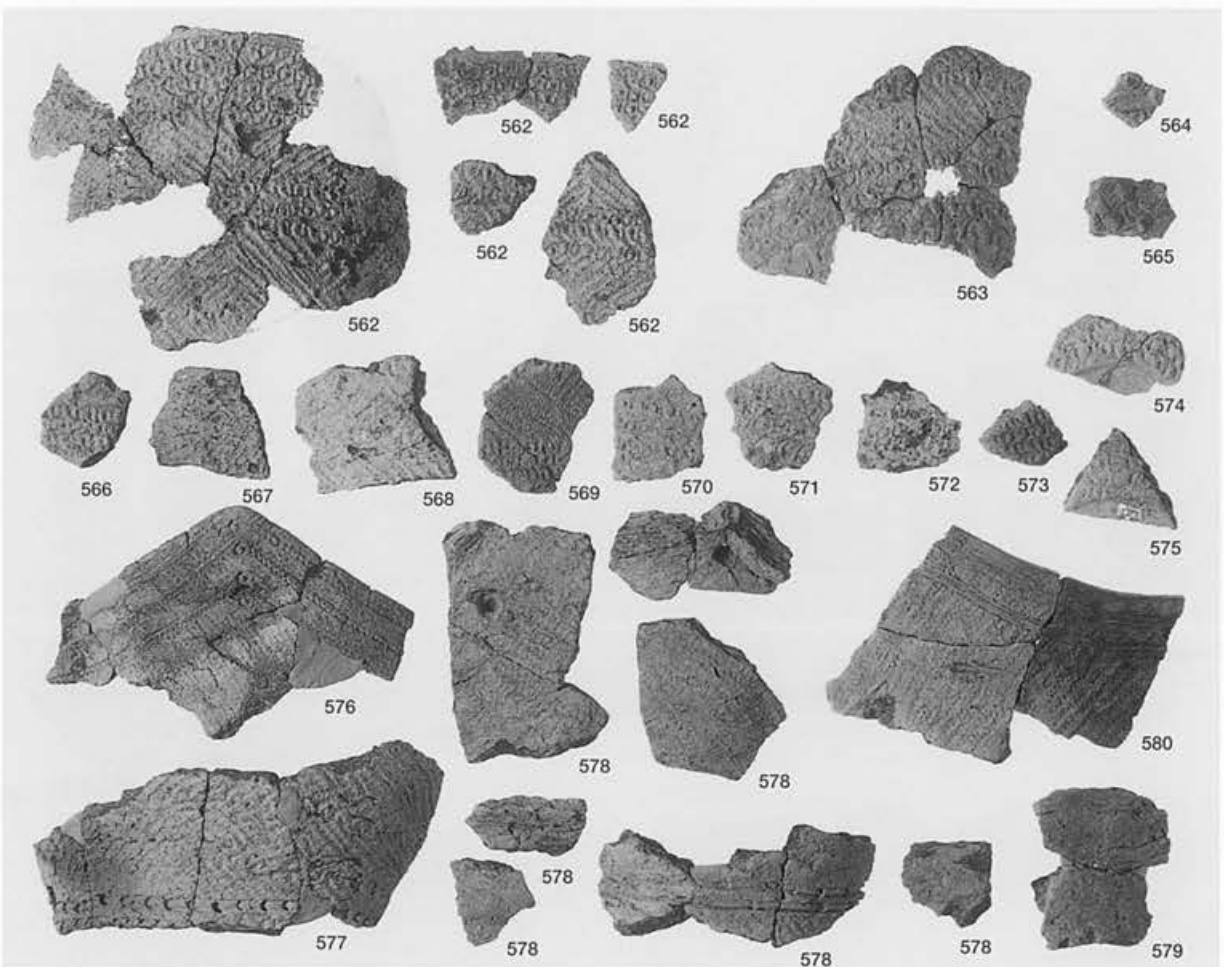
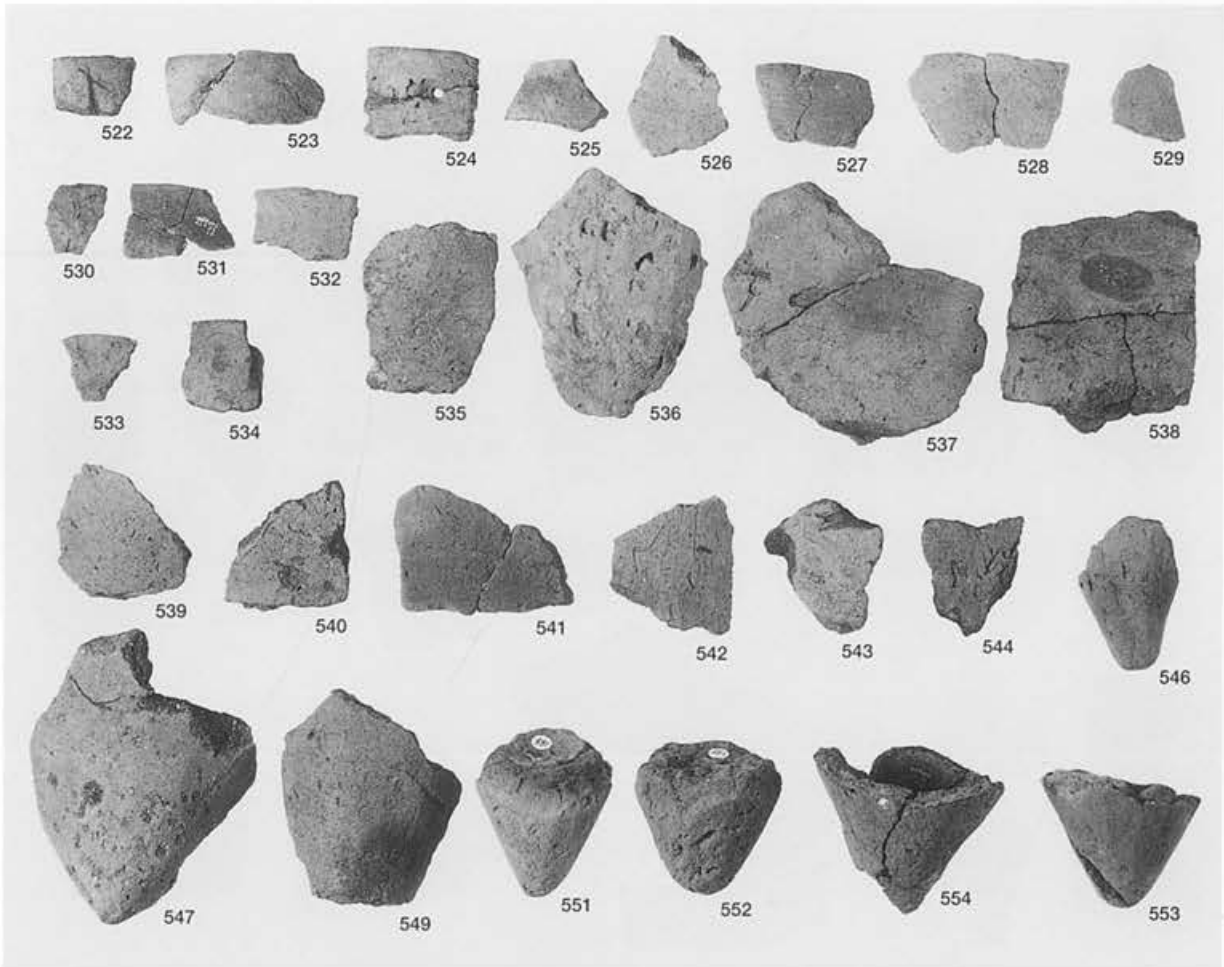
撚糸文系土器 (7), 沈線文系土器 (1)



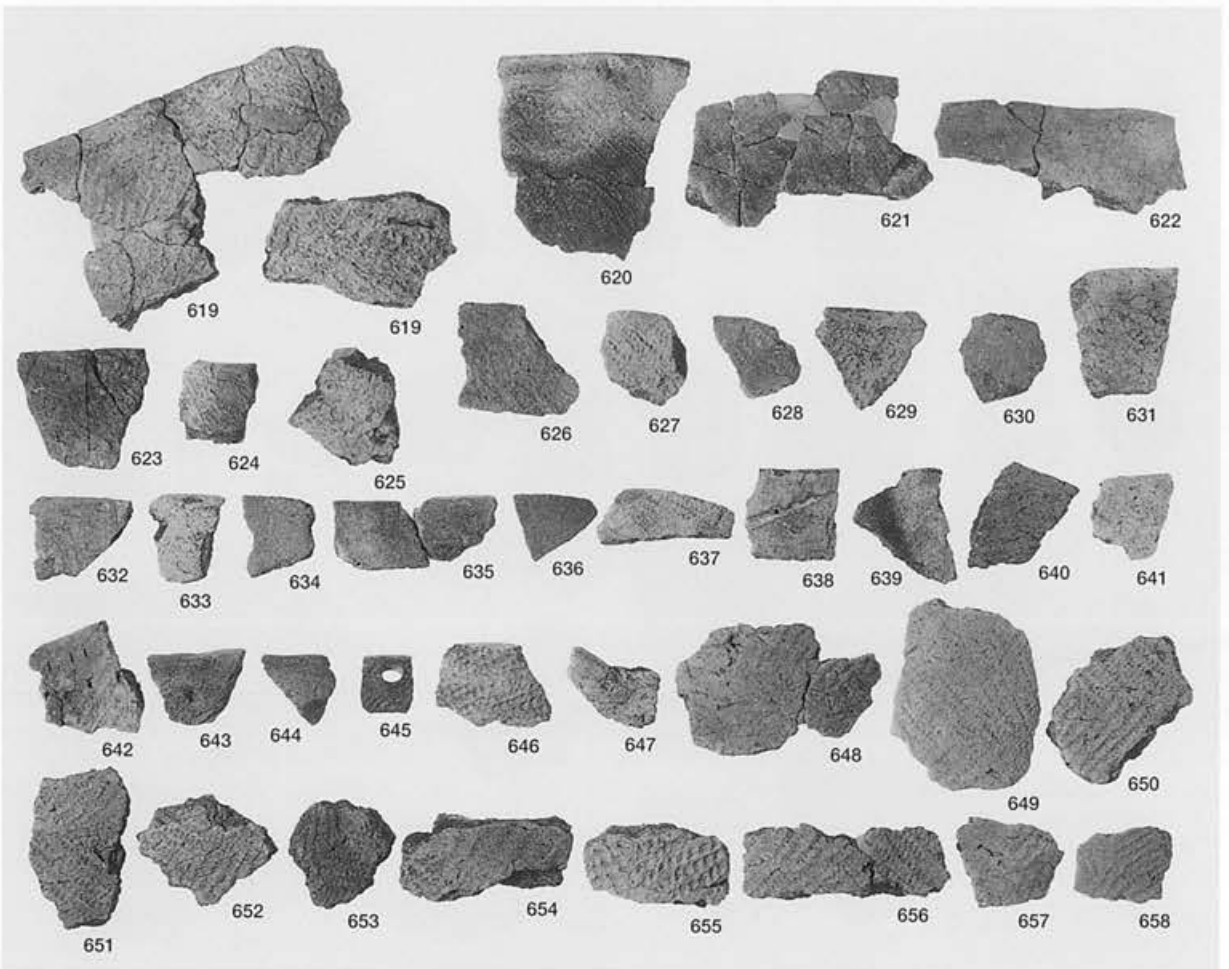
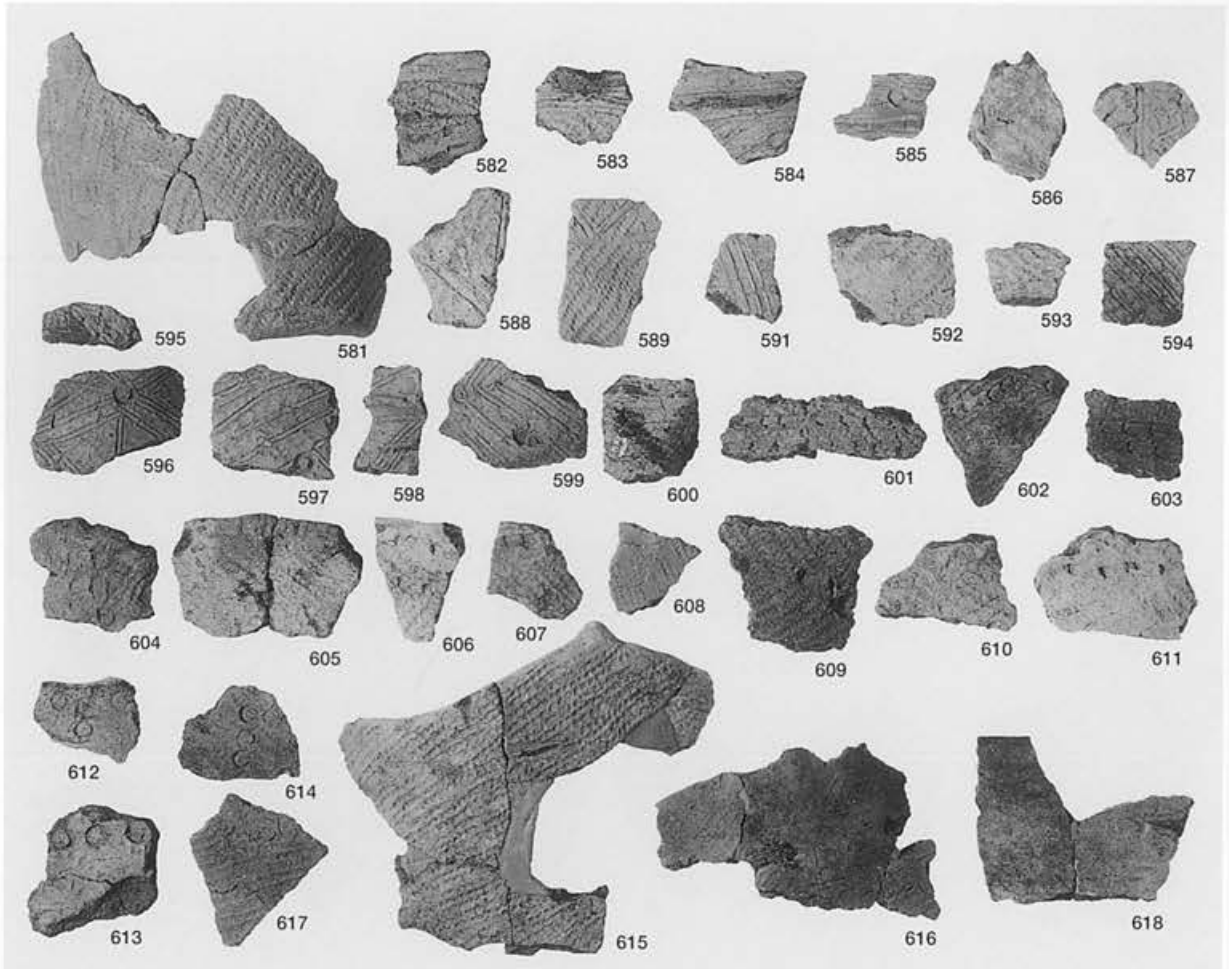
沈線文系土器 (2) (3)



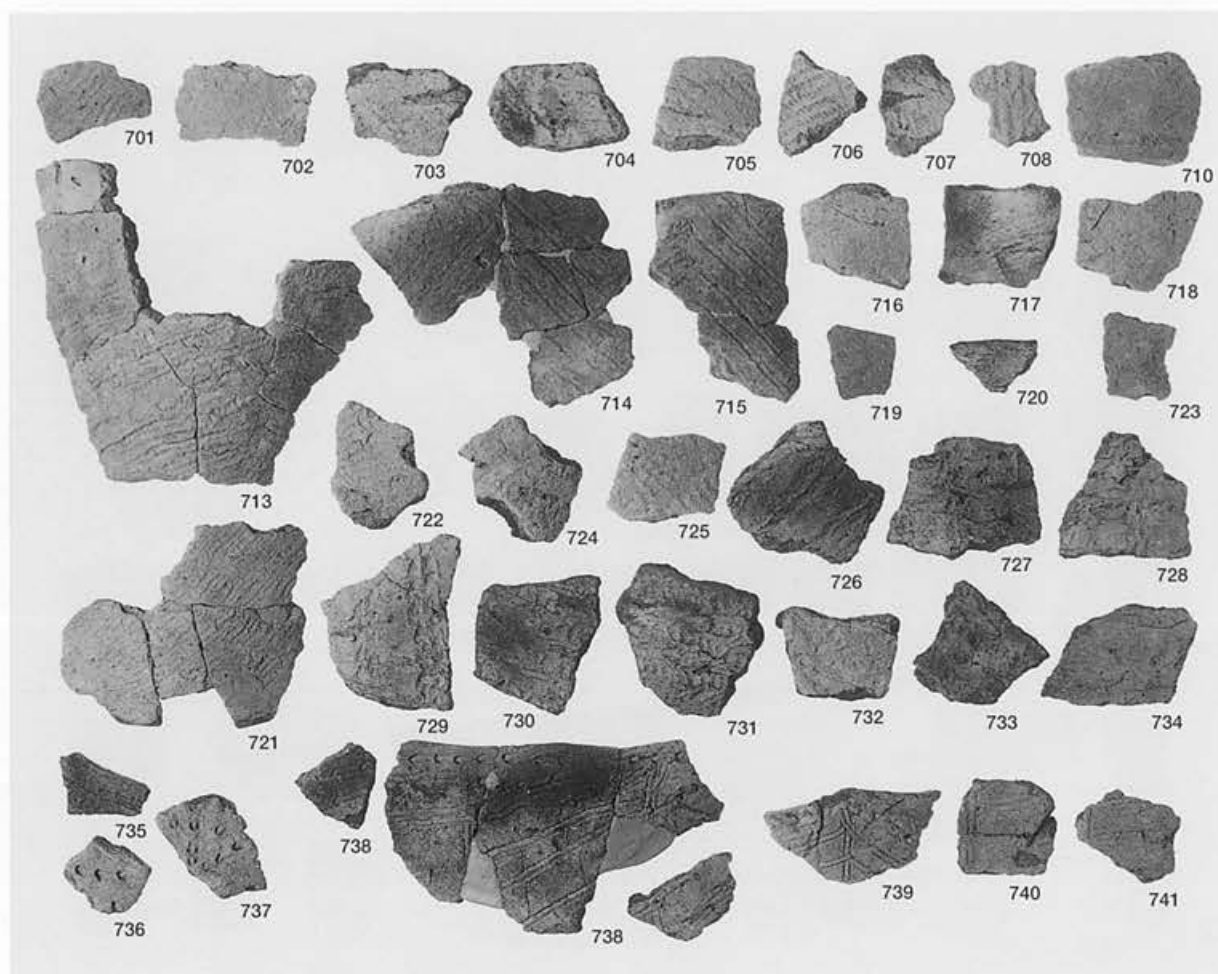
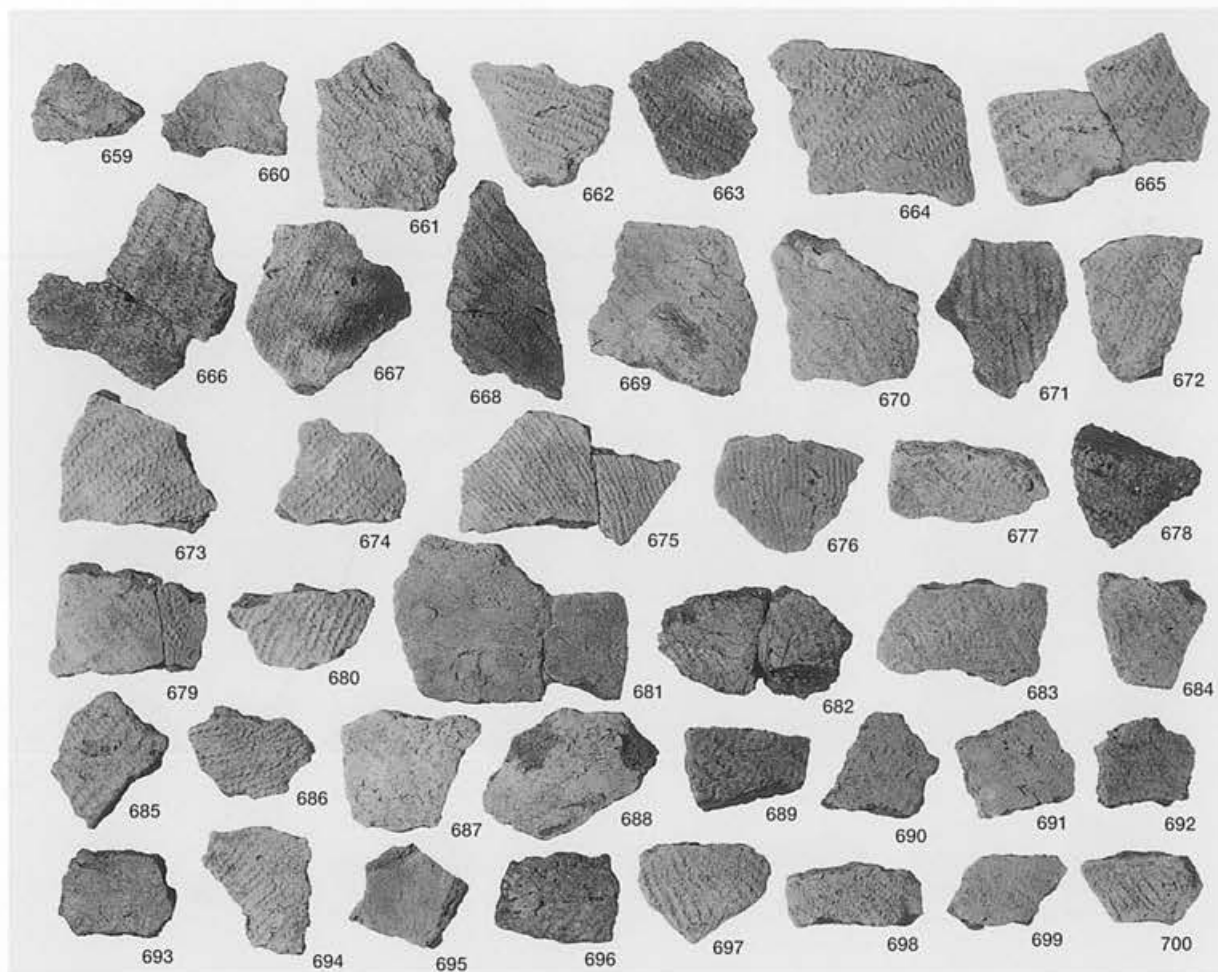
沈線文系土器 (4) (5)



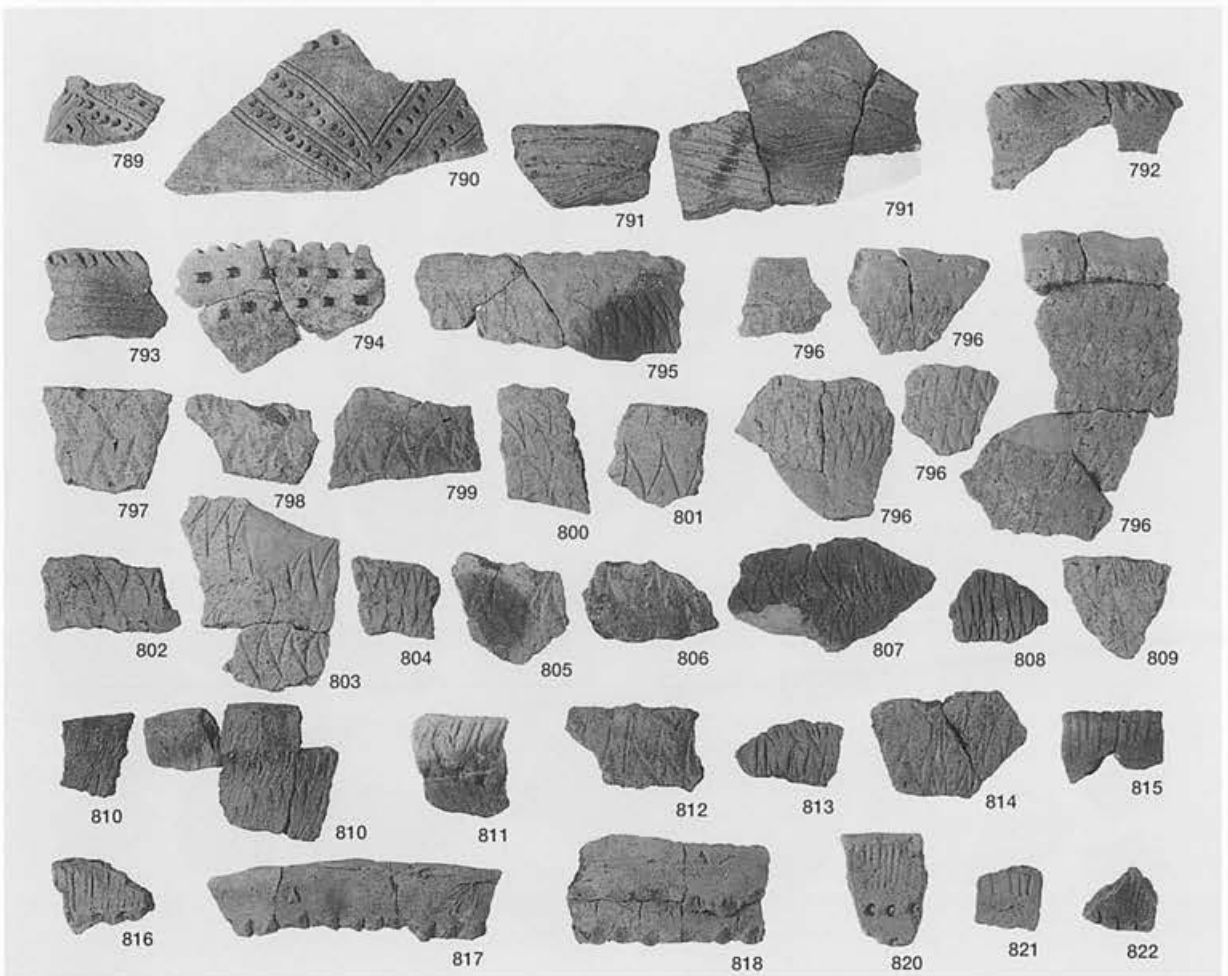
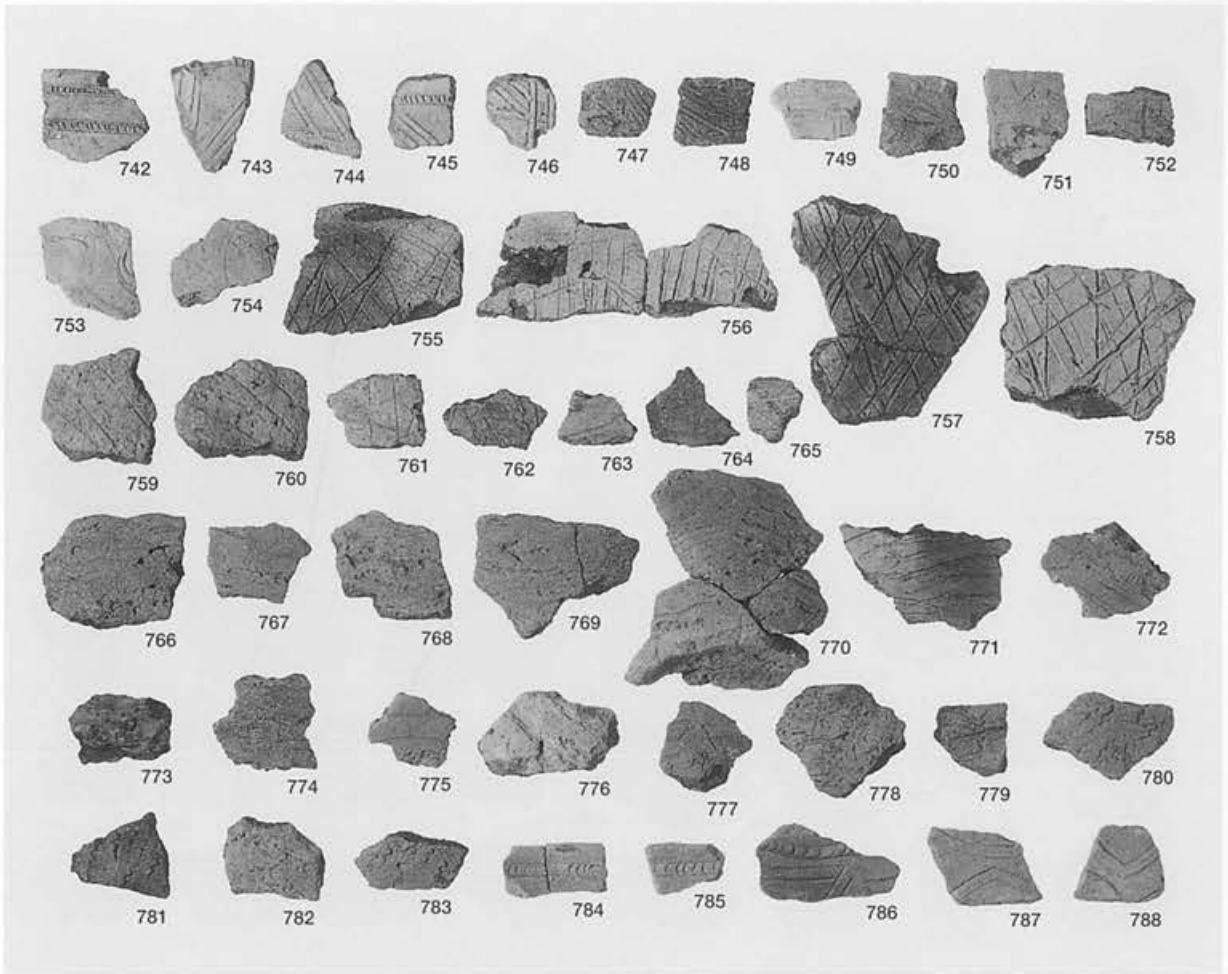
沈線文系土器 (6), 前期前半の土器 (1)



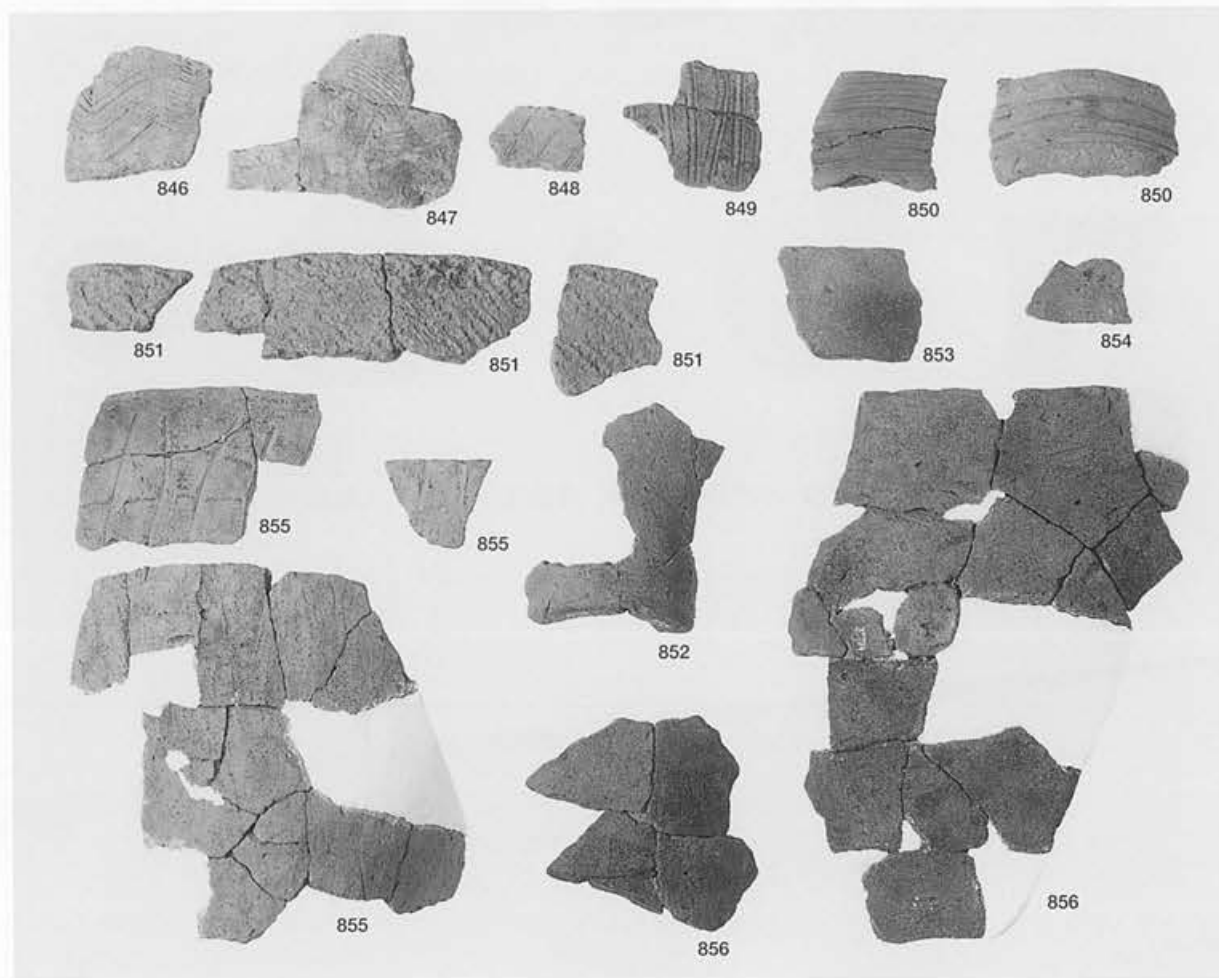
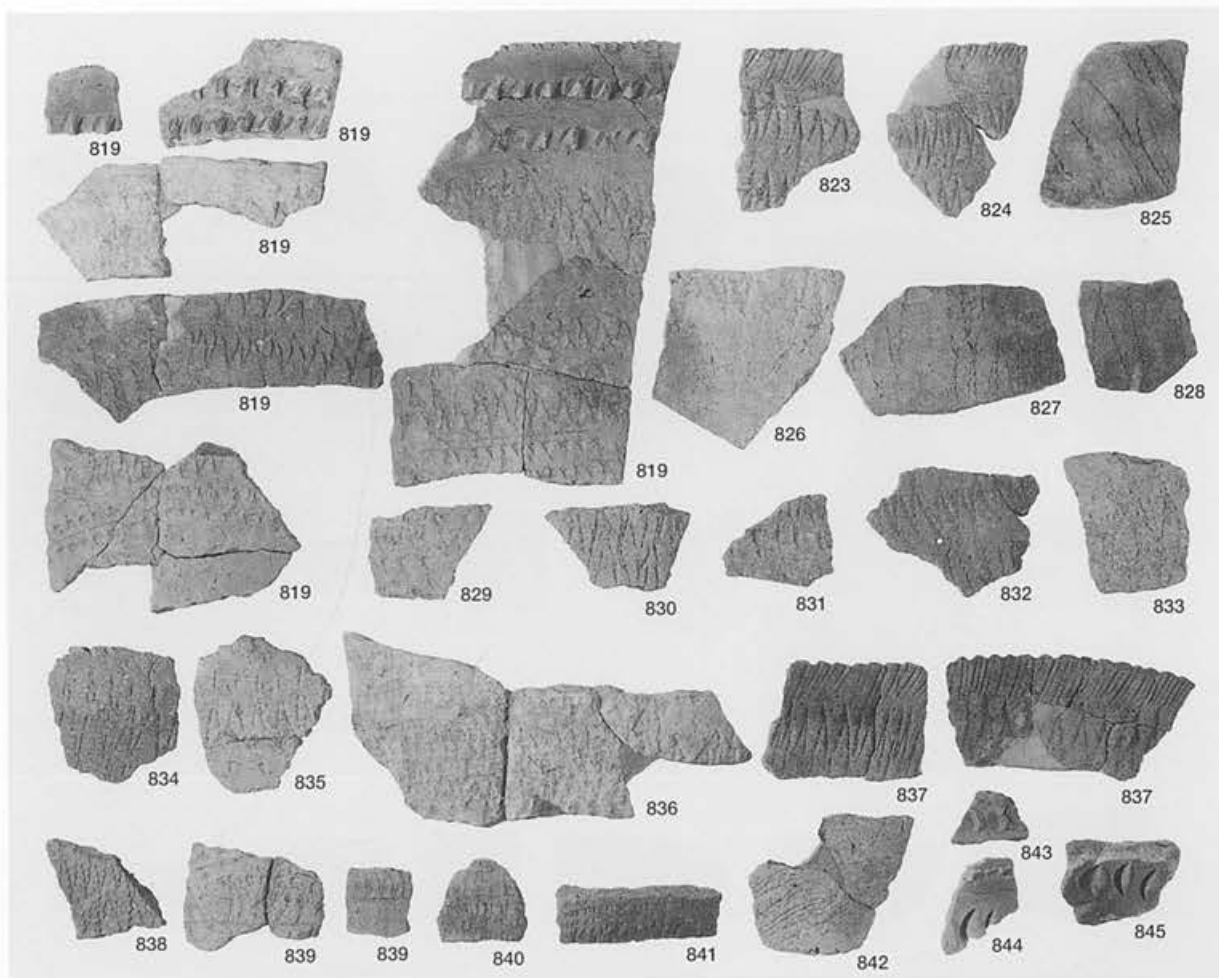
前期前半の土器 (2) (3)



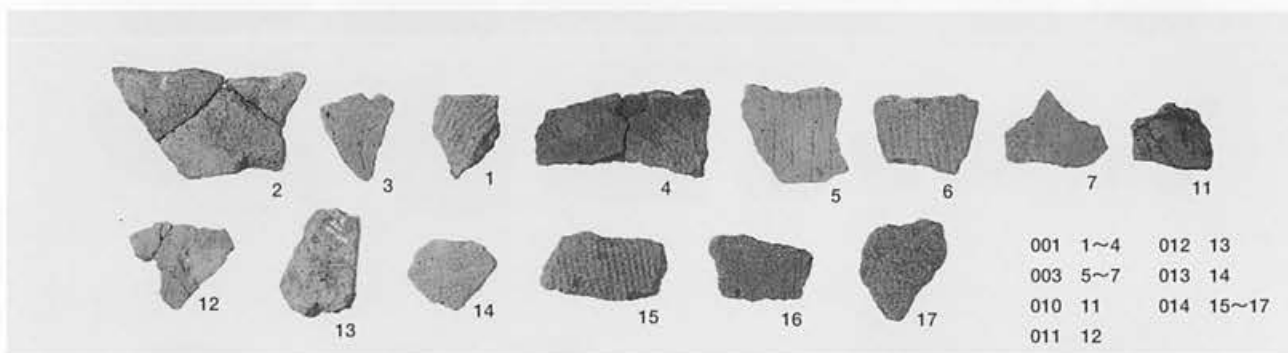
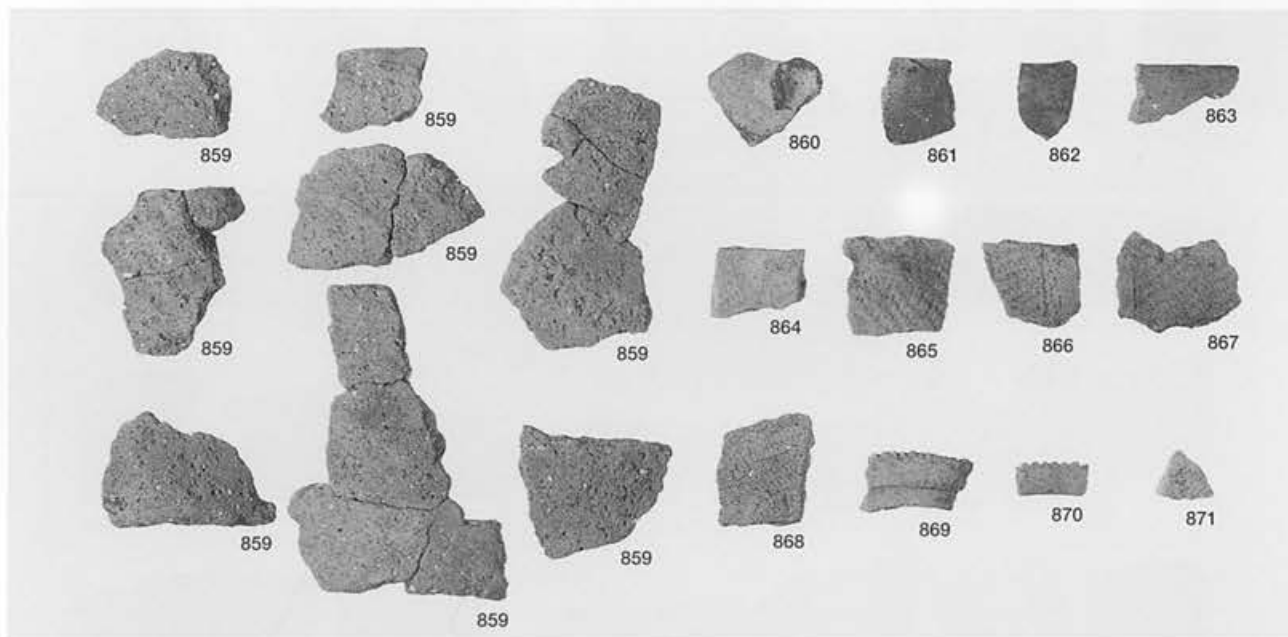
前期前半の土器 (4) (5)



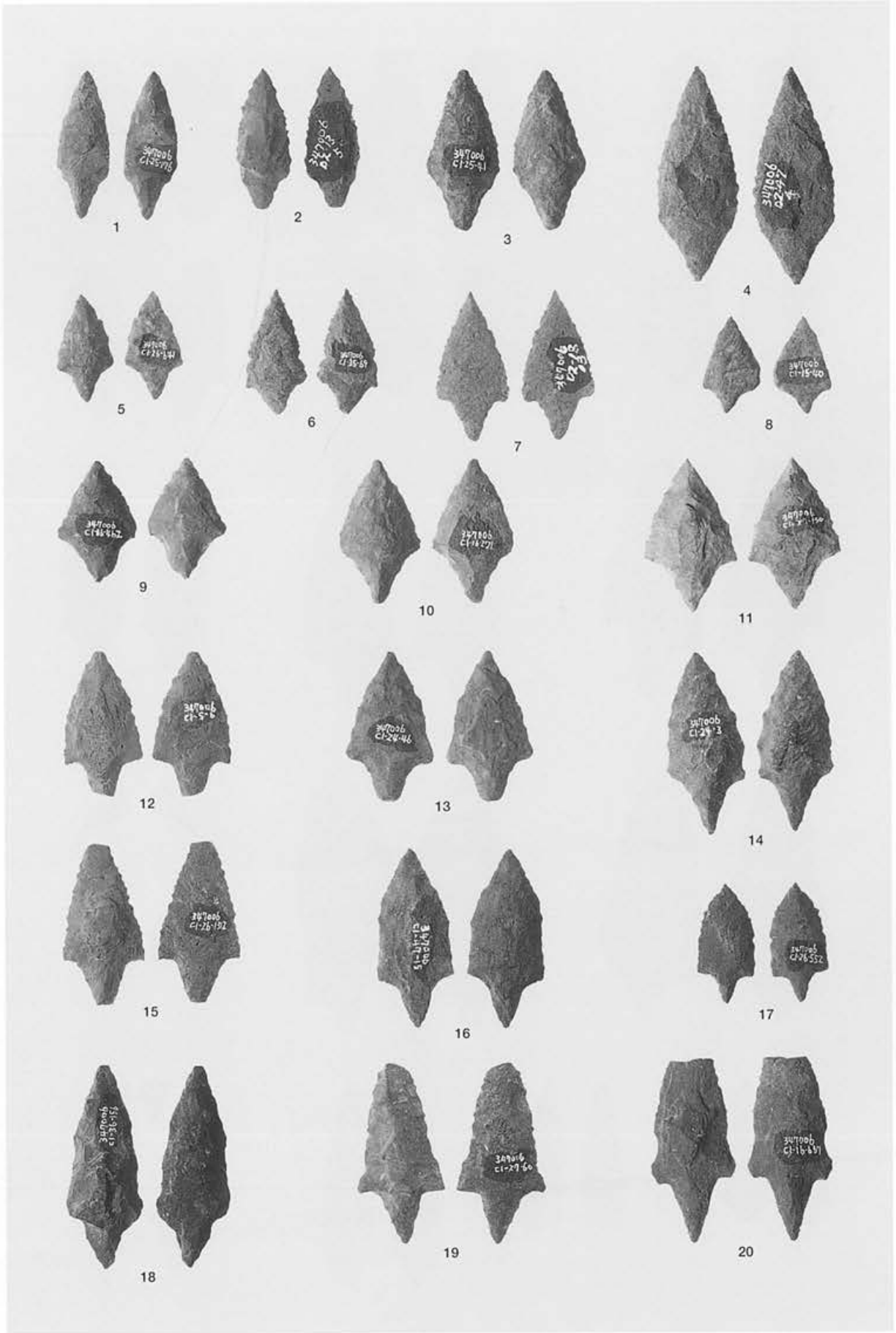
前期前半の土器（6）、前期後半の土器（1）



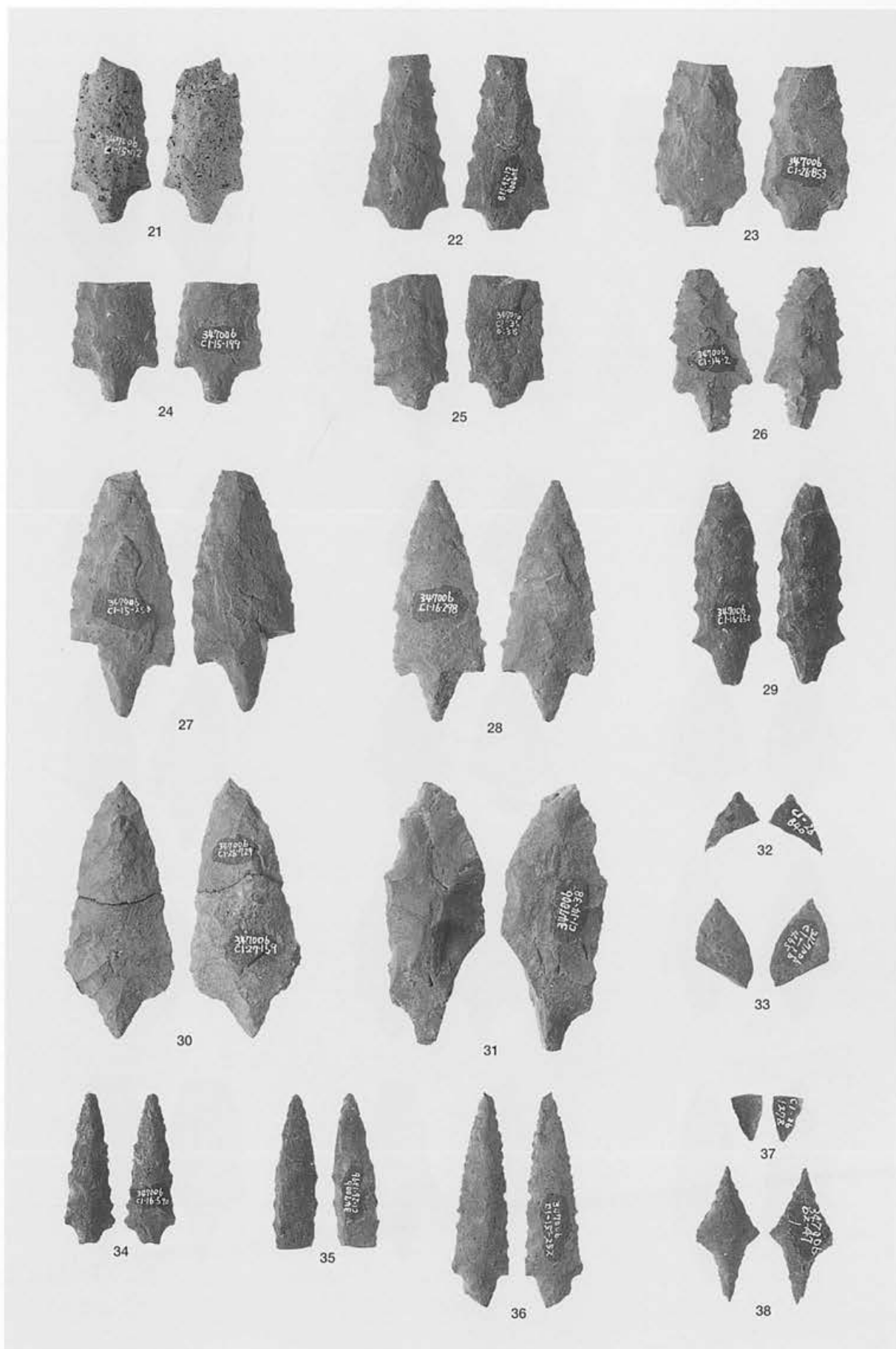
前期後半の土器(2)(3)



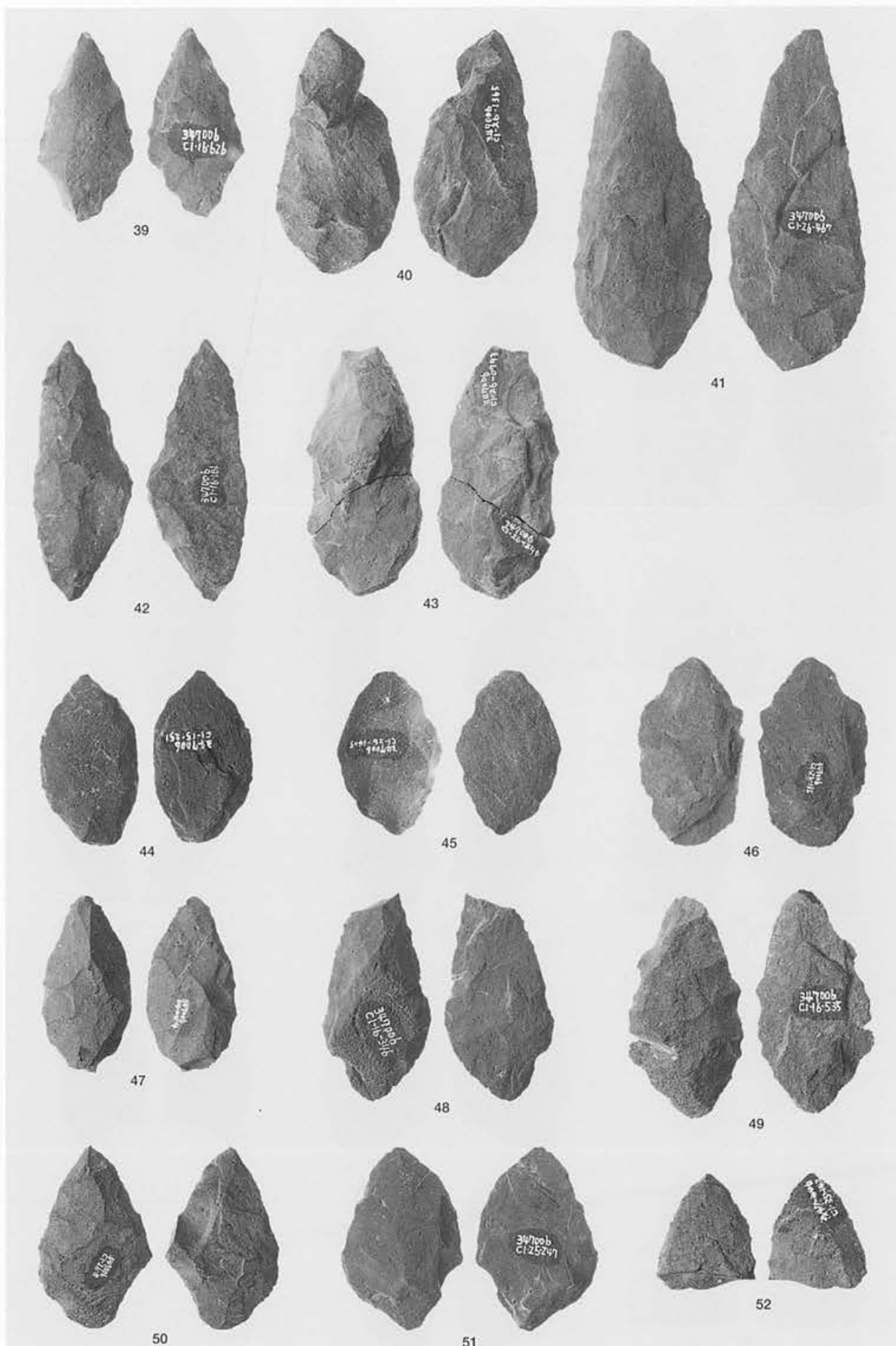
中期の土器・弥生時代の土器，遺構内出土土器，土製品



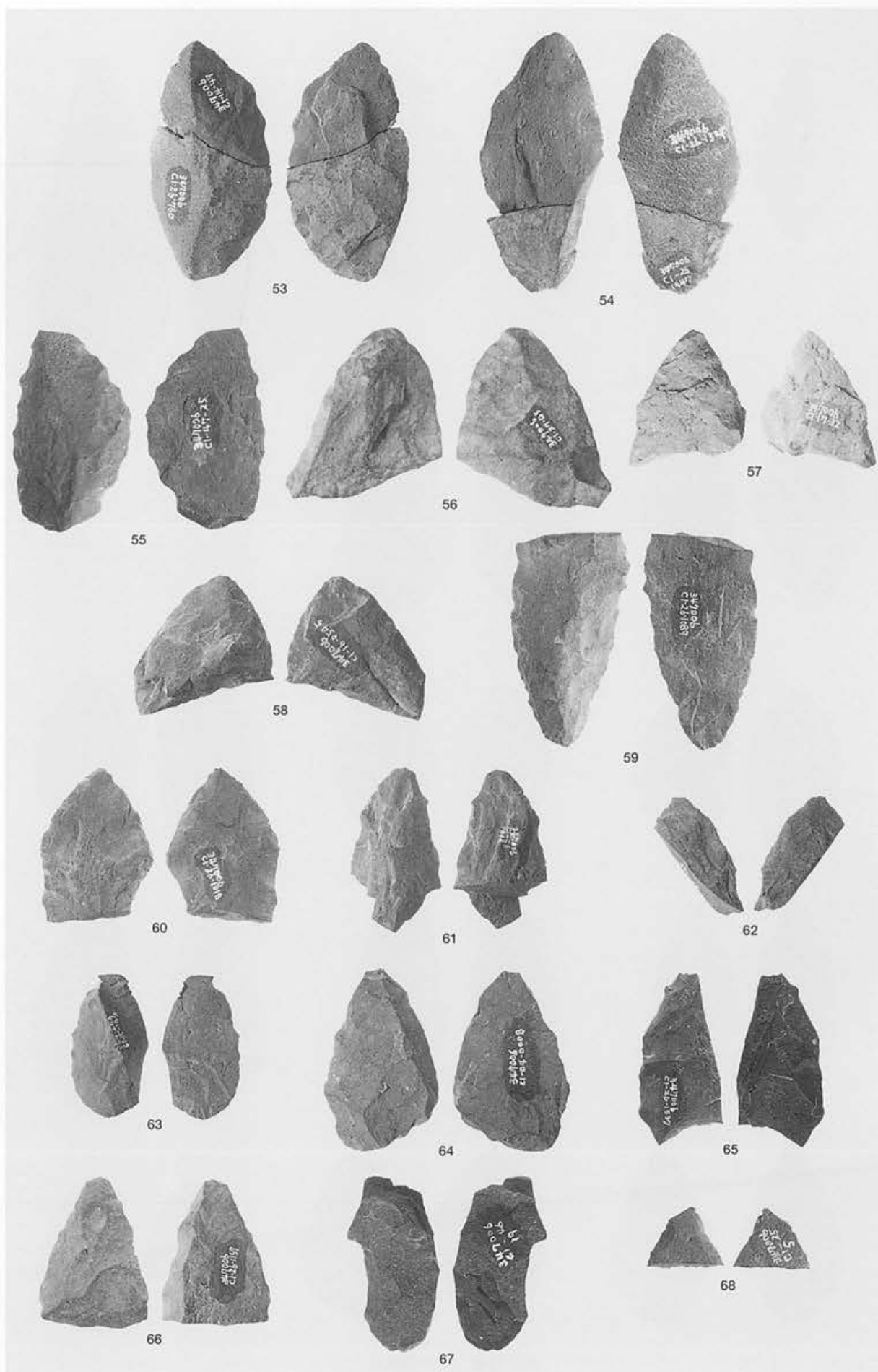
出土石器·安山岩A(1)



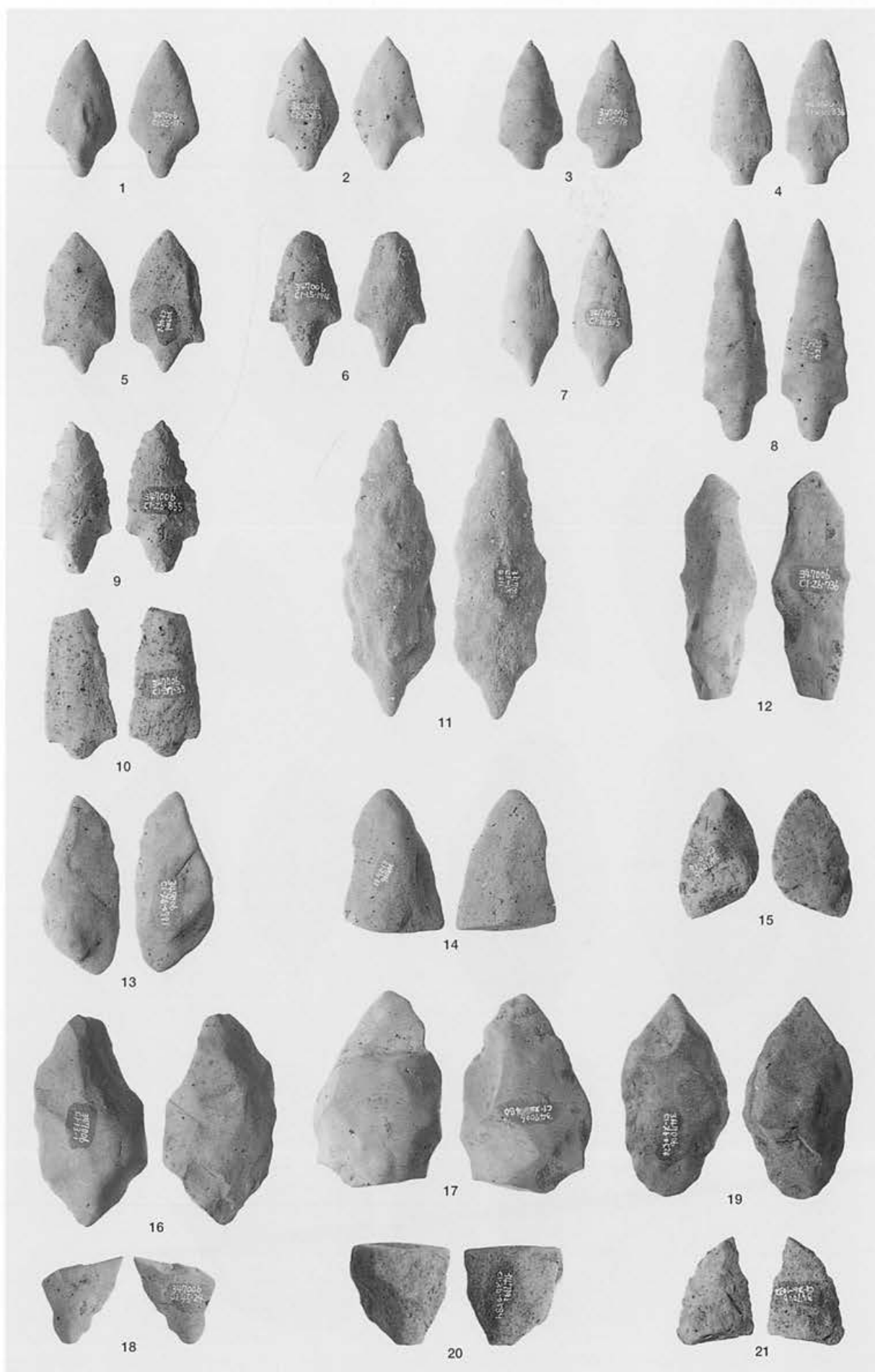
出土石器·安山岩A(2)



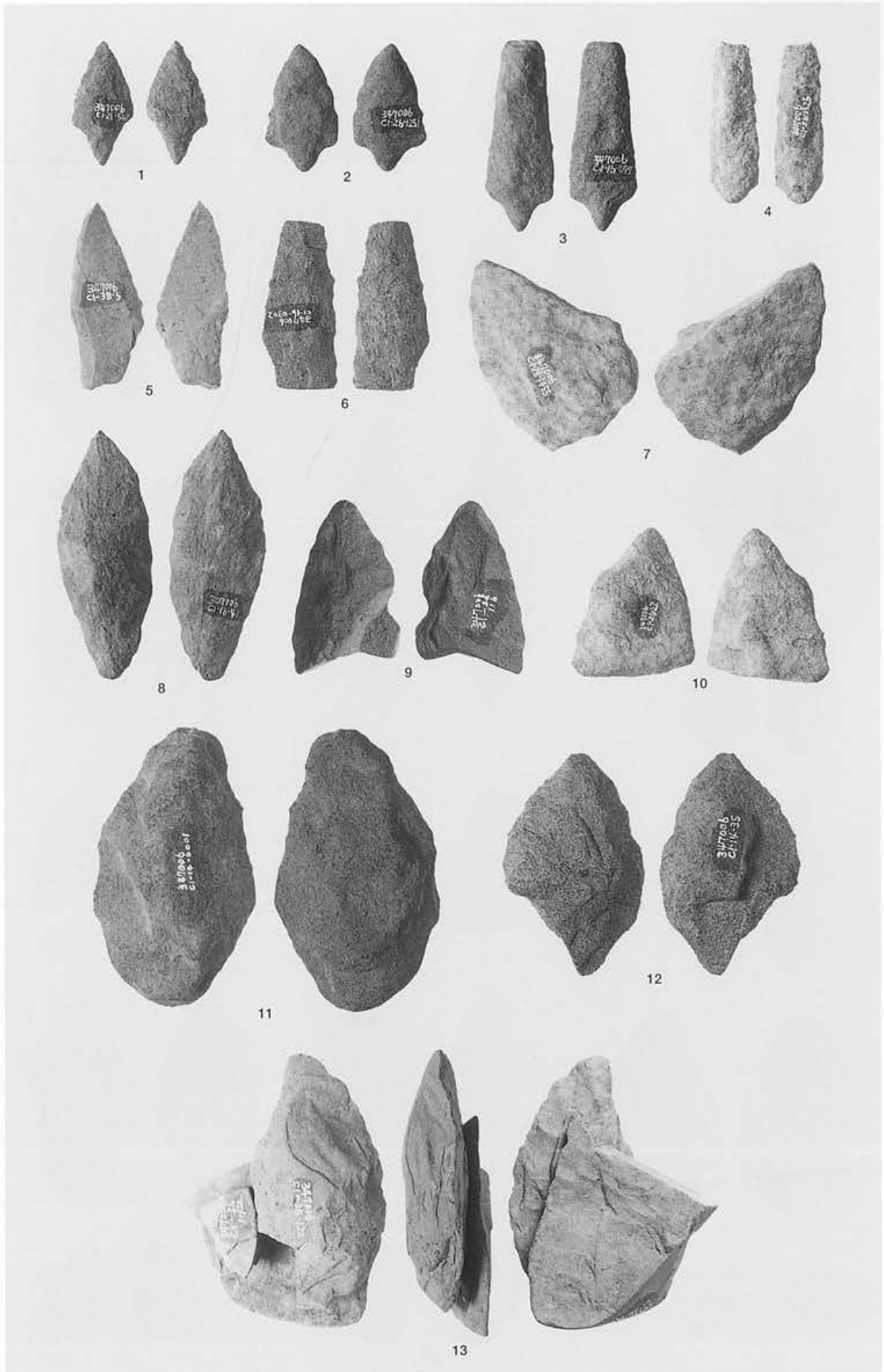
出土石器·安山岩A (3)



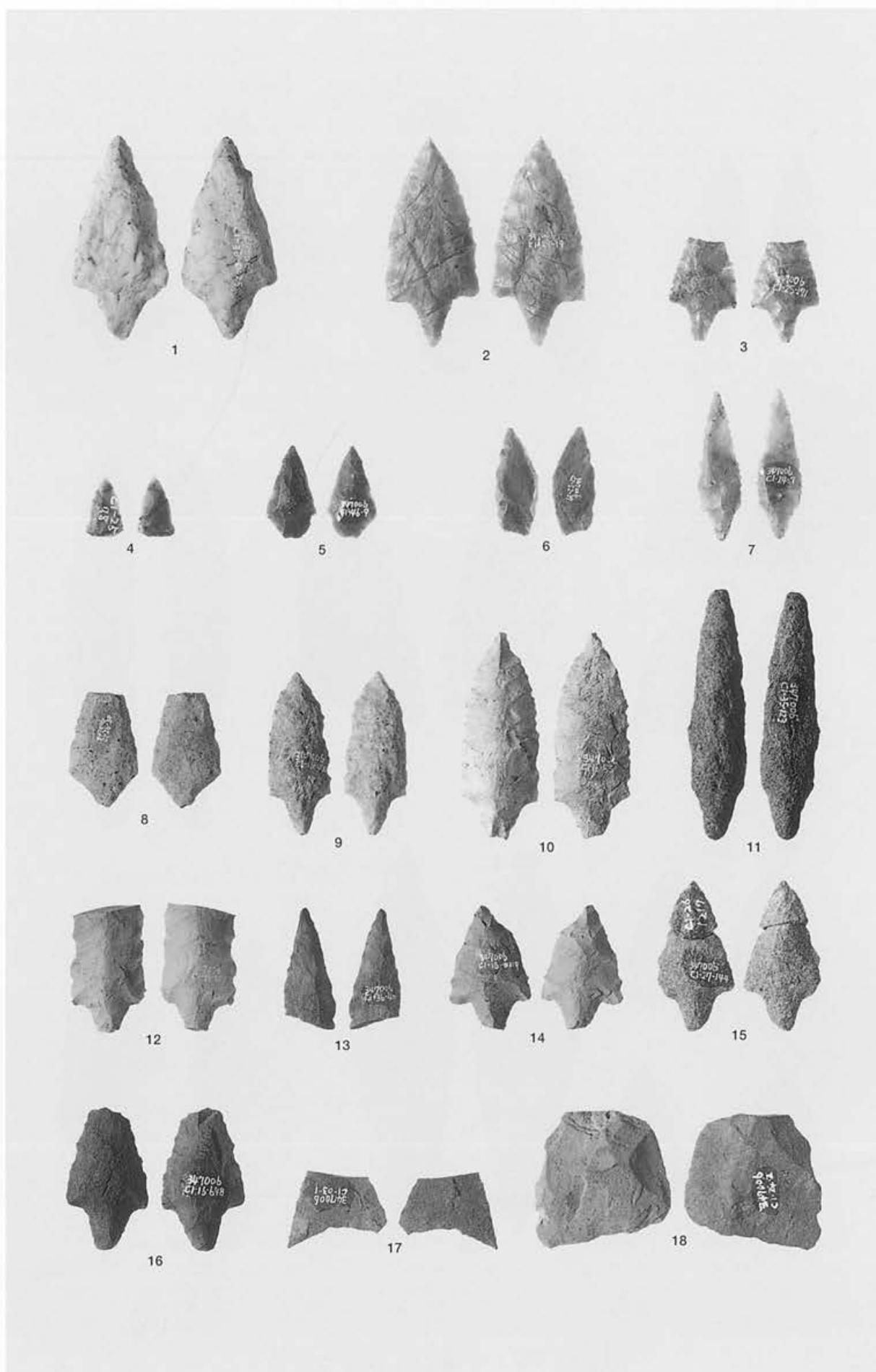
出土石器·安山岩A(4)



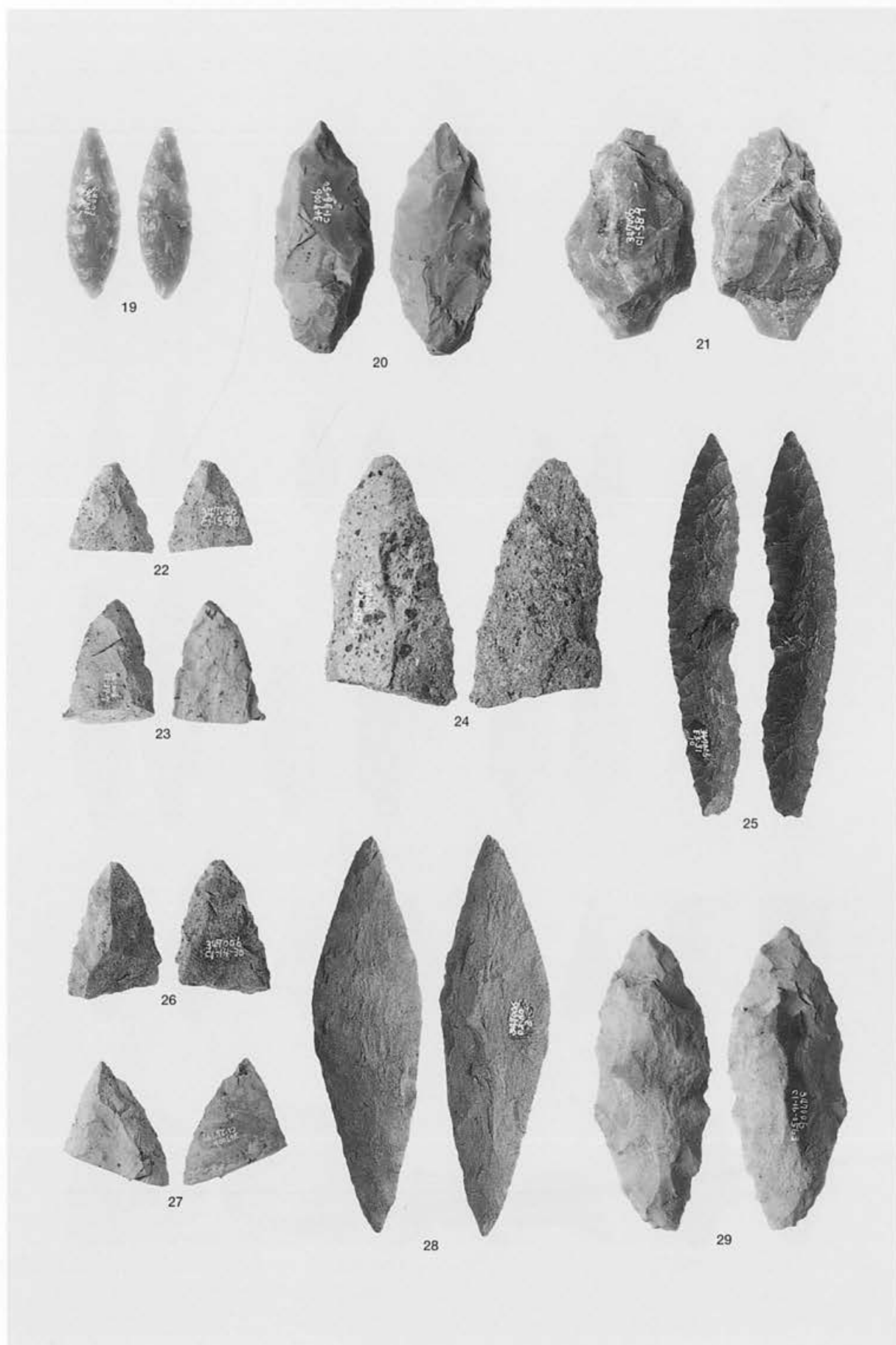
出土石器・安山岩B(卜口)



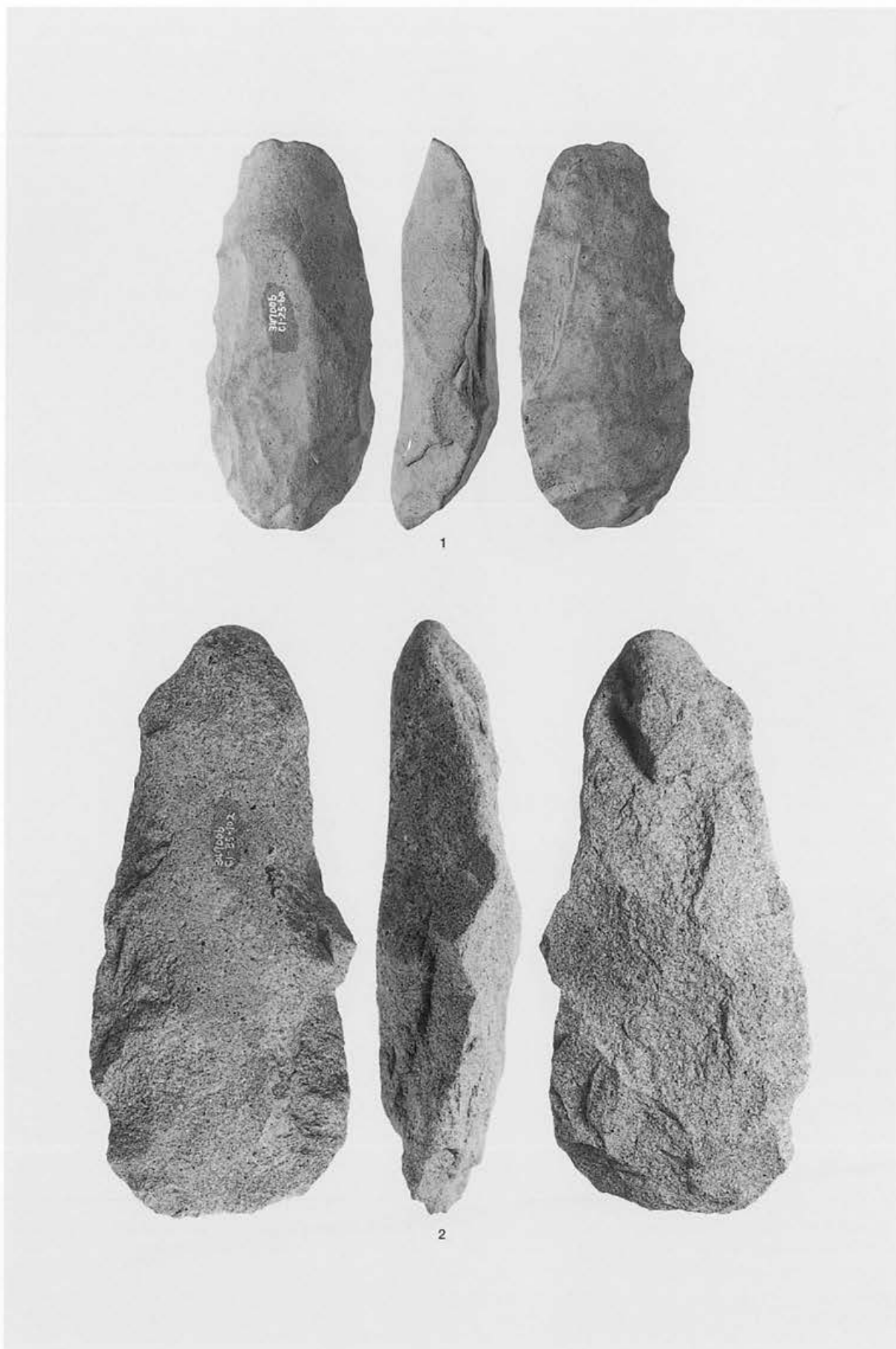
出土石器・ホルンフェルス



出土石器・チャート，流紋岩，砂岩，頁岩（1）



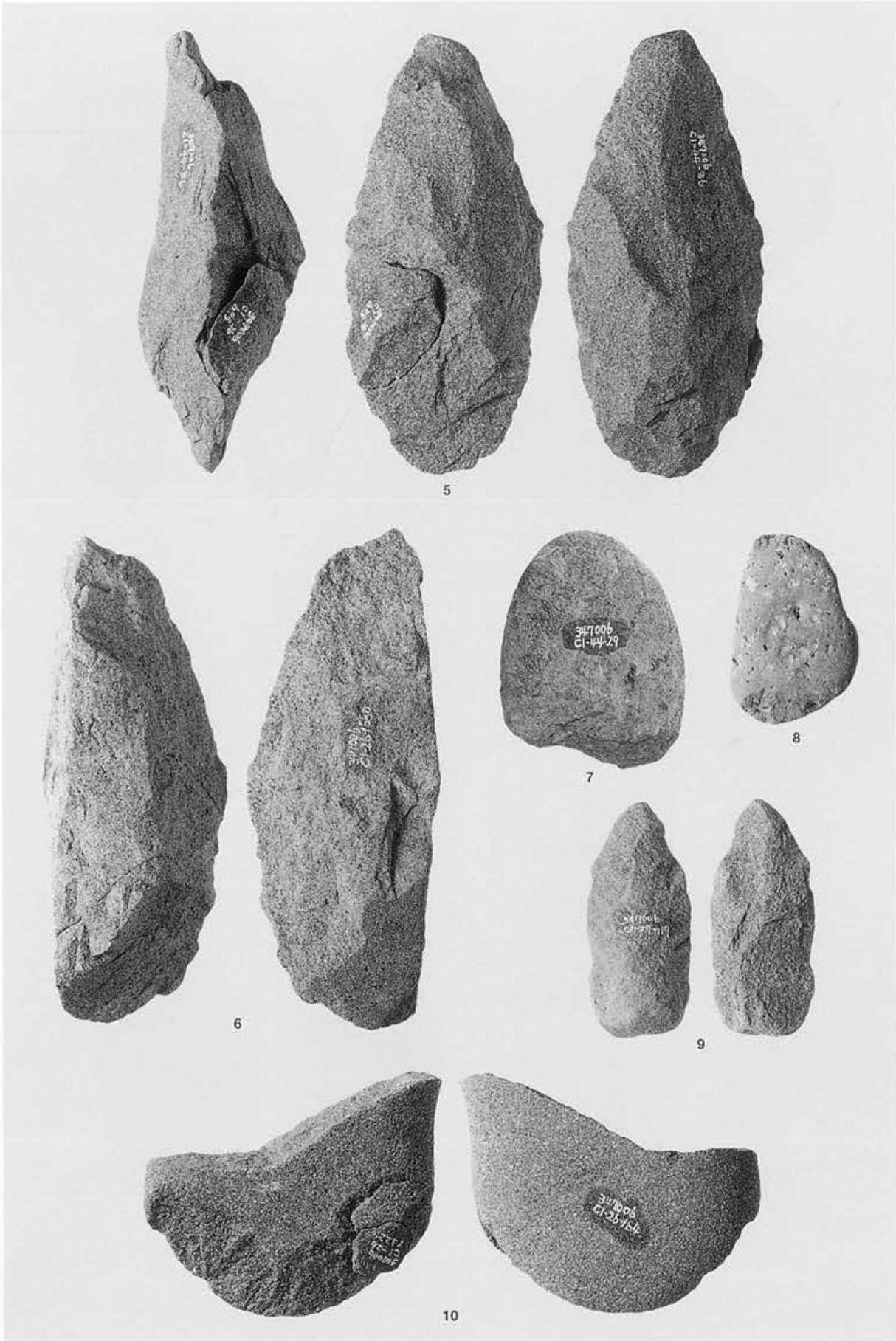
出土石器・チャート，流紋岩，砂岩，頁岩（2）



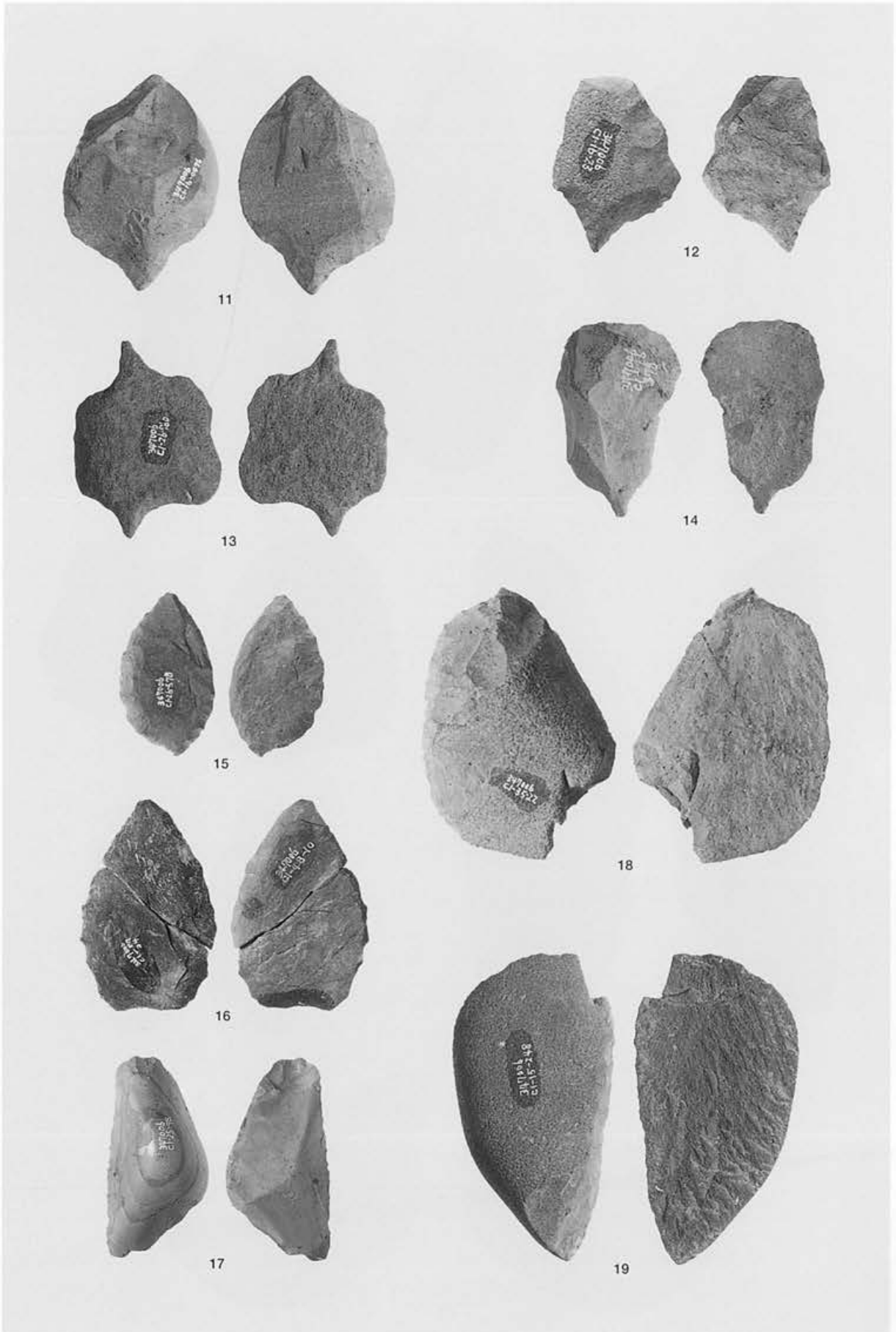
出土石器・ホルンフェルス，砂岩（1）



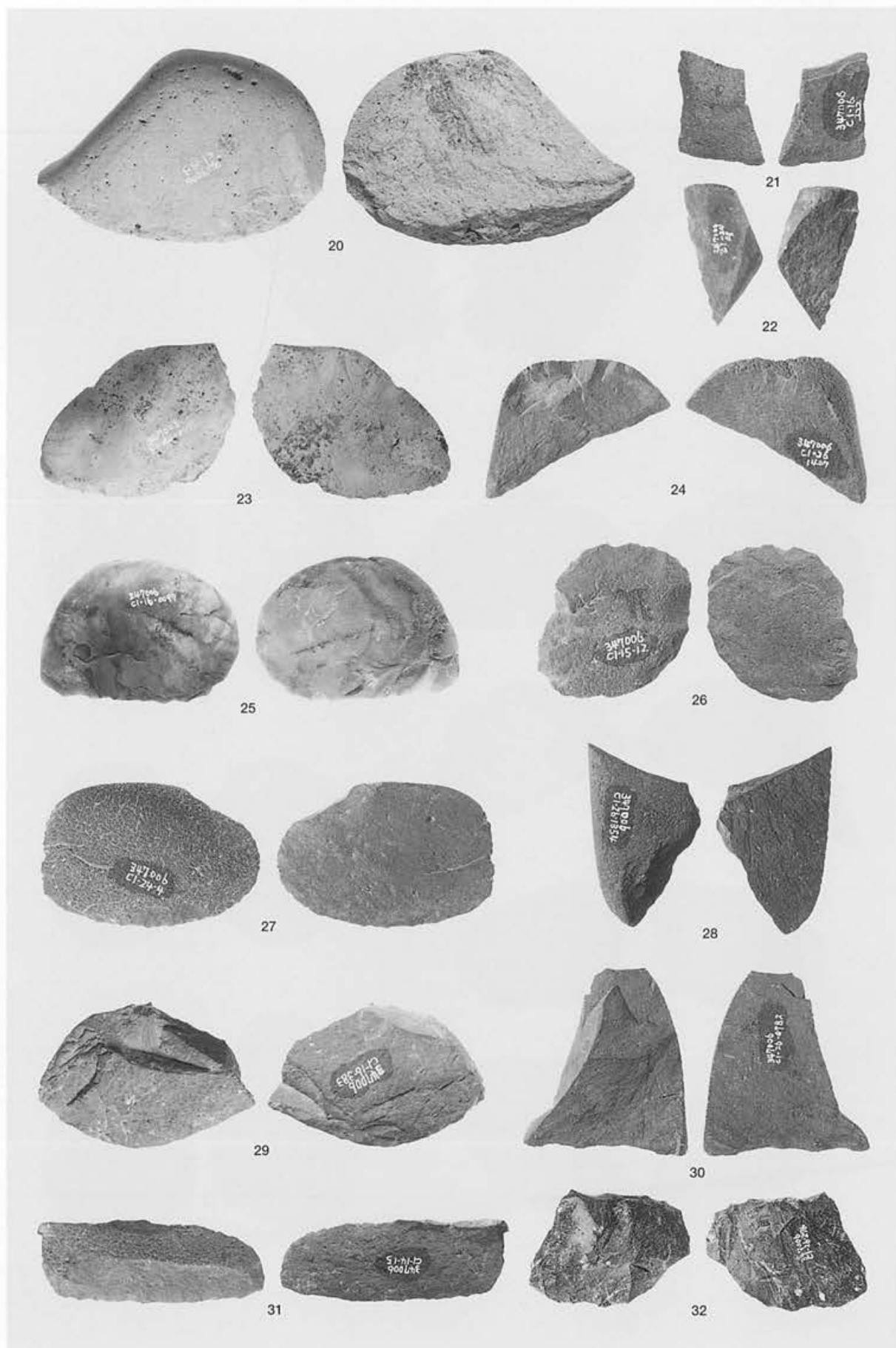
出土石器・砂岩，ホルンフェルス（2）



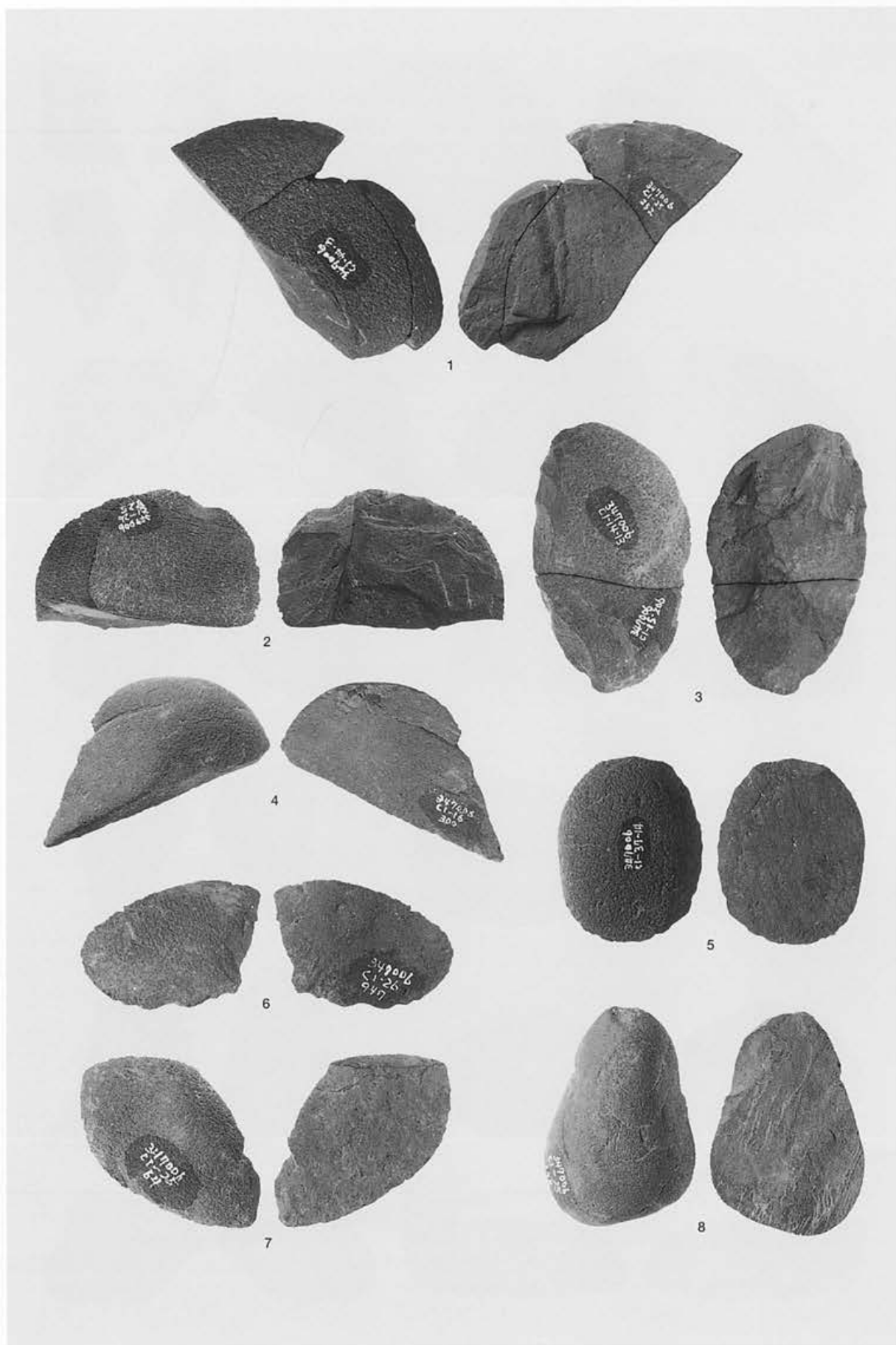
出土石器・砂岩，ホルンフェルス，流紋岩（3）



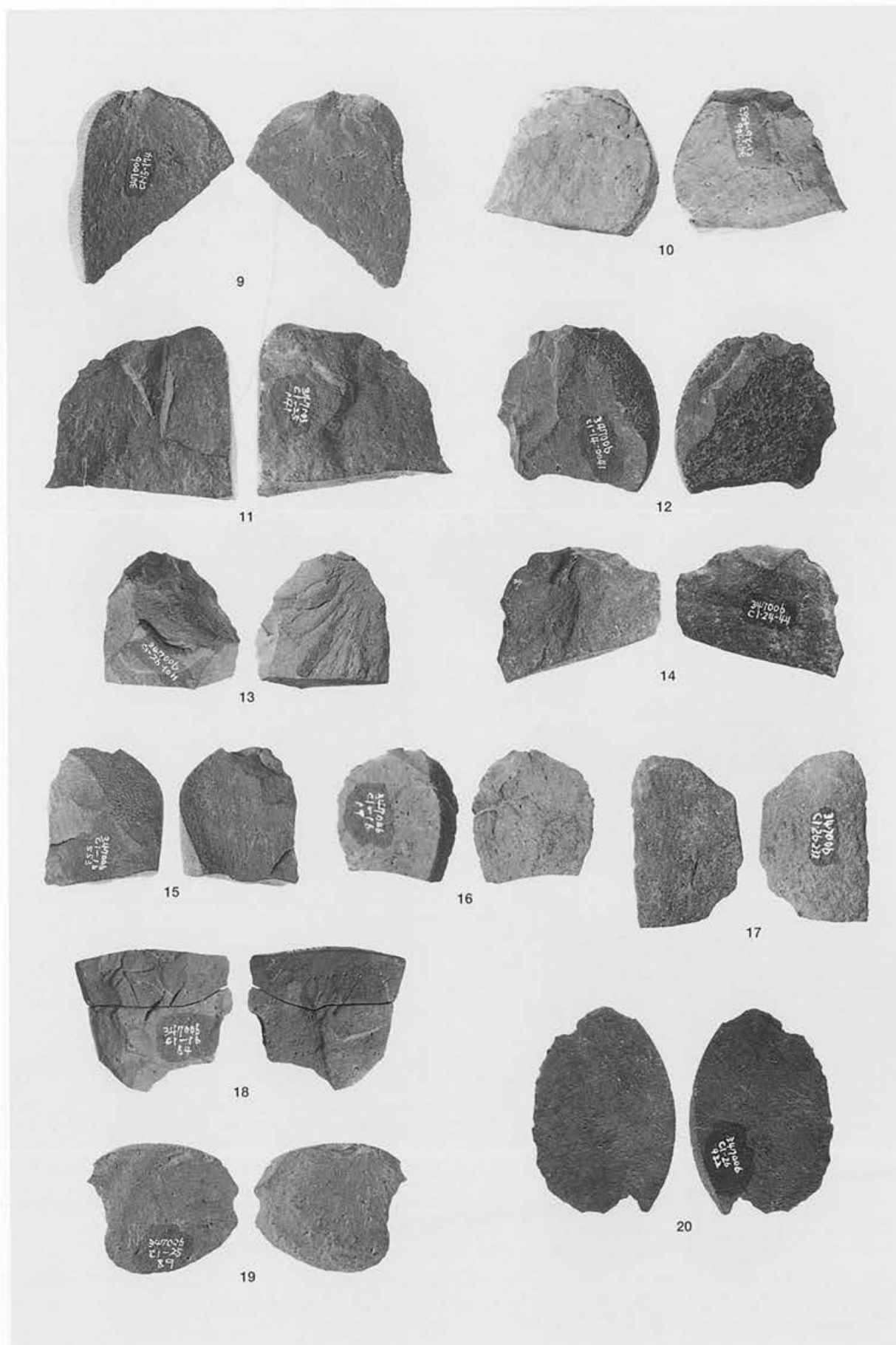
出土石器・ホルンフェルス, 頁岩, チャート, 安山岩A (4)



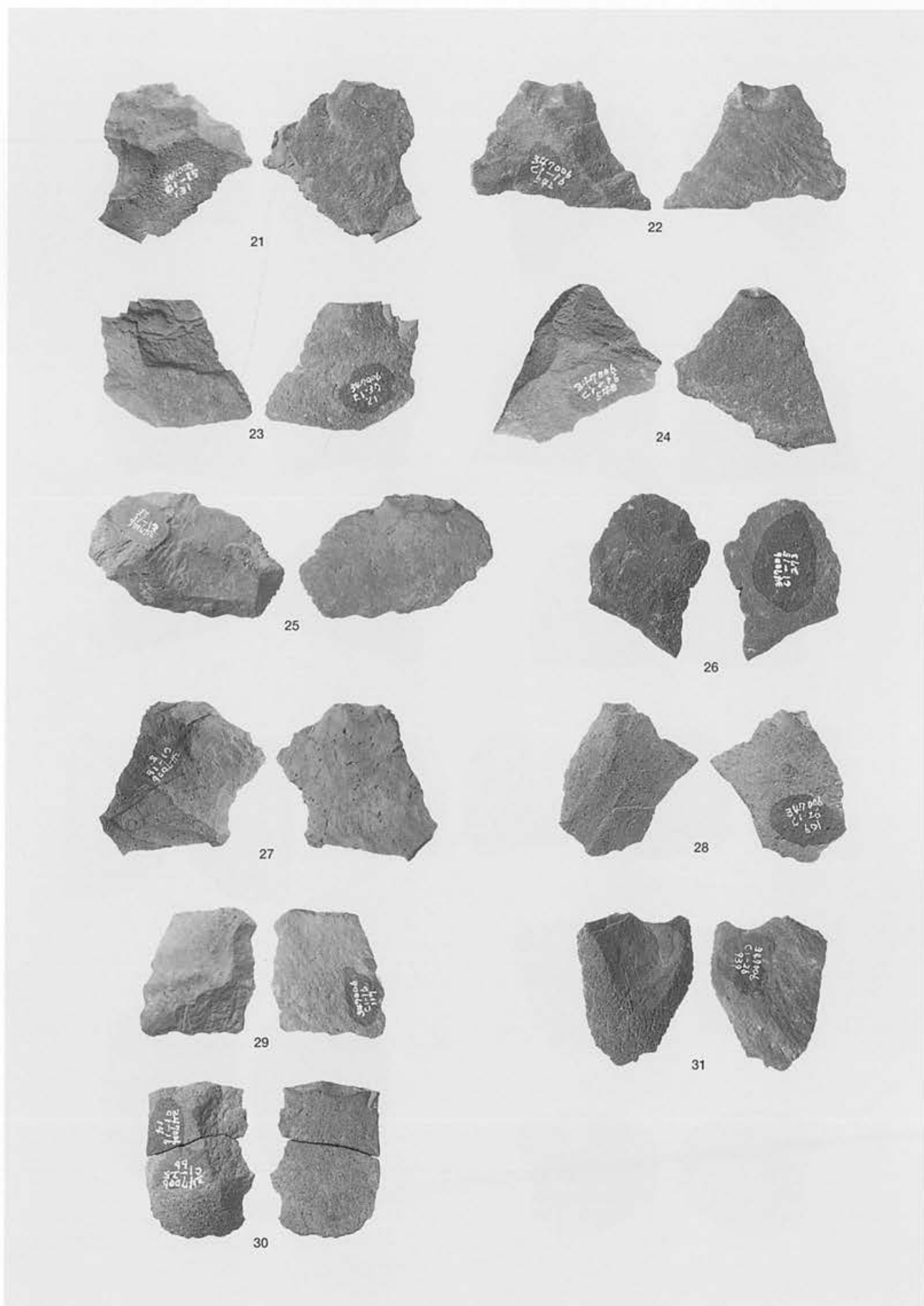
出土石器・頁岩, 安山岩A, チャート, 珪質頁岩 (5)



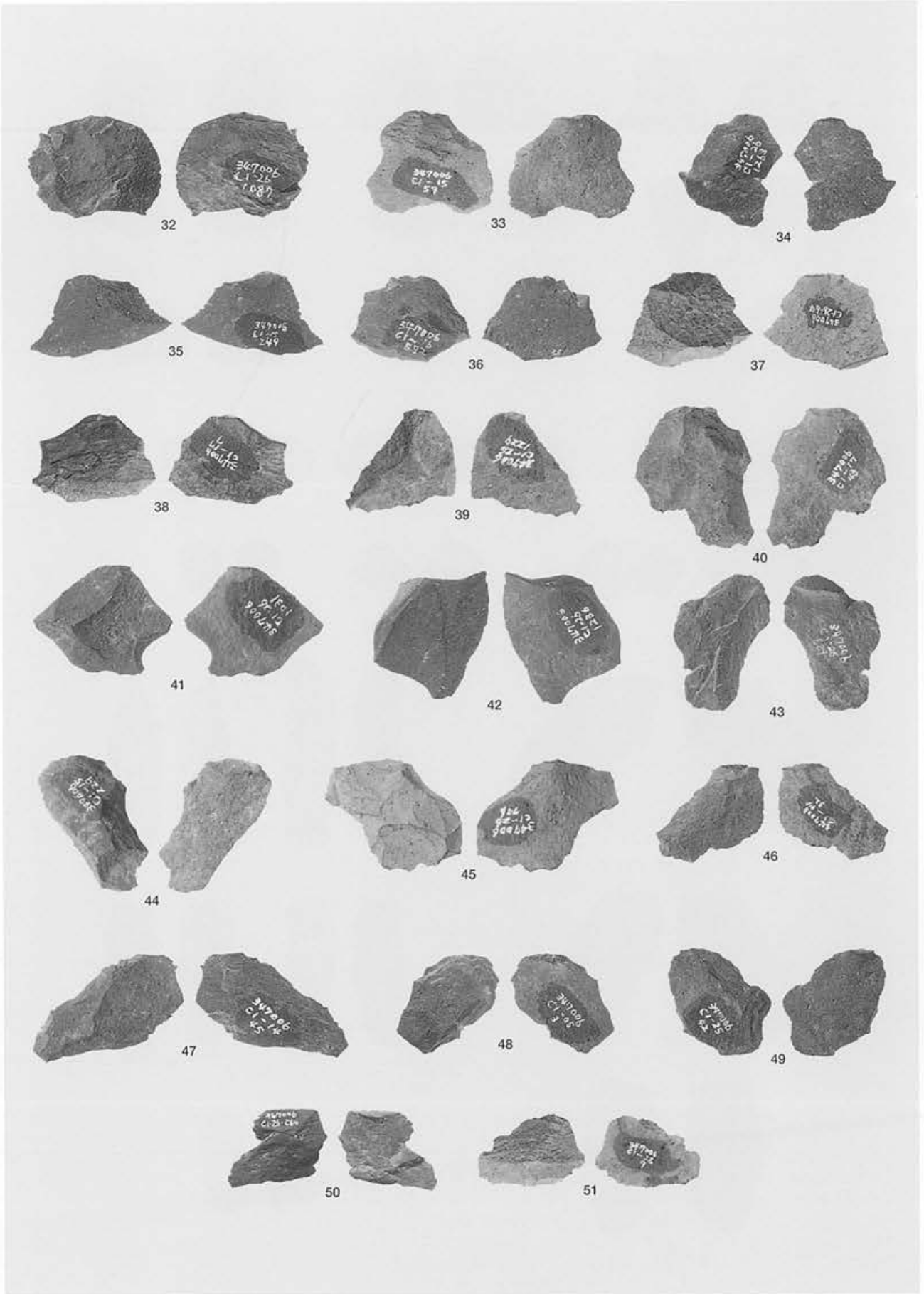
出土石器·安山岩A(1)



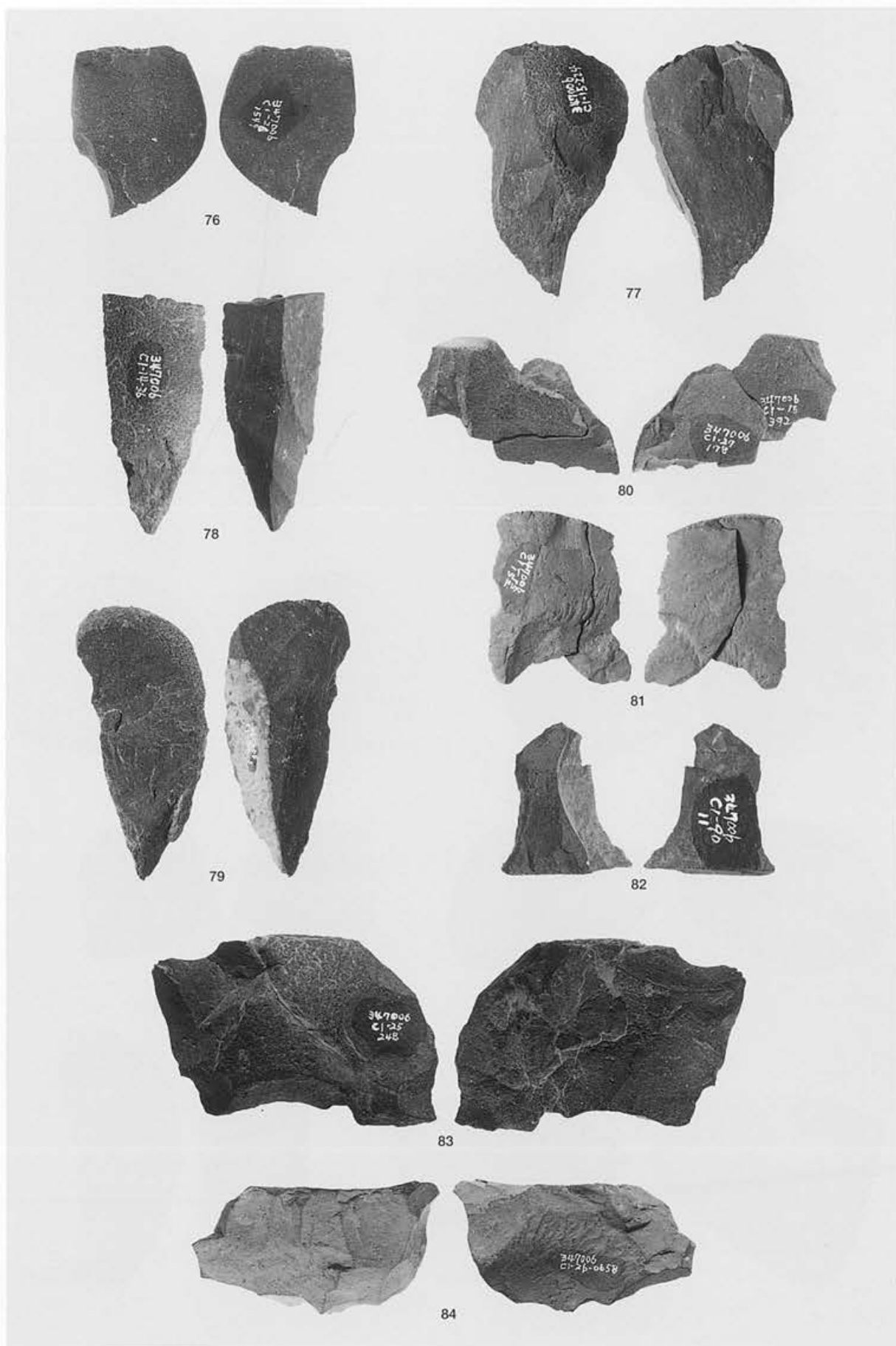
出土石器·安山岩A(2)



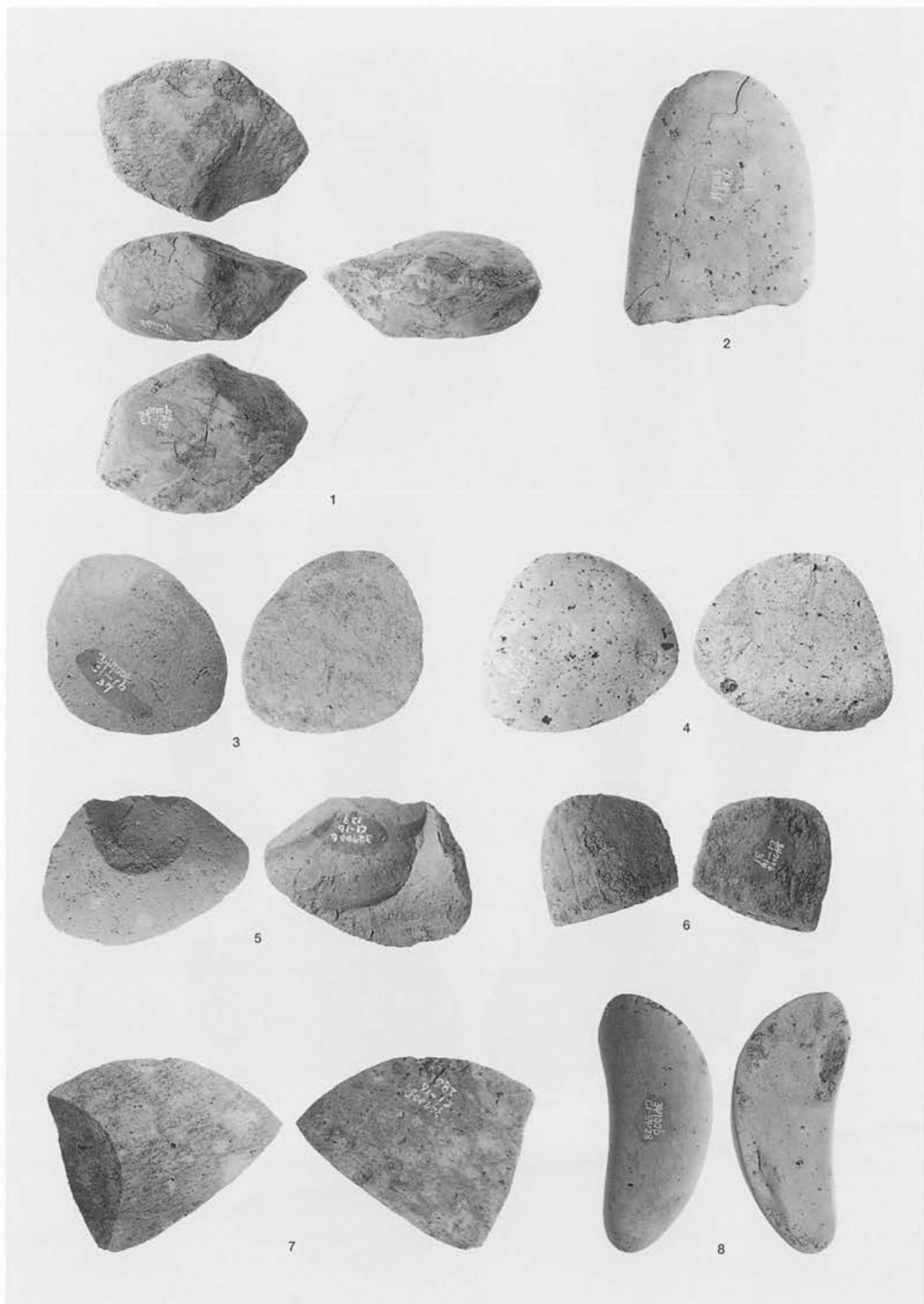
出土石器·安山岩A(3)



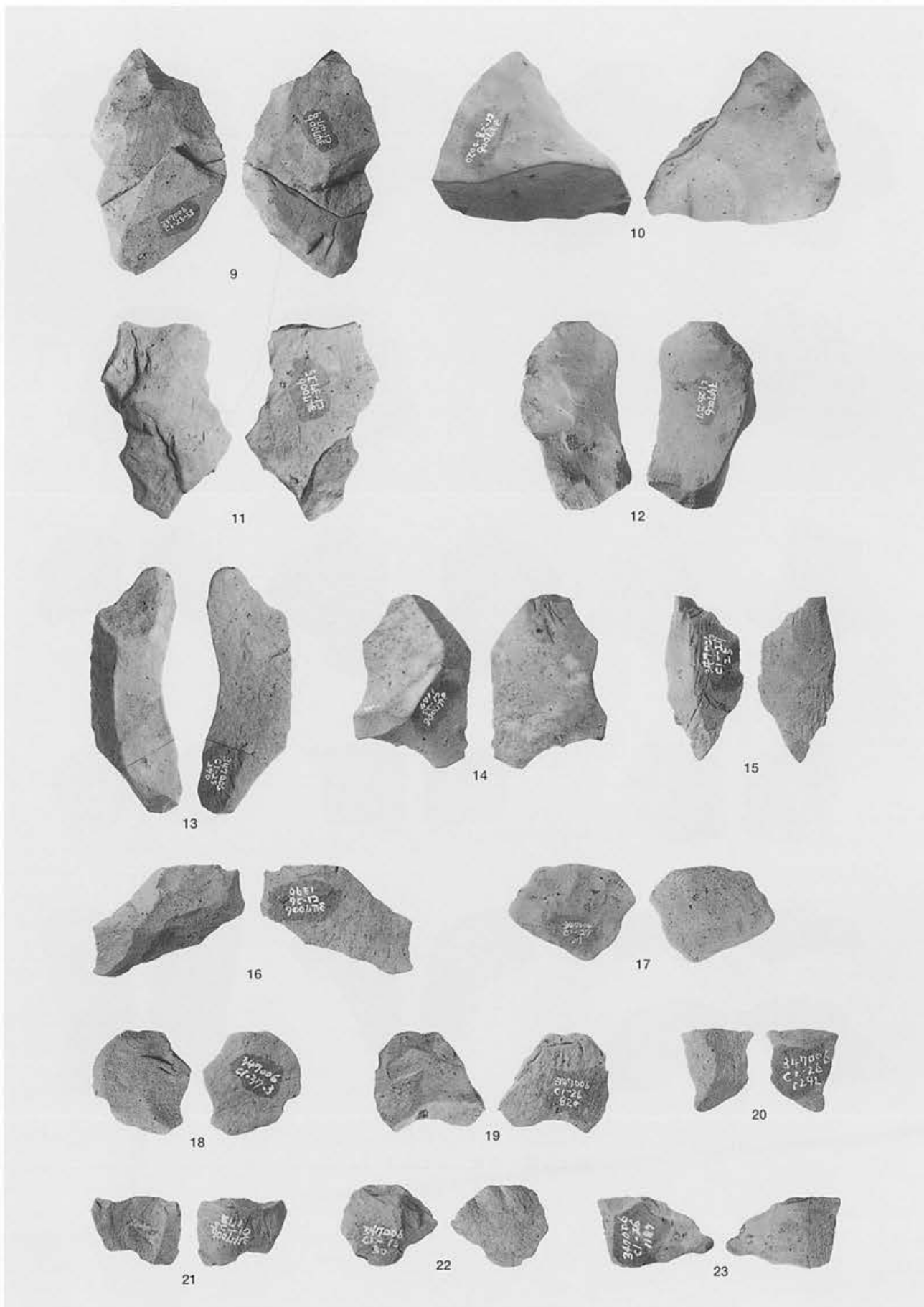
出土石器·安山岩A(4)



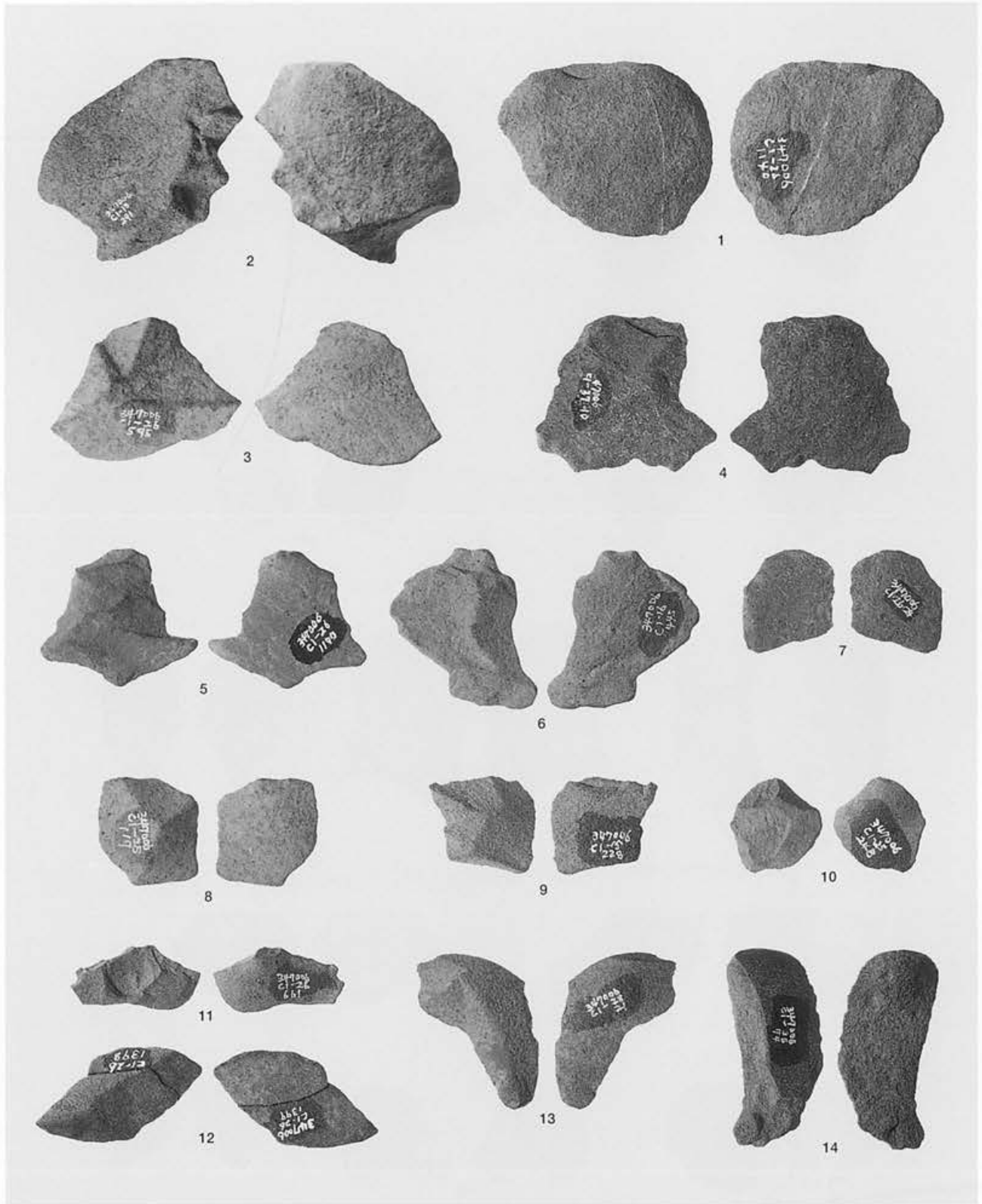
出土石器·安山岩A(6)



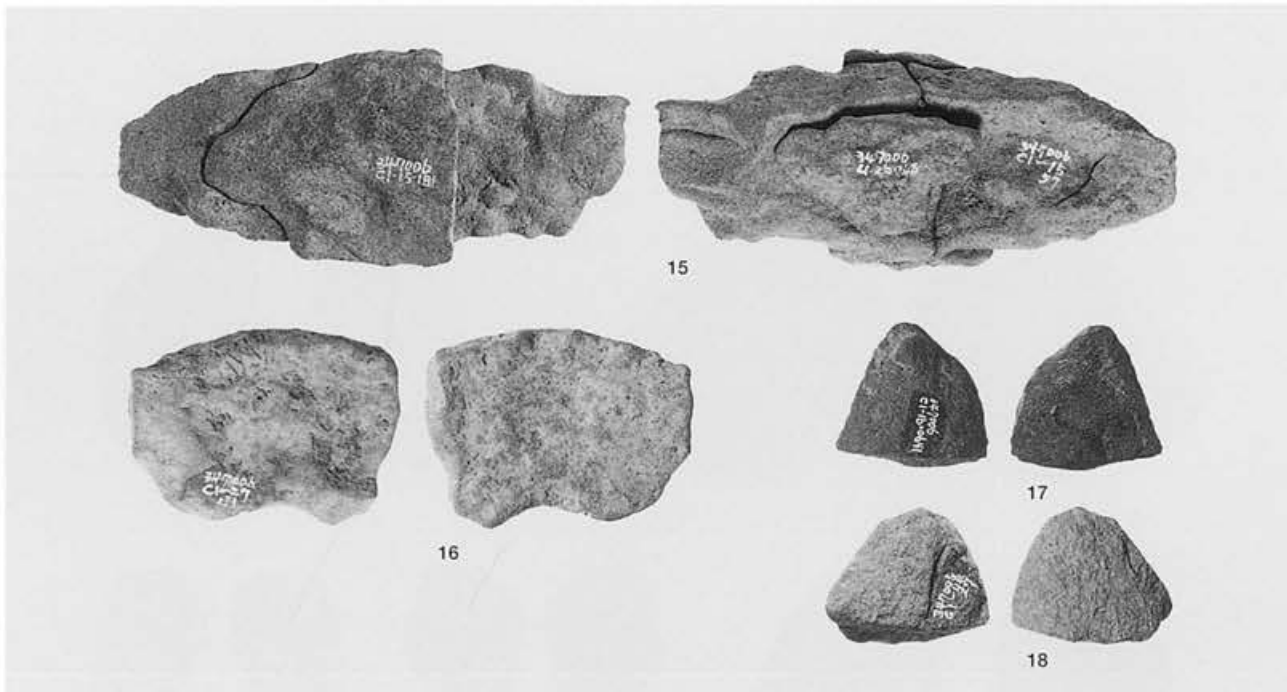
出土石器·安山岩B(1)



出土石器·安山岩B(2)



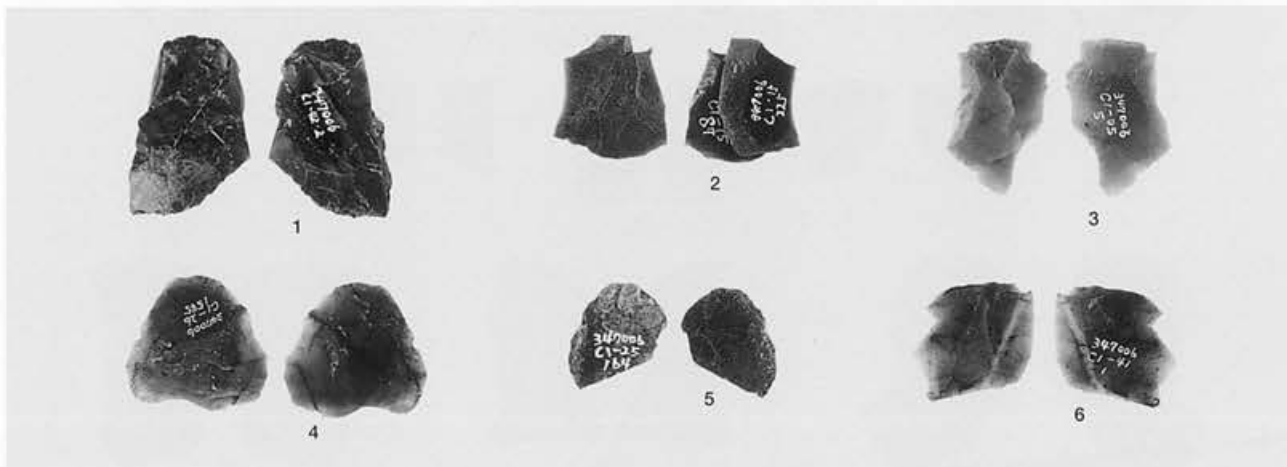
出土石器・ホルンフェルス (1)



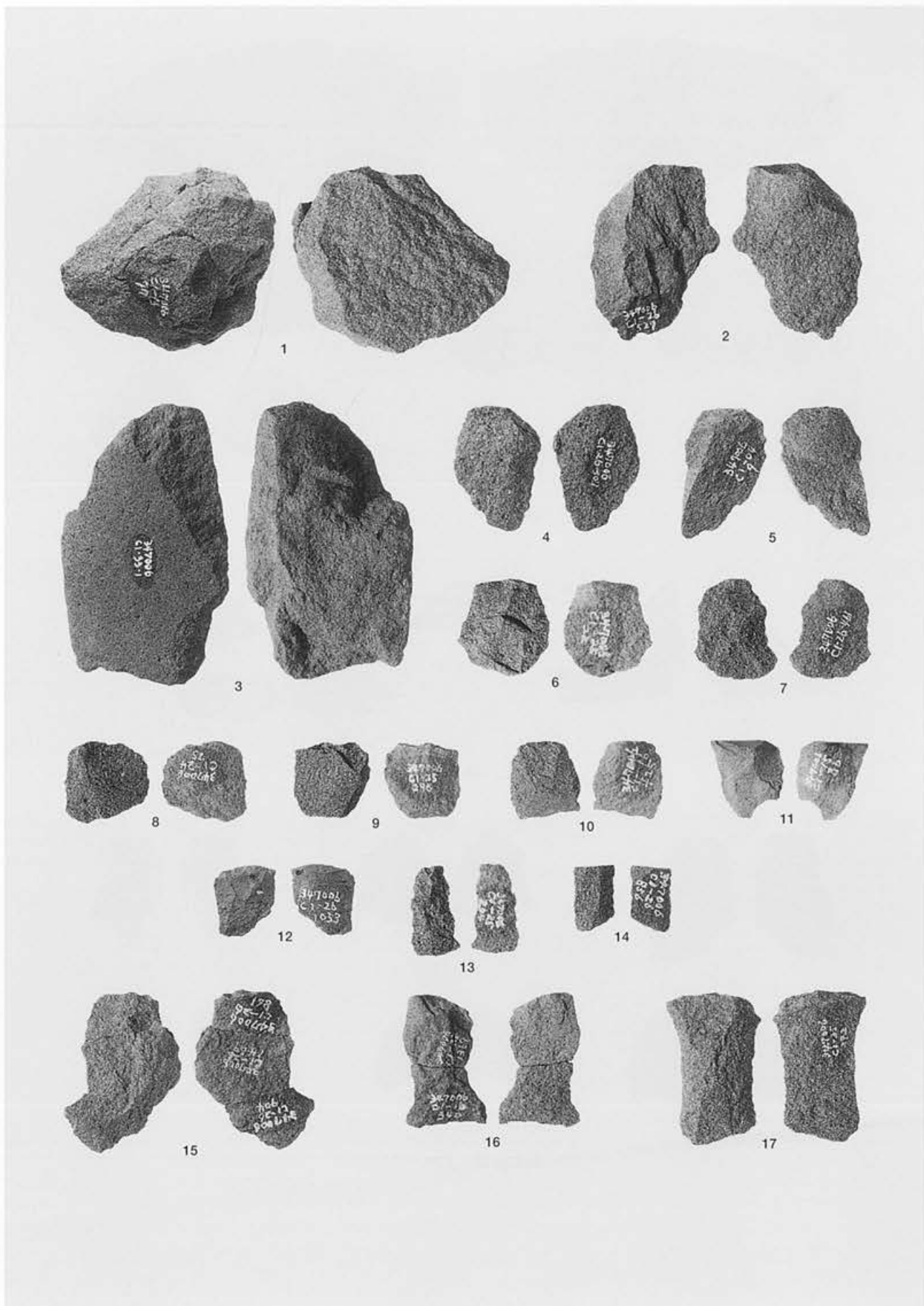
出土石器・ホルンフェルス (2)



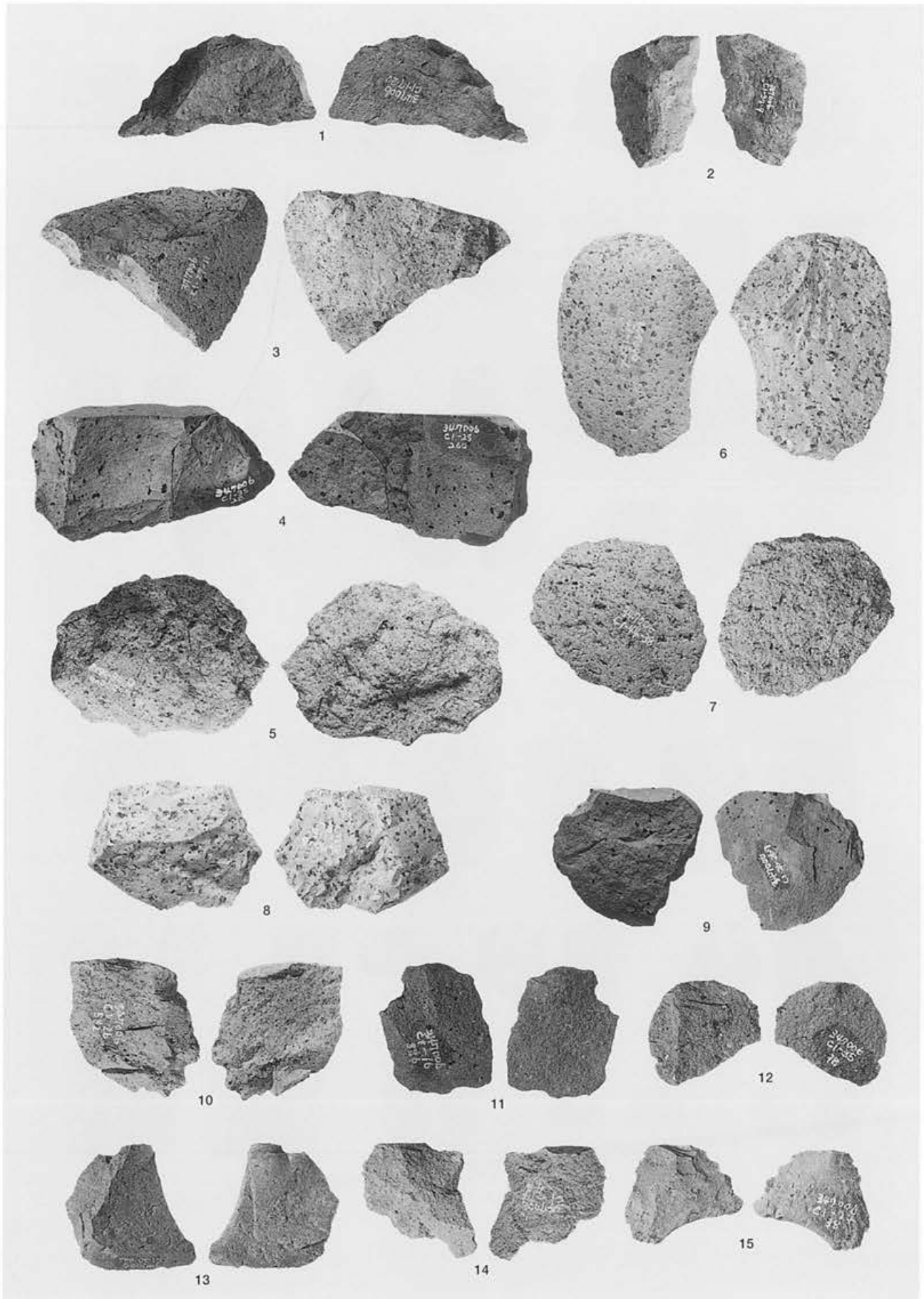
出土石器・凝灰岩



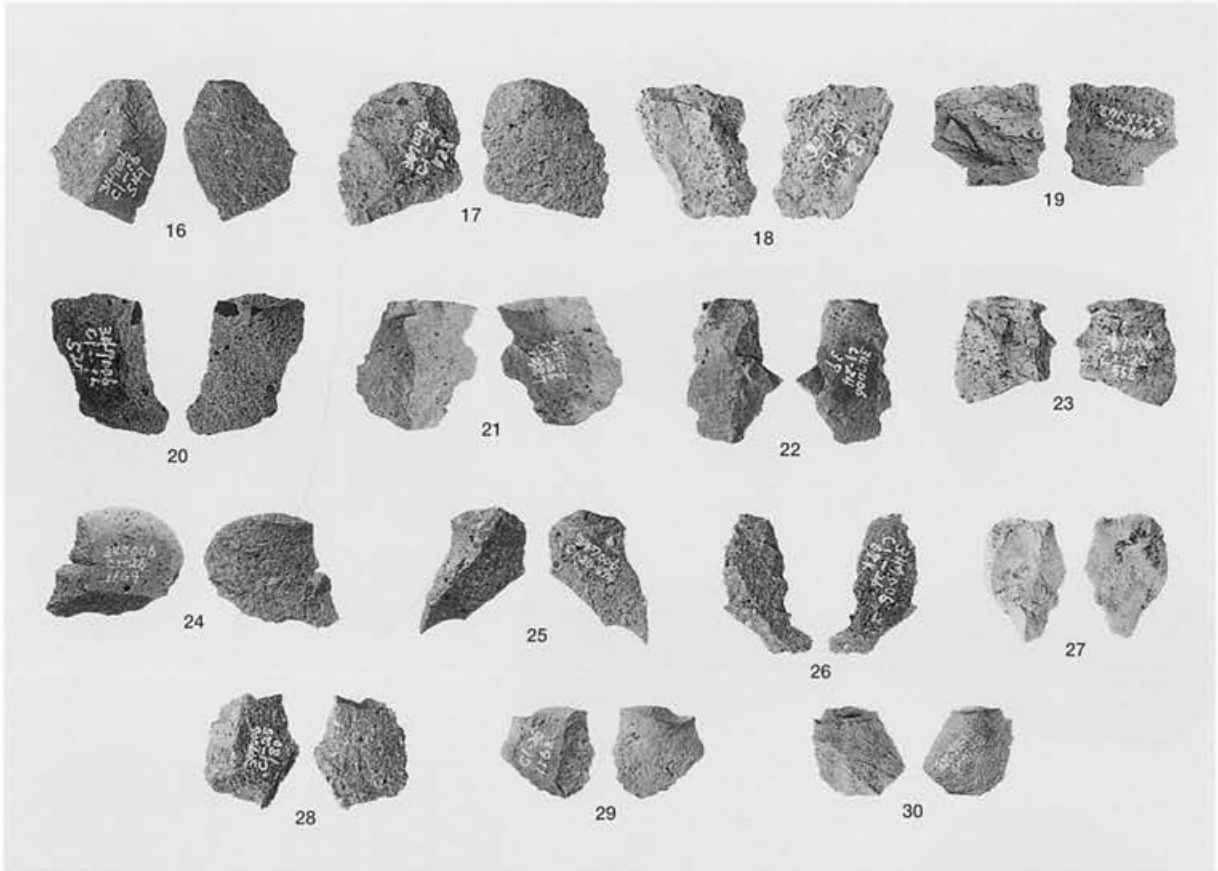
出土石器・チャート



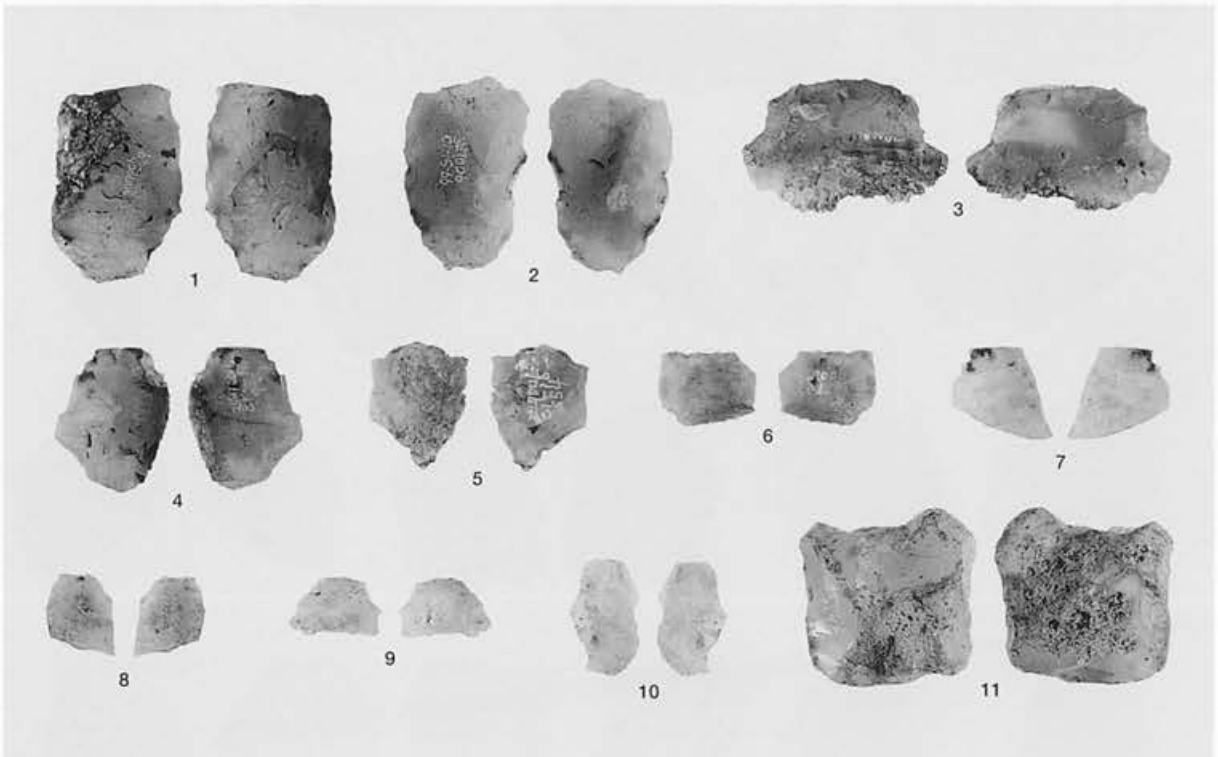
出土石器·砂岩



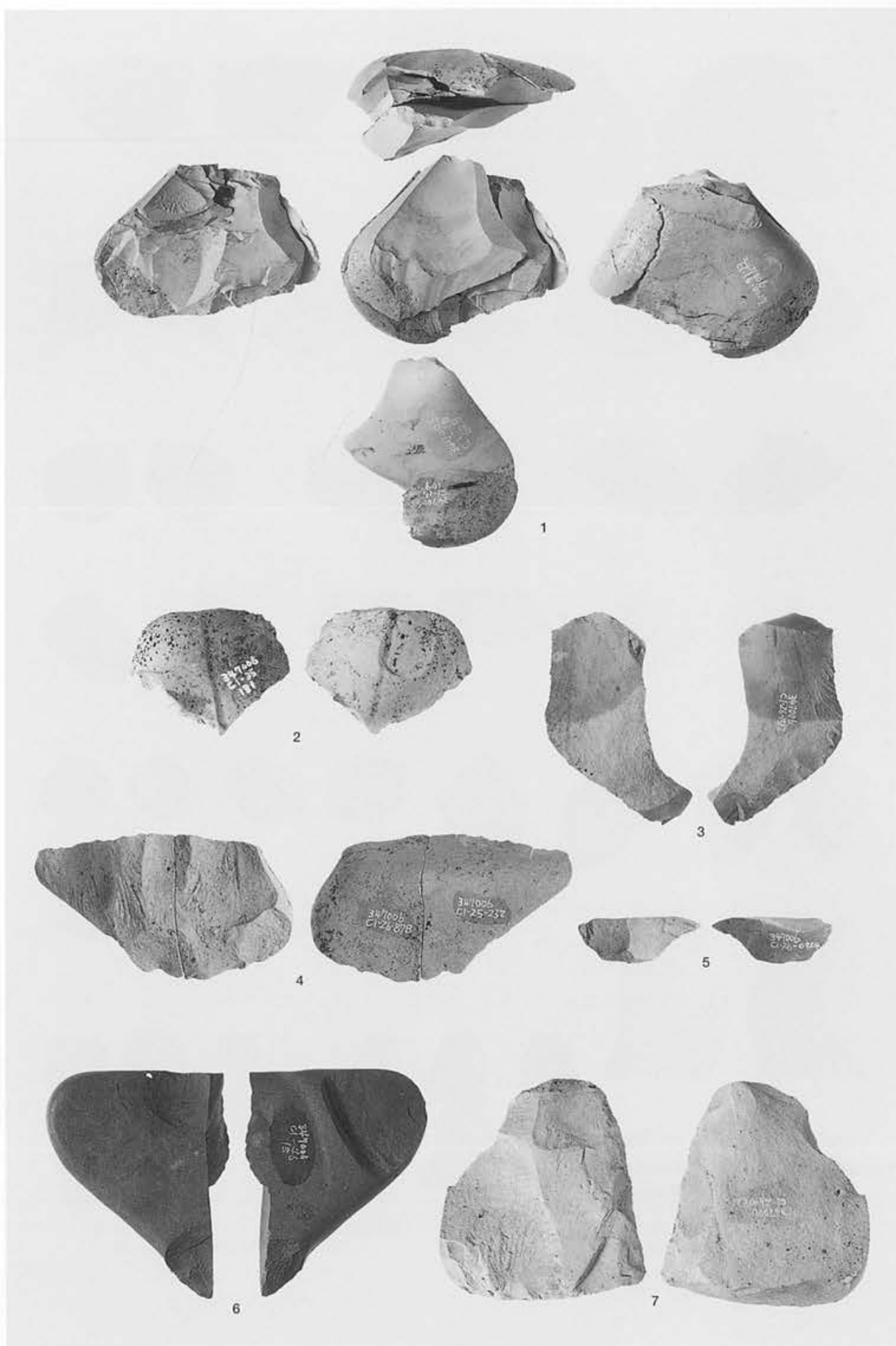
出土石器・流紋岩（1）



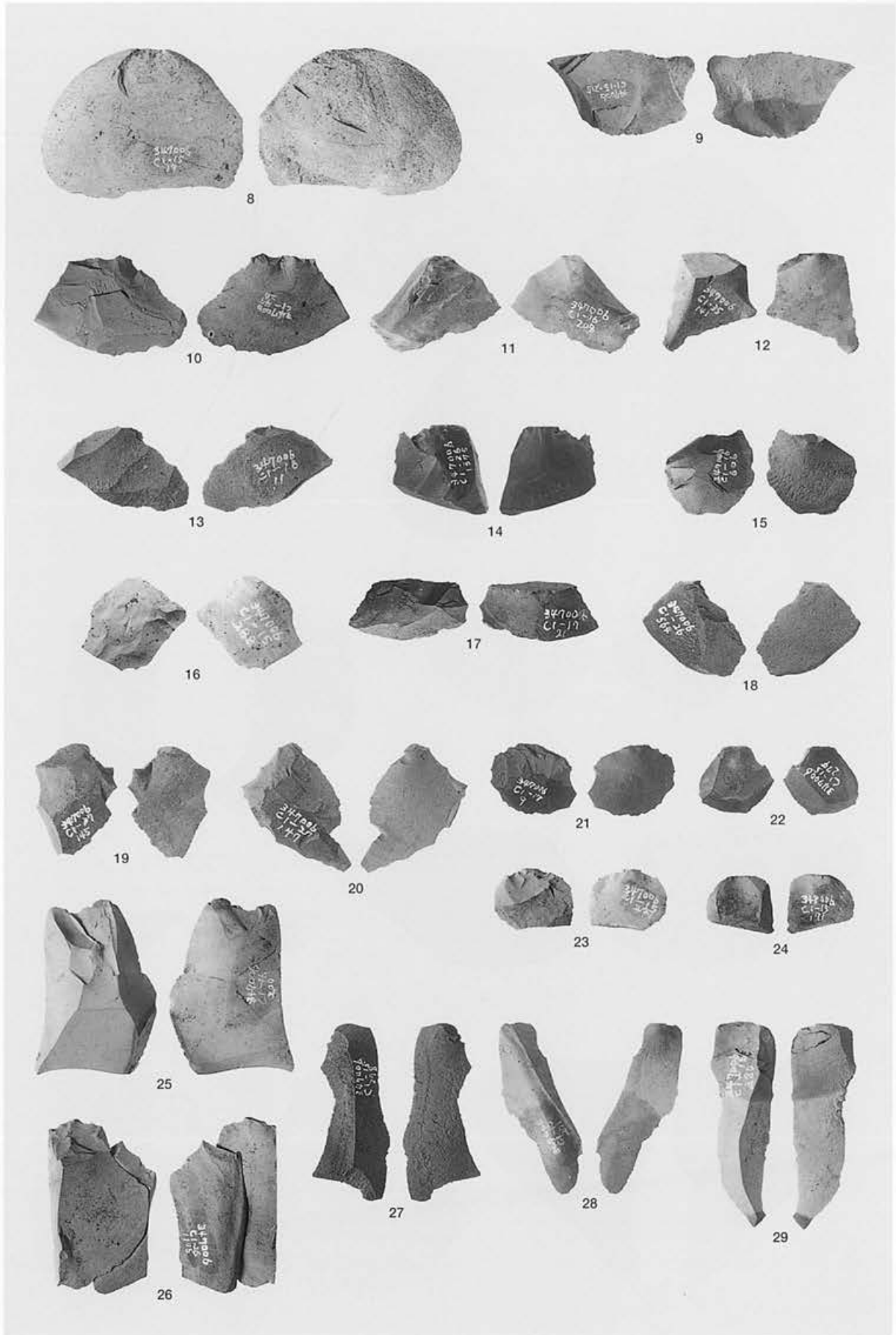
出土石器・流紋岩（2）



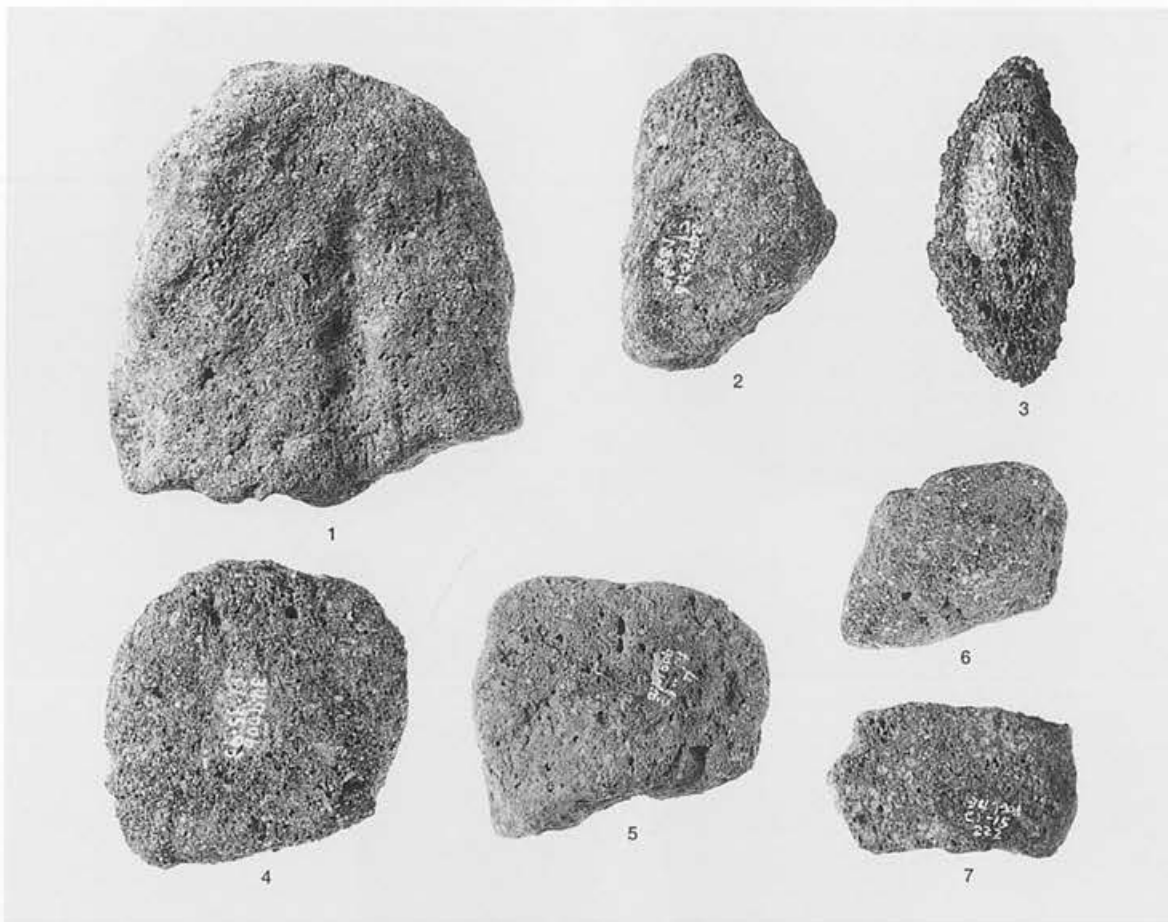
出土石器・メノウ



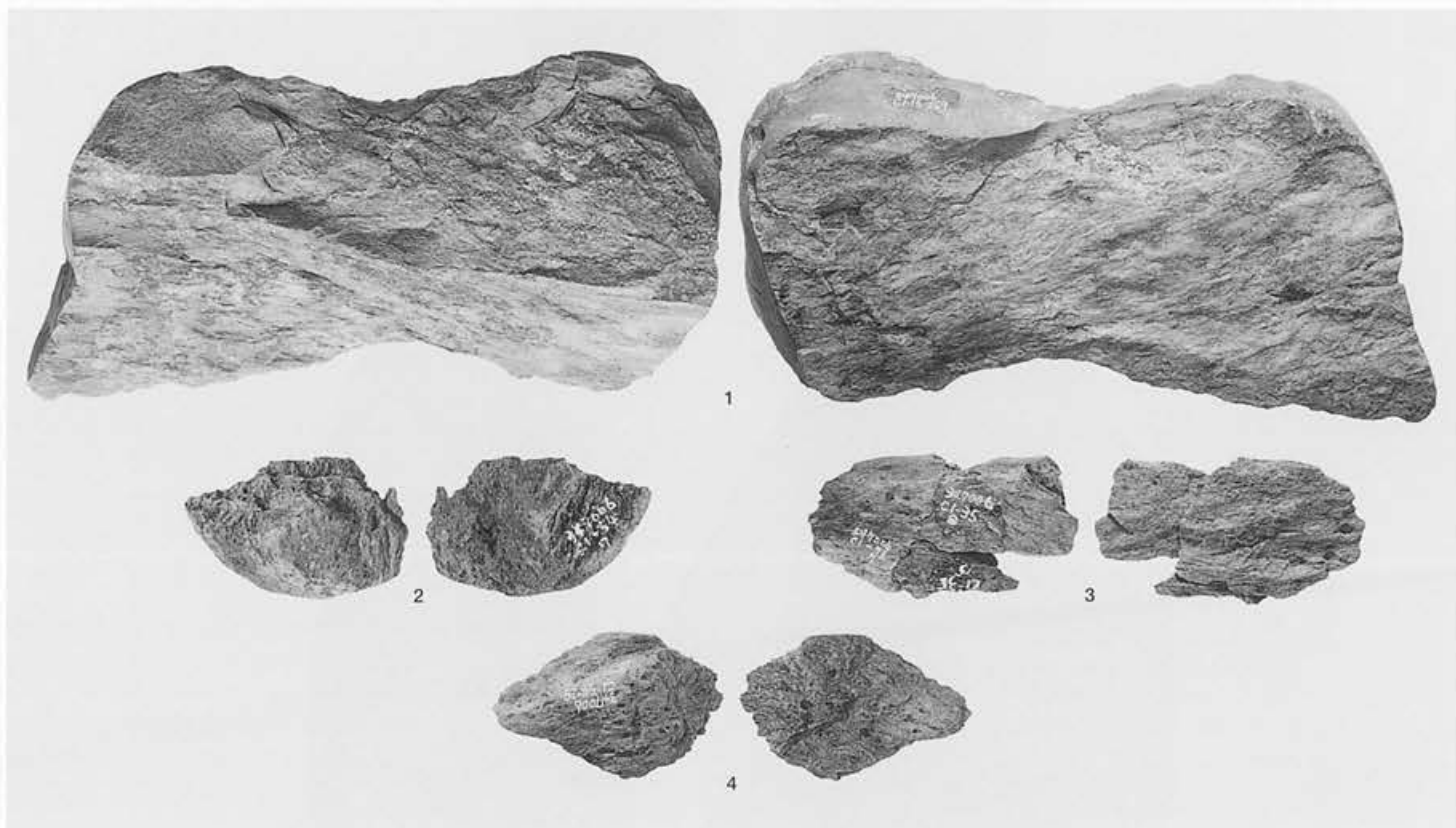
出土石器·頁岩(1)



出土石器·頁岩(2)



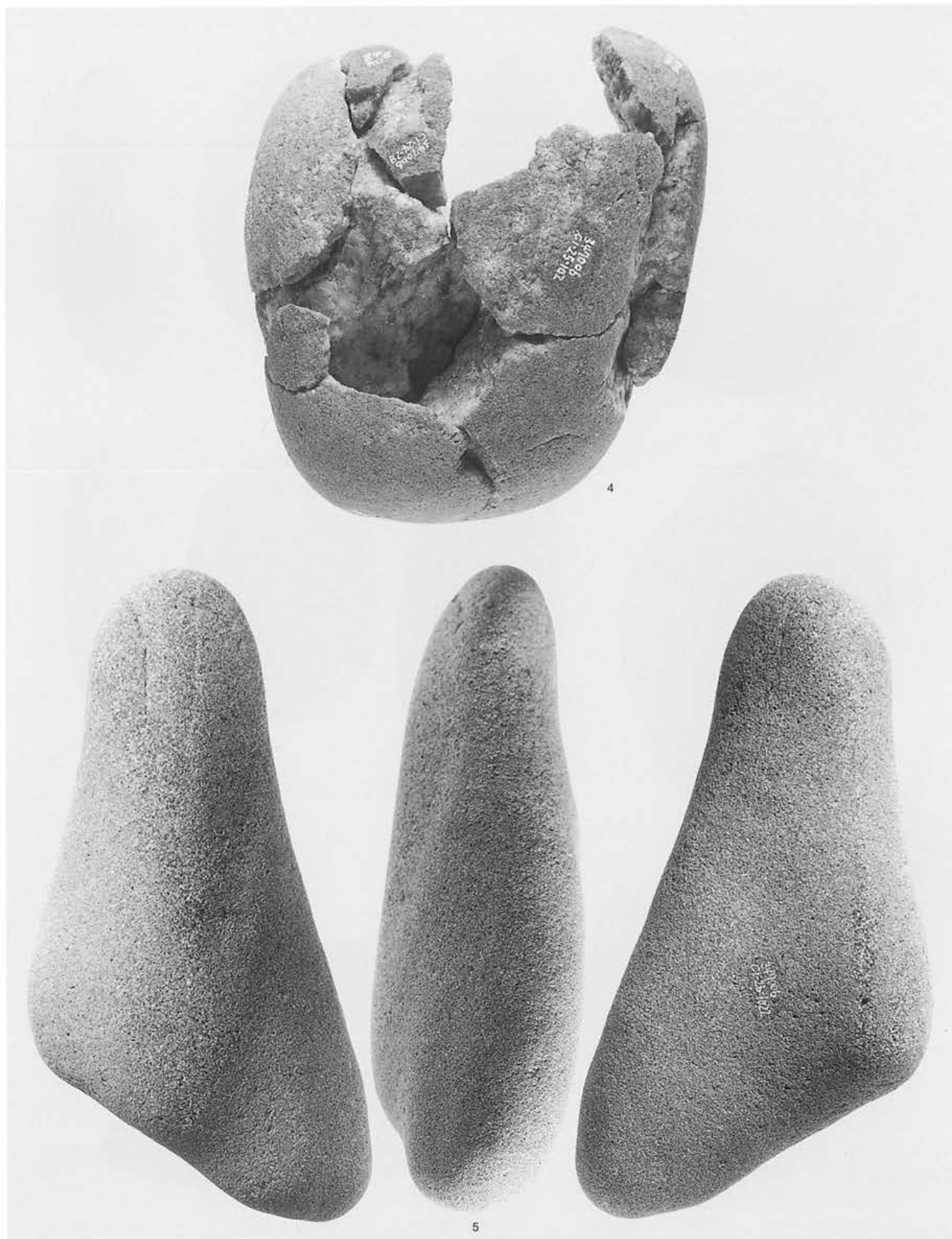
出土石器・軽石



出土石器・角閃石、緑泥片岩



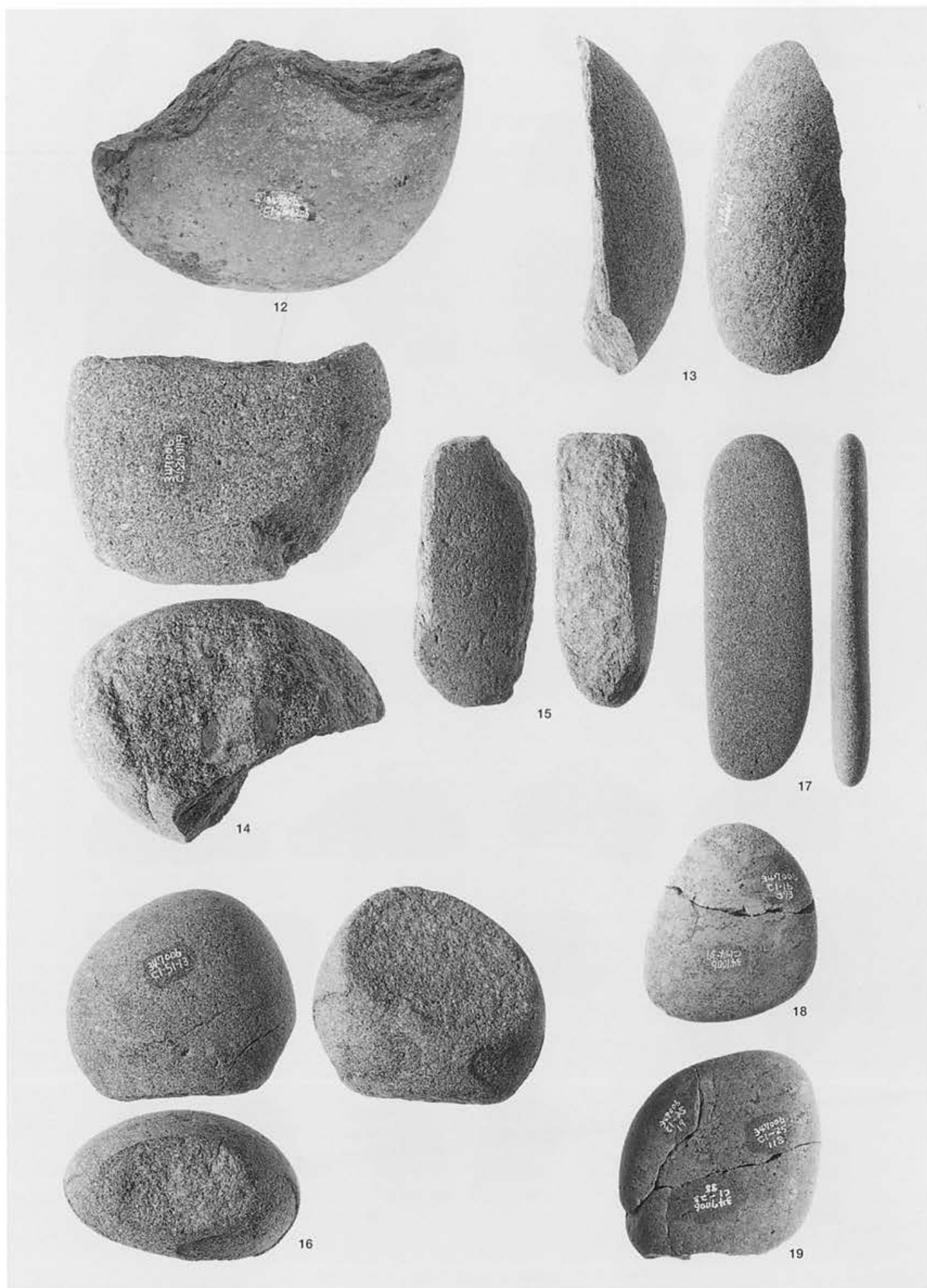
出土石器・硬砂岩, チャート



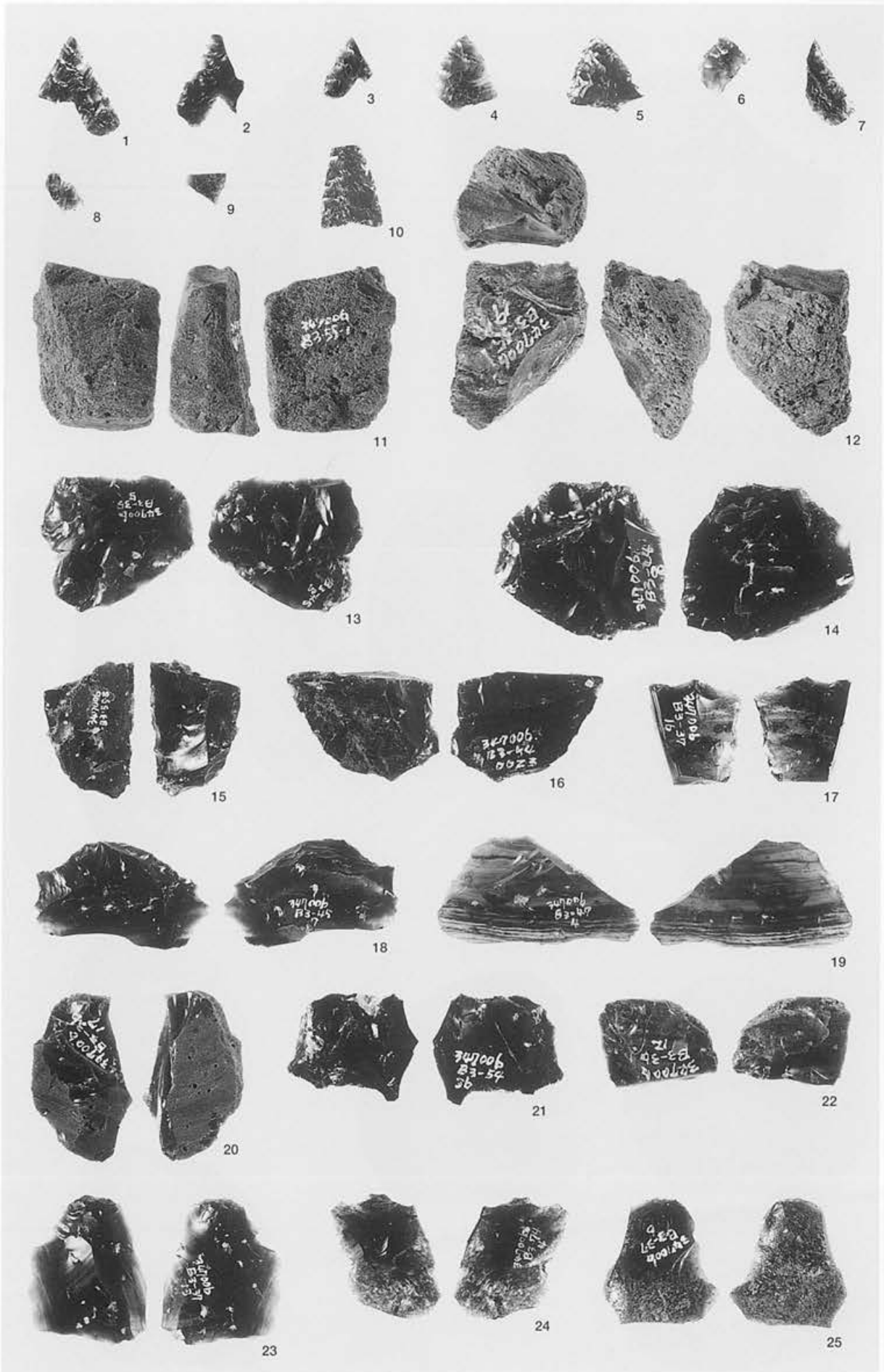
出土石器·石英，硬砂岩



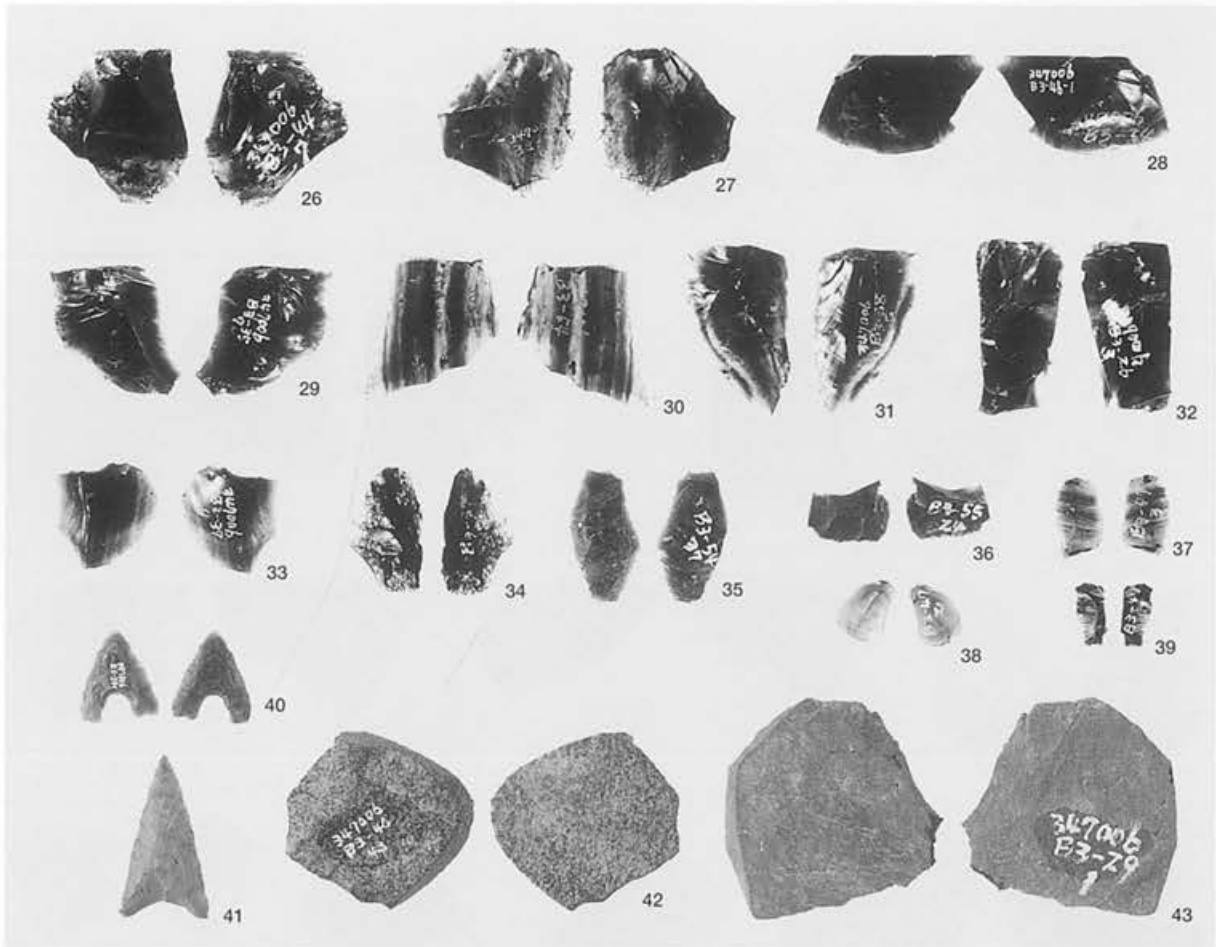
出土石器·硬砂岩, 安山岩A, 石材不明



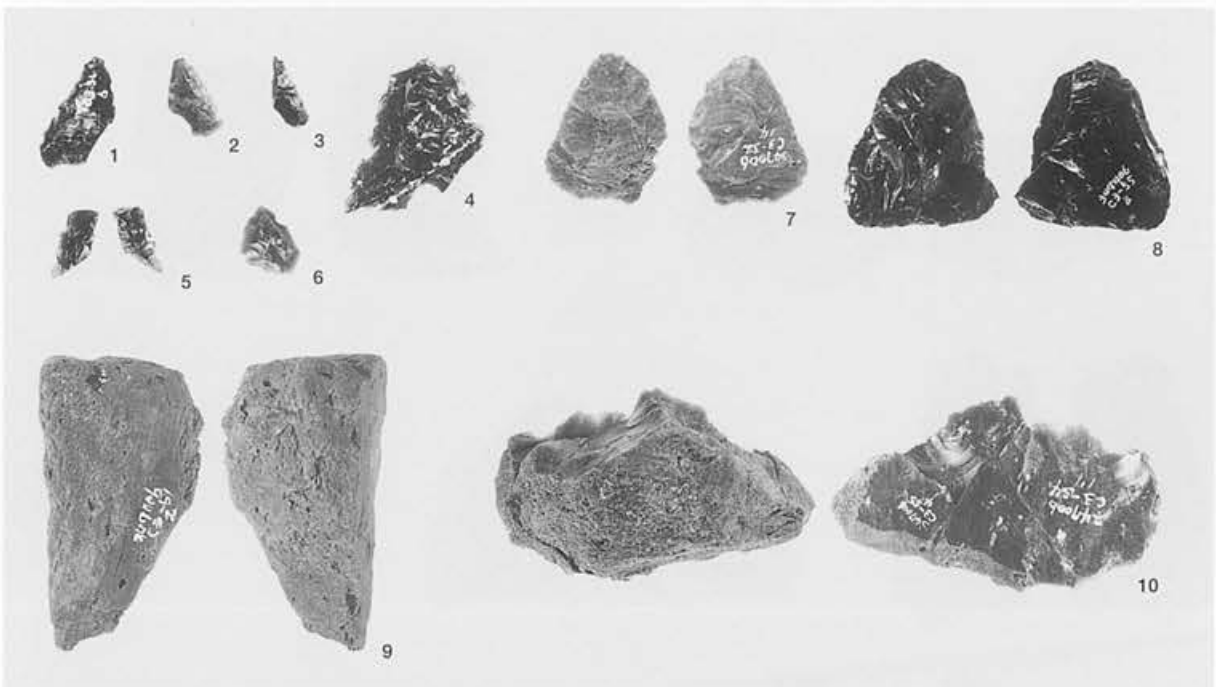
出土石器·安山岩A, 硬砂岩, 砂岩



Aブロック出土石器(1)



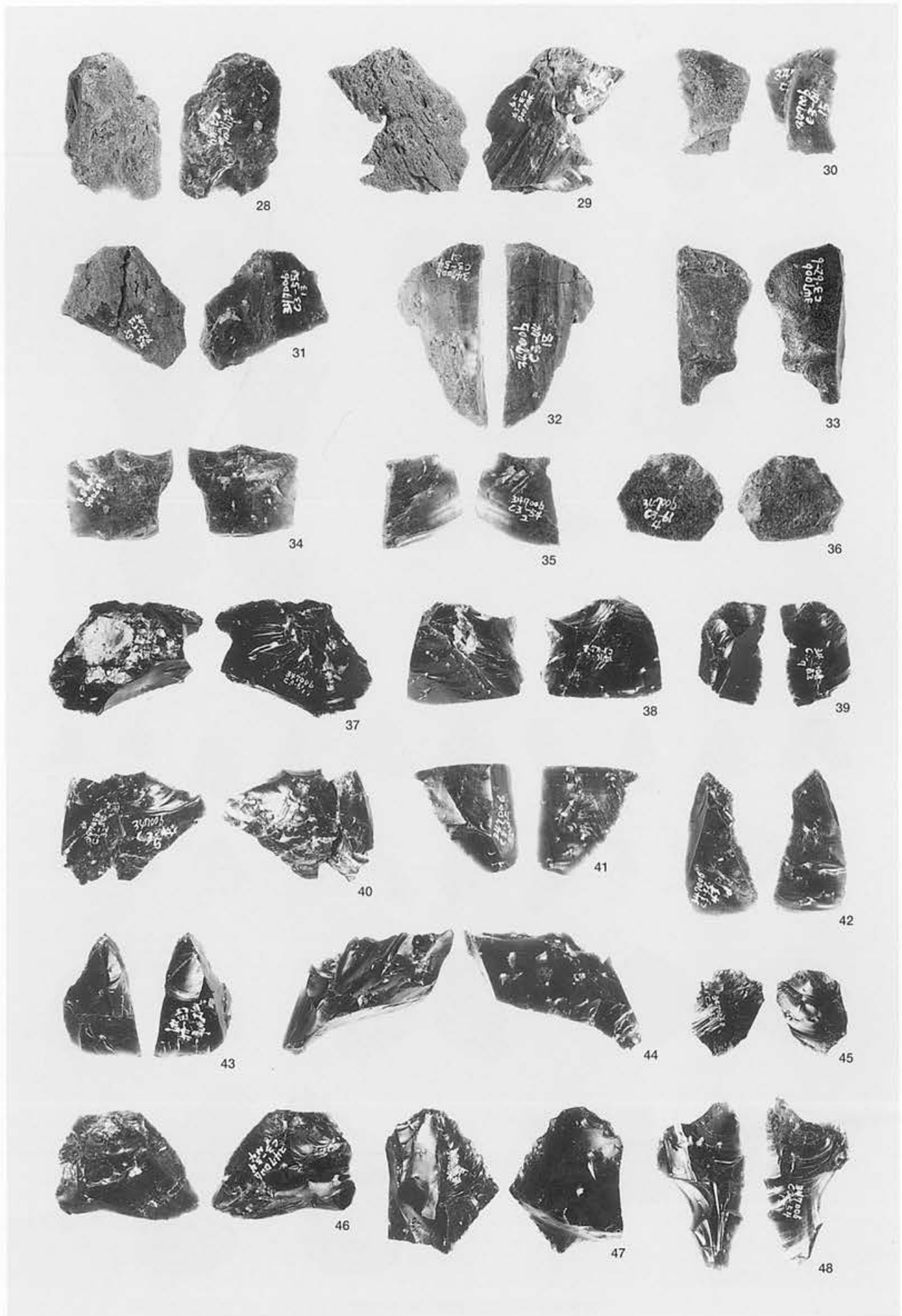
Aブロック・その他の石材出土石器(2)



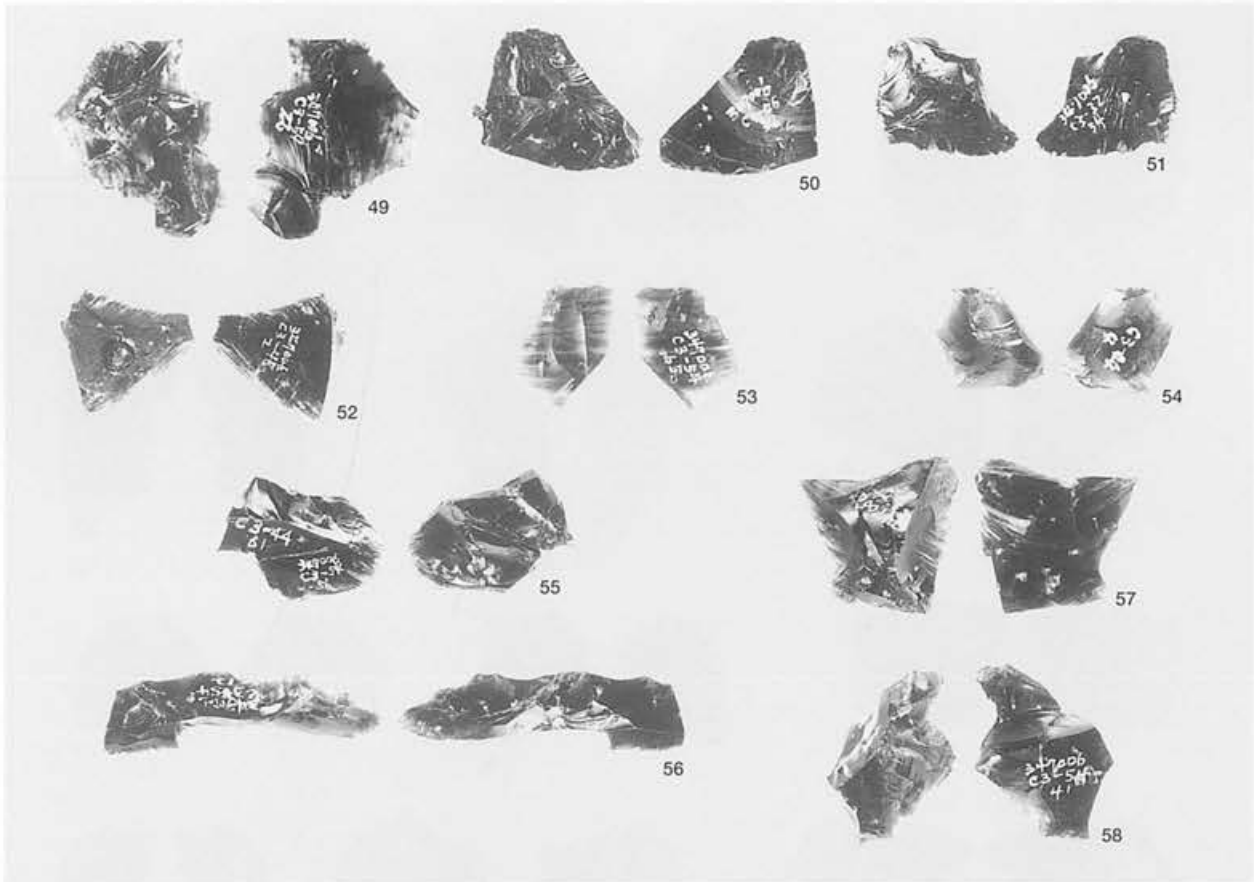
Bブロック (B-1群) 出土石器(1)



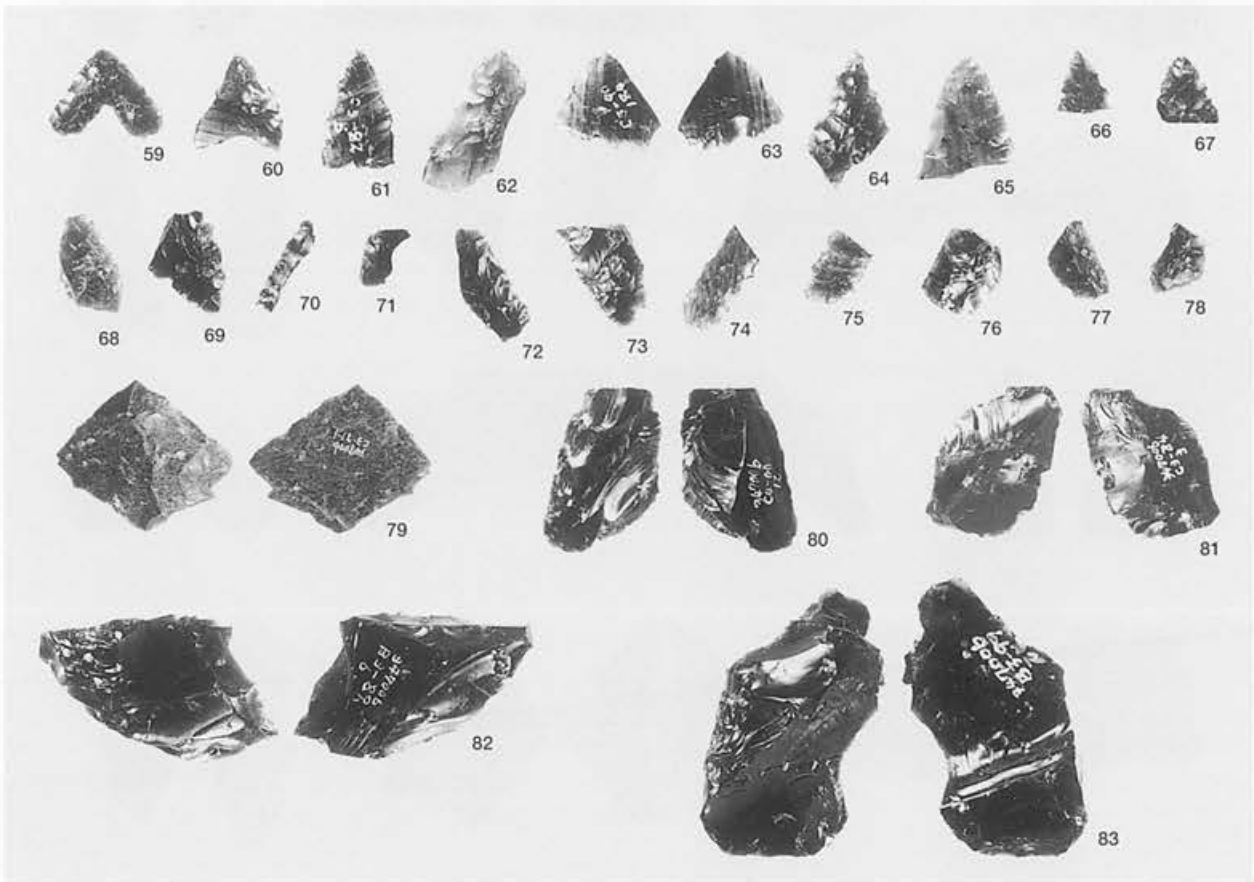
Bブロック (B-1群) 出土石器 (2)



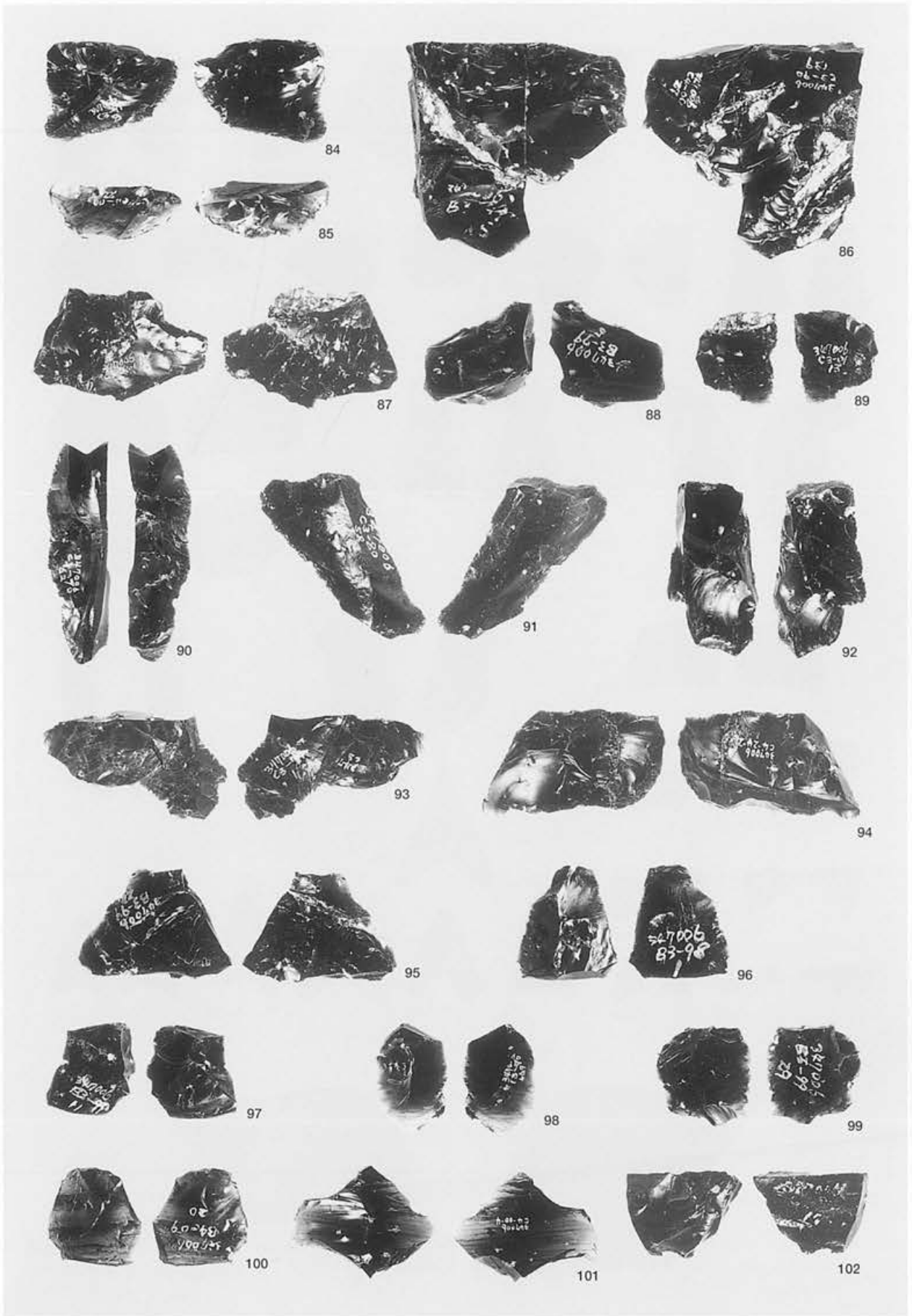
Bブロック (B-1群) 出土石器 (3)



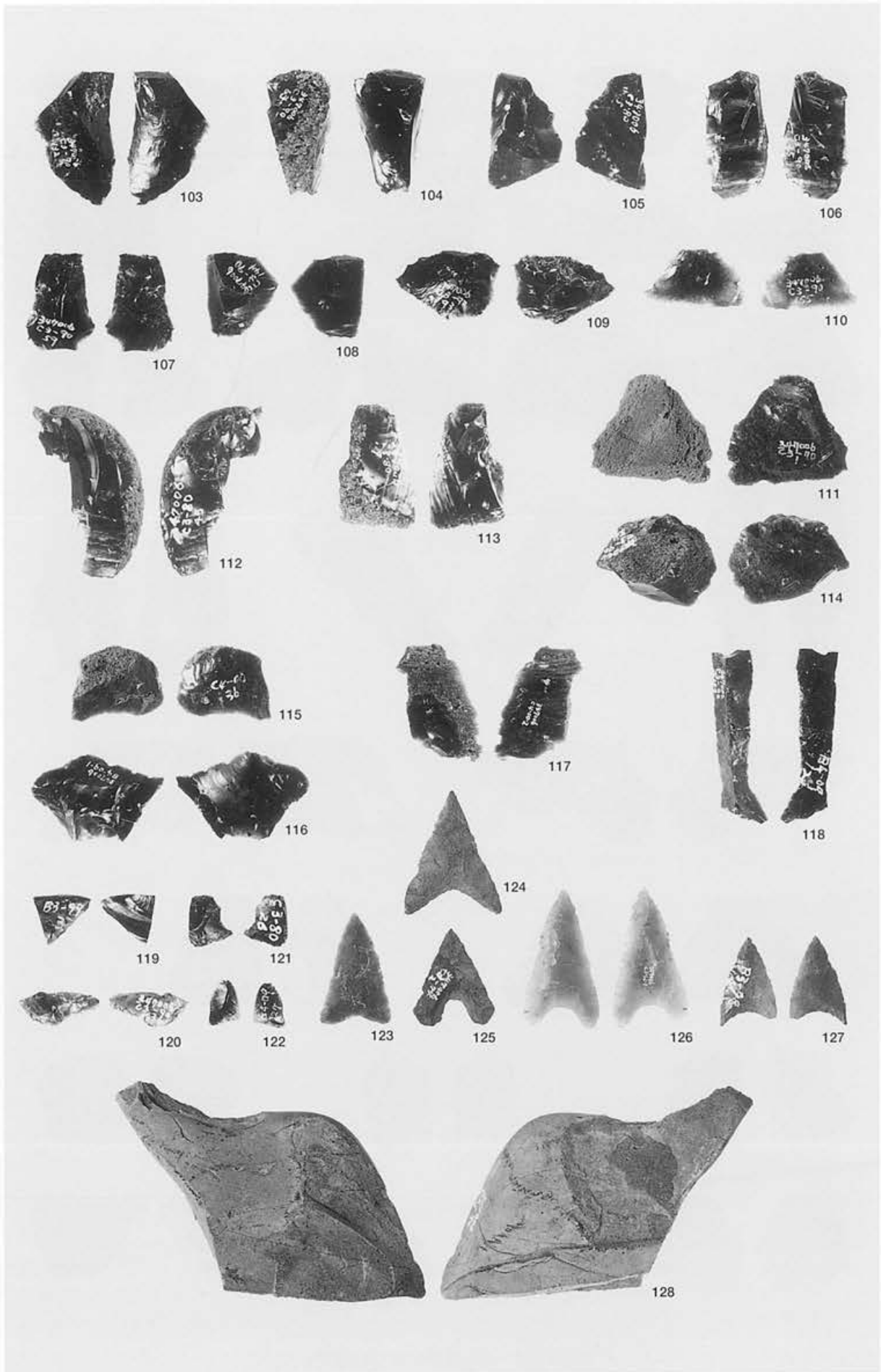
Bブロック (B-1群) 出土石器 (4)



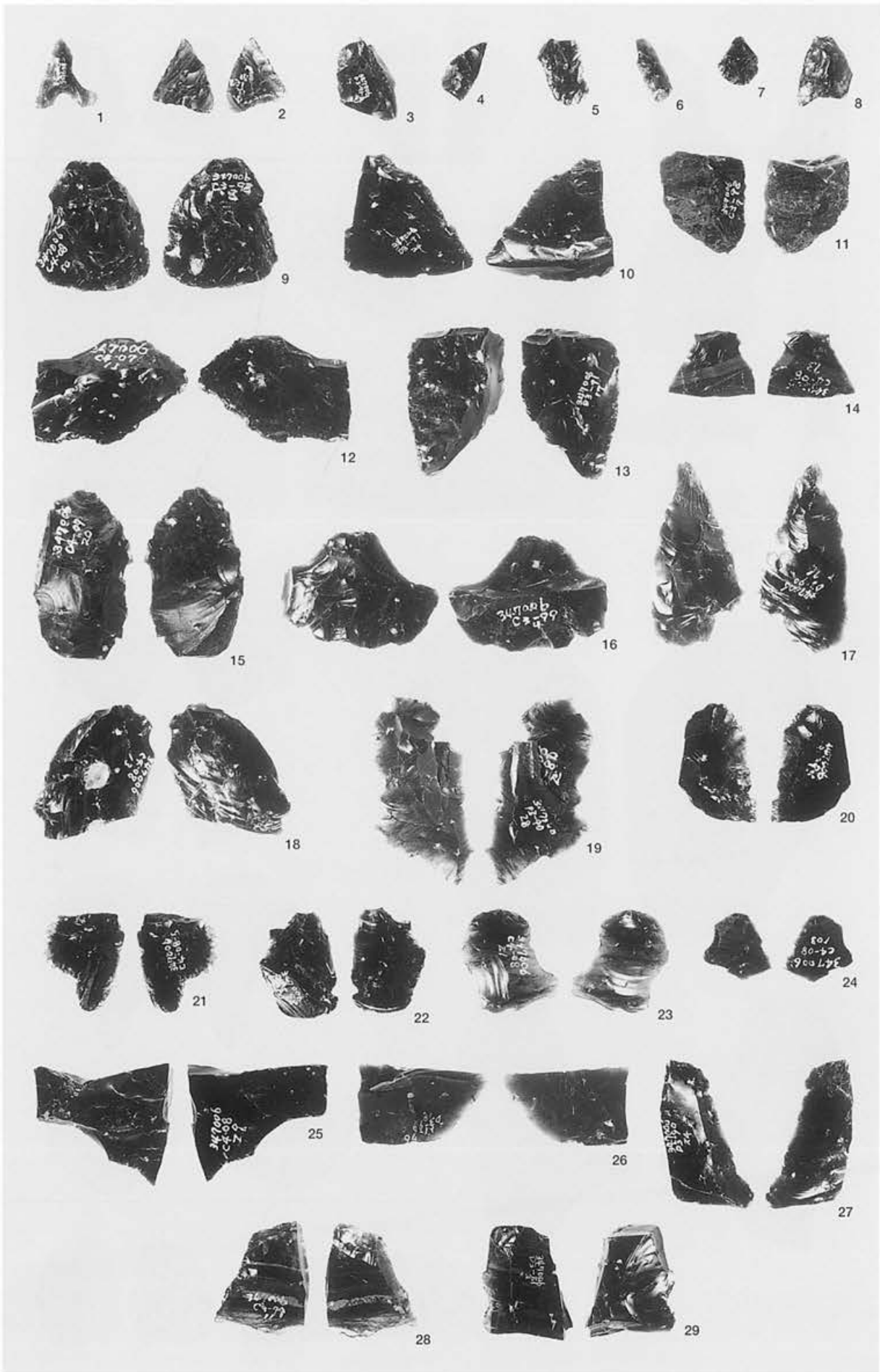
Bブロック (B-2群) 出土石器 (1)



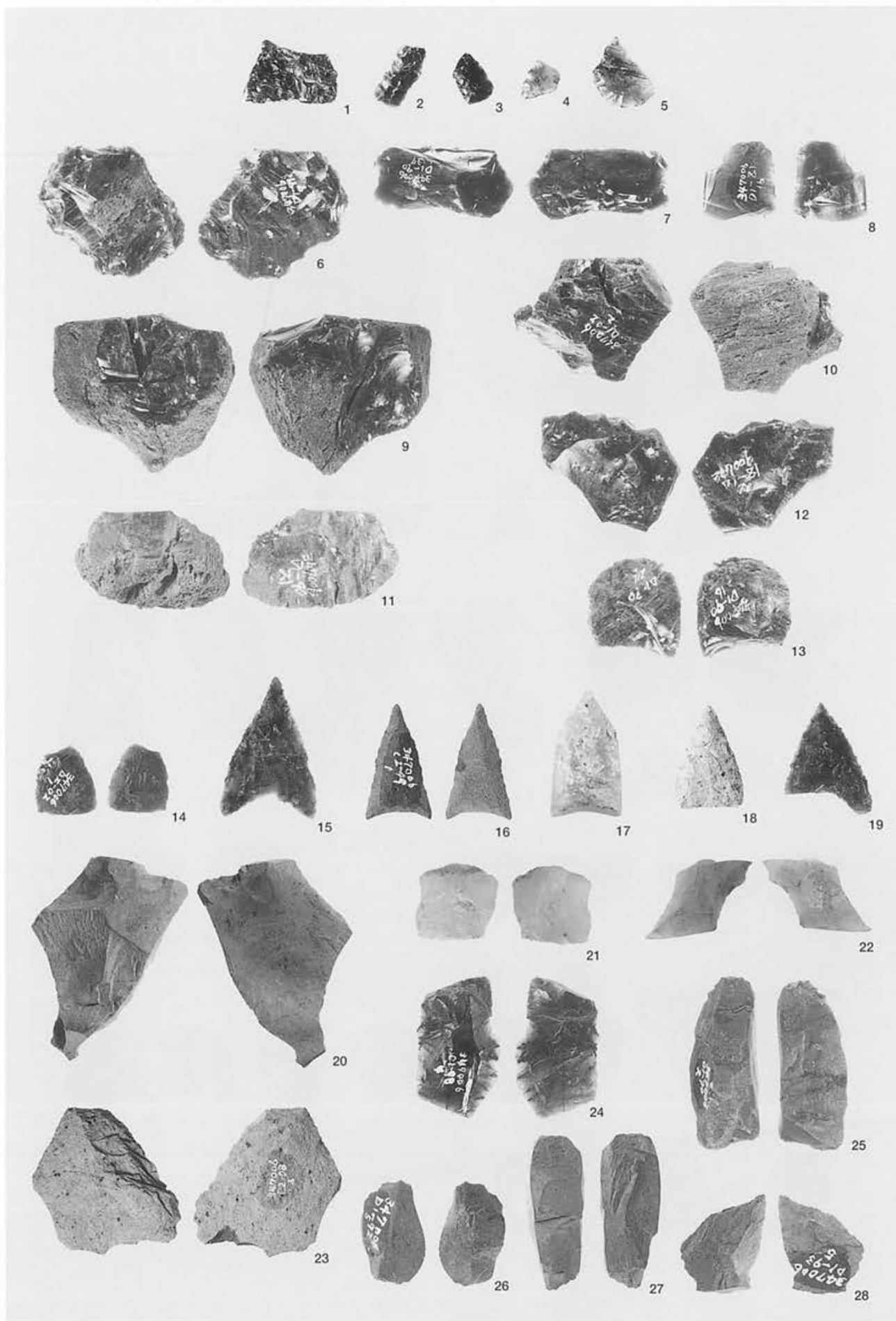
Bブロック (B-2群) 出土石器 (2)



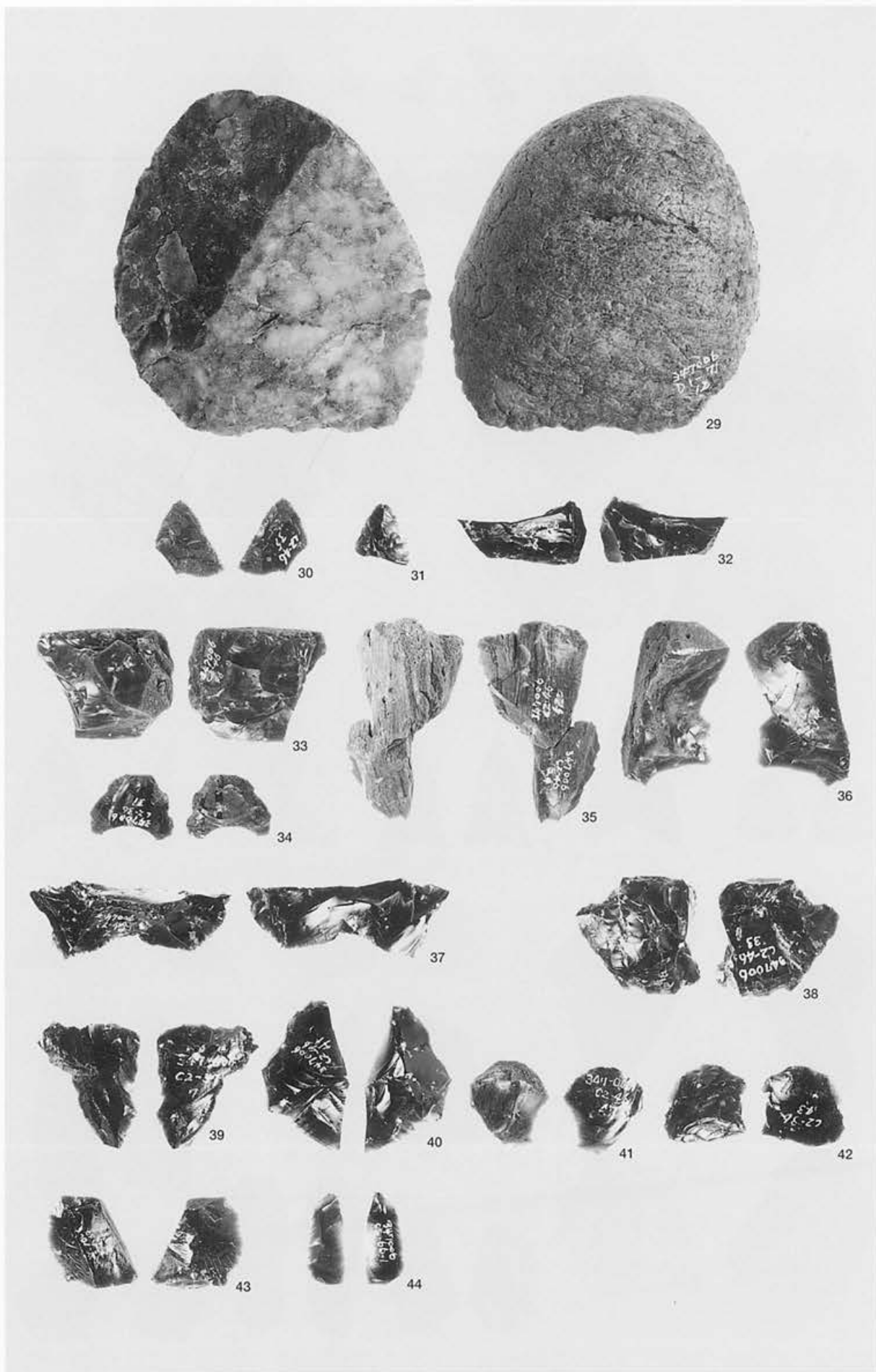
Bブロック (B-2群)・その他石材出土石器 (3)



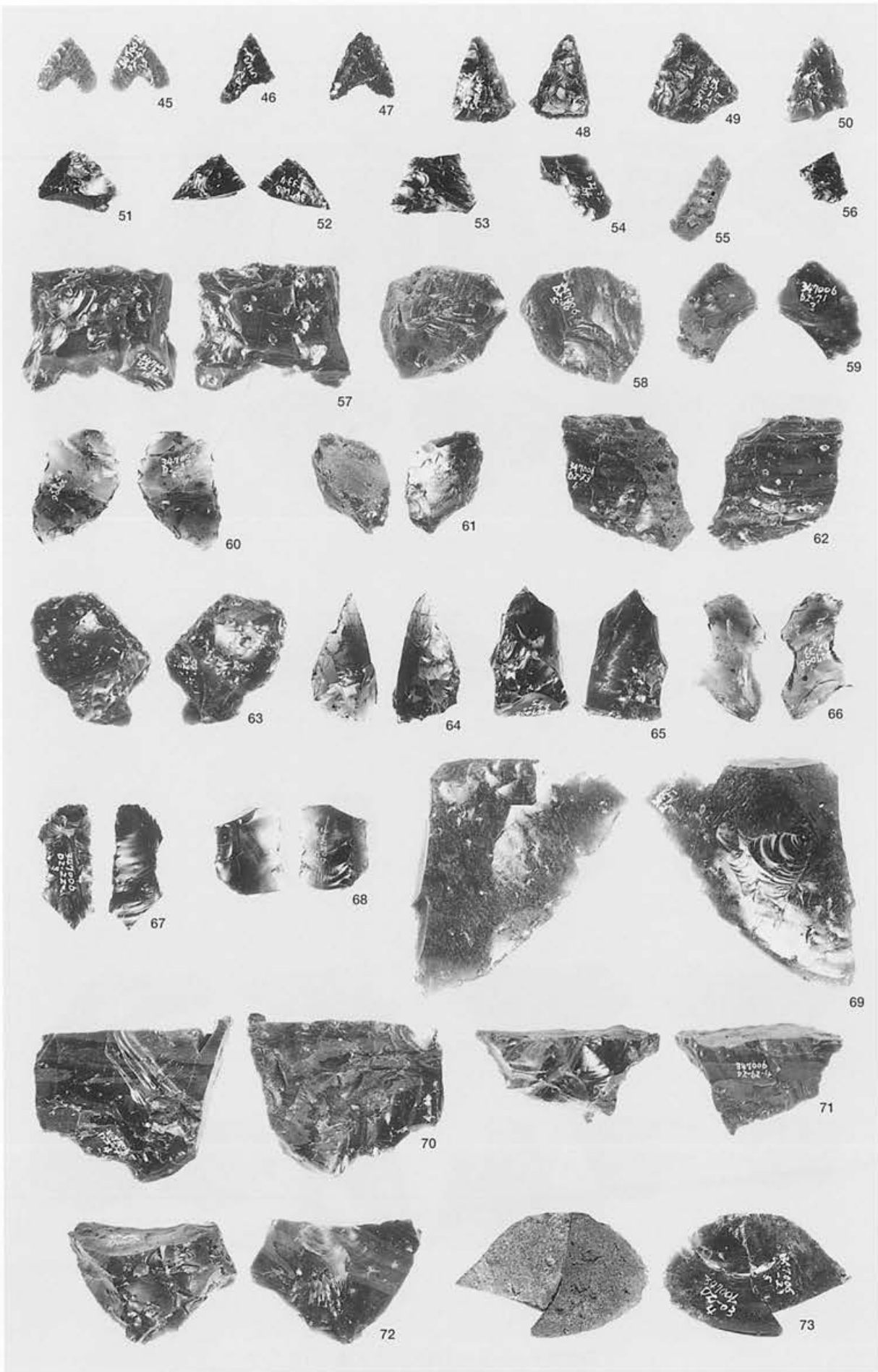
Cブロック出土石器 (1)



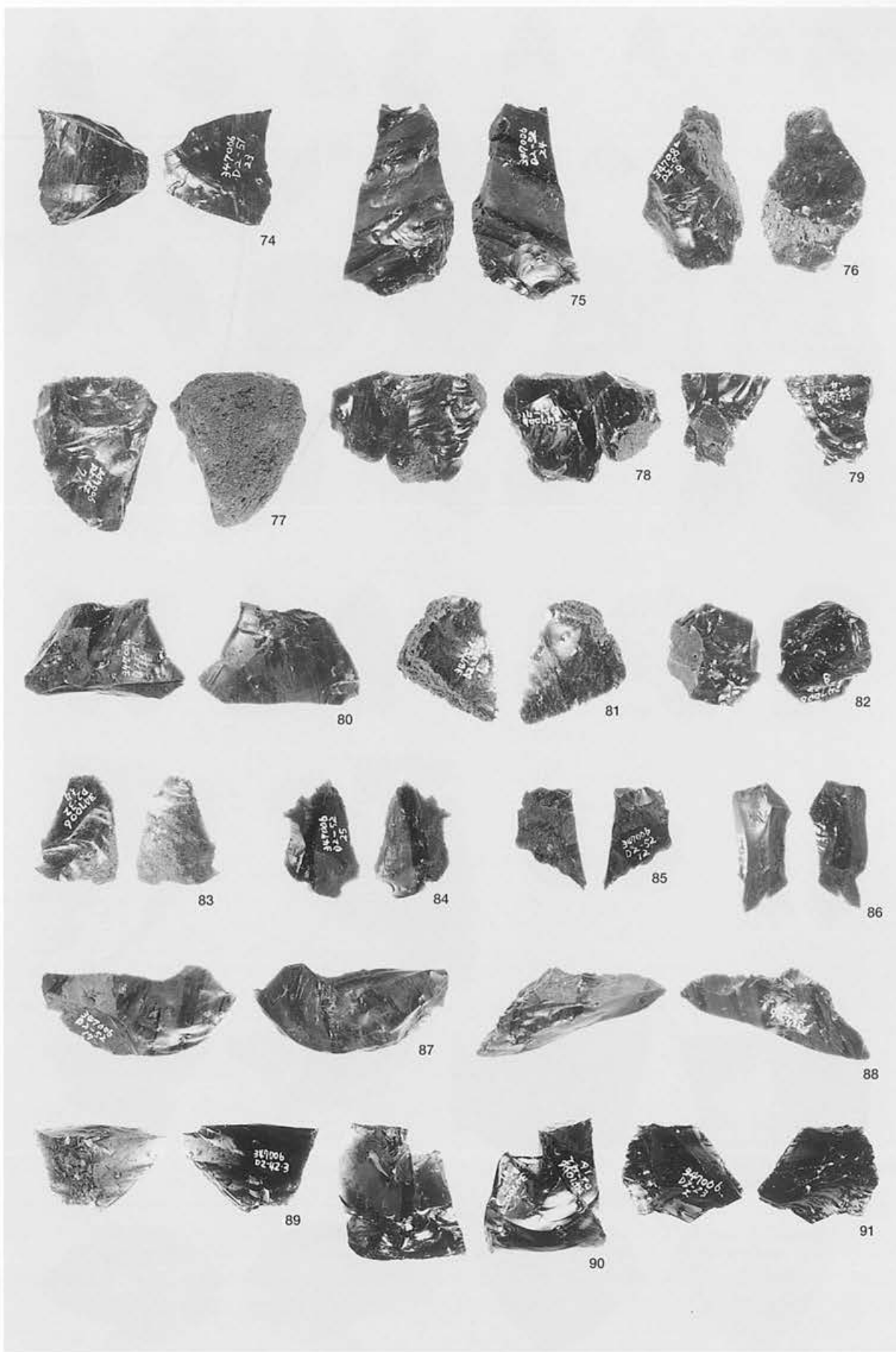
Dブロック (D-1群) 出土石器 (1)



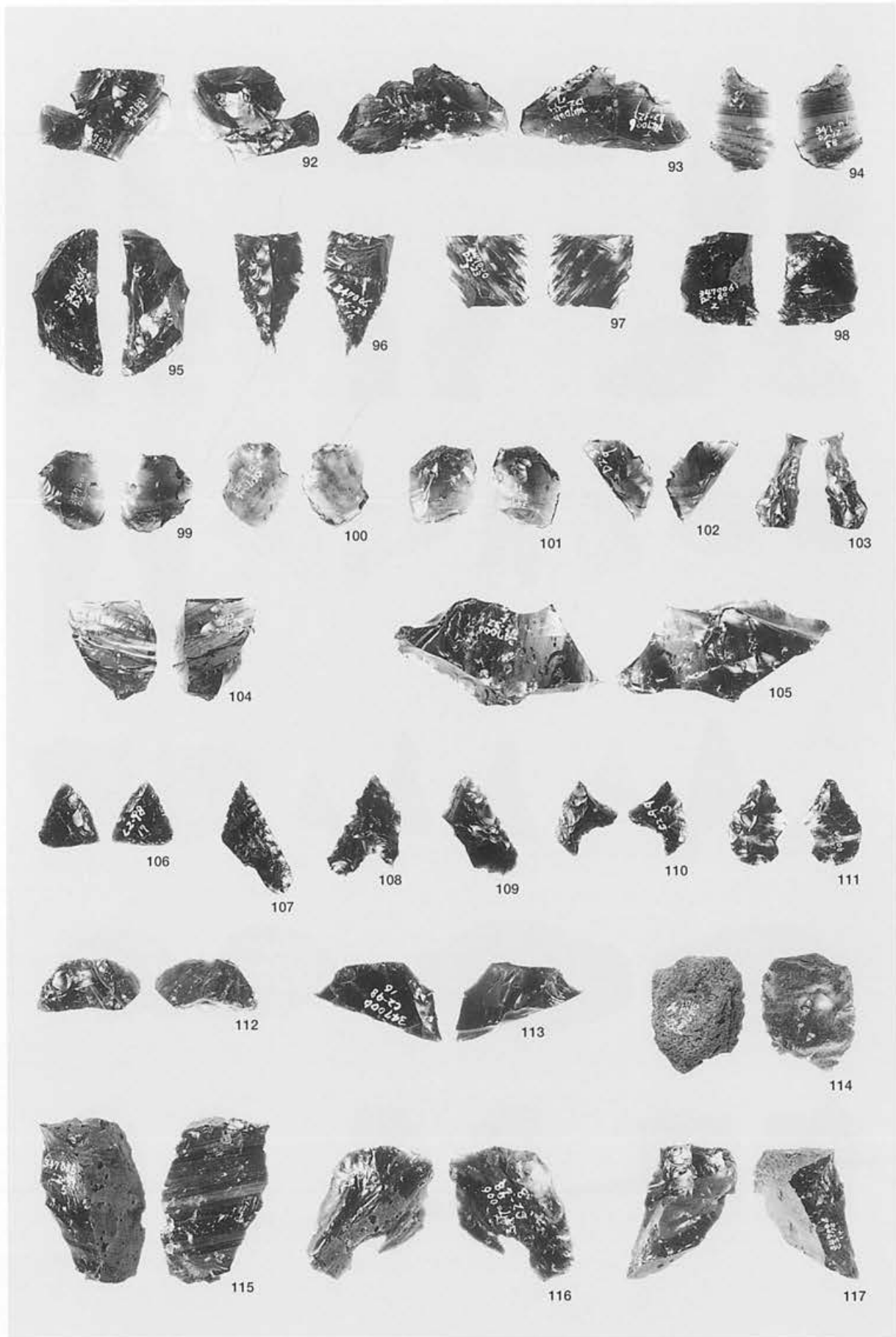
Dブロック (D-1・2群) 出土石器 (2)



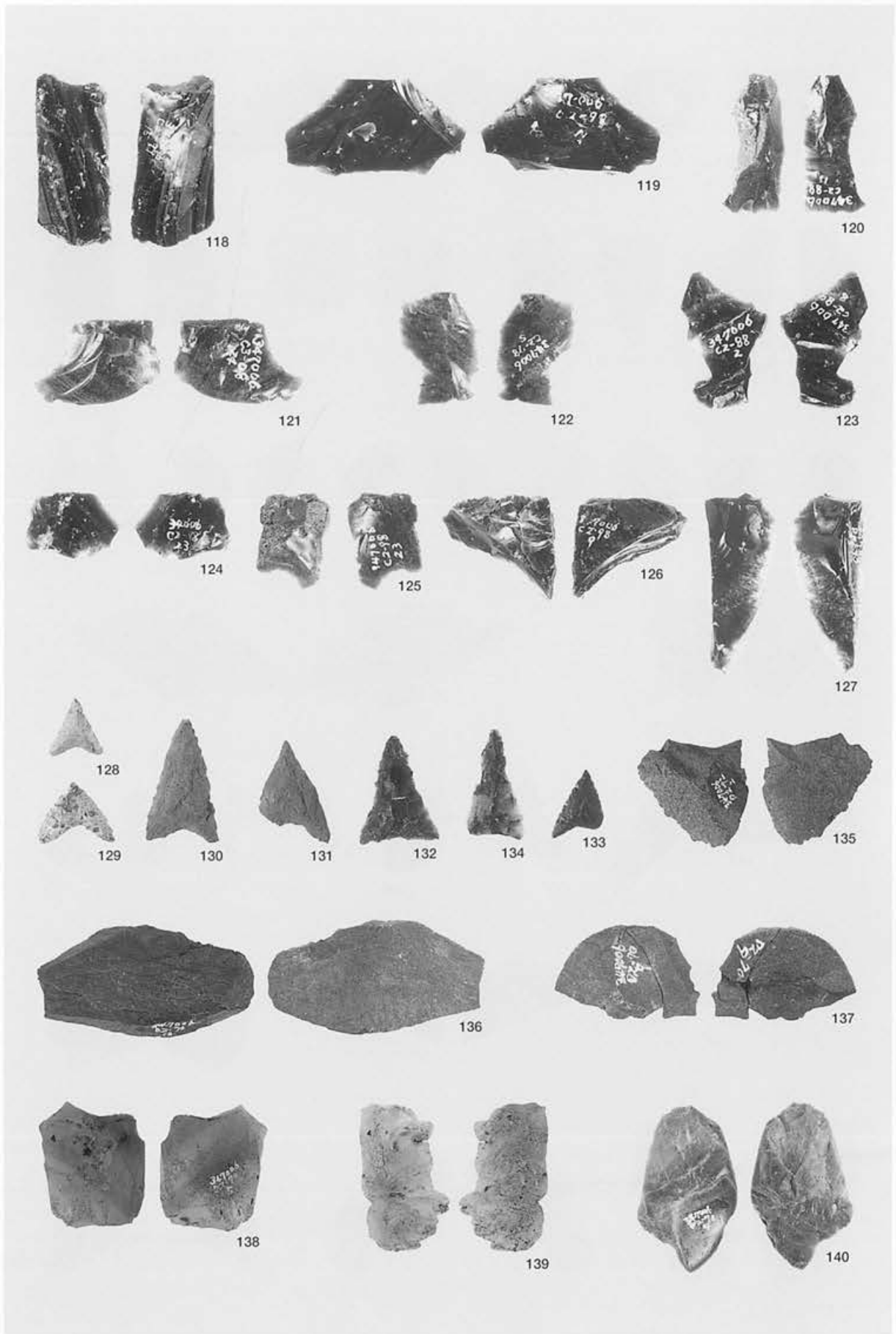
Dブロック (D-3群) 出土石器 (3)



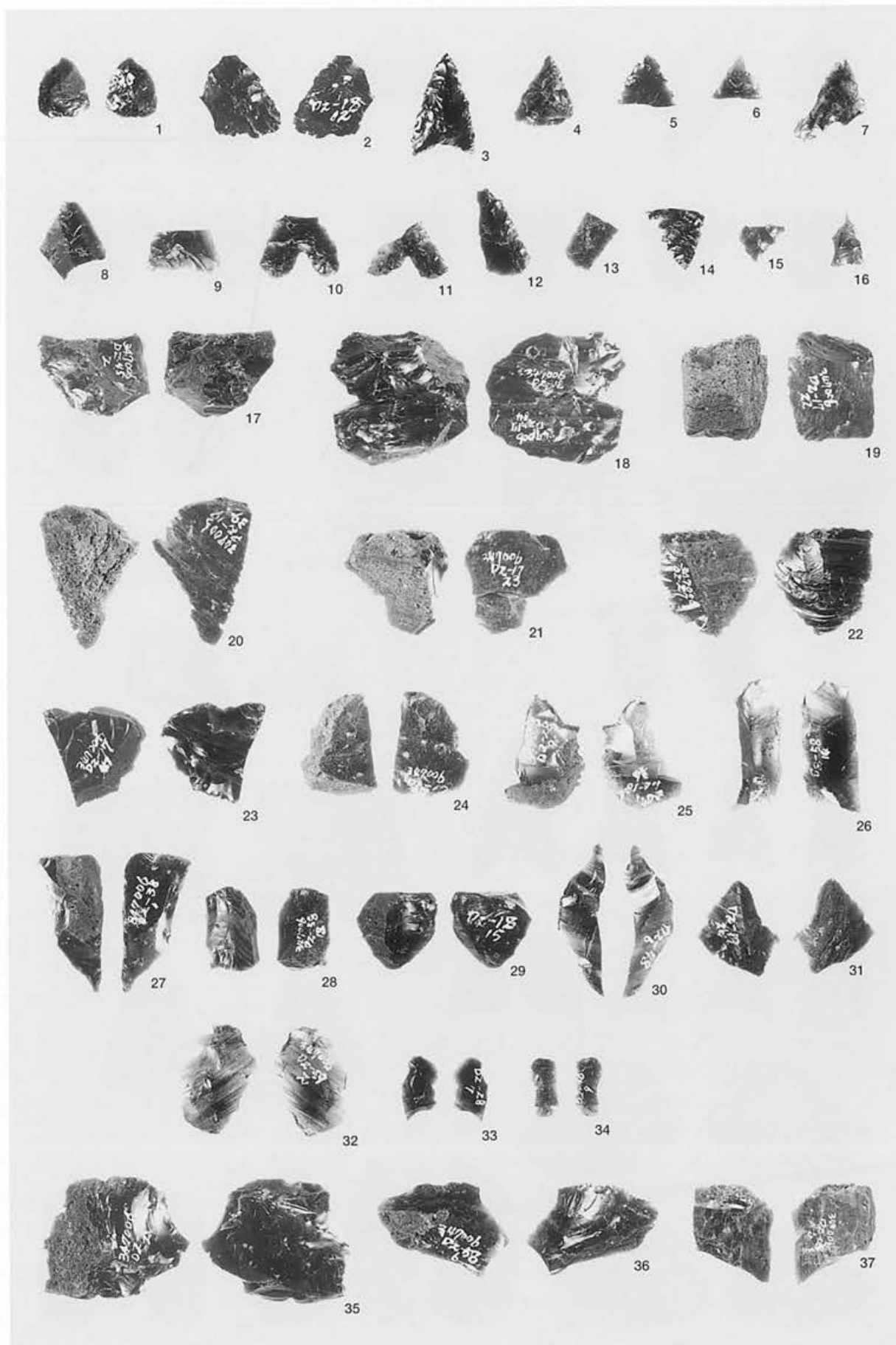
Dブロック (D-3群) 出土石器 (4)



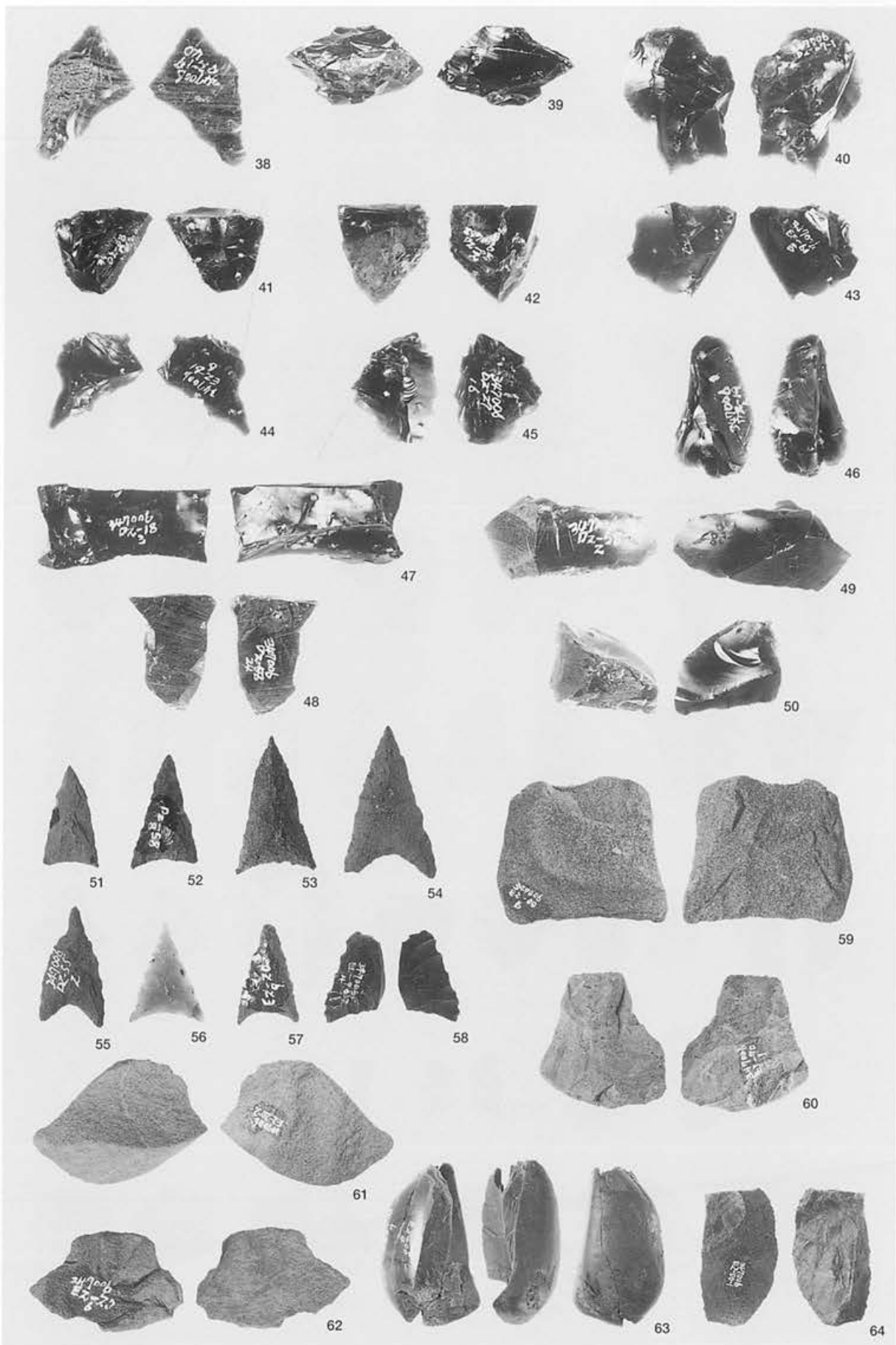
Dブロック (D-3・4群) 出土石器 (5)



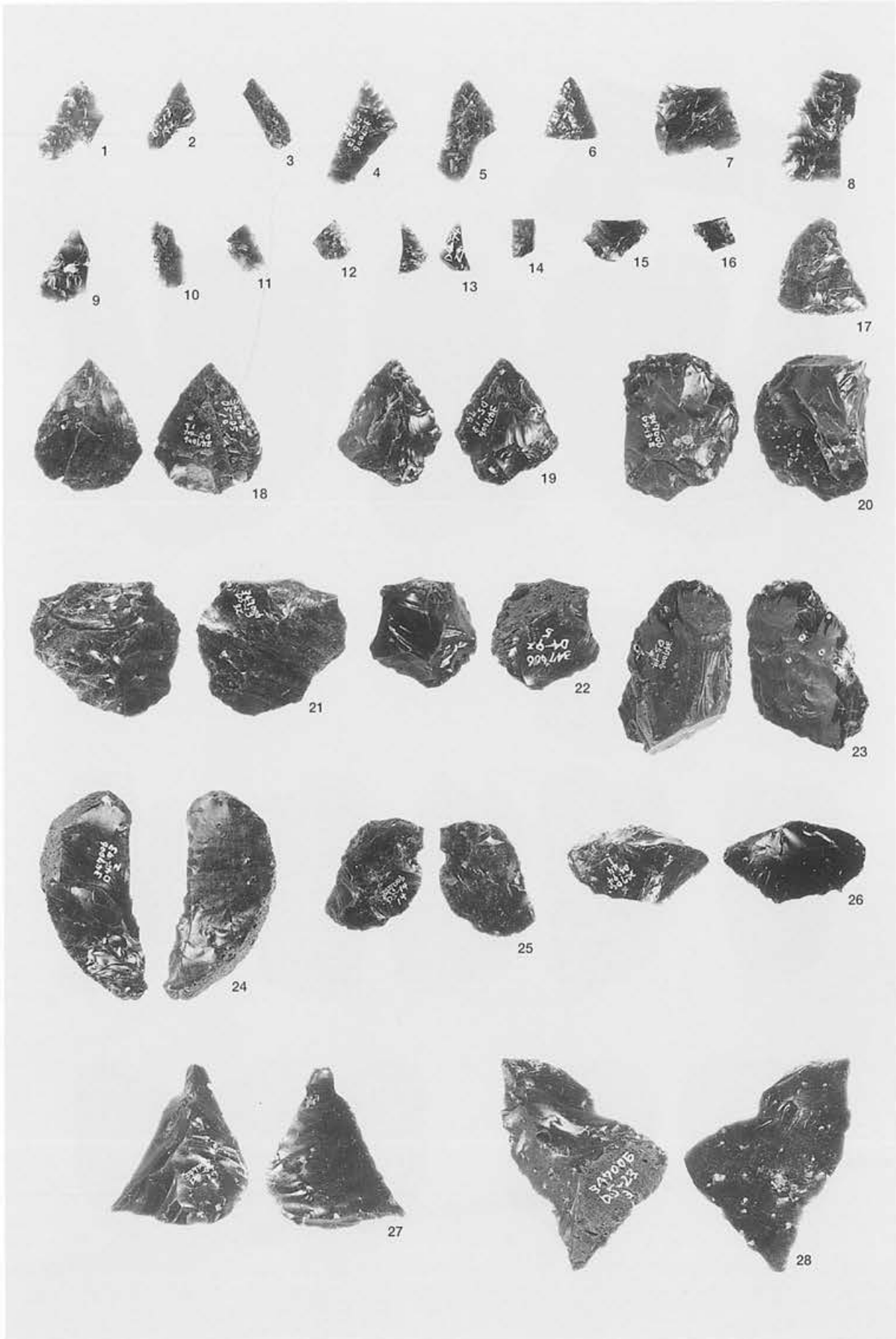
Dブロック (D-4群) その他石材出土石器 (6)



Eブロック出土石器(1)



Eブロック・その他石材出土石器（2）



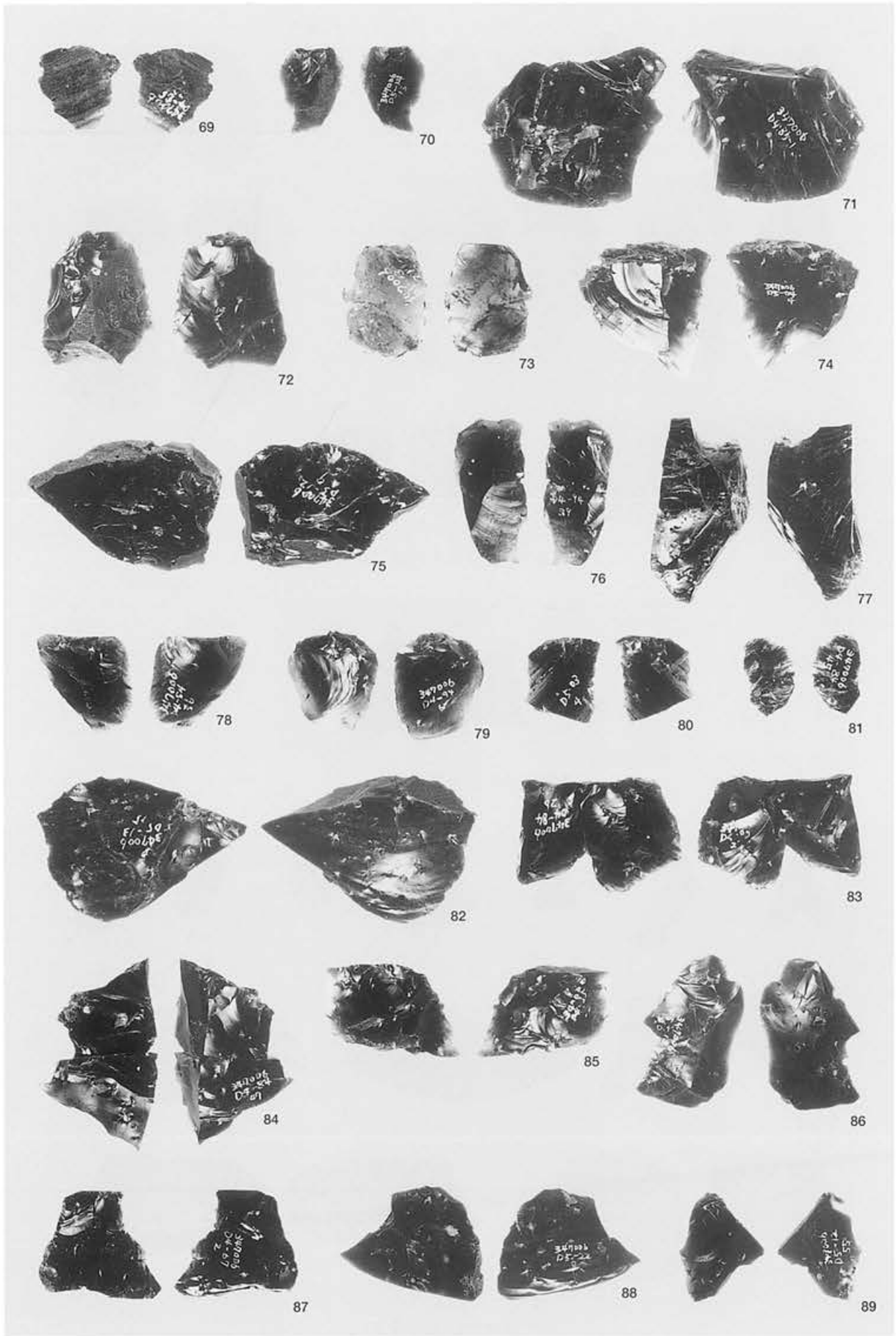
Fブロック出土石器(1)



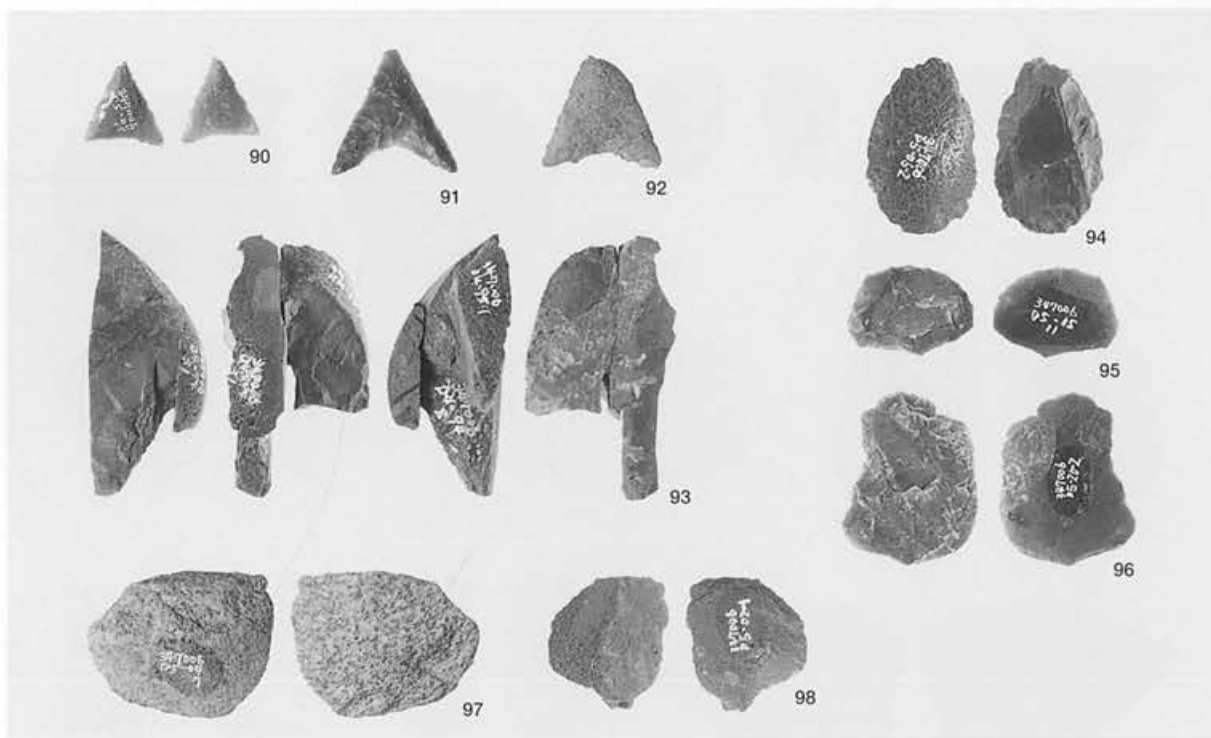
Fブロック出土石器(2)



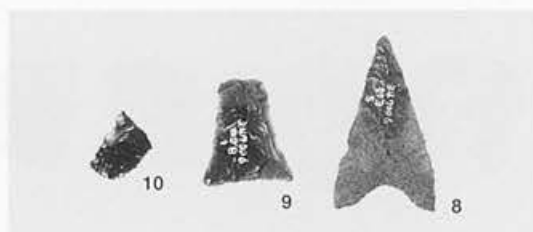
Fブロック出土石器 (3)



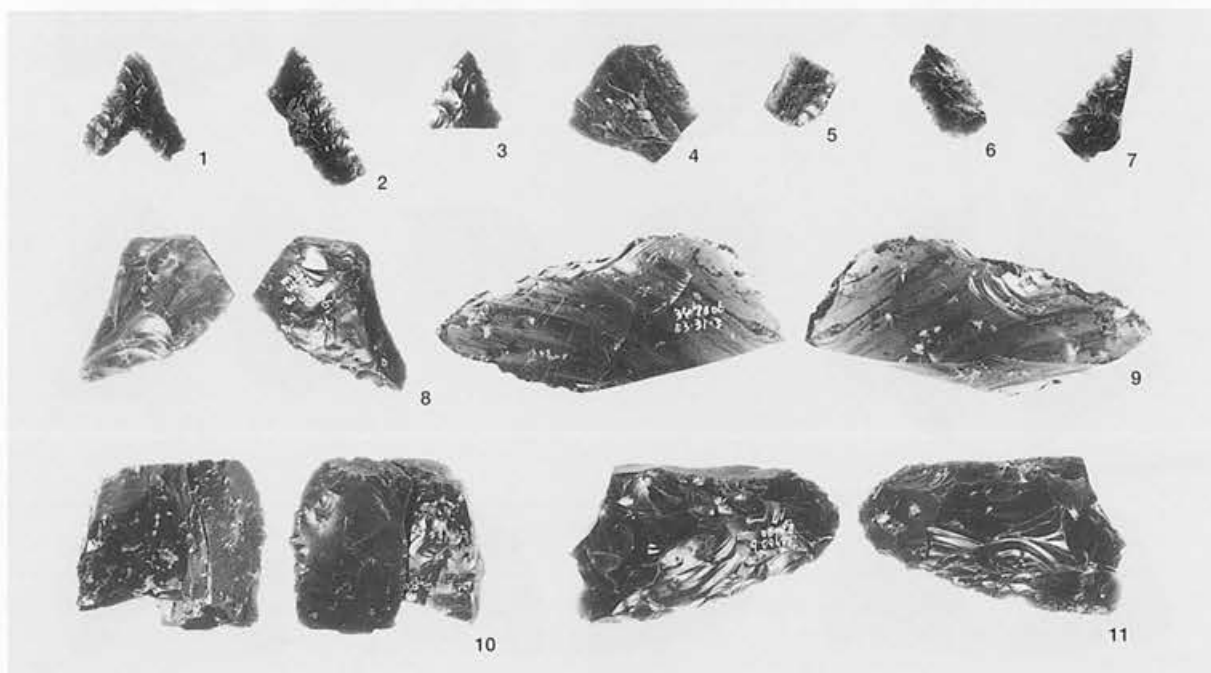
Fブロック出土石器 (5)



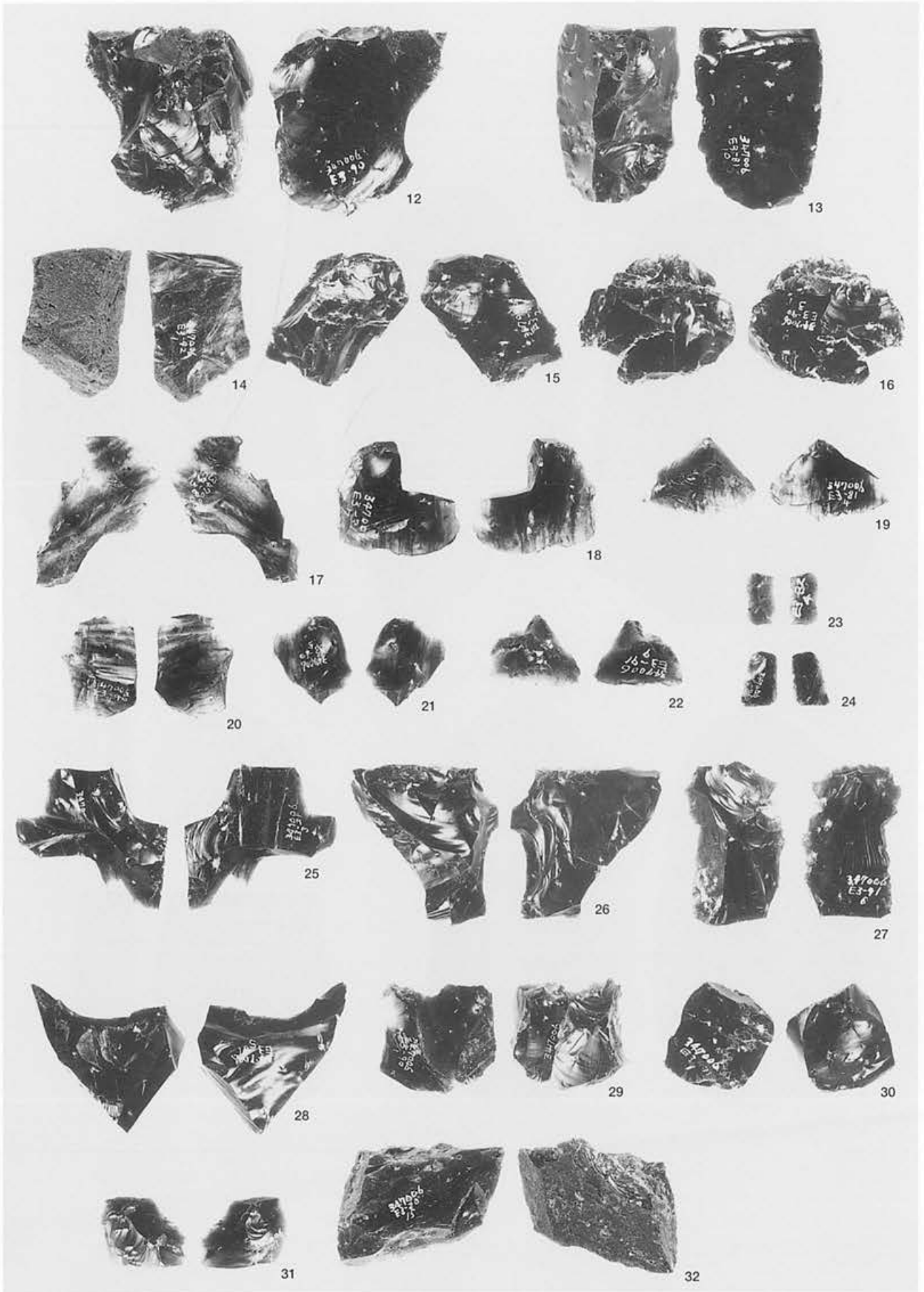
Fブロック出土石器 (6)



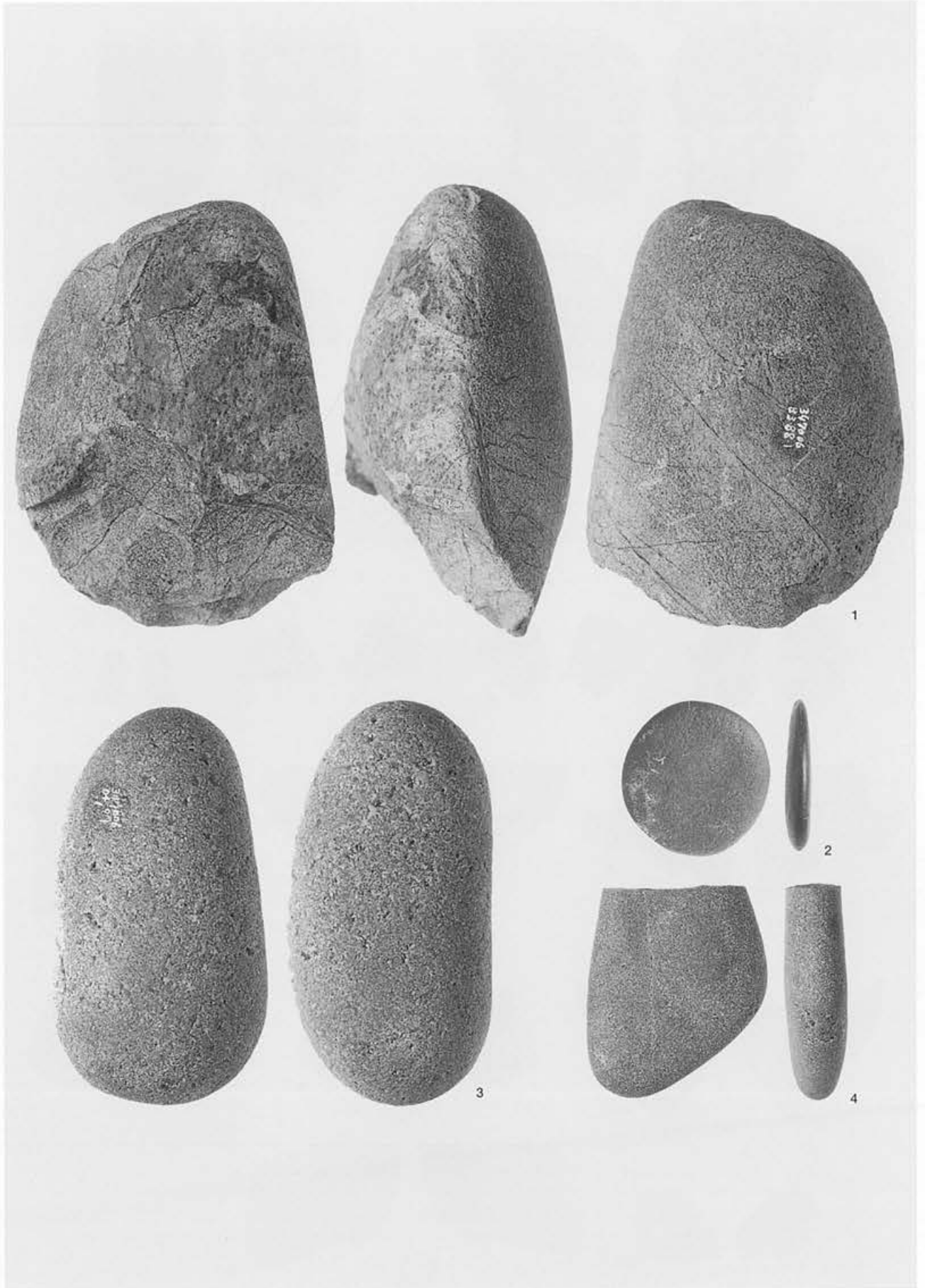
遺構内草創期域出土石器



Gブロック出土石器 (1)



Gブロック出土石器 (2)



B・Cブロック出土石器、石斧・磨石・蔽石類（1）



Dブロック出土石器，石斧・磨石・敲石類（2）



Dブロック出土石器，磨石・蔽石類（3）



E・F・Gブロック（石斧・磨石・敲石類）（4）

報告書抄録

ふりがな	なりたこくさいくこうまいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ							
書名	成田国際空港埋蔵文化財調査報告書							
副書名	多古町一畝田甚兵衛山南遺跡（空港No.12遺跡）							
巻次	XXI							
シリーズ名	財団法人千葉県文化財センター調査報告							
シリーズ番号	第517集							
編著者名	西口 徹・遠藤治雄							
編集機関	財団法人千葉県文化財センター							
所在地	〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809-2 TEL043-422-8811							
発行年月日	西暦 2005年3月25日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ひとくわだじんべい 一畝田甚兵衛山南遺跡 (空港No.12遺跡)	ちばけんかとりぐん 千葉県香取郡 たこまちひとくわだ 多古町一畝田 あざじんべいやま 字甚兵衛山 454-22	347	006	35度 46分 35秒	140度 24分 20秒	19850208～ 19850322 19850401～ 19851006	35,000㎡	成田国際空港建設に伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
一畝田甚兵衛山南遺跡 (空港No.12遺跡)	包蔵地	旧石器 縄文 弥生	石器集中地点 9地点 陥穴7基, 土坑1基		ナイフ形石器, 刃器状剥片, 石核, 尖頭器 隆起線文土器, 撚糸文系土器, 沈線文系土器, 田戸下層土器, 田戸上層土器, 黒浜式土器, 浮島式土器等, 有舌尖頭器, 尖頭器, 石斧, 敲石, 矢柄研磨器, 磨石, 石鏃, 石核, 礫, 剥片等 中期土器片少量		縄文時代草創期の包含層調査区より隆起線文土器に伴って有舌尖頭器を主体とする石器群が検出された。	

千葉県文化財センター調査報告第517集

成田国際空港埋蔵文化財調査報告書 XXI

— 一 湊田甚兵衛山南遺跡（空港No.12遺跡） —

平成17年 3 月25日発行

編 集 財団法人 千葉県文化財センター

発 行 成 田 国 際 空 港 株 式 会 社
千葉県成田市木の根字神台24

財団法人 千葉県文化財センター
四街道市鹿渡809番地2

印 刷 株式会社 正 文 社
千葉市中央区都町1-10-6
